徹底検証・小川vs吉田！ そこに“プロレス”はあったか？

kamipro 紙のプロレス

enterbrain MOOK

MMA & PRO-



「Dynamite!!」も大爆発！
山本KID徳郁 vs須藤元気

夢の絶対王者対談が実現！
エメリヤーエンコ・ヒョードル× ヴァンダレイ・シウバ

2005年大晦日、中軽量級黄金時代到来!!
2大ロングインタビュー
五味隆典 所英男

日本人PRIDE王者ついに誕生！
今年も主役イタダキます!!

徹底検証！
大晦日格闘視聴率戦争の真実!!
榊原信行 DSE代表取締役
谷川貞治 K-1プロデューサー
佐藤大輔 PRIDE番組チーフ・ディレクター

五味隆典三冠達成!!
kamipro大賞 2005発表！

kamipro AWARD 2005



2006年ハッスル新章突入
さらばインリン様 そして“卵”の行方は!?
3.2.1.がっへムカつく!! エガちゃんがkamiproに乱入！
江頭2:50

2006 95 880yen

kamipro 2006 95 小川直也vs吉田秀彦 二人の生き様を徹底検証!!

2006年2月4日発行
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

栄光は勝者に。
ユーザーはすべてをその手(Hand)に。

携帯サイト『kamipro Hand』がリニューアルしてパワーアップ!!

★最新NEWSチェック
更新記事や大会情報、ショッピングコーナーの新作情報などがココからチェックできる！　リニューアルされてこれまでよりも記事数が増えました。

★PRIDE・ハッスルコーナー
『PRIDE』と『ハッスル』のスペシャルコーナー新設！　過去の試合結果、次回大会の詳報、最近のニュースがココからすぐチェックできます！

★特集コーナーも新設!
PRIDE・ハッスルだけじゃない！　Handならではの特集はココでチェック。スペシャルコラム更新時も、ここからお知らせします。

★試合結果速報
『kamipro』的注目大会の試合結果を順次更新! 特に注目すべき大会結果には、試合の短評ほか会場の状況がどこよりも詳しく分かる担当記者の総評を掲載！　大会当日に総評が読める携帯サイトは『kamipro Hand』だけ！ リトアニア『HERO'S』からホスト・ボンバイエまで深く幅広く網羅できる携帯サイトも、これまた『kamipro Hand』だけです!!

★kamiproカレンダー
毎日の大会・イベント予定はココからチェック！日程からも団体別からも検索できちゃいます。

★kamiproミュージアム
「仰天ふろく」コーナーが美術館（ミュージアム）としてリニューアル！　kamiメロ（着メロ）や携帯画面で見られるギャラリー（写真・イラスト）はココからダウンロード。本誌使用写真や団体ロゴ他、中川画伯のイラストカレンダーもココにアップされます！





★あんたが便り
ユーザーと電気部・kamipro編集部をつなぐおたよりコーナー。アンケートもここから投稿できます。

★ショッピングコーナー
『PRIDE』『ハッスル』グッズ他、kamiproグッズ、『紙のプロレス』バックナンバーがここから購入できます！　藤原敏男Tシャツ絶賛発売中！

kamipro Hand

- リニューアル記念プレゼント
- 最新NEWSチェック
- PRIDE
- ハッスル
- 特集コーナー
- 1 試合結果速報!!
- 2 団体別NEWS
- 3 kamiproコラコラム
- 4 kamiproカレンダー
- 5 kamiproミュージアム
- 6 あんたが便り
- 7 Handショッピング
  - └チケット予約コーナー
- 8 kamipro最新号情報
  - 場外乱闘コーナー

★kamipro最新号
雑誌『kamipro』の最新号予告はココからチェック！　毎号、本誌やメルマガに載っているキーワードを入力すると、裏話が読める「場外乱闘コーナー」にアクセスできちゃいます。現在のキーワードは『猪木祭り』。藤原先生＆KIDパパのちょっといい話が読めます！　レッツ・アクセス！

★リニューアルプレゼント第2弾!!

江頭2:50、『kamipro Hand』登場!!



『kamipro』＆『kamipro Hand』連動企画！　ターザン山本！さん着ボイスに続く『kamipro Hand』発信の着ボイス第2弾は江頭2：50!! 携帯で動くエガちゃん動画も見られます!!　動画は非会員でも閲覧OK、着ボイスは会員のみのサービスになります。（※利用できない端末もございます。ご了承ください）

★団体別NEWS
ジャンル別にチェックできる団体別NEWSコーナー。これまで7記事しか読めなかった過去の記事が、イッキに16記事も見られるようになりました。ユーザーへのやさしさ、フォーッ！

- DSE（PRIDE&武士道）・ハッスル
- FEG（K-1&HERO'S）・総合格闘技
- キック・立ち技格闘技
- ビッグマウス&U-STYLE
- 全日本プロレス・ZERO1-MAX
- DRAGON GATE&dragondoor
- 新日本&NOAH・女子格闘技&プロレス
- アナザー

★kamiproコラコラム
コラムコーナー大好評！　プロレスマスコミの歴史に残る伝説の編集長がいつのまにか3人揃った携帯サイトは、世界でも『kamipro Hand』だけ！　携帯サイト界に万里の長城を築く！

月●！編集長の喫茶店トーク
マット界の生きる伝説・井上義啓の激筆コラム。毎週月曜は“大阪の馬鹿”の日!!

火●kamipro一週間
『kamipro』編集部が週代わりで送る裏話満載（？）コラム!!

水●PRIDEマニア
格闘技『PRIDE』出場選手インタビューや、注目の見どころを毎週更新!!
現在はダン・ヘンダーソンが登場!!

木●ターザン山本のラブレター・フロム・葛飾
ターザン山本が毎週マット界の誰かに向けて愛のテロ行為を敢行!!

金●金澤克彦の「やがて鐘は鳴る」
元『週刊ゴング』編集長、“GK”がkamipro登場!!

土●VIVAハッスル!
ファイティング・オペラ『ハッスル』出場選手インタビューや、注目の見どころを毎週更新!!
現在はHGの相方・RGが登場!!

日●電気部日記
電気部所属の、さささぃと松澤チョロが交代で送る取材日記（?）。

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1. QRコードでクイック・アクセス!!
2. http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス
3. hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
vodafone	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶

kamipro Hand

［QRコード］

kamiproギャラリーは毎月1日更新!!　レッツ・アクセス!!

［お問い合わせ］（株）ダブルクロス 03-5368-1795

OGAWA vs YOSHIDA

024 譲れない生き様が一瞬の交差!
検証・小川vs吉田
山口日昇／夢枕獏／浅草キッド／菊地成孔

PRIDE & Dynamite!!

004 この男、どこまで強い!? 日本人初のPRIDE王者誕生!!
五味隆典

012 世界の所さんが永田さんじゃなくホイスを"踏み台"に!!
所英男

020 山本KID×須藤元気戦から見えたもの――!!
中・軽量級格闘群像

041 05年大晦日戦争とはなんだったのか?
大晦日視聴率狂想曲
佐藤大輔／榊原信行／谷川貞治

057 『男祭り』vs『Dynamite!!』の勝者は!?
大晦日編集部座談会

065 PRIDE"頂上"対談が実現!!
ヒョードル×シウバ

070 世界一の怠け者がついに"頂"へ歩を進める!
マーク・ハント

089 これぞ格闘技版『レッスルマニア』!?
テレビには映らなかった『Dynamite!!』
YAZAWA MANIA／もうひとつの破壊王追悼試合／検証!"中尾事件"

SPECIAL TALK

097 気鋭のドキュメンタリー作家が探る"虚と実の世界"
森達也

144 金澤克彦の疾風怒濤kamipro劇場
GK談

148 井上義啓の春風提言arashiyama劇場なんだよな
喫茶店トーク・ラウド

MMA

105 5周年目前で佐伯さんの血糖値も急上昇!!
DEEP物語～格闘技はどこに向かうのか～

112 いきなり蘇った襲撃亡霊コーナー
STAND BY ME

BOXING

152 ヅラが外れたボクサーがなぜかkamiproに登場!
小口雅之

HUSTLE

129 06年の『ハッスル』はパワーアップでオー!!
インリン様 さよならの向こう側

134 『kamipro』にもの申～す!! エガちゃんがやってきた!
江頭2:50

PRO-WRESTLING

139 テーマは「故郷」……新春二丁目対談
浅野IWA社長×タジリ

kamipro Special

073 05年を振り返りますか～～っ!!
kamipro AWARD

Columns

121 レイザーラモン出渕誠の『英知自慰』
122 花くまゆうさく『リングの汁ミニ』／
イナズマKの『ハードコアドージョー』
123 せきしろの『サムライシロー三昧』
124 金ちゃんのどこまでやるの?／
ブッカーKの『ぶっかけ格闘裏情報』
125 掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』
126 チーム鈴木の明るい未来
127 アメプロ☆ウワサル～ン
☆椎名基樹の『サムライ三昧』は隔月連載なんだな

Another

116 新ハガキ愛ランド
118 kamipro情報局
154 kamiproPRESENTS




暴走王が破壊王になった日――!!

「俺は橋本真也に"ありがとう"と言いたい!!」

2006 No.95 CONTENTS

kamipro


表紙撮影／菊池


Century!
GOMI & KID
2 great champion birth
時代到来



A Happy New

格闘技新



隆典

初代PRIDEライト級チャンピオン

構成／ジャン斉藤
撮影／菊池茂夫
試合写真／平工幸雄、山口比佐夫
designed by matsu (TwoThree)

須藤元気と歩んだ道のり、
情けを捨てて殴ったマッハの顔、
そしてたどり着いた“頂”――

格闘技に捧げた俺の青春、その証（ベルト）



05年マット界MVPは、文句なしにこの男!!　大晦日PRIDEウエルター級トーナメント決勝戦で、木口道場の先輩・桜井“マッハ”速人に完勝!　ついに日本人初のPRIDE王者に輝き、格闘技に捧げた青春の証、ともいえる“頂”のベルトを手にした五味隆典。その強さも圧倒的ながら、一つ一つの試合がどれも鮮烈かつ印象的。観客論と勝負論の大きな両輪を平気で転がしてきたが、これまで何を思い、何を感じて闘い、そして今後は何を目指していくのか。快勝から6日後のインタビュー!!

『PRIDE男祭り』文句なしのMVP!

五味



——五味さん、大晦日のそれぞれの試合の視聴率が本日発表になったんですよ。

五味　へぇ〜、そうなんだ。

——五味さんは視聴率が気になったりしました？

五味　いいや、あんまり気にしてなかったですね。だって、『PRIDE』の場合はスカパー！（のPPV）もありますから。

——そのPPV件数もかなりの高数字を記録したそうですよ。

五味　まぁ、会場のお客さんもそうだけど、『PRIDE男祭り』というイベントは視聴率以外の勝負もしないといけないですからね。やっぱりテレビの視聴率は試合内容に比例しないところがあったりするし。

——内容的にも抜群だった五味さんの試合は21・6パーセントという瞬間高視聴率で。同時間帯のTBS『輝く！日本レコード大賞』は、大賞を受賞した倖田來未が歌ってたんですが、そちらの瞬間高視聴率は14・7パーセント。つまり、『武士道』がエロカワに勝ったわけですよ！（笑）。

五味　あ、そうなんですか。俺、あの子、好きですよ（笑）。

——ワハハハ！　でも、五味さんが一番大好きな矢沢（永吉）さんは『Dynamite!!』に電撃参戦されてしまって。

五味　ねえ。

——そのニュースを聞かれたときはどう思われました？

五味　う〜ん、まさかと……。夏に徳郁（山本KID徳郁）さんと一緒に『タワーレコード』のポスターモデルをやっていたから、ありえる話だとも思ったけど。じつは俺ねえ、永ちゃんを『男祭り』に呼びたかったんですよ。VIPルームに永ちゃんがいてさ、俺の試合を観てくれるの。

——そして試合に勝ったら、吉田さんが「ガクト〜〜ッ!!」を叫んだように五味さんも「エ〜チャ〜ン！」と呼びかける（笑）。

五味　そうそう（笑）。そういうことできないかな〜、なんて思ってたんですけどね。

——『男祭り』爆発の立役者となった五味さんのためにも、今年の大晦日は永ちゃんを引き抜いてほしいですね（笑）。五味さんからもぜひ強硬に要求してください！

五味　フッフッフッ（笑）。

TAKANORI GOMI

最高傑作の作品を創れた。入場から試合内容を含めてもう悔いがないぐらい！



——冗談はともかく、その『男祭り』は全体を通してご覧になりましたか？

五味　はい。家に帰ってからビデオでだいたい見ましたけど、他の選手の試合はそんなに感情移入できないですからね。もう自分の試合は繰り返し見ました。それこそ朝から晩まで（笑）。

——朝から晩まで見直した感想はいかがでしたか？

五味　飽きた（笑）。

——ワハハハ！　さすがに（笑）。

五味　正直にいえば、完璧だったと思いますよ。うん。でも、俺の周りは「凄いことをやった」なんて誰も言わないですから。

——え？　そうなんですか？

五味　いや、それだけ俺のバックアップが大変だったということですよ。

——五味さんだけじゃなくて、チームも一緒に闘ったということですね。

五味　そうそう。だからみんな疲れちゃってるんだよね。帯谷（信弘、五味の後輩）なんかもさ……あ！　そういえばアイツ、今日の取材をスッポかしたんだよ〜。何回、電話しても全然出ないんだよな。もう、アイツは破門！

——正月気分ですっかり忘れてるのかもしれないですね。

五味　アイツ、こないだなんてメチャクチャな飲み方してたしな。帯谷の酒の飲み方はちょっとおかしいんですよね。

——帯谷さんはどれくらい飲まれるんですか？

五味　髙田（延彦）さん並みに（笑）。

——それ、かなりヤバいですよ！

五味　帯谷は焼酎のウーロン風味で飲むから。ウーロン割りじゃなくてね、ウーロン風味（笑）。試合前の俺へのストレスを、飲み会でぶつけてくるんだよなあ。

五味が10連勝達成！　涙の王座戴冠!!

[PRIDE GP 2005 ライト級トーナメント決勝戦]
○五味隆典 vs 桜井“マッハ”速人×
（1R 3分56秒 KO）



鬼神の攻め——恐るべき五味のアグレッシブさ、逆にKOされかねない間合いから果敢に攻める!!　マッハも負けずに打ち返し、うまく五味の身体を捕らえて首投げへ!!　しかし、態勢が不十分でそのまま押し潰され、五味はすかさずバックマウントをキープ。この攻防が勝負の命運を分けてしまったといえる。



国歌吹奏後、試合開始!!　距離を取って見合う二人だったが、マッハは牽制気味の右ハイキックを披露。間合いを詰めてくる五味にローを放って何度かぐらつかせるも、五味は「普段、練習している空手の道場練習に比べたら、スピードは感じなかったので蹴りは心配ないと思った」と試合後にコメント。臆することなく前へ!



「この恋がいつの日か　表彰台にのぼる時　君がメダルを受けとってくれないか？」——五味も感極まったというマッハの入場シーン。流れた曲は『ザ・ハイロウズ』の「千年メダル」。堅い表情のマッハは、シアトル修行をサポートしたマット・ヒュームらと一緒に花道を歩く。一方の五味は落ち着いた表情で軽いステップを踏み姿を現わした。



——五味さんもお酒を飲むと危ないって聞いてますけど。

五味 いや、俺は全然、飲まなかったですね。なんかもうストレスがすっかりなくなっちゃって、今年の正月はそんなに飲まなかった。

——ストレスが吹き飛ぶ充実感が大晦日にあったわけですね。

五味 もう人生、悔いはないぐらい!!（キッパリ）。

——それぐらいの充実感！

五味 最高傑作の作品を創れましたね。紹介VTRから入場、そして試合内容を含めてトータルで。

——DSEの榊原代表も大会後のコメントで同じようなことを言ってましたね。「作品として素晴らしい」と。

五味 あんなに素晴らしい試合をあれだけのお客さんの前でできたことは、俺にとって人生の財産になりますね。もうマッハさんの入場のシーンでかなりキましたし。

——あの時点でスイッチが入っていた。

五味 マッハさん、カッコよかったですね～（感慨深げに）。とくにあの入場曲のセレクト。少し悲しい感じの曲で、マッハさんの期するものを感じました。今回は〝不死身のエレキマン〟で出てくると思ってたんですけど、いい意味で、マッハさんが旅に出るみたいな感じで。また新たな世界に歩いていくのかな、という。

——あの曲でマッハさんの想いが伝わってきたんですね。

五味 あの歌はなんかね、優しい、悲しい感じの歌ですよね。その想いはベルトになのか、俺になのか、家族のためなのか……。そういう意味では、マッハさんにしても俺にしても、格闘技しかやってないわけですからね、純粋に。そういう星の下で何かを



試合後、日本人初のPRIDE王座に就いた五味がマイクアピール。「偉大な先輩とタイトルをかけて闘えたことを光栄に思います。世界で一番になりたくて……」――五味の目に涙！　そして「大晦日は判定じゃなくて、KOだと思うんですけど」と、昨年と同じ台詞を屈託のない笑顔。この一戦から場内のボルテージが上昇。大会MVPは五味だ！



格闘技史上に残る壮絶フィニッシュシーン！　起きあがったマッハに五味の拳が襲いかかる！　右フック、左ストレート、右ストレートがすべてマッハを捕らえる。格ゲーのスペシャルコンボでも実技できない目にも止まらぬ早業で、マッハは前のめりに突っ伏した！　5万人の観客が総立ちで、鳥肌も全部立った!!（髙田風）。



チャンスを逃さずバックマウントを奪った五味は、重いパンチを何度も何度もマッハの顔の側面に打ち込む!!　レフェリーにいつ試合を止められてもおかしくない局面――しかし、マッハはうまく身体を回転させてマウント状態へ。そして足を使って五味を突き放す底力！　なんとか起きあがったがフラフラで視点が定まらなかった……。

表現してきたわけですよ。

——そのマッハさんとは試合後、何か言葉を交わされたんですか?

五味　はい、リングで。「五味ちゃん、パンチあんな～！　殴るのできたんだ」って。

——非常にマッハさんらしいというか。

五味　だけど、良かったですよ、マッハさんにそんな大きなダメージがなくて。

——フィニッシュの3連打は、こめかみ、鼻、アゴとすべて急所に入ってましたけど。勝利の手ごたえを感じたのは、バックマウントをキープしたときですか?

五味　そうですね。でも、マッハさんはグルグル回ってかわそうとしてましたから。

——試合前には、「同門の先輩だし、殺気を込めて殴れないかもしれない」って言われてましたけど、試合中にそういった……。

五味　（さえぎって）いや、あれは、グランプリのトーナメントが終わった翌日の会見でしたからね。

——まだ心の準備もできてない段階だったから。試合になれば、情を考えてられないですもんね。

五味　そうですね。強くなった自分を真っ直ぐにブチ当てるのが、先輩に対する一番の恩返しだし、礼儀だし。そしてお客さんや周りの人間に大きな感動を与えられたことは、凄くうれしいことですよ。

——今回は言うなれば、マッハさんと五味さんの個人的な物語が核になっていたじゃないですか。その物語を会場の約5万人のお客さん、スカパー！や地上波の視聴者にも共有させたパワーがあったわけですよね。

五味　格闘技で生きてきた証を残せた感じはしますね。この世に生まれて、27歳まで生きてきた人生の証というものを。

——その証をつかみ取る試合前に、五味さんはホテルで不安と闘っていたと言われてましたけど。それは精神の高揚とはまた違うものなんですか?

五味　ん～、まあ、どうすかね。おそらく、他の選手も不安で一度はテンションが落ちると思うんですよ。ボクは大晦日の試合は2回目ということで、だいぶ慣れはありましたけど。

——五味さんって試合前にいつも「不安」を口にしてますよね。でも、入場からなにから非常に落ち着いていて。

五味　雰囲気はわかるというか。よく俺も会場に格闘技を観に行きますからね（笑）。そういう慣れがあるし、生活のすべてが格闘技ですから。で、自分は今回、選手バスに乗らないで、自分の車で会場に向かったんですけど、そのあいだがいちばんキツかったですね……。さいたまスーパーアリーナに到着するまで、本当にキツイというか、世の中から消えたくなった（笑）。

——それこそ失踪したくなるぐらい?

五味　いや、失踪や夜逃げだったらどっか違う国に逃げればいいじゃないですか。ボクはもうこの世から消えてなくなりたい究極の精神状態で。

——その根源は深く突き詰めると〝恐怖〟になるんですか?

五味　恐怖です。それと、ベルトを獲れなかったときの人生を深く考えてしまって。自分にとっての杓子でいけば、これまでの格闘技人生に審判が下されるわけですからね……。

——総決算を問う試合だった、と。

五味　ふと気付けば、一緒に頑張ってきた（須藤）元気と、中量級のブームをつくれた。元気も俺と同じく大晦日は〝審判の日〟だったわけで。

——一緒に格闘技という道を歩んで闘ってきた者同士が大晦日の審判を受けたという。

五味　そう。これは凄い運命だなって……。

——五味さんが試合後のインタビュースペースで元気さんの試合結果を気にしてたじゃないですか。

五味　はい。あのときは元ちゃんの結果、まだ知らなかったですからね。

——そこで凄く印象に残っていたのは、「二人の青春の結果がどういうふうになるのか、凄い心配だ」という五味さんの言葉なんです。



五味に敗れたとはいえ、ライト級に転向したマッハの復活劇も『武士道』ブレイクの大きなポイントになっている（ジェンス・パルヴァー、ヨアキム・ハンセンを一日で片づけているのだ）。再び起きあがる姿を期待したい。

五味　なんだろ……。損得抜きで、（結果を聞いて）凄い悲しくなったんだよね。周りの人たちは、俺たちが凄く華やかな世界にいると思ってるんだろうけど、いろんなことを我慢したり、犠牲にしたりね。

——五味さんは元気さんの影を知ってるし、逆のケースも然りで。つまり、二人しかない知らない時間があったわけですよね。

五味　元気とは性格も考えも対照的だけど、でもやっていることや過ごした時間は一緒だから、どっか似てるんでしょうし。俺は〝青春〟が好きなんですよ。元気とはね、「青春！　青春！」って言いながら、腹筋したりさ。ああ俺たち、今日の練習も頑張ったな……って。そういうふざけた練習方法をやりながらも、俺たちが懸けてきたものがそんな〝青春〟という言葉に詰まってるわけで。

——青春の証の一つが『PRIDE』のベルトだったりするんですね。試合後、元気さんとは会話をされたんですか?

五味　まだ。メールもしてないです。元気に連絡してないですよ。

——やっぱり連絡はしづらいですか?

五味　それもありますけど。ま、そのうち元気から「飲みに行こう！」って連絡がくるまで待ってようと思いますけどね。「温泉でも行こうよ」なんて言い出すまで。

——元気さんのビッグカムバックを期待したいですよね。

五味　ホントそうですね。

——もちろん五味さんの今後も楽しみなわけですけど、「もう悔いはない」という充実感があるなかで、果たしてどんな目標があるのかな?　って。

五味　まだまだありますよ！　それは後輩のために……帯谷はまだ来ないけど（笑）。

——ダハハハ。

五味　あと道場をつくることもそうだし、自分のことだけじゃなくていろいろ考えたいですね。道場を自分自身が好きな時間に使えて、後輩も安心して練習できるスペースにしたいです。そういったことを一つ一つ考えながらやっていかないとダメでしょう。それを含めて格闘技人生だし。

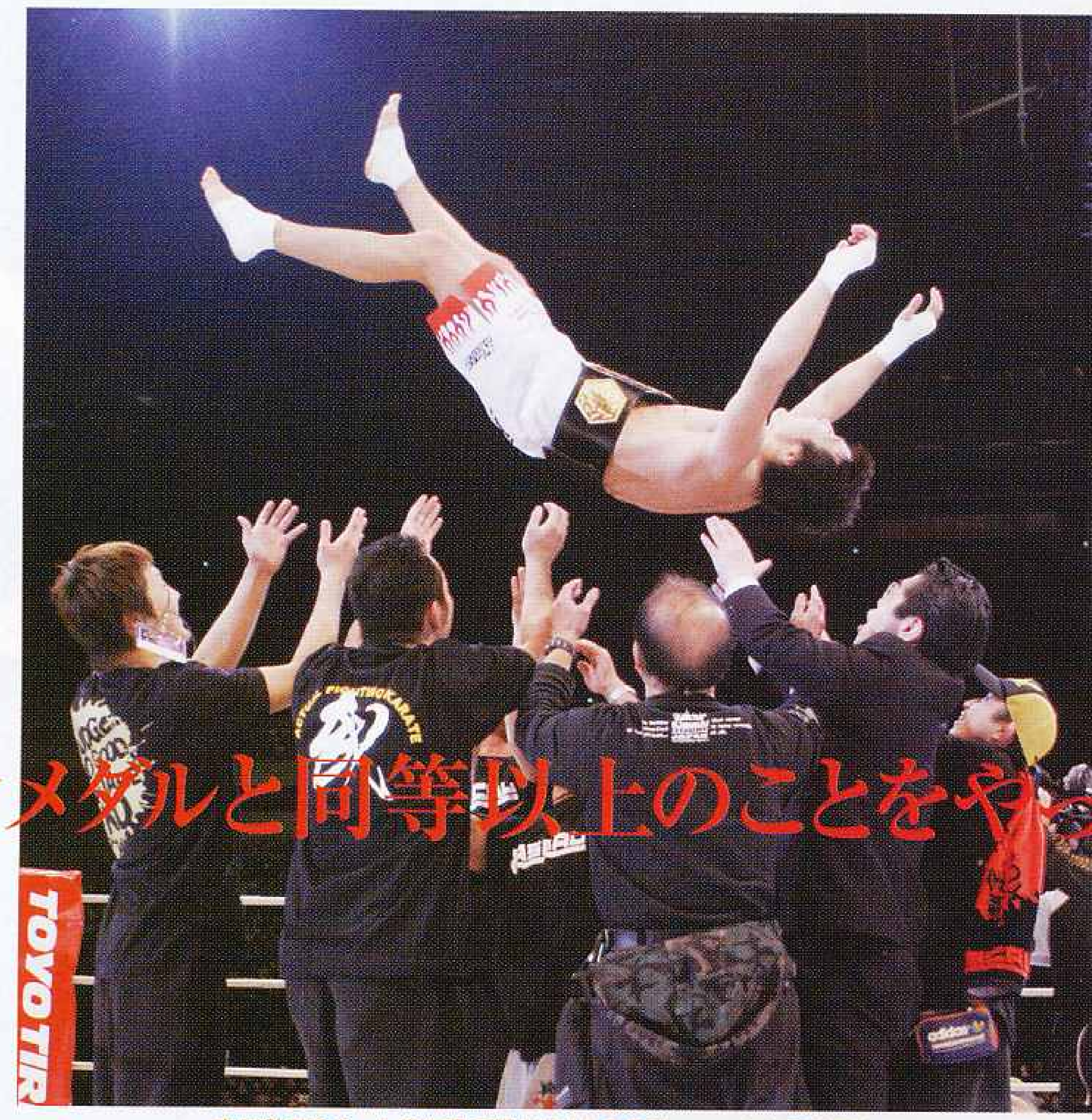
——ファイター五味隆典個人の展望は頭に

TAKANORI
GOMI



俺は〝青春〟という言葉が大好きなんですよ。須藤元気と「青春、青春！」って言いながら、腹筋したり……。

ありますか？
五味　とにかく次の試合に向けて、ちゃんと自分のペースを確保したいと思ってますね。ただ、いまはもう試合の中毒なんですね、この10試合がうまくいってるから。だって自分で言うのもなんですけど、『PRIDE』2年間で10試合やって、8KOってありえないじゃないですか。
――スーパーマリオの無敵モードみたいなもんです（笑）。
五味　ただ、周りの人が持っているボクへのイメージと、ボク自身のイメージって、差があると思うんです。周りの人に気持ちを乗せてもらうことは重要だけど、肉体の面で焦らないことが大事ですね。
――周りが持ち上げても決してぶれない自分を維持することが問われるわけですね。
五味　そこは強い意志を持たないとね。一度でも歯車が狂ったら、次は10連敗しちゃうかもしんないし……。
――ミルコもヒョードルに負けたら緊張の糸が切れた感がありますし。裏を返せばそれほどまでの精神状態を保っていた凄さを感じるんですけど。
五味　そこが凄く怖い。ボクも負けたらきっとそうなりますよ（キッパリ）。だからこそ"片道切符"の精神で闘ってるんです。そうならないように、充電にしてもそうだし、自分のペースが大事ですね。
――でも、今年は昨年以上に忙しくなりそうじゃないですか？『武士道』でまたライト級グランプリが開催されるという噂を聞いてますし。
五味　そうなったら帯谷にもチャンスがあるだろうし、自分のなかで納得がいくかたちであればやりますけど。
――グランプリ優勝者と五味さんが対戦するかたちでも、誰も文句は言わないでしょうけどね。
五味　なるほど、なるほど。
――それこそグランプリ開幕戦に永ちゃんを呼ぶぐらいのことがあれば、俄然テンションアップするでしょうね（笑）。
五味　あ～（笑）。まぁ、とにかく優先したいことは、精神や肉体が安定した状態で格闘技に取り組むっていうことですね。まず自分の練習のスペースをどう確保するのかが、目下のテーマなんでね。なにより自分の道場がほしい。それが楽しみでコツコツ不動産屋を回ってるんで。
――そういえば試合前の会見で、"某大物選手"と練習されたということでしたが、それは柔道の鈴木桂治さんを指しているんですか？



木口道場やチームの仲間に胴上げされる五味――。宙に浮く五味の胸中は計り知れないが、問答無用で幸福感が伝わってくる光景だ！

五輪の金メダルと同等以上のことをやってると思う

五味　そうです。試合の10日ぐらい前にチームのメンバーが「桂治さんがレスリングの練習に興味があるそうなんですよ」ということで。純粋に柔道へ活かすために遊びに来てくれたんです。それでボクは桂治くんに試合形式のスパーリングをお願いして。
――五味隆典vs鈴木桂治！　それはお金を払ってでも見たいですよ！
五味　道場でもそんな話で盛り上がったんだけど（笑）。桂治くんはオリンピック柔道金メダリストという肩書きを、練習中は微塵も出さないですね。レスリングの練習を一生懸命観察して、道衣も着ないで「待て」が入らない寝技にも取り組んで。素晴らしい姿勢と感性でしたね。
――五味さんにとっても大きな収穫になったんですか？
五味　当然！　マッハさんも柔道出身だから、桂治くんと動きが似てるんですよ。柔道の戦法もいろいろ変わったらしいんですけど、二人とも闘争本能溢れる攻撃的なタイプで。ボクらのジムには70キロ台の選手しかいなくてそこは申し訳なかったんですけど、ある一瞬から子どもと大人の関係になるんですね。100キロ以上あって、スピードがあって、非常に捕まえにくいんですけど、ある一定のタイムになるともう本当に凄かったです。気付いたらある一定ラインから何もできなくなるような。
――それは試合前のいい刺激になりますよね。
五味　それに桂治くんの持ってるオーラも感じて、俺もチャンピオンになれるんだって思いました。チャンピオンの持っている力を与えてもらったというか。チャンピオンを目指してる自分が、そういう方に会えたってことはうれしかったですね。今度飲もうという話になったんで、ぜひ一緒に飲みたいです。
――柔道界も酒豪が多いと聞きますから、凄いことになりそうですね（笑）。
五味　ま、格闘家が腹を割って意見交換するときには酒が入らないとね（笑）。
――鈴木さんは『男祭り』の会場に来られてましたけど、どういう世界観を感じたのか気になりますね。
五味　う～ん。桂治くんは4年に一度のオリンピック開会式の空気を味わっている人だから。もうスケールが違うと思うんですよ。でも、俺はオリンピックには行ったことも出たこともないけど、正直オリンピックで金メダルを獲るのと同等のことをやってると思いますよ（キッパリ）。
――五味さんの場合、そこに至るまでの圧倒的で印象的な道のりがあるから、また輝きが違うと思うんです。だからこそ今後、ファンや関係者が要求するハードルもますます高くなるでしょうし。
五味　まだまだ、やれますよ。ちょっと休めば。正直、今回の試合は、組み技の練習はあまりできなかったんですけど。
――主に打撃練習のみだったんですか？
五味　はい。チームの連中に怪我人が多かったのと、帯谷の『DEEP』と重なっていたので。だから、ちょっと不安がありま

したね。首も普段より細かったし、打撃に偏ってるときの状態に近かった。なんとかメンタルトレーニングで乗り切りました。

――本調子はあんなもんじゃないと？

五味　自分のスペースを持って、自分の納得できる練習を一日一回やって、いまのように出稽古しまくった場合は、もう自分でもわけがわからないぐらい強いんじゃないですかね。

――外人のトップファイターは、いま五味さんが言われたような練習スタイルでトレーニングしてますね。ヴァンダレイにしても、個人的にパーソナルトレーナーをつけたうえで自宅練習して、あとはシュート・ボクセのジムにも行ったり。

五味　なるほど。でもさ、要は自宅の庭が広いわけでしょ？（笑）。ガレージをつくれるぐらいのスペースがあって。

――はい（笑）。ちょっと日本ではありえないですね。

五味　『kamipro』に載ってたけど、アローナのトレーニングも凄いですよね～。崖の上から海に飛び込んでみたり。あれはどれくらいの高さの崖なんですか？　落ちたら怪我するぐらい？

――5メートルぐらいありましたから、へタしたら間違いなく怪我しますね。

五味　そっか。でも、いいよね。いつでも山に登れて泳げるし。外国は勝とうが負けようが毎日リゾートなんですよ（笑）。

――毎日リフレッシュできる（笑）。

五味　でも日本もよく考えりゃ、ハワイやグアムみたいに島国ですからね。いいとこはいっぱいありますよ。

――日本は不便じゃないですよね、いろんな面で。

五味　日本、いいっすよ。……あっ、やっべぇ！（話に夢中でレモンティーにミルクを入れてしまう）。

――あ～、レモンミルクティーになっちゃいましたね（笑）。

五味　なにやってんだよ、俺……。はぁ～、帯谷も来ないしさぁ。



【ごみ・たかのり】1978年9月22日、神奈川県出身。木口道場レスリング教室所属。第5代修斗ウェルター級チャンピオン、PRIDE GP 2005ライト級トーナメント優勝、初代PRIDEライト級チャンピオン。PRIDE戦績10戦無敗（8KO）。173cm、72.9kg。

――ガハハハ！　それで最後になりますが、いま『kamipro大賞』という05年の読者アンケートを実施してるんですよ。

五味　それ、前回の号で、ボクが獲るんじゃないかって書かれていてたやつですよね。

――はい。まだ最終集計は終わってないんですけど。

五味　誰がMVPなんですか？　やっぱりHG？（笑）。

――HGがMVPフォ～！　という声もあるんですが、現在の集計ではブッチギリで五味さんです!!　過半数の票を獲得する前代未聞の快挙で。

五味　（極めて冷静に）……『kamipro』さんも格闘技色が強くなってきたのかなぁ。

――なんでそんなに冷静なんですか（笑）。でも、『kamipro』は創刊当初から格闘技色が強いんですけどね。修斗の選手はなかなか取材できませんでしたけど。

五味　2位は小川（直也）さん？

――2位はインリン様です（後日、世界の所さんが逆転）。

五味　ホントですか!?　じゃあ（インリン様と）対談やってくださいよ！

――ワハハハ！　いまのインリン様は〝山口百恵〟状態で表舞台の登場は難しいんですよね。インリン様の親しい友人であるインリン・オブ・ジョイトイのブログでは、『PRIDE男祭り』で「一番印象に残ったのは五味選手！」って書いてましたけど。

五味　へえ～、それはありがたいですね！

――「今のとこでは五味選手とヒョードル選手の試合が好き」だそうです。

五味　（再び冷静になって）……二人いるってことは一番じゃないんですねぇ。


――ワハハハ！　いや、文脈的に五味さんが一番です！

五味　でも、ありがたいですね。インリンさんにはお会いしたことないですけど、ああいう人、好きですよ、俺。なんか楽しい感性をアピールする人って、見てて楽しいじゃないですか。性格も明るそうだし！

――わかりました（笑）。今年はぜひ五味さんとインリン様、そして永ちゃんとの対談を実現しようと思ってますので。最後に読者にメッセージをお願いします。

五味　そうですね。俺はまだまだです。ちょっと休んでから、昨年以上の作品を創りますので、応援よろしくお願いします！

【06年1月5日／玉川学園前・木口道場にて収録】


れば
英　男
reversal
reversal.dogi design works
rvddw

快挙！
“フリーター”が内容で
ホイスを圧倒!!

日々成長するニッポンの男の子！
所英男にこの言葉を贈ろう!!

男子三日会わざれば刮目して見よ！

【男子三日会わざれば刮目して見よ】
三国志の英雄、呂蒙の言葉で「日々精進し研究と前進を繰り返す人は、三日も経てばもう目を擦ってみないと判らないほど進化しているものだ。また男たる者そうあるべきである」という意味。UWF時代、前田日明がリング上での挨拶で引用したことでも有名。



背負わず、気負わず、一生懸命！“究極の等身大スター”所英男が『Dynamite!!』でまたしても大仕事を成し遂げた！あのホイス・グレイシー相手に20キロ近い体重差をものともせず、時間切れ引き分けながら、試合内容で上回る大殊勲。そんな所の闘いぶりに、彼のブログには「勇気をもらった」というファンからのメッセージが殺到。みんなに夢と希望を与える、ぼくらの所さんが、2006年も格闘技界を面白くする！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

名実ともに
“世界の”所

――所選手、あけましておめでとうございます！

所　あ、おめでとうございます。去年は『kami-pro』にたくさん載せていただいて、ありがとうございました。

――こちらこそ〝大スター〟に何度も出ていただいて、ありがたい限りですよ。

所　いやいや（笑）。

――大晦日のホイス・グレイシーもホントに素晴らしい試合でしたからね。

所　ホントですか？　そう言っていただけると嬉しいです！

――でも、自分ではあまり納得いってないんですよね？

所　いや、試合直後って興奮してるんで、勝てなくて「悔しい」っていう気持ちばっかりでそう言っちゃったんですけど、冷静に考えたら、僕なんかがホイス相手にあそこまでやれるのって奇跡に近いかなって気が（笑）。

――冷静になってようやく客観視できるようになったと（笑）。

所　ちょっと勘違いしてたなって（笑）。

――でも、それはファイターとして非常に正しいですよね。ホイスみたいなビッグネームに対しても気後れせずに、「絶対に勝つ」っていうテンションに持っていけたわけですから。

所　自分でもよくそういうテンションに持っていけたなって。あとでビデオ見たら「凄いなぁ」とか思っちゃいましたから（笑）。

――いちファンに戻って見ちゃいましたか。

所　そうですね。やってるときはあんまりなんともなかったんですけど、ビデオ見ると自分の目の前にホイスが立ってて不思議な感じがしました。

――これCGじゃないか、みたいな（笑）。

所　僕は昔、部屋にホイスとケン・シャムロックが向かい合ったUFCのポスター貼ってたぐらいですから。

――ダハハハ！　部屋にホイスのポスター貼ってましたか（笑）。

所　まさかそんな選手と闘うとは思わなかったですけど、試合前はなんか気持ちに勢いがあったのか、不思議と「ホイスならホイスでいいや」って思えたんですよね。

――それぐらい所選手も大物になった証拠じゃないですか？

所　いや、違います！　ただの勘違いだと思います。

――勘違いできるのも才能のひとつですよ。だから所選手って、普段は普通のお兄ちゃんって感じの人なのに、いざとなったら格闘家に〝変身〟できちゃうんですよね。

所　開き直りだと思うんですけど、変身できるってカッコいいですね（笑）。

――だって試合でホイスと互角以上に闘う人が、直前の公開練習では普通に矢野（卓見）選手に極められてタップしてるわけですからね（笑）。

所　あれは、あんなに強い人呼んだのがいけないんです！

――でも、公開練習でわざわざタップする姿を公開してる選手って聞いたことないですよ（笑）。

所　自分では頑張ったんですけど、結局なにもさせてもらえなくて、アンクルホールドで、足をバキッて壊されかけましたからね。

――なんで公開練習で壊されかけてるんですか（笑）。だから所選手ってホントに新しいタイプの格闘家ですよね。昔は格闘家っていうのは神秘性であったりとか、〝強い〟というイメージの鎧をまとって、相手をビビらせてリングに上がってたじゃないですか。それこそグレイシーなんか〝最強幻想〟で勝負してたわけですけど、所選手はまったく逆ですもんね。

所　そうッスね、僕がそういうハクがない男なんで、自然とそうなってきたのかもしれないですけど。

――おそらく毎回、所選手とやる相手は、試合前から「こいつには勝てる」と思って出てきてるような部分ってあると思うんですよ。失礼ながら（笑）。

所　間違いなくそうでしょうね（笑）。

――ホイスなんかもナメてかかって痛い目に遭ったわけで、まさかあんなふうにやられるとは思ってなかったでしょうからね。

所　そうでしょうね。なんとなくですけど、記者会見のときもなんか見下されてる感じがしてましたから。

――聞いてもいないのに「俺だって痩せっぽちだから体格差は関係ない」とか、わざわざ立ち上がって言い出したりして。それがいざリング上がってみたら20キロ近く差があるという（笑）。

所　試合前は80キロとか言って、実際は86キロありましたからね。

――汚いですねえ（笑）。

所　でも最初っから信じてなかったっていうのもあったし、僕なんかがホイス選手とやらせてもらえるっていうこと自体が光栄だと思ってたんで、どんなルールでも飲もうと思ってましたから。

――そういった逆境を跳ね返して「大晦日の主役」の座を奪ったんだから、やっぱり凄いことですよ。

所　いや、そこまではいってないと思いますけど……。

――みんな言ってますよ。「『Dynamite!!』のMVPは所英男だ」って。まぁ、FEGオフィシャルサイトのアンケートでは残念ながら、中尾芳広選手がブッチギリの1位でしたけど（笑）。

世界の所さん、ホイスと殊勲のドロー!!

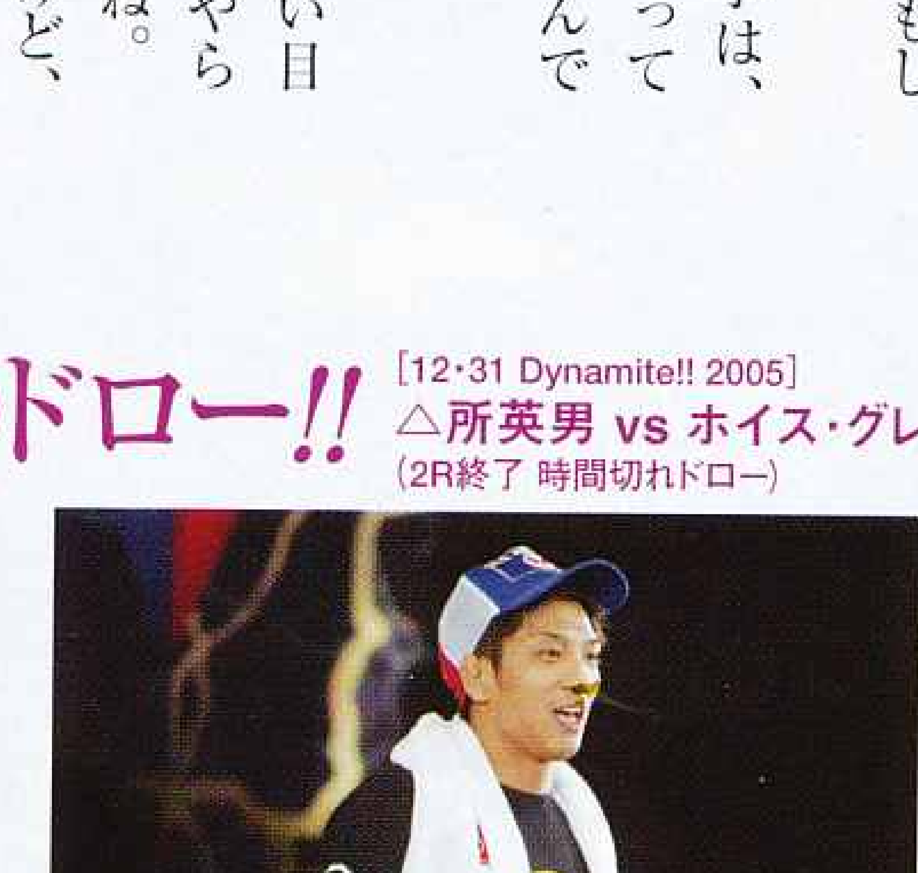
[12・31 Dynamite!! 2005]
△所英男 vs ホイス・グレイシー△
(2R終了 時間切れドロー)



経験の差と20キロ近い体重差で圧倒的に不利と予想された所だが、持ち前の思い切りのいい攻撃で、なんと序盤いきなり優勢に立つ。



対するホイス陣営はセコンドのホイラー、ホドリゴらグレイシー・ファミリーを大勢引き連れまさに対照的な入場シーンだった。



「所さん」つながりで、あの所ジョージさんに作ってもらったテーマ曲（歌入り）に乗って入場してきた世界の所さん。なんとこの大舞台にもかかわらず、笑顔を浮かべながらの入場。強心臓ぶりを早くも見せる。

所　あのインパクトにはちょっとかなわないですね（笑）。僕の場合、相手がホイスだったからというのもあったと思うし。

――いやぁ、ホントにみんな心から「相手が永田（克彦）じゃなくて良かった」と思ってますよ（笑）。

所　失礼な話、それは僕もちょっと感じてます（笑）。

――ダハハハハ！　そうですよねえ。あんなひたすら押さえ込みだけやられたら、たまったもんじゃないですからね。

所　そうッスね。たとえ一本勝ちできても、面白い試合にはならないと思うんで。せっかく『Dynamite!!』っていう1年で最高の舞台に上がらせてもらうんだから、お客さんの求める試合を心がけないと、プロとしてよくないと思いますね。

――それがモロに視聴率っていう形で出ちゃいましたからね。

所　そうなんですか？

――所選手の試合のときは20パーセントを超えてた視聴率が、永田選手の試合で一気に半分まで落ちてるんですよ（笑）。

所　ホントですか！　まあ、ああいう試合してガッツポーズしてマイクっていうのは、ちょっとプロとしてどうかなって感じはしましたけど……あんまり言うと調子に乗ってると思われるんで（笑）。

――いや、大事なことですから、ちゃんと言っておいたほうがいいですよ。

所　そうッスね……まあちょっと、同じチームのレミギウスが負けたので、余計悔しいっていうのはあるんですけど、ちょっと『Dynamite!!』でやる必要があったのかなっていう気は正直な話ありますね。みんなが憧れる最高の舞台なのに。



HIDEO TOKORO

永田選手とは面白い試合にならない。プロとしてちょっとどうかと思います

――だから、谷川（貞治）さんは所vs永田から所vsホイスにカードが変更になったとき、「3月の『HERO'S』で所vs永田は改めて組みたい」って言ってましたけど、それだけは全力で阻止したいですね（笑）。

上原（ZST広報）　ZSTとしても代理人の前田日明としても、3月は『Dynamite!!』みたいな無差別の特別イベントじゃなくて、『HERO'S』なんだから、10キロも重いのに、ああいう闘い方をする選手とは絶対にやらせるつもりはありませんから。もし、どうしてもやりたいなら、当日計量でちゃんと体重を合わせてもらわないと。

――そうじゃないと、ホントにやる意味ないですからね。所選手も今回は夢が叶った



後半、バックマウントをとったホイスは、そのままガッチリと足をロックしキープ。「気持ちが切れかけた」という所だがなんとかふんばった。



柔術家にとって"庭"同然であるはずのグラウンドでも、所は積極的に極めを狙っていく。この男の積極性はホイス相手でもかわらない。



所のハイキックとパウンドでホイスは1ラウンドから鼻血を流しご覧の表情。かつてUFCで行なわれたキモ戦を見るかのようだ。



地元では役場でも話題になってますね。町長さんが会いたがってるみたいです（笑）

形で『Dynamite‼』出場になったわけですけど、気持ち的に全然違いましたか？

所　気合いは入りましたし、とにかく入場が気持ち良かったです。

―気持ちよかった！

所　はい。初めて下からステージにあがっていくやつに乗せてもらって。大阪ドームっていう場所で、凄い数のお客さんに応援してもらえて、ホント気持ちよかったですね。

―あの花道でガチガチに緊張しちゃう人もいるって聞きますけど、所選手の場合は、あれを楽しんじゃいましたか。

所　今回に関してはホント気持ちよかったです。試合しないでそのまま帰ってもいいぐらい（笑）。

―もうすでにそこで満足（笑）。

所　もうまさに快感、昇天しそうな勢いでした。

―ダハハハハ！　思わずイッちゃいそうでしたか（笑）。

所　『Dynamite‼』は凄いなと思いましたよ。また今年も出たいですね。ちょっと難しいかもしれないですけど。

―いやいや、周りがほっとかないでしょう。いまや全国のフリーター諸君、全国の田舎者諸君の希望の星ですからね。

所　ウチはあんまり田舎じゃないですけど。

―田舎じゃない！　TBSの事前番組で流れた所選手の実家周辺の映像は十分田舎でしたけど（笑）。

上原　この男は所ジョージさんに「田舎者だ」って言われても「いや、違います」って3回食い下がりましたからね。

―ダハハハハ！　そこは譲れない。

上原　最後に「でもその田舎からここまで通勤できないんでしょ?」って言われて黙っちゃいましたけど（笑）。

所　まあ、都会とは言えませんけど、いいとこですよ。

―地元では大騒ぎなんですか？

所　そうですね、役場とかでもけっこう。

―役場！（笑）。

上原　だからそれが田舎者なんだよ！

―役場で騒がれるのは間違いなく田舎ですね（笑）。

所　なんか町長さんが会いたいとか言ってくれてるらしくて。

―いやぁ、所英男が名誉町民になる日も近いですね（笑）。まずは、その前に揖斐川町の一日警察署長とかやるんじゃないですか？

所　一日警察署長って……僕がパンチラとかしても意味ないですから。

―は？

所　そのためにやるんですよね、一日署長って。

―ちょっと待って下さい。それはパンチラ狙いのカメラ小僧が集まってしまうだけで、彼らのためにやってるイベントじゃないですから！（笑）。あくまで交通安全をアピールするためのものです！

所　あ、そうなんですか。でも、雑誌とか見るとだいたいそうですよね？

―それはある特定の雑誌の読みすぎです

よ（笑）。いまだにコンビニでそういう雑誌買ってるんですか？

所　はぁい。試合前、節制してるときってそれぐらいしか楽しみが……（笑）。

──でも、さすがにそろそろ面が割れてるからバレるでしょう。

所　バレてもいいんじゃないですか。よっぽどマニアックなの以外は誰でも買うものですから。いつまでも弁当と一緒に普通に買ってますね。

──あ、まだコンビニ弁当も卒業してないと（笑）。

所　でも、最近は「いくら丼」とか買うようになりましたから！（胸を張って）。

──おっ、凄い！

所　650円ぐらいしましたからね（自慢げに）。

──「鳥そぼろ弁当」から一気に250円ぐらいアップしたと。じつに元貧乏人らしい贅沢の仕方ですねえ（笑）。

所　そうですね（笑）。でも、コンビニ弁当はおいしいですよ。とくにセブンイレブンがおすすめです。

──有益な情報ありがとうございます。これは魔裟斗選手のインタビューじゃ絶対に出てこないセリフですね（笑）。

所　そうでしょうね（笑）。

──でも、前田日明さんもリングス時代、吉野家の牛丼をたくさんぶら下げて事務所に現われたり、近くの立ち食いそば屋に行ったりしてましたからね。

所　ホントですか！

──だから、そのへんも前田イズムということで。

所　いやあ、嬉しいですねえ。今回、僕、前田さんに試合前に日本刀の真剣を持たせてもらったんですよ。

──真剣ですか！

所　あれは重みが凄くて、持ってるだけで気が引き締まりますね。前田さんが持ってるとちょっと怖いですけど（笑）。

──一段と凄みが増すでしょうね。でも、船木さんのほうがさらに怖いんじゃないですか？　ヒクソン戦のとき日本刀持って入場してきて、ホントにヒクソンを叩き斬ろうと思ったらしいですから（笑）。

所　船木さんってけっこう、そういうこと本気で言いますよね。

──本気も本気ですよ。このあいだ、ウチで対談してわかったと思いますけど。

所　「バーリ・トゥードはどっちかが死ぬのがベストだ」って言ってましたよね（笑）。

──どんなベストなんだよっていう（笑）。

所　やっぱり凄いっていうか、ちょっと違いますよね。それぐらいの気持ちじゃないといけないのかなっていう気もしますけど。

──いや、気のせいだと思います（笑）。

所　けど、男だったら一生に一度、そういう闘いがあってもいいですよね。

──だから前田さんや船木さんの世代ぐらいまでですよね、そういうこと言うのは。真剣勝負というのは、命を懸けて闘うようなものなんだっていう、もの凄い重い気持ちでリングに向かってた世代なんで。逆に所選手なんかは、そういう重いものを背負わないからこそ、リングで目いっぱい力が出せる部分もあると思いますけど。

所　そうですね、試合に対する意気込みっていうのがちょっと違うのかもしれないですね。やっぱり船木さんとか前田さんっていうのは団体というのを凄い背負ってたと思うんで。それは僕にも少しありますけど、重みが全然違うのかなって。だからUWFの人たちって入場がカッコいいんですよね。



結局、試合は"グレイシールール"により、2R終了、判定ナシの引き分け。満足げなホイスに対して、所の表情から悔しさがありあり。ホイスのような大物と引き分けても、試合内容と勝利にこだわる所英男の意識の高さがうかがえるシーンだ。



──ホイス戦後、前田さんには何か言われました？

所　「ようやったな」、「今年が勝負だからな」って元旦に電話をいただきました。

──7つの課題を与えられたっていうことですけど。

所　そうですね、「それができるようになればチャンピオン戦線にも食い込める」って言っていただけたんで。凄い数の選手を見てる前田さんにそう言っていただけたのは、励みになりますね。

──家族はなんて言ってました？

所　家族はもう大騒ぎですね。とくに父親の変わりようにビックリしてます。

──お父さんはペケーニョ戦まで、まったく格闘技を見ようともしなかったんですよね？

所　それがいまは僕に技術的なアドバイスをしてきますから（笑）。

──ダハハハハ！　もうすっかりトレーナー気分（笑）。

所　7月から見始めたわりには的を射たこと言うんで、この先ちょっと期待できるかなって。ウチの親がガードポジションになって、「相手がこうなったとき、こうできないのか」とか言うようになるとは思いませんでしたよ（笑）。

──そのうちセコンドに付くかもしれないですね（笑）。

所　へたしたら、そうなりますよ。昨日も病院から帰ってきてつらいって言ってんのに「一カ所だけ友だちんとこ挨拶行ってくれ」って歩かされて（苦笑）。僕よりも盛り上がってるなって。

──ホイス戦後はなんて言われました？



所 帰りの車の中から電話したら「お前、よく20分保ったな」って。兄から相手が凄い選手だっていうのは聞いてたらしくて、秒殺されても温かく迎えてくれようとしてたらしいんですけど。「ようやった」って言われましたね。

——そりゃお父さんとしたら嬉しいですよね。

所 らしいですね、なんか親バカぶりを発揮してましたね。テレビに出たりして恥ずかしいですけど。

——でも、こんな形で親孝行できるなんて、男としても最高なんじゃないですか?

所 今日も帰りの車でいろいろ言ってもらったんですけど、なんか……よかったですね。高校で野球終わってからはあんまり会話もなく、せいぜい「頑張れよ」ぐらいだったんですけど。ここまで話し込んだり、親のバカっぽい話を聞いたりするなんて思ってもいなかったんで。

上原 所選手はお兄さんの子どもが3人いるんですけど、その子たちも最近なついてるんですよ。

——甥や姪の人気も急上昇と。

所 正月にお年玉代わりに『トイザらス』行って、「なんか人形買ってあげるよ」って言ったら、一番いいのを持ってくるんですよ。

——ダハハハハ! 子どもながら「英男おじさん」は最近お金持ってると思ってるんでしょうね(笑)。

所 でも嬉しかったですよ。買ってあげてる自分に満足してしまって。

——「俺も甥や姪におもちゃを買ってあげられるまでになった」と。じゃあ、そろそろ「もう貧乏じゃありません」ってカミングアウトしたほうがいいんじゃないですか?(笑)。

所 周りからもそろそろ厳しいって言われてます(笑)。

——「俺より遥かに金持ってるヤツが貧乏ヅラしてるのはいかがなものか」って声もあがってるみたいですね(笑)。



1977年8月22日、岐阜県揖斐郡出身。本拠地であるZSTには旗揚げから参戦。昨年7・6『HERO'S』で修斗世界王者ペケーニョを破り一躍大ブレイク。フリーターの星として、今年はさらなる活躍が期待される。170cm、65kg。

まずは風呂付きに引っ越して新聞もとろうと思います!

所 そうですね(笑)。だから、これからは成功していく姿を見てもらいたいですね。そのためにも、まずは風呂付きに引っ越して、新聞もとろうと思ってます。

——ダハハハハ! 新聞とって、ちゃんとした大人になろうと(笑)。

上原 新聞とって読むのかよ(笑)。

所 意味もなく。

上原 どうせスポーツ新聞でしょ?

所 朝日新聞を。

上原 なんで朝日新聞なんだよ。

所 それしか思いつかなくて(笑)。

——『HERO'S』はTBS系ですから、ここは毎日新聞にしといたほうがいいんじゃないですか?(笑)。

所 じゃあ毎日新聞にします!

——まぁ、とにかくフリーター生活から、どんどん変わっていく姿を見せていきたいと。

所 そうですね。でも、本質だけは変わらないでいきたいですね。

——所英男の成長物語ですね。

所 でもホントわかりやすいですよね。『紙プロ』に出始めた最初の頃から見てもらえれば、いかに僕がしゃべれるようになったか。

——ダハハハハ! かつては矢野さん抜きでは、ZST勢のインタビューは成立しませんでしたからね(笑)。

所 だから最近、僕のことを知った人は、ぜひ『紙プロ』のバックナンバーを買って見てもらいたいですね。

——宣伝ありがとうございます(笑)。では、最後に今年の目標を。

所 そうですね……これ以上を望めるかってところもありますけど、力の限り闘いたいと思います。そして『HERO'S』でチャンピオン目指すと同時に、ZSTでも頑張ります。

——今年も所選手の成長する姿を期待してます!

所 はい。変身します!

【06年1月6日/代々木上原・リバーサルジムにて収録】



紙のプロレスRADICAL No.75

ツイスターゲーム敢行 ZSTガール 尾藤ゆう対談

ZSTで選手以上の人気を誇るZSTガール、尾藤ゆうちゃんとの対談。所さんはこの日のために、ちょっとHなパーティゲーム「ツイスター」を持参。終始テレまくりながら、岐阜出身同士の地元話に花が咲いた。



紙のプロレスRADICAL No.73

『GT-F』優勝を記念して 初の単独インタビュー

ZSTのグラップリング・トーナメント『GT-F』に優勝した所さんが、初の単独インタビューに登場。"音速の回転体"のタイトルで5Pに渡って特集。



紙のプロレスRADICAL No.61

ZST四兄弟座談会

所さんの記念すべき『紙プロ』初登場。リトアニア遠征の珍道中を語り合う、大暴露座談会。ここで"リトアニアの寝技王"の異名を獲得。





紙のプロレスRADICAL No.88

元無敗・小谷直之対談

『HERO'S』出陣決定 2大エースが決意表明

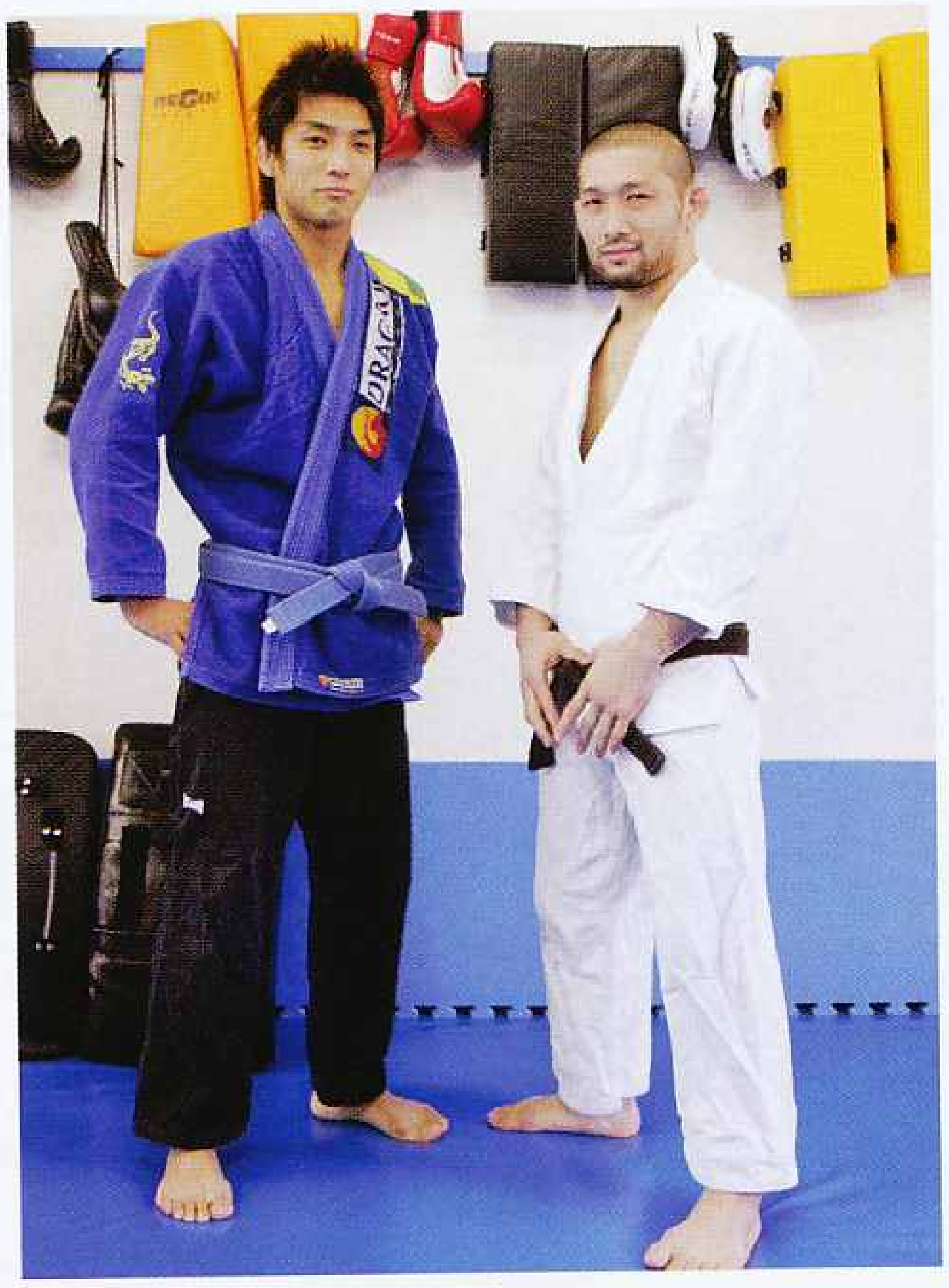
『HERO'S』出場が正式決定し、『武士道』出場が決まった小谷直之と、ZST2大エースとして決意表明対談。そしてこの直後、本当に大ブレイクが訪れた。

紙のプロレスRADICAL No.89

大ブレイク記念・矢野卓見対談

"世界の所さん"誕生の陰にヤノタクあり!

修斗世界王者ペケーニョにまさかの快勝で大ブレイク! その陰で作戦参謀となった兄貴分・ヤノタクと対談。ここで"世界の所さん"と命名された。



紙のプロレスRADICAL No.86

"兄貴分"と再会! 足関十段・今成正和対談

かつての"兄弟分"が誌面で再会。それぞれ『HERO'S』、『武士道』での活躍を誓い合う、まさに"ブレイク前夜"を感じさせた二人だ。

共に歩んだ3年間、『紙プロ』誌面で振り返る

所英男成長物語

世界の所さんをこれまで最も取り上げてきた媒体といえば、誰がなんと言おうと本誌『kamipro』! ブレイク前からこれまで素顔の所さんを掲載してきた歴史をここでは一挙公開。その成長物語を見よ!

kamipro No.93

超人気者が揃い踏み! ZSTガール・小野寺愛

ZSTが誇る超人気者、ZSTの女神・小野寺愛ちゃんとZSTのプリンス・所さんの対談のはずが、所さんも聞き手となって愛ちゃんに質問浴びせまくり!

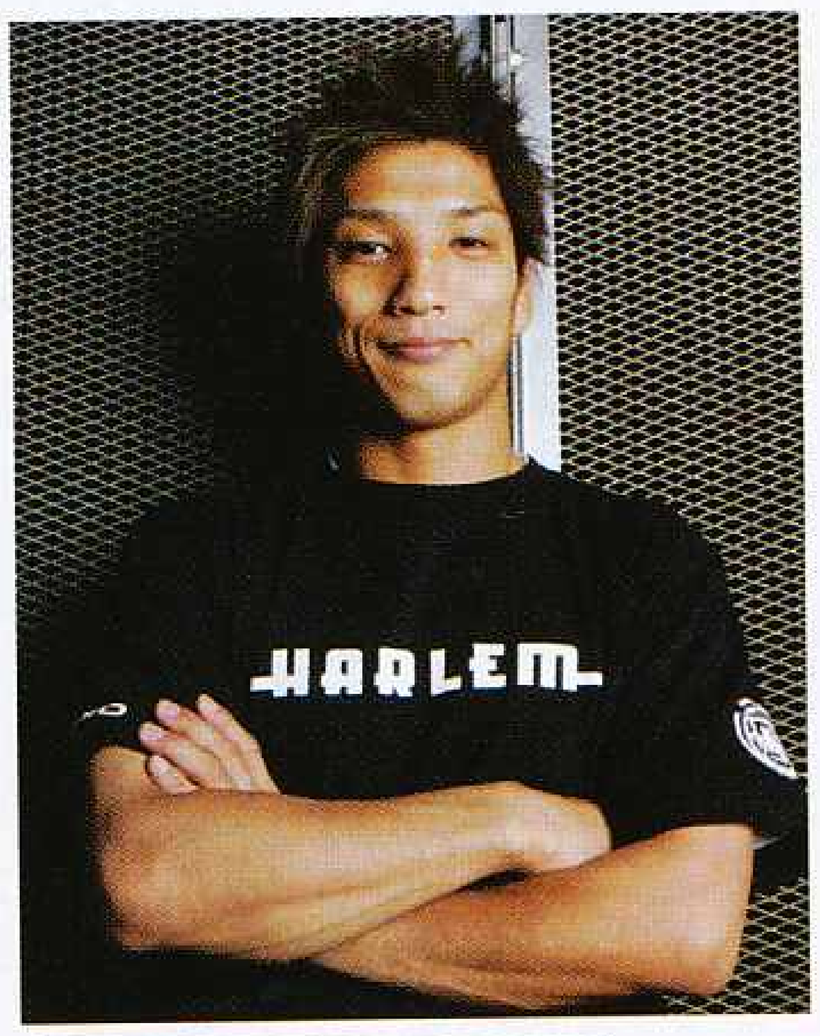




kamipro No.92

新・師弟タッグ結成……? 船木誠勝がプロ魂を伝授!

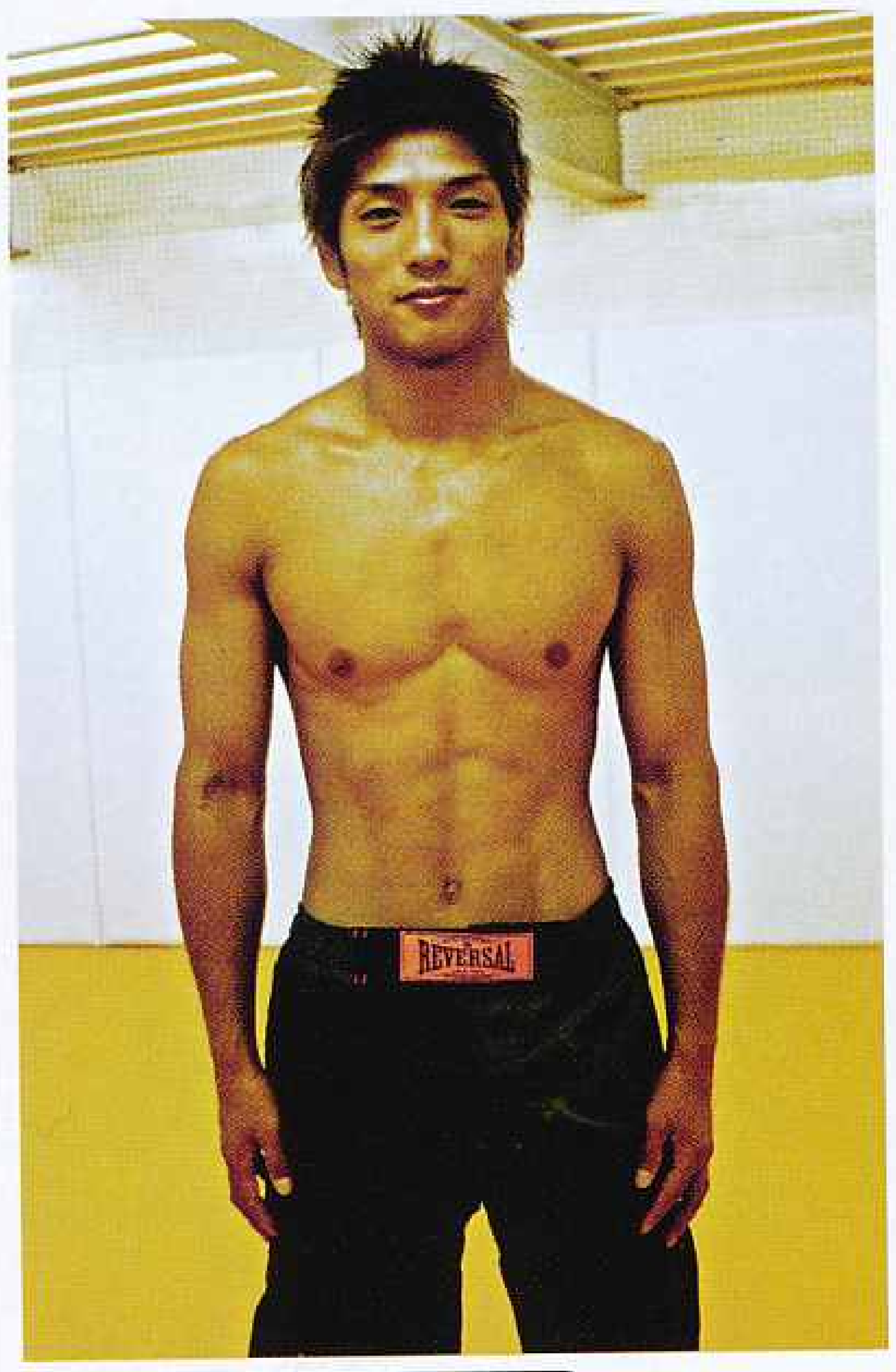
UWFのファンだった所さんが、U系の大物・船木誠勝と初の対談。昭和の新日本プロレスを体験した船木ならではのアドバイスが送られた。



紙のプロレスRADICAL No.91

所さん、敗れて決意新たに

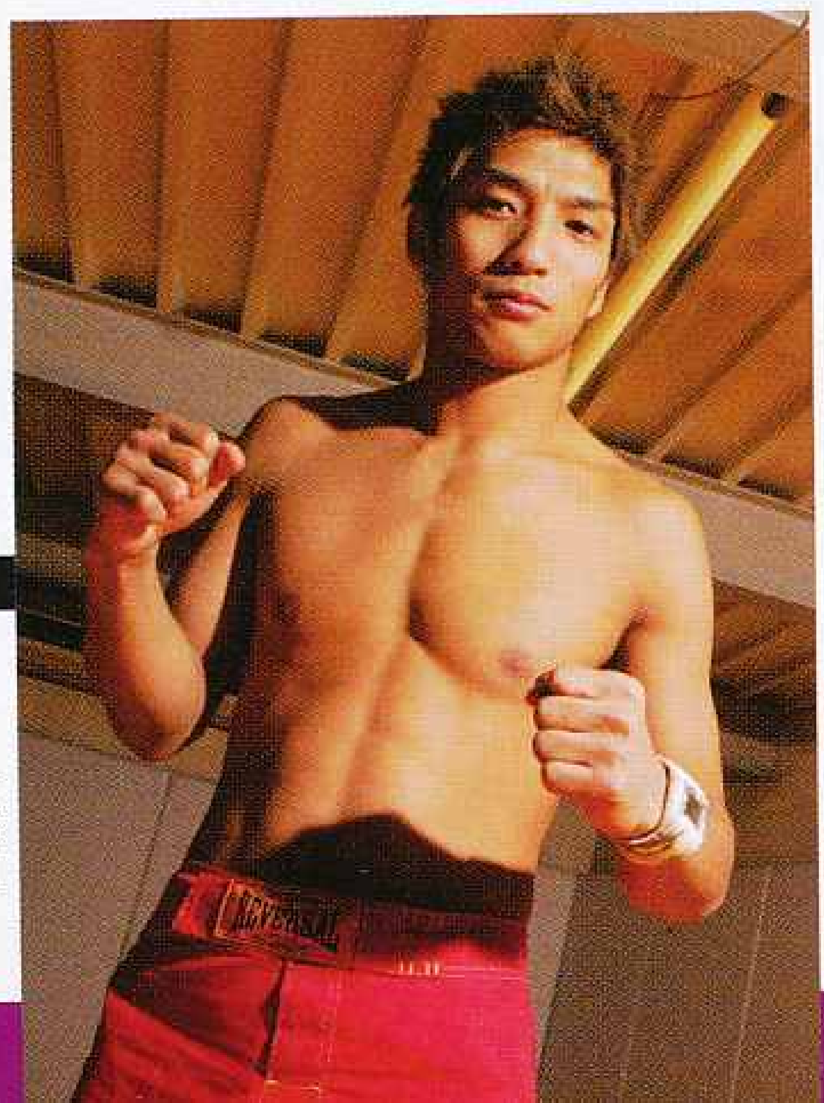
かつて憧れの存在だった宇野薫に『HERO'S』準決勝で激闘の末敗れた所さんが、「もう胸は借りません」と、トップを狙うべく決意を新たにした。



紙のプロレスRADICAL No.90

必見! 少年時代の写真が満載

大ブレイクした"世界の所さん"が、改めて半生を振り返るロングインタビュー。所家提供の野球少年だった頃の写真もたっぷり掲載させてもらった。



kamipro No.94

『Dynamite!!』直前! TBSの裏側を語る

夢の『Dynamite!!』出場が正式決定した所さんに、7カ月連続インタビュー。TBSの事前番組や『スポーツマンNO.1決定戦』の裏側も語ってます!

"世界の"所さんの成長がわかる『紙プロ』バックナンバー通信販売行なってます!

NO.61～NO.91までの購入方法はP114～115『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー通販ページ参照
『kamipro』新装刊後、NO.92以降はhttp://www.enterbrain.co.jpにてお買い求めください!

KIDvs元気はクライマックスにあらず！

中軽量級格闘群像 時代はここから始まる！

文／ささきぃ



神の子のパンチが、トリックスターの動きを止めた。12月31日、大阪ドームで行なわれた『Dynamite!!』のメインは、KIDのKO勝利で幕を閉じた。『K-1 GPシリーズ、『K-1 MAX』、そして2005年からスタートした『HERO'S』。始まった当初は〝スペシャルイベント〟だった大晦日大会は、3年目を迎えたいま、年間を通じて光り、活躍した選手のみが出場を許される大会となった（一部を除く）。このメインを飾ったのは、山本KID徳郁と須藤元気の二人。昨年のメインは曙vsホイス・グレイシー、一昨年は曙vsボブ・サップ。お茶の間にも通じる横綱が、3年目にして大トリを譲り渡した。

譲り渡されたうちの一人、須藤元気は2003年の『Dynamite!!』第1試合に参戦。ここから2年、元気は押しも押されもせぬメインエベンターとしてここまで登り詰めた。相手は04年に『K-1 MAX』へ登場以来、2年弱でイッキにスターダムへのし上がった山本KID。清原和博がオープニング宣言を行ない、永ちゃんこと矢沢永吉が試合に向けて「KIDvs元気、ヨロシク!!」とエール。この大会のメインを務めるということは、イコール、今年のK-1シリーズの最終試合を任されたということでもある。現在の格闘技界を二分する格闘技プロモーションの片翼であるK-1グループ。同じ日、さいたまスーパーアリーナでは、木口道場でともに汗を流した五味隆典と桜井マッハ速人が、もうひとつの翼である『PRIDE男祭り』のリングで、日本人初のPRIDE王者の座を争って闘っていた。結果は、五味が先輩であるマッハを圧倒的な強さで倒して勝利。『武士道』シリーズを牽引してきた男が、PRIDEの頂点に立ち、DSE・榊原代表をして「来年は十分にメインもありうる」と断言させた。

一足早く、中量級日本人同士のメインを実現させた『Dynamite!!』。KIDは、須藤元気を倒したパンチで、格闘技の歴史に自身の名を刻みつけた。

頭を丸めて登場したKIDに対し、元気は20名近いダンサーを引き連れて入場。元気のリングインを、KIDがリング中央でステップを踏みながら待ち構える。大会翌日、KIDは「ダンスバトルじゃ負けねぇぞ、って」と、このシーンのことを振り返った。「大一番直前の、張りつめた空気」でありながら、これまで



の格闘技歴では想像も出来なかった、拳を交える二人のダンスバトル。二人は、目を合わせてニヤリと笑いあう。

半身に構えた元気がミドル、ローを放つ。KIDは近づいてロー、さらに踏み込んでインロー。KIDが倒してグラウンドへ持ち込めば、元気は下から三角を狙う。

スタンドでローからフェイントを見せてフック、カウンターの右を叩き込むKID。いったん離れたKIDへ元気が右ストレート、しかしここにカウンターでKIDの右が決まる。

背後へ吹っ飛んだ元気の上にのしかかったKIDが、さらに鉄槌を振り下ろす。1発、2発。ここでレフェリーが割って入り試合をストップした。

飛び上がって一回転し、喜びをアピールするKID。元気はうつろな目でレフェリーを見上げ、なぜ止めるのかと抗議。それでも負けを認め、静かにリングを降りる。「すべては必然。自分のやるべきことをやって結果がこうなって、それを受け入れるしかないです。ここにいられることに対し、すべての存在に感謝します」。トリックスター・須藤元気が、涙をこらえながら語った。

「すべては必然」。悟りきった言葉の奥に悔しさを滲ませながら、敗れた元気。「ありがとうございました。……すいません、しんみりしちゃって」。ベルトを手にしたKIDは「嬉しい、メチャメチャ」と、破顔一笑。人生で初めて手にするベルトが、日本中が注目する大晦日『Dynamite!!』のメイン。どこまでもドラマチックな運命が、神の子を取り巻く。

2005年の終わりに、PRIDEのリングで〝頂〟を手にした五味隆典。『K−1 Dynamite!!』で勝利した山本KID徳郁。二人は、見る側の想像を常に上回り続けるという方法で、みごと頂点へたどり着いた。2006年、K−1とPRIDE、そして格闘技界がこの二人を中心に回っていく。倒すべき敵は目の前にいる選手だけではない。団体を象徴する存在となった二人へ、さらに大きな期待の風が吹き付ける。彼らに敗れた須藤元気、桜井マッハ速人、そして『Dynamite!!』のセミファイナルで確かな存在感を見せつけた所英男らが、彼らと絡み合ってさらなるドラマを展開していく。

2005年、12月31日。まさにこの日から新しい時代が動き出したのだ。

ロシア人を倒すのは、ロシア人
今年こそ、ハリトーノフが“頂き”ます!



ハリトーノフFACE Tシャツ
レッド／ホワイト／カーキ ¥3,990(税込)
S･M･L･XL





ハリトーノフ
ジャージ
ホワイト&レッド
¥7,350(税込)
M･L･XL



ハリトーノフ
スポーツタオル
¥3,150(税込)

『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.prideofficial.com/
『紙プロHand』でも購入可能!!



ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト／レッド ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



ロシア「RTT」パーカー
グレー ¥6,300(税込)
M･L･XL



ハリトーノフ パラシュートパーカー
アッシュグレー／ネイビー ¥6,300(税込)
M･L･XL



コピィロフTシャツ
ホワイト ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



ヴォルク・ハンTシャツ
ホワイト ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



ミーシャTシャツ
ホワイト ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



ハリトーノフTシャツ
ホワイト ¥3,990(税込)
S･M･L･XL



ハリトーノフSKULL Tシャツ
レッド／ホワイト ¥3,990(税込)
S･M･L･XL

ロシアン・トップチームグッズは『kamipro』通販でご購入できます。電話、メール注文もできますよ!!
(株)ダブルクロス TEL.03-5368-1797 (平日15:00～22:00まで)

【メール注文方法】郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールをkapra@kamipro.comまで送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)代引手数料約¥315がかかります。(代引金額によって異なります)。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。販売元:(株)ダブルクロス

寒さもいよいよ本格化！

PRIDE

ニットキャップシリーズで冬をのりきろう！



SAKUニットキャップ
¥3,150（税込）



シウバニットキャップ
¥3,150（税込）



シュートボクセニットキャップ
¥3,150（税込）



RED DEVILニットキャップ
¥3,150（税込）



ミルコ ニットキャップ
¥3,150（税込）



BTTニットキャップ
¥3,150（税込）



SAKUボクサーブリーフ
オレンジ ¥2,625（税込）
M･L･XL



シュートボクセ ボクサーブリーフ
ブラック ¥2,625（税込）
M･L･XL



シウバ ボクサーブリーフ
ホワイト ¥2,625（税込）
M･L･XL

ボクサーブリーフも一挙勢揃い!!



SAKU オブリガード Tシャツ
オレンジ ¥4,200（税込）
S･M･L･XL



SAKU ポコ･カンサード Tシャツ
グレー ¥4,200（税込）
S･M･L･XL



BTTジップパーカー
ブラック／グリーン ¥10,290（税込）
S･M･L･XL



ミルコ ジップパーカー
ホワイト／ブラック ¥10,290（税込）
S･M･L･XL



シウバ ジップパーカー
ホワイト／ブラック ¥10,290（税込）
S･M･L･XL



レッドデビル ジップパーカー
ブラック／レッド ¥10,290（税込）
S･M･L･XL



SAKUジップパーカー
オレンジ／ネイビー ¥10,290（税込）
S･M･L･XL



シュートボクセ ジップパーカー
グレー／ブラック ¥10,290（税込）
S･M･L･XL

このページの商品はKamipro Handでも購入可能!! 詳細は右ページ下段を参照ください➡

真の勝者は小川か

因　縁対決は
が完全決着!!



[12・31 PRIDE男祭り2005 -ITADAKI-]
○吉田秀彦 vs 小川直也×
（1R 6分04秒 腕ひしぎ十字固め）



吉田か

究極の因縁

論議呼ぶ完

戦で見えてきた
スル"という本当の姿



本真也になった日

口日 昇

撮影／平工幸雄　designed by matsu（TwoThree）

──さ、今回は、「山口日昇が見た小川直也vs吉田秀彦」ということで、たまにはkamipro編集長らしくあの一戦を総括してもらいたいなと（笑）。

山口　総括！　これ、そんな大げさなページなの？

──「総括」じゃ重すぎますか。じゃあ「感想」でいいです。

山口　感想はね、「小川直也という存在は、じつに孤独で、カッコよくて、そしてじつに間抜けだなぁ」と思った。

──小川直也は間抜け！　ちなみに、どのへんが〝間抜け〟だと思いましたか？

山口　「ハッスルやプロレスを背負う」ってことを、そこまでクソ真面目にやらなくてもいいのになというかさ。俺は、〝プロレスラー・小川直也〟を打ち出すことには同調しつつも、心の奥ではじつは格闘技仕様というか、格闘家・小川直也としての顔を見せながら、もっとドン欲に勝ちにいく小川直也を見たいと思ってたんだよね。でも、ウルッときた吉田と抱き合ったシーンのあとでも、いい意味で間抜けさが際立ったじゃない？　その姿が〝キャプテン・ハッスル〟そのものだったんだよね（笑）。

──『PRIDE』のリングなのに〝暴走王〟じゃなくて、〝キャプテン・ハッスル〟で出てきちゃったと（笑）。

山口　『PRIDE』という場で、しかも相手が因縁浅からぬ吉田秀彦ということで、あの暴走王・小川直也が見られるんじゃないかという、淡くも深い期待があったと思うんだよ。でも、終わってみれば、いまの小川直也の真の姿っていうのは、やっぱり〝キャプテン・ハッスル〟なんだなって実感したというか（笑）。

──ここ数年で身も心もキャプテン・ハッスルに変貌していたと（笑）。

吉田秀彦戦で
“キャプテン・ハッスル”



小川直也が橋本

山口日

聞き手／堀江ガンツ　撮影／工幸雄

山口　だから「ハッスルやプロレスを背負う」ということより、〝キャプテン・ハッスル〟というキャラがオーちゃんの背中にピタリと貼り付いたというかね。それが大晦日のあの舞台に立ち上（のぼ）ったことが、逆に面白かったね。あと「小川はこれで初めて〝プロレスラー〟になった」とか、「ひとりで破壊王を背負い、ひとりで破壊王を解放させた」という意見もちらほらと周りから聞くんだけど、ある意味で、吉田秀彦という存在も解放させたと思うんだよね。

――この試合によってですか？

山口　遺恨はまだまだ清算されきってないとはいえね。

――逆に深まったとさえ言えますよね（笑）。

山口　そうかもしれないけど、何かあの試合によって、柔道着を脱いだ脱がないという次元じゃない部分で、〝総合格闘家・吉田秀彦〟という個性が、吉田の背中にピタッと貼り付いたというか、それが如実に浮かび上がったよね。

――吉田秀彦の芯の部分のキャラクターを際立たせた感はありますよね。

山口　だから小川直也が、ハッスルを呼びかけたことに応えなかったシーンも含めて、吉田秀彦という個性が鈍くて地味でも、強烈な光を放ったというかさ。俺はあの試合の吉田秀彦は嫌いじゃないですよ。そういう意味で言うと、両者ともに持ち味を出したということで、小川 vs 吉田戦は、じつに良かったんじゃない？……………って、まとめられるほど簡単ではないよね（笑）。

――ダハハハ！　そう片づけるのは都合が良すぎますよね（笑）。

山口　「プロレスラーとして小川は勝った」っていう見方もあると思うけど、やっぱり『ＰＲＩＤＥ』という舞台では完敗ですよ。

“観客ジャッジメントマッチ”で勝ったのは小川。でも、“真の勝者”はもちろん吉田と言っていい

『PRIDE』っていうのは、そういう場だしね。だから、「ハッスルやプロレスを背負っていったことで、最初から負けることを想定していったんじゃないか？」という意見もそういうところで出てくるんだと思う。そういう小川直也の来し方に寂しさを感じる人もいるだろうし、あの日を境にして、これからの〝プロレスラー・小川直也〟に可能性を見いだす人もいるだろうし、それはそれぞれだろうけどね。でも、そういうふうに重層的な見方ができたという点では、kam・ipro流の言い回しをすれば、あの場には〝プロレスが立ち上った〟とは思うけどね。ただ、そういう見方も俺的には飽きたし（笑）、試合内容は実際に食い足りないよね。

——食い足りませんでした？

山口 だって、〝プロレス〟という言葉を引き合いに出すのなら、「猪木だったら腕一本、足一本折られても、絶対に何かを仕掛けていた」とかさ、そういうファンタジーをあのリングでも現出させてくれるんじゃないかという期待を持ってしまう。でも、現実にはそういうシーンが現出しない過酷なリングでしょう、『PRIDE』って。その過酷さと向き合わないようにしてるかのように見えてしまう小川直也が、そのままクッキリと負けてしまうのが、『PRIDE』の魅力でもあり、残酷な部分でもあるんだけどね。まぁ、そういう部分では食い足りないけど、小川直也はホントに〝キャプテン・ハッスル〟というキャラを覚悟を持って演じたなという意味で感銘は受けたよね。



『爆勝宣言』のテーマに乗って鉢巻きを締めて小川直也が入場すると、なんと『PRIDE』の会場に「橋本コール」が爆発！　破壊王と共に闘うというより、小川直也に破壊王が乗り移ったかのようだった。



——それこそ大晦日は誰がなんと言おうと、小川直也にとってはハッスルだったと。

山口 だから、裏を返せば、今回の試合は〝キャプテン・ハッスル〟小川直也として出ていって、〝観客ジャッジメントマッチ〟に勝ったとも言えるでしょう（笑）。

——去年3月の『ハッスル8』両国大会と逆のことが起こったと（笑）。

山口 そう。去年の『ハッスル8』両国大会では、川田利明と〝どちらがキャプテンにふさわしいか〟を競う「観客ジャッジメントマッチ」をやったんだよね。プロレスの試合自体には勝ったんだけど、そのあとPPVや携帯サイトでのファン投票では川田に票が集まって、最後に両国の観客がその試合を見て、〝キャプテンにふさわしい〟と思ったほうにボードで挙げるジャッジメントでも大差で負けたわけだよね。ターザン山本！の言うところの〝形を変えた3本勝負〟であのとき小川は敗れたわけだけど、今回の吉田戦も〝形を変えた3本勝負〟であるとするならば、PRIDEルールでの試合の〝1本目〟は負けて、3本目の観客ジャッジでも勝ったと。その〝観客ジャッジ〟では小川が勝って、「どうだ、これが観客との勝負なんだ」ということを突きつけたことについては、たぶん吉田も腑に落ちない部分はありながらも、何か感じるところがあったとは思うんだけど、ただ格闘家としてそこをべつに認める必要もないと思うしね。

——まぁ、その「小川が二本取った」というのも、あくまで見る側の屁理屈ですからね（笑）。

山口 うん、屁理屈（笑）。プロレスって活字の楽しみ方と一緒で屁理屈を楽しむ部分もあるからね。だから今回の小川vs吉田戦は、『PRIDE』のリングでは、あくまで試合で勝った吉田が真の勝者なんだってことでいいと思うけどね。ただ、敗れたとはいえ、小川直也は面白かったし、愛しい存在だったね。

——あれだけ『PRIDE』を愛するファンが会場に集まってる中で、それでも観客が支持したのは吉田じゃなくて小川だったということは、敗れたものの小川の魅力は伝わったということでしょうからね。

山口 〝間抜けさ〟も含めた小川直也の魅力というのが、浸透した感はあるよね。あと、何が〝キャプテン・ハッスル〟らしかったというと、マイクが長い！（笑）。

——長かったですね（笑）。

山口 あれがハッスルだったらダメ出し食らうね、たぶん（笑）。

——そのダメさ加減が、ハッスルのリングで「しょっぱいチキン」呼ばわりされる小川直也的だったと。でも、そうは言いつつ、いままでのキャプテンのマイクの中では最高だったと思いますけど（笑）。

山口 たしかによかったよね。でも、ハッスルのクオリティの中に入ったら、あれではダメ出しですよ（笑）。だってさ、普通に考えても「吉田、お前これからがんばれよ」って言って両者が抱き合ったあとに、一回「ハッスル、ハッスル！」ってやってサッと帰ればもっとカッコよかったんだよ。あの抱き合ったシーンは、やっぱりみんな感動したと思うし、俺も感動したしね。でも、あのあとがトゥーマッチ！（笑）。テレビだとカットしてるからわからないかもしれないけど、俺は会場で〝長い……長い……やりすぎ〟ってずっと心の中でつぶやいてたからね（笑）。

——「おぶってくれ」とか「度量の広いところ見せてくれ」とかは、たしかにちょっとしつこかったですよね（笑）。

山口 まぁ、負けた直後で足も痛いし、高揚してるし、孤独感を払拭したかったんだ



ろうからハッスルの舞台と同じようにやれって言ってもできないだろうけどね（笑）。オーちゃんが引き上げる際、吉田がマイクでしゃべってるときに、また「ハッスル、ハッスル」をやってて、吉田のマイクが聞こえなくなるシーンもあったでしょ。あれは小川が仕掛けたという見方もあるけど、俺はあれはナチュラルだと思う。あの間の悪さが小川直也だもん（笑）。

──その〝ナチュラルさ〟に大学時代から吉田は腹を立ててたと（笑）。

山口　かもしれない（笑）。つまり吉田秀彦の小川直也を嫌う要因のひとつには、「天然への畏怖」というのがあると思う。

──それは小川直也がもともと素材として強いということも含めて。

山口　そうなんだけど、天然＝天才じゃないんだよね。ここに面白いパラドックスがあるよ。吉田と小川の両方をよく知る人が「小川は天才じゃない」と言ってたね。小川は柔道の現役時代、当時130キロぐらいあって、体格的なことを天賦の才というなら、それは天才かもしれないけど、いわゆる重量級というのはそんなに人材が豊富なわけじゃないし、デカいっていうのは、それだけで有利になるわけでしょ。身体がデカくて、自分の得意パターンを作って、その得意パターンに引き入れたときにめっぽう強かったからあそこまでいったんだって。でも、小川のほうが常に「天才だ」「怪物だ」って言われて、どちらかというと、その小川と比較すると吉田のほうが努力型というイメージだった。でも、その人が言うには、吉田のほうが、天才型だって。

──ほうほう。

山口　寝技にしても立ち技にしても、どちらが天才かと言えば「圧倒的に吉田だ」って。だから、じつは吉田が天才型で小川のほうが努力型なんだよ。そういうパラドックスがある。さっき言った吉田の「天然に対する畏怖」っていうのがどういうことかというと、「天然」が「天才」に見られることへの憤りというか、そういう部分もあるかもしれないね。

──自分のほうが強いというだけじゃなく、俺こそが天才なんだと。

山口　吉田がそう思ってるかどうかは知らないけどさ（笑）。小川のほうが「怪物だ」「天才だ」って言われてきて、吉田のほうが努力で金メダルを勝ち取ったと思われてきたけどさ、格闘技のリングで勝ちにいくなら、努力しなくちゃいけないのは小川のほうだったんだよね。天才である上に、吉田は総合でも努力を重ねてるからね。こと総合格闘技という部分だけで言っても、やっぱり吉田って天才でしょ。

──まぁ、ほかの柔道出身の選手と比べると、それはよくわかりますよね。

山口　そんなに打撃の経験を積んでないころでもヴァンダレイとあれだけ打ち合って、あのヴァンダレイに「吉田のパンチは強い」って言わしめたりね。じつは天才である吉田が『PRIDE』のリングで強豪と切磋琢磨して、打撃方面でも努力してるんだから、小川はさらに「格闘技」で努力しなければ勝てなかったんじゃないかな。逆にそこに「小川が本格的に総合をやっていたら空恐ろしい」という幻想が生まれるのかもしれないけど。オーちゃんが途中でケガをしたということもあるけど、奇麗に一本取って、溜飲を下げたという部分では、吉田秀彦という天才の存在も解放されたんじゃないかとも思ったね。

──小川は、総合格闘技の実戦練習が明らかに足りないのはわかりますよね。

山口　練習はしてるけど、それは総合じゃ



い。でも、"天然"純度の高い小川が立ち上（のぼ）った



©DSE

なくて、柔道とボクシングの練習なわけでしょ。そしてスパーリング・パートナーは主に藤井軍鶏侍だけだもん。

——錚々たるメンバーが集う、吉田秀彦周辺とは練習環境からしてえらい違いですね（笑）。

山口 やっぱりいろんな人とスパーリングしないと、『PRIDE』では難しいよ。そういう意味で言ったら、小川直也が〝プロレスラー〟としてではなく、格闘家として『PRIDE』に挑む姿を見たいというのが、いまのファンの正直なニーズだと思うんだよね。それは俺も見たい。でも、小川は「プロレスラーとして出ていく」という腹を決めて、橋本真也という存在を背負って、しかも〝キャプテン・ハッスル〟という個性を背中に貼り付けて出ていって、それを貫き通した。それはそれで滑稽で間抜けだけど、カッコいいし、凄いなぁと。ホントに面白い人だなぁというか、変わった人だなぁと思うよね（笑）。

——ファンが圧倒的に「プロレスラー・小川」を望んでいるわけじゃないのに、そういう部分で頑固というか、信念を貫きますよね。

山口 なんでいつも人が望むことと違う角度に信念を貫くんだろう、この人は……というね（笑）。でも、そういうことを含めて小川直也なんだよね。そう考えると、小川直也の物語はまだまだ終わってないと思うね。

——その不器用かつ、妙に一途な思いというのが愛おしい部分でもありますしね。

山口 「小川が吉田の凄みを引き出した」って言うと、吉田サイドは嫌がるとは思うんだけど、小川が〝プロレスラー〟を貫いたからこそ、〝格闘家〟を貫いた吉田の凄みっていうのも伝わったよね。

——小川も吉田も闘うことで相対的に光ったというのは間違いないですからね。

山口 あとは、糸井重里さんの「冷蔵庫を探すな理論」になぞらえれば、一番感じたのが、『PRIDE』のリングでは、日々の〝仕入れ〟がやっぱりもっとも重要だということだよね。小川直也の総合格闘家としての〝仕入れ〟に対する姿勢と、吉田秀彦の総合格闘家としての〝仕入れ〟に対する姿勢の違いが、勝敗にハッキリ出た。やっぱり5～6年前の総合格闘技の文脈で小川直也は出ていってた。それに対し吉田は『PRIDE』っていう世界最高峰の舞台で揉まれて、しかも強い相手とやって、さらにきちんと日々、〝仕入れ〟を行なってる。自分の持ってる冷蔵庫の中に新しい〝食材〟をストックするための〝仕入れ〟を常に行なってるし、その食材は毎日のように仕入れに行かないと、たとえ冷蔵庫に入れていたとしても、腐っていくことが実感としてわかってるというか。

——わかりやすく言うと、総合格闘技の最新技術を常に導入して細かいモデルチェンジを繰り返してると。

山口 うん。対する小川直也は自分の冷蔵庫を「なんかないかな？」って開けてみたら、冷凍保存してある「柔道」と「ボクシング」と「プロレス」という食材があって、それをどう解凍してアレンジして料理しようかという勝負の仕方だったでしょ。柔道とボクシングにプロレスという調味料をふりかけて料理として出したんだよ。でもやっぱり、この『PRIDE』というリングで行なわれる〝料理人対決〟は、どれだけ自分の冷蔵庫に新鮮な食材を仕入れていけるかが勝負。つまり、日々の仕入れを怠ったら負けるんだなぁ、と改めて思ったね。小川直也の冷蔵庫には、昔入れて冷凍保存してあったものしかなくて、鮮度が落ちてた。しかも料理として出すには解凍が足りなかった。その差が如実に出たんじゃないかな。

——小川がここ数年仕入れた〝食材〟は、ほとんどハッスルばかりですからね。『PRIDE』での料理人対決にはまったく関係ないという（笑）。

山口 リングは『PRIDE』なのに、料理法は『ハッスル』。これはさ、ある意味、『愛のエプロン』で、うなぎをまるまる一匹焼いてどんぶりに乗せて、うな丼として出したインリン・オブ・ジョイトイの料理の仕方を見るかのような面白さがあったよね（笑）。

——おいしいかどうかは別として、インパクトはあるみたいな（笑）。

山口 食えないけど面白いというね（笑）。

——食えないけど、テレビ的にはインリンの勝ちみたいなもんですよね（笑）。

山口 でも、『PRIDE』っていうのは、あくまで『料理の鉄人』であって、『愛のエプロン』じゃないから、勝負に負けるのは当たり前っていうかさ（笑）。

——面白さは採点には関係ないですからね（笑）。

山口 『料理の鉄人』に出ても、小川はそのインリンのうな丼的なインパクトにこだわったわけじゃない。そういう意味で言うと、総合格闘家・小川直也に期待するというのは、今回を機にいい意味でやめることもできたし、それはそれで意義があったこ

とだと思うね。
――だからこそ、『PRIDE』というリングで吉田秀彦と闘ったことによって、「小川直也はプロレスラーだった」という逆説的な評価も出てくるわけですよね。
山口　ただ、その逆説的な評価の仕方というのは、何か古く感じるんだよね。やっぱり『PRIDE』は進化してるし、プロレスの概念も時代と共に変節してるからね。俺としては、小川がプロレスラーであろうがなかろうがいいじゃん、面白いんだからっていう感じなんだよね（笑）。
――ある意味、インリン様がプロレスラーであろうがどうであろうが関係ないのと同じですよね。
山口　だから俺はプロレスを背負ってとか、ハッスルや橋本真也を背負うっていうことに関しては、そこはどうでもいいというかさ。それより小川直也という個性でしか出せないギリギリ感だったり、孤独感だったり、間抜けさだったり（笑）、そういうことも含めて愛おしさを感じたね。だから、〝プロレスラー・小川直也〟が際立ったという意見はわかるんだけども、俺は「天然」の純度が高い小川直也が立ち上ったということのほうが面白かった。
――そういった天然というか、人間のとんでもなさを「プロレスラー」という言葉にみんな無意識に置き換えてるんじゃないですか？
山口　うん。だから、プロレスラー＝天然かもね（笑）。その天然の純度の高さが吉田戦によって出たという意味ならわかるね。でも、それは負けたあとに必ずマイクアピールをやるとか、ハッスルをやるとか、そういう方程式や方法論のことじゃないから。
――方法論じゃないですよね。
山口　俺はその負けたあとにマイクをやったことが凄いとか、あそこで「ハッスル、ハッスル」をやったから小川の勝ちだとか、そういう意見にはまったく乗れないんだよ。なんでそれで勝ちなんだよって話だからさ（笑）。
――実際は足まで折られて負けてるわけですからね（笑）。
山口　でも勝ち負けじゃない部分で、小川直也の生き方が、ようやく「天然・小川直也」を出せる土壌まで高まってきたというかさ。そういう意味でいうと、ホントに橋本真也の域に近づいてきてるんじゃないの？（笑）。
――ダハハハ！　そういえば、『男祭り』で見せた小川の間抜けさと切なさとカッコ良さって、破壊王的でしたよね。
山口　俺は「橋本真也を背負って出ていく」というロジックに関しても、戦前も試合中もあまり意識してなかったんだけど、もし橋本vs吉田が実現してても、ああいう展開になってたんじゃないかなって気がするんだよ（笑）。



マイクで「小川の勝ち」という意見には乗れない。で



――橋本真也を背負ったというより、小川が橋本真也になっちゃった（笑）。
山口　乗り移ったのかな？（笑）。負け方からして何か間抜けでカッコイイ破壊王を見る感じがあったもんね。これは後付けだけどさ。
――小川が入場シーンから何か感極まって涙ためてたじゃないですか。あれなんかも破壊王そのものですよね（笑）。
山口　自分なりのアングルというか、自分なりの物語に過剰なくらい入り込める、そういう天然的な素材に高まったということだよね。いままでの小川ってさ、そういう天然性ってあんまり出なかったでしょ。素質と可能性はあったけどね。どっかで演じてる部分があったけど、じつは〝キャプテン・ハッスル〟というか、自分なりの〝プロレスラー像〟を演じているうちに、いつのまにか背中に貼り付いていたんだろうね。そういう意味で面白かったよ。そして吉田秀彦もまた、いつのまにか総合格闘家というものが背中に貼り付いていた。だからあの試合をもって小川が弱いとかもべつに思わないし。
――逆の見方をすれば、プロレスとボクシングと柔道の練習してるだけで、天才・吉田秀彦とあれだけ渡り合うというのは、とんでもないことだとも言えますからね。
山口　総合の試合は1年4カ月ぶりだからね。それでスパーリング・パートナーは軍鶏侍だけだよ？　普通に考えたら勝てるわけないじゃんって話だよね（笑）。でも、足が折れててもスイープするところとかさ、格闘家としての素質や地金は瞬間瞬間に見えたよね。だから、総合格闘技に没入してやったときの小川がどれだけ強かったんだろうか？というファンタジーはまだ残ると思うな。
――いつまでたっても「本気になったら最強だ」と言われ続けると（笑）。
山口　だからこの試合は、試合に至る過程や、小川の天然ぶりと吉田の天才ぶりが大晦日という特殊な空間で発揮されたという部分や、試合後にあれこれ語れることだったりも含めて、10年に一度、20年に一度の闘いという言い方はあってると思うね。
【06年1月11日／kamipro編集部にて収録】



—本誌前号では、『PRIDE男祭り』の会場観戦するかどうかを迷われてましたけど、大晦日はどうされたんでしょうか？

獏 いやあ〜、家でテレビ観戦だよ。本当は埼玉まで行きたかったんだけど……仕事が残っていたんだよねえ（悔しそうに）。

—それは残念でしたね（笑）。

獏 まぁ、『Dynamite!!』と両方見れたからよかったんだけど、小川vs吉田の一戦は予想を遥かに上回って非常によかったよねえ〜。最高だった！（急に声をひそめて）ところで、テレビで"あの音"って入ってた？ 吉田の極めで小川の足が「ボキッ！」って折れる音。

—いや、自分は気づかなかったですね。

獏 『Dynamite!!』のほうを録画してたから確認できないんだけど。聞こえた気が……したんだよ。実際に「聞こえた」っていう知り合いもいるし。

—う〜ん。この一戦に過剰な思い入れを持った人間だけに、もしかしたら聞こえたのかもしれないですね（笑）。

獏 ああ、なるほどぉ（笑）。いずれにせよ、そういった幻想が立ち上るような凄い試合だったね。

【※編集部註：VTRを確認したところ、吉田秀彦が小川の足を捻った瞬間、たしかに「ボキボキボキ!!」という凄い音が流れました！ 獏さん、申しわけありません！ 読者の皆さんもぜひ確認してみてください】

—獏さんは大絶賛の一戦ですが、格闘技の識者たちからは「レベルが低かった」という声も挙がってるんですけど。

獏 いや、そういうレベルで斬っちゃ駄目でしょう！ 技術論で語るべき試合は他にもあるけど、この試合は"魂についての斬り口"を考えるべきですよ。

—まったく同感です！

獏 だってねえ、あの吉田秀彦がついに道衣を脱いだわけだよ。吉田よ、お前もついにヴァージンを……。

—（さえぎって）ヴァ、ヴァージンですか？

獏 そう！ ヴァージンを小川直也に捧げたという（笑）。

—ガハハハ！ そういえば、獏さんは前号で吉田の着衣問題にポイントを挙げてましたね。

獏 なにより深みを感じるのが「最初に脱いだ相手」が小川直也だったという点。これには運命的なものを凄く感じるよねぇ。

—10年前の全日本柔道選手権から、まるで脚本があったかのようなドラマ仕立ての展開ですね！

獏 吉田はそれだけ小川への思い入れがやっぱり強かったんだろうし、「絶対に負けられない」という覚悟があったんだろうねぇ。

—吉田秀彦は、あのヴァンダレイ・シウバ相手でも脱がなかったのに。

獏 そうだよ！ ヴァンダレイとなら負けてももう一回できるかもしれない。でも小川直也は「やり直しがきかない」相手なんだよ。つまり、小川戦は競技的な試合の中のひとつではなく、"人生の試合"として捉えてるんでしょう。

—そうでなければ、吉田の誇りである道衣は脱げないですよね。

獏 それに脱いだ吉田というのは、本当に新鮮だし、脱いだ瞬間に生まれ変わった。たとえば、道衣を脱いだ吉田だったら三度目のヴァンダレイ戦も、これまでとは違った視点で見れる。"新生・吉田秀彦"は大晦日の偶然の産物だけど、それをもたらしたの小川だったことに奥深さを感じるわけだよぉ。

—ただ、吉田は小川のパフォーマンスに食われてしまった部分もありましたけども。

獏 いや！ 俺は食われてなかったと思うんだよ。マイクでも吉田は満点以上の回答をしたと思ってる。俺も最初は「ハッスルするかな？」と思ったんだけどねぇ。

—会場の空気的にもハッスルしないとマズい場面でしたね。

獏 吉田が苦笑いしつつ、小川に肩を貸してハッスルすれば……満点だったよね。でも、ハッスルしたら誰も文句は言わない場面で断ったのは、吉田からすればハッスルする以上の勇気だったろうし。結果的には断ったことでさらに物語が続いていくという、満点以上の幕切れになった。

—小川と吉田のそれぞれ価値感が一瞬、交差したことでさらに際立ったというか。

獏 小川ももちろん素晴らしかった。さすがアントニオ猪木の遺伝子を受け継いでいるなと思わされたのは、負けたにもかかわらず、よくあそこまでのことを瞬時に言い放ったり、立ち振る舞えるなって。

—不測の事態をうまく転がす演者度胸は見事ですよね。

獏 そして、その小川の土俵に踏み込まない吉田の格闘家としての良さもあった。あの微妙な余韻がよかった（しみじみと）。吉田がハッスルしたら大団円で、単に「一つのドラマが終わったな」という感想だけだったかもしれないのに。

—拍手を送るだけで何も語る必要はないですよね（笑）。

獏 二人とも自分のポリシーを守り抜いた結果、彼らの価値観や人生を語りたくなるわけだからね。吉田の価値も落とさなくて、それに小川の価値も落ちてないんだよ。

—獏さんも大満足のパーフェクトな一戦だった、と。

獏 いや……じつはさ、ハッスルやらない吉田を見て瞬間的に「なんでやらないんだ！」って怒ったんだけど（笑）。

—ガハハハハ！ 温厚な獏さんもさすがに怒りましたか！

獏 怒ったよぉ！（癒すような声で）「お前もハッスルしろ！」って（笑）。でも、時間が経って落ち着いたら「やっぱり格闘家としてやらなくてよかった」と考え直してさ〜。いやあ、よかった、よかった〜。

—それほど心を揺さぶられる一戦だったということですね（笑）。今日はどうもありがとうございました！

（聞き手／ジャン斉藤）

【06年1月5日／電話取材にて収録】

全身格闘小説家 **夢枕獏** インタビュー

吉田がハッスルを断ったことで"満点以上"の幕切れになった。



ゆめまくら・ばく

1951年神奈川県、小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』シリーズや『陰陽師』シリーズなど多くの話題作を発表。また格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年に渡り、執筆するなど格闘技への造詣は広く深い。趣味人としても知られ、釣り、登山に関した著作も多数。現在、小説『大帝の剣』の映画制作が進行中。今秋以降に公開予定。



小川vs吉田の因縁は馬場vs猪木を超えた！

終わらない大河ドラマ『PRIDE男祭り』を語り尽くす!!

筋書きのない凝縮されたドラマを見せた小川直也vs吉田秀彦戦を始め、闘う男たちそれぞれの生き様が見えた『PRIDE男祭り2005』。この極上の人間模様をさらに深く楽しむべく、浅草キッドが、大晦日の闘いを深く掘り下げ語り尽くす！

浅草キッド

聞き手／堀江ガンツ　designed by bun-chan (Two Three)

決してハッピーエンドじゃ終わらない そこが『PRIDE』なんだろうな（博士）

――さぁ、名勝負続出だった2005年が終わりましたけど、今年もよろしくお願いします！

玉袋　俺たちは今日が仕事初めなんで『kamipro』でやらせてもらって、ありがたいやね。

博士　昨年の仕事納めが、『男祭り』なんだから、男冥利に尽きるよ。

――どうですか。『男祭り』が終わり、いい新年は迎えられました？

博士　いやあ、大満足だよ！　まあ、小川vs吉田の幕切れが納得できない人もいるだろうけど、この予定調和のなさ、大団円のなさ、「これぞPRIDE」って思ったね。観客全員が、「俺たちこれで終わったのかなぁ。まだ始まってもねぇよ！」って言葉を噛み締めたんじゃない。それこそ最初の金子賢の試合から最後の小川vs吉田まで。

玉袋　そして、その4日後の新日本プロレスは完全に終わってしまったと（笑）。

博士　さすがの新日本派のジョシュ・バーネットでも言うんじゃない、「おまえは、もう死んでいる」（笑）。

――ダハハハ！　たしかに1・4ドーム見たら「俺たち、これで終わったのかなぁ」って感じでしたよね（笑）。

玉袋　まぁ、大晦日の小川vs吉田に関しては、結果うんぬんより、とにかく無事、二人が同じリングに立ったっていうだけで凄えんだから。

――試合自体もあの短い時間の中で、語れる要素がたくさんありますからね。

博士　試合が始まる前の吉田が道衣を脱いだ瞬間も凄かったしね。

玉袋　吉田がついに脱いだ！　っていうね。

博士　宮沢りえの『サンタフェ』以来じゃないか、「脱いだ」一つで、あのどよめきは……（笑）。

玉袋　柏原芳恵にも見習ってほしいよ。

――吉田が脱いだ瞬間の小川の表情も良かったですよね。

博士　でも、そういう意味で言うとさ、みんな、今回の瀧本無用論を唱えるけど、吉田が道衣を脱ぐ布石としての、斥候の仕事を果たしてるわけだよ。菊田戦で、要するに柔道家同士が衣を着るとこれだけ不利になるって身をもって示してるわけだからさ。

――メインの伏線の役目をはたしたと。

博士　伏線になってるし、結果的には吉田に勝利をもたらしてるわけだからね。

玉袋　俺が今年、正月旅行で行った北海道登別温泉の旅館が「瀧本館」だったんだけど、その布石でもあったな（笑）

――瀧本はそんなところにもつながりましたか（笑）。

玉袋　だから吉田はチームで勝ってる部分もあるんだよな。やっぱりさ、入場からして、オーちゃんは破壊王を背負って、一人で出るっていうのもウルウルさせてくれるんだけど、吉田とのチームの人数の差っていうところに寂しさを感じたな。

博士　小川はセコンドも軍鶏侍ともう一人だけだもんね。それに比べて、チーム吉田は日本の錚々たるメンバーを集めて闘ってるんだもんな。だから勝負そのものを言うんだったら、小川が勝って、たった3人で分かち合う歓喜は相当だったろうけど、やっぱりチームでしっかり準備をして、勝つためには道衣すらも脱ぐ吉田。それに対して、〝負けたときのハッスル〟さえも、心に用意していた小川というところで言えば、結果論だけどさ、その勝負へのこだわりで負けてたのかなって思っちゃうね。

玉袋　ホント。勝負論で言ったらやっぱり吉田のほうが凄いっていう、それが『PRIDE』なんだろうな。

博士　だけど、負けたとはいえ、負けた後、「骨が折れてたよ」って言って、「頑張れよ」

浅草キッド



“明大の後輩” 鈴木健想＆浩子が語る 小川直也 VS 吉田秀彦





浩子

小川選手VS吉田選手の一戦は、ハッスルの一員としても、《明治対決》としても大注目だった。小川選手と健想は、何気に共通点が多い（笑）。オリンピック出場の元アスリート。大企業に入社して新日本へ。坂口会長の愛弟子で東京ドームデビュー。とにかく共通点も多い。ハッスルの一員としても応援しまくりました。



健想

小川選手は正直に凄いと思う。エンターテイナーで、レスラーで、PRIDEにも出る。これはなかなか難しい。そういういろんな顔を持つ小川選手だからできる試合だった。結果は負けたけど、栄養をくれる《負け》。負けてこれだけの好印象を残すのは小川選手だからこそ。他の選手じゃそうはいかない。この勇気と潔さは《恐るべし小川直也》だった！

試合後にもうひとつの闘い



小川劇場 完全再現

メインイベント終了後、敗れた小川が、セコンドの藤井軍鶏侍に支えられながらマイクを握る

小川　（観客に向かって）皆さん、応援本当にどうもありがとう！

会場・歓声

小川　言い訳はじゃないけどよ、最初の足固め、**足極められたときに足が折れたよ**。

突然の告白に観客から「えぇ〜!!」と驚きの声が上がる

小川　（赤コーナーにいる吉田に向けて）吉田ぁ！

一瞬間が空き、会場が静まる

小川　**オマエ……、これから頑張れよ！**

まさかの小川からのエールに対して、観客は歓声＆拍手！

吉田　（歩み寄って小川に握手を求める）

小川&吉田　抱き合ってお互いを讃える

因縁を超えた二人の和解劇に観客は大歓声＆拍手喝采!!

小川　ホントはよぉ、オマエともっとやりたかったけどよ、1分1秒をな、大事にしたかったけどさ、オレの足首が保たなかったよ。ゴメン！

会場・拍手

小川　（赤コーナに戻った吉田を指さしながら）**吉田！　オレからの最後の頼みだ！　一緒にハッスルやってくんねーか!?**

会場・大歓声！

吉田　（笑顔で首を振る）

会場・「ヨシダ」コールで吉田は断れない雰囲気に

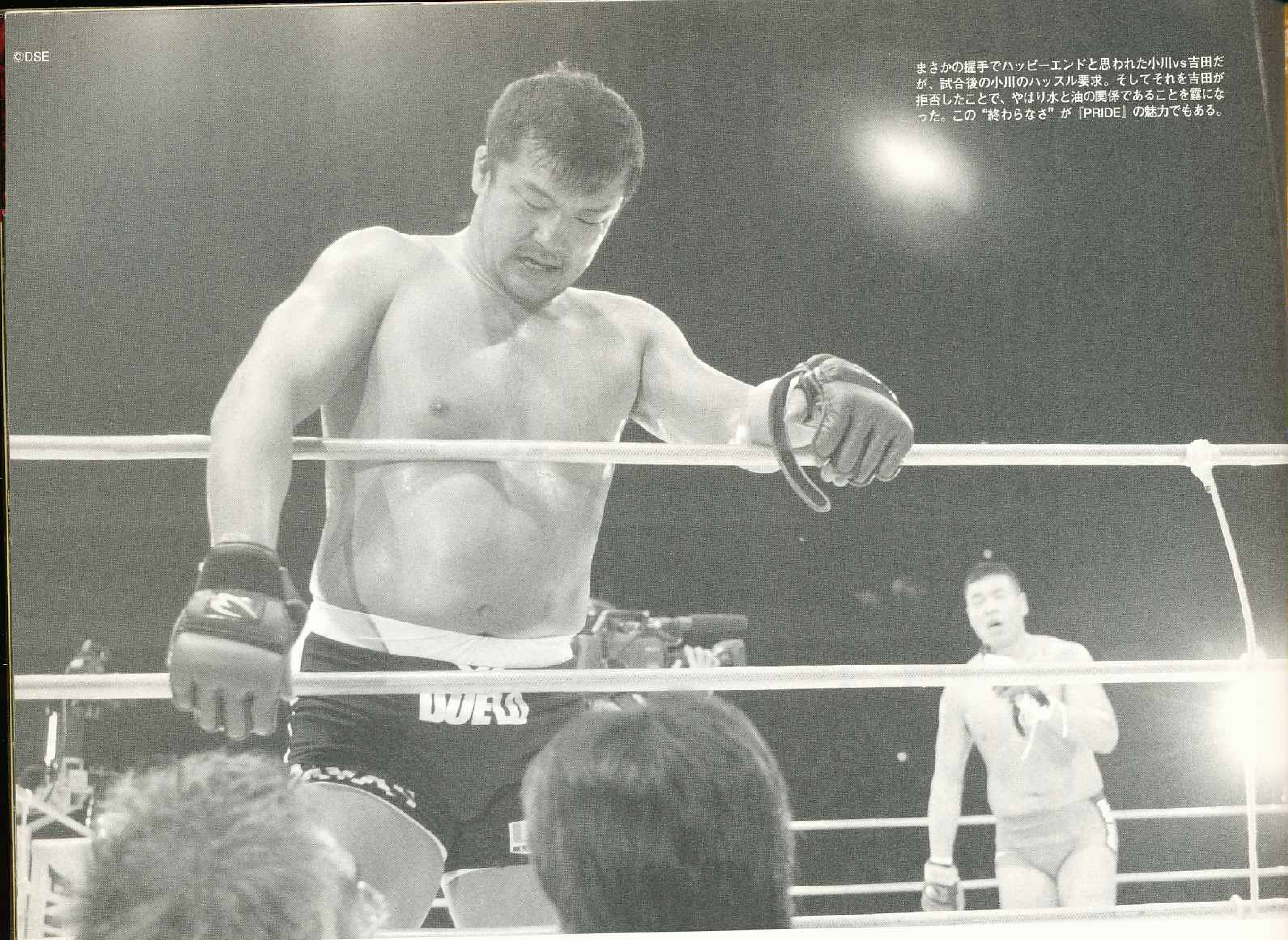
小川　吉田、おい！　負けたオレが言うのもなんだけどよ、おぶってくれよ。

小川のさらなる仰天要求に対して観客は「おぉ〜？」

小川　オレ、足使えないから**おぶってくれよ？**

吉田　（苦笑いしてうつむく）

小川　オマエ、度胸の広さを見せてくれよ、な!?（と言ってケンケンしながら吉田に向かってリング中央に向かう）



©DSE

まさかの握手でハッピーエンドと思われた小川vs吉田だが、試合後の小川のハッスル要求。そしてそれを吉田が拒否したことで、やはり水と油の関係であることを露になった。この“終わらなさ”が『PRIDE』の魅力でもある。

って握手して抱き合ってさ。これほど、感極まるドラマはなかったよ。映画のようにエンドマークが出るなら、あそこで終わってほしかった。

玉袋　そこを小川劇場でもう一つひっくり返しちゃうんだから。『PRIDE』はただじゃ終わらねえんだよな。

博士　あれは小川がやりすぎなのか、受け止めない吉田が悪いのか、いろいろ意見はあるだろうけど……。

――僕なんかは、あのマイクからが〝第2の闘い〟みたいな感じで、凄く興奮しましたけどね。

玉袋　「まだ始まってもねぇよ」ってことになるもんな。

――抱き合って終わりなら最高のハッピーエンドなのに、あえてそうせずに、もう一つの闘いが始まったわけですからね。

博士　でも、ある程度、小川が負けてもマイクをやるのは、ヒョードル戦もあるから、想定内ではあるけど、『PRIDE』のリングでは、敗者がマイクを持つっていうのは違和感残るよねぇ。

玉袋　吉田が「空気読めてないよ」って批判があったけど、負けてマイク握っている小川こそが空気読めてないって話もあるしね。

博士　マイク待ちでリングに残された勝者の絵って視野にあるもんねぇ。やっぱり試合で勝ってからマイクでないとね。

――だから、あれは小川が仕掛けた罠だったんでしょうね。吉田からしたら「ハメられた！」っていう部分もあっただろうし。

玉袋　そうだよな。あの小川にハメられたって感じだよな。

博士　なんか本当にヒールだったもんね、勝った吉田が。あれは、むしろ気の毒だったよ。吉田が「僕は柔道が大好きです」っ

小川　会場・「ヨシダ」コール　おい！　おい!!（指をグルグルまわして会場を指しながら）**この声が聞こえないのか？　この声が!!　え？**　足使えないんだ、もう。

吉田　（意を決したようにマイクを握って）えー、本当にいい勝負ができたので、それに対して、ありがとうございます（と小川に向かってチョコンと頭を下げる）。**ハッスルは、あの〜、ボクはまだ格闘家として闘っていきたいので、引退したときにやらしていただきたいな、というふうに思います（と笑いながら断る）**。

観客・大ブーイング（一部からは拍手）

小川　（一瞬固まって、吉田を見つめたまま）わかったよ。わかったよ。（気を取り直して会場を見渡して）よし！　みんな!!　ふがいないオレだけどさ、起立してくれよ!!

観客は歓声の声を上げながら、ほぼ全員起立！

吉田　（赤コーナーで黙って小川に背中を向ける）

小川　オレ、今日転んだけどよ、必ず起きあがってくるからな！

会場・大歓声＆拍手喝采!!

小川　ホント、負けてハッスル申し訳ない！　つきあってください!!　オレはまた起きるぞーッ!!

会場・大歓声！

小川＆観客　**3、2、1、ハッスル！　ハッスル!!**

会場・拍手！

小川　スイマセン、あともう一回やらせてくださ い！　**橋本真也が……今年、亡くなりました。橋本真也はトルネードハッスルをやっていました。最後はそれで締めさせてください！　お願いします!!**

リングサイドで、かずみ前夫人と子どもたちが笑顔を見せる

小川　トルネードハッスルですよ。恥ずかしがらずにやってください！

観客・笑い

小川　**橋本、オマエに勝ち星をあげれなかったけど、オレは、オレはオマエに『ありがとう』と言いたい！　ありがとー!!**

小川＆観客　**3、2、1、（腰を回しながら）トルネードハッスル!!**

会場・大歓声＆拍手喝采！

小川　（大「オガワ」コールと拍手が鳴り響く中、足を引き摺りながら、リングをあとにする）

吉田　（代わってマイクを握る）えー、まさか小川先輩と闘うことになるとは思っていませんでした。ここで闘ったからといって、決して二人は柔道が嫌いなわけではありません。（ここで小川が引き上げる花道で、ハッスルポーズ。観客の歓声が吉田のマイクを遮る。小川退場）あの

もう「水と油」って言葉はなくなるね。「小川と吉田」のほうが伝わるよ！（玉袋）

て言ったとき、「俺はそういう吉田が嫌いだ！」っていうヤジが飛んだんだけど、小川を応援していた俺たちですら、とてもそのヤジには乗れなかったね。負けたけど小川こそがヒーローだって空気はいかがなものか。翌日のスポーツ紙を含めてね。

玉袋　そうなると、実際の勝負の意味はどうなっちゃうんだっていうのも、あるもんな。

博士　真剣勝負だからこそ、ヘミングウェイ風に「勝者には何もやるな」って空気は、格闘技見る観客の精神性の美徳じゃない。「勝利以外の栄光はすべて敗者にくれてやれ」っていうのは美風はあるわけじゃない。二人が握手したときのドラマの感極まりがあったからこそ、その後の吉田がヒールになって、ましてやブーイングを浴びるのはいきすぎだよ。

――ただ、吉田もあそこでハッスルをやらないことで、その場ではヒールになったかもしれないですけど、逆に鈍い光を放った吉田は魅力的でしたけどね。

玉袋　うん、あれはよかったと思うよ。あの空気でやらなかった吉田っていうのは凄えよ。よく我慢したよな。普通、やっちゃうって。

博士　終わってみれば、男を上げた部分があるね。

――あそこでハッスルやっちゃってたら、ノー天気なハッピーエンドで終わってしまって、その場は盛り上がるかもしれないですけど、二人の闘いの価値すら緩いものにしかねないですからね。

博士　そうしたら物語はそこで終わりだからね。そうじゃなくて、ピリオドもなく、この永遠に続く感じが『PRIDE』なんだろうね。

玉袋　しかもさ、勝った吉田が小川劇場でわり食っちゃったあと、最後の大締めで髙田本部長が間髪入れずに吉田をフォローしてもう一丁あげたじゃない。あれは俺、統括本部長すげえなって思ったよ。

博士　最後の挨拶なんて、いま選挙に出馬したら絶対当選すると思ったよね（笑）いまあそこまでマイクでフォローできる人いないよ。

――「勝者、吉田秀彦！」って言って、そして「お前は男だ！」があそこで出ましたからね（笑）。

玉袋　やっぱり本部長は一番最初にふんどし締めて、最後もまた締めるってとこがよかったね（笑）

――そのマイクの話で言うと、敗れても試合後にああいう掟破りを企んでいた小川っていうのは、ある意味、猪木イズムの体現者ですよね。

玉袋　ありゃあ猪木イズムだよ。

――「夢のオールスター戦」で「馬場さん、次は一騎打ちやりましょう」っていう台詞を用意していて、馬場さんをハメたのと一緒ですもんね。

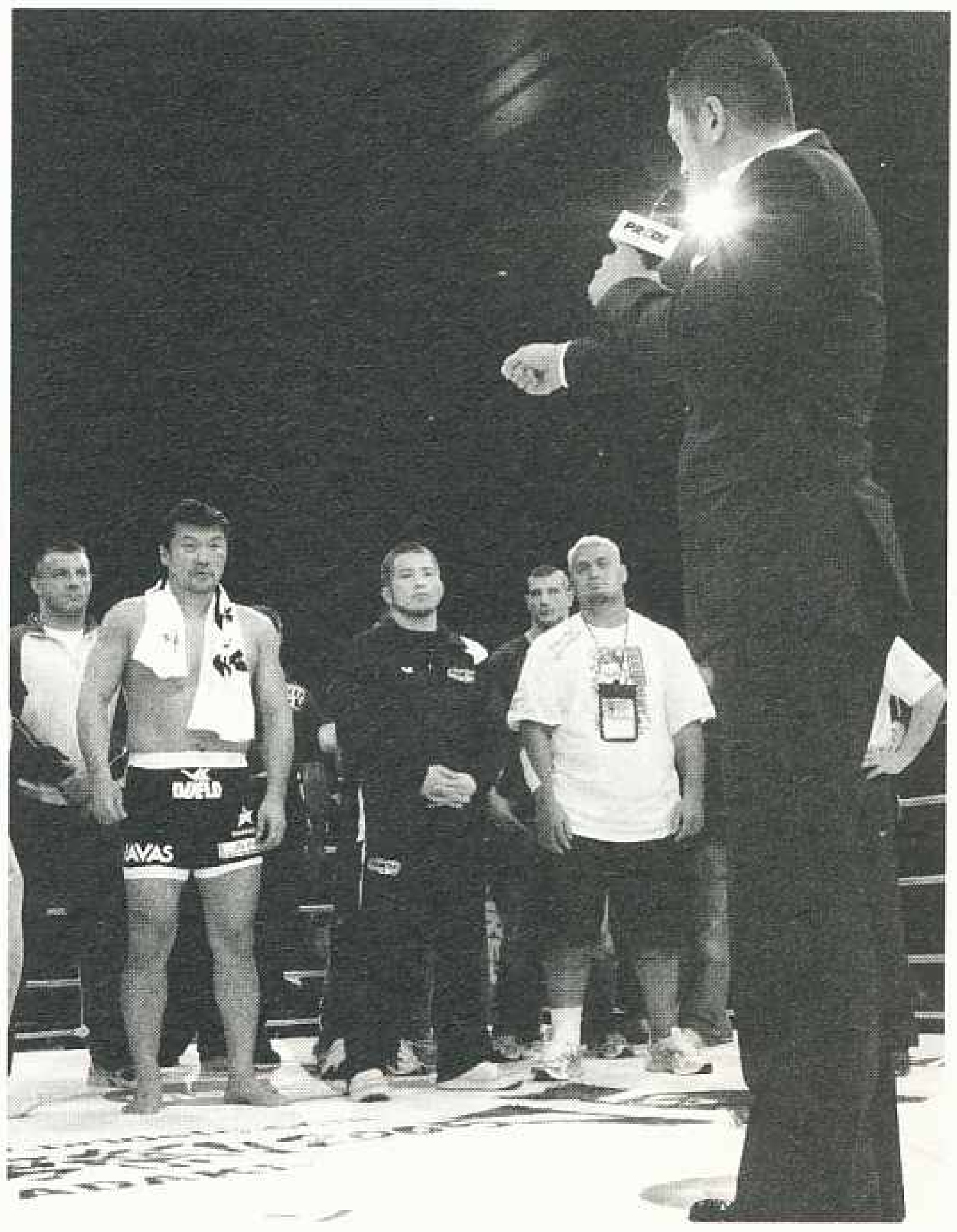
玉袋　それで馬場に「よし、やろう」って言わせたんだもんな。あんときの馬場の顔なんてなかったぜ。「はぁ？」っつってさ。猪木なんかもう完全にジェット・シンと組んじゃってあの試合作ってるんだもんな。馬場は「許さねえ！」っていうよ、あれは。

博士　客前だから馬場も「よし、やろう」って言わざるを得なかったんだろうしね。そう考えると、馬場すらも言ってしまう場面で、吉田は頑なに言わなかったんだから、値打ちがあるよね。

玉袋　だから馬場と猪木の関係より、もっと根深くて凄かったってことだよな。

――そういうことですよね。

玉袋　馬場と猪木はやっぱり、ある部分エンターテインメントの上で成り立ってる関係だったけどさ、小川と吉田は違ったってことだもん。最後の最後にやっぱり水と油



「ハッスル拒否」により、勝ったにもかかわらずヒールとなった小川をすぐさま救ったのは本部長のマイク。その仕切りっぷり、ふんどし暴れ太鼓同様見事なものだった。

～、二人とも柔道があったからこそ、このPRIDEのリングに上がれたと思っています。**えーそういうことで、柔道が大好きです！**

会場・歓声

吉田　ボクがみなさんに伝えられることといったら、このリングで闘って伝えられることしかありません。来年また頑張りますので、みなさん、応援のほど、よろしくお願いします！（観客の拍手を浴びながらリングを降りて、リングサイドの柔道家・古賀稔彦や北島康介らと握手）

出場選手ならびに会場を訪れていた格闘家がリングに呼び込まれる

髙田　（リングに上がりマイクを握り）まずはPRIDEのファンの皆さんに選手全員でお礼をさせてください。皆さん2005年、この一年間、PRIDEのために、ファイターのために熱い熱いご声援本当にありがとうございました（と客席に向かってリング上に集まった選手全員を従えて一礼）。いいですか？　締めの挨拶の前に、ちょっと私的なことなんですが、一つ言わせてください。このプレッシャーの前に、よくあれだけ、激しい、それも日本人同士で因縁を超えて、壮絶な闘いをみせてくれた小川直也、ありがとう。**そして勝者、吉田秀彦、オマエ、やっぱり男の中の男だよ！**

吉田　（苦笑い）

会場・歓声！

髙田　たしかに小川選手がんばりました。でも、PRIDEの誇りを名乗り、勝つために吉田秀彦の生き様を見せてくれた。これにまず、みんな、拍手をお願いします！

会場・拍手！

みなさん！　来年、大事な大事な日本人の砦になるのは、この男です!!（といって吉田と指さす）ヘビー級だ。頼むよ！　**ヒョードルとやってよ!!**

吉田　（苦笑い）

会場・拍手＆歓声！

髙田　みんな見たいんだからね。そうでしょう。

会場・歓声！

吉田　（笑いながら、桜庭を指さして、切り抜けようとする）

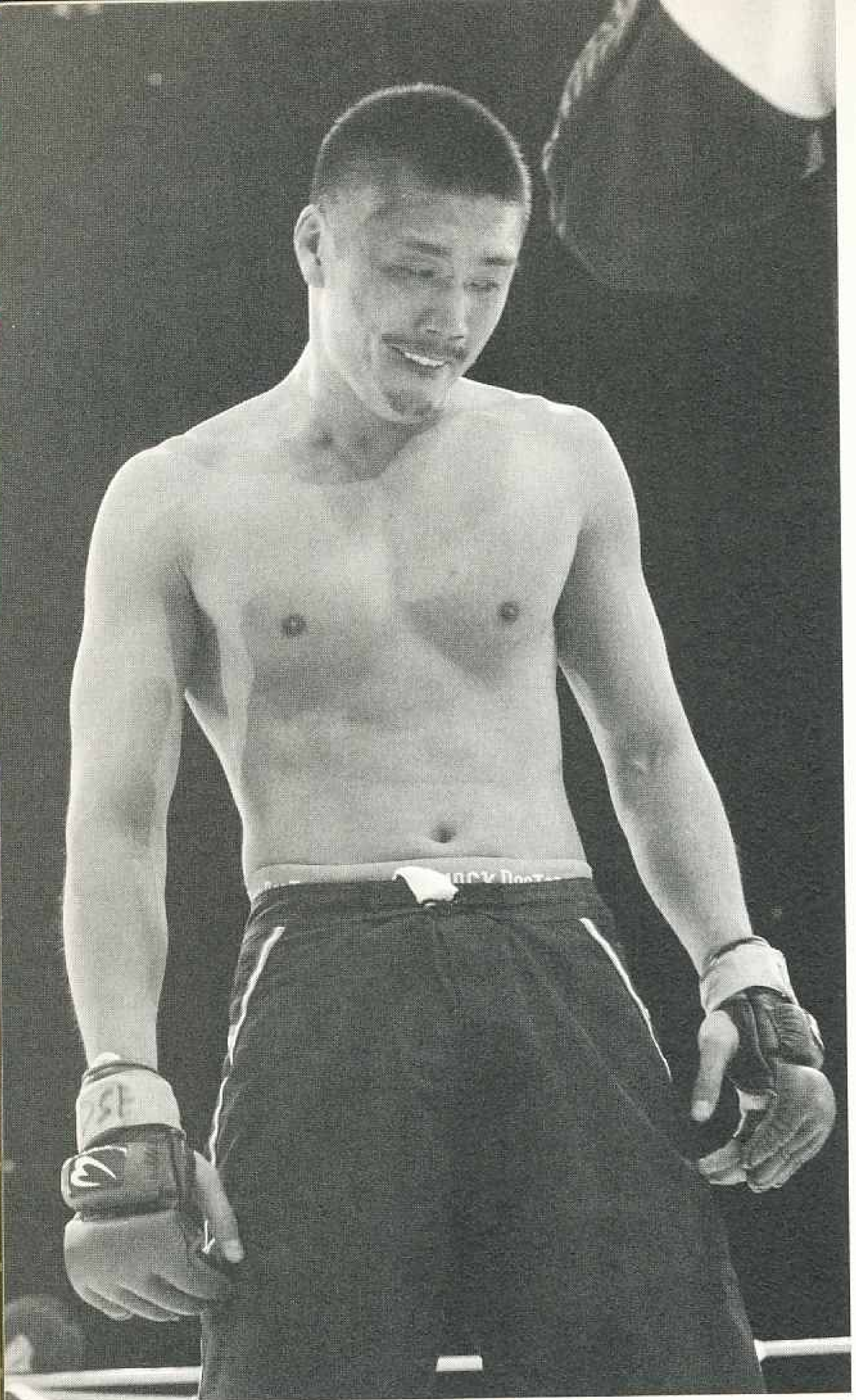
桜庭　指さされた桜庭はニコニコしながら知らんぷり

髙田　（桜庭向かって）**サク！　ショーグンとやってよ!!**（とまたしても、いきなりチャンピオンとの対戦を迫る）

観客「オー」と期待の声を上げる

桜庭　（隣にいた、シュート・ボクセでの修行を通じて仲のいいショーグンと目を合わせて笑う）

髙田　てな具合で、来年も皆さんの期待に応えるように、**相も変わらず、世界最上級の闘いを見せつけます！　世界最高峰の舞台で、**



試合前は物議を醸したものの、試合当日は思いのほか、暖かい声援で迎えられた金子賢。これで彼の挑戦は終わりなのか、それとも始まってもいないのか。それは金子賢本人が決めることだろう。

だったんだってね。もう「水と油」って言葉がなくなるかもしれないよ。これからは「吉田と小川」っていうほうが伝わるね。これ辞書に載せるべきだよ。

博士　永遠に交わらない、分子構造として化学の教科書に載せよう（笑）。だからプロレスラーとしての部分で俺は今後の小川に期待するし、もっと大きくなってもらいたい。でも、『PRIDE』は、もうプロレスとは分離して、すでに独立してるからね。だからなんか未だに「プロレス技で勝ってほしい」とか言ってる人たちの話聞くと、なんか現実乖離も甚だしくて、何を見てるんだろうと思うよな。もはやこの現実からすると。

——そういうのはアレクがマルコ・ファスに勝った5、6年前の話ですよね。

博士　もうそういう次元じゃないじゃない。DSEと高田本部長が真ん中にいてさ、『PRIDE』と『ハッスル』という二つの両極でやってるけど、混ざり合ってどちらかが吸収されるような世界じゃないじゃない。

玉袋　ドキュメンタリーとファンタジーと別々になってしまった。

博士　もうそこを同時に語るのはできねえなって。

玉袋　オーちゃんが勝ってたらそれはできたよ。でも負けたからそれができなくなっちゃったな。しかし、あの試合でいくらでも語れるねぇ。なぜ小川は1月11日に『笑っていいとも！』のテレフォンショッキングをブッキングしていたのか？　なんていうのも気になるよ。

博士　そりゃ、吉田に勝って出たかっただろうな。

玉袋　そして小川が次につなげた女優と本当に友だちなのか？

博士　知らねえょ！

——じゃあ、続きましては物議を醸した金子賢さんの試合ですけど。

博士　金子賢も想像以上だったね。俺は金子賢を再評価したっていうか、なるほどなって思った。客がまったくブーイングしなかったっていうことも含めて。

浅草キッド



金子賢は芸能界より格闘技のほうが魅力があることを体現したよ（博士）

——いやあ、あれは意外でしたね。

博士　意外だった。やっぱり金子賢って、もともとハングリーな人じゃないわけじゃない。役者として成功しているし、29歳の年齢もあるわけだから、そのままそこにいればいいわけだからさ。

玉袋　売れてなかったわけじゃねぇしな。

博士　だからヒクソン・グレイシーやアンディ・フグ、魔裟斗とか須藤元気が「格闘技やめてタレントになりたい」って言ってるのは、ガッカリするじゃん。俺らからしたら「俳優よりもあんたのほうがよっぽど凄いよ」って思うわけじゃん。芸能界にいる立場にしたって、どれだけ、貴方は選ばれた仕事してんのって思うじゃん。でも、金子賢はその逆じゃない。だから最初は「格闘技をバカにするな」って声も大きかったけど、じつは、物凄く格闘技を崇めているわけじゃない（笑）。

玉袋　だって、『ジャンクSPORTS』でも、なにもしゃべってないんだから。ニコニコしてるだけで金は入ってきたわけだし。

——ハハハ！　そうですよね（笑）。

博士　しかも、司会の3人で一人だけ座ってるし（笑）。

玉袋　そんな楽な仕事あるかって。ナイトクライビングしてさ、女優と浮き名流したりしたほうが楽しいんだから。それなのに、あえて、すべてを捨てて、そうじゃねぇところに行ってんだもんな。

博士　「芸能界よりも格闘技のほうが魅力がある」ってことを、本人があそこに上がることで体現してるわけじゃない。そこを会場で見たときに気付かされたというか、その事実に「おっ！」って心を持っていかれた感じはするな。

——実際、春から芸能の仕事をしないで練習漬けだったおかげで、12月ぐらいは本当に食うに困るぐらいお金がなかったらしいですからね。

博士　お金の問題だったら俳優やればいいんだから。だからエンターテインメント以上の、魂つかまれる感じがそこにあるんだよな。人にそう思わせるところがあったじゃない。他人事じゃないって言うか。それがボビーじゃまったく思わないけどね。

——そうですよね（笑）。

博士　ボビーは、どこか強制労働の一環って感じがする（笑）。好きでやってるんじゃなくて、あの仕事やらないと解放してやらねえぞって、やらされている感があるじゃない（笑）。

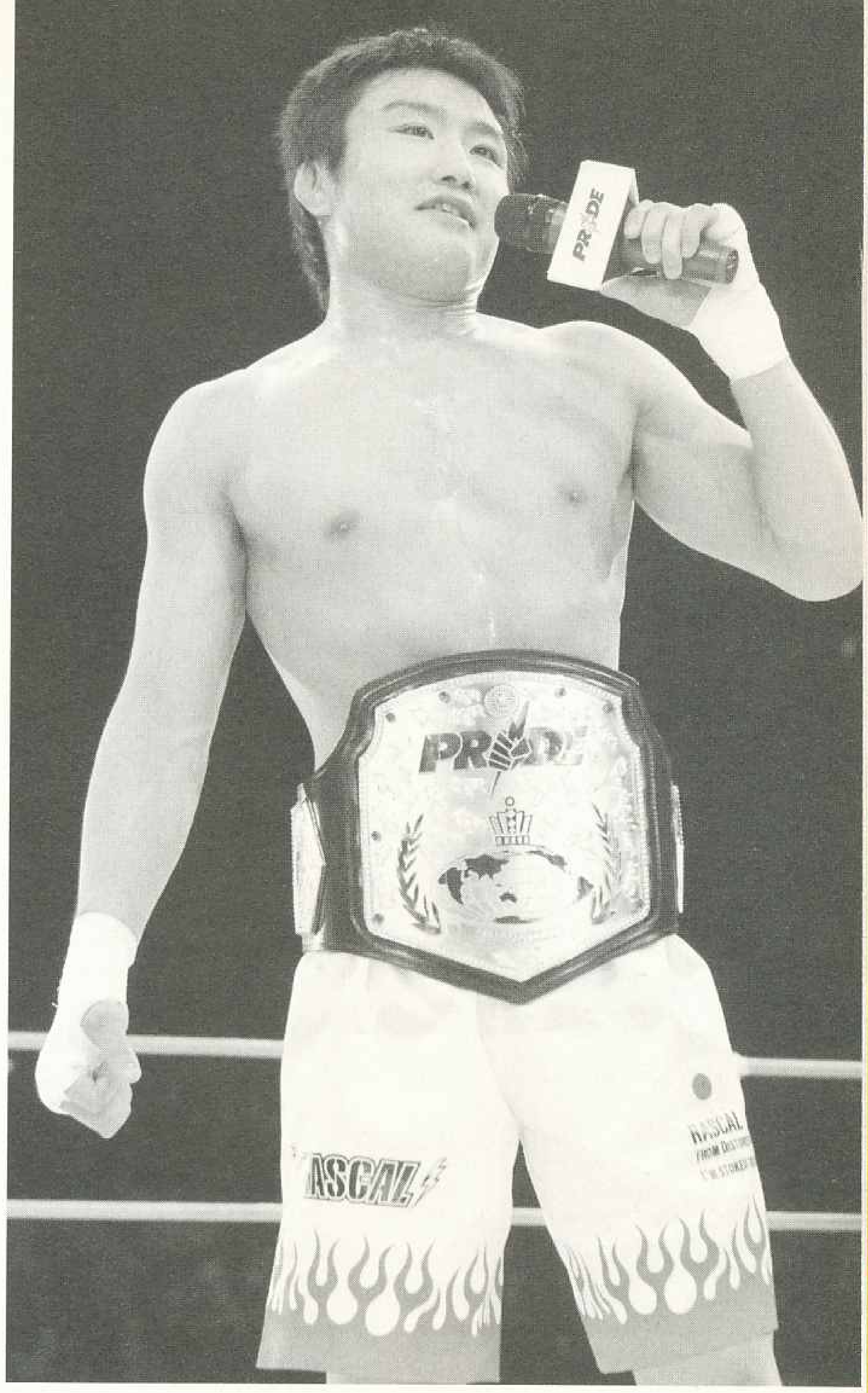
——なんか若手芸人が無理矢理、無銭旅行させられる『電波少年』と似たものを感じますよね（笑）。

玉袋　それはあるなぁ（笑）。

博士　しかも、曙も、そういうところあるでしょ。

玉袋　あれも『グラジエーター』の世界があるな（笑）。

博士　皇帝サダハルンバ3世に無理矢理、コロシアムに連れてこられたみたいな（笑）。



前田日明がいみじくも言ってたけど、メンタリティ的に引っかかるものがあるよね。

――その点、金子賢は、悲壮感がボビーとは違いましたね。

博士　そりゃあ恵まれたランクにいる俳優だったのがさ、29歳になってわざわざ格闘家になるなんて、本人以外は全員やめろ！っていうよ。

――あえて厳しい道にチャレンジするというか。

博士　そこで、今年の大晦日は転進が噂になっているのが、押尾学だよ。事務所も辞めて、芸能界を干されてくるのは確実でしょ。

玉袋　だから来年は押尾学とやればいいよ。だって押尾語録では自分で「ボブ・サップに勝てる」って言ってるんだからさ。

博士　週刊誌の一番ひどい駄洒落大賞の「押尾学の押しを学ぶ」ってことだよ。女だけでなく格闘技も。押尾学が出て、リングサイドに矢田亜希子がきたら凄いことになるね。

玉袋　ベタベタだけどいいねえ～。

博士　それで『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』で曙vs猫ひろしだな。こうなってくるとどっち見ようかと迷っちゃうよ。

――ダハハハハ！　曙vs猫ひろし！　なんか『オールスター感謝祭』で見せたスタミナとすばしっこさを考えると、逃げ続けて勝ちかねないですよね（笑）。

五味の試合を岩手の成人式でサスケに絡んだ連中に見せてやりてぇよ（玉袋）

玉袋　「昇龍拳」が決まったらどうするんだって話だよな（笑）。

博士　まぁ、二つとも、『ハッスル』なら冗談とは限らないよねぇ。

玉袋　やりかねねぇよ（笑）。

――話は脱線するので、五味vsマッハにいきましょうか。

玉袋　あれは清々しいよね。スカっとした。

博士　五味は一年間を通してホントに凄いねぇ。

玉袋　すげぇよ。なんか全国青少年の希望だね。岩手の成人式でサスケに絡んだ連中に見せてやりたいよ。サスケもある意味「男祭り」だったけど。サスケvs新成人も大晦日でやってほしいな。今年はそれも決定！

博士　成人式の前倒しを大晦日に（笑）

――ダハハハ！　サスケvs複数もありかもしれない（笑）。

玉袋　そんなことより、五味のこと話さないと。最後の最後までコケなかったからな。なんか人が成功してってさ、上がってく瞬間を見れるって言うのはうれしいよ。

博士　五味って〝装飾物〟が少ない人じゃない。しゃべりがうまいとか、人間的魅力とかじゃなくて、本当に「強い」ってシンプルな芯だけで上がった人の魅力っていうか。俺はその部分で精神的にひれ伏するっていうか。そこが凄いよね。

――べつに幻想があったわけじゃないし。

博士　そう。そこが凄い。だってタイガー・ウッズとかに俺はスゲェとは思うけど、精神的にひれ伏さないもんな。シャラポワとかさぁ。なんともでしょ。でも五味には敵わないな。

玉袋　本当にね、こんなベタなたとえはないけどね、〝五味〟っていう名前をね、味で分解していくとね、五つの味があるってことを今日考えてたんだけどね、素晴らしいなとね。殴る、蹴る、極める、勝つ……。

博士　一つ足らないよ！

玉袋　とにかく五つの味があると思ったわけよ。その五つの味を本当に堪能させてもらったね。まだ負けの味は知らないけどね。

――うまい！（笑）。

玉袋　でも、これからどうすんだろう。五味もここまで登りつめちゃったからな。

博士　そりゃあ、シウバとやって、ＫＩＤとやるしかないでしょう！

玉袋　そうだよな。ＫＩＤとやっぱりやんなきゃだめだよ。どんなしがらみがあろうが、これはやらせなきゃだめだ。大人の政治の事情で闘わせないっていうのはできないと思うよ。

――日本中が注目するぐらいでやらせたいですよね。どうせなら。

博士　っていうか、榊原代表は五味に来年の大晦日のメインをやらせたいって言ってるぐらいだからね。

玉袋　それじゃあ、もう第三者のリングでやらせるしかないんじゃないの？　こうなったら。とにかくうまく雑誌とかが二人を焚き付けてって、闘志をこう闘わせるような方向に持ってってほしいな。世論もそうなってるってことをご理解いただきたい。

博士　国会の証人喚問みたいなシステムがあればいいのにね。「拒否権がない」ってことでやってほしいよ（笑）

――五味vsＫＩＤが格闘技界最高の黄金カードになりつつありますよね。

博士　もうそれくらいの価値があるでしょう。だから小川vs吉田が終わってさ、「もう21世紀に見たいものはない」ってなるかと思ったんだけど、新たに大晦日に五味vsＫＩＤって夢のカードが生まれたね。このさぁ、『ＰＲＩＤＥ』の終わりのなさってい

いうのが奇跡だよね。終わっても、また始まってるってなるじゃん。いいよね。

玉袋　去年なんかもヒョードルvsミルコでヒョードルが勝って「最強」が決まったけど、マーク・ハント見てると、「世界にまだ強い人はいるはずだ」って思うしね。

博士　だって、俺、マーク・ハントの元マネージャーと付き合いがあったんだけどさ、「本当に練習しないんですよ」って言ってたからね。あの強さは、虎やライオンが練習しないのと同じだよな（笑）。

玉袋　猛獣は、ただ生きてるだけだもんな。

博士　だからそういう種もいるんだろうなって。ピーター・ジャクソンも同じニュージーランドならキングコングとマーク・ハントを闘わせるべきだった（笑）。

玉袋　そう考えると、マーク・ハントが練習したらどんなふうになるのかって。

博士　それでそのマーク・ハントをニュージーランドに帰さないとかいう環境において、集中練習させたらどうなるだろうって。そういうマーク・ハントみたいな人が世の中にいるんだって。

玉袋　マーク・ハントってあんまり掘り下げてないからいろいろ聞きたいよね。これで「兄は俺より10倍強い」とか言い出したらどうするんだよ。

博士　親戚じゃ俺が一番弱いとかね。

玉袋　ありえるぜ。ハイキックが当たってるのに倒れないから、ミルコが途中であきらめてたもん。あれ、レントゲンとったら骸骨の厚み、骨密度ってこ〜〜んなに凄いと思うよ。

博士　あの〝耐震構造〟は凄いよ（笑）。どんな地震がきても揺れないね。

玉袋　揺れねぇな。鉄骨だらけだ！　ハントは次はヒョードルに照準を絞って煽ってくるんだろうけど、ヒョードルの氷の拳でも揺れなかったら凄いな。

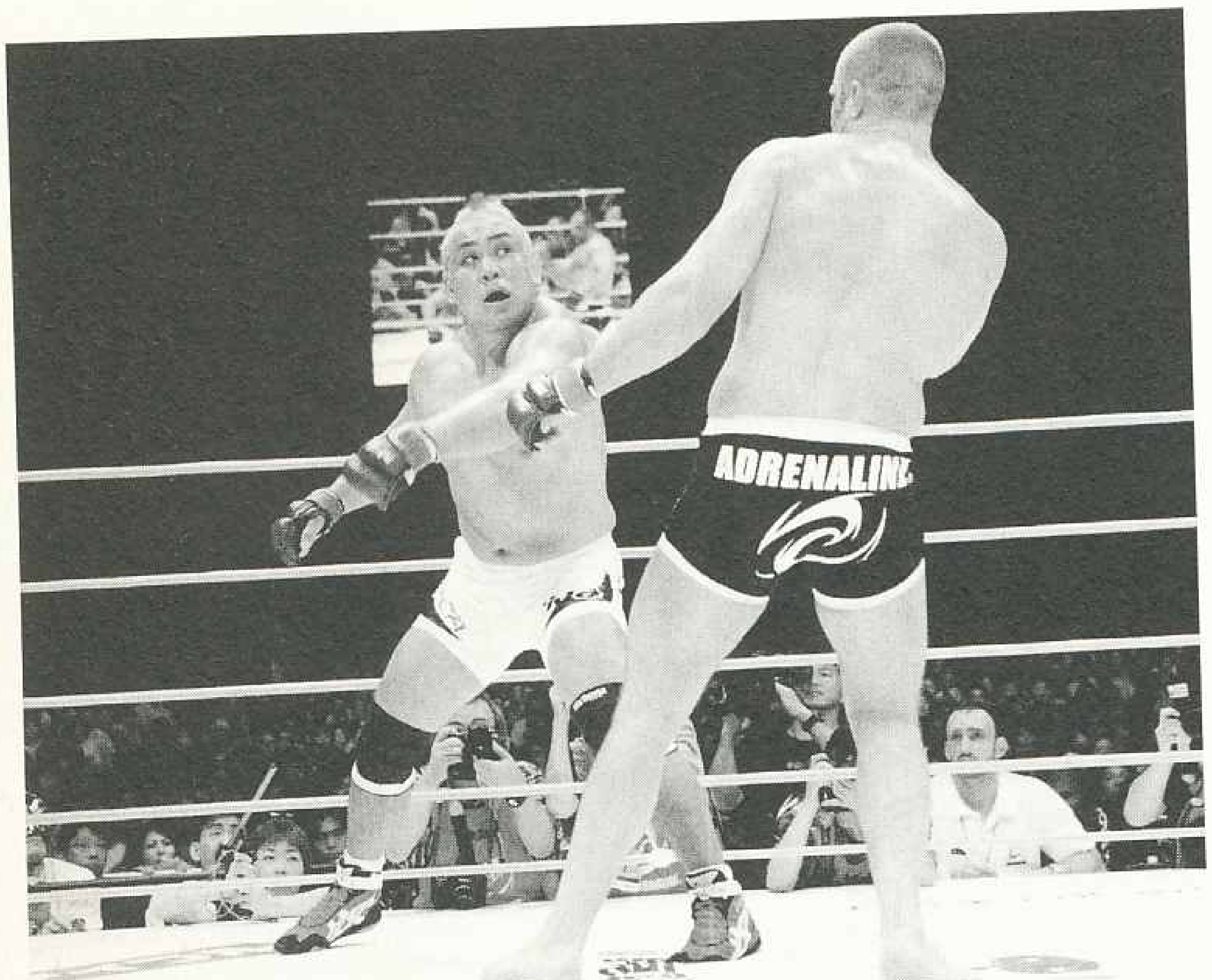
――ズールが秒殺されたパンチくらって平気な顔してたら、それこそ凄いですよね。

博士　今回のヒョードル見るとさ、「永田頑張ったんだな」って思ったよな。

――ダハハハ！　しょうがないじゃないかと（笑）。

玉袋　突然やれっていわれてリングに上がっただけで、よくやったよ。ギャラやれよ！

博士　だってヒョードルって、あの横井ですら「どう考えても勝てる気がしない」って言うくらいだからね。そんな相手でもハントは「いいよ」って言うんだろうな。



ヘビー（無差別）級GP開催が予定される今年、藤田和之待望論はますます高まりそう。やはり藤田が闘うべき相手は、サップやボクサー、レスナーではなく、このヒョードルだろう。



浅草キッド

マーク・ハントの強さはライオンや虎が練習しないのと同じだよ！（博士）

玉袋　たぶん寝ながらアーモンドピーナッツかなんか食べながらOKすると思うよ。あと俺、アレキサンダーっていうのも相当強いと思うんだよね。

――あれはヤバいですね。

玉袋　あれは本当に凄いことになってるよね。決勝なんてヒョードル兄弟の対決になる可能性も高いよな。

博士　弟が本当にアレキサンダー大王になって、長征を始める日も近いかも（笑）。ヒョードルって、もう一人、弟がいるんじゃない。こうなったら亀田三兄弟みたいにさ、ヒョードル三兄弟みたいに打ち出したほうがいいよ。

――だから三男もボクシングの選手でサンボもやってるっていう。

博士　ある意味ドル箱だよね。ヒョードルって最初地味なチャンピオンだったけど、あれだけ強かったら、もう客呼べるよ。

――今回も大人気でしたもんね。

玉袋　当初チャンピオンになったときって、客引いてたもん。それが今回バックステージで見たけどきれいな女性連れてさ、金持ちのロシア人みたいにゆうゆうと帰ってったね。

――そう考えると、今年のグランプリも凄いことになりそうですよね。ジョシュ・バーネットも本調子になって戻ってくるでしょうし。

玉袋　あと藤田もいよいよ出てくるんじゃないか？

――そういう噂もありますよね。

玉袋　ファイターだったら大晦日のあんなの見ててさ「俺が上がってないのはおかしい」って絶対思ってるよ。

博士　大晦日のフジで藤田vsヒョードルを流したけど、あれ見ると、やっぱ藤田の評価は改めて上がってるね。あのヒョードルを揺らしてオオオッ！ってさせたからな。

玉袋　だから、今年は藤田選手の巻き返しの年ってのを見たいよ。

博士　二年、棒に振ったぶんね。

――ある意味、タメが効いてるっていう。

玉袋　タメ、タメ。いいように熟成してるよね。あと、吉田もヘビー級転向っていう話もあるし。

博士　ヘビー級は日本人は小川しかいないって話があったけど、いたね。

玉袋　それだったらやっぱり藤田選手が出てきてくれるのが最高だな。まあ、今年もね2006年の『男祭り』が待ち遠しいと。

――ダハハハ、もういまから大晦日が待ち遠しい（笑）。

博士　どうしよう。あと350日ぐらいしかないからね。

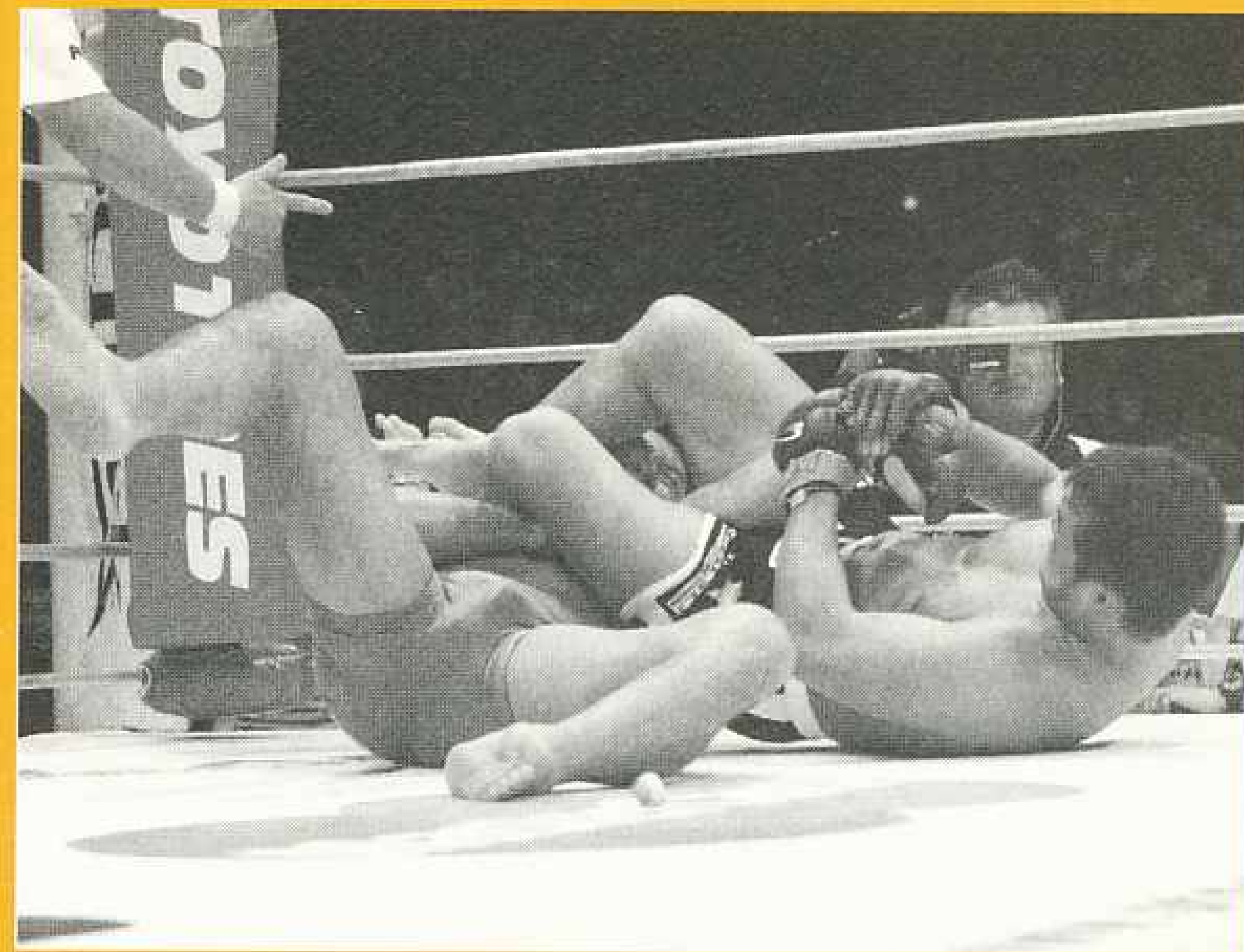
玉袋　もうドキドキしてきちゃったよ！

――まぁ、大晦日まで今年もいろいろありそうですからね。

玉袋　そりゃあ、あるでしょう。とにかく今年も仕事始めは『kamipro』で、仕事納めは「男祭り」これでいくのがベストだよ！ってことだな。

――はい、ありがとうございました！

【06年1月11日／都内・某所にて収録】



音楽家／文筆家

菊地成孔

「猪木の（ものすごい劣性）遺伝子」を宿した小川が提起したもの

ハッスルにもPRIDEにも出るたった二人のうち片方がとうとう現れなかったこの試合には、誰の目にも明らかな捏造が1点、誰もが気付かない捏造が1点ある。前者が「遺恨は消えた」というものであることは言うまでもない。もし「遺恨」が、陰湿な悪感情の交差。を含意するものなので有れば、消えたどころか更に深まったようにしか見えない。

試合後、吉田は、どういうわけだか（というか「先輩だから」だろうけれども）敗者なのに先にマイクを取ってしまった小川の発言をまったく受けず「今日は良い試合が出来て〈その点では〉有り難う御座います」等と言い、退場途中の小川は、吉田の「二人は柔道が大好きです」という、なんだか微妙に観客無視、協会重視。な感じの（どうかしら〜？）な台詞を言わんとする直前のタイミングでハッスルを決め、明らかな「マイク潰し」を行った。

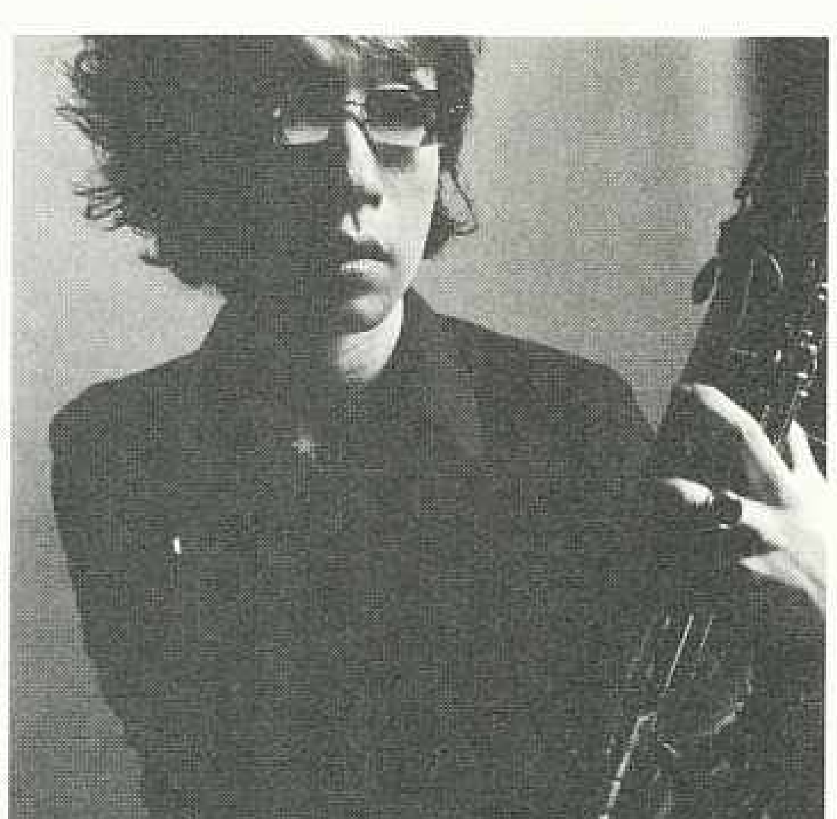
小川の目線が素になったのは「吉田。おまえこれからがんばれよ」という、吉田にとっては（ざけんな）としか言いようがない先輩風の上から目線だけだ。大学の体育会で仲が悪かった等という「遺恨」は、掃いて捨てるほどあるだろう。「遺恨」は新たに、更に深まったのである。素晴らしいことに。解説の高田は二つの人格の狭間で口数少なくなっていた。

一方後者は「小川のTKO負け」という裁定である。どうして誰もこの点に疑問を呈しないのか。VTRを見てみれば良い。小川は明らかに3回マットを叩いている。足でである。十字が極まった時に極められていない方の手までクラッチされているというのは希だ（そして、柔道家にとっては屈辱的だ。が、小川は柔道家ではないので、屈辱がないのである）、そしてプライドのオフィシャル・ルールブックによれば「●一本勝ち●ギブアップ、戦意喪失の意思表示は、口頭で行うかマットまたは相手の体を3回以上叩いた場合とする」とある。然からば小川の足タップは認められずTKOとなった。という説明だろう。しかしこれは、ケチを付けようと思えば付けられる話だ。両手が極められ、口が塞がれた選手はタップ出来ない。ということになる。どうなのよ？

タップする手を残してやらないと一本取れないってことになるんじゃない？　微妙じゃないかこれ。うーん。てか、小川は単に足バタバタさせただけなんじゃねえの？　ちっげーよ！　よく見て見ろよ！

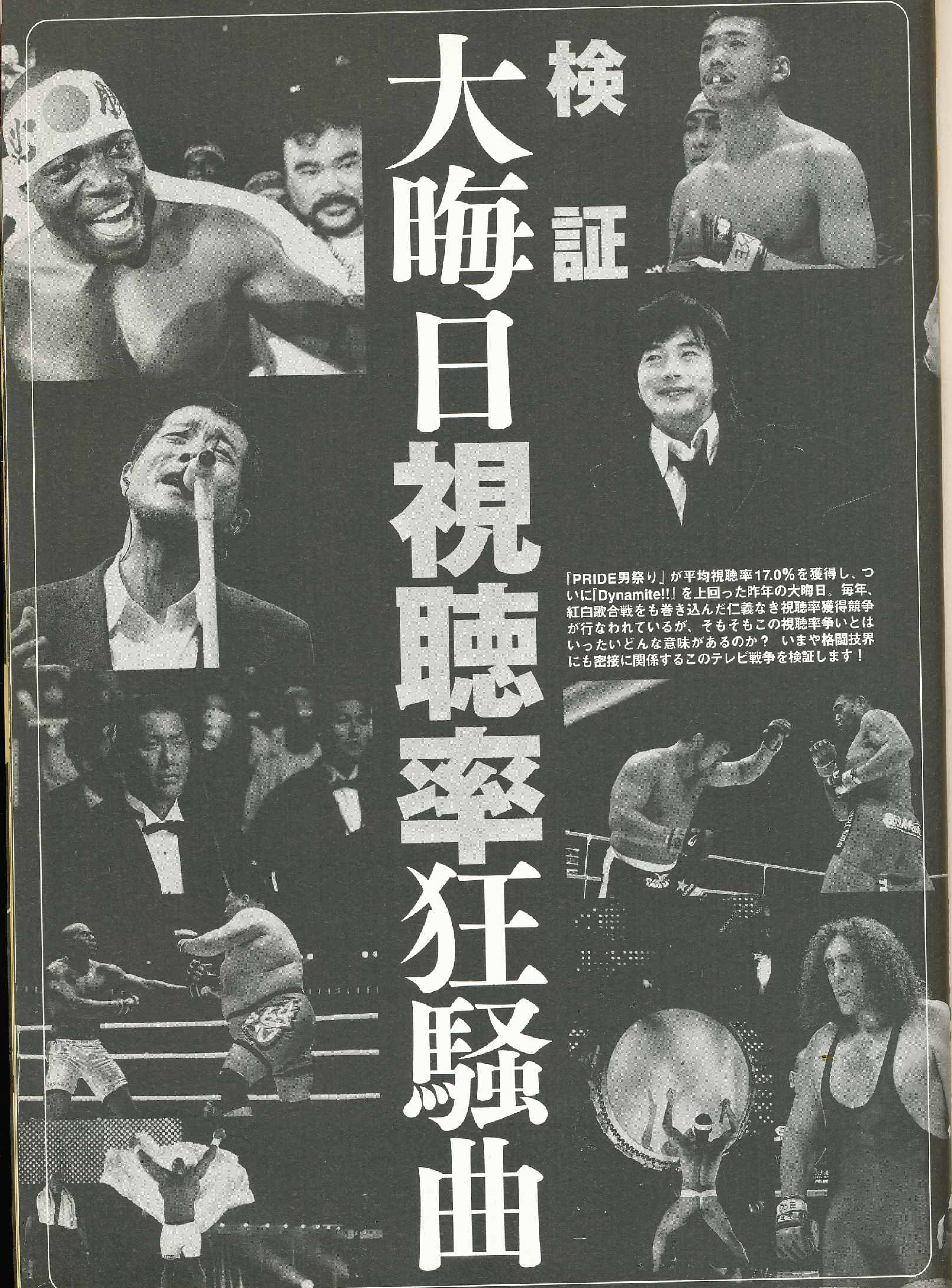
さてこの議論。どこか懐かしくはないだろうか？そう。反吐が出るほど懐かしい昭和純プロレスのルール議論、判定議論である。この議論を提起しただけでも、小川は歴としたプロレスラー代表の名に恥じない。「猪木の（ものすごい劣性）遺伝子」という、本誌で書くには苦笑的に過ぎる言葉が、この日の小川には宿りまくっていた。

問題は、「猪木の（ものすごおーい劣性）遺伝子」というか亡霊。みたいなものが、小川だけでなく、髙田や橋本にまで宿ってしまっていた事が露呈したようなこの試合が、はたしてPRIDEにとって、煙草の灰のようにもみ消してしまえるレヴェルのものなのかどうかだ。『ハッスル・マニア』の成功により、そしてこの、見所満載で複雑極まりなく「底が丸見えの底なし沼」な、ヒステリック／トランスの、ご丁寧に遺恨までちゃんと生んでくれた「猪木プロレス」の成立によって、DSEの自我の分裂は更に危険な領域に入ったと思う。とはいえ僕は、オーちゃんが「顔を作る」というプロレスの基礎がヘンテコに定着した、歪んだ温い顔のまま登場し、橋本の写真が大写しになっただけで一年分の涙が流れちゃいましたけど（吉田はやっと広告だらけの道衣を脱いだけれども、まだセコンドのシャツが残ってる。あれどうにかならないか本当に）。



1963年生まれ。音楽家／文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとしての活動を行う一方、精神分析学から音楽理論史まで、膨大な知識を駆使した異形の批評家として音楽、映画、料理、ファッション等に関する著作多数。今年、初の格闘技批評書「サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜」（白夜書房）を出版。東京大学、国立音楽大学非常勤講師（音楽理論史）。

検証 大晦日視聴率狂騒曲



『PRIDE男祭り』が平均視聴率17.0%を獲得し、ついに『Dynamite!!』を上回った昨年の大晦日。毎年、紅白歌合戦をも巻き込んだ仁義なき視聴率獲得競争が行なわれているが、そもそもこの視聴率争いとはいったいどんな意味があるのか？　いまや格闘技界にも密接に関係するこのテレビ戦争を検証します！

いま、明かされる衝撃の真実!

●高視聴率が取れたのは間違いなく小川vs吉田のおかげ

●「昨年より視聴率が下がった」というのは大間違い!

●金子vsベネットはじつはそれほどいい数字じゃなかった⁉

“CX(フジテレビ)の火薬庫” PRIDEチーフディレクター 佐藤大輔が語る 大晦日テレビ戦争の真実



視聴率のカラクリ教えます



3年目にしてついて『Dynamite!!』を平均視聴率で上回った『男祭り』。はたしてフジテレビはどのようにして高視聴率を獲得したのか？　PRIDE番組チーフ・ディレクター、佐藤大輔氏が視聴率戦争の真実を語ります！

聞き手／堀江ガンツ　design by さおとめの事務所

検証 大晦日視聴率狂騒曲

——今回は高視聴率おめでとうございます！

佐藤 ありがとうございます。でも、瞬間最高視聴率が金子賢さんの試合だったことで、巷では『男祭り』ならぬ『金子祭り』と言われてるみたいですけどね（笑）。

——ダハハハ！　金子祭り！（笑）。

佐藤 でも、細かい視聴率のデータを見たら、決して〝金子祭り〟じゃないことは一目瞭然だと思うんですよね。それも含めて、視聴率について誤った見方をしてる人が多いんで、今日はそのあたりをお話させていただきたいんですけど。

——では、〝CXの火薬庫〟が語る、毒舌視聴率講座ということでお願いします（笑）。

佐藤 まず前提としてお話させていただきたいのは、大晦日の『男祭り』については、フジテレビ的にはとんでもない低い視聴率でなければ、それほど高い数字じゃなくてもいいんですよ。

——え!?　それぐらいでいいんですか？

佐藤 いいんです！（キッパリ）。だからへんな話、今回は視聴率取りすぎです！

——取りすぎですか！

佐藤 僕らは紅白に勝とうなんて毛頭思ってませんから。だってホントに紅白に勝とうと思ってたら、こんな構成しちゃ駄目ですよね。K—1と協力して、紅白の視聴率が下がるようにもっていかないと。

——たとえば曙vsボビーと小川vs吉田みたいな試合は、少なくとも別々の時間にやるべきですよね。

佐藤 それに紅白に勝とうと思ったら、小川vs吉田級のカードを3つぐらい用意して、さらに話題性だけはある有名人の挑戦を3試合ぐらい用意しなきゃいけないだろうし、要するにそういった〝歪んだイベント〟にせざるを得なくなるんですよ。だからTBSさんは本気で「紅白に勝ちたい」とおっしゃってましたけど、僕らは全っっ然そんなことは思ってなくて。おそらく小川vs吉田戦を紅白がニュースのあいだにやってたら、瞬間的にNHKを上回っていたと思いますけど、あえてやりませんでしたよね。それをやらなかったのは、じつは会社からの事前に指令が来たんですけど。

——どんな指令ですか？

佐藤 「『Dynamite!!』をつぶしながら、23時までのプライムタイムの視聴率を上げなさい」と。

——ほぉ〜。

佐藤 それが『PRIDE』の利益にもなるし、我々としても大事な平均視聴率を取ることができると。

——だから今回は1部、2部、3部の時間帯の分け方が去年と違うんですよね。

佐藤 巧妙でしょ？（笑）。

——まさか2部が20時から23時までの3時間で、3部がそれ以降のたった40分間だとは思いませんよ（笑）。

佐藤 だからそれって直前まで誰にも言わず、トップシークレットだったんですよ。だって2部が23時までだって知られたら、小川vs吉田をその前にスタートするってわかっちゃうじゃないですか。でも、結果的に一番恐れていた曙vsボビー戦とかぶってしまった。これは完全に〝事故〟なんですよね。

——ぶつけたわけじゃないんですか。

佐藤 ぶつけたわけじゃないんですよ。試合順は当日まで伏せられてましたから、曙vsボビーが永ちゃん（矢沢永吉）のあと、セミ前だとわかったとき「やばい、ぶつかる！」と思いましたね。僕らとしては曙vsボビーをメインのKIDvs元気の前である23時スタートぐらいか、もしくは〝つかみ〟として21時台に来るんじゃないかと思ってたんです。

——じゃあ、小川vs吉田を22時半すぎにしたのは、曙vsボビーを避けるためでもあったと。

佐藤 そうなんです。でも、直前になってぶつかりそうだとわかった。それで放送前に関係各所に「ぶつかりますけど、いいですか？」って聞いてまわったんですよ。『男祭り』はフジテレビ的にも大きな番組ですから、制作の一存じゃ決められませんからね。そしたら、「いいですよ。23時まで『Dynamite!!』をつぶしながら、視聴率を取りましょう」と言われたんです。そういう意味で言うと、会社的な目標は十分達成できましたね。

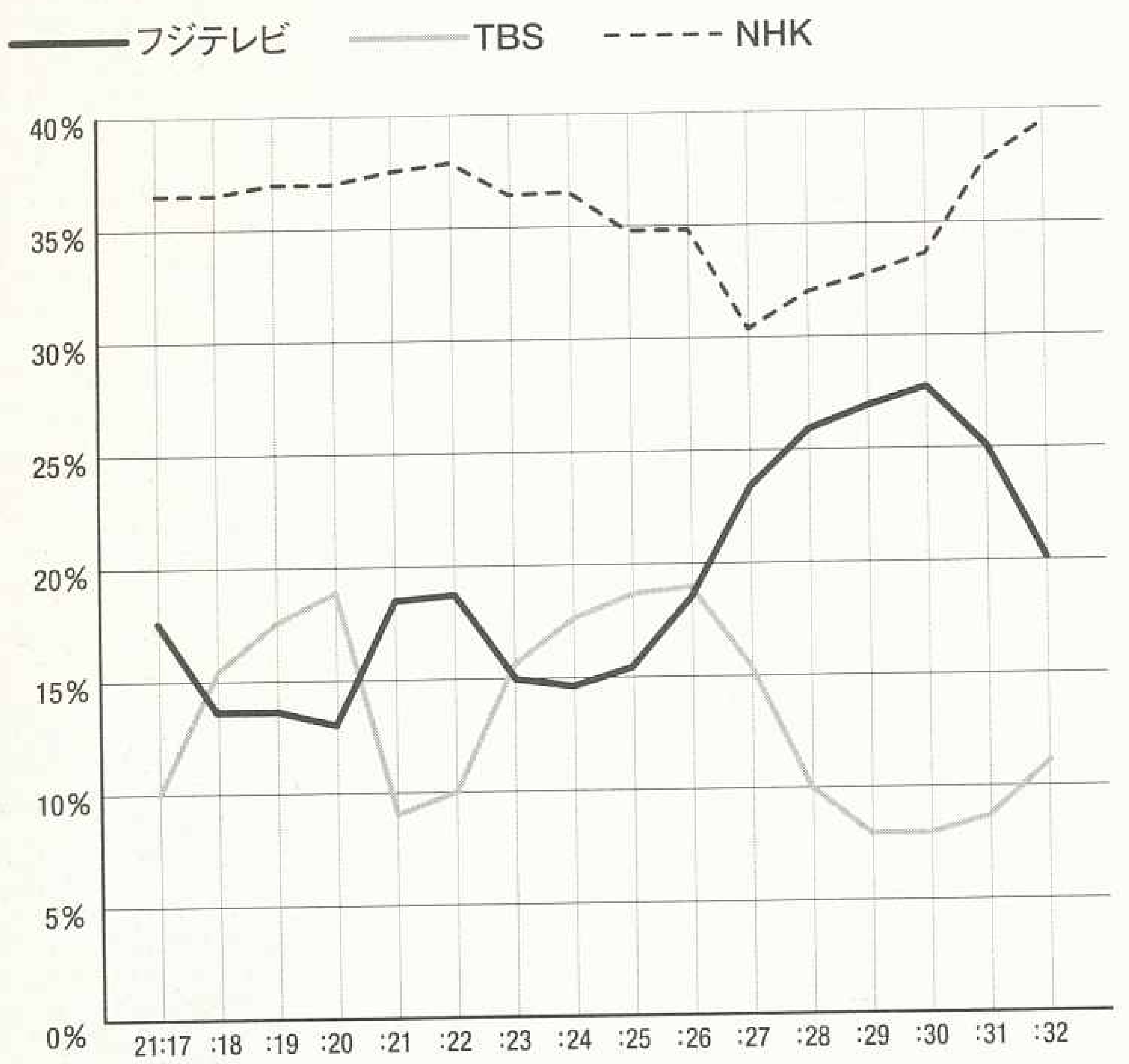
——そういうことだったんですか。

佐藤 だから、ホントに瞬間で紅白に勝とうと思ったら、小川vs吉田を9時15分にやってます。少なくとも30数パーセントいってたかもしれない。でも、そこで小川vs吉田をやっていたら、そこをピークにして、それ以降の視聴率をTBSにごっそり持っていかれていた可能性が高かったんです。僕らとしてはそれが怖かった。

——ああ、なるほど。

佐藤 でも、小川vs吉田が後ろのほうにあることで、視聴者は「いつ始まるんだろう」とザッピングしながらも『男祭り』をベースにして見てくれたと思うんです。この「ベースをウチに」というのが平均で『Dynamite!!』に勝つためには大事だったんですよ。

じつは高視聴率じゃなかった!?
金子賢vsベネット、毎分視聴率推移グラフ

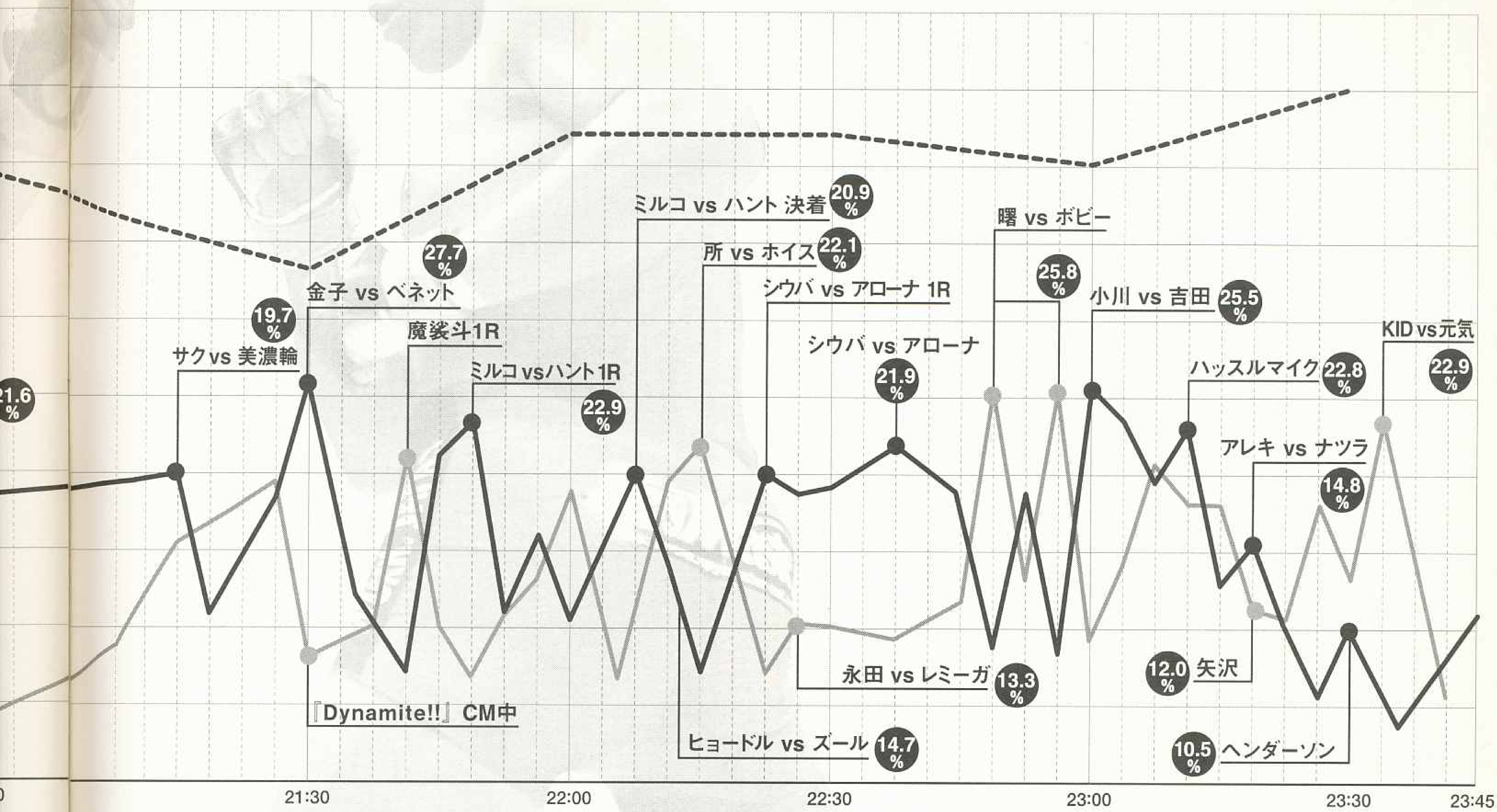


桜庭vs美濃輪が終わり、21時17分フジはCMなしで金子賢の入場シーンに突入。この時点で視聴率17.4％、TBSはCM中のため8.3％。しかしこの2分後、CMが終わりTBSが武蔵vsサップを流すとフジの金子入場シーンは13.7％に急降下、TBSは18.9％と大きく逆転。

金子の試合開始は21時22分。ちょうどTBSが武蔵vsサップの2〜3RインターバルのCM中で10.3％だったため18.9％の高視聴率でのスタートとなるが、武蔵vsサップの第3Rが始まるとTBSが18.7％に対し、フジは15.3％に低下。じつは武蔵vsサップのほうが金子vsベネットより高視聴率だったのがわかる。

そして21時25分、NHK紅白の第一部終了、ニュースに突入。TBSは武蔵vsサップの判定結果発表で19.2％の高視聴率。フジは18.4％。しかし、このNHKがニュース放映中という視聴率獲得には絶好の時間に、TBSは痛恨のCM突入。ここからフジが急上昇。そして21時30分、フジは瞬間最高視聴率27・7％獲得！　このときTBSはCM中で7.9％、NHKはニュースで33.6％。まさに金子vsベネットが火事場泥棒的に獲得した瞬間最高視聴率だった。

検証 大晦日視聴率狂騒曲



――逆に小川vs吉田を9時半にやっていたら、視聴者が〝次は曙vsボビー待ち〟状態になって、『Dynamite!!』のほうをベースに見ていただろうというわけですね。

佐藤 そうです。こちらがどんなにいいカードを組んでもそうなっていたと思うんですよね。

――では、すべては作戦どおりだったと。

佐藤 出た視聴率も構成も、ほぼ作戦どおりではありましたね。こちらにとって計算外は、『男祭り』で藤田和之選手の試合とノゲイラの試合が組まれると考えていたんですよ。

――そういう噂は大会の直前までありましたよね。

佐藤 たとえばそれがあれば、今回シウバvsアローナを放映した22時台前半にその2試合を入れて、シウバvsアローナやヒョードルvsズールを23時台に持っていくことができた。そうしたら、3部もさらにいい数字が出たと思うんですよね。

――それがなかったために、3部はアレキvsナツラ、ヘンダーソンvsブスタマンチのマニアック対決と、注目試合のリプレイだったわけですね（笑）。

佐藤 だからホントはプレイバックとか過去のVTRをあまり入れたくなかったんですけど、わりとしょうがなく過去のVTRを多めにしたんですよ。まぁ、それでも過去の藤田vsヒョードルとかミルコvsシウバはいっぱい視聴率取っちゃったんですけどね（笑）。

――過去VTRなのに藤田vsヒョードルが20・4パーセント、ミルコvsシウバにいたっては23・4パーセントですもんね（笑）。

佐藤 想定と違うのはそれぐらいですね。

――今回は金子vsベネットが瞬間最高視聴率を取ったということが強調されがちですけど、フジテレビ的に一番評価されてるのはどういった点なんですか？

佐藤 もちろん小川vs吉田戦ですね。21時以降、『Dynamite!!』と競り合いながらも勝っているというのは、小川vs吉田戦の期待値で勝っていたと思いますから。

――小川vs吉田を見るまでは、たまに浮気はするけど、ベースはフジテレビといった感はありますよね。

佐藤 だから毎分視聴率を分析してみると、ほとんどCM中とか入場シーンのときに向こうに流れているだけなんですよね。だから金子さんの試合が27・7取ったことが強調されがちですけど、ミルコvsハントも22・9取ってるし、シウバvsアローナも21・9までいってるんですよね。あのアローナがですよ？

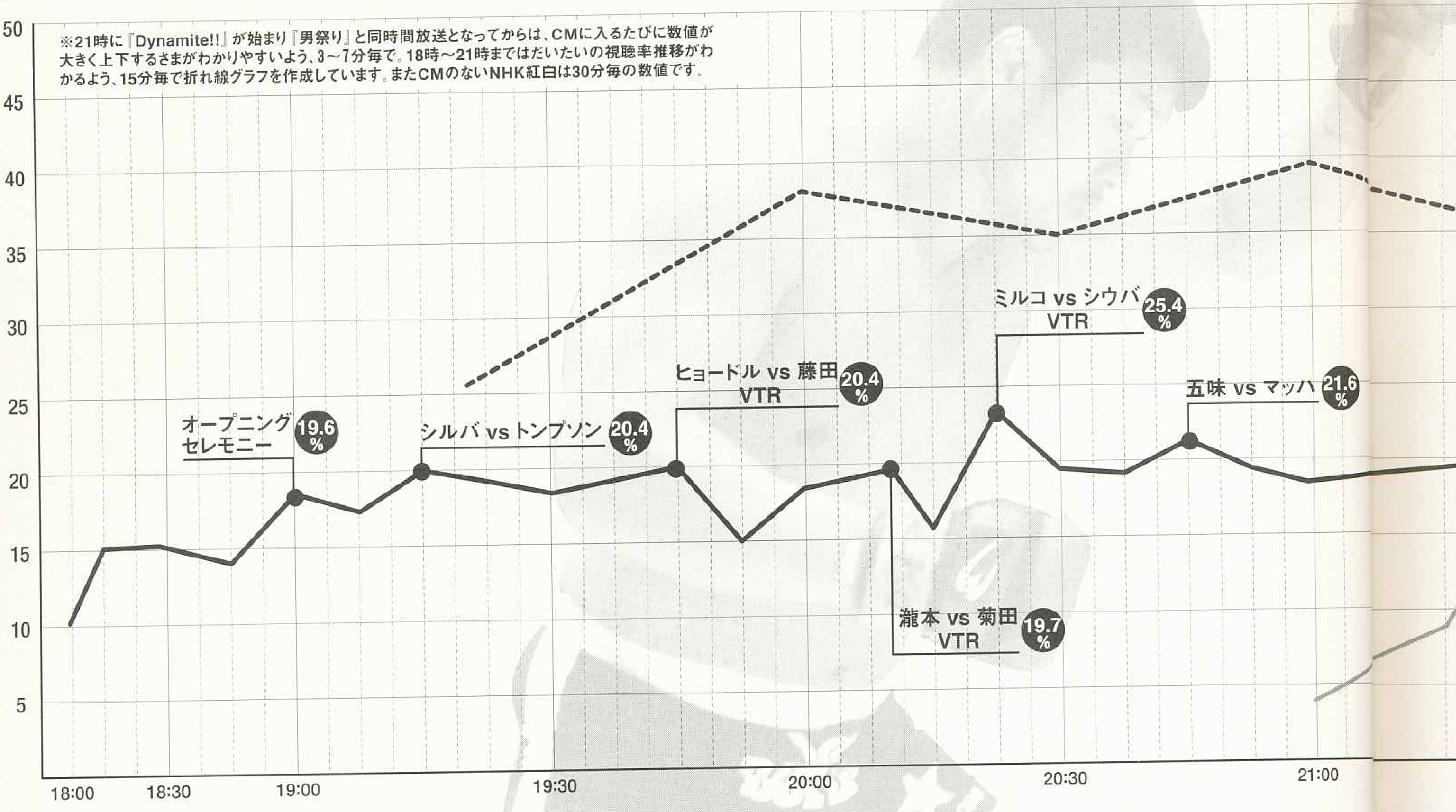
――んあ～！ あの絶対に地上波向きじゃないと思われたアローナが視聴率でK―1に勝ったわけですからね（笑）。

佐藤 だから、これはもちろん各試合の内容が良かったこともありますけど、小川vs吉田戦への期待値がずっと高い視聴率を保てた要因だと思うんですね。そして僕らがこの『男祭り』を大晦日に6時間近くにわたって放送することで世間に訴えたかったことは、小川vs吉田戦を楽しみにしてもらいながら、かつミルコらの試合の面白さ、ヒョードルのとてつもない強さ、シウバvsアローナの緊張感、そして五味選手や桜庭さん、美濃輪選手らの素晴らしさを知ってもらいたかったんですよ。高視聴率をずっと保ち続けることで、それが実現できたことが一番大きいです。

――小川vs吉田で興味を持った多くの人に、その他の『PRIDE』の素晴らしさを知ってもらえる機会になったと。

佐藤 その中で金子賢さんの参戦というの

大晦日視聴率推移グラフ



は、「PRIDEらしくない」という批判もありましたけど、僕は相手をベネットにすることで、「PRIDEらしさ」を保ちながら、いい"つかみ"になったと思うんですよ。それに金子さんの試合が瞬間最高を取ったというのは、その時間はNHKが紅白の合間のニュースで、TBSがCM中だったから一瞬上がっただけですからね。あのTBSがなぜCMを入れてしまったのかわかりませんけど。だから、もし金子さんの前に放送した桜庭vs美濃輪戦がその時間帯だったら絶対瞬間最高取ってると思います。

——毎分視聴率を見てみると、金子さんの試合はTBSがCM中に急上昇しただけで、それまでは15パーセントぐらいですもんね。

佐藤　桜庭vs美濃輪で20パーセントあった視聴率が、金子さんの入場に切り替わった途端に7パーセント落ちてるんですよ。

——一気に13パーセント台までいっちゃてますね（笑）。

佐藤　だから金子さんの試合への興味というのはもちろんあったと思いますけど、それが一番だったわけじゃないんですよね。そしていわゆる浮動票というのもたしかに大事です。だから今回、いろいろ批判はありましたけど、これまで『PRIDE』を見たことがなかった人が、金子さんが出ることで初めて見る機会になってくれていたら、それはいいことだと思うんですよ。それに、僕らとしては金子さんが瞬間最高を取ったことより、桜庭さんと美濃輪さんの試合が、サップvs武蔵に勝ったということのほうが大きいです。これって見逃しがちですけど、凄くエポックメーキングだなと

2004年と2005年、大晦日視聴率徹底比較

2004

PRIDE男祭り2004

1部	18時00分～19時30分	12.8％
2部	19時30分～21時30分	18.3％
3部	21時30分～23時40分	10.8％

番組全体の平均　**14.0％**

『Dynamite!!』

21時～23時24分　**20.1%**

2005

PRIDE男祭り2005

1部	18時00分～20時00分	16.1％
2部	20時00分～23時00分	17.0％
3部	23時00分～23時40分	12.7％

番組全体の平均　**15.3％**

『Dynamite!!』

21時～23時45分　**14.8％**

『Dynamite!!』は21時から2時間45分、『PRIDE男祭り』は18時から3部構成で5時間40分と、一見ほぼ前年と同じ構成に見える大晦日の2大格闘番組。しかし、よく見てみると、『男祭り』は3部構成の時間帯を今回は変更していることがわかる。
例えば2004年は2部を19時30分～21時30分に配置し、18.3％の高視聴率を獲得しているが、これは『Dynamite!!』が始まる前に、目玉である吉田vsガードナー、金メダリスト瀧本誠のデビューをもってきて、その時間帯だけで算出したことで出た数字。しかし、21時半以降、『Dynamite!!』と真っ向勝負した時間帯では、TBSが20.1％もの平均視聴率を獲得したのに対し、フジは10.8％とほぼダブルスコア惨敗しているのだ。
それに対し2005年は20時～23時という『Dynamite!!』と、ほぼ真っ向勝負した時間帯で17％の視聴率を獲得。TBSは前年から5.3％落とした14.8％にとどまったのは、まさに前年10.8％だったフジ『男祭り』が6％以上、大幅に数字を上昇させたからにほかならない。
そして『男祭り』は番組全体を通しても前年の14％に対し、15.3％と上昇。5時間40分もの超時間番組で平均15％を超えるという快挙を成し遂げているのだ。
これを見れば「『PRIDE男祭り』は視聴率でK-1に勝ったものの、前年より数字自体は落とした」だとか「格闘技バブルが弾けた」と言った意見がいかに的外れかがわかるだろう。
大晦日の約6時間にわたって、『PRIDE』か『Dynamite!!』の視聴率が絶えず20％を超え続けていたという現実。これこそ格闘技人気が定着した証明だと言えるのだ。

TBSのCM中に瞬間最高取るより桜庭vs美濃輪が武蔵vsサップに勝ったことのほうが大きいです



思うんですよ。

――そうですよね。知名度では遥かに上回っているはずのK―1日本人エースである武蔵とあのボブ・サップですからね。

佐藤　それはTBSのCM中に最高視聴率を取ったことより、僕らにとってはずっと大きなことですよ。だから、ポイントとしては大晦日はレギュラーシーズンとは違うオールスター戦をやってるんだということをわかってほしいんです。一般の人たちがプロモーションに反応しやすいカードを用意しつつ、本当に見せたいのはミルコであり、シウバであり、五味であり、桜庭さんなんですよ。ここで彼らを知って、またレギュラーシーズンを楽しみにしていただきたいと思いますね。

――じゃあ、「金子賢が瞬間最高視聴率を取ったことで、『PRIDE男祭り』はますます芸能化に拍車がかかるだろう」ってことをファンは懸念してますけど、そんなことはないと。

検証　大晦日視聴率狂騒曲

佐藤　絶対、そんなことないでしょう。そんなことしたら、レギュラーで年間何回も放映できるわけありませんから。ただ、大晦日だけは一つぐらいそういった〝撒き餌〟があってもいいかな……という気もしますね。ただし、その際、ボクらがやるのは金子賢vs芸能人ではなく、金子vsベネットということです。

――『PRIDE』の持つ厳しさや、緊張感は絶対に崩さないと。

佐藤　それだけは断言してもいいですね。僕ら制作サイドはアナウンサー、ナレーターも含めてみんな格闘技が大好きで、「彼らの凄さを多くの人に伝えたい」という人間ばかりなんですよ。だから、このソフトを息の長いものにしていきたいですよね。これは番組のチーフ・プロデューサーである清原もまったく同じ意見です。たしかに金子さんの試合というのを提案したのは清原ですけど、そこは変えてませんから。

――フジテレビとしては、これからも『PRIDE』の世界観を広く伝えることで、ソフトとして育てていこうと。

佐藤　その通りです。だから、たぶんこれからも『Dynamite!!』とは視聴率で勝った負けたがあると思うんですよ。でも、それでいいじゃないですか。ときにはお互いに被らない時間にメインを放送して「紅白を共に倒そう」ということになってもいいですし。

――ホントだったら、そういった共同戦線を張ってもいいはずですよね。

佐藤　あ、そういえば視聴率が出たあと、谷川さんから僕のケータイに留守電が入ってたんですよ。

――なんて入ってたんですか？

佐藤　「DSEに負けたとは思っておりません。しかし、フジテレビさんの演出力と社を挙げたプロモーションに敗れました」って入ってました（笑）。

――ダハハハハハ！　素晴らしいコメントですね（笑）。

佐藤　でも、そんなに社を挙げたプロモーションでしたか？

――例年よりスポットCMは多かったような感じはします。

佐藤　今年は力が入っていたのは確かですよ。でも、それは小川vs吉田戦が決まったからこそ、社内でも「これを多くの人に見てもらおう」となったんですよ。

――すべては小川vs吉田のおかげと。

佐藤　ホントにそうです。だから小川vs吉田戦のようなビッグカードは毎年用意できるものじゃないと思いますけど、それが用意できないからといって、へんなあがき方をして、ソフト自体の地盤沈下を招くようなことは絶対しちゃいけませんよね。そう考えるとやっぱり紅白超えなんて、狙っちゃダメなんですよ。榊原代表は「小川vs吉田で視聴率50パーセントを狙う」って言ってましたけど、そんなこと本心では絶対思ってるはずないですから（笑）。

――一発かましたわけですね（笑）。

佐藤　だから、ぶっちゃけた話、来年は負けてもいいですよ（笑）。へんな方向にいくよりはね。

――目先の視聴率を取るためにソフトを壊すようなことはしないと。

佐藤　だからこう話をしていると、視聴率って馬鹿馬鹿しいでしょ？　それを気にするのが僕らの仕事なんですけど。そういった数字以上に、見ていたみんながどう感じたかを基準にしてほしいですよね。

【06年1月6日／青山・DSEにて収録】

僕らはタレントを呼び水にして
格闘技の醍醐味を伝えたい。
『Dynamite!!』とはまったく別の次元です。

ドリームステージエンターテインメント代表取締役

榊原信行

3年目にして、ついに"宿敵"TBSの『Dynamite!!』に視聴率で上回ることに成功した『PRIDE男祭り』。しかし、その瞬間最高視聴率が"俳優"金子賢の試合時だったことで、今後『PRIDE』も芸能色が濃くなることが懸念されている。はたして2006年、『PRIDE』はどうなるのか!? DSE榊原代表が今年も"愛のある毒舌"をぶっ放します!!

聞き手／堀江ガンツ　本文構成＆ピンボケ撮影／松下ミワ
design by さおとめの事務所



K―1に勝った今回だからこそ視聴率戦争に激辛提言!!

――まずは大晦日の『男祭り』高視聴率、おめでとうございます!

榊原　ありがとうございます。素直に嬉しいですね。いままで超えられそうで超えられなかった『Dynamite!!』という壁を3年目にしてようやく超えられたな、という感じです。

――今年は第2部の平均視聴率が17パーセント、瞬間最高視聴率はなんと27・7パーセントという高い数字をたたき出したわけですけど。

榊原　まあ、数字は高いにこしたことはないんですが、『男祭り』は5時間45分という長尺の中で放送しましたから、今回は『PRIDE』を平均で数字を取れるコンテンツとして評価していただけたんじゃないかと思います。平均って言っても、小川vs吉田戦で40～50パーセント、ほかの試合がひと桁台っていうわけじゃなくて、総合的にオープニングの18時から23時40分までまんべんなく数字が取れてますから。そこが本当に嬉しいですね。

――過去のVTR中心の構成だった第一部の平均視聴率も16・2パーセントですからね。

榊原　ジャイアント・シルバの試合も20パーセント超えてたし（笑）。

――あ、シルバはやっぱり今年も20パーセント超えましたか（笑）。

榊原　アローナvsシウバも20パーセント超えてたり、桜庭選手とか中村カズの試合も結果的には20パーセント近くありましたしね。そして9時半近くに放送した金子賢vsクレイジー・ホースの試合はいろいろ物議を醸しながらも、結局、瞬間最高視聴

僕らが考えていたのは平均視聴率でTBSに勝つこと。瞬間最高はおまけみたいなもんです

率27・7パーセントという数字をたたき出してますから。まあ、21時半っていうのはNHKが紅白からニュースに切り替わったりして、わりと競争が少ないですから、瞬間最高を迎えたというのはそういう理由もあるんでしょうけど。

――やっぱりフジテレビとしても、その時間を狙って仕掛けていこうという作戦だったわけですか？

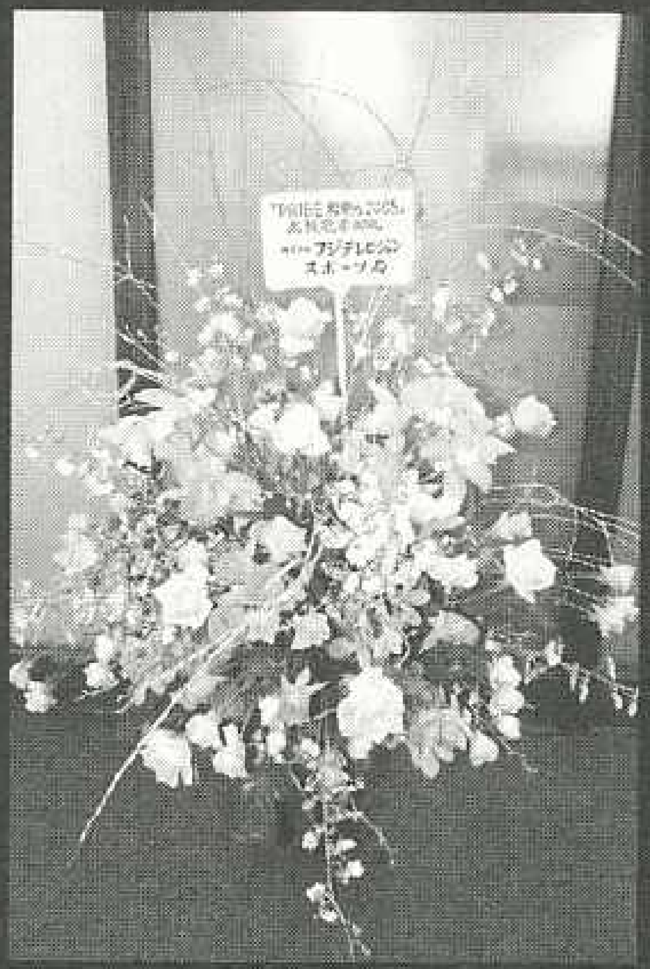
榊原　当初フジテレビ内部ではその時間帯は、小川vs吉田戦を流そうという意見もあったんですよね。でもその大きな山は、やっぱりその日のメインとして残しておきたかったんですよ。小川vs吉田を放送したあとで、残り1時間半も番組を続けるというのは正直言ってツライだろうということで。

――では、小川vs吉田で瞬間最高を取ろうというわけでもなかったと。

榊原　今回フジテレビが立てた戦略としては、瞬間最高だけを狙うのではなく、まずは平均視聴率でTBSに勝とうと。そう考えた上でこの結果が出たから、まあフジとしては狙いにいった平均視聴率も勝って、金子君で瞬間最高でもTBSに勝つというオマケもついてきたという感じでしょうね。あと、視聴率もたしかに大事なんですけど、僕らとしては「どんな層が見てたのか」という部分も重要なことなんですよ。

――視聴率って性別、年齢別で視聴者層を細かく分析してますもんね。

榊原　我々にとって消費が一番激しい世代である20代とか30代が何を見てたのかというところまで知る必要はありますよね。それこそ視聴率って、おじいちゃん、おばあちゃん、子どもまでカウントされるわけだから。で、もともと去年までも『PRIDE』が『Dynamite!!』に視聴率で負けてるなんて言われてましたけど、我々が本当にほしいM1層（男性の20歳～34歳を意味する視聴率区分）では、決して負けてなかったんですよ。



インタビュー収録したDSEのオフィスには、フジテレビから「高視聴率御礼」の花が届いていた。『男祭り2005』は、大晦日の視聴率としては、フジテレビ開局以来最高の数字だったという。

――あ、そうだったんですか。

榊原　『Dynamite!!』はそれ以外の層を狙って取った数字ですから。でも、それこそ紅白で北島三郎を見ているような人たちは、僕らとしてもターゲットとしては違うわけですからね。

――まあ、その層がわざわざPPV買ったりチケットを購入するようになるとは思えませんしね（笑）。

榊原　それプラス、僕らとしてはゴールデンタイムも含め、せっかく6時間近くも地上波があるんだから、まだ『PRIDE』になじみがない人たちの入口となるようなカードを作ったり、あとは『PRIDE』として伝えたいもの、売り出したい選手を出して、今後の肥やしにしたいなと思っているわけなんですよね。だから、今回の視聴者の中でも「五味の試合は初めて見た」っていう人が大多数だと思うけど、そういう人にこそ興味を持ってもらえたら成功なんですよ。じゃなかったら、5時間以上も尺を取る必要はないし、数字がほしいなら小川vs吉田、金子賢の試合、ジャイアント・シルバの試合、そういう試合ばっかり組めばいいということになりますからね。

――なるほど。DSEとしては、どういう層が、しかもどんな思いで『PRIDE』を見て評価したか、ということが大切ということですね。

榊原　「真剣勝負の中で闘う男同士にはドラマがあるな」と思ってくれたり、五味隆典の生き様に感銘したとかね。そういうことなんですよ。

――しかし、実際に『PRIDE』というコンテンツで数字を取ったというのは驚くべきことだと思うんですよね。単純に『Dynamite!!』と比較しても、3時間の平均と6時間の平均は違うわけですから。

榊原　僕もそう思いますよ（笑）。それに紅白には敵わなかったものの、レコ大には圧勝しましたからね。だからこれで『PRIDE』というブランドは数字を獲得できると証明できたんじゃないですか。1年間努力してきた集大成が具体的な数字として出てきたなという思いです。

――金子賢さんの試合以外、ほとんど『PRIDE』の本道であるメンバーだけで取った数字ですからね。

榊原　そう考えると紅白なんか今年は恥も外聞もないですよね。民放でレギュラー番組いっぱい持ってるみのもんたさんを司会に起用して、フジテレビが作ったキャラクターであるゴリエで瞬間最高に近い視聴率とって、さらにSMAPには3回歌わせるし。掟破りも甚だしい。

――天下のNHKにあるまじき行為だと（笑）。

榊原　NHKも必死なのはわかるけど、民放じゃないんだから。みんなの受信料で成り立ってるテレビ局なんだから、視聴率獲得のために大金を使うのはどうかと思いますよ。司会者だってみのさんじゃなくて、NHKのアナウンサーや、大河ドラマの主演の人とかでいいじゃない。もう、受信料不払い運動を続けたほうがいいですよ、本当に（笑）。

――スポンサーがいるわけじゃないですから、本来は視聴率は関係ないはずなんですよね。

榊原　NHKはもっとみんなのためになる番組を作ったほうがいいですよ。

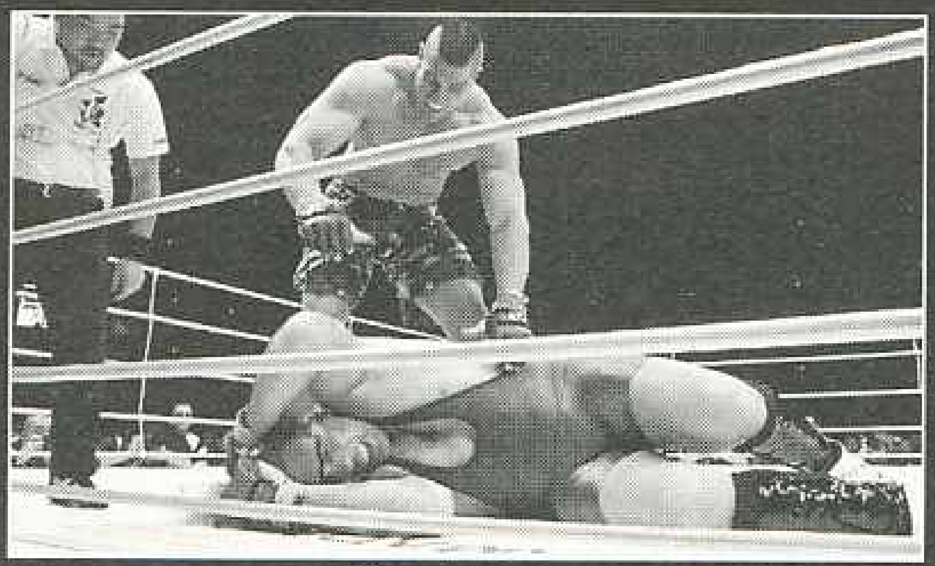
12・31 PRIDE男祭り –ITADAKI– PUTI REVIEW



○菊田早苗vs瀧本誠×

（3R終了　判定　3－0）

柔道・金メダリストvsアブダビ優勝者という"柔"の裏表王者対決。カード発表の段階から誰もが大会場向きではないと感じていたこの一戦は、予感通り寝技のハイレベルな攻防が続きながら、会場の熱を冷ます結果に。デビューして1年、菊田にも敗れ、不本意な闘いが続く瀧本。これからどうする!?



○ジェームス・トンプソンvsジャイアント・シルバ×

（1R1分28秒、KO）

「デカい」ただそれだけの理由で3年連続で『男祭り』出場を勝ちとった我らがジャイシル。対戦相手も試合前の"ぷるぷる"とゴング・アンド・ダッシュだけが見せ場のトンプソンさん。この"戦闘竜に勝った男"同士の闘いは、期待通りド迫力かつ大味な展開でトンプソンの豪快なKO勝ちとなった。



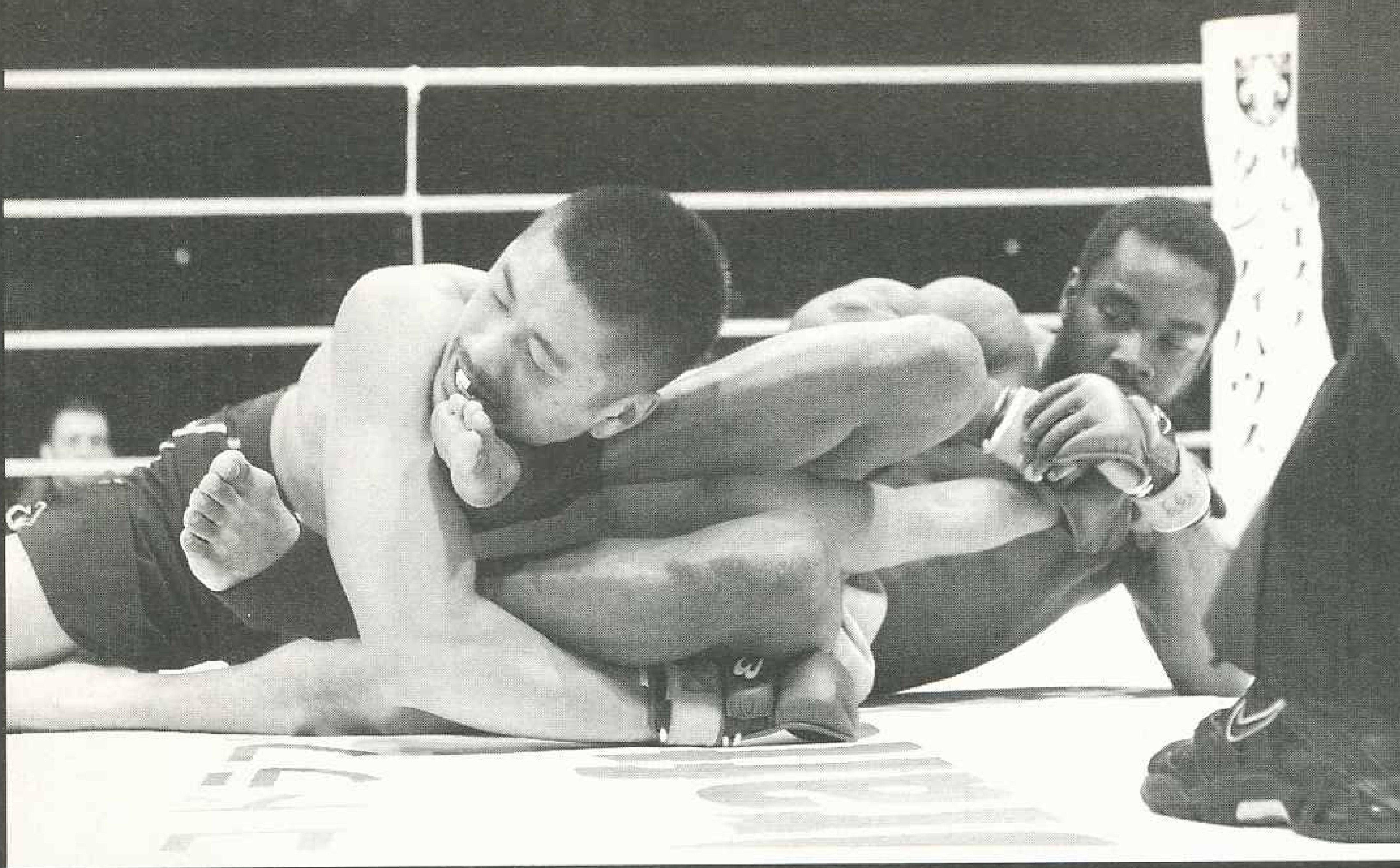
○中村和裕vs近藤有己×

（3R終了　判定　3－0）

桜庭、吉田に続く次期日本人エース決定戦というだけでなく、一部では現時点での実力日本一決定戦とも言われたこの闘い。しかし、カズは試合を有利に進めながら極めきれず、近藤もスロースターターぶりが響き判定で涙を飲むなど、両選手のかねてからの課題が改めて浮き彫りとなった。

検証

大晦日視聴率狂騒曲



PRIDEスペシャル・チャレンジマッチ

○チャールズ・"クレイジーホース"・ベネットvs金子賢×

（1R4分14秒、腕ひしぎ十字固め）

発表と同時に賛否両論、物議を醸したこの一戦。俳優・金子に対しブーイングも予想されたが、観客は思いの他、暖かい反応。それに応えるべく、金子もゴングと同時に飛びヒザでベネットに向かっていくが、そのまま寝技になるとあとは防戦一方。TKシザースなどで抵抗をみせるも腕十字で一本負けとなった。金子の挑戦はこれで終わりなのか、それともまだ始まってもいないのか。それは今後、彼自身が決めることだろう。

――一方『Dynamite!!』についてはどうお考えですか？

榊原　う〜ん、僕らはあくまで〝本来のPRIDE〟で世間に知られたいと思ってるんですけど、『Dynamite!!』はどうなのかなって思うところはありますよね。だって、アーネスト・ホーストvsセーム・シュルトの試合だとか、ジェロム・レ・バンナやレミー・ボンヤスキーの試合はオンエアしてないんだから。その代わり、矢沢さんが歌っちゃったりとか、曙vsボビー戦で「わきが臭かった」っていう発言が出ちゃったりとか。だから、そもそも方向が違うんじゃないかなと！

――目指す方向が違いますか（笑）。

榊原　格闘技じゃなくなってきてるもん。だったらもう『Dynamite!!』はその路線に変えていったほうがいいと思うよ。それこそ〝ハッスル化〟してるじゃない。僕らは『PRIDE』っていう世界観の中で、ときには膠着や不完全決着、消化不良の試合があるかもしれないけど、本当にリアルなもののもつ魅力を全面に押し出して、それを伝えたいと思ってるんですよ。だから、金子君の試合ばっかり流すんじゃなくて、それを呼び水にしてヴァンダレイの試合だったり五味君の試合だったりを流してるんですよ。それが逆になったらもう本末転倒ですよね。

――それだと『PRIDE』が評価されたわけじゃないってことになりかねないですからね。

榊原　だからK―1は何を伝えたくて曙vsボビーをやったのか。そこに感動はあったのか、興奮があったのか、格闘技の持つスリリングさやスピード、テクニックの応酬だとか、そういったものがあったのか。そこで見てる人たちが何を得たのか、ですよ。

――ちなみに榊原さんは『Dynamite!!』の映像から何が伝わってきましたか？

榊原　残念ながら、興奮も感動もなければ、スポーツとしてのスピード感とかスリリングさなんかも、僕には伝わってこなかった。だから『PRIDE』が伝えたい世界観とはまったく別次元にあるんだなって。

――なるほど。

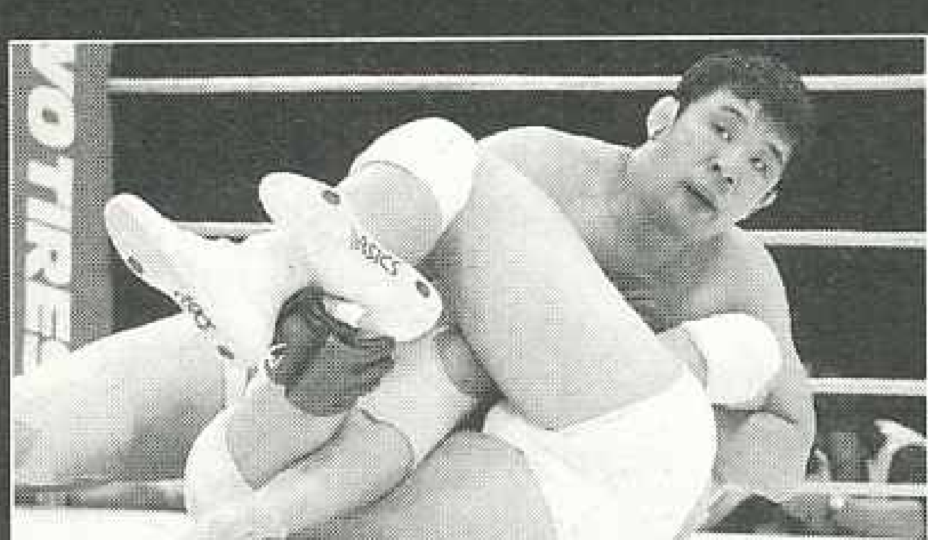
榊原　じゃあ、K―1は何が伝えたくてあの試合を組んでるのかというのは、僕にはまったく伝わってきませんでしたね。たしかにテレビは数字だけでいいですからね。笑っても泣いても怖い思いさせても、数字が取れればOKな世界じゃない。でも、そこを本当に真剣に考えていかないと、単純に数字だけの世界で踊らされると大事なものを失いますよね。

――しかし、それに関してはPRIDEファンも同じことを心配していると思うんですよ。とくに今回、金子賢さんの試合が瞬間最高視聴率をとったことで、次なる金子賢がどんどん増えていくんじゃないか、『PRIDE』が変質していくんじゃないか、そういうことを危惧していると思うんですよね。

榊原　なるほど。でも、それはないですね。金子君に関しては賛否両論あったけど、彼も僕らの与えたハードルを越えてリングに上がったわけですから。準備なしで『PRIDE』のリングに上がったら、その瞬間逃げ出したと思うんですよ。とてもじゃないけど無理。僕らもそれがわかってたんで、彼にいくつかの条件を設定したんですよね。

――それが高田道場での修行だったり、シュート・ボクセでの修行だったりしたわけですよね。

榊原　そのハードルを彼はちゃんと越えてきたし、彼自身も「31日に証明できると思います」と言ったんだ



○桜庭和志vs美濃輪育久×

（1R9分39秒、ダブルリストロック TKO）

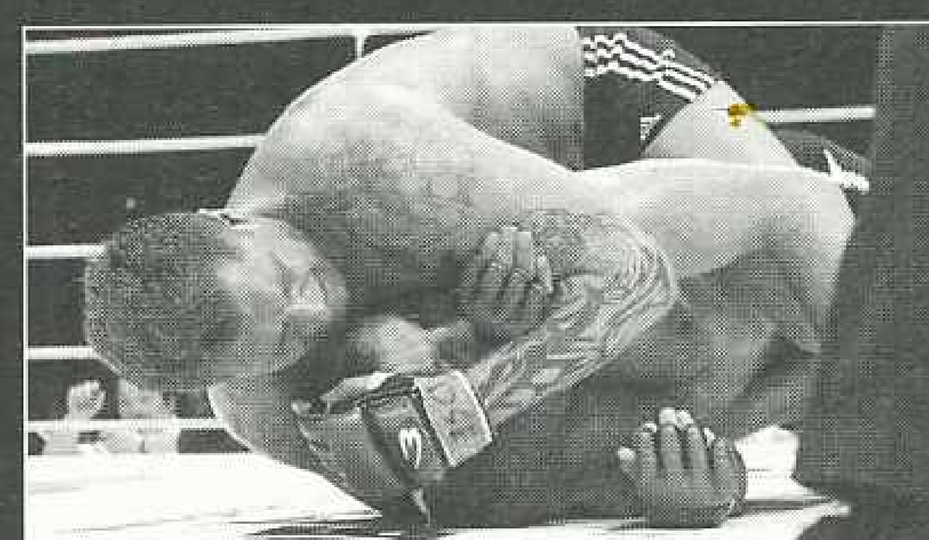
PRIDEマットでも1、2を争う人気選手同士であるサクvs美濃輪の夢の対決が実現！ その入場シーンでは5万の大観衆が熱狂！ 試合もド派手な展開が期待されたこの一戦だったが、やはり練習を共にした者同士だけに思い切った技がなかなかかけられず。結局、サクが横綱相撲で美濃輪に完勝した。



○ダン・ヘンダーソンvsムリーロ・ブスタマンチ

（2R終了　判定　2―1）

ウェルターGP決勝戦ながら、一部では「地上波では流れないのでは？」と言われたマニア向けなこの一戦。1R、ムリーロがダンのパンチをうまく交わし、試合の主導権を握るが、2Rに入りダンの右ストレートがついにヒット。さらにヒザ蹴りでダウンを奪い、逆転で初代ウェルター級GP王者となった。



○エメリヤーエンコ・アレキサンダーvsパウエル・ナツラ×

（1R8分45秒、裸絞め）

目立たないながらも、兄ヒョードルとの特訓で着実な成長を見せ、早くも『PRIDE・GP2006』のダークホースと目されるアレキサンダーが、柔道・金メダリスト、ナツラと対戦。試合は前半、ナツラが優勢に進めるも後半アレキが逆転。ノゲイラも極めきれなかったナツラから完璧な一本勝ちを奪った。



今年は"立ち技最強GP"開催も噂されるPRIDE。そうなると、その中心となりそうなのはもちろんミルコとハント。大晦日、ハントが僅差の判定勝ちを挙げたこの一戦は、来るべき大会への布石だったのか!?

検証 大晦日視聴率狂騒曲

K―1は曙vsボビーで一体何を伝えたいのか。そこに格闘技の持つ感動や興奮はあったのか

よね。だから僕は彼のチャレンジしていく姿とか、そこに賭ける思いとか、そういうものを伝えたいなと思ったんですよ。そういう部分はヒョードルが映ってる画面を見てても、一般の人たちは自分をヒョードルに重ねては見ないでしょ。でも金子賢であれば自分とダブらせる何かは持ってる。彼は役者を捨てて、その世界に飛び込んであそこまで頑張った。負けたけど、彼の挑戦は結果的に美しかったし、視聴者に「俺も格闘技やってみようかな」っていう勇気を与えたと思うんだよ。

――試合のレベルはともかく、たしかに彼の思いは伝わってきました。

榊原　でも、先ほどの話に戻すと、彼はハードルを越えてきたわけだけど、結果的に負けてるわけだからね。だからこれからも彼が定期参戦することはありえないし、彼はここからが本当に格闘家として生きてくんであれば、あの試合は単なるスタートラインに過ぎなかったと思う。次どこに上がるのっていうのもわからない。草大会からしのぎを削って『PRIDE』本戦に上がれるかどうか。それは彼の頑張り次第だと思う。僕らも応援はするけども、かといって今回のように彼の活躍をうまく活用させてもらうということにはならないんでね。

――では、第二、第三の金子賢が現われる可能性というのは？

榊原　『男祭り』だとかスペシャル感のあるイベントのときに、そういうハードルを越えてくるような選手がいるならわかりませんけどね。要は、僕らが『PRIDE』という場所を広く世の中に啓蒙していくためにプラスになるのかということですよ。格闘技の志す人たちを獲得する機会になるとか、そういう目的に合致するものがあれば、ありえるかもしれない。でも、レギュラー化することはないですね。

――わかりました。では、今回の『男祭り』はプロモーション的に大成功だったと思うんですけど、それだけに来年の活動がより重要になってくると思うんですが。

榊原　当然そうです。『PRIDE』の会場に4万人以上の人たちがチケットを買って応援してくれたわけですけど、僕らはそういう層を大事にしながら、新たなるコアファンを5万人、6万人と増やしていきたいですよね。高田本部長も言ってましたけど、2006年は相も変わらず世界最強の男を決める場所として、さらに磨きをかける努力をすることに変わりはありませんね。

――しかし、去年はヒョードルvsミルコ、吉田vs小川、五味vs川尻というような、何年も待った切り札的な試合が見れる特別な年だったと思うんですけど、そうなると今年はどうなるんだろうという不安もあるんですが。

榊原　まあだから吉田vs小川戦のような大学時代に生まれた確執とか、そういうもの引きずったカードというのはそうそう出てくるものじゃないし、今年そういうものが実現するかというと微妙なところがあると思うんですよ。……田村vs桜庭も"相も変わらず"ですからね。

――相変わらずでしたね（苦笑）。

榊原　でもそういうのを除いても、2006年も充分話題のカードは組めると思うし、ファンを飽きさせないものを実現するだけの確信はありますけどね。

――それは具体的にどういうことですか。

榊原　ひとつは階級という枠をひとつはずしてシャッフルさせて、無差別級トーナメントを開催することですね。これは何年かに一度の禁じ手にもなるかもしれないけど。ヴァンダレイとミルコ、吉田とヒョードル、桜庭とノゲイラといった、ドリームカードを実現させるために、いま階級のたがをはずす努力をしてるところですね。

――じゃ、無差別に向かって調整中ということですか？

榊原　具体的には、ヴァンダレイとかショーグンはすでに話をしていて了解を得ています。ショーグンなんかもヒョードルとやってみたい、って言ってますからね。ひょっとしたらヒョードルを倒せるのはショーグンなのかもしれないしね。階級は違うけれども、ナチュラルでいるときはショーグンも97、98キロぐらいあるわけですから。

――ヒョードルが104キロぐらいでリングに上がるんだったら、体重差は10キロ未満になりますね。

榊原　だから、ミドルとヘビーはわりとたがは外しやすいんですけど、その下の階級をどこまで入れるかっていうのが難しいですよね。まあ美濃輪君なんかは階級を超えた闘いに挑みたいって言ってるんで、彼にはそういうチャンスをあげたいと思ってますけど。だから、調整中ではありますけど、これまで見られなかった夢のカードは必ず出てくると思いますよ。

――その一方で、またライト級とウエルター級のトーナメントがあるんですよね。

榊原　最終的にはまだ決めかねてますけど、どちらかを今年16人トーナメントでやります。そして翌年はもう一方という感じで。だから隔年でやってるヘビーとミドルと同じよう

いまは立ち技世界一を決める場所がないから それならDSEがそれを決める大会を開こうと

な感じですよね。まぁ、すべてはこれからなんですけど、決まっていることで言えば、5月5日に大阪ドームでヘビー級もしくは無差別級のGP開幕戦をやります。

——もう、年間スケジュールも出てるんですか？

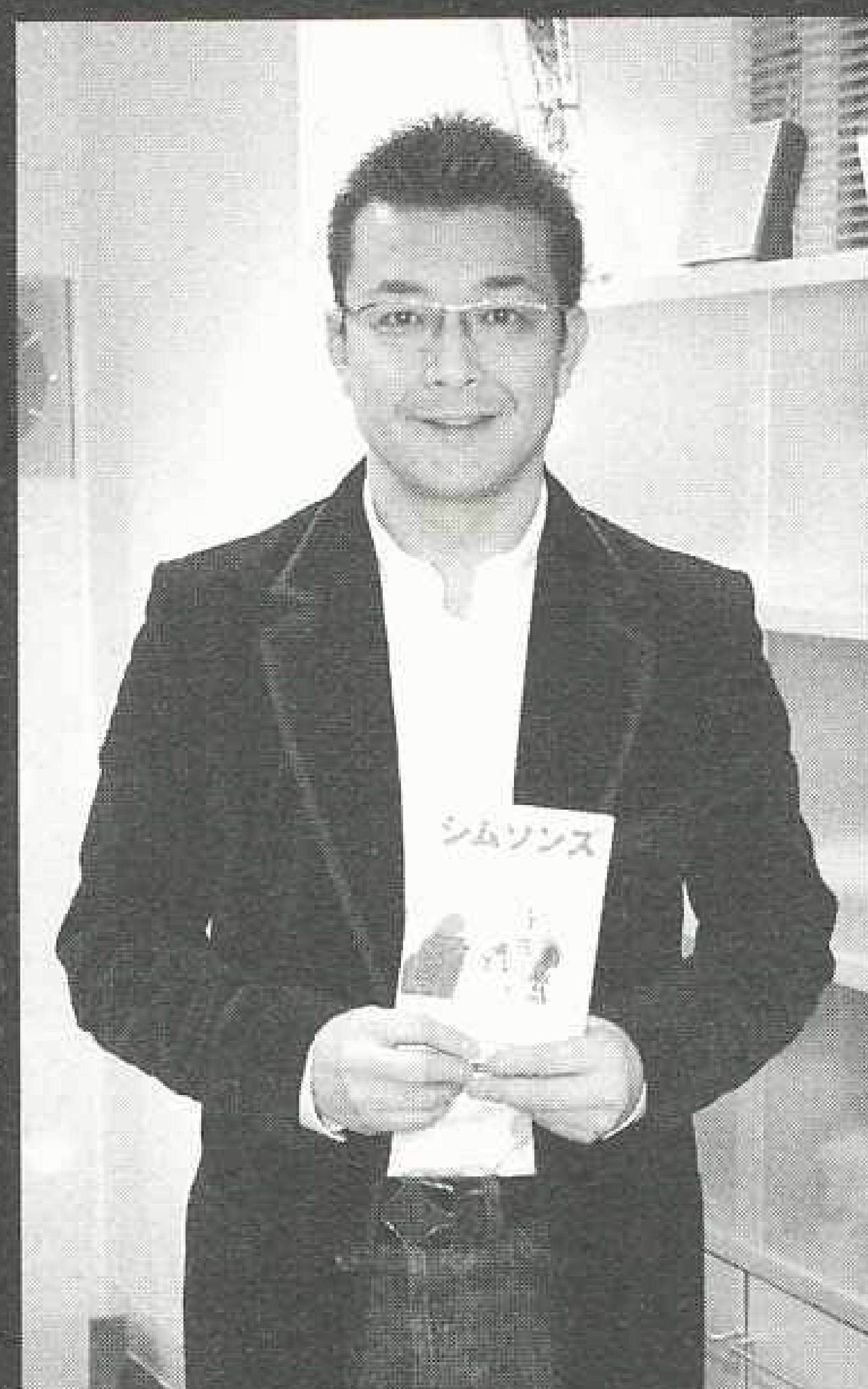
榊原　5月の大阪大会後、7月にセカンドラウンド、9月に決勝というようにできればいいなと思っています。あと、6月、8月、10月は武士道GPをやって、3月か4月ぐらいに武士道のワンマッチ大会をやろうかとも計画してます。だから、偶数月は武士道、奇数月はヘビー・ミドルですね。それと、今年はついに海外の大会も実現したいなと。

——今年はついに実現しますか？

榊原　毎年ぶち挙げながらなかなか実行できませんでしたけど（笑）、アメリカ、オランダ、イギリス、ハワイ、ブラジル、韓国……、まあ10カ国近い国のプロモーターから『PRIDE』をやりたいという話をもらってるんでね。

——その主催というか、DSEになるわけですか？

榊原　主催者は現地のプロモーターになると思いますけど、たとえばルイ・ヴィトンにしてもプラダにしても、タグがついてブランドとして扱うだけで付加価値が付くわけじゃないですか。だからタグのあるなしで全然価値が違う。『PRIDE』もそういう意味で言うと、総合格闘技をやってる大会は世界でゴマンとあるけど、『PRIDE』という名前がついただけでファンの期待も高まるだろうし、だからこそクオリティのコントロールをしっかりしたいとは思ってますね。僕らとしても各国のプロモーターが持ってるリングを借用して、その国のレフェリーを使って進行もお任せにして、名前だけついてる"なんちゃって"の大会にはしたくない。映像から伝わってくるものは、日本であってもオランダであっても同じだというものにしたいんですよ。



今年のDSEは『PRIDE』ナンバーシリーズ、『武士道』、ハッスルだけじゃない！『殴り者』に続く榊原信行製作総指揮の映画第2弾『シムソンズ』でも勝負をかける！ 2月18日より公開のこの映画。2006年、カーリングブームが起こるか!?

——なるほど。

榊原　そういうことを今年スタートして、毎年何ヵ国かずつやりたい。2006年だけで3大会か4大会ぐらいはインターナショナルシリーズということで、ヘビー・ミドル、武士道に続くサードラインにしたいな、とね。

——あと、もうひとつのラインとして噂されているのが"立ち技グランプリ"ですけれど。

榊原　まあ、それも具体的には考えつつありますけど、無理やり日にちを決めてやっつけ仕事でやるっていうのはしたくないので、いま温めているところです。それこそテレビ局の要請にしたがって、急に大会を開催しても絶対いい大会にはならないんでね。でもいま、本当に世界最高峰の立ち技ファイターを決める場所ってないと思うんですよ。

——立ち技最強を決める大会はありませんか！（笑）。

榊原　だってK－1はキックボクシングでしょ？ "立ち技最強"だったら投げやスタンディングの絞めがあってもいいだろうし。

——ああ、そういう意味でしたか（笑）。

榊原　だから我々は、それとは違った、新しい、真の世界最強を決める立ち技格闘技のトーナメントを開催したいなとは思います。

——その一方でレスリング協会と協力してパンクラチオンの大会を開催しようという動きもあるようですが。

榊原　それは打撃なしの寝技世界一決定戦ですね。

——そうなると、DSE主催で立ち技最強、寝技最強、総合格闘技最強の3つを網羅しようということですか。

榊原　それもありますけど、やっぱり今後は『PRIDE』という場所を維持しながら、さらに選手の育成と確保もしなければならないなと思うんですよ。これまでは各国の強い選手にオファーして出場してもらうっていう簡単なやり方でしたけど、これからの時代は『PRIDE』の中で世界一を目指せる選手をプロジェクトを組んで育てないといけないなと思ってますね。だからそういうことを含めて、立ち技、寝技の世界一を決めて、そこで育った人たちに『PRIDE』に挑戦してもらうと。要は、柔道界とレスリング界から次なる吉田秀彦、次なる桜庭和志を育てていくことをしたいわけです。

——たとえメダリストでも、『PRIDE』のリングではキャリアを積まないと通用しなくなってますからね。

榊原　だから打撃系の選手はまず立ち技トーナメントに出てもらったり、組技系の人は組技のなんでもありからスタートしてもらうという方法もあると思うんですよ。ボクシング界から総合の世界に飛び込んできた西島洋介選手にしても、昔の『PRIDE』であればすぐに試合ができたと思うんだけど、いまは違いますからね。しっかり自分の足りない部分というのを把握して継ぎ足してリングに上がってもらいたいし、そうしてもらわないと結果は出ないのはわかってますからね。それだけ過酷でレベルの高い場所になってるから。

——では最後にお聞きしたいのですが、今年あたりそろそろイベント間の垣根を越えた闘いが実現する可能性はないのかということなんですけど。

榊原　五味選手と須藤元気選手、KID選手とかそういうの？

——ま、そういうことです（笑）。

榊原　まあ、五味選手がKID選手とやるのはいいですけど、ただ僕らは『PRIDE』の世界観の中でやるってことが大前提ですからね。ただ、この『PRIDE』に足を踏み入れるのは、半端な覚悟ではできませんけどね。

——じゃあ、かなり難しそうですか。

榊原　どうなるかわかりませんけどね。僕だって、いつ谷川さんとまた仲良くなれるかわからないし。世の中何が起こるかわからないもん。

——そうですか（笑）。

榊原　個人的に恨みがあるわけじゃないし。まあ、ファンの夢が実現させられるように必死に動いていくのが僕らの仕事なんで、頑張りますよ。

——わかりました。では2006年も期待してますんで、よろしくお願いします！

榊原　あ、それから今年は『シムソンズ』に賭けてますから、こちらもぜひよろしく（笑）。

【06年1月4日／DSE事務所内にて収録】



まさか、視聴率がこういう結果になるとは思わなかった。……でも謝らないよ！

〝乾杯〟はすれども〝完敗〟宣言はせず

んあ～

検証
大晦日視聴率狂騒曲

K―1イベントプロデューサー
谷川貞治

曙vsボビー、KIDvs元気に永ちゃんまで投入し、『Dynamite!!』が開催された大阪ドームは大爆発！　大会直後、谷川さんの口からは早くも勝利宣言が飛び出した……のだったが、後日発表された視聴率は『男祭り』に初黒星！　谷川さんの心境やいかに!?

聞き手／松澤チョロ＆真下義之　試合撮影／乾晋也
design by さおとめの事務所

谷川　明けましておめでとうございます！

――明けましておめでとうございます！　今日は1月7日ということで大晦日決戦の視聴率も出てしまったわけですが……あの～、正直、谷川さんちょっと落ち込んでるんじゃないでしょうか？（笑）。

谷川　いやいや……落ち込んだよ！

――あ、やっぱり（笑）。

谷川　そりゃあ落ち込みましたよ。悔しいッ。……視聴率に関してはね。

――ボクらも会場に行って、大会的に凄い盛り上がったのを体感しただけに、ちょっと驚きました。

谷川　そうでしょ。

――谷川さんも大会後のコメントで、勝利宣言もしてましたし、「これは視聴率はかなりいくんじゃないか」て正直思ってたんですけどね。

谷川　そうそうそう。だから、思ったのは大晦日の数字っていうのはホントに……怖いね（苦笑）。

――大晦日の数字は怖い（笑）。

谷川　でも、正直言って、大会自体は去年のK―1シリーズの中でもベスト興行というか、いい興行でしたね。

――ホントにそう思いましたね。

谷川　だから、視聴率がこういう結果になるとは思わなかったですね。……でも、謝らないよ！（キッパリ）。

――ダハハハハ！

谷川　だって俺が悪いわけじゃないもん！（笑）。

――まあそうですよね（笑）。でも、大会後には、もし『男祭り』に視聴率で負けたら謝らなきゃいけないって言ってましたよね？（笑）。

谷川　（無視して）でもね、選手と

テレビ的な反省点はたくさんあったけど、もう全部分析済みです！

かみんなが「悔しい」とか言ってくれるのは嬉しいんだけども……僕は悪くないと思うんだけどなぁ。

――結論としては大晦日は難しいということで（笑）。

谷川　そう。でも、やっぱりね、いろいろとテレビ的に編集やらなんやらで、反省点はたくさんあるんですよ。まあ、偶然も含めてですけど。

――具体的に真っ先に挙がるものっていうと、どういうものですか？

谷川　まずさぁ……たくさんあるんだわ！

――ダハハハハ！

谷川　分析はもう、全部してあるんですけど。

――分析というのはテレビ的な話ですか？

谷川　そうそう。だって、興行的には良かったと思うしね。唯一、反省点といえば、僕の感覚的なものなんですけど、これは現場の人たちのレフェリングからすれば、当然と言えば当然かもしれないけど、個人的にはちょっとＫＩＤvs元気は止めるのが早かったかなぁって。

――テレビで観た人はそういう意見が多いですよね。

谷川　たしかに元気選手の目がトンでたのはわかったんだけど、あの試合は決勝戦だったから、もうちょっと続けても良かったんじゃないかな、というくらいで、あとはそんなに反省点はないですね、興行的には。

――あと、僕的にはプレデターは勝ちで良かったんじゃないかと。谷川さんもそう言ってましたけど……。

谷川　（遮って）あ、そうそうそう！　もう一つ、僕も個人的にはプレデターは勝ちだと思った。レミーがベストな体調ではなかったとはいえ、プレデターがあそこまで頑張ったので、あれは勝ちでも良かったかなぁっていう、その2点ですね。

――まったく同感です。

谷川　逆に言うと、テレビ的には偶然も含めて反省点が多いですね。ただ、その分析はもうカンッッッペキにしましたから！（キッパリ）。

――完璧ですか（笑）。



03年のスティービー・ワンダーに続き、音楽界のビッグネーム・矢沢永吉が登場した昨年の『Dynamite!!』。曲は直前まで二転三転しながら結局、永ちゃんはバラードを熱唱！

谷川　分析したら「なるほど！」って思ったし。ただ、一つ言えるのは、「打倒、紅白！」と言いながら、紅白をまったく、ほったらかしにしてしまったというか。『ＰＲＩＤＥ』さんが吉田vs小川という最高のカードを用意したので、今年はそっちに意識が行ってしまったなと。それと、戦術的に言うと、今回の紅白は頑張ったからねぇ。

――ＳＭＡＰを3回出したりとか、今年の紅白は、なりふり構わずって感じでしたからね。

谷川　格闘技ネタをやったり、フジテレビマークを出したり、テレビでは大切な、〝またぎ〟っていうところに人気の歌手を持ってきたりとか、あと、こちらの試合始めと試合終わりのところに、凄くいい歌の出足をぶつけたりとか。そういう意味では、紅白が本気になって頑張った結果が見えたんで、やっぱりＮＨＫ恐るべしというのが第一ですね。

――ＮＨＫ恐るべし、と（笑）。

谷川　ただ、ＮＨＫ自体は、みの（もんた）さんも、「私の不徳の致すところです」って言ってましたけど、決して満足してないと思うんですよ。あと『ＰＲＩＤＥ』さんのほうは、吉田vs小川を含めてプロモーションやら、番組の編集やら見させてもらったんですけど、も、やっぱりフジテレビというものに対して、凄く頑張られたなぁっていう気持ちが大きいですね。僕個人の中では、そんなに意識したつもりはなかったけれども、紅白歌合戦よりも、吉田vs小川に目がいってしまったところが反省しないといけないかなと。

――「打倒、紅白！」のつもりが吉田vs小川を意識してしまったと？

谷川　でも、負け惜しみじゃなくソフトとしては負けてないと思うんですよ。今回はＮＨＫさんとかフジテレビさんとか、そういうところには負けたという気持ちはあるんですけど。どういうことをすれば良かったのかなということは、もう完璧に分析してるんでバッチリです。

――今回、佐藤大輔さん（フジテレビ『ＰＲＩＤＥ』チーフ・ディレクター）もインタビューしてるんですけど、佐藤さんによると、大会直後に谷川さんから電話で勝利宣言されて、その勢いに負けて、思わず「負けました」と言ってしまったらしいですね（笑）。

谷川　僕も勝ったとは思ったけどな。でも運も良かったですよね。例えば、格闘技界的には、『ＰＲＩＤＥ』さんで言えば、金子賢さんが最高瞬間視聴率を取ったということは、ちょっとガクっとするところもあるんだけど、ウチはそのとき、魔裟斗の控室リポートと紹介ＶＴＲと入場シーンをやってて、紅白はそのときニュースだったんだよね。そういう運も凄くあったと思うんだよね。でもね、それも含めて、金子賢さんの力だったと思うんですけどね。

――でも『ＰＲＩＤＥ』的には、金子賢の試合が瞬間最高っていうのは、あまり満足していないところだと思うんですけどね。

谷川　満足してないでしょう。でも、偶然とはいえ、ウチもＮＨＫさんもアシストしちゃったんだよねぇ。

――それと、テレビ中継で入りきらない試合もたくさんありましたよね。

谷川　そうそう。シュルトvsホーストのＫ－1ＧＰ王者対決もダイジェストだったしね。プレデターvsレミーも流しても良かったと思うし。あと、僕はね、あれも放送しても良かった思いますよ、あの～……。

――（遮って）中尾vsヒーリング戦ですね？（笑）。

谷川　やっぱり、あれは入れたほうがいいと思ったね。だって、衝撃映像だもん（笑）。

――「衝撃映像まで、あと10秒」とかやってほしかったですね（笑）。で、谷川さん的には中尾選手の評価は上がったんでしょうか？

谷川　中尾選手は……いや～、あんな選手もあんなシーンも見たことないって感じですよね（苦笑）。だから僕的には『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』の中で想定外のことが3つあって。まず第3位がプレデターの頑張り。で、第2位が武蔵の頑張り。

――大会のＭＶＰは武蔵さんって言ってましたからね。

谷川　そうそう。試合としては武蔵が今年の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』の流れを作ったという感じがあって。で、第1位は、やっぱり中尾選手！

――ダハハハハ！

谷川　あとから聞いたんだけど、ヒーリングの生まれたテキサスって、ホモに対して銃殺するような嫌悪感があるって言ってましたよ（笑）。

――倫理観が厳しいところなんですね。

去年は紅白の背中が見えてたけど、ちょっと差を広げられたなって

谷川　そうそう。テキサスの男に、ああいう行為をしたら、たとえ女性でも殴ってたと思いますよ、倫理観から言えば。人が怒ってケンカになる理由っていうのは、どちらかがどれだけ傷つけたというのは重要な要素なんですけど、やっぱり先に手を出したり、その動機は法律的にも重く裁かれることだと思うんですが、今回のは理由がありますからね（笑）。

――先に挑発したのは中尾選手のほうですからね。ズバリ、再戦の可能性っていうのはあるんでしょうか？　ある意味、もの凄い注目度の高いカードだと思うんですよ。試合前から目が離せないというか（笑）。

谷川　どうなんだろうねぇ。でも、あとから聞いた話ですけど、控室でセコンド同士で揉めたみたいで。ヒースが「ホモヤロー！」とかいろいろ言ったのに対して、「ホモだから、そんなこと言ってたんだ」とかって中尾サイドも言ってたとか。もう意味がわかんない（笑）。

――ダハハハ！　中尾選手の反則勝ちっていう結果が変更になる可能性もあるんですかね？

谷川　いま審判団で検討しているみたいです。僕の中ではノーコンテストか没収試合だと思うんですけど。でも、あれは衝撃映像でしたね。

――ホント、放送されなかったのが残念でした。

谷川　でも、今回の結果を受けて、紅白に勝つっていうのがちょっと遠ざかったなって思いましたね。去年はホントに背中が見えていたんですけど、今年はちょっと差を広げられたなという感じが正直ありますね。

――そういう意味では、谷川さんも言ってましたけど、紅白に勝つには歌でも勝ってやろうということで、矢沢永吉を引っ張り出したのは、素晴らしい目のつけどころだと思いましたね。

谷川　僕が前に『kamipro』で言った隠し球というのは永ちゃんだったからね（笑）。

――まったく気づきませんでした（笑）。

谷川　ヒントは『男祭り』と言っていたのは永ちゃんだったんだけど、言いたくても言えなかった（笑）。

――たしかに、ある意味、男祭りですよね（笑）。何かで読みましたけど、谷川さんはキャロル好きだったらしいですね。

谷川　もう大好き！　キャロルは全部歌えますよ（笑）。

――永ちゃん参戦を人には言えないぶん、たまにカラオケ行ったときは永ちゃんナンバーを歌いまくってたらしいですね（笑）。

谷川　そうそう。ただ、それが勝手にK－1の携帯サイトの日記に出て大慌てしたことがあってね（笑）。

――参戦を発表する前に出てしまったと（笑）。

谷川　そう、発表する前に。「最近の谷川さんは『今年は永ちゃんが来る』って言っている」ってアップされちゃって（笑）。

――ダハハハハ！　それは答えを言ってるようなもんですね（笑）。

谷川　でも僕は矢沢さんに関してはホントに感謝してますし、開会宣言してくれた清原さんにもホントに感謝しています。

――永ちゃんや清原さんは参戦したわけですけど、残念ながら断られた大物も何人かいたわけですよね？

谷川　何人かはいますよ。ただ、特別誰か他のジャンルの大物を連れてくるというのは矢沢さん以外では考えてなかったですね。

――でも、レイザーラモンHGも『Dynamite!!』からオファーがあったって話を聞きましたけど（笑）。

谷川　いや、HGにはまったく声掛けてないですよ。まあ、冗談半分というか軽い気持ちでなら清原さんや貴乃花親方とか若乃花さんにも声を掛けさせてもらったことはあるんですけど。

――ダハハハハ！

谷川　逆に言うと、それぐらいしか大物っていないですからね。それよりもマッチメイクの面白さと矢沢さんで今回は勝負しようかなと。

――飛び道具的な人を使うよりも、今年は真面目な路線で勝負しようと思っていたと？

谷川　そうですね。ただ、マッチメイクの面白さっていう部分に関しては、今回ケガとかいろんなことがあって100パーセントはできなかったですね。ホントだったら、KID vs元気の他に魔裟斗vs所とか、ホンマンvsホイスみたいな『Dynamite!!』っぽいカードが組めたら十分やっていけると思ってたんですけど。

――魔裟斗vs所にホンマンvsホイス！　たしかに『Dynamite!!』っぽいカードですね。

谷川　ボブvs武蔵なんかはオーソドックスなカードかもしれないけど、結果的にはすべてがメインイベント級のスーパーファイトにはなったと思うんですよ。まあ一つ欲を言えば、角田さんとプロレスラーの試合を組もうと当たってたんですけど、断られましたね。

――もしかして、永田さんとかですか？

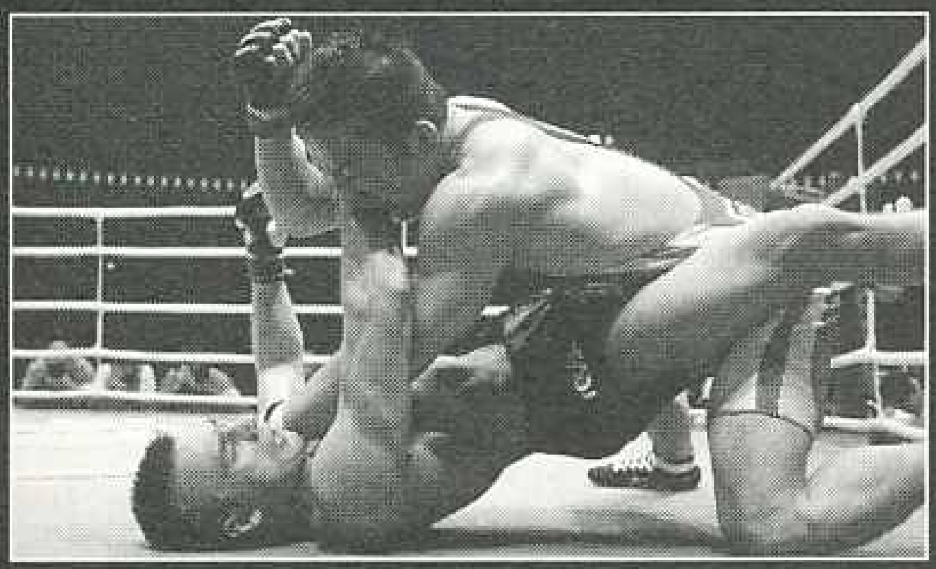
谷川　いや、そこで一番ラブコールを送ったのは、ファミリーで活躍している人だったんですけどね。

――プロレス界には浜口ファミリーやドラゴンファミリーなど、いろんなファミリーがいますけど、まあ、なんとなくわかります（笑）。

谷川　ただ、その選手はちょっと無理でしたね。まぁ、本気で声を掛けててダメだったのはそれぐらいでしたね。でも、そういった飛び道具的な選手よりも、所君みたいに『HERO'S』とかで有名になった選手のほうが、たとえばアマチュアや他のプロ格闘技で活躍したっていう人よりも反響や数字は取りますからね。知名度もあるし。

――メダリストっていうのも、数年前に比べてそれほど売りにならなくなっているというか。

12・31『K―1 PREMIUM 2005 Dynamite!!』PUTI REVIEW



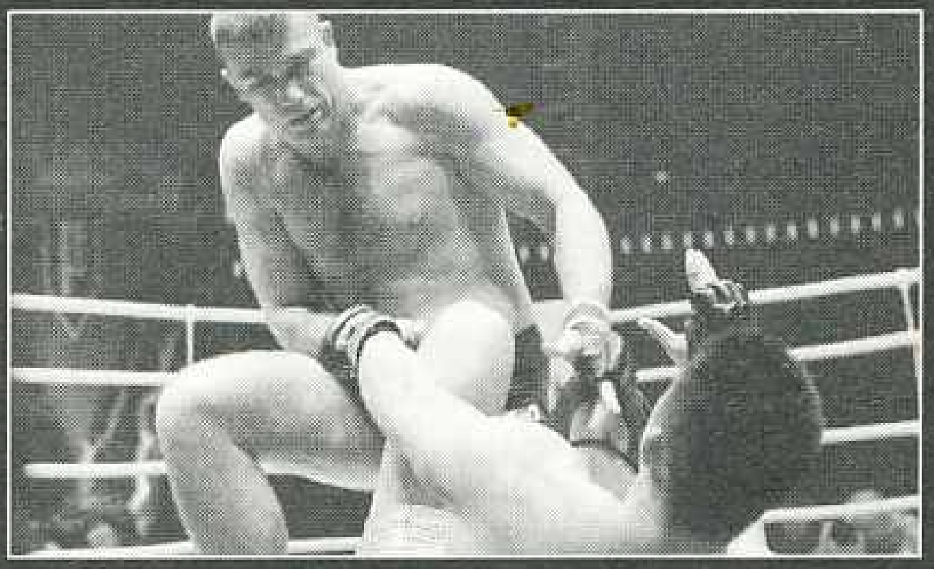
○永田克彦 vs レミギウス・モリカビュチス×
（2R終了　判定　3-0）

永田はレミギウスの打撃に手こずりながらもテイクダウンを連発すると、上からコツコツとパウンドを落とし続け判定勝ち。試合後は兄・永田裕志とともに敬礼ポーズを決めた。



○ジェロム・レ・バンナ vs アラン・カラエフ×
（2R1分14秒、KO）

バンナが打撃で追い込めばカラエフも強引にマウントを奪うなど一進一退の攻防が続く。最後はバンナがパンチ連打で勝利を奪うと愛娘のビクトリアちゃんをリングに上げ勝利のキス！



○大山峻語 vs ピーター・アーツ×
（1R0分30秒、ヒールホールド）

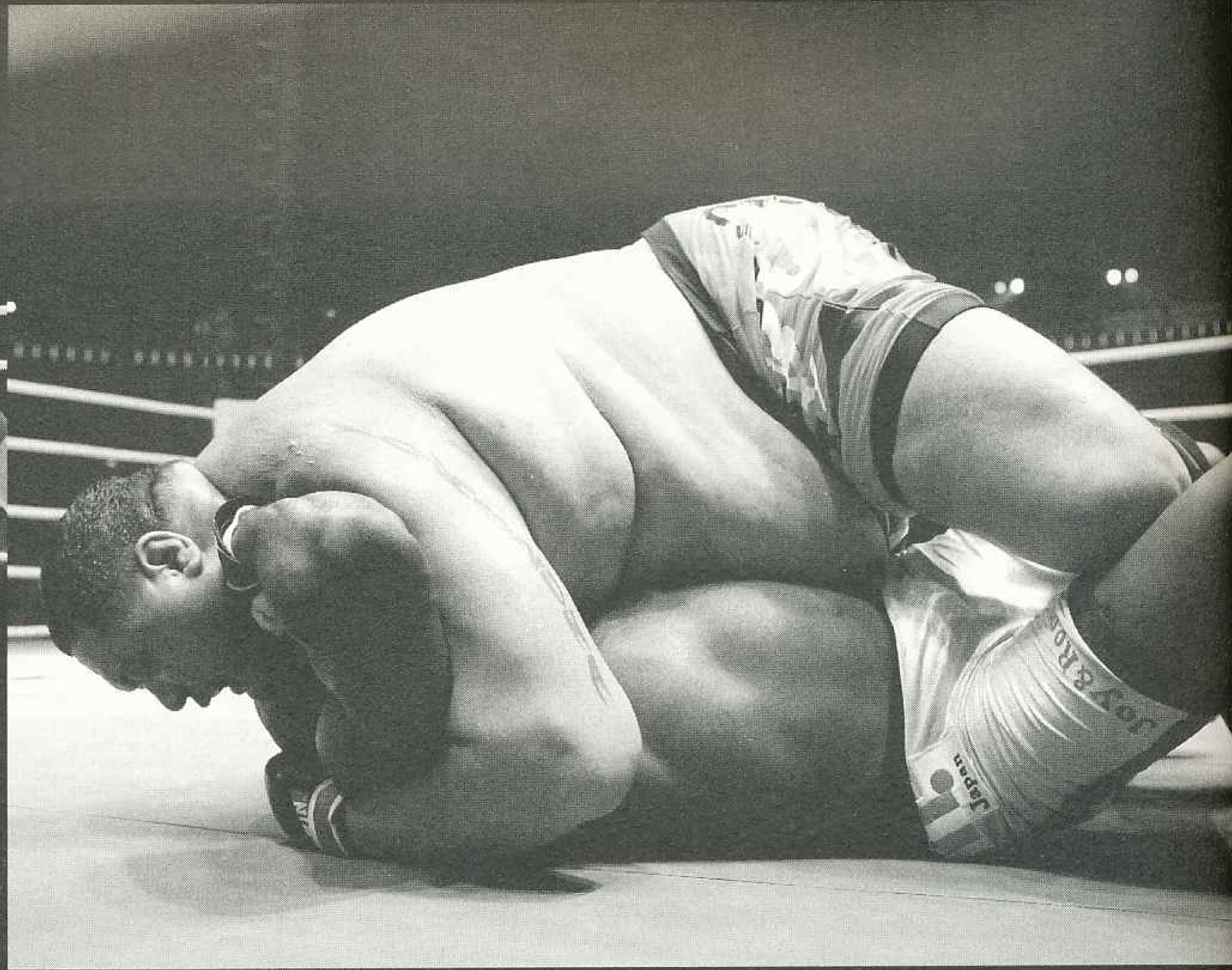
総合ルール2戦目となるアーツは、オープニングマッチで大山と対戦。試合はしつこく足関節を狙った大山がヒールホールドでアーツを秒殺。勝った大山はトロフィーに口づけ！



○ボビー・オロゴンvs曙×

（3R終了　判定　3-0）

昨年のアビディ戦に続き『Dynamite!!』参戦のボビー。何度か曙の巨体に圧殺されそうになりながらも、隙を見ては鋭いローキックでダメージを与え、2Rには転倒した曙にパンチ、ヒザを叩き込んだボビーが判定勝利！



検証

視聴率 大晦日狂騒曲

谷川　そうですね。それに飛び道具って言っても、曙さんとか清原さんクラスじゃないと飛び道具にはならないですから。逆に言うと、普段の自分たちで自信を持ってやっているMAXとかワールドGPとか『HERO'S』とかで活躍した選手を使っていたほうが確実にいいカード組めると思ったし。

――谷川さん的にも、所選手のように、無名の選手をスターにするっていうことが一番生きがいに感じるって言ってましたよね。

谷川　そうですね。僕はそういうことのほうに、価値を見いだしてますから。スペシャルなことよりも、そうやって一年間育てた選手を集めてやるほうが、いい結果が出ると思います。今年の紅白なんかがまさにそうだったんだけど。

――そうですね。そういえば、つい先日、サップvs押尾学戦という飛び道具的なカードが一部スポーツ新聞の一面になってましたけど、もしかして来年の『Dynamite!!』に向けてもう動き出してるんですか？

谷川　話には聞いたんですけど、スイマセン、この押尾学さんっていう人、僕は知らないんですけど（笑）。

――あ、知りませんでしたか（笑）。

谷川　でも矢田亜希子さんと付き合ってらっしゃる方なんですよね？

――結婚間近みたいです。

谷川　僕はその記事の内容のメールが知り合いから来て、それで初めて知ったんですよ（笑）。

――その新聞によると、もうオファーもしてあると書かれてましたけどね。

谷川　オファーも何も会ったことないですよ（笑）。でもね、矢田亜希子はいいよ～。大好き！　僕は『愛してると言ってくれ』から見てるから。演技もうまいし、性格もいいしね。矢田ちゃんとは、1回か2回、『SRS』の収録で一緒になったんですけど、ホントに素晴らしいと思います。

――矢田さんの素晴らしさは、よ～くわかりました！（笑）。

谷川　でも、どうなの？　金子賢とかこういう芸能人が格闘家になっていくっていうのは？

――戦前はかなり批判の声もありましたが、試合当日はそれほどブーイングもなかったみたいですね。

谷川　そうなんだ。でも僕ね、よく言われるんだけど、ボビー（・オロゴン）にはその感覚がないんですよ。

――ボビーは〝最強の素人〟というキャッチフレーズが付いてますけど、金子賢が試合に出るのとは意味が違うと？

谷川　僕はそう思ってます。ボビーのことは、もちろん人気タレントだと思ってたんだけど、最初にテレビでホイスとやったときから、凄い格闘技センスのある身体能力の持ち主だという感覚があったからね。

――ホイスを流血させて、かなり追い込んでましたからね。

谷川　あの試合を見て、単純に凄いなって思ったしね。そういう意味では、僕は金子賢さんとか押尾なんとかさんは、あんまり興味がないんだよね。

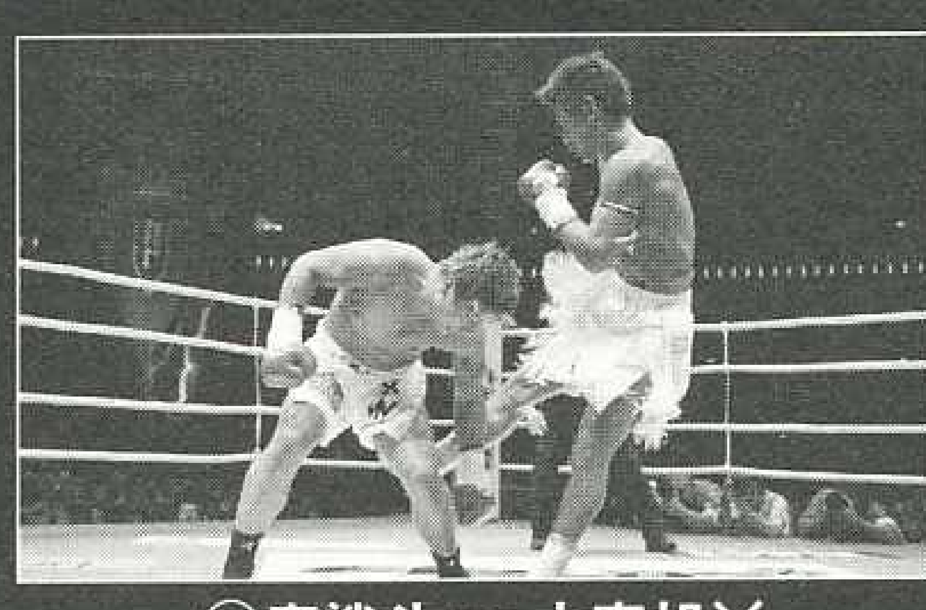
――押尾なんとかさん（笑）。ファンの中には谷川さんは、そっち方面も積極的にやっていきたい人だと思ってる人も多いと思うんですよね。



○セーム・シュルト vs アーネスト・ホースト×

（2R0分41秒、TKO）

第1回『Dynamite!!』で激突、その際はドローとなっている両者だったが、05年のGP王者シュルトの勢いは止まらない。2R、得意のヒザ蹴りでホーストの眉間を切り裂きTKO勝利！



○魔裟斗 vs 大東旭×

（2R1分58秒、TKO）

"K-1愛"から大会直前に『Dynamite!!』参戦を決めた魔裟斗。元ボクシング王者の大東相手にローを中心に攻め込み完勝した魔裟斗は「来年はもっと仕事します！」とマイクアピール！



○武蔵vs ボブ・サップ×

（3R終了　判定　3-0）

2R、暴走したサップが武蔵の後頭部に反則パンチを叩き込むと武蔵はリング上で大の字に。試合再開後、怒り心頭の武蔵はサップ相手にアグレッシブに攻め込んで判定勝ちを収めた。

谷川　でも、僕個人ではそういうのは難しいと思うよ。やるんだったらビッグネームじゃないと効果はないと思うし。今回、金子賢さんが視聴率取ったからって、そっちに走っていいものかなって。さっきも言ったけど、僕はボビーにはそういう感覚はないし、できれば定期参戦してほしいと思ってるぐらいで（笑）。

——一夜明け会見でも「ボビーにはK－1ルールの試合にも出てもらいたい」って言ってましたよね。

谷川　けっこうやると思うんだよなぁ。だって、この間の曙戦も正直言って、曙選手が試合を膠着させてた部分があるじゃないですか？

——明らかに途中からスタミナ切れしちゃってましたからね。

谷川　スタミナが切れた2R以降は掴んで倒して上になるだけで、いっぱいいっぱいだったじゃないですか。あれはイエロー気味だったと思うんですよ。相手がもっと動く選手だったら、ボビーは凄い身体能力を爆発させるような試合になったと思うし。

——そうかもしれませんね。あと一つ、前田さんが曙vsボビー戦のことを、「あの試合は、曙選手なりのマッチメイクに対する無言の抗議にも見えた」というようなことを言ってましたけども。

谷川　それは、前田さんが曙さんを見事にアップさせる素敵な一言だと思いますね。

——素敵な一言でしたか（笑）。

谷川　そう思うんですけどね。逆に、曙選手に言いたいのは、ホントに生まれ変わらないと、もうあとがないですよね。勝ち負けは関係ないと思うんだけど、曙選手が成長する過程が見えないとねぇ。今回の試合でもやっぱり楽観的すぎたという感じがしましたし。まあ、前田さんは、曙選手をかばったんだと思いますね。

——そういえば前田さんも永ちゃん好きで、会うのを楽しみにしてたみたいですね。

谷川　矢沢さんが入場してきたときから前田さんは立ってましたからね。拍手しながら。

——そうでしたか（笑）。谷川さん自身は、憧れの永ちゃんとお話できたんですか？

谷川　最初に挨拶したぐらいですね。でも「ヨロシク！」って生で言っていただけまして。ホント、カッコよかったな～、永ちゃん（満足そうに）。

——一発目の『Dynamite!!』ではスティービー・ワンダーの国歌吹奏があって、昨年は永ちゃんが登場したわけですけど、今年は誰か狙ってる人はいるんですか？

谷川　狙ってるのはたくさんいるよ。一昨年だったらマツケンサンバをやりたかったんですけど、松平健さんは紅白に呼ばれちゃって。で、代わりに猪木さんにやってもらおうかと思ったんだけどね（笑）。

——ダハハハハ！

谷川　猪木さんにイノケンサンバやってもらおうかと思ったんだけど、笑われました（笑）。

——イノケンサンバは見たかったなぁ（笑）。それと、『kami-pro』の読者的には、やっぱり大晦日に永田裕志さんの試合が見たいという声が非常に多かったんですけど。

谷川　今回もちょっとはオファーしましたけどね。

——そうだったんですか？

谷川　ただ、時間がなかったんで断られちゃいましたけど。まあ、永田選手は、いつも準備ナシでやってたっていうのもあるし、今回もあまりにも時間のないタイミングで声をかけてしまったんで、しょうがなかったかなと。

——それは残念です。大会直前に『Dynamite!!』で古賀稔彦vsヒクソンがあるんじゃないかと噂になってましたけど。

飛び道具よりも所君みたいな新しいスターを作っていくことが大事だと思います



昨年一発目のインタビューで05年のテーマは『再会』と書いてくれた谷川さん。今年もお願いすると、しばらく考えた後、書いたのが『打倒！ホリエモン』。大晦日、デュエットしたそうです。

谷川　その話は僕も聞いたけど、どっちも交渉してないですね。そういう意味では、そういった飛び道具よりも今年も新しいスターを作っていかなくちゃいけないなという感じのほうが強いですね。いかに去年の所君、一昨年のKIDみたいな選手を育てられるかがポイントになってくると思いますよ。

——ちなみに『男祭り』のほうはご覧になりました？

谷川　全部は見れてないんですけど、やっぱり小川vs吉田は凄く興味がありましたし、実際、面白い試合だと思いましたね。

——試合内容的にはいかがでした？

谷川　なんか小川選手が強く見えたんですけど。

——それはどういう意味で？

谷川　プロレス的になんか強そうだなって。

——それは、入場からマイクアピールを含めてですか？

谷川　入場っていうか、試合をやってたとき。なんか小川選手って、ここ最近、アスリートとしてバリバリにやってるって感じじゃなかったじゃないですか。でも試合を見ると、なんかこの人は強いんだなぁと思わされたなぁ。

——人としての芯の強さも伝わってきましたよね。

谷川　そうそう。吉田選手は等身大で闘ってたじゃないですか？　やっぱり、競技者としてできることを一緒懸命やるという感じで。吉田選手の強さは、見たまんまだと思うんですよ。でも小川選手は伸びしろの部分を強く感じたんですよ。この人やっぱり強いなぁって。本気になったら凄いんだっていうのは感じたね。

——そうですか。谷川さんは、吉田さんがハッスル・ポーズを拒否したっていう心境はなんとなくわかりますか？

谷川　わかるというか、一般的に見ればですけど、よく対処できてたと思いますよ。吉田選手の生き様がカッコよく見えたから。ハッスルポーズに背を向けてたでしょ。

——小川さんのパフォーマンス中はコーナーで背を向けてましたね。

谷川　そういう意味では、良かったなと。あれは小川vs吉田戦の中で、吉田選手が一番試されたところだったと思うんですけど（笑）。

——「あの空気の中、やらなかった吉田は逆に凄い」って感じた人も多かったみたいですけど。

谷川　そこはまあ良かったんじゃないですか。それ以上の何かって吉田選手は難しいですよね。サク（桜庭）ちゃんだったら、また違うことすると思うんですけど。高田さんや前田さんだったら、もっと突拍子もないことをするんでしょうし。

——船木さんもそうですよね（笑）。


谷川　そうそう（笑）。そういうパフォーマンスを吉田選手に求めるのは違うと思うんですよね。

——「ゲッツ！」だったらやってくれたかもしれないですけどね（笑）。

谷川　前にやってたよねぇ……（しみじみと）。でも、あの「ゲッツ！」はいただけなかったなぁ。

——んあ～。その調子で今年も頑張ってください!!

【06年1月7日／都内ホテルにて収録】



さいたま取材班と大阪取材班が徹底討論！

K-1 PREMIUM 2005
Dynamite!!
PRIDE 男祭り 2005
-ITADAKI-

大晦日 勝ったのは どっちだ!?

編集部座談会

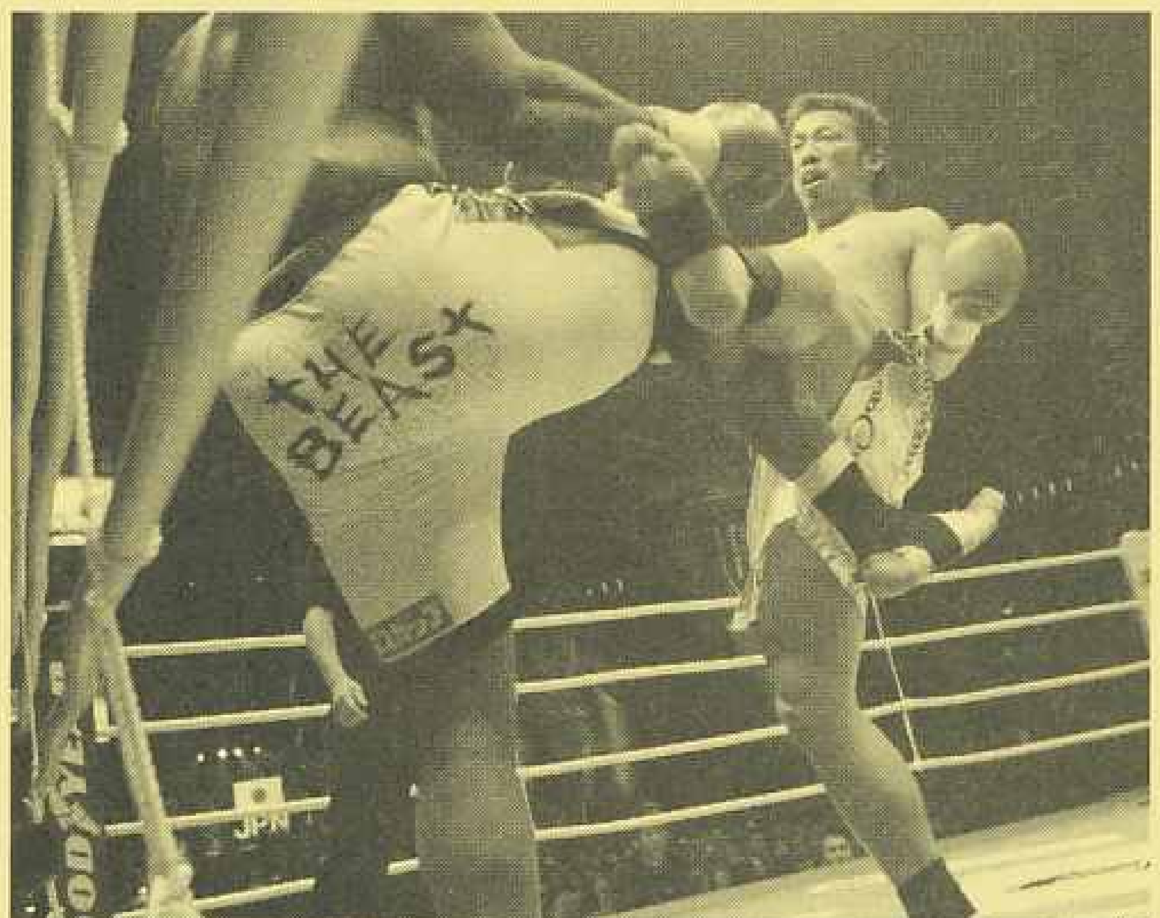
恒例・大晦日格闘技興行戦争、勝ったのはどっちだ!?　矢沢永吉から金子賢、そして小川直也のハッスルぶりはもちろんのこと、『PRIDE男祭り』取材班と『Dynamite!!』取材班が両イベントのおもしろさを語り尽くす！ ボクたちは大晦日が大好きです（吉田秀彦風）な座談会!!

構成／ジャン斉藤　designed by shiraki (TwoThree)

大晦日 勝ったのはどっちだ!? 編集部座談会

真下 今回の座談会は、『PRIDE男祭り』取材班と『Dynamite!!』取材班が"大晦日戦争"の勝者を議論して、勝手に決定したいと思います！
ガンツ 最初からこんなこと言うのもなんだけど、仮にマストシステムのジャッジだったとしても「判定、ドロー!!」と叫びたいぐらい、今回の大晦日はどっちもおもしろかった!!
ジャン ボクは開催前や終了直後にいろんな問題点が見えて、"果たして今後は大丈夫なんだろうか"って心配したんですけど……1・4東京ドームで新日本の惨状を目の当たりにしたらおもいきり安心しました！ いやあ〜、『PRIDE』とK―1はよくやってますよ、ホント。
ガンツ 本当に凄いよねえ……って、新日本と比べたらどこだって未来は明るいよ！
真下 でも、当日に深夜放送したプロレス特番の視聴率はそこそこ良かったみたいですね。
チョロ う〜ん。それはきっとラテ欄で騙されたんじゃないかなあ。なぜかプロレスという文字を一切使わない『新春格闘スペシャル』という番組タイトルだったしね（笑）。
ガンツ ちなみに去年の1・4ドーム特番のラテ欄は、"K―1vs新日本"！ K―1サイドのメンバーは、魔裟斗ばりの"K―1愛"に溢れるショーン・オヘアさんでした（笑）。
真下 しかし、いまの新日本は何と相対しているのかが見えづらいですよね。
ジャン いや、新日本はそれどころじゃないんです！ 噂によると、一部の選手・関係者が離脱して新団体設立寸前だったけど、ある人間が最後の最後で弱腰になって諦めたみたいで。こんなときこそ、ネバーギブアップ！ な精神で突っ走ってほしかったんですけどねえ。
ガンツ いま頃「絶対に許さん!!」と自己総括しながらハサミで前髪を切っているかもね（笑）。
チョロ そんな新日本とは違って『PRIDE』やK―1は、一般層も相手にしなきゃいけないし、コア層のニーズも応えないといけない。いろんな方向をカバーするからこそ、今回の大晦日もお祭り感があったよね。
ガンツ 『男祭り』は5時間以上の番組としては記録的な視聴率を取ったし、『Dynamite!!』も視聴率こそ去年より振るわなかったけど、今回はイベントとして完成度が高かったという話を聞くしね。
チョロ んあ〜!! 谷川さんは「ガンツく〜ん。"今回も"良かったんだよぉ〜!!」って言いそうだなあ。
ガンツ ガハハハ！ 一昨年も『Dynamite!!』担当だったチョロさんからすると、"今年も"良かったんですか？
チョロ K―1というか、『Dynamite!!』は毎回おもしろいです！（キッパリ）。ボクは『kamipro』でもっともっとK―1系も大きく取り上げていったほうがいいと思うんだけどね。
真下 それは右に同じですね！
チョロ ただ、さすがに今回の大晦日は小川直也vs吉田秀彦戦が凄く見たくて、曙vsボビー・オロゴンは目の前でやってくれれば見たいかなあという感じだったんですよねぇ。プレスルームでも同じようなことを言ってる人ばっかりだったけど。
真下 あ、それも右に同じですねぇ。
ガンツ 応援しようと思ってる人間のコメントじゃないよ（笑）。
チョロ でも、今回ばかりは『Dynamite!!』担当で本当に良かった！って心の底から思ったね。生観戦したお客さんはみんな満足したと思いますよ。
ガンツ ほう！ では、その満足した理由を教えてください！
真下 最初に驚いたのは、会場には一般層のファンしかいないということなんですよ。
ジャン （すかさず）そんなこと言ったら、新日本のドームだって一般層しかいませんよ！ ボクも浅草・花やしきでゲットしましたけど、あらゆる場所で招待券を大量に配っていたせいか会場は一見さんばかりで。
真下 （無視して）ヒース・ヒーリングの登場シーンでまったく歓声がなくて、武蔵とかテレビによく出ている選手は凄く人気があった。その現象からでもわかるように、格闘技ファンでもプロレスファンでもない観客がたくさんいたってことですよね。
チョロ やっぱり『Dynamite!!』はテレビというメディアを使ってスター選手をうまく育てているからね。去年は所（英男）くんが大ブレイクしたけど、さすがに魔裟斗やKID（山本KID徳郁）ほどの人気ではないだろうと思っていたら……。
真下 これが大間違いでした！
チョロ 観客の女の子に「誰を観に

"魔裟斗じゃないけど、各選手の"K―1愛"が炸裂した（チョロ）





『Dynamite!!』取材班



真下義之■「ました」じゃありません、「ましも」です。本誌NOAHオタ編集者。この人の前で小橋の悪口は厳禁。写真は"大晦日男"のジャイシルと。

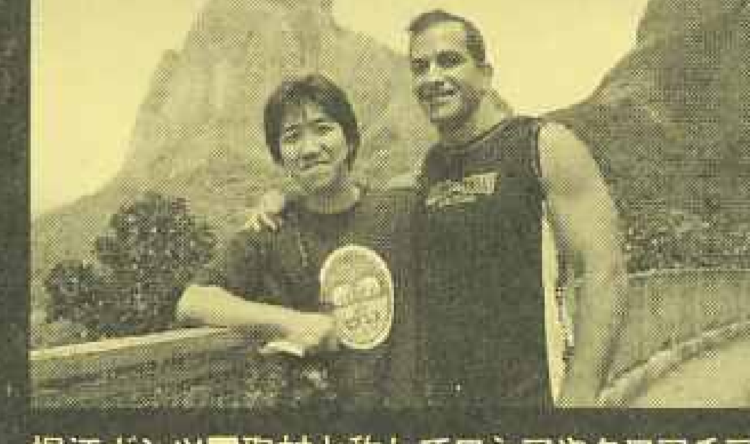


松澤チョロ■似ている！ 永田さん弟を擁するチーム・キングスのマネジメントをしている青木良氏（写真・向かって右から二人目）にソックリな電気部員!!

『男祭り』取材班



ジャン斉藤■「MMA weekly」のスコット・パターソンと密談中に「パワーアップでオー!!」を無理矢理伝授！ 世界一永久電機に詳しい本誌編集者。



堀江ガンツ■取材と称してロシアやクロアチアなど海外旅行へいそしむ本誌編集若頭。マリオ・スペーヒーとのツーショットは昨年12月のブラジルで。



来ました？」ってアンケートしたら、かなりの女子が「所くん!!」って言ってたんですよ。しかも、ただかわいい女子じゃなくて、これがまたケバいんだよなあ……ウヒャヒャッ!!（夢見心地の表情で）。

ジャン　誰もチョロさんの守備範囲なんか聞いてないですよ！　そんなこと言うなら『男祭り』だって、韓流スターのクォン・サンウ効果で、みのもんたいわくの〝お嬢さん〟たちがたくさん来てたし。

チョロ　それだったら『Dynamite!!』にも毒蝮三太夫いわくの〝ババア〟だっていっぱいいたからね！

真下　どんな言い争いですか（笑）。

チョロ　あと沖縄とか遠くからわざわざ観に来てるファンもたくさんいたし、テレビ主導による選手人気に加えて、『Dynamite!!』というイベントのブランド自体が定着してきてるなと思いましたね。

真下　そのうえで大会としてのグルーヴ感も凄かったんですからね。

ガンツ　それはそれぞれの試合が良かったということなの？

真下　それもそうだし、全体を通してのデザインが良かったんです。具体的にいうと、前半6試合目の武蔵vsサップ戦から急激に会場熱が上昇したんですよ。武蔵がサップの反則に倒れてダメージ回復のため5分間のインターバルがあったんですけど、「武蔵選手は3分半でいいと言っております！」というアナウンスがされた瞬間、一気にグルーヴ感が出たんですよね。

チョロ　「同じように武蔵選手が2発殴ってからスタートすべき」と言ってたゲスト解説の清原も良かったけど、そこから武蔵の大逆襲が始まって！　武蔵もそうだけど、選手全員が与えられた自分の役割を完璧に果たしてたんだよね。魔裟斗じゃないけど、各選手の〝K－1愛〟が炸裂したというか。

真下　『Dynamite!!』はよくテレビ向きっていわれるけど、会場観戦して普通にすばらしかったですよ。

ガンツ　プロレスに置き換えると、

『Dynamite!!』はWWEの『レッスルマニア』的な世界だった（真下）

全日本のパッケージプロレス的空間が成立していた感じなのかな。

真下　さらに言うならば、WWEの『レッスルマニア』的な世界があったんです。

ガンツ　というと？

真下　WWEは『RAW』と『SmackDown!』という二大ブランドが異なるテレビ番組として違う放送局で流れているけど、そのクライマックスが『レッスルマニア』として一つのビッグイベント、年間を通しての大河ドラマのクライマックスにたどり着く。それを今回の『Dynamite!!』に置き換えると、K－1GPがあって、K－1MAXがあって、『HERO'S』があって、その物語の頂点が『Dynamite!!』だったんですね。

チョロ　そんなお祭りイベントだったからこそ、永ちゃん（矢沢永吉）や、清原（和博）をすんなり受け入れられたんだと思うし。

真下　その永ちゃんがテレビのオープニングでロールスロイスに乗って現われたときは、『Dynamite!!』がWWE化したと思うぐらいのゴージャス感がありましたね。

ガンツ　リムジンに閉じこもってしまった一昨年のスティービー・ワンダーとは違うと（笑）。

真下　ボクは格闘技がそれほど詳しくないでしょ。もちろん『PRIDE』は見ていますけども。でも今回初めて『Dynamite!!』を会場で観て、格闘技の興行でもこういったエンターテイメントな構成が成り立つのは凄いなって。

チョロ　女子のケバさは……格闘技ではありがちだけどぉ。知り合いのキャバ嬢も『Dynamite!!』を見に東京から来てたからね。

真下　（無視して）そしてなぜ『Dynamite!!』がここまでの完成度を発揮できたかといえば、今回の大晦日は『PRIDE』に押されているというプレッシャーがあったからでしょうね。

ガンツ　会場で観る限りは、『PRIDE』の攻勢を覆した感じはあったんですか？

真下　それが、雰囲気的に覆したかのように感じたんです。テレビ観戦した人の反応はなぜかいまひとつだけど、実際には05年のプロレス&格闘技興行を通して、ここまで完成度が高かった興行はなかったと思いますし。

チョロ　うんうん。谷川さんが大会終了後に「勝利宣言」したけど、現場ではほとんどの関係者やマスコミがそういう気持ちになってたと思いますね。

ジャン　ちょっと聞きたいんですが、視聴率への自信、その勝利の前提があったからこそ、興行のおもしろさを感じたという側面はないんですか？

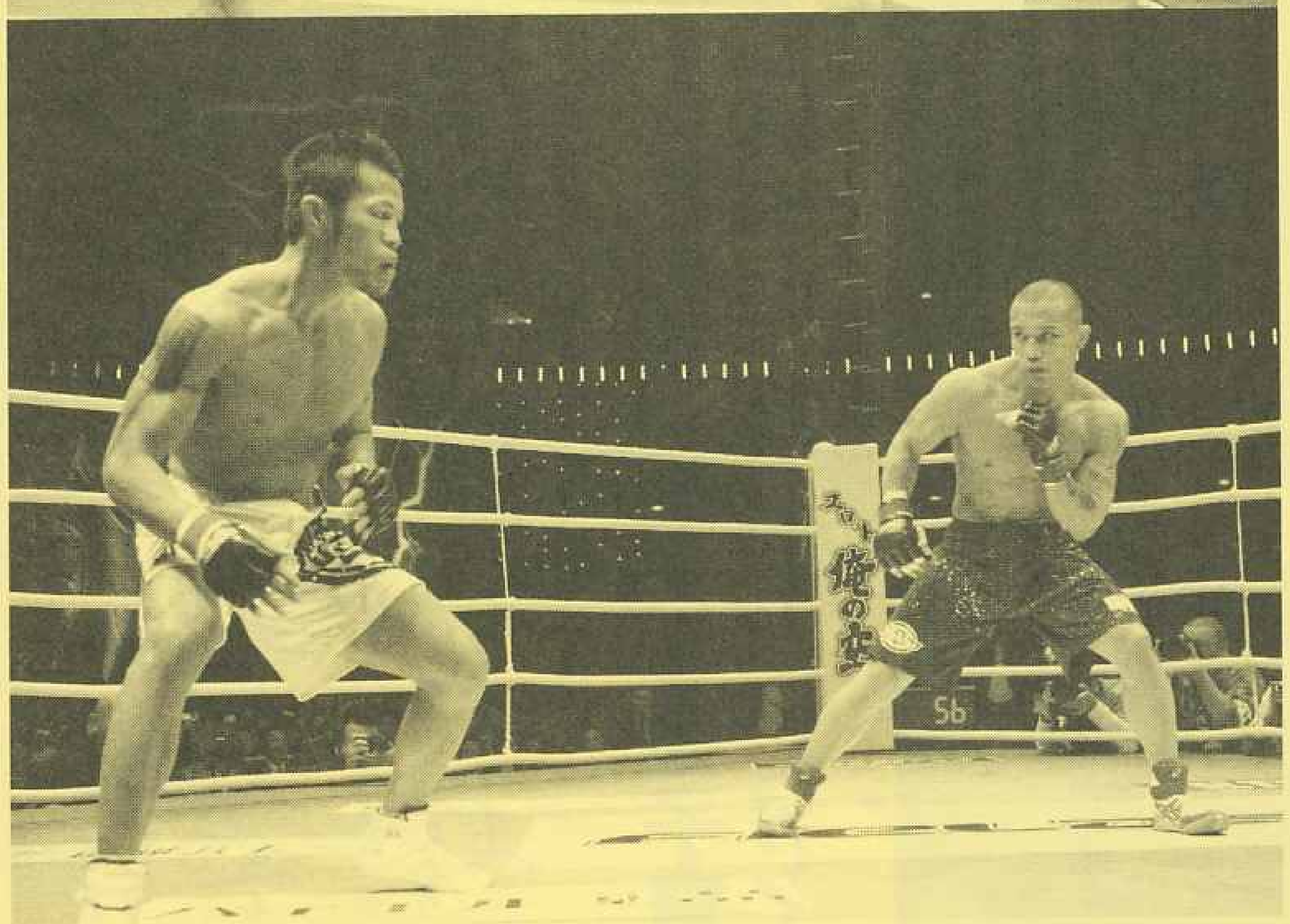
真下　う〜ん。

ジャン　もしくは視聴率の結果が判明して、内容とのギャップが興行の印象を強烈にしているところはどうですか？

チョロ　う〜ん。たしかに視聴率の結



FEGグループは、所英男、山本KID徳郁、須藤元気など、一般世間にも高い知名度を誇る中・軽量級ファイターを擁する。今年は『HERO'S』の定期開催がグンと増えることからも、彼らの活躍はますます見込まれる。



谷川　でも、僕
は難しいと思う
ビッグネームじ
と思うし。今回
率取ったからっ
いいものかなっ
けど、僕はボビ
はないし、でき
しいと思ってる
―一夜明け会
K−1ルールの
たい」って言っ
谷川　けっこう
ぁ。だって、こ
って、曙選手が
部分があるじゃ
―明らかに途
しちゃってまし
谷川　スタミナ
掴んで倒して上
ぱいいっぱいだ
あれはイエロー
ですよ。相手が
たら、ボビーは
させるような試
―そうかもし
つ、前田さんが
を、「あの試合
チメイクに対す
えた」というよ
したけども。
谷川　それは、
見事にアップさ
思いますね。
―素敵な一言
谷川　そう思う
曙選手に言いた
まれ変わらない
ですよね。勝た

果を聞いたときには驚いたけどねぇ。

真下　ボクも驚いた。あれだけの完成度があったのに「え〜ウソ〜」って感じで。

チョロ　『Dynamite!!』の番組構成的に、「なんであのシーンが入ってないんだ?」「あの試合を入れておけば……」というのはたくさんあったけどね。

真下　尺の関係もあって、現場のおもしろさを伝え切れてなかった感はあったかもしれないですね。

チョロ　谷川さんも悔やんでたのは、元気が踊りながら入場して、対戦前に元気とKIDがリング上で踊りあったシーンとか。あと中尾vsヒーリング戦なんか〝衝撃映像まであと10秒！〟みたいな煽りで絶対に流すべきだったし（笑）。

一同　（声を揃えて）異議なし！

ジャン　でも、こうして話を聞いたり、テレビを見る限り、『Dynamite!!』はスポーツエンターテインメントのパッケージとしての完成度は、観戦してないボクらでも感じることができますよね。

ガンツ　逆に『PRIDE』の場合は10分・5分・5分の試合形式だから、全試合がサクサク進むようなことはまずありえないでしょ。それに基本的に実力が拮抗するマッチメイクになるから。

チョロ　『Dynamite!!』の前半は気楽な感じで観てましたよ。とくにどっちが勝ってもいい試合が続いていたし。実際、サクサクと進んだんで凄く良かった。

ガンツ　だから誉めてるんですか、けなしてるんですか！（笑）。

真下　魔裟斗も武蔵も前半の登場で安心して観てられたし、後半戦でボビーvs曙、所くん、KIDvs元気の三本柱でガッと攻めた感じでしたからね。

ガンツ　『PRIDE』も似たような試合構成だったんだけどね。ヒョードルが出てきてようやく『PRIDE』らしい雰囲気になって、前半戦のトリだった五味vsマッハ戦で『PRIDE』らしい爆発をして。

ジャン　それまでのベストバウトは金子賢vsクレイジー・ホースでしたからね（笑）。

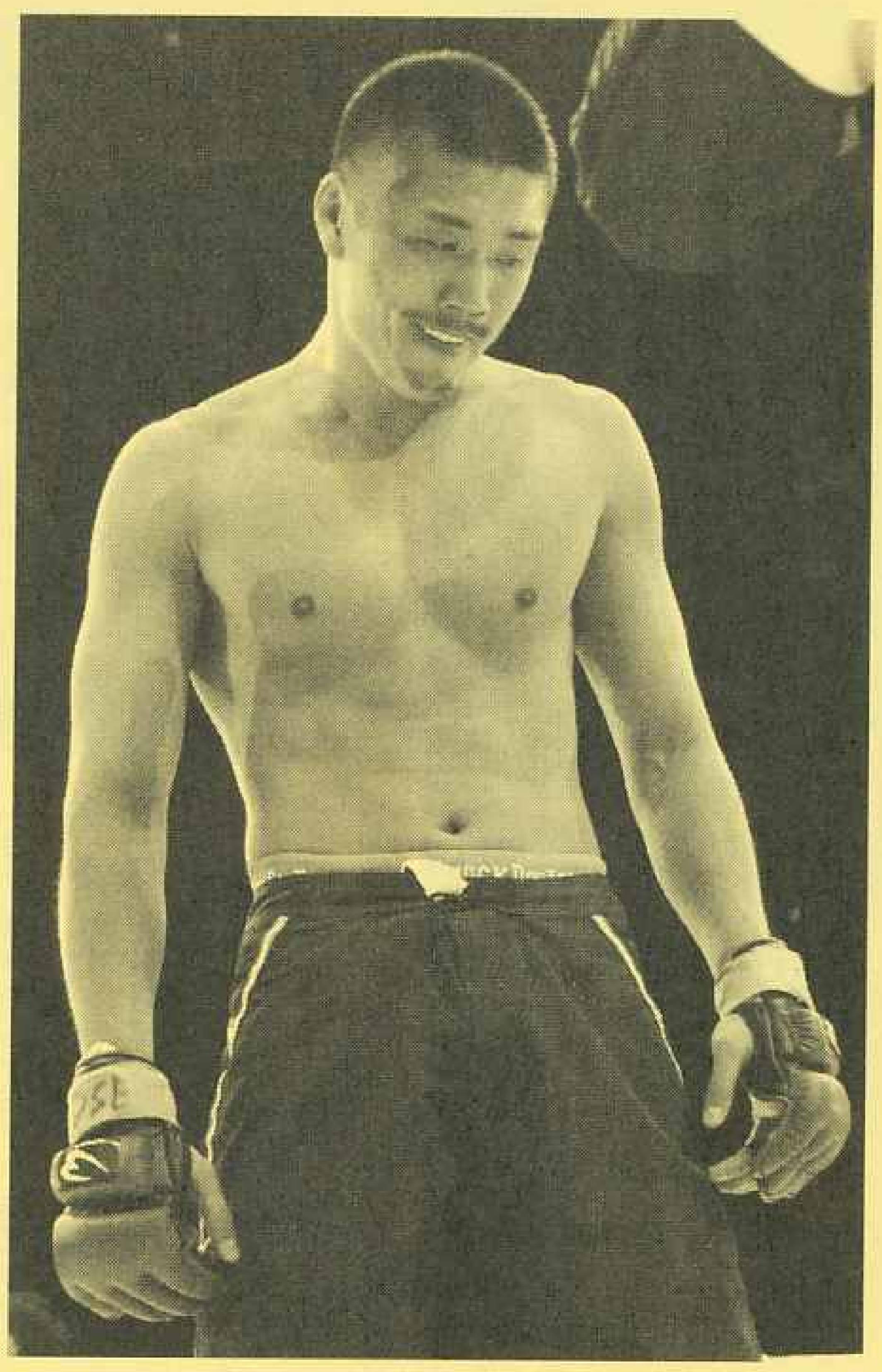
ガンツ　ハッキリ言って興行として危なかった!! でも、五味vsマッハ以降、そしてサクvs美濃輪から開始した後半戦は怒濤の巻き返しで、ずっと場内は湧きっぱなし。ズバリ、最高!!

チョロ　結果的に大盛況だったみたいだけど、『PRIDE』のマッチメイクは、試合展開や興行全体を計算しづらいところがあるんじゃない？　逆に『Dynamite!!』は逆に想定している節があると思うし。

ジャン　その想定さを好む人がいれば、皮膚感覚で拒否する人間もいますよね。

真下　ベタな例えかただけど、かつての新日本派と全日本派のように好みが分かれるわけですよね。

PRIDEの構造上、〝金子賢〟的なものは中心にできない（ガンツ）



大きな波紋を呼んだ俳優・金子賢の『男祭り』参戦は、『PRIDE』という舞台のあり方を考えさせられる機会となった。俳優業を捨ててまで転身した金子賢の今後も興味深い。次の戦場は果たして……!?

ジャン　でも、『PRIDE』が想定してないかといえば、そんなことはないし、『Dynamite!!』にもまったく想定外のこともあったと思うんですよ。

チョロ　中尾vsヒーリング戦みたいに（笑）。

ジャン　（至って冷静に）中尾の外見的には想定内ですけどね。

一同　（声を揃えて）異議なし!!

ジャン　あと『男祭り』の想定内といえば、髙田本部長のフンドシ太鼓！

ガンツ　会場入りして天井を見上げたら、当たり前のように太鼓がぶら下がっていたからね。大人数のダンサーが踊り狂うタップダンスよりも、いつ太鼓が降りてきて、フンドシ姿の本部長が登場するのか気になって気になって（笑）。

ジャン　話を戻せば、『PRIDE』と『Dynamite!!』も突き詰めると売り物は限りなく近いけど、一番目立つ場所に置きたい売り物や、絶対に譲れないポリシーがそれぞれあると思うんです。

真下　加えて、構造的に大きな差もありますよね。これは菊地（成孔）さんがよく言っていることなんですけど、DSEのやってることは、『PRIDE』でボクシング的世界観を突き詰めて、『ハッスル』でサーカスをやっていると。でも恐ろしいことに、K−1はそこを分家しないで格闘技の中だけで両立してるんです。

チョロ　『Dynamite!!』には『ハッスル』と『PRIDE』を一緒にやっているような雰囲気がありましたね。所vsホイスを手に汗握りながら見て、試合後、トイレに行ったら、なぜか泉ピン子と出くわしたり。残念ながら斉藤清六は見つけられなかったけど。

ジャン　同じ斉藤のボクが質問しますけど、これまではその同居具合がハレーションを起こしていたけど、いまは一つの世界に完成されつつあるってことですか？

真下　そうなんですよ！『Dynamite!!』でサーカスとボクシングを一緒に楽しめたことは凄く驚いた。そこはたまたまなのか計算づくなのかはボクはわかんないけど。

ジャン　K−1が主導権を握ってDSEと共催していた頃の『猪木祭り』や『Dynamite!』には、そういう〝計算づくさ〟を感じましたから、そこは確実に狙っていると思いますよ。

真下　それで今回の『男祭り』で気になったのは、やっぱり金子賢の参戦ですよね。結果的に両イベントを通じて金子賢の試合が瞬間最高視聴率を記録しましたけど、やっぱり対K−1、対視聴率という面からの投入だったんですよね？

ガンツ　いや、視聴率面での対抗意識はそんなに強くなかったと思いますよ。ズバリ言うと、今回の『男祭り』参戦は、CXの清原プロデューサーと金子賢の個人的なつながりから生まれたものだって話も聞くし。それに金子賢の試合自体の視聴率は15〜18パーセントあたりをウロウロしてて、そんなに高くないんだよ

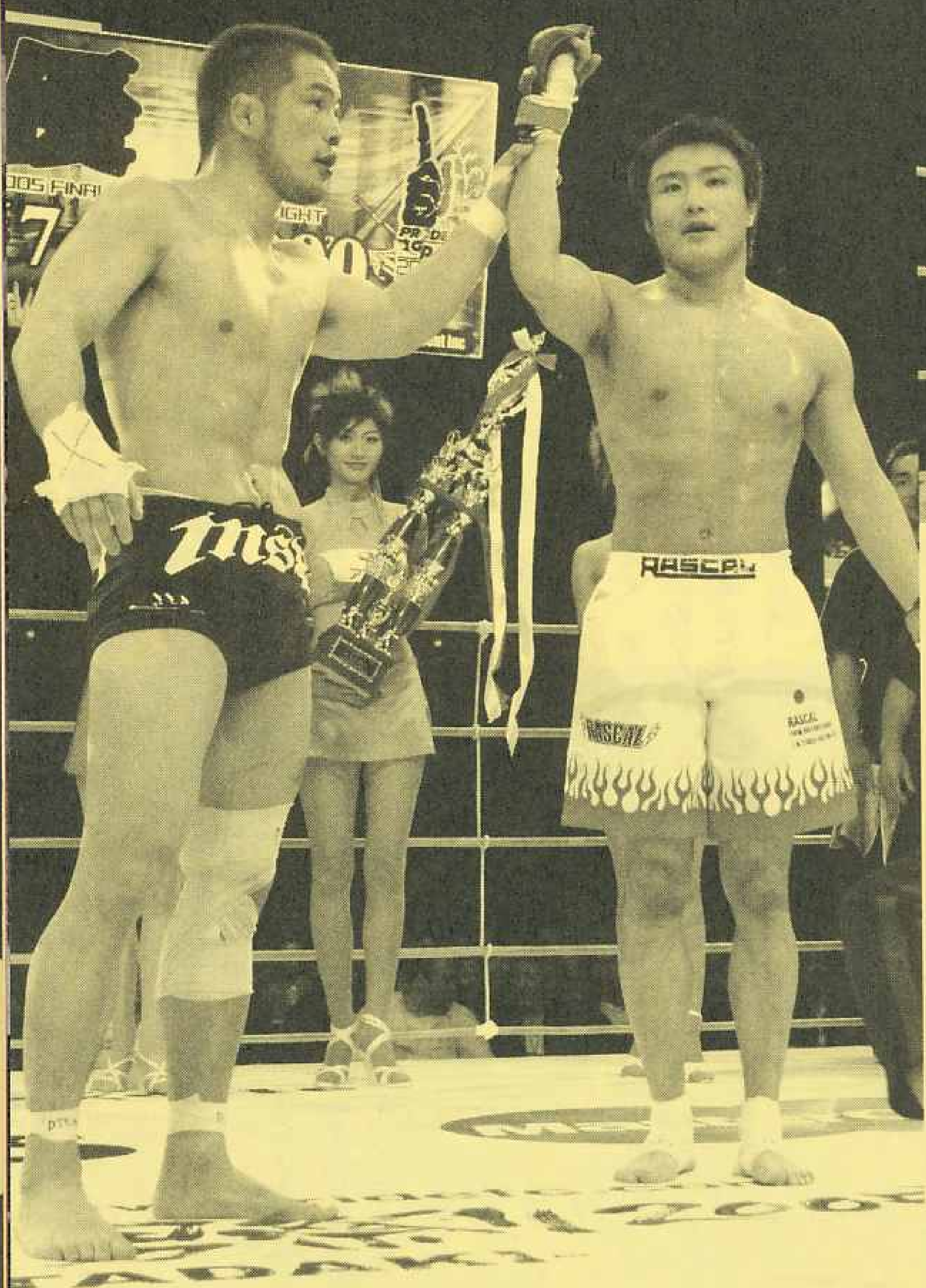


韓流スター、クォン・サンウがゲスト来場。ズバリ、ありがたみがまったくわからないのだが、彼の姿見たさにおばさん連中がVIP席を購入!! す、凄すぎる！





『PRIDE』の本筋である強者同士の誇りを懸けた闘い。五味vsマッハ、ミルコvsハントなど、メイン級のカードが目白押し。大晦日だからこそ実現できたイベント構成だ。



突き詰めると、両イベントの"売り物"は限りなく近いけど……(ジャン)

ね。それがなぜ瞬間視聴率を記録したのかは、今号本誌42ページの佐藤大輔さん（フジテレビ『PRIDE』チーフ・ディレクター）インタビューを参照ということで（笑）。

ジャン 一つだけ言えるとすれば、金子賢で視聴率を獲得しても『PRIDE』側を迷わせるだけですよね。

真下 でも、これによって今後も芸能路線を混ぜてしまえる可能性を残しちゃったと思うんですよ。金子賢の参戦に関しては、外部はもちろん内部でも賛否両論があったみたいですけど、結論として視聴率を取った。今回の結果で『PRIDE』が芸能方面を盛り込んでいく可能性はあるんでしょうかね。

ガンツ ファンや関係者が一番心配しているのは、これによって『Dynamite!!』化が進むのか？ということでしょ。でも、『PRIDE』で"金子賢"的なものが中心になることはおそらくない。というか、できないと思う。だって一つのイベントで約5万人を動員して、PPVの件数も桁違い。なおかつ視聴率も獲得できる。これだけの超優秀ソフトをバッシングされてまで無理に手を加える意味がないわけだから。フジテレビから「じゃあこれからはずっと金子賢路線でいきましょう！」と言われたからって、首を縦に振るかといえば、間違いなく振るわけない。

ジャン でも、サップすら不可能だった3年連続20パーセント越えを果たしているジャイアント・シルバの参戦には激しく頷いてほしいですよ！

ガンツ ジャイシルは早くも今年の『男祭り』出場決定だろ（笑）。それで今回の視聴率結果で一番、驚いたのは、谷川さんが「●●●はテレビ向きじゃないし、まったく使えない」と散々否定してきた選手が高視聴率をマークしたことなんだよね（笑）。

チョロ ●●●の試合で巻き返して、『Dynamite!!』を抜いたんでしょ（笑）。

ガンツ いままでは伏字になってたんですけど、今回から伏字は外しましょう（笑）。●●●の正体とは、アローナです！（笑）。

ジャン え？ ▲▲▲のことじゃなかったんですか！

ガンツ ガハハハ！ そんな読み取り違いをする敗者は、去～れぇ～!!（声を裏返して）。

真下 仮にフジテレビの戦略があったとしても、ボクは金子賢の試合が瞬間最高視聴率を記録したことはかなりショックだったんですよ。瞬間視聴率でいえば、ボビーvs曙も良かったと聞いたから、もうそれなら芸能人路線の『ハッスル・マニア』を大晦日にやればいいじゃないか？っていうのが常にたどり着く結論で（笑）。

ジャン う～ん。大晦日『ハッスル・マニア』待望論はたしかにありますけど、テンポ良く編集した1時間放映が限度のような気が……。5分以上の試合を禁止するぐらいじゃないと、ダレちゃってキツイでしょうね。

ガンツ アントン戦以来の登場となるタッキー（滝沢秀明）とHGをメインにして、今回の小川vs吉田戦のように引っ張るに引っ張るなら5時間番組の可能性だけどね（笑）。

ジャン ハードゲイvsジャニーズ！ユー、ヤバイからこっちきてヤっちゃいなよ!!というか（笑）。

ガンツ ガハハハハ！

真下 真面目な話、芸能の取り組み方も問われてくると思うんですよ。プロレスが低迷している現状で『ハッスル』はプロレスという「廃れてしまったと」思われているシステムに芸能人を乗せて、プロレスを再興しようという試みだけど、格闘技は違うじゃないですか。つまり、格闘技は格闘技で評価されているのに、そこに芸能をブレンドするのはどうなんだろう？ と。

ガンツ いや、たしかにボビーvs曙や金子賢だけが高視聴率だったらお先真っ暗なんだけど、今回は両イベントとも番組中、高視聴率を持続してたんだよね。

真下 ブレもなく安定していることですよね。

ガンツ フジテレビ側が一番評価しているのは金子賢の瞬間最高や、平均視聴率で『Dynamite!!』に勝ったということよりも、高視聴率をずっとキープしていたことだから。

大晦日 勝ったのはどっちだ!? 編集部座談会

谷川　でも、僕
は難しいと思う
ビッグネームじ
と思うし。今回
率取ったからっ
いいものかなっ
けど、僕はボビ
はないし、でき
しいと思ってる
——一夜明け会
K—1ルールの
たい」って言っ
谷川　けっこう
ぁ。だって、こ
って、曙選手が
部分があるじゃ
——明らかに途
しちゃってまし
谷川　スタミナ
掴んで倒して上
ぱいっぱいだ
あれはイエロー
ですよ。相手が
たら、ボビーは
させるような試
——そうかもし
つ、前田さんが
を、「あの試合
チメイクに対す
えた」というよ
したけども。
谷川　それは、
見事にアップさ
思いますね。
——素敵な一言
谷川　そう思う
曙選手に言いた
まれ変わらない
ですよね。勝ち

小川直也のテーマは、「恥ずかしがらずに!!」だった（ジャン）

ね。

チョロ　大晦日5時間45分の番組で平均17パーセントも取っているのは、大晦日じゃなくても驚異的だよね。

ガンツ　でも、たしかに視聴率が高いにこしたことはないけれど、そこだけに拘るのは意味がわからない。だってさ、たとえば細木数子の番組が高視聴率だろうが、“お茶の間”に届いていようが、俺たちにとっちゃ本当に興味がないじゃない。

ジャン　『Dynamite!!』の内容が絶賛されているのに視聴率が良くなかった。いまさら言うことじゃないけど、視聴率って当てにならないですよ。たしかに一つのモノサシとしてあるのはいいですけど、そこを絶対的な基準で語っていると本質は見えにくくなりますし。

ガンツ　もう視聴率は気にするのはテレビ局や団体の方々にお任せしたいけど、視聴率が高くなることでそのイベントにテレビ局が協力を惜しまなくなる。ファンに恩恵があるとすれば、テレビ局が豪華なカードをバックアップしてくれたり。小川vs吉田戦なんて、大晦日に長時間の番組枠を割いて、テレビ局から資金援助してもらわないと実現不可能だよ。

ジャン　大晦日格闘技興行にテレビ局が莫大な資金を投入してるのは、伝説の日本テレビ版『猪木祭り』の公判で明らかになってますしね。

ガンツ　夢のカードを実現させてくれたり、たとえば古賀稔彦や井上康生とか一流の素材をリングに上げてくれるなら、ある程度テレビ局の都合は了解したい。ただ、本筋が見えなくなるのは問題なんだよね。一時期のK—1がなぜ批判されてたかって言ったら、“環状線理論”で言うところの、一般層ばかりをターゲットにした戦略を立てて、ある種、会場まで足を運ぶぐらいのファンさえも軽視してた部分があったようにファンが感じたからでしょ。でも、KIDvs元気のような極上のカードを組んでくれるのであれば、永ちゃんの歌だって喜んで聞きますよ。

ジャン　永ちゃん登場で会場は盛り上がったみたいですけど、永ちゃんが歌いだしたら「止まらないHa～Ha」という感じで視聴率低下していったのは残念ですよね。

ガンツ　いや、絶対に下がるって！　だって、かつての『8時だヨ！全員集合』vs『オレたちひょうきん族』の視聴率戦争のときも、みんな最初の20分間は『全員集合』のコントを見るけど、それが終わって歌のコーナーになったら、みんな『ひょうきん族』にチャンネルを変えてたでしょ？　それは当時絶大な人気を誇ってた松田聖子が出ようが誰が出ようが視聴率はガクンと落ちた。それりゃそうだよね、お笑いが好きで見てる人たちなんだから、歌よりも裏の『ひょうきん族』を絶対に見るよ。それと同じでしょ？　矢沢の歌よりもアレキサンダーvsナツラを見た人が多いっていうのは、それはそれで驚きだけど（笑）。

ジャン　結局、格闘技の場合も、格闘技の持つ本質で勝負するしかないところはありますよね。

ガンツ　話を戻すと、『PRIDE』はPPVやゲート収入、要は純粋な興行収益のビジネスを重視してるんだから。視聴率獲得のためだけに芸能路線をやったら、その『PRIDE』の興行形態を壊すことになる。今回の金子賢の投入がギリギリというか、会場のファンもそれがわかってて、金子賢を応援してたことにホッとしたね。

チョロ　もしくはやるんだったら徹底的にやってほしかったよね。“テレビの企画モノ”としてはやるんであれば、解説席にいた井上和香とかの即●●●●●マッチとか見たいよなぁ。そんなカード組まれたらザッピングなんてしてらんないよ！

ガンツ　（空気のように無視して）マイケル・ジャクソンの空手マッチでもやってくれりゃ、『kamipro』はもちろん意味もなくマイケルの空手特集をやるけど（笑）。とにかく、大晦日を経て両団体とも進むべき方向が見えたから、今年はもっともっとおもしろくなるでしょ。ただ、ちょっと不安があるとすれば、どんな豪華なカードでも物足りなくなるゼイタク病が心配ぐらいで。

ジャン　小川と吉田が向かい合ったときなんて、「もったいないから、やらないでくれ！」と思いましたからね。

ガンツ　『男祭り』は五味の試合で終わりでも満足できたんだもん。残りはまた来年でも良かったぐらい（笑）。

ジャン　それにしても、あの日の小川直也は最初から最後まで本当に異常でしたね。まずオープニングの入場式に出てきた時点でいつもと違ったし。

ガンツ　小川直也だったら絶対に出てこないよね。

ジャン　一昨年の『PRIDE・GP』開幕戦のときは、“GP主役の4人”の一人ということで、ミルコ、ヒョードル、ノゲイラらと一緒にリング上に姿を現わしましたけど。いわゆる“横一線”に並ばされるのを嫌うじゃないですか。

ガンツ　今回は、そんなことも気にならないぐらい、腹を括っていたということなんだろうね。

ジャン　次に驚いたのが試合前の控室レポートなんですよ。いつもだったら神妙な顔つきをしたレポーターが「小川選手の控室前ですが、扉は閉ざされたままで、小川選手はまったく姿は見えません……」という絵になるはずが、控室で幕の内弁当を食べてる姿を平然と見せているんですよ！

真下　あの絵は完全に『ハッスル』のスキットですよね（笑）。

ジャン　カメラをまったく気にせず弁当の味について、なんやかんや藤井軍鶏侍に言ってるふうで。アン・ジョー司令長官と島田二等兵がいつ乱入してもおかしくない雰囲気だったというか（笑）。

ガンツ　そのまま拉致されてジュードー・オーが代わりに現われたら、大暴動になってたろうけど（笑）。

ジャン　だから今回の小川直也は、いつもとは考えられないほどすべてをさらけ出していた。つまり、キーワードは破壊王追悼出陣らしく「恥ずかしがらずに！」だったと思うんですよね。

ガンツ　『爆勝宣言』のテーマで入場しながら、うっすらと涙を浮かべていたし。自分で自分のことを感極まっちゃうのなんて破壊王イズムでしょ（笑）。

ジャン　破壊王を持ち出したことや、「プロレスを背負う」ことに対して反論はありましたけど、一歩間違えば、批判されかねない状況を綱渡りするかのような瀬戸際の闘いをこなしていたと思うんですよ。だって今回の吉田戦に関していえば、破壊王やプロレスをとくに背負う必然性はないんですから。でも、やるしかなかったんですよ！

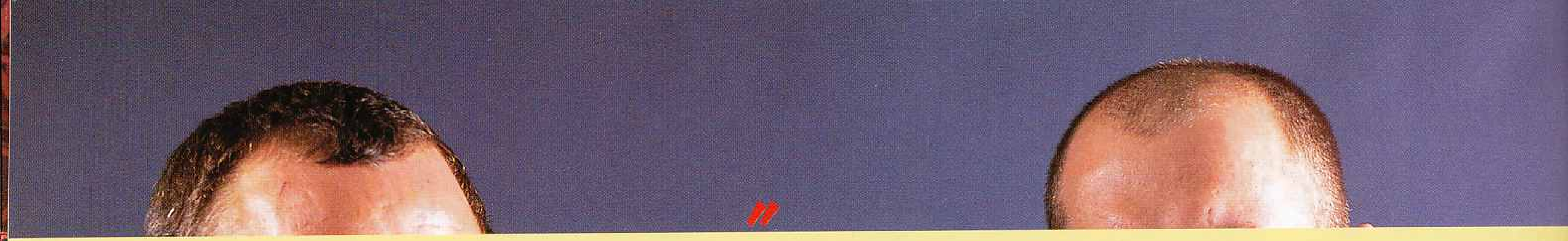
ガンツ　五輪や全日本柔道選手権のエピソード、吉田秀彦との関係性だけで十分刺激的なのにね。そもそもあの大袈裟な前奏付きの『爆勝宣言』が『PRIDE』の会場に流れること自体がありえない（笑）。

チョロ　しかっし、『爆勝宣言』は盛り上がるよねえ。条件反射的に「ハッシモト!!」コールをしたくなる！

ジャン　破壊王が「ボンバイエを超えるテーマ曲を作ってみろ、この野郎。できるもんならやってみろ」って言ってましたけど……『爆勝宣言』がとっくに超えてたんですよね。今回の大晦日でそれがわかりました。

ガンツ　小川の最大の目的は、破壊王のことをもう一度、世の中の人に思い出してもらうということ。そんな『PRIDE』とは関係ないことを、クソ真面目に最後まで徹底的にやり抜いたことは凄いと思うよ。

ジャン　空気を読めないという意見もあるかもしれないですけど、本当に小川のやりたかったことは、すべて“試合外”に集中してたんですよね。そして勝っても負けてもハッスルする！　と。一番いいのは勝ってハッスルすることですけど、普段は『ハッスル』で髙田総統にやり込められている小川が、脚を折られ



て、腕を極められて負けてるのに、あの場を仕切ってるわけですから。

真下　あれは小川史上で一番、良いマイクですよね～。

ジャン　なんで負けた人間が堂々と「吉田！　おぶってくれよ！」「ファンの声が聞こえないのかよ！」とかマイクアピールしてるんだっていう話なんですけど（笑）。

ガンツ　俺はあのシーンを見て、破壊王が両国で腕を脱臼した試合を思い出したよねえ。腕は吊りながらマイクを持って「一生懸命やったら勝ったぞぉ！」っていう（笑）。あの強引なマイクの締めも破壊王ばりだよ。

ジャン　おそらく、吉田は吉田でも、本名・吉田光雄こと長州力にハッスルポーズを断られて動揺した教訓が活きたと思うんですよねえ。

ガンツ　（急に冷静になって）それはまったく関係ないと思う。最後のズッコケ具合も最高だったけどね。"トルネード・ハッスル"をやろうと呼びかけておいて、やり方を間違える（笑）。あれでこそ、小川直也でしょう。

ジャン　泣けて笑える小川直也（笑）。とにかく、新日本大阪ドームの"ハッスル阻止騒動"のときもそうですけど、グレーゾーンに入ったときの小川直也の立ち振る舞いは本当に痺れますね。『ハッスル』的なアドリブが要求される世界では、いまいち本領発揮はできないですけど。

真下　逆にグレーな世界のスタンドプレーだったらイケる、と。

ガンツ　猿さんも言ってたけど、そこは猪木イズムなんだよね。"最後の最後においしいところを持って行く"という。ただ、小川の場合はよっぽどのときしか爆発しないんだけど。それでも、小川の場合は十分過ぎるぐらい発揮してるんだけどね。破壊王との抗争、『PRIDE・GP』でのハッスルぶり。並のプロレスラーが一生掛かっても生み出すことのできない興奮を、何度も何度もやってのけるんだから。

真下　本当に十分ですよね。

ガンツ　極端な話、これからは『ハッスル』のオープニングで、長さん（いかりや長介）ばりに「オイッ～ス!!」って挨拶してるだけでもいいよ（笑）。髙田延彦が『PRIDE』で丸裸になって生き様を見せつけて"PRIDE統括本部長"に就任したように、小川直也は"ハッスル統括本部長"になってもいいぐらいだよ。

チョロ　ん～、個人的には小川の本当の実力ってあんなもんなのかあと思っちゃったけどねぇ。

ジャン　その見方は至って健全です。だけど小川直也の最強幻想的な見方って、ボクはヒョードル戦で一旦閉まってますから。いまは、誤解を恐れずにいえば、いつ何時、大恥をかいてしまう機会に見舞われるプロレスラーとして、ハラハラドキドキしながら見てるんですね。

チョロ　でもやっぱり、菊田とかからスポセン伝説をよく聞いたんで、どこまでいっても小川の実力を期待して見ちゃうとこがあるんだよね。よく言われるけど、総合じゃなくていいんで、アブダビとかでブッチ斬りの優勝とかしてくれたら最高なんだけどなぁ。

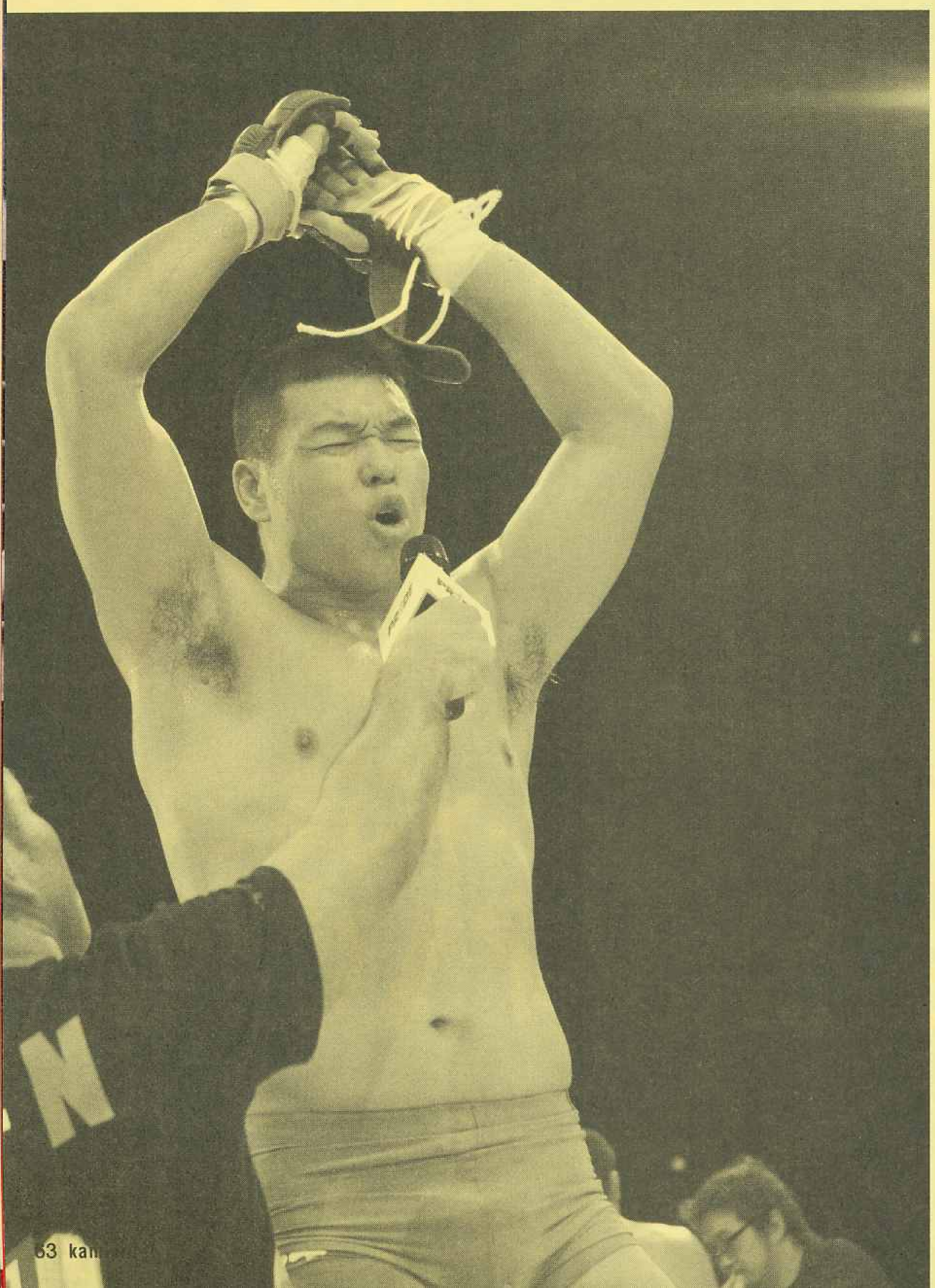
ガンツ　逆に俺は、小川直也は本当に強いと感心したけどね。だって軍鶏侍と柔道とボクシングの練習しかやってないんだよ。それでヴァンダレイと互角に闘う吉田秀彦の顔を腫らして、足を怪我してるのに辛い表情を一度も見せずにスイープしたり。その小川を極めきった吉田秀彦もすばらしい！　あの雰囲気の中でハッスルを拒否したこともなかなかできることじゃないよ。ゲッツは率先してやっても、ハッスルは絶対にやらないところがいいよ。

ジャン　そんなことといって今年の大晦日には小川と一緒に「パワーアップでオー!!」とかやってたらズッコケますけどね（笑）。

ガンツ　ガハハハ。二人には底知れぬ強さと人間力を感じたね。ヒョードルを筆頭とするいまの『PRIDE』のリング的には、"頂"でもなんでもないんだけど。それ以外の興奮度や感動、緊張感なんかはすべて"頂"だったよ。

真下　プロレス的なマッチメイクでいえば、まさしく"頂"ではあるけど。いまの『PRIDE』で、そういう試合が行なわれたことはどうなんですか？　一般の人は今回はオリンピックというキーワードの延長線上で見てたところもあったと思うんですけど。

ジャン　いや、この一戦こそが『PRIDE』の本領なんだと思いますよ。『PRIDE』の転換期って、じつはノゲイラ参戦とともに訪れていて、それから"世界最強決定戦"



谷川　でも、僕
は難しいと思う
ビッグネームじ
と思うし。今回
率取ったからっ
いいものかなっ
けど、僕はボビ
はないし、でき
しいと思ってる
――一夜明け会
K―1ルールの
たい」って言っ
谷川　けっこう
ぁ。だって、こ
って、曙選手が
部分があるじゃ
――明らかに途
しちゃってまし
谷川　スタミナ
掴んで倒して上
ぱいいっぱいだ
ですよ。相手が
あれはイエロー
たら、ボビーは
させるような試
――そうかもし
つ、前田さんが
を、「あの試合
チメイクに対す
えた」というよ
したけども。
谷川　それは、
見事にアップさ
思いますね。
――素敵な一言
谷川　そう思う
曙選手に言いた
まれ変わらない
ですよね。勝ち

としての緊張感が高まったと思うんですよね。それまでも強者を決めようという雰囲気はあったんですけど、どちらかといえば、他流派同士の果たし合いの色が強くて。

ガンツ　サクvsグレイシーなんかもまさしくそうだし。『PRIDE』は、もともとは世界最強を決める場じゃなくて、男と男がプライドを賭けて闘う場でしょ。だからこそ、ミドル級の最強を決めることには、まったく関係のない桜庭vs田村が毎年待望されてるんだから。

真下　ヒョードルvsミルコ戦が終わって〝世界最強決定戦〟に一区切り付いたからこそ、そんな〝頂〟が待望されたところもあったような気もするんですけども。

ガンツ　いや、ヒョードルvsミルコ戦も、ただ強い者同士の試合を通り越して、人間ドラマとしての凄みがあるから、あそこまで感情移入できたわけでしょ。あれは試合内容が超ハイレベルだったというだけで、構造的には小川vs吉田とかと同種のものだと思うよ。それはシウバvsアローナしかり。

ジャン　だからこそ、そういったドラマが希薄だったダンヘンvsブスタマンチは、間違いなくウェルター級最強を決める一戦にも関わらず、ヒョードルvsズール以下の興味しかなかったわけですよね。

ガンツ　ヒョードルvsミルコにしても、小川vs吉田にしても、人間ドラマがあるからこそ『kami pro』は追いかけてるわけで。つまり、すべてを失いかねない戦場に向かっていく男たちと、その気持ちを共有しようというわけだよね。

ジャン　とはいうものの、勝手に応援して、勝手に観察して、勝手に興奮してるわけですけど（笑）。

ガンツ　いま俺たちが小川vs吉田戦について語ってることはさ、マニアのド変態的な思考だよ！

チョロ　比較的新しいファンだったら、「技術的にはレベル低いんじゃない？」って言われてそうだもんね。

ジャン　でも、人間力のレベルはメチャクチャ高いんですよ！

ガンツ　それは髙田の引退試合だった田村戦もそう。あんな展開のない試合なのに、UWFマニアのド変態だけには年間最高試合級に大好評だったんだから（笑）。

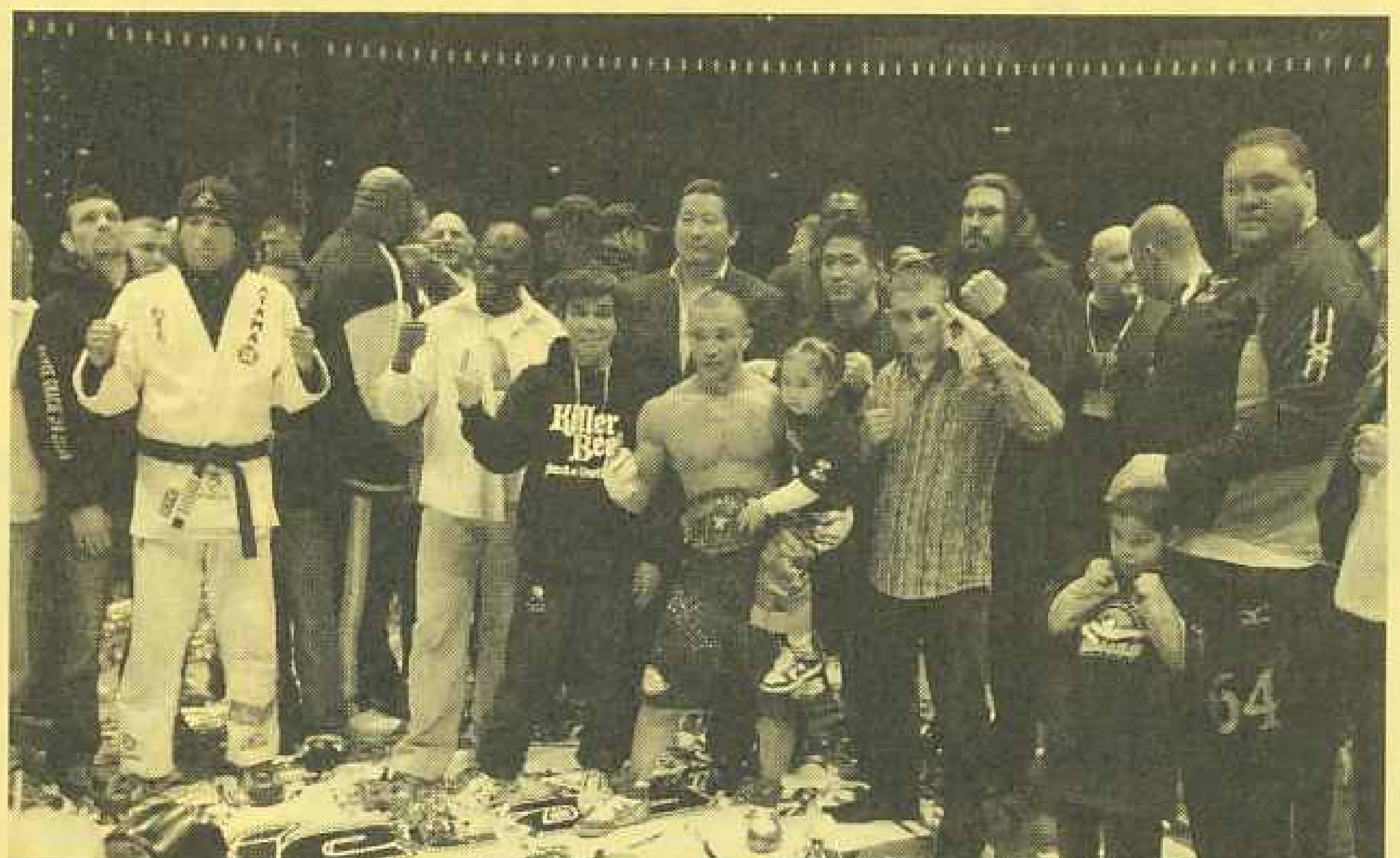
ジャン　あの試合は1ラウンドが終わったあと、普通の『PRIDE』ファンからはブーイングがありましたからねえ。

真下　僕の知り合いでプロレスを知らない人もあの試合は「つまらなかった」と言ってましたね。UWFの文脈を知らない人にはわからなくて。逆にわからないことが頭にきちゃってる。その人はフラストレーションがたまって、次の桜庭の試合途中で帰っちゃったし。

ガンツ　わかりづらいにもほどがぁるでしょ。田村潔司は坊主頭で登場して、かつての師匠に新弟子として向き合おうとしたんだけど。そういうわかりづらいシグナルをクソ真面目に見て、しかも勝手に試合の意義を解釈することができるのが、変態プロレスマニア（笑）。そういう俺たち〝変態〟に向けたカードを組んでくれるから『PRIDE』を見続けてるわけだからね。

ジャン　それこそプロレスラーには闘う動機が必要じゃないですか。ある意味、小川は〝なぜ俺が『PRIDE』に上がるのか？〟と動機を〝恥ずかしがらずに〟出し尽くしたと思うんですよ。

大晦日の結論はどっちもおもしろかった!!（ガンツ）





高視聴率をキープし続けたが両イベントだが、“格闘技バブル”の破裂を指摘する声も挙がっている。今年の大晦日までの道のりには、どんなドラマが待っているのか？　激化する覇権争いの行方は楽しみでしょうがない!!

チョロ　その〝動機〟という意味では、あの小川vs吉田戦をリングサイドで見ていた橋本大地くんも、プロレスより『PRIDE』のリングに上がりたくなったんじゃないかなあ……。

ジャン　……へんな話、今回の試合はトラウマになりますよね。それが良い意味でなのか、どうなのか。でも、単なるスポーツ・プロレスを見るよりは感じるものは多いはずですけど。

ガンツ　それは五味の試合でも感じることであって。大袈裟にいうと、一緒に青春を過ごしたような気持ちになるもんね。もうこれこそ勘違いの極みかもしれないけど（笑）。

ジャン　これだけいろいろしゃべっても、小川本人には「は？　全然違う！」って言われたりしそうですし（笑）。

ガンツ　でも、それで全然オッケーなんだよ。すべて誤解から成り立ってる。アントニオ猪木なんかあんなにファンに大いなる勘違いをさせる才能がとてつもなくあったからでしょ。ホントは猪木は何も考えてないんだから！

ジャン　I編集長が勝手に超訳していただけで。

ガンツ　髙田延彦、田村潔司の物語とか、すべてこっちの勝手な解釈だもんね。そうじゃなかったら田村潔司なんて、ただの〝変人〟だよ（笑）。

ジャン　ワハハハ！　その〝変人〟担当として言葉の重みが違う（笑）。

ガンツ　その〝変人〟を勝手に読み解く〝変態〟の楽しさがある。それも含めてプロレスだと思うんだよね。俺たちはなぜプロレスを読み解いたり、人生体験にしてきたかというと、勝手に自分と共通体験にしたりして考えてるからこそ、単なる娯楽じゃなくて商売としてやってられるんだよ。

ジャン　え〜、そろそろボクら〝変態〟たちが大晦日、どっちがおもしろかったか決めましょう！

ガンツ　どっちもいいんじゃない（笑）。

ジャン　ま、どっちもおもしろかったですから（笑）。では、MVPを挙げるとすれば？

ガンツ　（さえぎって）〝変態〟が決めるってこと中尾さんでいいんじゃない？

変態一同　（声を揃えて）異議なし!!

【06年1月9日／編集部にて収録】



絶対王者同士が
"最強同盟"結成!?

PRIDE 頂上対談

PRIDEミドル級絶対王者
ヴァンダレイ・シウバ

×

PRIDEヘビー級絶対王者
エメリヤーエンコ・ヒョードル

1月も後半となりましたが、kamiproからのお年玉企画！ 『男祭り』の激闘から一夜明けた2006年の元旦に『PRIDE』が誇るヘビー級とミドル級の"絶対王者"ヒョードルとシウバの夢の対談が実現！ 世界の格闘技界が驚愕する最強同盟がここに結成された！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／丸山剛史　試合撮影／平工幸雄　designed by hisa (TwoThree)

——今日はPRIDE絶対王者同士の夢の対談が実現できて、じつに光栄です！

シウバ　俺もヒョードルとこうして対談ができてうれしいよ。

ヒョードル　私も光栄ですね。シウバ選手はずっと尊敬していた選手ですから。

——先ほども凄く仲良さ気に談笑してましたけど、けっこうしゃべったりするんですか？

シウバ　最近、仲良くなったんだよ。

ヒョードル　以前から挨拶はよく交わしていたんですけど、私もシウバ選手もあまり英語が得意ではないので（微笑）、特別親しいわけではなかったんですけど、ちょっと前にフランスで会う機会があって、そのあと仲良くなったんです。

——フランスですか？

ヒョードル　そうです。一緒にユーロ・ディズニーランドに行ったんです（微笑）。

——絶対王者同士が一緒にディズニーランドですか！　まさか二人で手をつないで行ったわけじゃないですよね？（笑）。

シウバ　ガハハハ！　残念ながら、そこまで深い関係じゃないな（笑）。

——どうして一緒にディズニーランドに行くことになったんですか？

ヒョードル　昨年8月の試合のあと、私もシウバ選手もたまたま同時期にフランスでセミナーがあったんですよ。

シウバ　俺もヒョードルが同時期にフランスに来てるって聞いたから驚いてさ、連絡を取り合うようになったんだけど、そしたらヒョードルが「ディズニーランドに行きたい」って言ってさぁ、俺も行ったことがなかったから、「じゃあ、一緒に行くか」って話になったんだよ（笑）。

——それって二人っきりで行ったんですか？

WANDERLEI SILVA×EMELIANENKO FEDOR

フランスで一緒にディズニーランドへ行ってきました（微笑）

そこからヒョードルとは仲良くなったんだよな（笑）



シウバ　もちろん二人だけじゃなくて、他にもいたけど、誰と一緒だったかはプライベートの話なので、シークレットだ。ガハハハ。

——まぁ、男二人で行くわけないですよね（笑）。そのフランスのセミナーはまったく別々だったんですか？

シウバ　別々のセミナーなんだけど、ホントにたまたま同時期だったんだ。俺もヒョードルがどんなセミナーをやるのか凄く興味があったから、見に行きたいと思っていたんだけど、残念ながら時間が合わなくて、セミナーを見学することはできなかったよ。

——ヒョードル選手もシウバ選手の技術は、もちろん興味ありますよね？

ヒョードル　もちろんです。細かいテクニックだけでなく、どんなフィジカル・トレーニングをやっているのかも興味がありますね。

——では、お互いから見て一番凄いなと思うところはどこですか？

シウバ　一つだけということは難しいな。ヒョードルはスタンドに関してもグラウンドに関しても強い、コンプリートなファイターだと思うし、気持ちが強い男だなと思うからね。

ヒョードル　ありがとうございます。私から見てもシウバ選手のテクニックは素晴らしいものがあると思います。とくにスタンドの打撃に関しては、私にとって良いお手本でもあるし、手足のコンビネーションが素晴らしい。あと、もちろんサッカーボールキックや踏みつけなども、彼が『PRIDE』にもたらしたもので、彼の登場によって『PRIDE』の技術体系が変わったんじゃないかと思います。

——最近、ヒョードル選手も踏みつけをやるようになりましたけど、それはシウバ選手の影響だったりするんですか？

ヒョードル　それは言えますね。シウバ選手の試合は常に勉強になるので、参考にして自分のものにしているテクニックはいくつもありますよ。

シウバ　俺もヒョードルのパンチは凄いと思うよ。さっき俺が『PRIDE』の技術体系を変えたと言ってくれたけど、ヒョードルの登場によっても同じことが起こったと思うね。ヒョードルがミノタウロ（ノゲイラ兄）を倒したことで、みんなが〝パウンド〟というものの重要さを認識したと思う。あの試合以降、ブラジルでは「ヒョードルとミノタウロが10回闘っても10回ヒョードルが勝つ」って言われてるんだよ。

ヒョードル　ありがとうございます（微笑）。

——シウバ選手もやっぱりそう思いますか？

シウバ　ああ。ハッキリ言って、いまヒョードルに勝てる選手は誰もいないね。

——では、お互いが最初に「こいつは凄いな」と思ったのはどの試合ですか？

シウバ　やっぱり最初にミノタウロを倒したときだな。あの当時無敵だと言われていたミノタウロが防戦一方なんだから、とん

でもないヤツが現われたと思ったよ。

――最初にノゲイラが敗れたときっていうのは、やっぱりブラジルでもかなり話題になりましたか？

シウバ　まさに衝撃だったね。あの試合はテレビでも放送されたし、雑誌でも特集が組まれて大きな話題になったよ。そしていまではヒョードルはブラジルでも凄く人気があるんだ。

ヒョードル　歓迎していただけるなら、ぜひブラジルに行ってみたいですね（微笑）。

シウバ　もちろん大歓迎するよ！

ヒョードル　できればリオのカーニバルがある2月がいいですね（微笑）。

――ヒョードル選手はシウバ選手の試合でどの試合が一番印象に残っていますか？

ヒョードル　う～ん、一試合を選ぶのは難しいですね。シウバ選手の試合はどの試合もエキサイティングですから。その中でもとくに選ぶとしたら、サクラバサンとの試合と、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンとの試合。そしてマーク・ハントとの試合ですね。私の考えでは、シウバ選手はマーク・ハントに勝っていたと思いますし。

――お二人ともヘビー級とミドル級の"絶対王者"と言われていて、次のチャレンジャーがなかなか見当たらない状態ですけど、お互いから見て、「この選手と闘ったら面白い」という選手はいますか？

シウバ　じつは最近、ブラジルでもそういうアンケートがあったんだよ。でも、ヒョードルはあまりにも強すぎるので「この選手」という名前が挙がってこない状態だね。

――そうなると、そろそろヴァンダレイ・シウバが相手するしかないんじゃないですかね（笑）。

シウバ　いやぁ～（苦笑）。そりゃあ、以前は俺とヒョードルが闘ったら、どんな凄い試合になるんだろう？　と考えたことはあったよ。でも、いまは仲良くなってしまったし、リスペクトしている相手だったから、いまはあまり闘いたくはないな。

――ヒョードル選手はシウバと誰が闘ったらいいと思いますか？

ヒョードル　…………わかんない（笑）。

――わかんない（笑）。

ヒョードル　シウバ選手は誰と闘っても激しい試合をしますからね。だから強いと言われている選手となら、誰と闘っても興味深い試合になると思います。シウバ選手の試合は、本当に会場が沸きますからね。『PRIDE』で闘うファイターのお手本という言葉が一番合っていると思います。

――ちょっと小耳に挟んだんですけど、ヴァンダレイ選手がヒョードル選手に「プロとしてもっと観客を盛り上げるために、プロレスの盛り上げ方を勉強したほうがいい」とアドバイスしたって聞いたんですけど、これはホントですか？

ヒョードル　…………ちょっと覚えてないです（微笑）。

――あ、忘れちゃった（笑）。

シウバ　いや、ヒョードルに直接言ったわけじゃなくて、ミルコ・クロコップ戦を見たあとにエージェントのミスター・カワサキ（川崎浩市＝ブッカーK）とそういう話をしていたんだ。ヒョードルはあれだけ強いんだから、あとはプロとしてのエンターテインメントの部分を学んだら、人気がいまより遥かに大爆発するだろうってね。それで、日本を発つときにバスに乗る前にちょっと話したんだけど、言葉がうまく伝わらなかったみたいだね（笑）。

――なるほど。

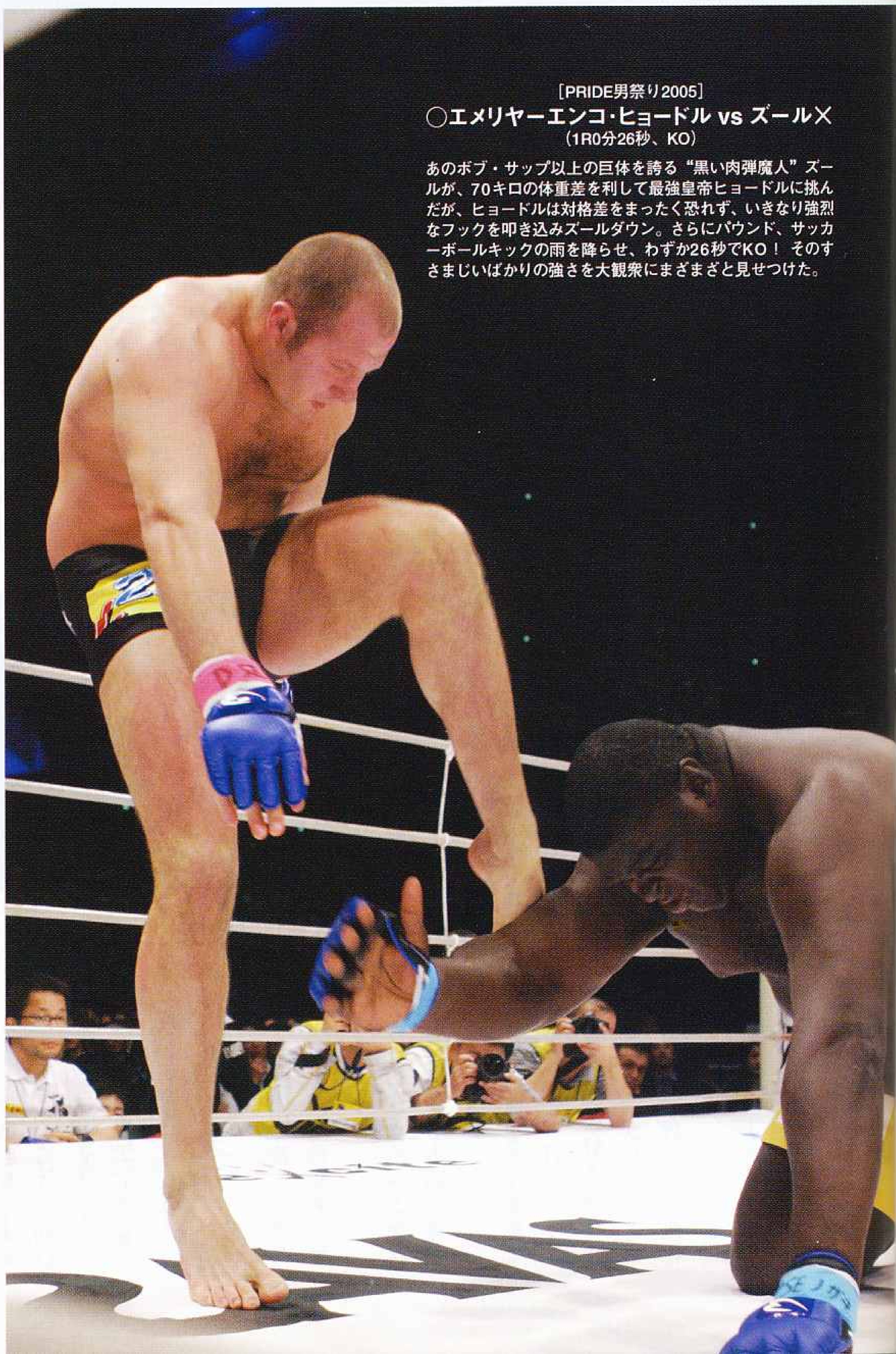
シウバ　まぁ、でも彼には彼のスタイルがあるから、あくまで俺個人の意見だけどね。昨日の試合だって、ズールをあっという間にKOして会場も盛り上がっていたから、もう言うことはないよ。

――ヒョードル選手は、昨日のシウバvsアローナ戦についてどのような感想を持ちましたか？

ヒョードル　ミドル級のタイトルマッチに相応しい、レベルの高い試合でしたね。とくにシウバ選手は前回8月に負けてしまったあの試合でのミスや弱点をちゃんと克服していたことに関心しました。アローナ選手も素晴らしかったと思いますけど、気持ちや準備の面でややシウバ選手が上回ったのだと思います。

――ホントにレベルの高いライバル対決でしたよね。では、シウバ選手から見て、8月のヒョードルvsミルコのライバル対決というのはどう感じましたか？

シウバ　ヒョードルの進化にはまたしても



[PRIDE男祭り2005]
○エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ズール×
（1R0分26秒、KO）

あのボブ・サップ以上の巨体を誇る"黒い肉弾魔人"ズールが、70キロの体重差を利して最強皇帝ヒョードルに挑んだが、ヒョードルは対格差をまったく恐れず、いきなり強烈なフックを叩き込みズールダウン。さらにパウンド、サッカーボールキックの雨を降らせ、わずか26秒でKO！　そのすさまじいばかりの強さを大観衆にまざまざと見せつけた。



[PRIDE男祭り2005]
○ヴァンダレイ・シウバ vs ヒカルド・アローナ×
（3R終了 判定2-1）
昨年8月のGP準決勝で、同階級としては『PRIDE』で初めて土を付けられたシウバが、ベルトを賭けて闘うリマッチ。シウバは前回、消極的な闘いで判定負けとなった反省を踏まえ序盤から積極的に飛ばし、アローナの弾丸タックルもしっかり切って試合を優勢に進める。後半、アローナも得意の寝技に持ち込むが、極めるまでには至らず。結局、僅差の判定でシウバがリベンジ。王座防衛に成功した。

WANDERLEI SILVA×EMELIANENKO FEDOR

驚かされたよ。俺はまさかあのミルコを相手にスタンドの打撃で勝負するとは思わなかった。それだけに、ミルコを圧倒するヒョードルのムエタイテクニックには本当に驚かされたし、しかも、チャンピオンであるヒョードルが終始アグレッシブに攻めていたところも素晴らしいと思ったね。

——日本のファンもミルコがあんな姿を晒すのを見たのは初めてみましたよ。

シウバ　あそこまでミルコを追い込むというのは、大変なことだよ。あの闘いを20分間続けるというのがどんなに凄いことか。ファンだけでなく、ファイターから見ても凄い試合だよ。

——あれ以降、ミルコはジョシュ戦、そして昨日のハント戦とスタンドでも苦戦が続いていますが、その原因はヒョードル選手が〝ミルコ攻略法〟を編み出したからだと思いますか？

シウバ　そりゃそうだろ。ヒョードル自身だってそう思ってるんじゃないか？

ヒョードル　ま、そういった部分もあるでしょうね（微笑）。でも、本当にミルコに対して一番最初に打撃で真っ向勝負したのは、隣にいるシウバ選手ですから。

——ああ、そういえばそうですよね。2002年にK—1時代のミルコと真っ向勝負してましたもんね。

シウバ　そういってもらえると嬉しいけど、やっぱりミルコも凄いファイターには変わりないよ。いまはちょっと苦戦が続いてるけど、彼のことだからまた復活してくるんじゃないかな。

——昨日、ミルコに勝ったことでヒョードルvsマーク・ハント戦が見たいという声が早くもファンから上がり始めているようですけど、この試合はどう思いますか？

ヒョードル　きっと面白い試合になると思いますよ。

シウバ　いやぁ、ハントはまだまだヒョードルに勝てるかもしれないというレベルにはいってないと思うね。ハッキリ言って、バーリ・トゥードで彼がヒョードルに勝つことは極めて難しいと思う。

——じゃあ、K—1ルールでやったほうが面白いくらいですか？

シウバ　俺はたとえK—1ルールでやったとしてもヒョードルが勝つと思ってるよ。

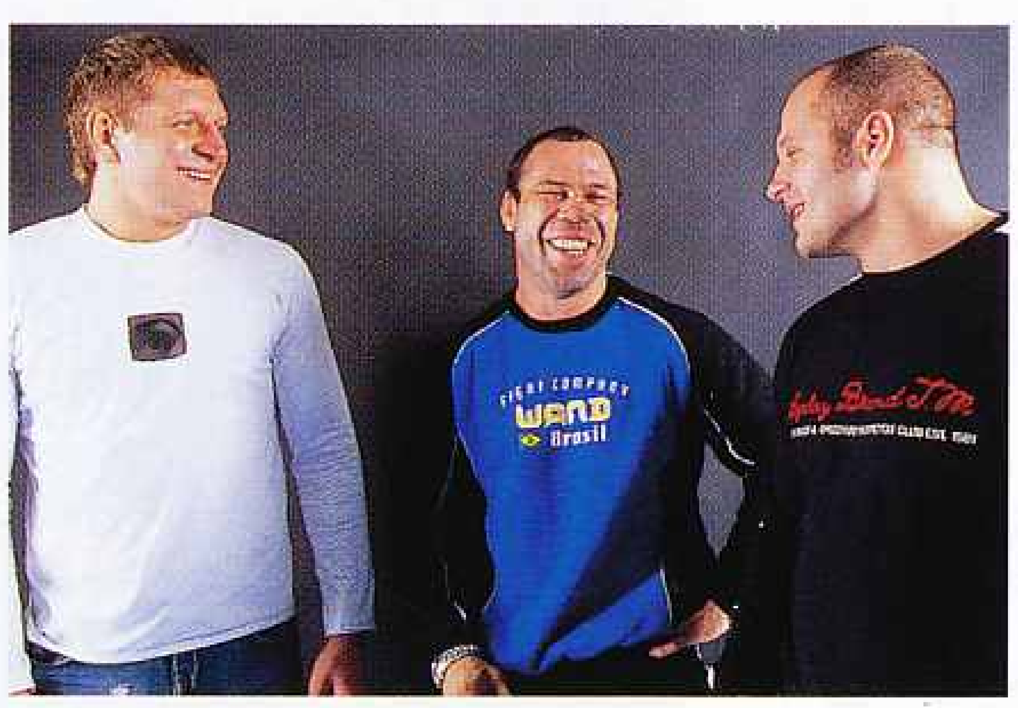
——K—1ルールでもヒョードルの勝ちですか！

シウバ　俺はそう思うよ。ボクシングテクニックひとつとってもヒョードルのほうがハントより上だと思う。

ヒョードル　ありがとうございます（微笑）。

——ハントでもダメとなると、日本のファンは〝因縁の闘い〟というのが好きなんで、ヒョードルvsハリトーノフ戦が見たいという声がダントツに高いんですけど、これについてはどう思いますか？

ヒョードル　問題ないです。セルゲイはわりと単純な戦術なので、問題なく闘えると



取材場所にはヒョードルの弟アレキサンダーも同席。なごやかな雰囲気で対談が行なわれた。これをきっかけに、今後シュートボクセとレッドデビルの交流が実現したら、もの凄いことになるだろう。

思います。

——あまりライバルとは思ってない？

ヒョードル　いや、そうじゃないです。ライバルではありますけど。ただ、辛い試合にはなるでしょうね。お互いよく知っていますから。

シウバ　いや、でもハリトーノフもハントと同じで、彼のパンチは確かに素晴らしいけど、そのパンチだけをとっても俺はヒョードルのほうが上だと思うから、ヒョードルの勝ちは動かないだろうね。

ヒョードル　ありがとうございます（微笑）。

——まぁ、二人とも相手がいないくらいコンプリートな選手なんですけど、お互いから見て「もっとこうしたほうがさらに良くなる」という部分があればアドバイスしてもらえませんか？

ヒョードル　私はまだまだコンプリートじゃないですよ（微笑）。磨かなければいけない部分がたくさんあります。例えばキックはまだ弱いですし、グラウンドテクニックももっと向上させたい。すべてのレベルアップを目指していこうと思います。シウバ選手については、なかなかアドバイスするところは見当たらないんですけど、グラウンドでのパウンドとディフェンスの技術をさらに向上させたら、もっと凄い選手になるんじゃないかと思います。

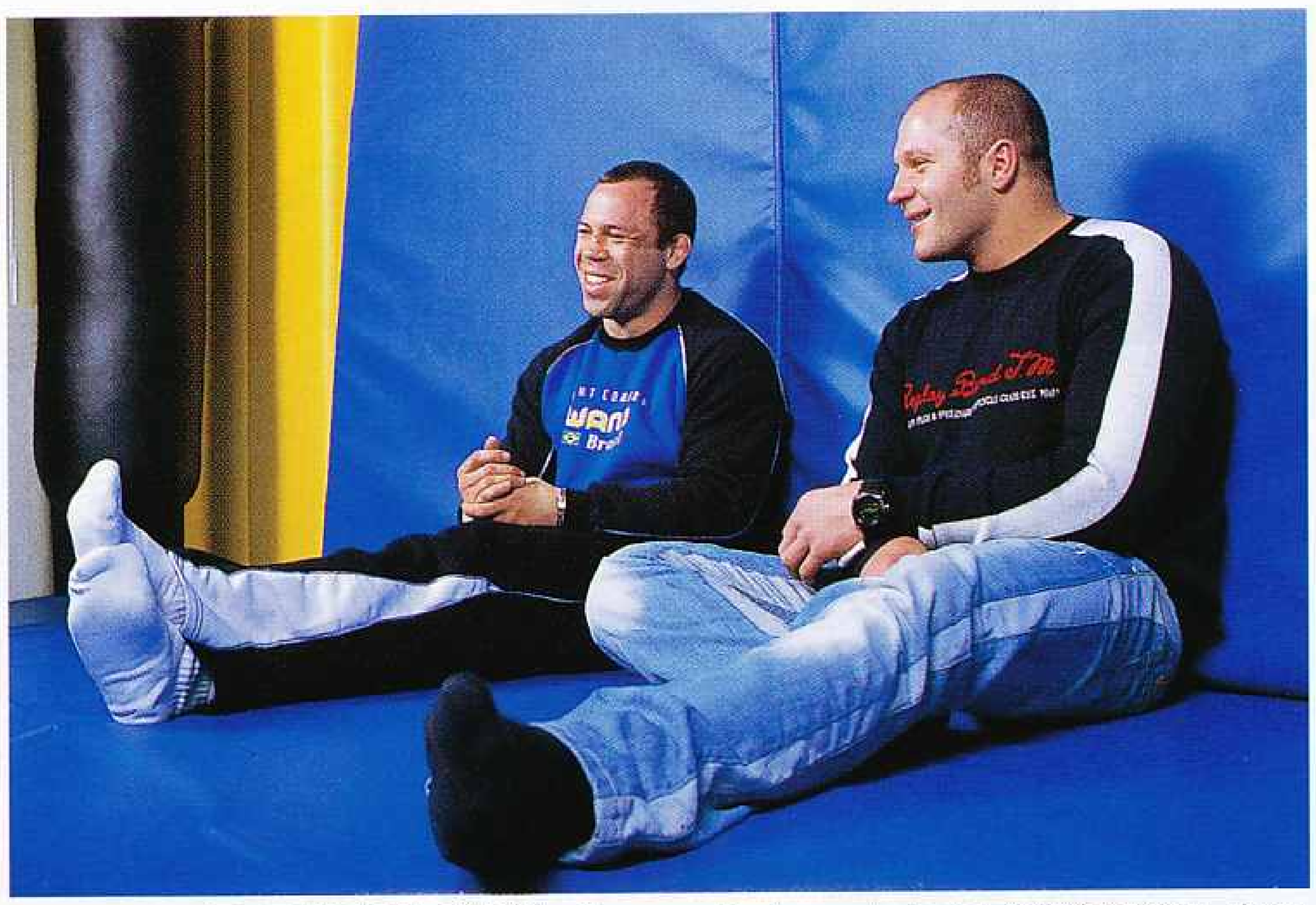
——シウバ選手はヒョードル選手へのアドバイスはありますか？

シウバ　ヒョードルはスタンドに対してもグラウンドに対しても強く、コンプリートなファイターだと思うけど、ひとつだけアドバイスするなら、腹をもう少しへこませたほうがいいんじゃないかな（笑）。

一同　アハハハハ！

ヒョードル　がんばります（笑）。

ぜひ一度ブラジルへ行ってみたいですね 奇麗な女性も多いと聞きますし（微笑）



Wanderlei Silva■1976年7月3日、ブラジル・クリチーバ出身。初代PRIDEミドル級王者、『PRIDE・GP2003ミドル級トーナメント』優勝を誇る"PRIDE絶対王者"。昨年8月、ヒカルド・アローナに判定負けを喫し、PRIDEミドル級で初めて土が付いたが、大晦日に見事雪辱。今年は階級を超えた挑戦に挑むか!? 182cm、92.9kg。

Emeleanenko Fedor■1976年9月28日、ウクライナ出身。第2代PRIDEヘビー級王者、『PRIDE・GP2004』優勝を誇る、人類60億最強の男。昨年8月は最強のチャレンジャー、ミルコ・クロコップの挑戦を圧倒的な強さで退けるなど、まさにその強さは底なし。今年は2003年に続き『PRIDE・GP』連覇を狙う。182cm、105.5kg。

ヒョードルは完璧なファイターだけどもう少し腹をへこませたほうがいいかな（笑）

シウバ　お腹以外はパーフェクトだよ（笑）。最初はそういう体質なんだと思ってたけど、弟のアレキサンダーがあれだけ腹をへこませたんだから、兄貴だってできると思うからね。

ヒョードル　弟はミルコに負けてから、スピードアップのために減量したんですよ。

シウバ　ヒョードルは見た目からは想像がつかないくらい動きが速いからな。さっきはちょっと冗談で言ったけど、いまのままの身体が動きやすいなら、このままでいいと思う。ヒョードルの技術、ファイトスタイルはともに素晴らしいから、技術交流も近い将来してみたいね。ヘビー級ではロシアvsブラジルというのはあるのかもしれないけど、俺とヒョードルにはあまり関係がないから、このままいい関係を続けていきたいし、ヒョードルには時間があればぜひブラジル、シュートボクセに来てほしいと思うよ。

ヒョードル　私もブラジルには近い将来ぜひ行ってみたいと思います。シウバ選手はファイターとしても尊敬しているし、リングを降りてからも一緒にいて楽しい人ですから、今後もこういう関係を続けていけたらと思います。

——あと、ブラジルとロシアというのは、日本では美人が多い国として知られていますけど、お互いの国の女性についても興味があったりしますか？（笑）。

ヒョードル　もちろんです！（笑）。

シウバ　右に同じ！（笑）。

——ダハハハ！　お二人とも、今日一番の即答でしたね（笑）。以前、ノゲイラ選手がヒョードル選手に負けたあと「ロシアの男は嫌いだけど、ロシアの女性は大好きだ」って言ってたんですよ（笑）。

シウバ　ワハハハハ！　俺は男も女もロシアの人は素晴らしいと思ってるよ（笑）。

ヒョードル　ブラジルは本当に奇麗な女性が多いということで、ぜひ行きたいと思います（微笑）。

——シウバ選手の住んでいるクリチーバはブラジルの中でもとくに美人が多くて有名なんですよね。

シウバ　そうなんだよ。もしよければ、奇麗な女性を紹介するから（笑）。

ヒョードル　よろしくお願いします。私もシウバ選手がロシアに来た際は紹介しますので（笑）。

——そういった面での交流も期待できるということで（笑）。では、最後に２００６年最初の号ということで、今年の目標をお二人にうかがって終わりたいと思います。

ヒョードル　とりあえず1月末に拳の手術をするので、ちょっと休養が必要だと思います。ただ、グランプリにはぜひ出たいと思いますので、またそこで優勝できるようがんばります。

——では、シウバ選手。

シウバ　今年のプランも含めこれから考えるよ。ただ、ファンが望むような闘いをしたいというのは、毎年変わらないけどね。まぁ、期待していてくれ！

——それでは、今年も"ＰＲＩＤＥ絶対王者"としての活躍、期待しております！

【06年1月1日／東京・ＰＲＩＤＥ道場にて収録】



Mark Hunt

マーク・ハント

PRIDE4戦目でミルコを撃破!!
“ロシアの最強”は
サモア人が始末する!?

“サモアの怪人”がPRIDEマットでも、その恐るべきポテンシャルをついに発揮した！
大晦日『PRIDE男祭り』でミルコ・クロコップと対戦したハントは、
なんと『PRIDE』4戦目にして“PRIDE3強”の一角を崩すことに成功！
2006年の台風の目は間違いなくこの男だ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合撮影／平工幸雄
designed by hisa（TwoThree）

―ミルコ・クロコップと闘った翌日とは思えないほど顔がきれいですね！

ハント　まあね。顔傷つけられるの嫌いだからさ。

―"PRIDE3強"の一角を崩したわけですけど、試合を振り返ってみていかがでしたか？

ハント　まぁまぁ、いい試合だったんじゃないか？

―ほぼプラン通りの試合ができたと？

ハント　ソーデス（日本語で）。

―ミルコと闘うのは約4年ぶりですけど、以前とは印象が違いましたか？

ハント　印象は変わらないな。ただ、前回闘ったときは体調がよくなかったし、準備も万全じゃなかったけど、今回は万全だったということだけだろうな。

―ミルコはK－1から『PRIDE』に転向して、3年間、総合の練習をみっちりやって、経験もかなり積んできたと思うんですけど、成長していたとは思いませんか？

ハント　いまも昔も変わらず、ミルコはいい選手だと思うよ。ただ、変わったところと言えば、レスリングシューズを履いていたことぐらいかな。なんで靴を履いてるんだかわからんけど。べつにレスリング的な技を見せてくれたわけじゃないしね。

―おそらく打撃が強いハント選手が相手なので、寝技で仕留めることも視野に入れていたんだと思いますけど（じつはミルコは足首を負傷しており、そのケガを隠すためにシューズを履いたことが後日判明）。

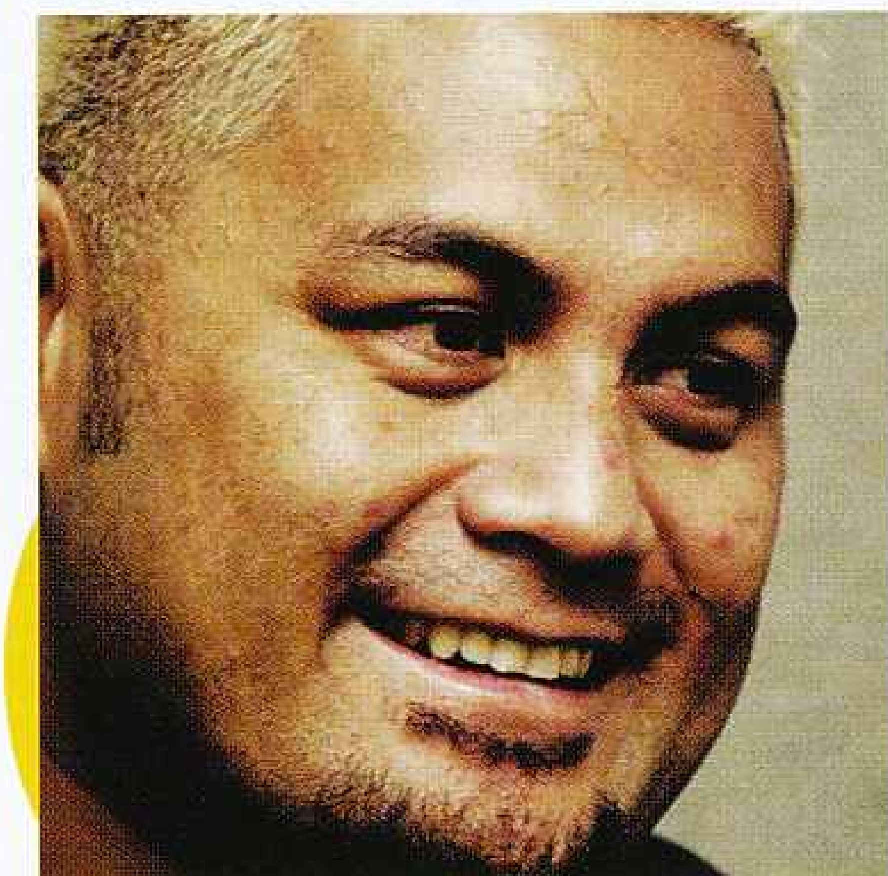
ハント　まぁ、そうなんだろうな。それも寝技に持ち込めなきゃ意味ないけど。

―最後に一回グラウンドになりましたけど、それ以外は倒されませんでしたよね。やっぱり倒されない練習は相当やってきたんですか？

ハント　ああ。一生懸命やったよ。

―それにしてもミルコ選手はあれだけ総合の練習を積んできて、『PRIDE』の経験も豊富なのに、たった4試合目のハント選手が勝ってしまったというのは、ご自分でもこの競技が向いていると思いますか？

ハント　たぶんね。それか、今回はちゃんと練習してきたから、そのせいかもしれないし。まぁ、『PRIDE』に上がり始めてから、あんまりたくさん試合をしてないけど、去年1試合しかできなかったのは、



べつに俺のせいじゃないし。今年はもっともっと試合に出て、腕を上げていこうと思ってるけどね。

―2004年大晦日のヴァンダレイ・シウバ戦以来、1年間空いてしまったのは、べつにさぼってたわけじゃなくて、交渉がまとまらなかったということなんですか？

ハント　まぁ、おそらくそうなんだろうな。試合の決定っていうのは、"上"同士の話し合いだからさぁ。俺はなんで試合が決まらないのかなぁと思ってたけど、きっとそういうことだろう。俺自身そういった話は関わりたくないからよくわからないけど。

ミルコもたまにはケーキでも食べて リラックスした方がいいんじゃないか？

―じゃあ、ハント選手は1年間遊びほうけていたわけじゃなくて、ちゃんと試合に向けた練習をしていたわけですね。

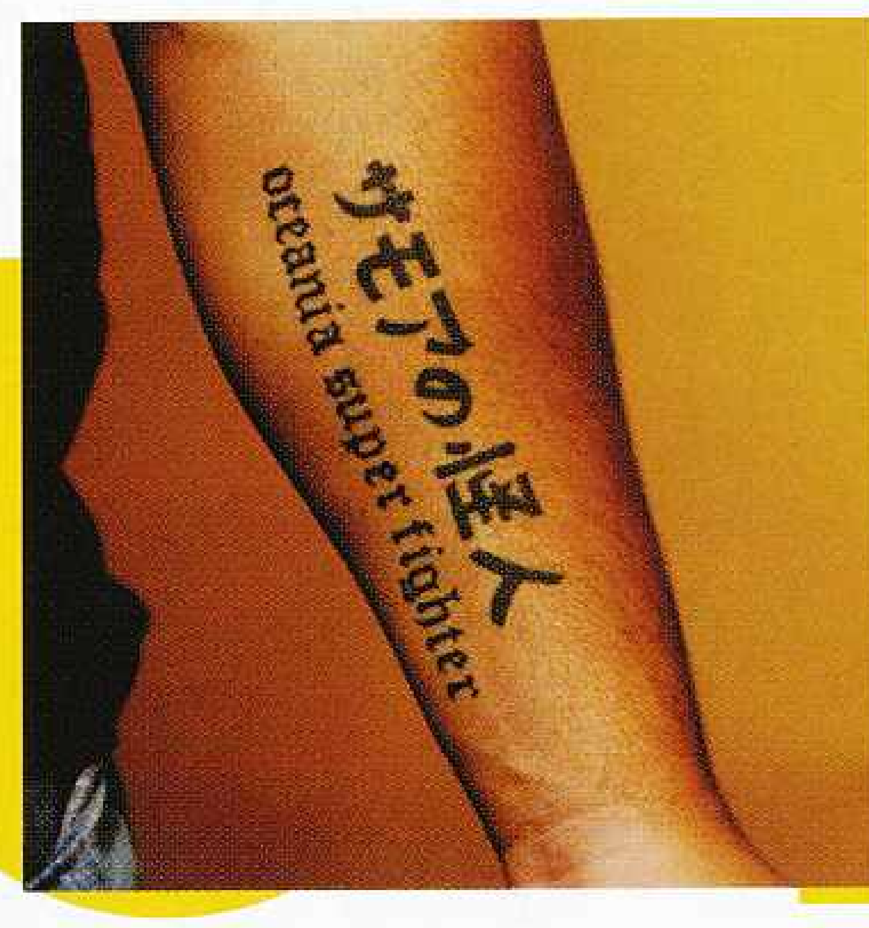
ハント　ケーキは食べてたけどな。

―ケーキははずせない（笑）。

ハント　ケーキ食べながら「ヨシダをぶっとばしたいな～」と考えてたよ（笑）。

―そんなモチベーションの高め方をしてましたか（笑）。

ハント　まぁ、それは冗談として、ちゃんとトレーニングしてたし、試合の準備をし



ながらケーキを食べてたよ。

―いまコーチは誰についてもらってるんですか？

ハント　そこにいるハピさん（ハントのマネージャー）だよ。あとは柔術トレーナーとオールランドのトレーナーがいるよ。

―柔術のトレーナーはブラジルから呼んできた人なんですか？

ハント　いまはオーストラリアにいるんだけど、もともとはブラジルにいたマサロ・ヘゼンデというコーチだよ。

―そのマサロさんはどこの道場にいた人なんですか？

ハント　グレイシー・バッハだね。俺は『PRIDE』に初めて出る前にアメリカに修行に行ったんだけど、そのとき俺の友だちがマサロさんとトレーニングしていて、その関係で紹介してもらったんだ。

―じゃあ、ちゃんと寝技の練習もやってるんですね。

ハント　そりゃそうだよ。けっこういい線いってると思うんだけどな。だからミルコにグラウンドに持ち込まれたときも、べつに慌てなかったし。もうちょっと時間があったら、逆に上になって殴ってやろうと思ったんだけど、ちょっと時間がなかったな。俺はもともとストライカーだから、もし苦しい局面になったら、必ず自分のできること、自分が一番得意なことをやろうと思っていたんだ。同じようにミルコも一番いい面を出せばよかったんだけど、ちょっと迷いがあったんじゃないか？

―ミルコは総合の練習をかなりやってますけど、そのぶん、打撃の技術や威力がK－1時代より落ちていたとは思いませんか？

ハント　それはちょっとわからないな。ただ、あいつ体調悪いんじゃないか？　なんか顔色悪かったし、痩せちゃってたし。痩せて動きが速くなってるのかと思ったら、そうでもなかったし。あとで聞いたら病気だったらしいから、それが原因なのかな。

―闘ってても「こいつ元気ないな」と思いましたか？

ハント　疲れてるなとは思ったよ。もともと俺のほうがエネルギーがあるタイプだし、体格もデカいから、まともにぶつかったら俺が勝つに決まってるんだけど、彼はそれをスピードでカバーしてるんだけど、体調悪くてスピードが出ないんじゃしょうがな



［PRIDE男祭り2005］
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
（3R終了 判定2-1）

02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支配。なんと2-1の判定勝ちでPRIDE3強の一角を崩すことに成功した。



“一撃必殺”の名をほしいままにしたミルコのハイキックや“秘策”かかと落としを（完璧じゃないにしろ）食らっても、ビクともしなかったハント。凄まじい打たれ強さは健在だった。

いよな。ちょっと練習と試合のやり過ぎじゃないのか？　たまにはケーキでも食べてリラックスしたほうがいいよ（笑）。

——俺を見習えと（笑）。ハント選手はミルコの間合いを潰して打撃勝負を挑んでましたけど、これはヒョードルやジョシュの闘い方を参考にしたんですか？

ハント　ちょっとは参考にしたけど、もともと俺のファイティングスタイルがそれだからね。前回のミルコ戦のときも同じ闘い方だったんだけど、前回は俺のほうがコンディションが万全じゃなくて、ミルコのハイキックに倒れてしまったんだけど、今回は彼のほうがコンディション調整に失敗したってことなんじゃないか？

——それにしても、今回もミルコのハイキックやカカト落としがちゃんとヒットしてたと思うんですけど、ハント選手には全然効いてなさそうでしたよね（笑）。

ハント　いやぁ〜、あのカカト落としは凄かったよな。ビックリしたよ！

——ビックリしただけですか（笑）。

ハント　俺はハイキックに来るとばっかり思ってたのが、真上からカカトが落ちてくるんだから、凄い技だと思うよ。もうちょっとちゃんと入ってたらヤバかったよ。

——いや、かなりちゃんと入ってたと思いますけど（笑）。

ハント　いやいや、ハイキックもカカト落としもちゃんと入ってなかったよ。ちゃんと入ってたら、さすがに俺だって倒れてるさ（笑）。

——見た目は入っていたように見えましたけど、急所が外れていたという感じですか？

ハント　ああ、急所は外れてたよ。ちゃんと当たってれば、俺に限らずどんなファイターだって倒れてるよ。

——ハント選手の頭蓋骨はどこに当たっても大丈夫なわけではないと（笑）。

ハント　ノーノー。俺だって人間なんだから、身体の仕組みは他のファイターと同じだって（笑）。

——では今年、『PRIDE』はヘビー級のグランプリ開催を予定していますけど、それに出場したい気持ちはありますか？

ハント　凄く興味があるよ。

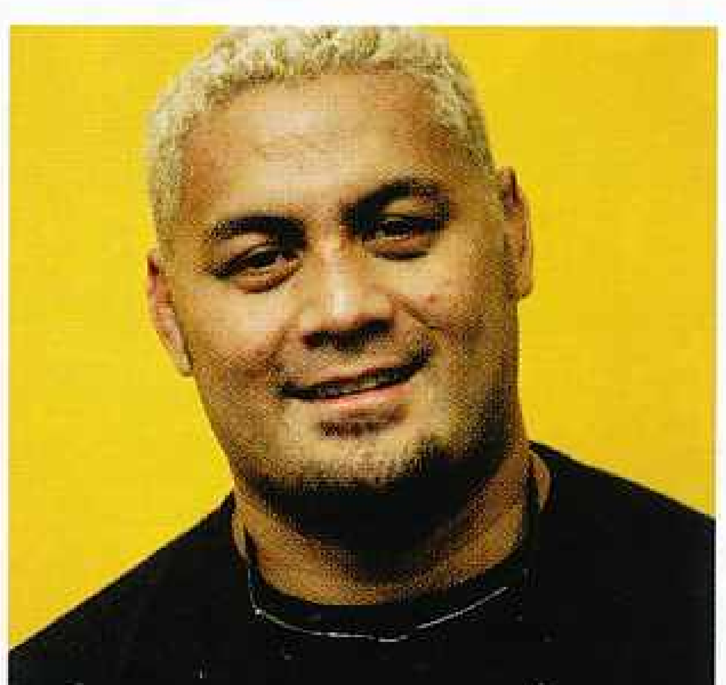
——ミルコを倒したことで、次はヒョードルと闘ってほしいという声もありますけど、どうですか？

ハント　機会があればいつでもやりたいよ。ただ、その前にヨシダ（吉田秀彦）とやらせてほしいな。だってもし次の試合でチャンピオンであるヒョードルを倒しちゃったら、もう他の連中と闘う意味がなくなっちゃうじゃないか。だから順番として、まずヨシダを倒してからヒョードルだな。いままでK−1でミルコに負けて、『PRIDE』でヨシダに負けて、ミルコにはリベンジすることができたから、そうなると次はやっぱりヨシダだよ。

——では、今年はハント選手の試合がたくさん見られると思っていいですね？

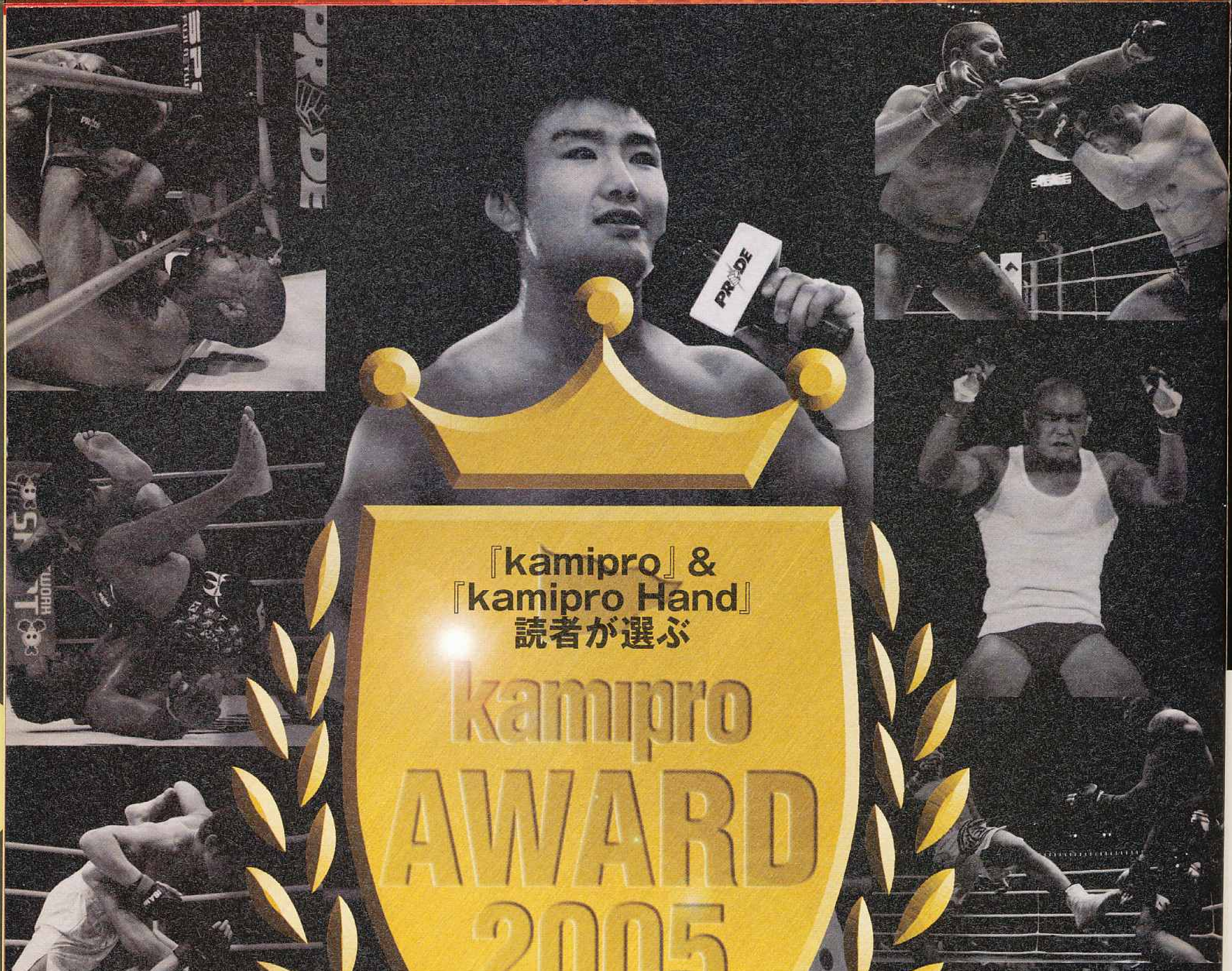
ハント　俺はそう思ってるよ。ちょっとケーキの量を減らして頑張っちゃおうかなぁ〜ってね（笑）。

【06年1月1日／都内・某ホテルにて収録】



Mark Hunt■1974年3月23日、ニュージーランド出身。01年K-1 WORLD GP優勝。04年からはK-1王者の肩書きを引っさげ『PRIDE』参戦。その年の『男祭り』で“絶対王者”シウバに判定勝ちを収め、さらに05年はミルコをも撃破。今年のGP台風の目。178cm、128.5cm。

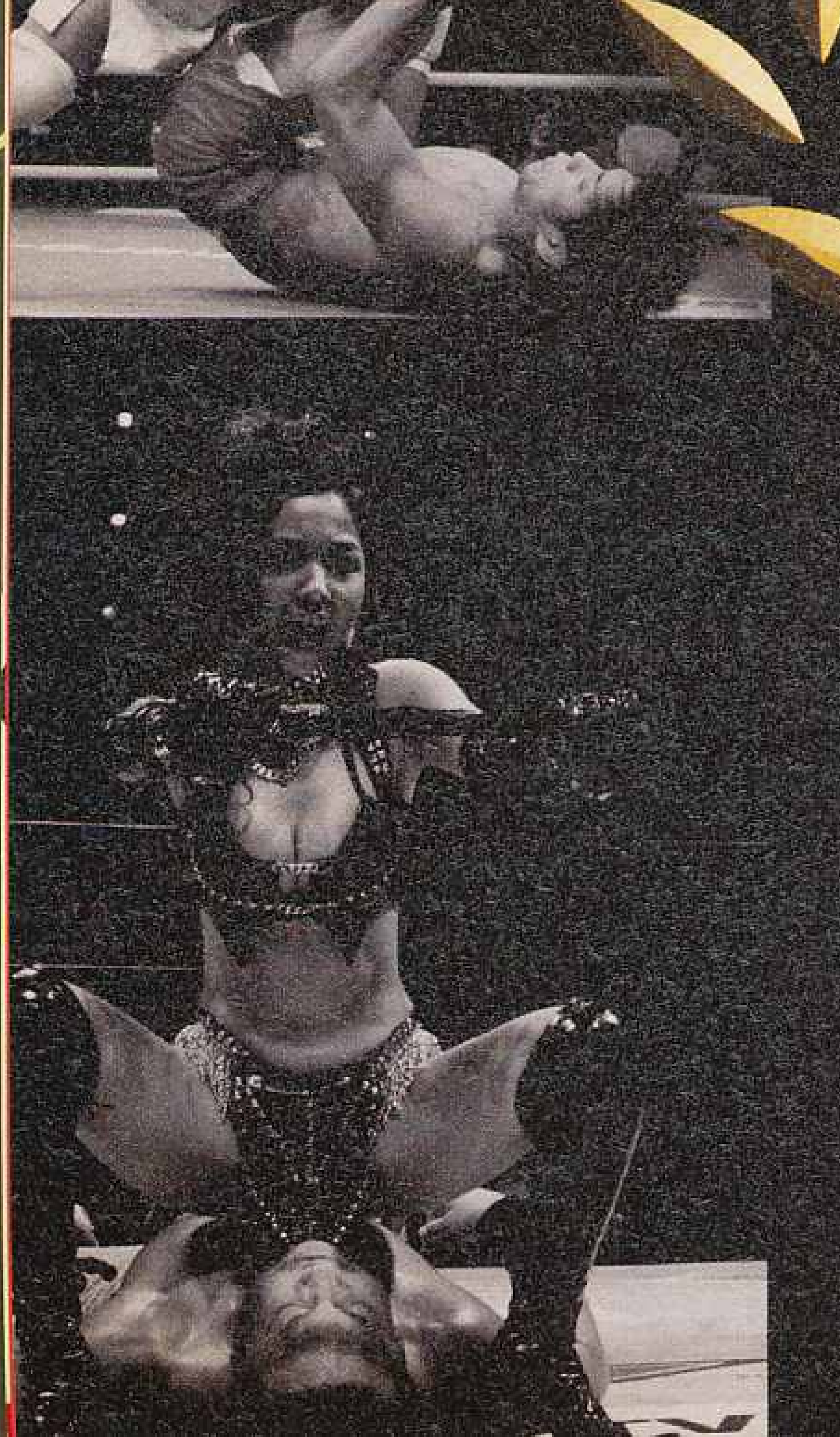


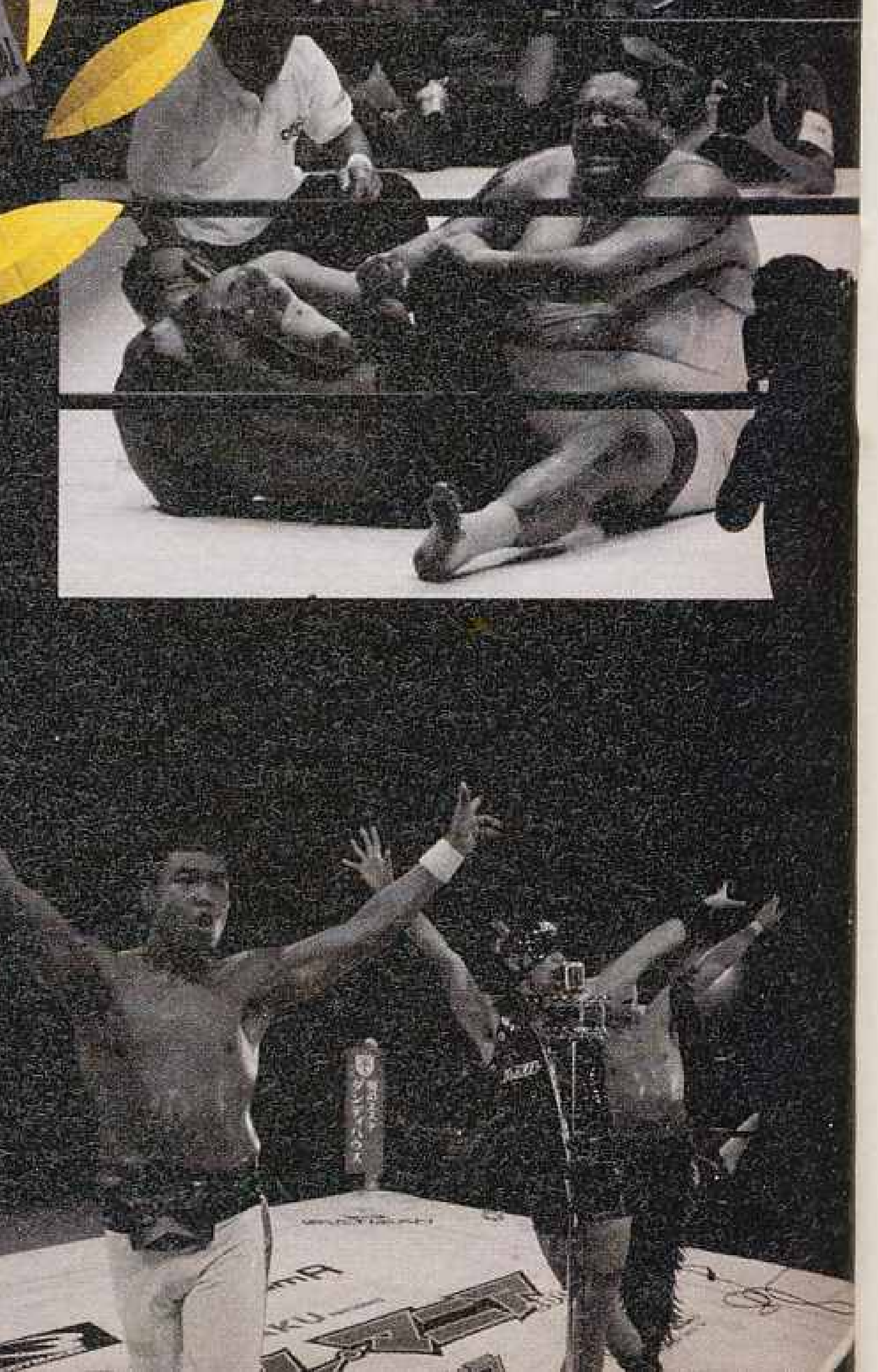


さ～あ、今年もやってまいりました！ kamipro AWARDの時間でございます。おかげさまでこのイベントも今回でなんと6回目！『kamipro』&『kamipro Hand』読者が選んだ2005年の凄い人、凄い試合、凄い大会をドドドーンと発表いたします。トビラを開けば、上半期MVPだったあの男が、なんと三冠達成だ!!

（kamipro AWARDの結果は、読者ハガキ&『kamipro Hand』での投票、上半期の結果をポイント化し集計したものです。投票してくださったみなさま、ご協力ありがとうございました！）

構成／松下ミワ designed by hisa (TwoThree)





［PRIDE男祭り2005］
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
（3R終了 判定2-1）

02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支

BEST FIGHTER



驚愕の得票率 2005年三冠達成

MVP 五味隆典

1131point

2005年はまさしく五味の年! PRIDE10連勝で格闘界の“頂

2005年はこの男なくしては語れない!!　2位になんと8倍近くの差をつけるという史上空前の得票数で、堂々のMVP獲得だ。DSEが“新生・武士道”を宣言した5・22『武士道・其の七』ルイス・アゼレード戦以降、その勢いは圧巻。“ライバル”対決と騒がれた9・25『武士道・其の九』川尻達也戦も、歴史に残る激闘の末、一本勝ちを収め、12・31『PRIDE男祭り』では、先輩の桜井“マッハ”速人を相手に、人生最高とも言える“作品”を作り上げた。同階級では、もうこの男を超える人間はいないんじゃないかとも思わせるその強さ。2006年もこの快進撃はつづくのか!?



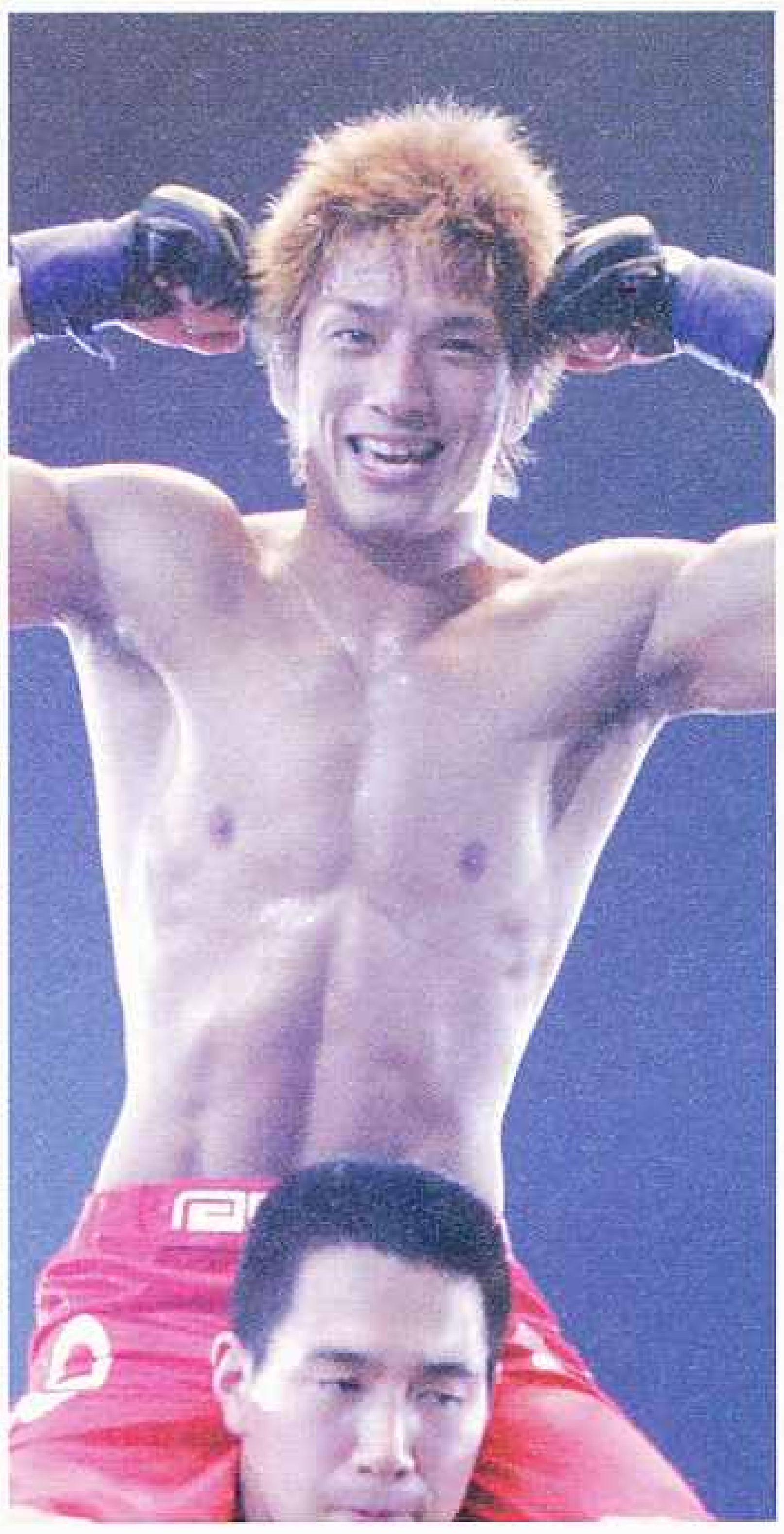
3rd
インリン様
126point



官能のM字ビターン炸裂!!
インリン様こそ真の革命児だ!

ヒマでモテないプロレスファンの諸君を、美しきM字ビターンで洗脳しまくったインリン様。リングでの立ち居振る舞い、表情、そしてハイヒールでプロレスラーと渡り合う姿は“プロレスラー”として一級品！　まさに賞賛するに余りある。しかし、12・25『ハッスル・ハウス』では自ら“卵”を産んで、この世から姿を消した格好。インリン様、もう、あのM字ビターンで洗脳してくれないの？　そして、卵の行方は!?

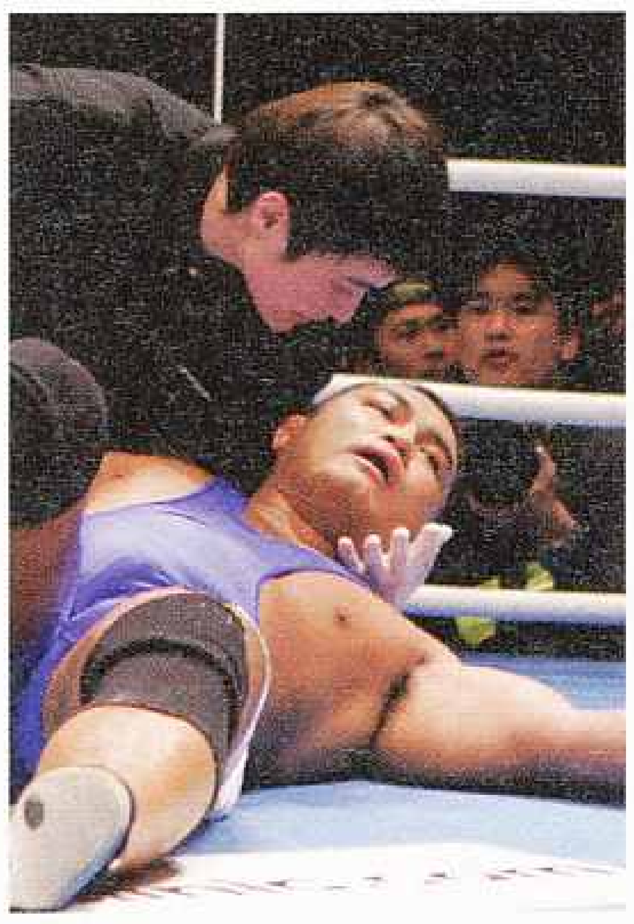
2nd
所英男
145point



風呂なしアパートから世界へ!
2005年のシンデレラボーイ

絶対不利と言われた7月のアレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ戦で奇跡の逆転勝利を収めて以降、人気沸騰!!　風呂なしアパートから、あっという間に“世界”へと躍り出た所さん。その後、9・7『HERO'S』宇野薫戦、12・31『Dynamite!!』ホイス・グレイシー戦と、つづいて格上の相手と当てられるも、観衆の心をつかむ直球ファイトにより、評価＆女性人気はグイグイッと上がる一方。今年は文句なしのMVPになるのか!?

5th
中尾芳広
68point



濃厚なキスが人生を変えた!!
大晦日の話題賞はこの男!?

2005年の年の瀬、最後の最後にとんでもないことが起きた!!　12・31『Dynamite!!』、ゴング前のにらみ合いから、対戦相手（ヒース・ヒーリング）にキスをして、ぶん殴られて失神！　そのまま担架で運ばれるという、壮絶な舞台を繰り広げた中尾芳広が、急激にポイントを重ね、堂々の5位に！　364日間、マット界を温めてきたHG、ショーグンなど、他ファイターを抑え、たったの1日で突然のトップ5である。キスの力は凄い!!

4th
小川直也
97point



キャプテンがやってくれた!
『PRIDE男祭り』でも大ハッスル!!

インリン様に二度もフォール負けし、『ハッスル8』での観客ジャッジメントマッチでは見事に川田に敗れ、2005年最後の最後で宿命の相手・吉田秀彦に一本負けするという怒濤の1年を送った小川。されど、どれもこれも“ハッスルのため”と身を削って闘いつづける姿は、多くのファンのハートをキャッチした。上半期の集計ではかなりの得票数でワーストMVPを獲得した小川だったが、ここで一気に返り咲き。さすがです!!



WORST FIGHTER

1	曙	261point
2	田村潔司	155point
3	瀧本誠	135point
4	中村和裕	116point
5	武蔵	106point

全日本プロレス「武藤部屋」での活躍でプロレスラーとして高い評価を得た曙が、K-1、『Dynamite!!』での毎度の失態が響き、ワーストMVPに!!　2004年につづき、2連覇達成という厳しい現実を叩き付けられた元横綱。心から、“今年こそは!!”という奮起を願いたい。以下、すべて日本勢が名前を連ねているのは、まさに期待の裏返し。ある意味、今年のMVP候補でもあるのだ。



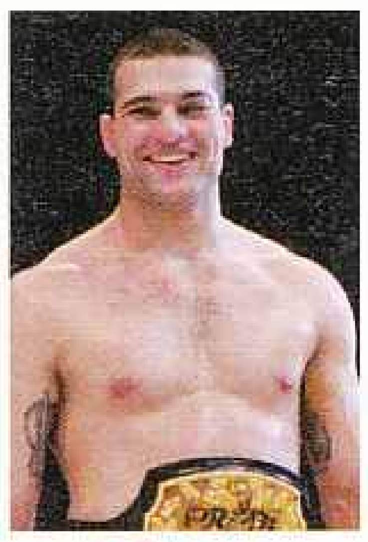
10th 佐々木健介 39point



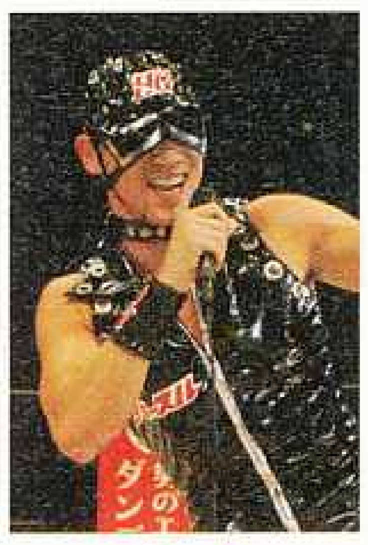
9th 川田利明 44point



8th 山本KID徳郁 49point



7th マウリシオ・ショーグン 53point



6th HG 58point

11・3『ハッスル・マニア』で戦慄のプロレスデビューを果たしたHG、また2005年にニューチャンピオンに輝いたショーグン、KIDも上位にランクイン！　9位の川田はハッスル、NOAH、『U-STYLE Axis』など多方面でのはずれのない活躍が影響!?

[PRIDE男祭り2005]
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
(3R終了 判定2-1)

02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支

BEST BOUT



1st
五味隆典vs川尻達也

9・25『PRIDE武士道・其の九』有明コロシアム

532point

中・軽量級黄金時代のトビラをこじ開けた一戦!!

2位におよそ2倍の差をつけて、文句なしのベストバウトに!! 両者の意地と誇り、そして拳がぶつかり合ったこの一戦に、会場からは割れんばかりの歓声、というか絶叫の嵐。髙田統括本部長をして10年に一度の決戦と言わしめた五味vs川尻は、まさに格闘技界に中・軽量級黄金時代を到来させた歴史的一戦と言っても過言ではない！

3rd
所英男vsアレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ

7·6『HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者決定トーナメント』国立代々木競技場第一体育館

174point

まさに"奇跡"の逆転勝利!! 快進撃はここから始まった



誰もが"無理ッ！"と思うところを、毎度いい意味でスカしてくれるのが所英男という男。この日も修斗世界王者ペケーニョを前に、前半は押されに押されていたものの、2ラウンド終盤にいきなり「矢野（卓見）さんから教えてもらった」バックブローを顔面にヒット！ この劇的な一戦から所には各メディアから取材が殺到。さらに、"世界の所さん"の異名で呼ばれるようになった。

2nd
エメリヤーエンコ・ヒョードルvsミルコ・クロコップ

8·28『PRIDE GP 2005 決勝戦』さいたまスーパーアリーナ

300point

2年半越しの決戦がついにこの日実現!!



待つことなんと2年半！ ミルコ自ら"人生で最も大切な試合"と語った念願のPRIDEヘビー級タイトルマッチがついに実現した瞬間だった。二人が闘いつづけた20分間。スピード、迫力、緊迫感、何においても頂点を決するにふさわしい一戦であり、二人が拳を交わすたびに会場にどよめきが起きていた。試合はヒョードルが判定でミルコを下すという結末だったが、この先につづくヘビー級王座の奪い合いに余韻を残すかたちで幕を閉じた。

5th
五味隆典vs桜井"マッハ"速人

12·31『PRIDE 男祭り 2005 頂 -ITADAKI-』さいたまスーパーアリーナ

116point



武士道のエースが初代ライト級王座に君臨!!

木口道場の先輩、後輩という関係ながら、ライト級グランプリ決勝戦を闘った両者。15分間、情を断ち切っての壮絶な闘いはまさに感動のひと言。先輩を開始4分足らずでKOした五味。試合後は、その初代チャンピオンが涙を浮かべていたのとは対照的に、敗れたマッハが清々しい表情をしていたのが印象的だった。また五味の「何か、世界一になりたかった」というマイクは、会場を感動の渦に巻きこんだ。

4th
小川直也vs吉田秀彦

12·31『PRIDE 男祭り 2005 頂 -ITADAKI-』さいたまスーパーアリーナ

145point



柔道時代からの宿命の一戦 待っていたのは勝敗を超えた結末!?

誰もが"実現不可能"と思っていた禁断の一戦が本当に実現！ さまざまな確執が囁かれる両者なだけに、各メディアでも言及することすらはばかられる、そんなムードを漂わせていた。大会当日も入場、試合、マイクに至るまで、ただならぬ緊張感だったが、小川、吉田の勝敗を超えた闘いに会場の興奮度は絶頂。まさに、歴史が生んだ世紀の一戦に、誰もが陶酔した時間だ。



WORST BOUT

1	曙vsボビー・オロゴン（12·31『Dynamite!!』大阪ドーム）	165point
2	曙vs角田信朗（3·19『K-1 WORLD GP 2005 in ソウル』）	155point
3	中尾芳広vsヒース・ヒーリング（12·31『Dynamite!!』大阪ドーム）	87point
4	田村潔司vs瀧本誠（8·28『PRIDE GP 2005 決勝戦』さいたまスーパーアリーナ）	68point
5	山本KID徳郁vs須藤元気（12·31『Dynamite!!』大阪ドーム）	63point

ワーストMVPにつづき、ここでも曙が1位を獲得。「ワキが臭かった」というボビーの衝撃発言が翌日の紙面を賑わせはしたものの、試合内容にはファンは納得いかない様子？ またベストバウトにもランクインしている中尾vsヒーリングは同時にワーストランキングにも登場。5位のKIDvs元気の対決は「レフェリー、止めるの早すぎ！」と思った人たちの抗議の投票か。ん～、もったいない！



10th
マウリシオ・ショーグン vs アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ

6·26『PRIDE GP 2nd ROUND』さいたまスーパーアリーナ

34point



9th
インリン様&アン・ジョー司令長官&川田利明 vs 小川直也&大谷晋二郎&HG

11·3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ

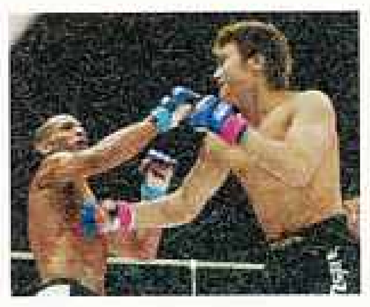
39point



8th
小橋建太 vs 佐々木健介

7·18『NOAH DESTINY 2005』東京ドーム

102point



7th
五味隆典 vs ルイス・アゼレード

5·22『PRIDE武士道·其の七』有明コロシアム

107point



6th
中尾芳広 vs ヒース・ヒーリング

12·31『Dynamite!!』大阪ドーム

112point

なんとここでも話題の中尾さん登場！ 8位の小橋vs健介は200発を超える怒濤のチョップ合戦がプロレスファンの心をしっかりキャッチ。9位には『ハッスル』を大ブレイクに導いた『ハッスル・マニア』のメインハッスルが堂々ランクイン。



［PRIDE男祭り2005］
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
（3R終了 判定2-1）

02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支

BEST EVENT



1st

9·25『PRIDE武士道・其の九』

有明コロシアム （五味隆典vs川尻達也、桜井“マッハ”速人vsヨアキム・ハンセン ほか）

387point









五味vs川尻を筆頭に中・軽量級GP大爆発!!

年間ベストバウトにも輝いた五味vs川尻が行なわれた『武士道・其の九』がNo.1イベントに。1日にライト級、ウェルター級の1、2回戦（全14試合）を決行するというハードな大会であり、またその内容も、五味vs川尻の歴史に残る激闘、マッハ奇跡の復活と、一戦一戦にドラマがあった。地上波ゴールデン放送ではなかったものの、驚異の得票数を獲得してトップに。この武士道初のグランプリは歴史的観点から見て、まさしく中軽量級黄金時代のトビラをこじ開けた興行である。



視聴

3rd
11・3『ハッスル・マニア2005』
横浜アリーナ
(インリン様&アン・ジョー司令長官&川田利明vs小川直也&大谷晋二郎&HG ほか)

242point

ハッスル、ついにブレイク!! HG、和泉元彌も電撃参戦！

和泉元彌、HGのプロレス初参戦など、大会開催前から何かとワイドショーを騒がせた『ハッスル・マニア』。"いったいどうなるんだ" という不安と緊張が会場に立ちこめる中、和泉元彌は世界の鈴木健想を相手にみごと元彌チョップを決め、フォール勝ち。HGもインリン様にHG三角絞めを極めて勝利するなど、会場の熱は絶頂に。翌日、新聞数紙の1面を飾り、業界内外から大注目を集めた。



2nd
12・31『PRIDE 男祭り 2005 頂 -ITADAKI-』
さいたまスーパーアリーナ
(五味隆典vs桜井"マッハ"速人、小川直也vs吉田秀彦 ほか)

319point



小川vs吉田のドリームカードに前代未聞の俳優参戦も!!

大晦日ならではの夢の対決、小川vs吉田のほか、ミドル級タイトルマッチ、ライト・ウェルター級GP決勝戦と、まさに"頂"と銘打つにふさわしい大会となった。大会開催前から騒がれていた視聴率戦争では、平均視聴率17%、瞬間最高視聴率27.7%(金子賢vsクレイジー・ホース)と過去最高の数字を獲得。制作側のガッツポーズも目に浮かぶようだ。

5th
12・31『Dynamite!!』
大阪ドーム (山本KID徳郁vs須藤元気、所英男vsホイス・グレイシー ほか)

87point



ドリームカード続々 永ちゃんもリングに登場!!

ゴング前に担架で運ばれる選手が出たかと思えば、五味もビックリ！ 世界の矢沢永吉がリング上で熱唱したり。内容盛りだくさんで、大盛況のもと幕を閉じた『Dynamite!!』。終盤では須藤元気が芸術的な入場シーンを演出し、また"闘うフリーター" 所がグレイシー最強の男、ホイス・グレイシーを相手に必死に向かっていく感動的な試合を繰り広げるなど、まさに大晦日にふさわしいバラエティに富んだ大会となった。

4th
8・28『PRIDE GP 2005 決勝戦』
さいたまスーパーアリーナ
(ヒョードルvsミルコ、ショーグンvsアローナ ほか)

174point



2年越しのミルコvsヒョードル戦 絶対王者シウバが撃沈

4月にスタートしたミドル級GPの決勝大会となった本戦。"絶対王者" ヴァンダレイ・シウバが犬猿の仲と囁かれるヒカルド・アローナに敗れるという波乱もあり、グランプリはヒートアップ。また、新星マウリシオ・ショーグンの優勝は、ミドル級の次代を予感させた。さらに、2年半越しで実現したミルコvsヒョードルの緊迫感あふれる一戦で、いい意味で見る側も疲労困憊してしまう興行となった。



WORST EVENT

1. 10・23『PRIDE.30』さいたまスーパーアリーナ (ミルコvsジョシュ、瀧本vsユン ほか) 338point
2. 新日本プロレスの興行& 新日本プロレスの東京ドーム大会 242point
3. 12・31『Dynamite!!』大阪ドーム (曙vsボビー、中尾vsヒース ほか) 136point
4. 3・19『K-1 WORLD GP 2005 in ソウル』(曙vs角田、曙vsチェ・ホンマン ほか) 87point
5. 1・4『新日本プロレス闘魂祭り』東京ドーム (小島vs天山 ほか) 78point

"STARTING OVER" と銘打たれた『PRIDE.30』。その主役とも言うべきミルコ、桜庭は勝利したものの、興行全体の盛り上がりという点でグランプリなどと比べると、見劣りした大会となった。ファンがPRIDEに求めるレベルの高さが反映された得票だろう。また、2位には "新日の興行" という漠然とした大会がランクイン。それでも複数票が入るというところに、ファンの本心がうかがえる。3位に『Dynamite!!』がランクインしているのは正直、意外!?



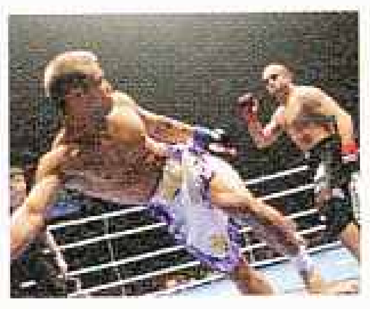
10th
5・22『PRIDE武士道・其の七』
有明コロシアム
(五味隆典vsルイス・アゼレード 美濃輪郁久vsフィル・バローニ ほか)
20point



9th
9・7『HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者決定トーナメント準決勝』
有明コロシアム
(所英男vs宇野薫 高谷裕之vs レミギウス・モリカビュチス ほか)
29point



8th
7・15『ハッスル11』
大阪府立体育館
(インリン様& FUJIN&RAIJINvs "ハッスルK" 川田利明& "ハッスルあちち" 大谷晋二郎 ほか)
39point



7th
7・6『HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者決定トーナメント』
国立代々木競技場第一
(所英男vsアレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ 山本KID徳郁vsイアン・シャファー ほか)
49point



6th
7・18『NOAH DESTINY 2005』
東京ドーム
(小橋建太vs佐々木健介 三沢光晴vs川田利明 ほか)
78point

ベストファイター2位に輝いた所が出場した興行が、10位以内になんと3つもランクイン！ 8位にはインリン様の身体の一部であるムチが、じつはロープエスケープをしていたという奇跡的なドラマを生んだ『ハッスル11』が入賞した。



［PRIDE男祭り2005］
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
（3R終了 判定2-1）

02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支



阿部タケシ

デイリースポーツ火曜日、スカパー！公式サイト、株式会社ユークス公式サイトでの連載のほか、WWEファンクラブ公式ホームページ&『RAWマガジン』日本語版などに執筆中！

①田中将斗、CTU
②須藤元気 vs 高谷裕之（9・7『HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者決定トーナメント準決勝』代々木第一体育館）
日高郁人&藤田ミノル vs 大谷晋二郎&田中将斗（11・23『ZERO1-MAX NWAインターコンチネンタルタッグ選手権試合』後楽園ホール）
③11・3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ
④功労賞→タジリ
そんな時期に発売しないでよ賞→任天堂

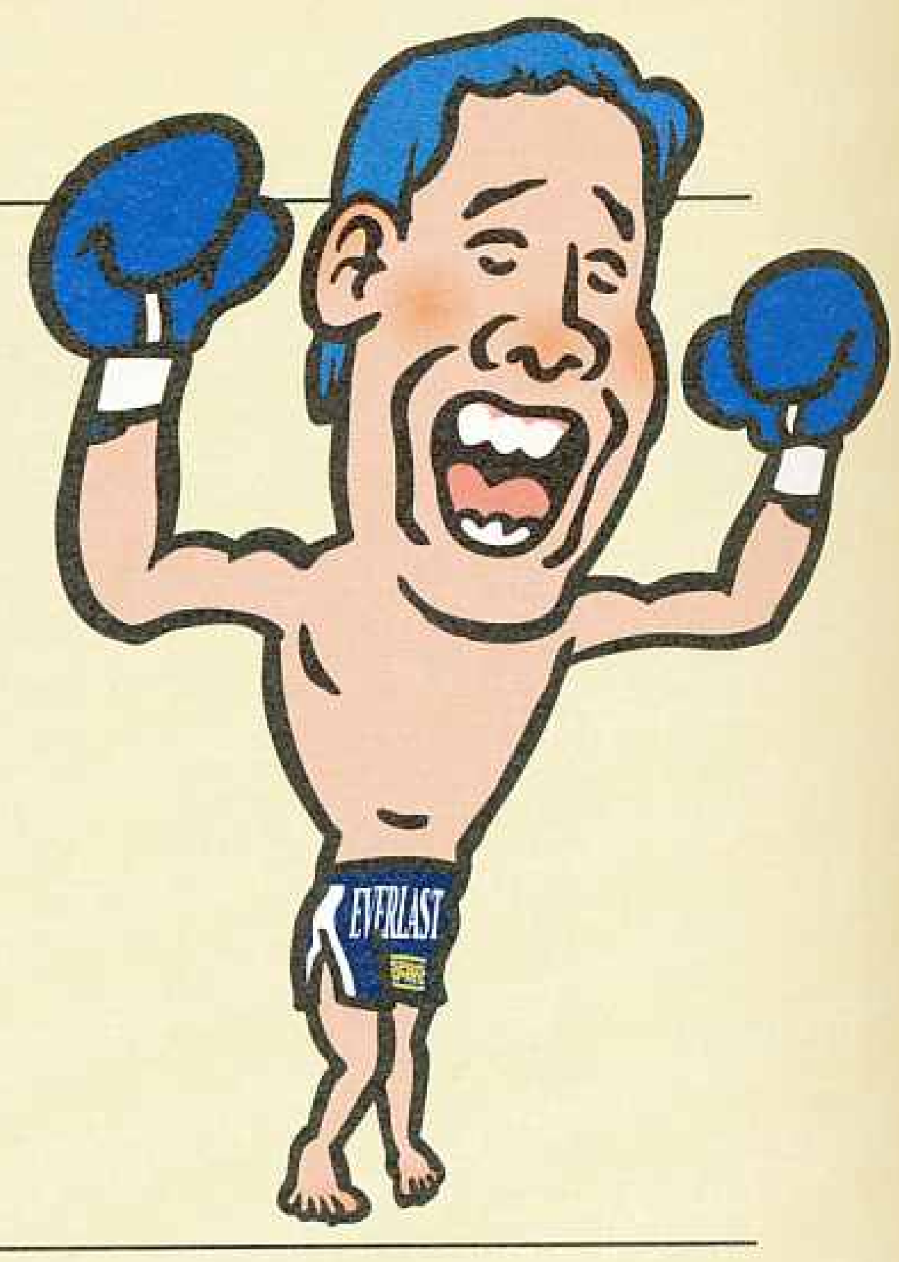
【総括】①ECW「ワンナイト・スタンド」に参戦し、マイク・アッサムとのハードコアマッチで、あのビンスのお口をアングリさせた田中将斗が、どう考えてもMVP候補でしょ？　日本が誇るヘビー級ファイターです！　ボクは（K―1）MAXの魔裟斗より、（ZERO1）・MAXの将斗を支持です！　ん〜っMAX！　CTUは新日本の中でもやっぱり完成されてます。観衆の盛り上がり、試合運び、どれを取っても文句なしですね。特に邪道&外道&稔は安心して楽しめます。マジで。②須藤元気のフィニッシュはもう圧巻。流れるような技のコンボ。楽しくお酒が呑めました。「魚釣り戦法」でも美しく勝って、観衆を沸かせれば問題ナシ！　日高&藤田組はまさに柔よく剛を制す！体格差のハンデを持っているテクニックでカバーして、きっちり見せてくれました。大谷&田中の日本が誇る巧者とすばらしい試合に拍手！　③『ハッスル・マニア2005』はボク自身仕事中なのに「おーっ」とか「わっ！」とか「ガハハハハ！」



①あなたが考える2005年のMVP ②あなたが考える2005年のベストバウト ③あなたが考える2005年のベストイベント ④その他、個人が一方的に贈る賞



kamipro AWARD 2005 [関係者の部]



と自然に声が出てしまったイベントだから。これってプロレスには結構大切なことじゃないですかね？ 正直、立ち上げ当初の『ハッスル』はヤバさがプンプンでしたが、約2年でここまでになるとは思いませんでした。レスラーが上がりたくなるフィールドになってほしいものです。ちなみにボクの至近距離で見ていた某専門誌の某編集長も「凄い！」とか「いやぁ～凄い！」って手をたたいて喜んでいたのをボクはしっかり見てますから！ 至近距離の真実！ ④タジリ選手は本当にお疲れ様でした。我々が知らないところでも相当な苦労をされたと思います。次のステージでも自分の頭脳とズバ抜けたセンスを発揮してほしいものです。任天堂さん、NINTENDO DSの「おいでよ どうぶつの森」、「マリオカートDS」という素晴らしいソフトを発売してくれて本当にありがとう。上記タイトルを遊びまくったおかげで、仕事がたまりすぎて死にそうになりました。ビバ！Wi—Fi！

イナズマK

普段は土屋恵介の本名で音楽関係を中心に取材。以前から、プロレス&格闘技好きのアーティストを紹介する連載「プロレスファン列伝」などで『紙プロ』に執筆。現在は、本紙コラム「ハード・コアドージョー」を絶賛連載中！

①ミスティコ
②伊東竜二&佐々木貴 vs 葛西純&〝黒天使〟沼澤邪気（7・22『大日本プロレス』後楽園ホール）
③RAW LIFE
④一番イキがいいで賞→柴田勝頼

【総括】今年は会場のほうに数える程度しかいけてないので、すみません！ しかしそこにあったのは、真剣勝負とエンターテインメントがガッチリ混ざり合った間違いなくプロレス、格闘技的なハードコアなものでした。なぜだかそこにW★ING的なものを感じてしまったのですよ。唯一無二のカオティックな瞬間を目撃できたのは、今後も語り継いでいきたいもんです。さて、すっかりプロレス、格闘技に関しては家でのサムライ・ウォッチャー化が進む中で、実は今一番好きなのがCMLLなんです。中でもミスティコはパーフェクト！ 軽い感じもするけど、技の切れ&キメはばっちりすぎますよ。ビバ・メヒコ！ 葛西が戻って大日本はホント活性化しました。沼澤も伸びたし佐々木もいいし。それと蛍光灯の使い方も毎回新しいムーヴを見せてくれるから驚きます。この試合もイキのいい4人が全開で見せてくれました。ケージの中に蛍光灯で封じ込められた伊東が、佐々木のフォールをカットするため、蛍光灯の束を蹴っ飛ばして出てきた瞬間は思わず感動！ 新日本を飛び出し、ビッグマウス・ラウドの一員として活動を再開させた柴田。W—1での秋山戦は、最高に面白かった。なんでオマエが柴田を選ぶの？ と思う人もいるかもしれませんが、元々、何事もジャンル関係なく接してる自分としては、イキの良い選手なら誰でも大歓迎なのです。それと個人的にも接する機会があったので。好きな音楽、ブラフマン、LOW IQ01、ロマンポルシェ。好きなマンガ、あしたのジョー。影響を受けた試合、新日本vsUWF。どうですか、親近感を覚えてしまうのも無理は無いでしょう。ノアでの試合も良かったしなぁ。直情的なファイトで今後も期待してます。

乾晋也

元フライデー専属カメラマン。現在はフリーとして独立し、事務所Mark Photo Press（マーク・フォト・プレス）を設立。一般週刊誌、月刊誌などでプロレス&格闘技はもちろん、スポーツ全般、人物、ルポルタージュなど、多方面で活躍。

①五味隆典
②五味隆典 vs 川尻達也（9・25『武士道・其の九』有明コロシアム）
③9・7『HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者決定トーナメント準決勝』有明コロシアム
④ベスト映像賞→エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ミルコ・クロコップの試合前の映像

【総括】①②MVPはやっぱり五味以外ない！『武士道・其の九』川尻達也戦のあのパンチを見たら凄いもん。だからベストバウトも必然的に五味vs川尻でしょう。総合格闘技であんだけスピード感のある試合をできるヤツは他にはいないよ。アメリカのボクシングを除けば、あんなパンチを出すヤツは、まずいない。カメラ構えてて思った。③あれだけ会場のノリと進行がマッチした大会はここ1年、9・7『HERO'S』以外にない。客の盛り上がりも最高だった。時間だってあっという間にすぎたもんな。完璧って言ってもいいよ。④ミルコvsヒョードルの試合よりも、俺はあのあおり映像に感動した！ 二人の生いたちからいまに至るまでを、ドキュメンタリータッチの映像でずっと追っていくあの感じが、本当にみんなの感動を呼んだと思うし試合を盛り上げた。試合は誰か挙げると思うから、俺はそっちに賞をあげたい（談）。

井上義啓

元週刊ファイト編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレスものは数知れず。〝殺し〟〝裏原宿プロレス〟などの多くの井上用語を生み出し、70歳を過ぎたいまもプロレス&格闘技のことを考える。

①エメリヤーエンコ・ヒョードル
②該当試合なし
③8・28『PRIDE GP 2005 決勝戦』さいたまスーパーアリーナ
④2006年を構築するで賞
→セルゲイ・ハリトーノフ
→マウリシオ・ショーグン
→所英男
→チェ・ホンマン

【総括】①PRIDEヘビー級王座というのは格闘技界最高の権威である。その権威をミルコ・クロコップ相手に寄り切ったのであれば、それは〝質〟ではなく〝格〟の上でのMVPと言ってよい。②③昨年のベストマッチは？ と自問自答したとき、何ひとつ、それらしいものが浮かんでこなかった。ということは、ベストマッチなど存在しなかった、ということだ。世の中、どれかがトップで、どれかがビリ。トップだから質的に最高とはならない。2005年のベスト興行にも似たような感覚でものが言えるが、漠然と「強いて言うなら8・28かな」との独り言を尊重した。④言えるのは、2005年の質は、私が考えていたほど、高くなかったということである。2006年が同じであれば、プロ格闘技は廃れる。



大川義之

韓国格闘技界を鋭い視点、かつ温かく見守る、韓国在住ライター。一昨年の大晦日は『PRIDE男祭り』の取材で帰国したが、昨年は本業の日本語教員の仕事が忙しく里帰りならず。

①チェ・ホンマン
②秋山成勲 vs 奥田正勝（11・5『HERO'S 2005 in SEOUL』ソウルオリンピック第一体育館）
③11・5『HERO'S 2005 in SEOUL』ソウルオリンピック第一体育館
④韓国最強の男！ 次はコイツで賞→イム・ジェソク

【総括】①3・19韓国ソウル大会で、ホンマンは若翔洋、曙、ガオグライを撃破して見事優勝。曙に勝利した時、会場は大爆発大炎上！ あんなに針の振り切れた会場の雰囲気は、滅多にお目にかかれないものだった。視聴率、知名度、メディアへの露出度は、まさに韓国格闘技界の大黒柱であり、戦後の力道山を連想させた。②在日韓国人だった秋山と在韓日本人である奥田の対決は、日韓の国境を越え人生をかけてきた男たちの背景を知る者にとって大きな感慨があった。③観客動員は別にして、このHERO'S大会では中量級で若手が番狂わせ金星をあげるなど、序盤からメインまでの流れがよく、関係者にも好評の大会だった。④スピリットMC大会でミドル級グランプリをすべて一本勝ちして優勝し、国内最強を証明したイム・ジェソク。次に来るのは間違いなくコイツだ！



[PRIDE男祭り2005]
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
(3R終了 判定2-1)
02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支

掟ポルシェ

男気啓蒙難くせバンド『ロマンポルシェ。』北海道ツアー! 2/18(土)旭川・カジノドライブ(0166-26-6022(FAX共))、2/19(日)札幌・スピリチュアルラウンジ(011-221-9199)。その他各種イベント情報は掟ポルシェblogを参照。

①あいか&きのこ&ひなた(我闘姑娘)
②矢口壹琅vsマンモス佐々木(8・14『リキプロ一周年記念興行』後楽園ホール)
③10・30『我闘姑娘』板橋グリーンホール
④いつの間にか目が二重になってたで賞→ジ・ウィンガー

【総括】選考理由は、①世界初女子小学生プロレスラーの試合にド肝を抜かれた。②矢口のバークレー仕込みの妙に流暢な英語アピール&ここぞというところじゃない場面での大技連発&唐突なヒザ十字フィニッシュのグダグダ加減&試合構成の奇妙な間にビンビン反応。屋台村プロレスの進化形を見た。③控室が女子小学生だらけで凄かった。④やさしげな顔が更にやさしさUP。というわけで以下2006年大胆予想。
・新日ドームのメインがボーゴvsキム・ドクに。
・今年こそ新日全員怪奇派にチェンジ(永田さんだけは永田裕志のままでOK)。
・それに伴い吉江のギミックがペットントンに。
・ペットントンの着ぐるみをかぶった吉江が蒸れて試合放棄を連発。新名物に。
・新日ドーム、駐車場横での吉江の焼きそば露店がおいしいと評判、新名物に。
・吉江のフィニッシュホールドがスーパーフライからのディープキスに。
・吉江、おばあちゃんの手を引き横断歩道を渡る。やさしいと評判に。
・吉江、10回クイズにハマる。相手が答えられないとすごくうれしい。
・吉江、カーナビのものまねで一世を風靡。
・吉江、ガストのメニューを全部食う。
・吉江、朝は結構起きられない。

金澤克彦

昨年11月末に「週刊ゴング」の発行元・日本スポーツ出版社を電撃退社。フリーターとなる。2006年の「kami-pro」MVPを目指すぞぉ!っと。

①ユークス&プロレスリングNOAH
②中邑真輔vs山本尚史(12・25『新日本プロレス夢☆勝ちます』後楽園ホール)
③11・3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ
④涙と感動……永遠に忘れないで賞→
爆勝宣言。
大晦日のTVベストバウト賞→
エメリヤーエンコ・ヒョードルvs藤田和之

【総括】新日本プロレス大分裂の危機を救ったユークスの大英断と、1年間プロレスの醍醐味を見せ続けたNOAHにMVPを贈りましょう。個人でいえば、G1クライマックスでどの選手よりもプロレスの力量が上であることを証明した川田か、同じくG1でどの選手よりもプロレス力量はないけれど覚悟が半端ではなかった藤田かな?『夢☆勝ち』の山本戦は真輔のベストバウト。1・4のメイン出場者と1・4で第1試合に出る男が同じ土俵でボコボコにやり合った。だからこそドームでは真輔vs耕平が見たかったんだよなあ。ノアの武道館大会、全日本の代々木大会も捨てがたいけど、やっぱりハッスルかな。ハッスル・ハウスは仕事を忘れるほど楽しかった。「爆勝宣言」は「イノキ・ボンバイエ」も「パワーホール」も超えました。大晦日の「男祭り」で過去の名勝負をなぜかリアルタイムの如く放送したフジテレビ。どの試合よりもヒョードルvs藤田戦が断トツのド迫力だぁ!

菊地成孔

音楽家/文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、精神分析学から音楽理論誌まで、膨大な知識を駆使した異形の評論家として音楽、映画、料理、ファッション等に関する著作多数。今年、初の格闘技批評書『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜』(白夜書房)を出版。

①五味隆典
②菊田早苗vs瀧本誠(12・31『PRIDE男祭り2005』さいたまスーパーアリーナ)
③11・3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ
④最優秀スキンアート賞
〈イケメン部門〉
ヒカルド・アローナ(黒地に黒)
〈ブサイク部門〉
ヒョードル弟(白地にいろんな色)
〈次点〉ヴァンダレイ・シウバ(腕に名前。構えると相手が読める)

【総括】五味の試合は総て規格外なので「ベストバウト」の対象にはとても出来ませんでした。菊田vs瀧本は両者の本当の良さ/強さが初めて発揮された素晴らしい膠着試合で、長らく「到底好きになれない」と思っていた二人を、試合後いっきに大好きにさせてくれた。ビッグ・アップ・セットなので。DSEはどんどん神経症に向かうと思います(BSEと間違ってないですよ)。

椎名基樹

今年も昨年に引き続き、サムライTV三昧です。適当に頑張ります。

①エメリヤーエンコ・ヒョードル
②池本誠知vsオ・ウォンジン(11・19『リアルリズム』Zeep OSAKA)
③9・25『PRIDE武士道・其の九』有明コロシアム
④ベストバイト賞→金原弘光

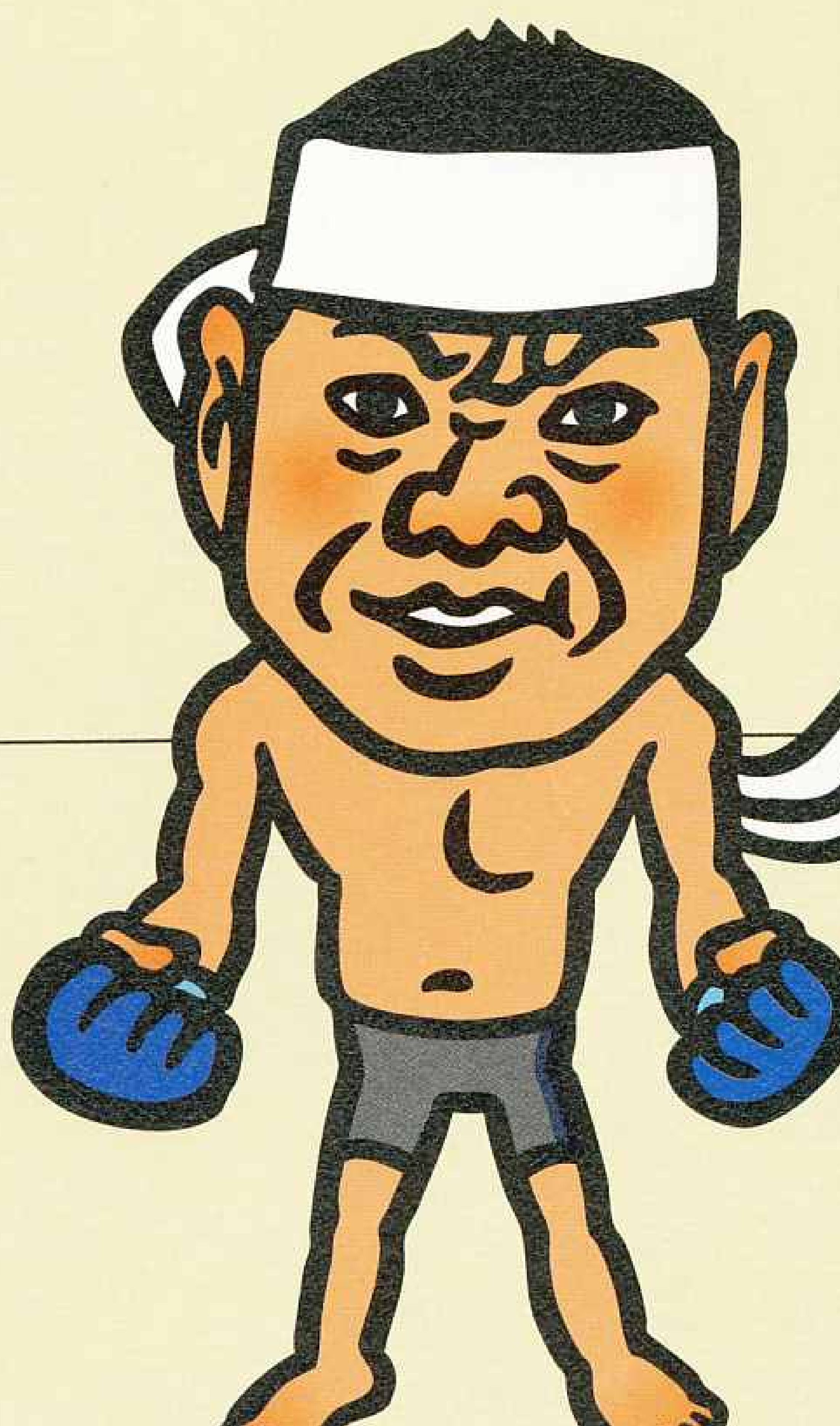
【総括】MVPは総合なら普通に考えれば、ヒョードル、ショーグン、五味の三人のうちの誰かだろう。中でも日本人だし五味が鮮烈だと思うが、多くの人が選びそうなので、皇帝に一票。しかし、皇帝は総合のある到達地点を見せてくれたように感じる。ベストバウトは試合内容、舞台の意義を考えてやはり五味vs川尻、ミルコvs皇帝が基本だろう。しかし五味vs川尻はベストバウトというには実力差があったように思う。ヘビー級タイトルマッチは、重い真剣をブンブン振り回すような闘いぶりはド迫力だった、惜しむらくは判定決着だったことか。よって、舞台は小さいが、そのドラマチックな試合内容で池本の試合を選んだ。会場にいた佐伯代表も感涙を落とした(豚に真珠の涙)この試合。総合史上に残るであろうノゲイラvsサップを思わせる、パワーと技術の激突、しかし最終的には本能と本能の闘い。完成された総合にはない「原格闘技」というべき迫力があった。ベスト興行は、ミドル級決勝興行と悩んだが、修斗を見てきた人間にとっては超人オリンピックだった武士道に一票。ベストバイト(ナイス噛みつき賞)を菊田に噛みついた金原にあげたい。実現希望。名勝負の予感。

ジミー鈴木

1959年12月30日生まれ。米国テキサス州ダラス在住のプロレスリング・インターナショナル・ジャーナリスト。WWE公認リングサイドフォトグラファーにして、週刊ゴング、東スポや様々な媒体で活躍。アメプロ関係の著書多数。趣味はカラオケ、キャバレー。

①ショーン・マイケルズ
②A.J.スタイルズvsクリストファー・ダニエルズvsサモア・ジョー(9・11『Xディビジョン選手権』フロリダ州オーランド、TNA「アンブレーカブル」PPV)
③レッスルマニア21
④技能賞→A.J.スタイルズ
敢闘賞→JBL
殊勲賞→バティスタ
スーパー特別大賞→エディ・ゲレロ

【総括】①MVPはマイケルズ。プロレスというのは受け手がいて成立するもの。サマースラムでホーガンをあれほどまでに光らせたことをはじめ、ほとんどのビッグショーのキーマンとなっていたマイケルズはいやはや凄いレスラーだ。②TNAの三つ巴試合は日本人選手の試合をも上回るレベルの究極ジャパニーズスタイル。読者にぜひとも見てほしい最高の試合だった。③毎年不動。レッスルマニアを超えるプロレス・イベントは存在しない。④そ



①あなたが考える2005年のMVP ②あなたが考える2005年のベストバウト ③あなたが考える2005年のベストイベント ④その他、個人が一方的に贈る賞



kamipro AWARD 2005 [関係者の部]

して……エディのことを考えると思考能力のすべてが飛んでしまうほど悲しい。

スコット・パターソン

アメリカの格闘技サイト『MMA WEEKLY』の編集者。母国アメリカはもちろんだが、東京は八王子にも住居あり。ファイター&興行を追いかけて世界各国を飛び回る日々。上杉HGと仲良し。http://www.mmaweekly.com/

①五味隆典
②ヨアキム・ハンセンvs宇野薫（3・26『HERO'S』さいたまスーパーアリーナ）
③9・25『PRIDE武士道・其の九』有明コロシアム
④みんなで頑張ったで賞→シュート・ボクセ

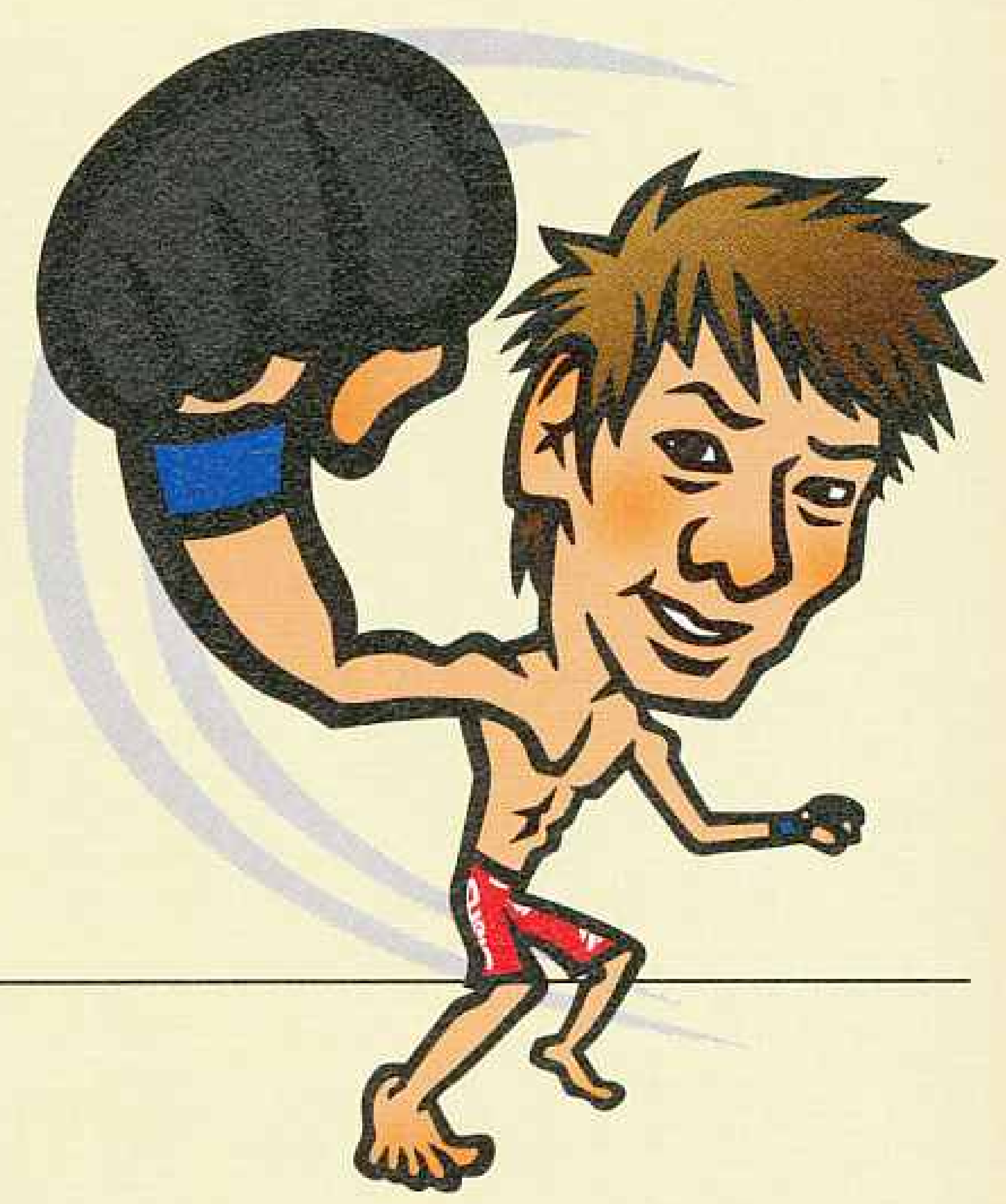
【総括】①武士道のスタートから、目の前の相手を全員叩きのめしただけではなく、それをすべてカッコよくやってのけた五味がMVP。ライト級を『PRIDE』の前面にもってきた功績は大きい。②すべての闘いの要素が詰まっていて、そこにいるだけで、感動してしまうような内容でした。またMMAの歴史に残るようなフィニッシュシーンの衝撃も忘れません。③世界のベストメンバーが集結したライト級のトーナメント。文句なし。④ヴァンダレイ・シウバが長期政権を築き、マウリシオ・ショーグンがGP制覇とフジマール氏に率いられたシュート・ボクセ勢が2005年を完全制覇。勝ちにこだわるだけではなく、毎回、観客を興奮させる試合内容に賞を贈呈！

せきしろ

もうすぐ単行本が出るはずです。よろしくお願いします。

①蝶野正洋
②志賀賢太郎&小橋建太vs越中詩郎&秋山準（11・18『NOAH』後楽園ホール）
③6・30『ZERO1-MAX 第3回S—ARENA』新木場1st RING大会





④景気上向き賞→後藤達俊

【総括】①なんとG1優勝！　夏男健在！②越中のヒップアタックに小橋がチョップを合わせた！そしてお互いダメージなし！③青柳率いる空手軍団勝利！　だからといってその後特になし。④不況のあおりを受けリストラされるも復活。景気が上向きの証拠か？

仙波久幸

某国民的写真週刊誌『フライデー』編集次長。熱狂的猪木信者でありながら93年に猪木スキャンダルを仕掛け、その後、ムック本『猪木とは何か？』の座談会にダマされて出演したことをきっかけに山口日昇と友人に（笑）。02年『WWE』日本大会の打ち上げでジェリコに顔面ペイント攻撃を喰らい、ロックからペイントマンと命名され、その後、日米をまたにかけて「ペイントマン」として絶賛追っかけ活動中だったが、12・31小川敗北を機にペイントマン引退を宣言。『kami-pro』投稿コーナー（ウラ投稿）の常連。

①小川直也
②小川直也vs吉田秀彦（12・31『PRIDE男祭り2005』さいたまスーパーアリーナ）
③4・3『レッスル・マニア21』ロス・ステイプルズセンター）
④プロレスファン心は大事で賞→HG（坂田亘氏と三人でメシを食ったときは、前田vsカレリンの真相を一生懸命知りたがる、"プロレス心"を忘れないで持ち続けていることに「フォーッ！」）
プロ意識が凄すぎるで賞→インリン様（M字開脚はハッスルのリング上だけ、とオフ・ジョイトイのときはもちろん、インリン様としてのグラビア撮影にもM字を拒否する、持ち技へのこだわり。試合開始から大ワザ連発の下々のレスラーは見習うべし！）

【総括】小川vs吉田には2006年の自分の運気を賭けていただけに、年明けからマイナスの波動に……。が、入場のときの『爆勝宣言』で会場に「橋本コール」を巻き起こさせて、「まだプロレスファン心も捨てたもんじゃない」と、プロレス興行への希望を持たせてくれたし、吉田に柔道着を初めて脱がせた点だって充分の"技アリ"。それに批判もあるだろうけど、負けても最後にマイクで言いたい放題の"おいしいトコ取り"をしたのは、ある意味、猪木イズム！　アッパレです。でも、「ハッスル」はまだまだ発展途上中で、ホーガンの「耳当て」とは次元が違う。小川さんはお客にお願いしてからポーズを取るけど、（昨年見に行ったレッスル・マニアで）ホーガンは姿を現わしただけで会場がグワングワンとドヨめくし、お客に媚を売らなくても大コール……。というわけで、オーちゃんには（正月放送のTV番組で）細木数子に薦められた「パワーアップでオーッ！」なんてやらずに、「ハッスル」をよりUPさせて自らをレジェンドの域に高めてほしいと思います。

ターザン山本！

言わずと知れた元『週刊プロレス』編集長。95年には「プロレス　夢の掛け橋」として全団体が参加するオールスター戦を実現！　現在はプロレス&格闘技のさまざまな媒体にゲリラ的に出演。自ら綴る人気サイト「ターザンカフェ」も見てね→http://www.ibjcafe.com/talk/tarzan/

①DSE榊原代表
②山本KID徳郁vs須藤元気（12・31『Dynamite!!』大阪ドーム）
③9・7『HERO'Sミドル級最強王者決定戦』国立代々木競技場第一体育館
④"GK"金澤克彦氏

【総括】何かあったかなあ、そんな感じしかしない2005年である。ボク的には9月からやった「実践文章講座」。これが一番の個人的収穫だった。まあ占いでは2006年から急激に運が向いてくるので、それまではひたすらガマンしろ、だった。まったくその通りの1年になった。今年でボクも60歳。還暦になるということは、これからの人生、時間のすべて"おまけ"か"付録"みたいなものだ。さらにまた勝手に好きなように生きさせてもらうというしかないだろう。所詮、花（人生）に嵐（離婚、裏切り、死別）のたとえもあるさ。さよならだけが男の生き方だ。アア野垂れ死に都垂れ死に一直線。本望である。どんどこいだ。もう欲しいものは何もない。

中川雅博

"kami-pro AWARD"ページのイラストを描いた名画伯。ちなみに画伯のお父様は永源遥と生年月日が一緒です。詳しくは中川画伯部屋へ→http://chu-kichi.jp/chu/blog/

①所英男
②今成正和vs前田吉朗（12・2『DEEP』後楽園ホール）
③4・10『ZERO1-MAX「大和神州ちから祭り」』靖国神社相撲場
④友情とか先輩後輩とか仲間っていいなって思ったで賞→辻結花&おっさん

【総括】破壊王が亡くなってモノ凄くヘコんだり、最愛の犬を亡くしてモノ凄く落ち込んだりして、もう全部が面倒臭くなっちゃったり、感情が無くなったり、大腸が機能しなくなったり、周りの人間の優しさに助けられたりしました。死がリアルに感じられた1年でした。いつ死んじゃうのか解らないんだから後悔しないように描いて描いて描きまくりたい。

中村カタブツ君

昨年めでたく男児が産まれ、現在は一児の父。最近は、オトコを刺激する情報マガジン『R25』など、多方面で執筆中。

①田村潔司
②HGvsヨン様
③大仁田厚の郵政民営化決議or猪木闘魂神社
④あなたは誰なんで賞→青木良





[PRIDE男祭り2005]
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
（3R終了 判定2-1）

02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支



【総括】MVPはやっぱり田村潔司。あそこまでしてもらったら普通出るだろ、年末。でも、出ないところが田村。惚れ直し。ベストバウトはヨン様記者会見に乗り込んだHGの暴れっぷりに。ふざけられない雰囲気を察したディレクターの制止を振り切り、「ヨン様、フォー！」を連呼して会見を破壊したのがグッド・ブロウ・ジョブ。ベストイベントは、大仁田の涙の棄権パフォーマンス。特別賞は『週刊ヤングサンデー』誌上で短期連載された「永田克彦物語KINGS ROAD」の原作者・青木良氏に。同漫画は「オレは格闘技の異常に上手い作家」青木氏によって極めまくられる克彦、「オマエ」よばわりされる克彦、必殺技まで伝授される克彦が描かれていて、毎回ハラハラの連続。ネガティブ・キャンペーンとしか思えない内容が逆に興味を引いた逸品。

橋本宗洋

雑誌、ネット、各種パンフなど誘われるままに執筆。2005年最大の思い出は某選手の"本当のこと"を書いたら取材拒否を食らったこと。近々、業界の大先輩とブログを始める予定です。



①宍戸大樹
②チョンレック・ゲオサムリットvs大月晴明（12・19『全日本キック』タイ・オームノーイスタジアム）
③10・16『全日本キック後楽園大会 SWORD FIGHT』
④最優秀外国人選手賞→アヌワット・ゲオサムリット

【総括】昨年はとにかく立ち技系格闘技が充実しまくっていたので、そこに絞って選出した。①シュートボクシングの新エース・宍戸で文句なし。オーレ・ローセン、イム・チビンなど手強い相手ばかりと闘って5戦全勝はお見事。②タイ遠征での大月初敗北。18戦全勝の豪腕が初めてマットに沈み、しかしそのことで新たなモチベーションを得る……そんな光景を見ることができたのは幸運だった。③日本vsタイ5対5マッチの異様な殺気と熱気、緊張感は、あらためてムエタイの奥深さと、それに挑むロマンを感じさせてくれた。④昨年、最も衝撃を受けたのはラジャダムナンで見たアヌワットの恐るべき強さ。技術先行、ポイント重視といわれるムエタイなのに、この男だけはパンチでガンガン倒すのである。その迫力は五味やKID以上！

長谷川博一

2月中旬に新しい音楽雑誌『音楽的日乗 スローハンド』なるものを創刊します（自由国民社・刊）。酒場の友となるような笑えて学べる音楽誌を思案中。ぜひ手にとってみてほしい。



①プロレス→エディ・ゲレロ（プロレスの誇り）
格闘技→五味隆典（スカ勝ちは男の憧れ。今年の流行語大賞を狙え）
②格闘技のようなプロレスとして→
秋山準vs柴田勝頼（8・4『WRESTLE−1 GP 2005 一回戦』両国国技館）
プロレスのような格闘技として→
小川直也vs吉田秀彦（12・31『PRIDE男祭り2005』さいたまスーパーアリーナ）
③7・18『NOAH DESTINY 2005』東京ドーム、11・3『ハッスル・マニア2005』（いずれも会場の賑わいに安堵）
④反則かもしれないけど、プロレスセンス大賞を全日本プロレスのマッチメイクを務めていた渡辺秀幸にあげたい。新しい外人黄金時代、曙の生かし方、武藤のアドリブ全開……それらを加味して出来上がるパッケージショウの面白さを作り上げた背広組の代表者。05年の全日本・後楽園大会は本当に面白かった！ 完成途中に突然の退社が心配。武藤社長は何とか慰留してほしい。

【総括】どうもプロレスを最初に考える旧世代の人間なのよ。競技のファンでもないしなあ。年末の中尾vsヒーリングなんて痺れちゃう。最近の中西学の無軌道な試合ぶりも痺れちゃう。中西5人くらいいたら団体を作るといいのに（笑）。どんなプロレスを提供したら送り手は、受け手は満足できるのか？ わからなくなったときにTVでエディを見る。ああこういう選手がいたらプロレスはプロレスのままOKなのに、なんて思ってた。合掌。でも年の後半にフト考えた。『PRIDE』とプロレスは、もしかしたら数年後に融合する可能性があるんじゃないか。違う場所から出てきた液体が同じ排水溝から流れていくように。客が見たいものだってある1点に収束していくだろうし。という漠然とした予感があるのだけど、まだ上手く言語化できない。「言葉にできない」小田和正の最近の弾き語りは時に真剣の居合い抜きのような緊張感があって素敵だ。なんて脱線して考え事をするのが私は好きだけど『kami-pro』読者はどうよ？

花くまゆうさく

超売れっ子マンガ家&イラストレーター。昨年12月にはマンガ『東京ゾンビ』が映画化。ご本人も柔術のうまいゾンビ役として出演している。

①今成正和
②マルセーロ・ガルシアvsリコ・ロドリゲス（5・28『ADCC2005』アメリカ・ロングビーチ）
③12・2『DEEP 22th IMPACT』後楽園ホール
④極め系の選手たち

【総括】①こないだの優勝はホント最高。忙しくて見に行けなかったんだけど本当に後悔してる。②記事を見ただけでコーフンした。極め系選手バンザイ！ 他は青木真也vs弘中邦佳も凄かった。④つぎのDEEPの十段vsジェフ・グローバーが楽しみ。エディ・ブラボーも試合で呼んでほしいなあ。vs小室とか、vs十段とか見たくてたまらない。

原タコヤキ君

元『紙プロ』ダミー編集長。「今年は再び東京で仕事をすることになりました。よろしくお願いします！」タコヤキ君のブログ http://blog.goo.ne.jp/taco0522

①小川直也
②小川直也vs吉田秀彦（12・31『PRIDE男祭り2005』さいたまスーパーアリーナ）
③7・15『ハッスル11』大阪府立体育館
④不死鳥で賞→井上義啓さん

【総括】最後の最後にオーチャンがやってくれた！ プロレスラー代表として『PRIDE』のリングに上がり始めたときは、「オーチャンがプロレスラー代表って……」と思っていたものだが、いまやオーチャン以外にプロレスラー代表を名乗って欲しくないとすら思ってしまうほど。しかし、『ハッスル』のリングでは、相変わらず"しょっぱい"オーチャンなのだが、『PRIDE』での試合になると、極上のプロレスを展開するのだから不思議……。今年は『ハッスルマニア』がベストイベントとなるのは間違いないだろうが、ボクは会場に足を運んでいないのでハッスルIN大阪を挙げる。この大会からちゃんと面白くなったと思う、『ハッスル』は。去年、大病を患われたI編集長だが、見事に復活！ 今年もマット界を「バカなこと言っちゃイカンよ！」と一喝してほしいもの。

平工幸雄

プロレスを撮りつづけて二十数年。多少、体力は落ちた（かもしれない）が、同年代レスラーの頑張りを見ると、負けてられないと俄然やる気に。これからもいい写真を撮るぞ！

①田上明
②KENTA vs SUWA（9・18『NOAH』日本武道館）
③7・15『ハッスル11』大阪府立体育館
④ベストフォトジェニック賞→インリン様

【総括】①あの歳でベルトを巻いた田上に乾杯。昭和のプロレスファンとおじさんたちを大いに興奮させてくれた。田上明はわが希望の星です。②16分46秒という長い試合だったのに、それをまったく感じさせない試合展開に圧巻！ リングサイドで

①あなたが考える2005年のMVP ②あなたが考える2005年のベストバウト ③あなたが考える2005年のベストイベント ④その他、個人が一方的に贈る賞



kamipro AWARD 2005［関係者の部］

写真を撮ってても、途切れることのない凄まじい技と技のぶつかり合いに感激しっぱなしだった。③ムチを身体の一部として見事に使いこなしたインリン様は素晴らしかったのひと言。あのメインハッスルで興行全体が完成されたと言っても過言ではない！　④カメラマンの私から賞を贈るとしたら、これしかありません。本人のビジュアルといい、毎回のアッと驚く衣裳といい、この人以上に写し甲斐があるレスラーは他にはいない!!

布施鋼治

平和な活字職人。『Number』『Sportiva』、共同通信、スカパー！　などで活動中。年末は『PRIDE』の総決算番組でますだおかだにイジられまくった。

①五味隆典
②アヌワット・ゲオサムリット vs オロノー・タワン（12・22 ラジャダムナンスタジアム）
③10・16『SWORD FIGHT〜日本対タイ5 vs 5対抗戦〜』後楽園ホール
④右ストレート一発でここまで成り上がったで賞→山本元気（※前・全日本キックボクシング認定のフェザー級王者）

【総括】元旦から大晦日まで05年は本当に忙しい1年でした。メジャーマイナーを問わず、さまざまな会場に足を運び、いろいろな選手に取材しましたが、一番印象に残っているのは、やはり五味隆典の快進撃です。彼のベストバウトをあげるとしたら川尻達也戦になると思いますが、一番インパクトがあったのはルイス・アゼレードとの初対決ですね。あのKOシーンには鳥肌が立ちました。大晦日のマッハ戦では時代の流れを感じずにはいられなかったですね。ちょっと感傷的な気分になりました。アヌワットの試合では彼のパンチ力の強さにマジでビビりました。映画の『マッハ』じゃないけど、パンチをもらうたびに一階級上の王者オロノーが大きく吹っ飛ぶんですよ。この一戦を見たら、間違いなく「ムエタイ＝地味」というイメージを払拭できます。みんなに見てもらいたいけど、ビデオがないんだよなぁ。

堀辺正史

日本武道傳骨法創始師範。鋭い分析能力、ユーモアあふれる解説で格闘技の醍醐味をお届けする「青春の大発見」者。

①五味隆典
②ヴァンダレイ・シウバ vs ヒカルド・アローナ（12・31『PRIDE男祭り2005』さいたまスーパーアリーナ）
③8・28『PRIDE GP 2005 決勝戦』さいたまスーパーアリーナ
④一撃必殺賞→エメリヤーエンコ・ヒョードル、山本KID徳郁

【総括】①判定勝ちという〝仮の勝敗〟ではなく、KOによってハッキリと勝負をつけ、格闘技の醍醐味を見せつけてくれた。その勝負論の明快さが、他の格闘家の模範であるということで五味選手をMVPとしたいと思います。②この一戦はKOでの決着こそつかなかったが、前回8月の試合と比べ、両選手ともプロとして格闘家として、極限まで鍛錬をやりつくして闘いに挑んでいたことが、試合内容から見て取れた。このような、闘いに向かう心構え、鍛錬というものが、これまた他の格闘家の模範になるということで、ベストマッチに選ばせていただきました。③ある意味、ここ数年の格闘技界の総決算的なイベントであり、その期待感、会場の熱、そして試合内容がすべて高く、興行としてのいい部分をすべてもっていた。格闘技興行のひとつの頂点が見られたということで、2005年のベスト興行は8月のPRIDEだと思います。④なぜ、「一撃必殺賞」というものを設けたかというと、これこそが現代格闘技界の技術の象徴であるからです。いまはすべての技術を持った穴のない選手が当たり前の中で、すべての技術が使える上で〝一撃〟を持っていることが必要であり、その〝一撃〟を最ももっているのがこの2人だと思います。彼らのような選手が増えることで、〝明確な勝負論〟を提示できる選手がどんどん生まれてきてほしいと思います。（談）



松林貴

本誌・編集次長リローデッド。まったく締切を守ろうとしない『kamipro』編集部員のケツを叩きに、毎度、入稿の3日ほど前から編集部に待機。

①アン・ジョー司令長官&島田二等兵
②ヴォルク・アターエフ vs ジェファーソン・〝タンク〟・シウバ（8・20『リングス・エカテリンブルグ旗揚げ戦』リングスホール／ロシア・エカテリンブルグ）
③7・15『ハッスル11』大阪府立体育会館
④その姿勢でいってほしいで賞→美濃輪育久

【総括】①時代にそぐわないものになったジャンルを「頑なに守ろうとする姿勢」と「破壊して新たに創造する姿勢」では、後者の可能性に期待するのが当然だろう。ファイティング・オペラにおける狂言回し的役割を真面目にコツコツとやっているこのコンビには感動を覚えた。とくにリングサイドの二等兵！②インサイドガードの状態からパウンド一閃で失神KO！　05年における小生失禁のシーン。ハラショー！　アターエフ。ちなみにこの興行前日には本誌・堀江ガンツの「正拳二発頂戴事件」が勃発。③観客、選手、主催者のすべてが一体となり、会場全体が「ハッスル・キング」追悼の空気に包まれ大爆発。インリン様の〝身体の一部〟によるロープブレイクはまさにそれを象徴するミラクルな瞬間だった。④「もう一人の赤パン」だったはずの大晦日に白パンで登場したのは、小生的にはプチ・ヘブンな喜び。今年もヘブン目指して突き進め！

三田佐代子

去年はプロレス・ガンダムに加え、麻雀とバレエとケロロ軍曹とどうぶつの森を覚えていささか調子に乗りすぎました。今年もオトナの女として人様に羨望の眼差しで見つめられるような、取り返しのつかない領域まで踏み込んでゆこうと思います。プロレスに関しては、あまり良いニュースがなかったメジャーに比べて、インディーはとても元気でした。今年もメジャー・インディー問わず、深く広く愛し続けてまいります。

①男色ディーノ
②日高郁人・藤田ミノル組 vs 炎武連夢（12・23『ZERO1-MAX』後楽園ホール）
③12・9週刊ゴング主催『インディーサミット』後楽園ホール
④大好きでした賞→橋本真也選手

【総括】2005年は破壊王が私たちの前から何のことわりもなくいなくなってしまったことがとにかく一番悲しかったです。でも、橋本さんの付き人を務めていた葛西純選手が「破壊王がいなくなったなんて俺っちは信じねえ。きっとハッスルあたりででっかい花火と一緒に復活するに決まってる」とおっしゃっていたので、私もいつ何時、橋本さんと再会しても恥ずかしくないように、きちんと生きていこうと思いました。「何だミタちゃん、久しく見ないあいだにカッコ悪くなったなあ」なんて言われたくないので。

師岡とおる

武蔵野美術大学空間演出デザイン科卒業後、フリーに。劇画、落書き、コラージュ、グラフィック、アニメーション、刺繍等、変幻自在なタッチで、アナログからデジタル、イラストレーションからムービーまで多彩な表現活動を行なう。現在、雑誌、広告、装丁などさまざまな媒体で活動中。刺繍やシルクスクリーンなどを施した展覧会も開催する。

①五味隆典
②五味隆典 vs ルイス・アゼレード（9・25『PRIDE 武士道 其の九』有明コロシアム）
③10・27『ハッスル・ハウスvol.10』後楽園ホール&11・3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ
④レフェリーにもイエローカードで賞→豊永稔

【総括】①プライド物語の終焉を確実に先延ばしにしてくれた五味に感謝！②で、その実力を誰もが確信した桜庭 vs ホイラー的試合。ホントに強い日本人の存在に感動して涙が出たのもサク以来。③凪状態を無理矢理にでも荒波立たすのがプロレスならばワイドショーでタレントが大まじめにコメントしてる時点で大勝利！





［PRIDE男祭り2005］
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
（3R終了 判定2-1）

02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支

読者&関係者が独断と偏見で選ぶ kamipro AWARD 2005

『kamipro』編集部



山口日昇
鬼畜編集長

本誌・鬼畜編集長。その神出鬼没さはあまりに有名。たまに会社に姿を現わすハッスル大統領。

①HG
②HG&小川直也&あちち vs インリン様&川田利明&アン・ジョー司令長官（11・3『ハッスル・マニア』横浜アリーナ）
③8・28『PRIDE GP 2005』さいたまスーパーアリーナ 11・3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ
④ラスト・オブ・夢の懸け橋賞→小川直也 そういうことしちゃダメで賞→成瀬昌由

【総括】いまは見る陰もないが、かつての新日本プロレス（or『ワールド・プロレスリング』）を見る〝視線〟には、熱があった。そしてその視線の先には、現役時代のアントン総帥を始めとしたレスラーたちの〝テンション〟があった。熱を生む導火線はファイターや演者やスタッフたちのテンションである。『ハッスル』に上がったHGのテンションは、確実に見る者の熱を生んだ。インリン様がキャプテンに極めたM十字固めで「大・オガワコール」が起こり、ある意味、そのコールを起こすために今年先陣を切ったキャプテンは、大晦日、吉田秀彦に敗れた。〝真っ赤な嘘〟（ファンタジー）と〝真っ白な真実〟（リアリティ）の二極が共にそれぞれのドラマを生んだ。そしてその間でもがいた某老舗団体は傾いた。がんばれ、新日本プロレス！

堀江ガンツ
［編集部］

本誌・現場監督。海外旅行がしたがために、海外取材を次々と計画する公私混同男。昨年はまんまとメキシコ、ロシア、クロアチア、ブラジル行きに成功。今年こそ『PRIDE』海外大会開催を熱望する32歳。

①五味隆典
②エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ミルコ・クロコップ（8・28『PRIDE GP 2005 決勝戦』さいたまスーパーアリーナ）
③5・14 闘龍門『闘龍門8周年記念興行』メキシコ・アレナメヒコ
④ベスト・スーパーバイザー賞→前田日明 次点・吉田豪

【総括】①あまりにも当たり前の選出なってしまうので、本来なら避けたいところだが、どう考えてもやっぱり五味隆典！　アゼレード戦、川尻戦、マッハ戦と人生の最高傑作をたった半年間で連発するいまの姿は、スーパーマリオがスターを取った時のように〝無敵〟状態。俺にはピカピカと光り輝く五味が見えます。②2003年の『PRIDE GP』は〝リアル・超人オリンピック〟という感じだったが、このヒョードル vs ミルコは、それをも超え、実写版・魔人ブゥ vs ベジータという感じ（ホントは悟空でいいけど、ミルコはイメージ的にベジータでしょ？）。鍛錬に鍛錬を重ねてようやく〝スーパーサイヤ人〟になりながら、ブゥとの力の差を見せつけられたベジータ（ミルコ）。その心情を察するとたまらないものがあった。③『男祭り』も『GP』も『武士道』も凄かったけど、興行としてもっとも心を動かされたのは、メキシコで開催された「闘龍門8周年記念興行」。かつてのプロレス少年がメキシコに渡りプロレスラーとなり、少年時代に憧れたタイガーマスクを呼んでルチャの殿堂アレナ・メヒコでビッグイベントを開催するという、浅井嘉浩の最強プロレスファンぶりに乾杯！④衝撃の業界復帰後すぐに、〝山本KID級〟を20～30人発掘に成功し、その眼力の凄さをまざまざと見せつけた我らが日明兄さん。2006年はぜひとも、見つけるだけでなくそれらの選手を『HERO'S』に送り込んでほしいとの期待を込めて、僭越ながら賞を贈らせていただきます。吉田豪さんは『ゴング格闘技』等を使った遠隔的なスーパーバイズに敬意を表して。

ジャン斉藤

〝伝説の雀鬼〟桜井章一の内弟子だったが、辛くなったので逃亡。永久電機は大好きだが、投資するつもりはまるでなし。それでも〝やる気、元気、井脇（ノブ子）〟ならぬ〝猪木、電機、雀鬼〟の三つの〝キ〟を愛する30歳。

①五味隆典
②小川直也 vs 川田利明（3・18『ハッスル8』両国国技館）
③11・3『ハッスル・マニア』
④パラノイアでオ～ッ！で賞→アントニオ猪木&永久電機

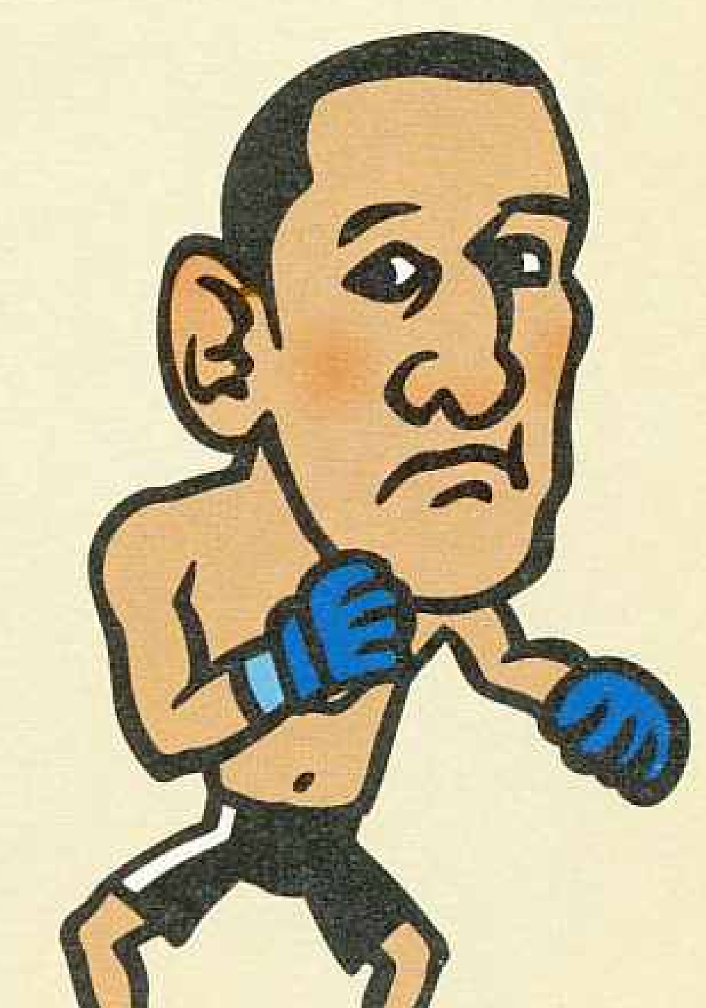
【総括】①どれくらい強いのか、壊すことを試みたくなるほど。2年連続MVPの可能性もあるだろう、これは！②③ある意味リアルファイトよりも怖い試合形式〝観客ジャッジシステム〟で行なわれた一戦は、もっと光を当てるべきであり、単なるエンタメで片付けることができない『ハッスル』の奥深さを感じた。「おい、髙田！　オレはたしかにしゃべるのはヘタクソだよ。思い通りにいかないことばかりなんだ！」――小川の心からの叫びも切なくてたまらない！④〝世紀の大発明〟どころか単なるモーターかよ！……と大激怒の永久電機マニア、魔が差して資金援助してしまった投資家の皆さん、ちょっと落ち着いて。いいですか、電気系の人間が持つ特有のパラノイアが内的世界を脱したときこそ、科学は常に進歩してきた（ような気がする）。もうちょっとのガマンです。電機が動く日は近い！（ような気がする）。

真下義之

某世界的著名アーティストの下で8年間勤務したあと、昨年『ハッスルMAGAZINE』の編集に携わったことがきっかけで、（株）ダブルクロス入社。新年早々、「KENTA vs 丸藤」のジュニア戦実現にひとり狂喜乱舞する元ノアヲタ編集部員。

①インリン様
②小橋建太&潮崎豪 vs 佐々木健介&中嶋勝彦（11・5『NOAH』日本武道館）
③12・31『Dynamite!!』大阪ドーム
④ベストプロレス書籍→『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった』菊地成孔（白夜書房）
『悪役レスラーは笑う―「卑劣なジャップ」グレート東郷』森達也（岩波新書）

【総括】①は、『ハッスル・マニア』での過剰な負けざま、クリスマススペシャルの散りぎわ、まで含めて年間を通じてプロレスラーらしい気概と起伏を見せつづけた。この（たった）1年の活動は真の意味で革命的。②は総合格闘技全盛の中、プロレスにうちこむ10代後半と20代前半の若者の躍動感と未来感あふれる攻防に小橋と健介のチョップ合戦が共鳴した立体的名勝負。潮崎は2年目とはとても思えない。③は格闘技では不可能と思われたエンターテインメント化をほぼ完璧なかたちで実現した興行。『ハッスル・マニア』と双璧だが当初の期待感が薄かった分、感激が増幅した。④は前者が膠着しきっていた活字プロレス界に切り込んだ論客の歴史的名著。後者は自身のドキュメント手法を駆使してドラマチックに語りきった著者の力量に圧倒される（とくに後半）。



松下ミワ

新年早々、ある方から「君には恋愛はできないよぉぉ！」と悲しい烙印を押された卓球少女・アイちゃん似の編集部員。ハガキ愛ランド、今年もよろしくお願いします！

①所英男（とダン・ヘンダーソン）
②セルゲイ・ハリトーノフ vs ペドロ・ヒーゾ（とダン・ヘンダーソンの試合）
③8・28『PRIDE GP 2005 2nd ROUND』さいたまスーパーアリーナ（とダン・ヘンダーソンが出た大会）
④ついに逢えたで賞→ダン・ヘンダーソン

【総括】①試合するたびにどんどんスターになっていく所選手は見てて本当に爽快。絵に書いたようなシンデレラストーリー、このままずっと演じきってほしいです。②③『kamipro』編集部に入社してはじめての『PRIDE』、しかも第一試合で、いきなり極上のKOを目撃。ハリトーノフ、ありがとう！　さらにその日はアリスター vs ボブチャンチン、ショーグン vs ホジェリオと凄まじい

①あなたが考える2005年のMVP ②あなたが考える2005年のベストバウト ③あなたが考える2005年のベストイベント ④その他、個人が一方的に贈る賞



kamipro AWARD 2005 [kamipro編集部]

試合ばっかり。福岡から上京した私は、「東京に来てよかった……」と心底思いました。④2005年、やっぱりこのできごとをなくしては語れません！『武士道・其の九』の翌日インタビューでは「犬と闘ったことがあるんですか？」に始まるくだらない質問を連発。終盤は通訳の方からも「直接、話してもらえますか（無気力）」と冷たく言い放たれました。陳謝！

[企画制作部]
坂井ノブ

（株）ダブルクロス企画制作部。最近のおもな仕事は大会パンフレットの編集、大会ポスターの作成、ハッスルMAGAZINEの編集、いろんな企画や原稿書き等。ハッスルMAGAZINE vol.2絶賛発売中！

①インリン様
②和泉元彌vs鈴木健想with浩子（11・3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ）
③11・3『ハッスル・マニア 2005』横浜アリーナ
④よく食べましたで賞→ブギーマン（WWE）
よく買いましたで賞→株式会社ユークス
よく思いついたで賞→1・4新日本プロレス アルティメット・ロワイヤル
よく振りましたで賞→HG

【総括】仕事の大半がハッスル関連だった自分的には①は文句なしにインリン様。2005年後半はHGの追い上げも凄かったけど、インリン様は1年を通してエロい、強い、美しいと三拍子揃ったぶっちぎり状態で突っ走ってました。HGには個人的に賞を差し上げたいので④のように。②は3カウント入った瞬間のスタンディングオベーションが本当に凄かったです。プロレスの勝敗であれだけ多くの人が興奮した瞬間は久々に見ました。③日本産エンターテインメント・プロレスの金字塔。破壊王が亡くなった直後のハッスル10にもすごくいろんな思いがあるけど、ベストではない。④生きたまま大量のミミズをムシャムシャ食うのは反則！ 賞というわけじゃないけど〝破壊王〟橋本真也と〝ラティーノ・ヒート〟エディ・ゲレロというかけがえのない希代の才能を失なったことは本当に悲しく、これだけ流れが速い時代だというのに大きな喪失感はまだ残ってます。

[電気部]
ささきぃ

緊張で張りつめた小川直也vs吉田秀彦決定記者会見の席上で「次元の低い質問」を放ち、小川直也に「答えたくないね。帰っていいか」と言われた電気部リーダー。今年も会見場その他で頑張ります。



①橋本真也
②小林聡vs大月晴明（1・4『全日本キック』後楽園ホール）
③4・10『奉納プロレス 大和神州ちから祭り』靖国神社
④今年も楽しみで賞→『S—ARENA』

【総括】①MVPは他に思いつかない。生まれてこのかた、人が亡くなったことであんなに泣いたことはなかった。最後の最後に「死」という大きなことを学ばせてくれた破壊王の存在がMVP。学びたくなかったけど。②いい試合はたくさんあった1年でした。ただ「今月のベストバウト」ならたくさん選べるけど、ズバ抜けた1試合ってのが思いつきません。これは、本気でどっちかが死ぬんじゃないかと思わされた（私だけ？）試合までの緊張感と試合中の空気、終わった後の小林聡成長物語の1年を合わせて。③これまた、いい大会はいっぱいあったけど、どれか1つってのが難しいです。その中で、歴史の重さと意義を称えて。王拳聖vs浪口修はプロレス部門ベストバウトです。今年も開催期待します。④昨年からスタートしたZERO1—MAXアナザーワールドの『S—ARENA』新木場シリーズに賞を。松永光弘にビビり、ケンドー新木場に爆笑し、アックス・ボンバーズに拍手。まだ見ていない方は、是非！『S—ARENA』シリーズは、今年の年末頃に、満員で入れなくなってる大会だと思います。そう願います。

松澤チョロ

電気部ラウド所属。1月16日で34歳になりました。今年は戌年なので、とりあえず犬を飼える暮らしを目指してみます。ここ掘れワンワン。

①男色ディーノ
②石井智宏vs伊藤博之（9・11『ビッグマウス・ラウド旗揚げ戦』後楽園ホール）
③11・29『SMACK GIRL』後楽園ホール
④故人賞→〝破壊王〟橋本真也
俺内ブレイク大賞→マッスル坂井&鶴見亜門
今年もやって欲しいで賞→深谷愛
男の勲賞→T—1代表・二見理

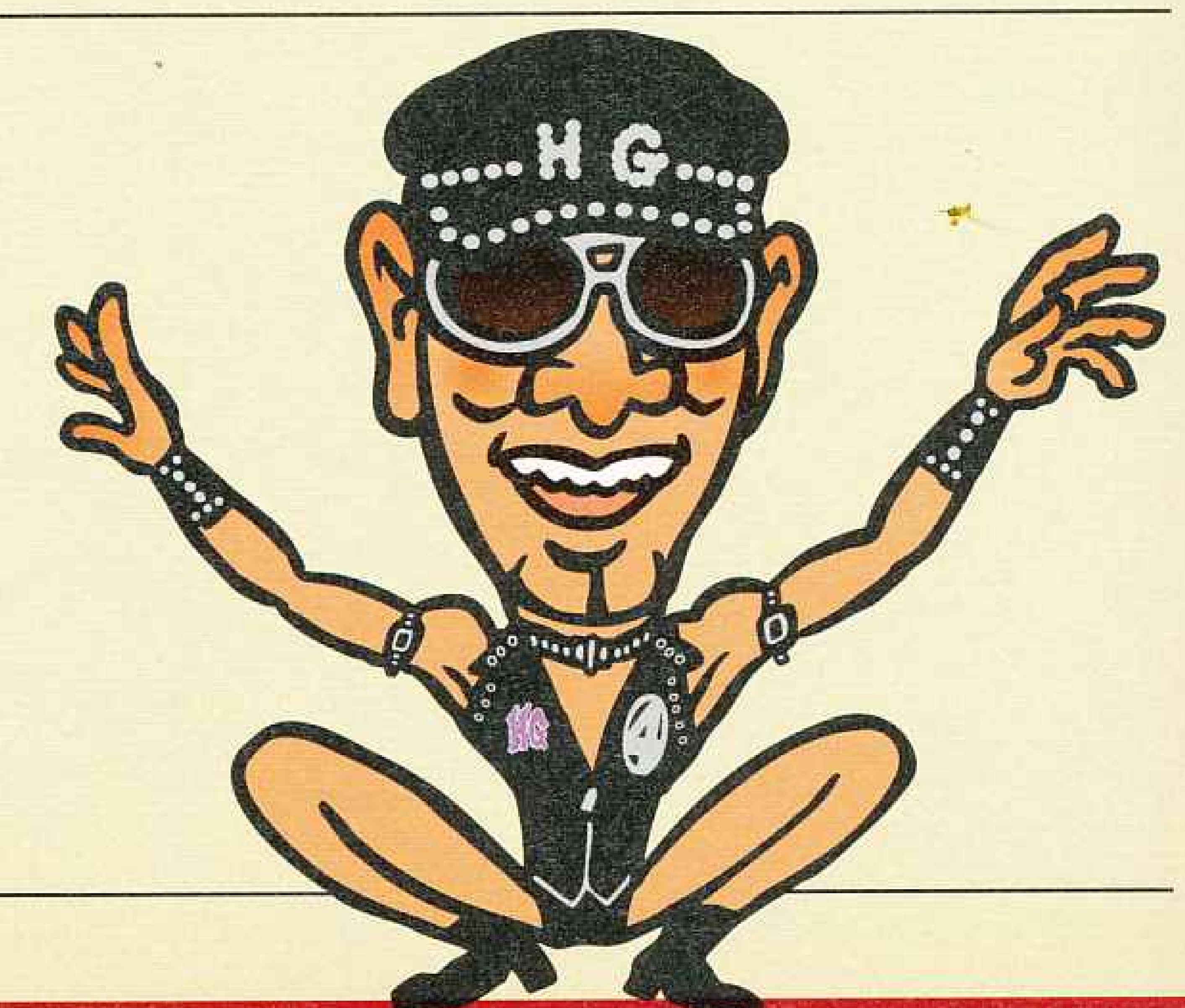
【総括】①2005年のプロレス界MVPと言えば、やはりこの人（ゲイ）しか思い浮かばない。試合はもちろん、会見で、マイクで、そして文章もイケる。HGもいいけど、学プロ時代まんまのゲイキャラでDDTの王者にまで昇りつめたディーノはホントに凄いと思う。②ベストバウトは〝顔面の腫れるプロレス〟を必要以上に体現してくれた、この2人に。③昨年はちょっと停滞気味かなと思っていた女子格ですが、11月大会は前半、女子プロレスラー風香の嬉し恥ずかし総合初勝利。セミではキック王者の渡辺に果敢にも打撃で立ち向かっていった柔術女王・茂木の心意気、そして粘る大室を下し新王者に輝いた、しなしが登場のメインまで女子格パワーを見せつけられた一日でした。④破壊王に泣かされっぱなしの1年でしたが、逆に笑かしてもらったのが坂井と亜門の2人。坂井の頭脳と亜門の表現力があればプロレス界の未来はギンギラギンに明るいと思いマッスル！ あとは愛ちゃんの「もう一丁！」が聞きたいのと、ある種、伝説の興行「T—1GP」を開催したT—1の二見代表に〝男の勲賞〟を。今年もツッパりまくってほしいものです。某専門誌みたいに取材拒否されないよう気をつけないと！

ポンジュース上杉

本誌・エセ通訳。奥付の名前も定まらず、所属部署もハッキリしない、そろそろ入社丸一年になる放置プレー中の新人。海外で培った放浪癖を社内でもいかんなく発揮中、と言ったところ。同じく海外で培った英語力は、たまにしか通訳を頼まれないので、まったく上達しません。

①ドン・中矢・ニールセン
②マウリシオ・ショーグンvsアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（6・26『PRIDE GP 2nd ROUND』）
③7・26『全日本プロレス』国立代々木競技場第二体育館
④お騒がせしたで賞→小島聡vs天山広吉（2・20新日本プロレス両国大会）
パラパラは小力だけじゃないで賞→726

【総括】①05年、マット界に電撃復活を果たした前田日明。いきなり天下を取り損なった男・永田さんをヤリ玉に。そこに端を発した前田—永田論争でひさしぶりにスポットライトを浴びることになったニールセン。真相を探ろうと彼のいるタイに飛んだ紙プロ取材班に彼は一言。「ビジネスファイトは、ビジネスファイト」！ 言葉の意味はわからないが、妙に説得力のあるセリフでその論争に終止符を打った!! 表舞台に立ったわけではないが、初海外取材となった自分には個人的に感慨深いものもありMVPに。②大会前からPRIDEミドル級GPの〝事実上の決勝戦〟と言われ、注目度の高かったこの試合。アホの子のように口を開けて「ホゲー」と感心するばかりだった。勝ったショーグンはGPを制覇。③パッケージとしての完成度が高く、業界関係者の間で、評価が高かった05年全日本の代々木興行。その中でも、敗者追放、空中戦、下克上、青春、激闘、デカいガイジン、波乱、戴冠、感動とさまざまな要素がグチャグチャに盛り込まれていて、〝おもちゃ箱をひっくり返した感〟を久々に味わわせてくれたのがこの大会。プロレスとは感情を刺激することだと改めて認識。蝶野は、新日本の外にいるとイキイキしていることも新たな発見④762は現代日本の若者を表現しうる希有な存在として、パラパラとレスリングを融合したスタイルを築き、『マッスル4』ではK—I（※注ケイ・アイ）グランプリ日本代表の座を奪う快挙!! ちなみに、年明けの『ワールドプロレスリング』に登場し、まさかのメジャーデビュー。期待を込めて個人賞を送ります。〝なつる〟と読みます、念のため。





[PRIDE男祭り2005]
○マークハント vs ミルコ・クロコップ×
(3R終了 判定2-1)

02年にK-1マットで敗れたハントの『PRIDE』でのリベンジマッチとなったこの一戦は、序盤からミルコが積極的に蹴りを放つも、ハントが驚異の打たれ強さで受け流し、逆に終始プレッシャーをかけて試合を支

kamipro AWARD 2005 [芸人の部]



出渕誠（レイザーラモン）



お笑いコンビ・レイザーラモンの"ハード"じゃないほう。立命館大学のプロレス同好会で住谷正樹（現・HG）と出会い、コンビを結成。最近はHG人気に便乗してRG（リアルゲイ）としても売り出し中。

①HG
②ショーン・マイケルズ vs シェルトン・ベンジャミン（7・18『RAW』ペンシルバニア州フィラデルフィア大会）
③11・3『ハッスル・マニア 2005』横浜アリーナ
④フォーエバー賞↓
橋本真也、エディ・ゲレロ

【総括】①は世間の目をプロレスに向けさせた偉業を称えて。②は夏ぐらいのRAWで次期挑戦者トーナメントの一回戦で行なわれた一戦で、ラストのスワンダイブで飛んだシェルトン・ベンジャミンの着地寸前をショーンのスウィートチンミュージックが決まり、3カウント！ ③あんなハッピーな終わり方をした大会は久しぶり。あと、ケンゾー&ヒロコの巧みさ！ そしてベテランはこう使え！という手本のような大会。④プロレス界は本当に大切な二人を失ってしまった……。

ケンドーコバヤシ



お笑い芸人・吉本興行所属。NSC（吉本総合芸術学院）11期生。漫才コンビ、松口vs小林、モストデンジャラスコンビを経て、03年ピン芸人、ケンドーコバヤシとして活動。プロレス話やコント、大喜利で人気を集める。

①五味隆典
②エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ミルコ・クロコップ（8・28『PRIDE GP 2005』さいたまスーパーアリーナ）
③7・18『NOAH 東京ドーム大会』
④レイザーラモンRGにノーフューチャー賞

【総括】私がプロレス界に求めるモノすべてがヒョードル vs ミルコの試合前のレデリールール説明の場面に集約されていた。語弊はあるが、試合よりもシチュエーションと高揚感!! これに尽きる。2006年は冷や飯と煮え湯しか与えられていない後藤達俊に期待!! そしてHGに対するRGの人生転落が見たい!!

ハチミツ二郎（東京ダイナマイト）



M－1グランプリ2004ファイナリスト。DVD『ユナイテッドステイツオブニッポン』（バップ）『DYNAMANIA』（ポニーキャニオン）好評発売中！ 1月30日、19時半から新宿ロフトプラスワンで東京ダイナマイトトークライブ『東京ダイナマイト先生Vol.7～』やります。問い合わせ：ロフトプラスワンTEL．03－3205－6864

①佐々木健介
②力皇 vs 田上（11・5『NOAH』日本武道館）
③11・3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ
④奮闘団体賞→大日本プロレス、ZERO1－MAX、NWA－TNA

【総括】とうとう面白いプロレスがひとつもなくなってしまった！ WWEやPRIDEを含めても、もはやオレを熱狂させる団体はない。日本のプロレスはアメリカより20年遅れているのでこれから新日本が20年前のWWFがそうしたように各団体のエースをヘッドハンティングして太っていくべき。個人活動のレスラーの横の行き来はインディーのレスラーの場合、興味を半減させるだけだが佐々木健介はメジャー選手だけ有り、業界を活性化させた。よってMVP。11・5日本武道館田上明がGHCを奪取した瞬間、リングサイドに観衆が押しかけた。本来最もプロレスらしい熱い光景が見られました。プロレスでこれをやらなければいけないのです！ よってベストバウト。世間を巻き込み、尚かつ最高のショーを提供したハッスルマニアがベスト興行。大日本プロレスやZERO－1MAXには熱心な固定ファンが付いています。往年のテネシー地区やダラス地区のような団体展開を見せれば2006年、更にファンを増やすことでしょう。

増田（ますだおかだ）



93年に漫才コンビ・ますだおかだを結成。デビュー翌年には新人賞を総ナメにしてお笑い勝ち抜き番組でも無類の強さを発揮。02年には漫才界の最高峰『上方漫才大賞』を受賞。拠点を東京に移して『M－1グランプリ2002』で優勝を果たした。現在、テレビ、ラジオで多数のレギュラーを持つ。

①五味隆典
②小川直也 vs 吉田秀彦（12・31『PRIDE男祭り2005』さいたまスーパーアリーナ）
③11・3『ハッスル・マニア2005』横浜アリーナ
④軽量級を盛り上げたで賞↓
桜井"マッハ"速人

【総括】①一時期の桜庭フィーバーを感じさせるほどの五味選手の絶対的な強さは圧巻。われわれ日本人格闘技ファンが久しぶりに誇らしく思える日本人選手ですわ！ ②名勝負とは試合内容よりゴングが鳴るまでのハラハラ、ドキドキ感やと思うんで。③プロレスラーがやる"ひょうきんプロレス"は新しい！ ④あなたがいたから、いまの総合軽量級人気がある。そのことを僕らは感謝しなければならない。

ユリオカ超特Q



ポリスターレコードよりCD、ハゲラップ発売中。2月5日、北沢タウンホールでの『私が司会のユンボ安藤です。』に出演。その他出演は三又忠久、ケンドーコバヤシ。ゲストは長州小力、春一番、アントニオ小猪木、アントキの猪木と、なにげに凄いメンバーが勢揃いします。お問合せ：アッシュ・アンド・ディコーポレーション TEL.03－5456－8130

①藤波辰爾
②藤波辰爾 vs 川田利明（8・6『新日本プロレス』大阪府立体育館）
③1・28『AAA』後楽園ホール
④ヒップアタック大賞→華名

【総括】とにかく本格復帰してくれただけで文句なし。僕が選ばないでどうするんですか！ 今年もドラゴン一筋!! ②まさかのG1出場。そして誰も予想できなかった川田との初対決。試合後自ら握手を求めに行った川田の姿に感動。三沢戦も観たい。それもNOAHの武道館で。③団体のカラーを崩さずに日本人選手を起用するバランス感覚は絶妙。試合内容うんぬんよりも生でみたシベルネティコのオーラは別格④今や越中以上の使い手か!? 暗い話題の多かった女子プロレス界で彼女のこの技はまさに必見。というか顔もタイプだし。

①あなたが考える2005年のMVP ②あなたが考える2005年のベストバウト ③あなたが考える2005年のベストイベント ④その他、個人が一方的に贈る賞



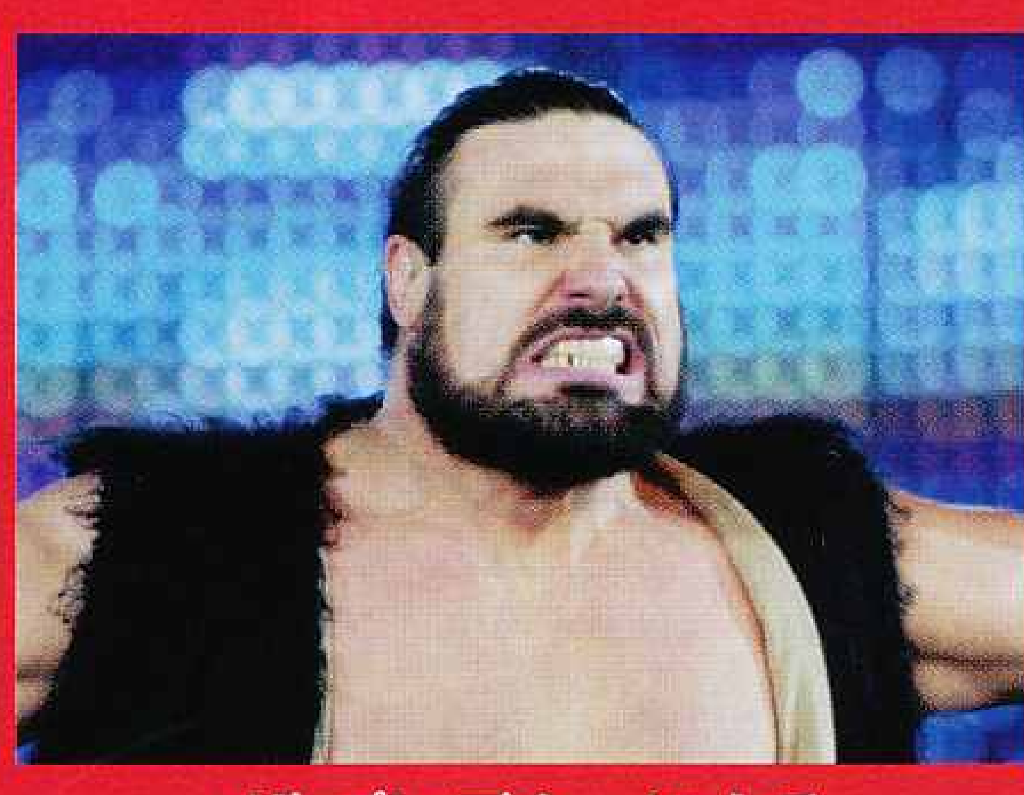
視聴率は敗れるも、会場は大爆発!

テレビには映らなかった

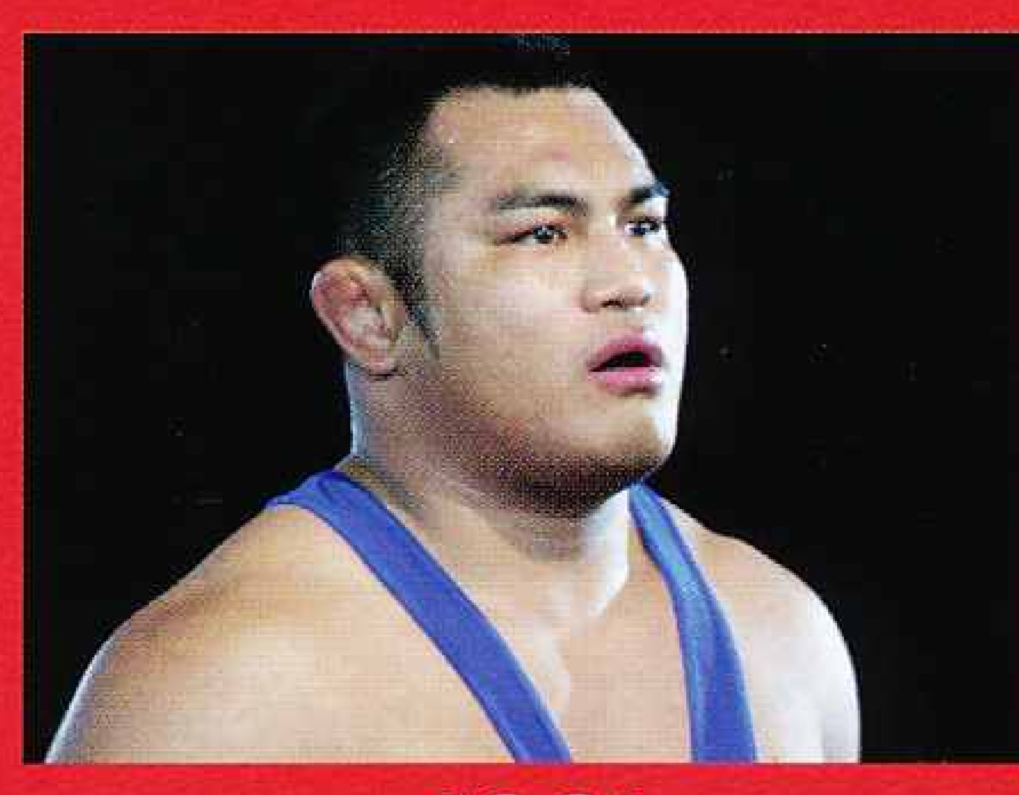
Dynamite!!な真実



永ちゃん登場!で 矢沢マニアが大集合!!



ザ・プレデターによる “もうひとつの橋本追悼試合”



12.31 中尾事件ボッ発!!


う～ダイナマィッ！　05年の大晦日格闘技戦争では興行面、話題性、視聴率で歴史的デッドヒートをくり広げた『Dynamite!!』。残念ながら、視聴率で『PRIDE男祭り』に敗れたものの、現場でイベントを体感した人の評価が異常に高い、歴史に残る素晴らしい格闘エンターテインメントイベントとなり「地上波テレビ放送ワクに入らなかった」さまざまな好試合や、驚愕の事件も満載！
　そのダイナマィッ！ な現場に立ち会った本誌記者が、あらためて振り返るテレビでは映らなかった『Dynamite!!』な真実を徹底レポート！

撮影／乾晋也　構成／松澤チョロ、ささきぃ、真下義之

designed by nogu (Two three)

矢沢永吉、ホントに登場!!

極上のエンターテインメント『Dynamite!!』ついに完成!!



『Dynamite!!』最強の隠し玉として、昨年夏ごろから秘密裏に準備されていたのが、K−1プロデューサー谷川貞治も「キャロル時代からのファン」を公言するカリスマロックミュージシャン、矢沢永吉だった。

この日の大阪ドーム前には(ひと目でそれとわかる)矢沢ファンが全国から大集結! ハルク・ホーガンのハルカマニアックスならぬ、矢沢マニアックスたちが「ヨロシク!」を合い言葉に『YAZAWA』ロゴタオルや真っ赤な応援旗を掲げて入場口付近を闊歩! 予想はしていたものの「格闘技は見たことがない。矢沢だけを目当てに来た」人も結構いるのは驚きだし、予想を超えた盛況ぶりだった。

注目の矢沢の出番は「休憩時間明け」にセッティングされていた。まず「一般ファンのカメラ撮影の禁止」がアナウンスされはじめると、一気に色めきたつ場内。そして『YAZAWA』ロゴが大映しされると場内大歓声! 来た!! 矢沢がホントに来た!!

熱狂的な「永ちゃん」コールに応え、花道をゆっくり歩いてリングイン! 得意のバラード『心花よ(ときめきよ)』をしっとり、力強く歌い上げ、ドームを完璧な矢沢色に染め上げる。巨大な余韻を残しながら『Dynamite!!』怒涛の後半戦につながる着火点的役割を完璧につとめあげた矢沢。

その光景は『Dynamite!!』が希代のカリスマ矢沢永吉の登場によって極上のエンターテインメントとして完全に完成されたことを証明していた。

(真下義之)





全国津々浦々から矢沢マニアックスが『Dynamite!!』に大集結！



これが「全国矢沢連盟」の面々だ！ 革ジャン&リーゼントで心はひとつ！ ダンディな団長（写真右）を中心に一致団結でヨロシク！

会場付近で一番目立ったのが「全国矢沢連盟」（写真左）。深紅の応援旗を掲げつつ猛アピール。一般客が一斉に携帯で写真を撮りはじめるなど「プチ矢沢祭り」状態!! ほかにも『YAZAWA』タオルをマフラー代わりにしている人、リーゼント＆スカジャンで完璧にキマった人、スーツでビシッと揃えた人。コアな矢沢マニアックスが本当に全国津々浦々から大結集した



真っ白なスーツで渋く決めたダンディと『YAZAWA』タオルで友情をアピールする矢沢好き好き軍団。



鮮やかな青いスカジャンが目立っていた『YAZAWA』好きカップルは「K-1に負けるな」と猛アピール！



寒さ厳しいこの日の大阪ドームも『YAZAWA』タオルがあれば、充分！ 地元、大阪からも参戦！

今昔東西、大晦日は『Dynamite!!』でキマリ！

大阪ドーム開催がすっかり定着した『Dynamite!!』。このビッグイベントには矢沢ファンにも負けずと全国から格闘技好きが多数来場！ 53,025人（超満員札止め）をマークした。



家族揃って、地元大阪からの参戦したゆうたくん。ボビーの勝利に歓喜した？

20歳と28歳の年の差、友情コンビは、何はなくともKIDファン！



少年は須藤元気を応援するため、なんと沖縄からやってきた！



揃いのスカジャンで「矢沢ファン？」と思いきやKIDの熱烈ファンでした。



大阪からのカップル観戦組は、元気派vsKID派で真っ向から対決！



ホイスを「先生」と呼ぶ、グレイシー柔術チームは東京からやってきた！



元気のいい二人は所の大ファン！ 所は若い女性から圧倒的支持率！





元祖ZERO-ONEガイジンプレデターが
前K-1王者ボンヤスキーを内容で圧倒!!

もうひとつの“橋本真也追悼試合”

文／ささきぃ

2005年の終わり、『Dynamite!!』を見守っていた観客、関係者の度肝をぬいたプロレスラーがいた。レミー・ボンヤスキーが〝超獣〟と呼ばれたプロレスラー相手にあざやかなフライング・ニーで勝利、来年のグランプリでの再起を誓う……。誰もが予想した試合展開が、まさかの形で裏切られた。

プロレスのリングで活躍していた頃と同じコスチューム、『移民の歌』でチェーンを振り回して堂々の入場をはたしたプレデター。派手なKOシーンを見せるために呼ばれた男のはずだった。ところがプレデターは、前K−1王者レミー・ボンヤスキーを相手に真っ正面からパンチを打ち込み、ローを効かされながらも引かずに猛ファイト。ボンヤスキーの必殺技フライング・ニーを受け流し、ハイキックもしっかりブロック。逆にボンヤスキーへパンチを叩き込み、ガードを崩していった。

スプリットの判定から前王者・ボンヤスキーの勝利が告げられると会場はブーイング。谷川プロデューサーも「あれはプレデターの勝ちでいいと思う」とコメントしたこの試合は、残念ながら地上波ではエンドロールでわずかに結果と映像が流されたのみで、プレデターの奮闘ぶりと強さは、大阪ドームにいた人間のみが実感するだけとなってしまった。

ZERO−ONEの〝黄金ガイジン時代〟を代表するレスラー、ザ・プレデター。当初、角田信朗との対戦が決まっていたプレデターだったが、角田が練習中に眼窩底骨折という大けがを負い、この一戦は流れてしまう。

「カクタのあとは、コリアン・ジャイアント（チェ・ホンマン）と闘う予定だったんだが、それも流れてしまい、1ヵ月の間に3回も対戦相手が変わった（笑）。そういうことにはもう慣れたよ。最終的にオファーをもらった相手は『K−1』のツータイムス・チャンピオン。俺のトレーナーは「いきなり王者と試合をするのは、間違っている」と反対してたんだが、「ここまで自分が注目されるチャンスはないんだ。相手はチャンピオンなんだから」と俺が押し切ったんだ。昨日の試合については満足しているよ。前王者を倒すのは、いろんな意味で容易なことじゃない。ただ、大阪の友達に聞いたんだけど、俺の試合は3秒し映らなかったらしいじゃないか。しかもレミーがフライング・ニーを行なったシーンだけだってね。その点については不満があるよ」

プレデターはK−1のツータイムス・チャンピオンと対戦した12月31日も、チェーンを持って入場。コスチュームもZERO−ONE時代と同じものを着用していた。それは、プレデターがZERO−ONE時代のキャラクターを大切に考えているからなのだろうか？　そうであってほしい、というこちらの希望にも近い問い掛けに対し、プレデターはこう答えた。

「その通り。『ZERO−ONE』は最初に自分にチャンスを与えてくれた団体だから、本当に感謝しているんだ」。

ZERO−ONEといえば、プレデターにとっても大きな存在だった橋本真也さんのことを聞かなくてはならないだろう。プレデターは、橋本真也さんの訃報をインターネットで発見、大きなショックを受けたという。

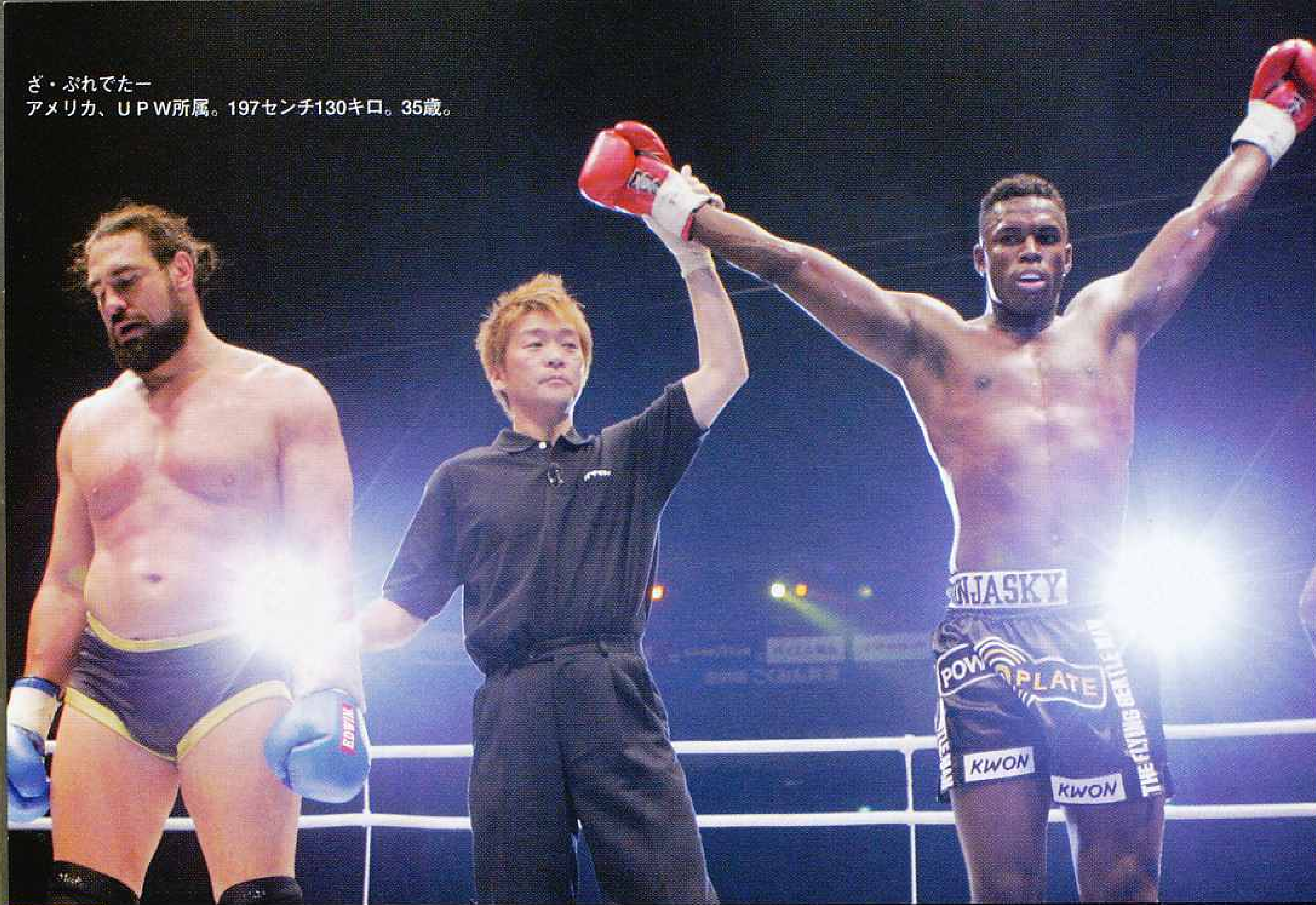
「ハシモトは人としても、団体のボスとしても、そして対戦相手としても、素晴らしかった。だから彼が亡くなったときは、本当に悲しかったよ……」

プレデターがボンヤスキーと闘った大晦日、橋本真也の存在を背負って闘った男がいる。小川直也だ。大晦日、日本で行われたもう一つの大会で、小川直也が試合をしたことをプレデターは知っていた。では小川選手が、橋本真也さんの追悼という意味を背負って、橋

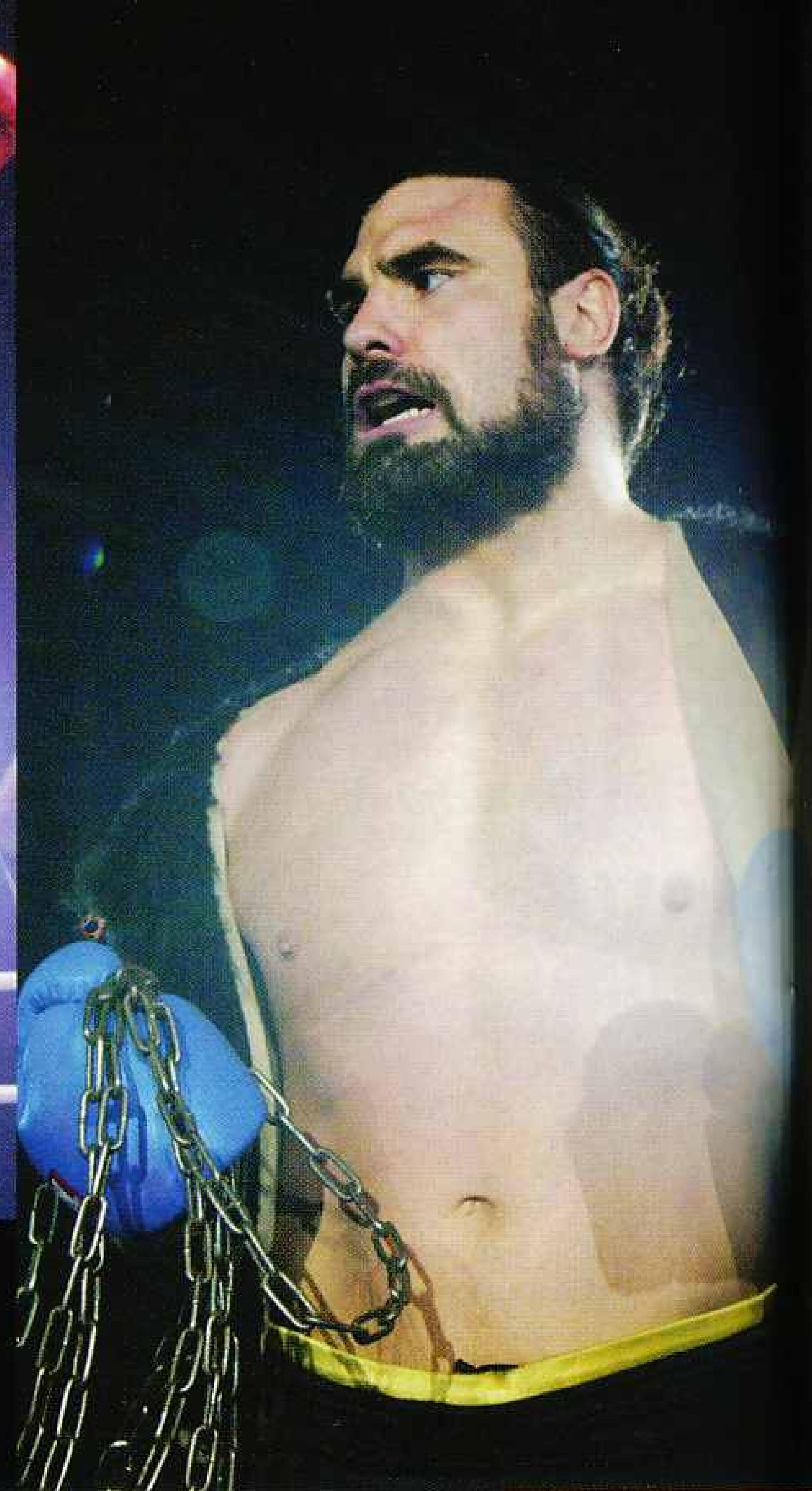








ざ・ぷれでたー
アメリカ、ＵＰＷ所属。197センチ130キロ。35歳。



[2005年『Dynamite!!』]
○レミー・ボンヤスキー vs ザ・プレデター×(3R判定 2-1)
[2005年『HERO'S!』韓国大会]
○ザ・プレデター vs チェ・ムベ×(2R 判定 3-0)
[2004年『Dynamite!!』]
○ザ・プレデター vs クリストフ・ミドゥ"ザ・フェニックス"×(1R 1:11 ネックロック)
[2003年『Dynamite!!』]
○ザ・プレデター vs マウリシオ・ダ・シルバ×(1R 0:13 TKO)
[2002年『ZERO-ONE 七夕大会』]
○小川直也 vs ザ・プレデター×(10:26　スリーパーホールド)

THE PREDATOR

本さんのテーマで入場したことを知っていますか？　こちらの問いに対し、プレデターは「YES」と答えた後、こう続けた。

「OHはなつかしいな。（思い出したかのように小声で）オー、エイチ、ホー。ハッスル、ハッスル。それよりも俺は、オガワが負けたということに驚いたよ。オガワは俺に殴られたり、投げ飛ばされたり、チェーンで首をつられたりして、ちょっとは強くなってると思ったんだけどな」。

プレデターは、手渡した『Kami-pro』最新号の小川直也インタビューページに一度目を落とし、それから言葉を続けた。

「追悼という意味を背負ったオガワの気持ちには、すごく共感できる。だけど、オガワは絶対にそうすべきだったと思うよ。なぜなら、オガワをZERO－ONEに引き込んだのはハシモトだっただろ？　俺は2人の因縁をすべて知ってるわけじゃないが、闘った相手を自分のプロモーションに引き込んで、成長のきっかけを与えるなんて考えられないよ。ハシモトにオガワは感謝すべきだし、当然、そうすべきだったと思うよ」。

「オガワはチキンだったが、バカなやつじゃなかったからもう1回闘ってもいいな」と、ニヤリと笑ったプレデター。「あのころは本当に楽しかったな。毎日のようにオガワやハシモトと殴り合っていた。俺はオガワをブン殴ったり蹴り倒したり投げ飛ばしたりするのが、楽しくてしょうがなかったよ（笑）。そうやって、力を付けることができたとも思っている。ただ、『ZERO－ONE』では、少しずつ自分の価値が下がっているような気がしていたというのも事実なんだ。あの頃のことを思い出すと、互いに高めあうことができる『ライバル』って言える存在の大切さを、あらためて感じているよ。いまは、新たなライバルを見つけなくちゃいけないと思っている」

プレデターと小川直也。いまでは主戦場とするリングは異なっているが、二人は確かにライバルといえる存在だった。小川直也がチェーンで宙づりにされたときには、『東スポ』の一面を飾ったこともある。

「今、俺はK－1とHERO,Sのリングを主体にして闘っているから、オガワとまた闘うのは難しい状況かもしれない。だけど、また闘ってみたいな。今度闘ったら？　そのときは、オガワにうっかり背を向けスリーパーを極めさせたりしない。真っ正面からこの手でブン殴ってKOしてやるさ」。

「プロレスラーの強さ」をK-1のリングで証明した男は、何気に『Dynamite!!』3年連続出場を果たし、過去2戦はKOで勝利している。今年は『HERO,S』韓国大会にも参戦、『PRIDE』のリングでサタデー・ナイト・フィーバーのポーズをきめた〝ムベ様〟こと、チェ・ムベに判定で勝利した。

「いまはプロレスというジャンル自体が尊敬されてないし、プロレスラーだから、簡単にKOされてしまうんじゃないかという見方をされてしまうのは悔しいんだ。もちろん、どのスタイルでもできるさ。今はただ、目の前にある試合にベストを尽くすだけ。プロレスリングでも、総合格闘技でも。それが一番大事だと思わないか？」

プレデターは、獣さながらのどん欲な向上心で、総合格闘技、そしてK－1のリングでも上へ上へと這い上がろうとしている。そして、プレデターの中には、確かにZERO－ONEの存在、小川直也、そして橋本真也の影響があった。橋本真也のテーマを背負って入場した男が、さいたまアリーナにいた。だが同じ大晦日、大阪にも、橋本真也と小川直也の存在を心に抱いて闘う〝プロレスラー〟がいた――。









凄い！　凄いよ、中尾さん!!　中尾vsヒーリング、
K−1オフィシャルサイトでの『Dynamite!!』ファン投票で
ブッチ斬りのベストバウト！（中尾はMVPも!!）



「お前は男……か!?」

12・31 “中尾事変” ボッ発!!

『Dynamite!!』での中尾vsヒーリング戦で、とんでもない事件がボッ発した。残念ながら、この事件の模様は地上波では放送されなかったため、会場に足を運んだ観客と、ネット上にアップされた衝撃映像を見た人にしか、その全貌は伝わっていないだろう。ここでは“12・31中尾事変”の一部始終を可能な限り完全再現でフォーッ!!

構成&中尾役／松澤チョロ　ヒーリング役／ポンジュース上杉
試合撮影／乾晋也　公園再現撮影／真下義之

事件は大晦日の『Dynamite!!』第3試合でボッ発した。

この事件の登場人物は、〃和製カレリン〃の異名を持つ中尾芳広と、〃テキサスの暴れ馬〃ヒース・ヒーリング。

プロ転向後はK−1ルールでサップに敗れた以外は、いまだ負けなしの中尾。しかしながら、それほど強烈なインパクトを残せていないのもまた事実。中尾の試合で記憶に残っているといえば04年5月に行なわれたROMANEXでのドン・フライ戦ぐらいだろう。この試合でも中尾は、試合前からフライと額を付き合わせド突き合うなどヤル気満々。だが、試合開始早々、両者の頭がバッティング。これによりフライは大流血し結局ドクターストップでノーコンテストに。それから約1年半、『Dynamite!!』という大舞台でフライ戦以来となる総合のビッグネーム、ヒーリングとの試合が決まり、中尾は必要以上に張り切っていた。「やるしかない！」と。

大会前日の会見で中尾は「相手がヒーリングということで、自分の眠っている力をすべて出せると思います。頑張ります！」と意気込みを語っていた（ちょっと意味深？）。

大会当日、これまでのどの試合よりもハイテンションで入場してきた中尾。そして事件は試合開始のゴング直前にボッ発した。レフェリーチェックを終えた両者は睨み合いながらリング中央で顔を付き合わせた。次の瞬間、中尾はやってしまった。「何を？」って中尾は大胆にもヒーリングの唇を奪ってしまったんですよォォォ！（炎上）。それもフレンチキスなんて生やさしいものではない。しっかりと唇を突き出し「ブチュ」っと音が聞こえてきそうな男色ディーノばりに強烈な接吻だ（これが眠っていた力か？）。

95年のK−1GP決勝大会で、同じようなシチュエーションでベルナルドとバンナがキ

問題の"中尾VSヒーリング戦"の一部始終を完全再現フォーッ!!



ボディーチェックのためリング中央に並び立った両者。この時点では、数分後にあんなことが起こるなんて誰も予想できなかった……。



「高山vsフライ戦のような試合を期待している」と某関係者からハッパをかけられたという中尾は大声を張り上げながら堂々と登場ダーッ！



久々の日本での試合ということで気合い十分のヒーリングは後頭部にドクロマークを入れた奇抜なヘアスタイルで中尾より先に入場ダーッ！



あまりにも突然の出来事にカメラマンも決定的瞬間を押さえることができなかったため、ここからは本誌チョロと上杉で再現します！　まずはガンつけ合戦！



シウバを彷彿とさせる睨み合いを繰り広げる両者だったが、突如、中尾はヒーリングの唇に濃厚キス。中尾さんがやっちゃいました！　どうするヒーリング？



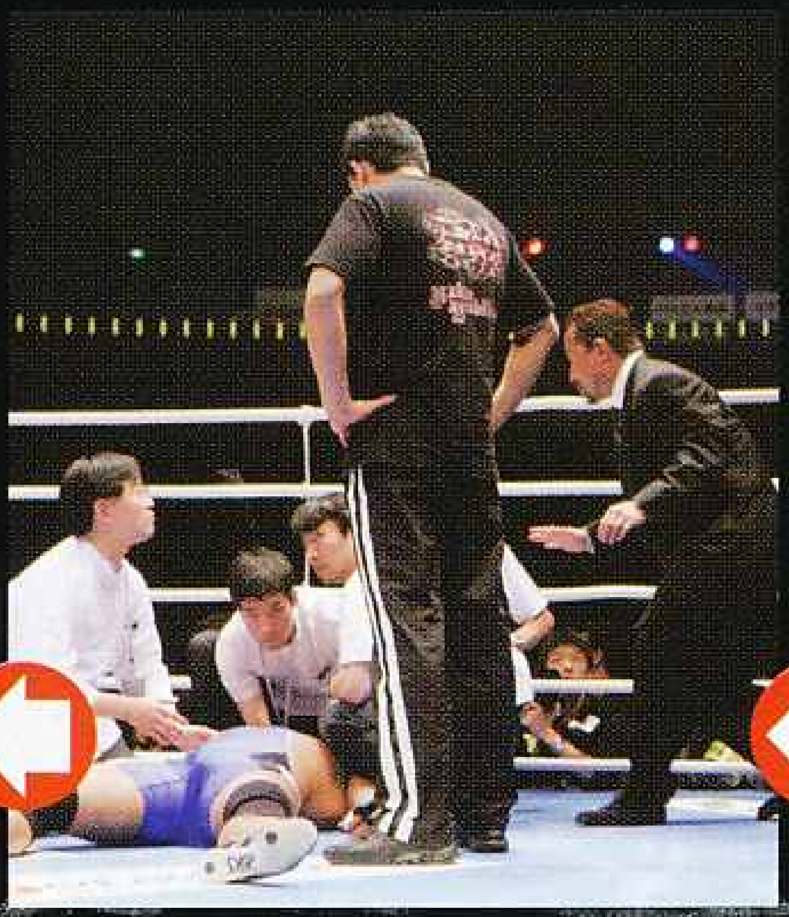
一瞬、事態が飲み込めない様子のヒーリングだったが、次の瞬間、怒りの右フックがアゴを打ち抜き、中尾は後方へ大きく吹っ飛ぶ！　大丈夫、中尾さん!?



セコンドのヤノタクによると、パンチはもちろん、マットに頭を打ち付けたダメージがひどかったらしく、中尾は起き上がることができず。



殴った後も怒りが収まらないヒーリングは「このホモヤロー！」と毒づく。しかし、中尾は横たわったまま動くこともままならない……。



緊急事態にレフェリーやドクターに続きリングに上がったのが、本来ならこの日、試合をするはずだった角田信明競技統括プロデューサーだ！



マイクを持った角田氏は「休憩をとりドクターが中尾選手の身体をチェックし、回復するどうか、それによって試合を行うかを決めます」と場内に説明したものの、その後も中尾は回復せず、試合はなくなってしまった……。

至近距離から見た真実 矢野卓見の証言!!



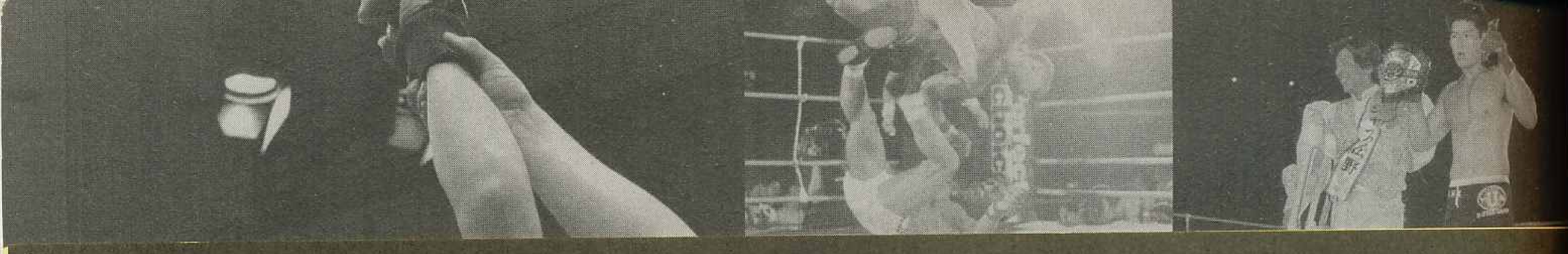
自分は決定的な瞬間は見てなかったんで、挑発して突き飛ばされて、よろけるそぶりでもしてんのかなぁって思ったんですけど、顔を見たらただごとじゃなかったと。その後、会場から病院に行ったら中尾さんのお母さんに会って「息子が『自分のミスでこういう結果になってしまってすいません』の一言が言えずに皆さんを苦しめているのが申し訳ない」と謝られたんですよ。なんか、その言葉を聞いて涙が出そうになりましたね。いまは回復してるみたいなんで言うと、中尾さんのこれまでの試合にないインパクトは残したとは思うし（笑）、次の試合は注目度もかなりアップすると思うんで頑張ってほしいです。

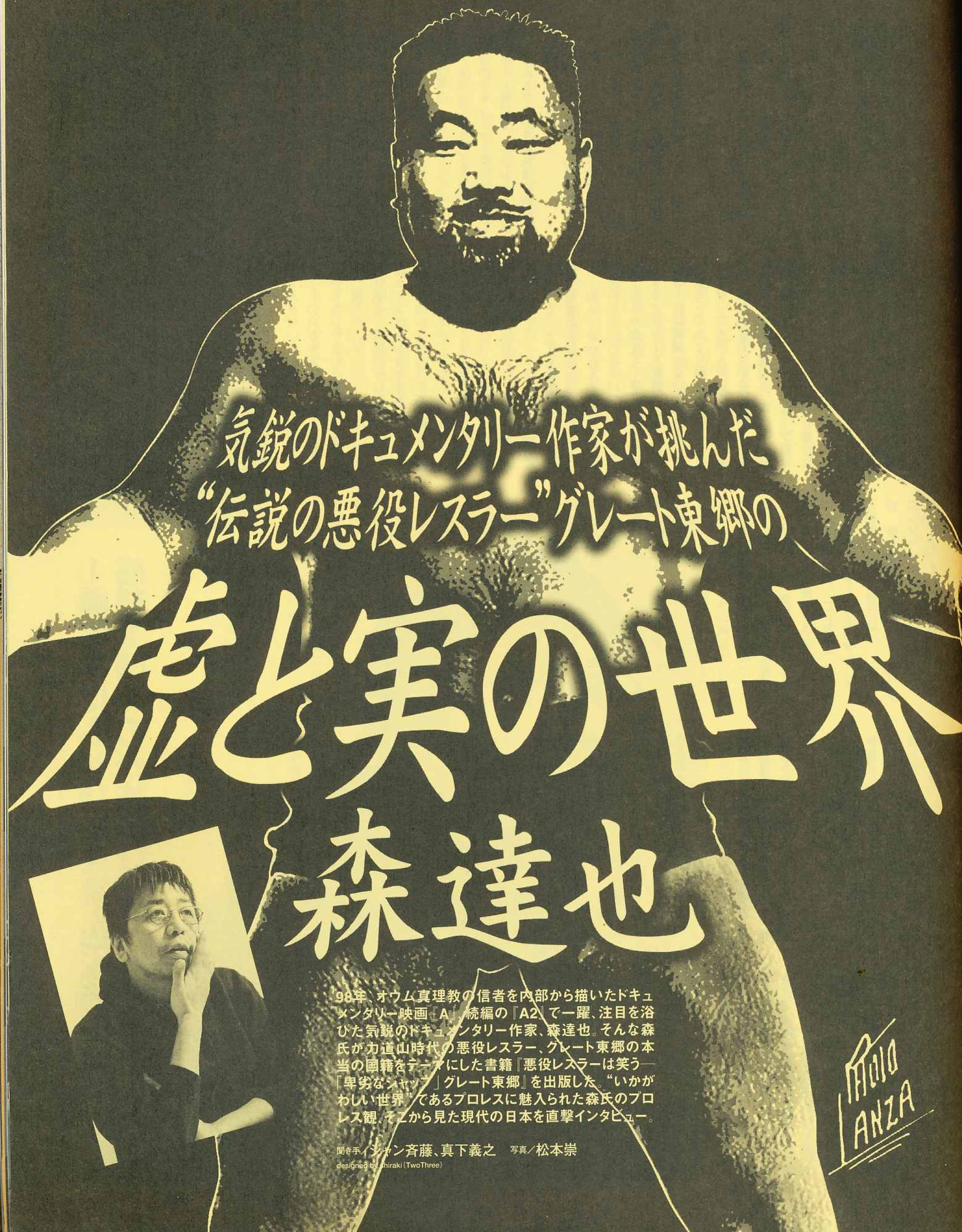
スを交わしたことがあったが、"テキサスの暴れ馬"は黙っちゃいなかった。一瞬の空白ののち、事態を把握したヒーリングは怒りの形相で中尾のアゴに強烈な右フックを叩き込んだ。無防備な状態でパンチを食らった中尾は軽く1メートルは吹っ飛び、そのまま失神！

ヒーリングは、しきりに自分の唇を気にしながら「ヤツはホモヤローだ！」「オレはゲイじゃない！」と怒り爆発。しばらく大の字になっていた中尾だったが、意識は朦朧としたままで、結局、担架で運ばれるハメに。その後、時間をおいたものの、中尾の回復は見込めず、ヒーリングの反則負け、中尾にも相手を侮辱した行為があったとして反則1が宣告された（※裁定が変わる可能性もあり）。

前代未聞の今回の"中尾事変"は残念ながら地上波放送ではカットされてしまったが、完全中継された韓国での映像がネット等で続々とアップされ、中尾は一躍、時の人に。

本人は不本意だと思うが、『男祭り』も含めた大晦日格闘技戦争で、ある意味、一番のインパクトを残してしまったのが中尾。はたして、再戦はあるのか？　それとも、新たなる標的が現われるのか？　誰が相手でも試合前から目が離せない一戦となるだろう。期待はしてるけど、リング上でキスはダメ、中尾さん!!





気鋭のドキュメンタリー作家が挑んだ
“伝説の悪役レスラー”グレート東郷の

虚と実の世界

森達也

98年、オウム真理教の信者を内部から描いたドキュメンタリー映画『A』、続編の『A2』で一躍、注目を浴びた気鋭のドキュメンタリー作家、森達也。そんな森氏が力道山時代の悪役レスラー、グレート東郷の本当の國籍をテーマにした書籍『悪役レスラーは笑う—「卑劣なジャップ」グレート東郷』を出版した。“いかがわしい世界”であるプロレスに魅入られた森氏のプロレス観、そこから見た現代の日本を直撃インタビュー。

聞き手/イシャン斉藤、真下義之　写真/松本崇
designed by Ohiraki (TwoThree)



森達也

―虚と実の世界―

現在、最も動向が注目されるドキュメンタリー作家、それが森達也だ。彼は98年、〝地下鉄サリン事件〟を起こしたあとのオウム真理教（現アーレフ）の信者を、自らが内部に潜入して撮影したドキュメンタリー映画『A』、続編の『A2』によって、一躍注目を浴びる。またテレビディレクターとしても、差別問題をあつかった『放送禁止歌』、超能力をテーマにした『職業欄はエスパー』といった作品で知られ、著書も多数。

そんな森氏が昨年末、突如として力道山時代の悪役レスラー兼、外人選手のブッカーとして巨万の富を稼いだ日系レスラー・グレート東郷の〝本当の国籍〟と〝プロレスとナショナリズム〟をテーマにした『悪役レスラーは笑う―「卑劣なジャップ」グレート東郷（岩波書店）』を出版した。自身のドキュメント手法を駆使してグレート東郷や〝いかがわしい世界〟であるプロレスが見事に語られている。

本書の中で84年に『週刊ファイト』の入社面接を受け不採用となった（！）事実もカミングアウトした「紙一重でプロレスを職業にできなかった」（著書より）森達也氏にそのプロレス観を聞いた。

――森さん、今日はよろしくお願いします！

森　いえいえ、こちらこそ。（資料で用意したプロレス週刊誌をめくりながら）……最近、プロレス雑誌はどうなってるんですか？

――プロレスというジャンルの急激な変化に伴なって、従来の体制や報道姿勢では厳しい局面を迎えていますね。

森　ふ～ん。

――『kamipro』も、プロレスの記事をあまり取り上げていないのが実情です。〝プロレス〟というタイトルが付いているのに、読者アンケートのハガキで「プロレスの記事はいらない」という声があったりして（笑）。

森　ああ、最近のプロレス界は暗いニュースばっかりですもんね。

――プロレスのムック本も続々と出てるんですが、どうしてもスキャンダルを売りにするしかないみたいで。そういう状況で今回、森さんが執筆された『悪役レスラーは笑う―「卑劣なジャップ」グレート東郷』を読むと、とても新鮮でした。

森　東郷の名前は知ってました？

――知ってはいたんですけど、お金に汚いとかいわゆるパブリックなイメージしかなくて。ボクらの世代からするとグレート東郷というプロレスラーには実感がないというか、正直言うと、あまり興味もなかったんですが、でも読んでいくうちにどんどん引き込まれていきました。そして森さんの取材過程は、ナショナリズムを含んだプロレスのルーツ巡りをしている、というふうにも感じたんです。

森　言われてみればそうかもしれないです。なぜ自分はプロレスを好きなんだろう？　という疑問を解くために書いたのかもしれない。でもだとしたら買った人は大迷惑ですね、そんな本を読まされて（笑）。

――いや、プロレスの本って極端なことを言えば、最終的に自己言及性に着地すると思うんですよ。とくに〝I編集長〟こと井上（義啓）さんを源流とする〝活字プロレス〟の影響を受けた世代は。

森　妙な磁場があるんですよね、プロレスって。

――それでこの本の冒頭でなにより衝撃だったのは、森さんがその〝I編集長〟率いる『週刊ファイト』の面接を受けていたということなんです（笑）。

森　はい（笑）。

――当時の編集長だった井上さんが森さんの面接をされたそうですね。

森　だから井上さんにもこの本を送ろうと思ったんですけど、いまの住所がわからなくて。

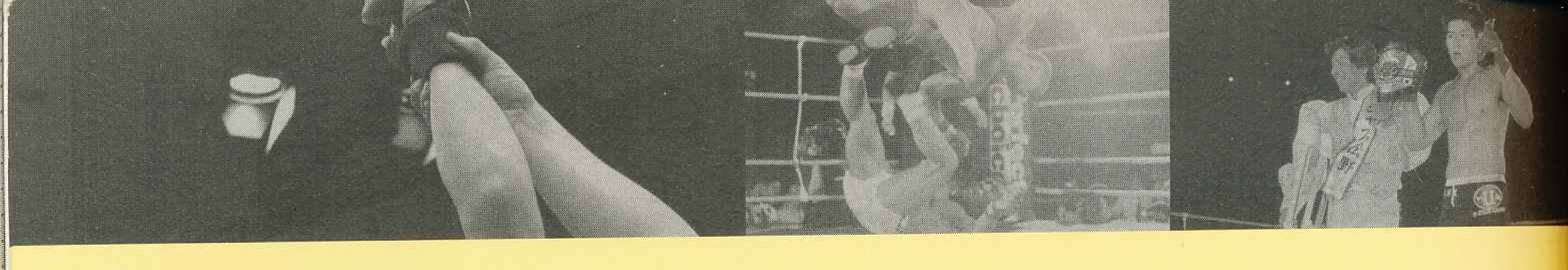
――もし井上さんがよろしければ、あとで住所をお教えします。

森　あ、そうですか。感想を聞くのはちょっと怖いな（笑）。でもぜひ読んでほしいですね。

――本書のなかでは、井上さんの言葉が引用されてますしね。けだし名言である「プロレスは底が丸見えの底なし沼」を。

I編集長にもぜひ本を読んでほしい。感想を聞くのが怖いけど。





リアルタイムではグレート東郷は見ていない。東郷の試合の記憶はないんです。

森　井上さんは本当に重みのある言葉をたまに言われるんで。〝キラー猪木〟とか。

――森さんが一番愛読されていたのは『週刊ファイト』になるんですか？

森　いや、『週刊プロレス』でした。当時は山本さん（ターザン山本！）が編集長で、物の見方やひねり具合がもの凄かった。逆に『ゴング』はあまり読まなくて。『ゴング』はなんていうか、真っ直ぐじゃないですか。

――試合レポートを中心としたプロレス報道の王道ですね。

森　うん。だから試合結果を知るためには『ゴング』のほうがいいんでしょうけど、僕は試合結果なんかどうでもいいっていう感じだったから。プロレスって試合結果以外のファクターを洞察してこそ、おもしろさが出てくるからね。

――そんな森さんがプロレスに関心を持たれたのは、どういうきっかけだったんですか？

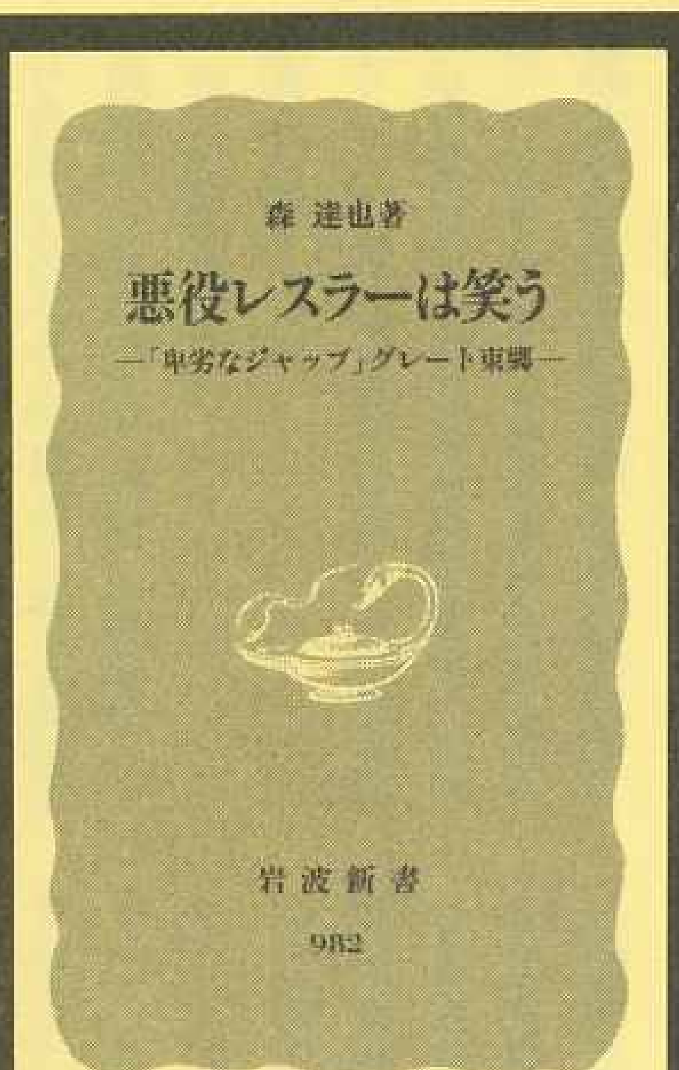
森　それは子どもの頃から見ていたからでしょうね。当時は夜8時から、プロレス中継とディズニーの番組を毎週交互にやっていて。どっちも三菱電機の提供だったんですけど、なんとも不思議な放送をしてたんですよね。で、僕はディズニーが好きだったし、プロレスは親父が好きだったので一緒に見ているうちに、という感じです。

――日常の風景として自然に入り込んできたんですね。

森　見始めの頃はレスラーの名前もわからず見てましたけど、ドン・レオ・ジョナサンは衝撃でしたね。あの身体でバック転を打つんですよ。あとボボ・ブラジルはかっこよかったなぁ。

――見た目だけで惹かれるビジュアルを持ってますよね。

森　初来日した頃はスリムで足が長くて。でも晩年になって全日本へ移籍したときには、花束嬢からもらった花束を囓ったりしてね。そんなパフォーマンスしなくていいのになって、せつない気持ちになりましたけど。



悪役レスラーは笑う
―「卑劣なジャップ」グレート東郷
著：森達也

第二次大戦後のアメリカのマット界で「卑劣なジャップ」を演じた伝説の悪役、日系レスラー、グレート東郷は「じつは中国人だった？」。当時の生き証人、様々な資料から浮上した真実とは？　現在、最も注目を集めるドキュメンタリー作家・森達也が自ら取材して、かき集めた様々なピースから見つめる現代社会。それはプロレスファンであった著者が"虚実が入りまじる"プロレス世界をめぐる自己探求の旅でもあった。

――本を一読して思ったのは、森さんが持つプロレスラーのイメージというのは、フリークスというか、いかがわしさをまとったレスラーになのかなって。それは外見だけじゃなくて、内面のいびつさも含まれるんですけど。

森　ああ、そうかもしれないですね。僕が子どもの頃にスカル・マーフィーというレスラーのことが『少年マガジン』に載ったんですよ。彼は幼少時に猩紅熱にかかり全身の毛を失なったために差別を受けて、その復讐のために闘っている……という紹介をされていたのが怖くて怖くて。まず全身の毛がなくなるということが怖いし、社会に復讐するという話も本当に恐ろしかったんですよね。

――当時のプロレスは、少年心のトラウマに残るような設定が当たり前だったというか（笑）。

森　あと「グレート・アントニオはシベリアの密林からやってきた」とかね。実際シベリアに密林はないんですけど（笑）。

――ワハハハ！　そんないかがわしい世界にグレート東郷も生きていたということですね。

森　うん。ただ、この本にも書いたけど、僕はリアルタイムで東郷を見てないんです。写真を見た記憶はあるけど、試合の記憶がないんだよな。彼のプロフィールに「日本に復讐する」と書いてあって、子ども心になんだかよくわかんないレスラーだなという印象がありましたけど。

――いまのプロレスにそういう匂いを感じることはできますか？

森　ちゃんとプロレスを見ていればきっと感じるんでしょうけど、最近よくは見てないですからね。テレビ放送の時間帯もよくわかんない。新聞でパラっと知る程度だけど、たとえば新日本なんか、いま裏でいろいろあるみたいじゃないですか。

――ゲームソフト会社の子会社になっちゃいました。

森　そういう事情を知ったうえで試合を見ればおもしろいでしょうし、同時に知らなくても想像すればきっとわかると思うんです。僕が感じていないだけで、プロレスはいつまで経ってもプロレスなんだと思いますね。プロレスはそういうジャンルです。

――ただ、最近はそういったプロレスのいかがわしさがファンに伝わりにくくなってるんです。格闘技人気やジャンル自体の低迷で、プロレスという価値観がわかりづらくなっているところがあって。

森　ああ、それはわかる。事象や現象の単純化や簡略化がすごく求められていますね。ついこないだ鴻上尚史さんと対談したとき、彼も嘆いていました。最近は芝居がわかりづらいとお客さんから苦情が出るって。昔はわかりづらいものだったんですけどね、芝居って。

――その文脈からすると、プロレスというジャンルもいまの世相からはおそらく皮膚感覚で拒否されているんでしょうね。

森　日本人はそういう見方をどんどんしなくなってるんだろうね。いまはそういう曖昧な部分を許せなくなってきてるところがあるから。それはテレビや映画にも感じることですけど。でもね、わかんなくていいんですよ。ニュースなんかもそうですけど、殺人事件があって、どういう背景で何が起こったかというのは、そう簡単にはわからないんです。でも、その〝わからないこと〟に対して強迫観念的に不安になっちゃって、〝なんでもいいから答えをくれ！〟という空気がはびこっている。世間と同じくプロレスもそうなってるのかな。曖昧さが許容されなくなっている。

「果たしてプロレスはカミングアウトすべきか？」

――プロレス界のそんな現状に火を付けたのは、ミスター高橋の暴露本がポイントになってるんです。森さんは高橋本をお読みになりました？

森　はい。正直言うと、そこまで書いちゃうのか？　と思いましたね。こっちはだいたい知ったうえで楽しんでるんだから、あらためて書かなくてもいいのになと最初は思いました。でも、カミングアウトすべき時期に来ているとの高橋さんの主張も同意できるし。……微妙なところですね。

――高橋さんからすると、時代性に合わせたそうです。『kamipro』があそこまで書いてるんだったら……という動機もあったらしくて。

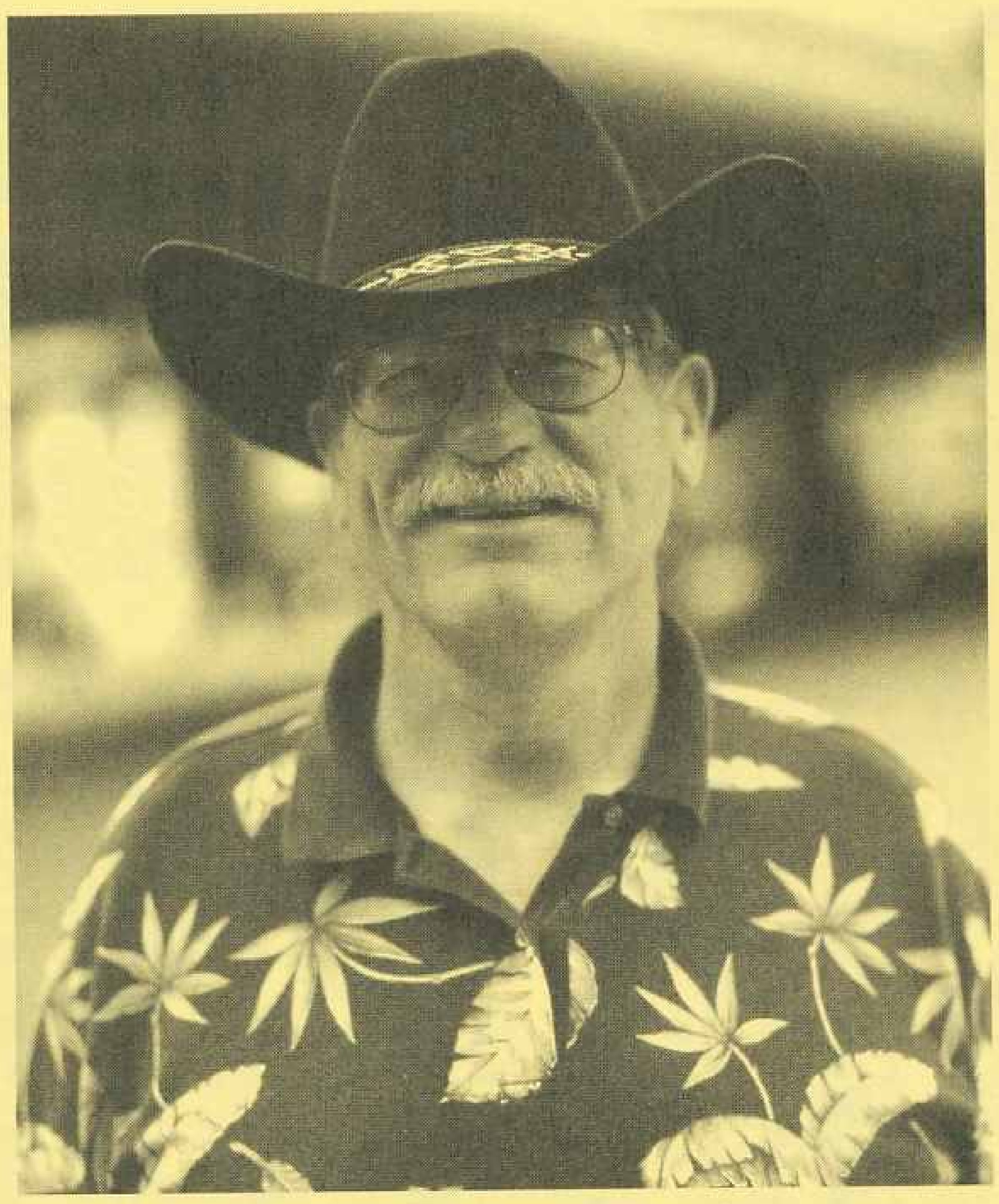
森　あれ？　『kamipro』って、そんなこと書いてたっけ？

――たしかに〝プロレスの仕組み〟を前提にした企画なりインタビューはしょっちゅうやってたんですね。

森　まぁ、昔から板坂（剛）さんがブロディのヒザ流血話とか、暴露は頻繁にありましたよね。高橋さんの場合は影響力が大きかったこともありますよね。

——やっぱり新日本プロレスのメインレフェリーだった人物ですし。

森　でも、別の人から言わせれば、あの本はあくまで高橋さんの視点であって、本当のことはまったく違うとの反論を読んだこともあります。



そうじゃない。どっちも正しいんです。真実はひとつだけど、真実って人の数だけあります。プロレスに限らず、現象って多面的なんです。視点で全然違う。その意味で高橋さんは、とても誠実に書かれていると思いますよ。

——では、"カミングアウト"という壁を突破した、WWEに代表されるエンタメプロレスをどう思われますか？

森　個人的には、あそこまでショーマンシップをあからさまにされちゃうと、違和感があるんですけどね。かつて僕が好きだったプロレスは、いろんなことを薄々と感じながらも確証が得られなくて、そこがまた楽しさになってるわけで。いまの試合はどうなのかな？という見方が楽しいんですけど。

——たとえば、力道山vs木村政彦戦なんてグレーの塊みたいな試合ですよね。

森　うん。そのものでしょう。

——それに優るとも劣らない試合を挙げれば、橋本真也vs小川直也。"1・4事変"と呼ばれる試合があったんですけど、森さんはご存知ですか？

森　知ってます、知ってます。まあ、黒幕は猪木でしょ？（笑）。

——ですね（笑）。

森　橋本は何も聞いてなかったんだよね。僕はテレビで見たんだけど、小川が橋本の顔を踏んだでしょ。その瞬間、これはまずい！と思った。これはよっぽどのことだと思ったね。そのあと長州が出てきて、「これがオマエのやり方か!?」って小川に詰め寄った声をマイクが拾ったけど、本当は流しちゃいけない言葉だよねぇ。

——ああいういびつな試合に森さんは興奮しますか？

森　（すかさず）しますよ！（笑）。

——普通はそうですよね（笑）。あるプロレスマスコミの重鎮の方も、公では「小川は本当に許せない！」って断罪してたんですが、オフレコになると「本当に興奮した!!」と言っていて。

森達也
—虚と実の世界—

森　本当に興味深いからね。そういうグレーな部分はWWEもじつはあるんでしょうけど、やっぱりあきらかに領域が狭いですから。普通のプロレスのほうがグレーな領域が広くなる。ただ、WWEにしても多くの観客を熱中させてますよね。そういう部分はかつてのプロレスの匂いが残っていると思うんですよ。日本人とアメリカ人の気質の差はあると思うけど。

——そのWWEのバックステージにカメラが潜入した『レスリング・ウィズ・シャドウズ』【注1】というドキュメンタリー作品があるんです。ブレット・ハートを追っていたクルーが前代未聞のダブルクロスを奇跡的に撮らえて。

じつはスタン・ハンセンのドキュメンタリーを撮ろうとしたことがあるんです。

森　それは見てないな。『ビヨンド・ザ・マット』【注2】なら見たんだけど。

——あ、『ビヨンド・ザ・マット』はご覧になってますか。

森　うん。おもしろかったですよ。『ビヨンド・ザ・マット』も凄くオープンにバックステージを撮らせているでしょ。レスラーたちもいたって普通に試合の打ち合わせをして。いや、打ち合わせ自体は普通にあることなんだろうけど、そこを撮らせていることが凄いなと思って。だから作品としておもしろかったですね。プロレスというよりも、作品の創りとして。レスラーで印象的だったのは、ジェイク・"ザ・スネイク"・ロバーツ。これはホンット、プロレスラーだなっていう。

——ドロドロの濃厚な人生があぶり出されて、退廃的なカッコよさがありますね。

森　ロバーツはいつも蛇と一緒に旅をしている。場末のリングで倒した相手の上に、お約束の蛇を置くために。とてもチープな茶番です。でもね、プロレスを続けたことで家庭を壊し、身体はボロボロにして、こんな茶番を一生懸命やっているプロレスラーの影が、僕は大好きなんですよ。僕にとってプロレスラーは、影を凄く感じさせてくれる存在なんです。

——森さんにはドキュメント作品を通して、そんなプロレスの"影"を撮りたい気持ちはありませんか？

森　ありますよ。それに以前、『小人プロレス』【注3】をやったでしょ。あのあと撮ろうと思っていたのが、スタン・ハンセンなんですよ。

——あ、ハンセンを撮ろうとしてたんですか！

森　うん。ハンセンが全日本プロレスで現役だった頃、フジテレビで何度か企画したんですけど。テレビ局同士の関係でなかなかオッケーが出なかったんですよ。

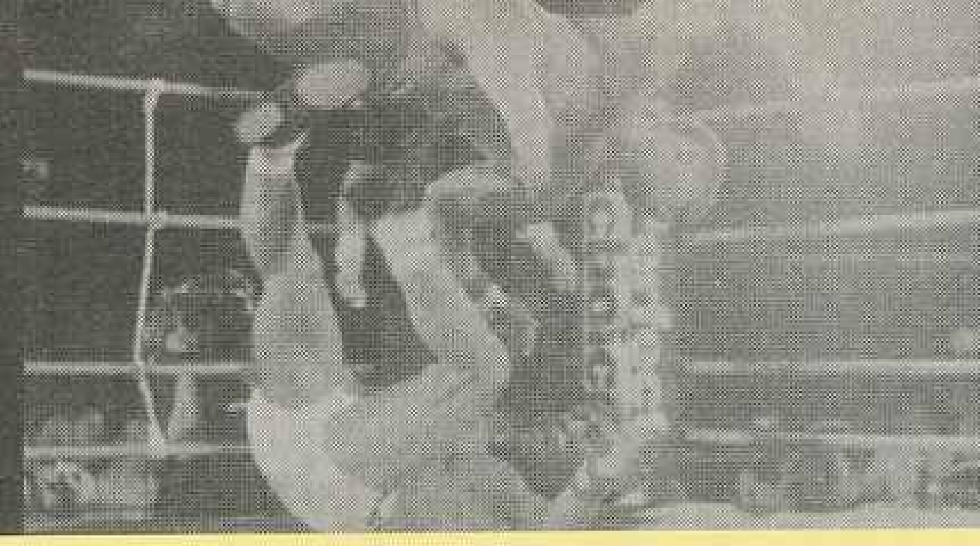
——それは見たかった（笑）。ハンセンを題材にしようとしたのは、どういった理由からなんですか？

森　それはハンセンから見た日本、そして日本人を書いてみたかった。ハンセンの奥さんは日本人で、彼はアメリカでほとんど活躍してませんよね。そんなハンセンから見た日本や日本人は何なのか？　ということをテーマにすれば、おもしろい日本像が出てくるんじゃないかと思って。まぁ、もともとプロレスが好きだったから、なにかプロレスのドキュメンタリーができないかなとは思っていたし。僕にとって初のドキュメンタリーは『小人プロレス』だしね。

——その『小人プロレス』の取材は、かなり大変だったんじゃないですか？

森　うん。小人プロレスは試合をオンエアするのさえダメだったそう







だから。

——それなのにドキュメンタリーなんてとても流せないというか。

森　あの作品は、僕がまだADの頃にたまたま高部雨市さんが書いた「異端の小国　小人プロレスの世界」（現代書館刊　現在は幻冬社から『君は小人プロレスを見たか』のタイトルで文庫化されている）という本を目にしたんですよ。で、これはおもしろいなと思って、映像化するために高部さんと会ったんですが、「そういう話がいくつかきましたけど、すべて消えましたよ」って言われまして。それでも僕は企画を進めますということで了解をもらって。それから所属していた制作会社のプロデューサーに企画のプレゼンテーションをしたのだけど、「こんなの放送できるわけない」と一蹴されて。彼らはテレビにもあんまり出てこないでしょう？

——そうですね。以前『8時だヨ！全員集合』で全女のミゼットレスラーたちが出演したら、視聴者から抗議があって二度と登場できなかったと聞いてますし。

森　うん。あのときは小人レスラーたちにコントの話がきたんですよ。彼らからすれば、ビッグチャンスだということで張り切って出演したんですよね。ところが、2〜3週のオンエアで打ち切りになった。というのも、視聴者から「どうしてあんなかわいそうな人たちをテレビに出すんですか？」という問い合わせがあったから。視聴者の善意溢れる投書のために、彼らはまた職場を失ったわけです。

——テレビにそんな高い壁があったりすると、ドキュメンタリー放映はかなり難しかったはずですよね。

森　二重三重の壁があったんです。結局、それから僕はフリーのプロデューサーに専念して、自分で勝手に企画書をつくって提出したんだけど。そうしたら話に興味を持ってくれた人がフジテレビにいて。もちろん簡単じゃなかったですけど、それから1年ぐらいの取材をしてオンエアされました。通常60分のところを90分枠の放送になって、結局はスペシャル番組になったんです。タイトルに「小人」って文字は使わないけど、それ以外の規制はなしで。

——通常はプロレス雑誌でも「ミゼット」という使い方をしてますね。

森　そう、そう。でも番組では本人たちも証言者たちもみんな「小人」って言ってますから。いまでも覚えているのが、その作品で当時『週プロ』の編集長だった山本さんにインタビューしたんです。結局、全部カットしたんですけど（笑）。

——丸ごとカット！（笑）。またどういう理由で？

森　なんか、あまりおもしろくなかったから（あっさりと）。

——ダハハハ！　じゃあ、しょうがないです（笑）。

森　山本さんは〝小人プロレス〟の歴史を延々と語ってくれたんですけど。それだったら全女の社長さんのほうがリアルな話をしてくれるし、山本さんの話は使いどころがないなって。僕のほうでもっと山本さんのセンスが光るインタビューになるようなことを聞けばよかったんだろうね。ま、通り一遍のインタビューしかできなかったんで、そういう意味で山本さんに申しわけないですよ。

——カットされたことにターザンは怒ってたりしてませんでした？

森　あとから、山本さんがもの凄く

『小人プロレス』のドキュメンタリーは放送まで、二重三重の壁がありました。



れるエンタメプロレスをどう思われますか？

——ですね（笑）。

森　橋本は何も聞いてなかったんだ

——そのWWEのバックステージに

ですよ。僕にとってプロレスラーは、

オンエアするのさえダメだったそう

怒ってるって聞いた。「な〜んで俺をカットするんだ〜ッ!!」って（笑）。

——ターザンのことは置いときまして（笑）、『小人プロレス』に対する視聴者のリアクションはどういうものがあったんですか？

森　かなり評判はあったみたいで、一度だけ再放送しましたね。でね、彼らの願いは〝小人プロレス〟を自分たちの代で終わらせたくないということだったんです。当時から小人レスラーの新人がまったく入ってこないんですって。だからこの番組によって新人が来てくれればな、という願いが彼らにはあったんですよ。放送後すぐに一人だけ新人が入ったんだけど、練習がキツいから一週間ぐらいでいなくなっちゃって。状況はほとんど変わらなかったそうですね。で、そのあと全女の経営がどんどん苦しくなっちゃって、彼らもあの頃はまだ居場所があったんですけど、いまはもういわゆる特養老人ホームに入ったり。

——……もう影しか感じられないですね。

森　影しかないですね、うん。でもね、みんな明るいし、それでクセのある人ばっかりでしたけどね。プロレスラーってやっぱりクセがあるんだけど、彼らはいろんな意味でクセの強い人ばっかりでしたね。

——簡単に輪の中には入り込めなかったんじゃないですか？

森　ううん、そんなことない。小人レスラーたちに最初こそは「どうせこの取材も途中で終わるんだろう」って言われましたけど。取材に来てはすぐいなくなっちゃうマスコミが多かったみたいで。

——彼らを取り囲む状況も、影を生み出す要因になっているのかもしれないですね。

「曖昧さが残っているからこそ、プロレスは素晴らしい」

——プロレスというフィールドで取材するにあたって、この業界独特の慣わしというか、ルールみたいなものに戸惑いは感じたりしましたか？

森　う〜ん……あ、そうだ。『小人プロレス』の取材してるときにトレーニング風景を撮ったんですね。ここでボディスラム、次は誰々がこっちからジャンプしていく、みたいなやりとりを番組で流したら、天龍（源一郎）さんだか大仁田厚さんだかが凄く怒ったという話をはっきり聞いたんです。「表に出してはいけない部分を出したから、俺はこの番組のディレクターを殴る」と言っていたと。そんな話を小人レスラーから聞きました。

——当時のプロレス界からすれば、絶対に抵触してはいけない部分だったんでしょうね。

森　たぶんね。だから薄々はわかっていても、そこは出しちゃいけない部分だった。それはそれで、天龍さんや大仁田さんからは職人気質的なものを感じましたけどね。

——グレート東郷の場合でも、取材するにあたってのやりづらさみたいなものはありました？

森　いや、取材したのは現役の方ではなかったからね。そういう意味では、みんなの思い出話を聞いて歩いた感じだったので、とくにタブーに触れるみたいなところはなかったです。グレート草津さん【注4】なんかは、これは言っちゃっていいのかな？　っていうことを酔った勢いでワ〜〜ッと言っちゃったり（笑）。

——ああ、草津さんがワインを飲みまくるシーンは凄かったです（笑）。

森　本を草津さんに送ったら、岩波に電話があったらしいですけどね。「俺がいっつも酔っ払ってるみたいじゃないか！」って（笑）。おもしろい人ですよ、草津さんは。

——草津さんもボクらには遠い存在なんですけど、あのくだりで俄然興味が出てきました（笑）。タブーの部分でいえば、フミ・サイトー（斉藤文彦）さん【注5】がヘッドロックの〝ルール〟を森さんに説明するシーンもおもしろかったですね。

森　ああいうこと、知ってました？

森達也 ——虚と実の世界——

——はい。ロックアップも似たようなルールがあって。

森　僕は知らなかったんですよ。この業界では当たり前の話なんですか？

——おそらく、ですね。

森　おそらく？

——じつは、某選手が海外のある団体に出場したときに、そういったルールを知らなくて、「日本のプロレスの質が疑われた」という話を聞いたことがあるんです。

森　日本でそれは確立されてないんですか？

——いや、その選手が本格的なプロセスを叩き込まれてなかっただけだと思うんですけど……ま、そんなこと直接レスラーには聞けないですから（笑）。

番組を見て、あるプロレスラーが凄く怒ったという話を聞きました

森　さすがに聞けないか、それは。

——でも、森さんは草津さんに「プロレスでは本気にならなかったでしょ」って踏み込んだ質問してましたね。

森　あった（笑）。

——そして帰り際に腕相撲を挑んで負けて、森さんが「僕は本気で腕に力を入れたのだろうか」と回想するシーンが続いて。それがグレーな感じでつながっているのが印象的でした。

森　本気だったか、本気じゃなかったか、よくわかんないんですよね。つくづく思ったのは、本気か本気じゃないか自分でもわかんないんだなっていう。そのときは本気のつもりだったんだけど、どっかで勝っちゃまずいっていう気持ちもあったわけだし。だから自分でもわかんないんだから、じつはショーでした、いや、本気でしたっていうそんな単純なものではないんですよ。それは人間の心のなかもそうだし、また現象もそう。いまのマスメディアって物事を凄く単純化しようとしてるけど、そのなかでプロレスは凄く曖昧さが残っているジャンルだし、だからこそ僕はそこに惹かれてますけどね。

——対象に愛情がありつつ、ドキュメンタリー作品として対象に思い切り食い込まなければいけない。森さんの作品を見るといつも、謎にぶち当たってそこを開けてみたいという欲望を感じるんですが。

森　この本の批評も出てますけどね、「また森は逃げた」とか。確かに僕は、最初は謎に挑むんですけど、途中でその謎自体がどうでもよくなっちゃうんです（笑）。

——ダハハハ！

森　最初は、果たしてこれは黒なのか白なのか、という動機から出発するわけじゃないですか。それが途中で、もうどっちでもいいじゃん！ってなる。僕が撮るとそういうパターンが多いんですよ。

——今回の本のテーマの一つだった、グレート東郷の国籍にしても。

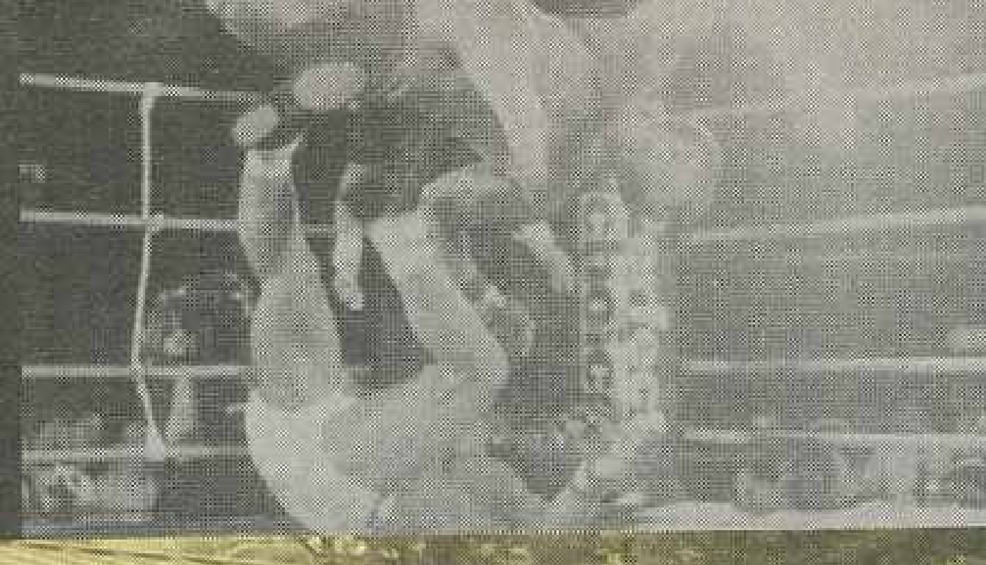
森　そういえば、手紙がきましてね、匿名なんで誰からかはわかんないんだけど、どうやらテレビ業界の人から東郷のお婆さんがチャイナだと。これは当時のテレビ業界の人はみんな知ってたよって。匿名だからどこまで本当なのかわからないですけどね。でも、そこはもう大きな問題じゃなくなってるから。

——詳しくは本を読んでいただくということで（笑）。またプロレスを題材にするお考えはあるんですか？

森　じつはあるんですよ。NHK出版の方から同時期に東郷の話を書かないかという話があって。岩波のほうが早かったんで一旦はお断りしたんだけど、その方はあきらめずにプロレスの社会的構造みたいなものをテーマにできないかって提案されています。

——機会があれば、『kamipro』のほうでもぜひお願いします！　いまプロレスが大きく変わっているので、森さんにじっくり見ていただきたいですし。こないだなんて、イン







――彼らを取り囲む状況も、影を生み出す要因になっているのかもし

でワ〜〜ッと言っちゃったり（笑）。

――ああ、草津さんがワインを飲み

だと思うんですけど……ま、そんな

ね、「また森は逃げた」とか。確か

たいですし。こないだなんて、イン



今作は「プロレスとナショナリズム」がテーマ 次作は、「プロレスの社会的構造」になるかも

リン様という『ハッスル』の登場人物が卵を産んで大会が終わったんですよ！

森 （一瞬戸惑って）卵？　どういうこと？

――えっとですね、インリン様という、タレントのインリン・オブ・ジョイトイと似た人間がいるんですけど……って、説明するのも馬鹿馬鹿しいんですが（笑）。

【ここでインリン様の産卵エピソードを説明する】

森 ……なんかさ、話だけ聞いていると、WWE的な馬鹿馬鹿しさだけをすくい取ってやっているような気がちょっとするんですよね（笑）。

――はい（笑）。そこには現在のプロレス事情も密接していて、格闘技の台頭によってストロングスタイルの価値が暴落したという背景もあるんです。そこでNOAHは試合のクオリティを追求する選択をして、もう一つの大きな方法論がエンターテインメント化なんですね。

森 WWE化と同じように、試合のクオリティを上げることも危険ですよね。NOAH的なプロレスがもっともっと過激になれば、きっと誰か死にますよ。そのへんの軌道をどう修正するかというところはきっとみんな悩んでるんでしょうけど。

――本に感想を書かれていた、大日本プロレスのデスマッチにしても。

森 凄かったね。僕も一昔前、散々、流血マッチを見てきましたけど、あぁいう流血はなかった。文字通り身体を張ってるなと思いました。そういう意味では本当に究極なんだろうなと思うけどね。

――そのように、いまは各団体がそれぞれの方向におもいきり針を振り切ってるのが現状です。NOAHはハードヒットなプロレスを突き詰めて、デスマッチはそれをやったら死ぬだろうというところまで踏み込んで、『ハッスル』は呆れるぐらいの馬鹿馬鹿しさを追及している。

森 そうしないと生き残れないし、いまの時代をプロレスがよく表わしているね。本なんかにしても、ものて凄いベストセラーか、まったく売れてない本か、そのどっちかしかない。テレビもそうですよね。そういう2極化の世相が激しくなってますよね。

――先ほど森さんが言われたように、曖昧さを許さない脅迫観念的なものがあるわけですねよね。

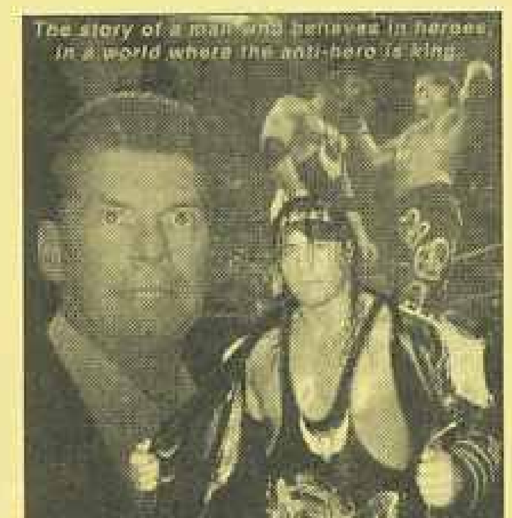
森 そこは僕が追っているテーマだから、どうしても今回の本にしても出ちゃうんだけれど。そういえば、ネットの書評でありましたね。「おもしろい本なんだけど、ところどころ朝日新聞の社説みたいな文章がある」って。たしかにちょっと、あとがきは強引だったかなと思いましたけど（笑）、プロレスファンってナショナリスティックな人が多いのかな？

――どうなんでしょう……。本書では靖国神社の奉納プロレスも触れられてましたけど、プロレスファンがナショナリズムについてそんなに考えてないと思いますね。

森 サッカーファンだってそうですけどね。みんなが本当に国家を考えて応援しているわけじゃないですからね。

【注釈】

【注1】レスリング・ウィズ・シャドウズ



90年代のWWEを牽引したトップレスラー、ブレット・ハートにカメラが密着しつつアメリカプロレス業界の契約問題や内幕に迫ったドキュメント作品。とくに当時、ライバル団体だったWCWにブレットが移籍することで引き起こされた「裏切り」と、これに対してWWEの総帥、ビンス・マクマホンが指示したストーリーライン上の「だましうち」が交錯するクライマックスは必見。

（ハピネット・ピクチャーズ）

【注2】ビヨンド・ザ・マット

WWEの「ロックとマンカインドの打ち合わせシーン」の衝撃が取り沙汰されるが、そういったスキャンダル面よりも「異形の人」としてのプロレスラーにフォーカスした秀逸なドキュメントとして評価が高い作品。ECW時のポール・Eの感動的演説、T・ファンクの痛々しいベッドルーム姿、薬物中毒になったJ・スネーク・ロバーツの転落ぶりなどプロレスに関わる悲喜こもごもな群像が展開。

（クロックワークス）



【注3】小人プロレス

森達也が企画、プロデュースした最初のテレビドキュメントであり（ディレクターは野中真理子）、正式タイトルは『ミゼットプロレス伝説〜小さな巨人たち〜』（1992年放送）。日本プロレス黎明期に、興業の目玉として人気を集めた小人プロレス。その後はメディアから黙殺されていたが、（当時）現役だった二人と復帰を願い出た選手、OBをまじえたテレビマッチが実現。その過程を密着している。

【注4】グレート草津

65年に日本プロレスに入団。その後国際プロに入団し、TBSの全国生中継で、実質的な日本デビュー戦を行うも、ルー・テーズのバックドロップで失神KOされた。国際プロレス末期はフロントとしても活動。本書ではグレート東郷を知る最重要人物として登場し、証言している。息子がK−1に出場、2代目グレート草津を名のっている。

【注5】フミ・サイトー

アメリカンプロレスに精通するプロレスライター。『週刊プロレス』の連載コラム「ボーイズはボーイズ」や海外記事、『アメリカーナ』のエディターとして知られる。近代プロレス史にも造詣が深く、本書では森達也の取材に協力。ネットを通してアメリカにおけるグレート東郷の周辺情報を呼びかけた。

——ゴールデンタイムで中継されている『PRIDE』やK—1の場合も、日本人が主役じゃないと番組が成り立たないという側面もあるんですが、深いナショナリズムは存在してないですね。

いかがわしさ、グレーな部分があるからこそ、プロレスも世界もおもしろい



もり・たつや■1956年、広島県呉市生まれ。立教大学法学部卒業。1998年、自主制作映画『A』を公開。ベルリン映画祭など世界各国の映画祭に正式招待される。2002年、続篇『A2』が山形国際ドキュメンタリー映画祭にて、審査員特別賞、市民賞をダブル受賞。著書に『放送禁止歌』（光文社知恵の森文庫）、『Aマスコミが報道しなかったオウムの素顔』『職業欄はエスパー』（以上、角川文庫）、『ベトナムから来たもう一人のラストエンペラー』『世界が完全に思考停止する前に』（以上、角川書店）、『世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい』（晶文社）、『下山事件』（新潮社）、『いのちの食べかた』（理論社）、『池袋シネマ青春譜』（柏書房）、『言論統制列島』『戦争の世紀を超えて』（以上、共著、講談社）、『ご臨終メディア』（共著、集英社新書）ほか。

森　それはテレビ全体の構造なんですよ。去年、バレーボールのワールドカップがあって、女子の試合をたまたまテレビで見たんです。日本vsペルー戦だったんですけど、後半一時間ぐらいかな。一度もペルーの選手の顔がアップにならなかった。日本側がスコアしたときは喜ぶ日本人選手、日本側がミスしたときは落ち込む日本人選手だけ。で、たまに客席のジャニーズかなんかを映して。途中から〝まさかいくらなんでも〟と思ってたんだけど、結局、最後までペルーの選手のアップは映さなくて。

——それは意識的な手法なんでしょうか？

森　いや、局の上層部から指示があるとか、そんな理由じゃないんですよ。自然とそういう雰囲気になっちゃっている。この無自覚性が怖いんです。

——意識的じゃないことが逆に怖さを感じますね。

森　あとオリンピックの閉会式もそう。僕は閉会式オタクで、昔から閉会式だけは見てるんですけど（笑）。

——閉会式オタク（笑）。

森　なぜかっていうと、メダルや順位も、有名無名も関係なく、みんなで肩を組んで笑ったりしている光景が大好きなんですよ。で、シドニーのときに思ったのは、カメラが追っているのは日本人選手ばっかり。他の国の選手を一切、映さないんです。昔から当然ながら日本人選手のカットが多かったけど、その割合がどんどん増えてますよね。

——他国にまったく興味を示さない。そういう風潮になったきっかけを森さんはどう考えてるんですか？

森　やっぱり、オウム以降、日本はそうなったんですよ、結局のところは。さっき言っていた〝わかりやすさ〟に対する希求にしてもそうだし、メディアも、政治も、民意も、セキュリティ社会ですよね。これも含めて、やっぱりオウムだと僕は思っています。もちろん10年経ったらどんな大事件も風化するのは当たり前ですけど、なんにもわからないまま風化されちゃって、後遺症だけが残るのはやっぱり社会にとって危ないですよ。極論を言えば、僕自身は社会がどうなってもいいんだけど、まだ中学3年生の息子もいますし、これから大人になっていくわけだから、住みやすい社会にしてあげたいなと思います。

「結局は正解なんてないんですよ」

森　それにさっきも話に出たけど、いまはいかがわしさをどんどん排除しようという意識が凄くあるじゃないですか。このあいだ、取材の合い間に「ここにピンクチラシを貼ってはいけません」という貼り紙を見つけたんです。そこまではいいんですよ。でもそのあとに「不気味なもの、不気味な行為も禁じます」と……。国土交通省の掲示です。不気味な行為ってなんだろうなって思って（笑）。

——その貼り紙自体が不気味ですね（笑）。

森　要するにみんなが嫌だと思うものは、どんどん排除しようとしている。聞いた話だけど、東京のある区では「外国人を見たら１１０番」という貼り紙があったそうですよ。

——「外国人を見たら１１０番」！

森　「不審な」という文字すらついてなかったみたいで。だから日本社会が、ちょっと危ういもの、いかがわしいもの、ちょっと汚いものをどんどん省いて、真っ白にしようとしてるよね。歌舞伎町なんか監視カメラをどんどん設置してるけど、それによって白くなった社会なんて逆に危ないんです。やっぱり、そういういかがわしさ、グレーな部分を含めて多面的な世界があるわけで。だから世界はおもしろいんですよ。


——それはプロレスも同じなんでしょうね。

森　うん。どっちが強いか弱いかなんて、プロレスにはそれほど重要ではないんですよ。もっと大事な領域があって、レスラーがひきずっている人生であったりとかさ、試合前に家で夫婦喧嘩してきたのかもしれないし（笑）。いろいろ想像しながら見ることって、結局は正解なんかないわけでしょ。

——自分の想像に浸るっていうおもしろさがあるだけですよね。

森　それがどんどん消えていってるんですよね、いまはね。でも、僕にはまだプロレスに影を感じるから。惹かれていきたいですよね。

——わかりました。次回のプロレス作品も期待してます！



2・5後楽園5周年イベント直前!!

DEEP

過去・現在・未来

総合格闘技はどこに向かうのか?

DEEPが6年目に突入、2月5日に5周年イベントを迎える。イベント規模では『PRIDE』やK－1に及ばないものの、"格闘技界のおもちゃ箱"たるバラエティに富んだ仕掛け、一方で競技色の強いマッチメイクで底辺拡大を担ってきた。そんなDEEPの歴史を振り返ることで、格闘技界の現在、未来を探ってみる。

構成／ジャン斎藤　designed by Tani-yan (Two Three)

格闘技と食べ物に全財産をぶち込んだ男

DEEP代表 佐伯繁 インタビュー

日本側がスコアしたときは喜ぶ日本

──意識的じゃないことが逆に怖

の、不気味な行為も禁じます」と

作品も期待してます!

―今日は、DEEP5周年記念大会を目前に控えた佐伯さんに、涙なしでは語れないこれまでの道のりを語っていただきたいと思います！

佐伯（オープンフィンガーグローブをいじりながら）は～ん、こうか！ いや、違うか？

―……ワイシャツに半ズボン姿でグローブを装着して、何をやってるんですか？

佐伯 はん？ いやあ、ちょっとオープンフィンガーグローブを改良して試してるんだけどさ。ここのアンコがねえ……。やっぱ『PRIDE』のグローブはよくできてるよなぁ……（ぶつぶつ）。

―そこのアンコが邪魔なんですか？

佐伯 そうなんだけど……（グローブをいじりながら）う～ん、よっ！ こうか？ あ、どうした♪

―大変ですねぇ、代表自ら。

佐伯 俺はこう見えて神経が細かいからさ、一度気になったらやり始めちゃうんだよね。

―そこで一から十まで佐伯さんが動いちゃうわけですか？

佐伯 そう！ DEEPは事実上、俺を含めた2・5人でやってるからね。昨日のフィーチャーキング・トーナメントだって9時半に会場入りして、パイプ椅子を並べたりさ。途中で場内の音楽が飛んだんだけど、誰も気にしないから俺がフォローしたし。

―そういえば、DEEPで選手の入場曲を間違えたことがありましたよね。上山龍紀の入場なのになぜか伊藤崇文のテーマ曲がかかって（笑）。

佐伯 あれ、原因が一年後にわかったんだよ！ どうやら音響さんを呼んでなかったらしくて。

―ガハハハ！ なぜ一年後に判明するんですか（笑）。

佐伯（無視して）しっかし、もうDEEPも6年目だよ。

―赤字にもめげず佐伯さんが私財を投げうった甲斐あって、ここまで成長して。

佐伯 ……私財か（ポツリと）。思い出したくもないわ!!

―ガハハハ！ いや、でも本当にここまで継続したのは凄いことです！



ヒーロー1があって、『clubDEEP』は11回開催で、本戦を併せると36大会目。

佐伯 あとフューチャーキング・トーナメントもこまめに開催してるからねえ。派手なイベントの裏には、地味な積み重ねがあるんだって。

―ま、そこは『kamipro』がまったく光を当てていない部分なんですけど（笑）。佐伯さんはDEEPを始めたときから「アマチュアの底辺拡大をやっていきたい」という趣旨のことを言われてましたよね。

佐伯（グローブいじりに夢中で話を聞かずに）え？ 誰がぁ？

―いや、だから佐伯さんがですよ！

佐伯（グローブをいじりながら）ん？ 俺が何を言うたの？

―だから「アマチュアの底辺拡大」です!!

佐伯（目を丸くして）ふ～ん、そんなこと言ってた。そもそもこんなに続くとは思ってなかったかもしれんけどね。

―ところが「どんな大赤字になろうと絶対に続ける」とも言われてるんですよ。

佐伯 ……どんな大赤字になっても、続けたよなあ（しみじみと）。

―ダハハハ！ そんなDEEPは、高田延彦vsカクタス・ジャックをメインにしたプロレスイベントの構想が始まりだったんですよね。

佐伯 うん。もとはといえば、バトラーツの『ロードウォリアーズ・ツアー』を俺が買ったことから始まってるだけどね。

―ホーク（・ウォリアー）が直前で欠場した、看板に偽りありのシリーズですね（笑）。

佐伯 そうそう!! しかも巨人の優勝がかかっている時期だったこともあって、開幕戦はガラガラの大コケで。最後の後楽園だけは満員だったけど、そこだけはバトラーツが主催なんだよ。

―絶対安パイの後楽園ホールだけは買えなかった（笑）。そんな目に遭って、よくもう一度興行をやろうという気になりましたね。

佐伯 当時は金銭的な余裕もあったから、何かやりたい気持ちがあったんだよね。いまでさえいろんな選手を呼んで興行が打てるけど、その頃は興行を買うしかなかったから。でも、興行を買っても、団体は力を入れないんだよぉ！

―団体側からすると、あとは勝手に客を入れてくれ、という感じになりますね。

佐伯 それだったらさ、それぞれの団体から選手を集めたほうがいいよ。俺からするとプロレスでも格闘技でもどっちでもよかったんだけど。

―その言葉通り、DEEPは一回目からけっこうなメンツを揃えましたよね。ホイラー出場のつながりからヒクソンをゲストで呼んだり。

佐伯 それであの大会の大きなポイントになったのが、ホイラーと誰を闘わせるかってことだったんだけど。そこに村浜（武洋）をもってきたのが結果的に大成功！

―村浜武洋が大健闘しましたね。

佐伯 ただ、愛知でやったのは大失敗！ もし東京開催だったら、お客さんはもっと入っただろうからさ。

―その念願の東京進出では、ドス・カラスJr.が謙吾の腕を折って衝撃的なデビューを飾りました。

佐伯 凄かったな～!! みんな最初はさ、「ルチャ？ 無理に決まってるよ！」なんて否定してたけど。ドスはとうとうあのミルコ（・クロコップ）ともやったんだからね。あとルチャといえば、〝ピストルの弾を避け

佐伯さん 血と汗の5年間を5分で読み飛ばす！

DEEP物語

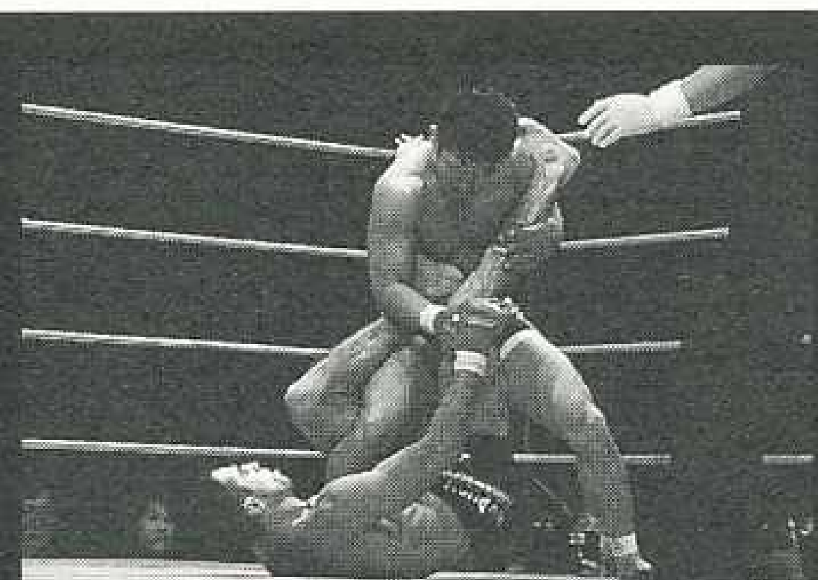
2001・1・8～2005・12・3



01年12月23日ディファ有明。辰吉丈一郎に勝ったことで知られる元ボクシング世界チャンピオンのビクトル・ラバナレスが村浜に秒殺負け！ ドスJr.の代打で“伝説のルチャ戦士”カネックがまさかのMMAデビュー、太刀光にまさかの大勝利！ 「アンドレと比べればなんてことはない（カネック）」最高！



首都圏初進出！ 01年8月18日第二回大会は横浜文体で。メインはパウロ・フィリオが近藤有己に判定勝ち、ノゲイラ弟が日本デビューで藤井を撃破。ルチャのカト・クン・リーが大久保ちゃんに敗れるも、怒りのドスが謙吾を殺人投げ技“チリマ”で衝撃のMMAデビュー!! ルチャ幻想はここから始まった!



記念すべき旗揚げは01年１月8日愛知県体育館。日本 vs ブラジリアン柔術5 vs 5、柔術側からヒカルド・リボーリオ、パウロ・フィリオら、日本陣営は美濃輪、藤井克久（現・軍鶏侍）らが登場。メインで村浜がホイラーと好勝負！ 山田学が菊田を相手に引退エキシビションマッチ。安生も参戦！

2・12後楽園5周年イベント直前!!

DEEP 過去・現在・未来

どんな大赤字になっても続けたよなあ。もう思い出したくもないわ!!

る男〟カト・クン・リーを忘れちゃいかんよ!!

――大久保ちゃんとカト親子の抗争もスタートして（笑）。ドスだけじゃなくて、DEEPに登場したルチャ戦士はみんなプロ意識の高さが一流でしたね。

佐伯 ルチャvs日本選抜5vs5対抗戦もおもしろかったなあ。愛知県体育館でやったやつ。

――ルチャ軍が全敗したにもかかわらず、観客の圧倒的な支持を受けた大会ですね。

佐伯 ソラールvs鈴木（みのる）さんの試合で乱闘が起きたときは、さすがに「ソラール、何すんの!!」って思ったけどさ。

――あそこが大会ハイライトでしたけどね（笑）。

佐伯 あの乱闘で日本人陣営の絆がガッと固まっちゃったんだよね。坂田と鈴木さんの因縁も消えちゃった！

――ソラールのおかげでそんなことが（笑）。

佐伯 ホント、ルチャはいろいろあっておもしろかったよ。エル・カネックvs大刀光も凄かったけど、あのときは俺もビックリしたよ!! 「えぇ～、あのカネックが出るの!?」って（目を丸くして）。

――自分で招聘しといて（笑）。

佐伯 もともとドスJr.が出る予定だったのが怪我しちゃって、代打でカネックになったんだよ。

――それ、ロッテの渡辺俊介の救援に村田兆治が出てくるみたいなもんですよ！

佐伯 いや、ホントありえない話よ。だってカネックはメキシコじゃあマスカラスより格上のレスラーなんだよ。カネックは「心配ない。絶対に勝つ!!」とは言うんだけど、日本に来てもまったく練習しないしさ。

――ガハハハ！ 自信だけは満々なんですね（笑）。

佐伯 まさか勝つとは100パーセント思わなかったよ!! さすがに試合後、大刀光は落ち込んでたなあ……。

――信じられない出来事でいえば、〝最強レフェリー〟の和田（良覚）さんが参戦したり、『Dynamite!!』より一足先にバトル・エンターテインメントだったんですよね。ちゃんとボクシングの世界チャンピオンも上げてるし。

佐伯 辰吉丈一郎に勝ったビクトル・ラバナレスね。ま、彼はどういう試合なのかわかってなかったと思うよ（人ごとのように）。リュックサックひとつで日本にきやがったから。

――幻のカードでいえば、初期DEEPで高岩竜一vs美濃輪育久戦が予定されてたんですよね。

佐伯 あった、あった。高岩くんが「やりたい」って言ってたんだよね、デスバレーボム対決ってことで。結局、諸事情でできなかったけど。

――あと鈴木みのるvs田村潔司戦も実現寸前だったとか。

佐伯 ……そのカードをメインに両国国技館を押さえたんだよなあ。じつは二人の合意は得ていたんだけど、それも諸事情で……。あのときは菊田早苗vsヒカルド・アローナもやろうとしてたんだよ。

――し、渋い!!（笑）。

佐伯 アブダビ王者対決ってことで。そういう真面目なカードでいうと、パウロ・フィリオvs近藤（有己）戦とか、郷野聡寛vsダスティン・デニスとかもやったなぁ。

――そういう渋いカードを組みながら、佐伯さんは当時から強くてもつまらない選手を批判してますよね。●●●●●●●●なんか試合で勝ったのに「使って失敗した！」とか。

佐伯 だって試合がおもしろくないんだもん（キッパリ）。たしかに強いけどな。

――それで「メインとセミの選手は膠着してもいい」とも言っていて。

佐伯 それはホント!! ある程度、名前のある選手の試合は緊張感を持って見れるけど、名前も知らない選手の膠着試合を誰が見るの？って。技術的には凄いかもしれんけど、激しい展開にならんと誰も見んよな。格闘技の場合は有名だったり、知り合いや友だちが出てるとか、何かしら感情移入できる接点がないと難しいよ。ぶっちゃけ、知らない選手なんかどうでもいいでしょ？（顔をグイと近づけて）。

――どうでもよくはないですけど（笑）。良くも悪くも記憶に残らない試合は最悪ですね。

佐伯 このあいだのDEEPでもさ、ある若手選手がKO負けしたんだけど、アグレッシブに攻めたうえの結果だったから「なんの問題ないよ！」って言ったの。勝つにしても負けるにしても、もの凄い印象を残したほうが絶対にいいからね。だから、最初から判定狙いの試合が見ると腹立つから！ こないだの▲▲▲▲▲もムカついたわっ!!

――まるで聞いたことのない選手ですけど、念のため伏字にしておきます（笑）。そんなアマチュアレベルの選手にも観客論を求めるんですか？

佐伯 やっぱりお客さんからお金を取ってる以上はね。一番腹立つのが最終ラウンド残り30秒でテイクダウンにいくヤツ！ 「お前、何すんの!?」って言いたくなる。いままで2ラウン費やして極められないヤツが、残り30秒で何すんの!?って！ ねぇ!? 何すんの？（怒）。

――ボ、ボクに怒らないでください。おそらく判定を見据えての戦略なんでしょうけど。

佐伯 俺はリングサイドで観てるから、もうイライラしてくるんだもん。（小声になって）最近なんて「こりゃダメだなあ？」と思う試合のときは、タバコ吸いにいくから。

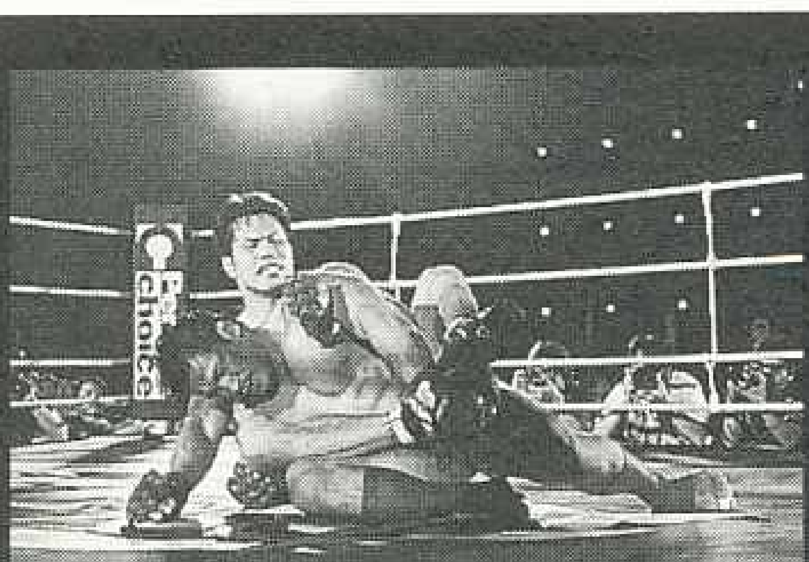
――ダハハハ！ DEEPのルールは、試合をスピーディーにするためブレイク・ルールに工夫が施されてますよね。たとえば、最終ラウンドは早めのブレイク設定。



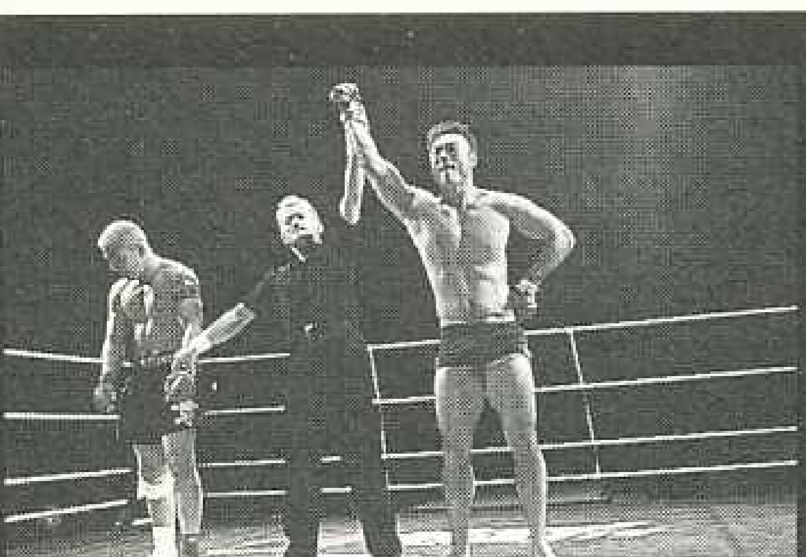
02年3月30日愛知県体育館。"最強"和田良覚が、アステカを戦慄KO！ 日本vsルチャ5vs5対抗戦。鈴木みのるvsソラールはソラールの金的攻撃がきっかけで大乱闘寸前に！ ソラール陣営のドス親父は「パンクラスは弱い!!」とキッパリ断言！ みのるのタックルを二度も切ったソラールも勝利宣言！



02年6月9日ディファ有明。DEEPミドル級1DAYトーナメント開催。上山龍紀、石川英司、窪田幸生、村浜天晴、長南亮、梁正基、星野勇二、久松勇二の8名が参加。上山が優勝！ 窪田が三度の金的悶絶！ 和田さんはMAX宮沢にKO負け！ 日高郁人と伊藤崇文の"同窓マッチ"も実現！



02年9月7日、伝説の有明コロシアム!! メインは田村潔司が"横綱相撲"で美濃輪に判定勝ち、高阪剛vsノゲイラ弟、"偽造王"一宮章一が電撃チャレンジ、三島☆ド根性ノ助がDEEP初登場！ その三島に秒殺負けした伊藤の"錯乱"騒動が勃発！ 会場はガラガラながらも好試合の連続！



02年12月8日ディファ有明。現役の修斗ライト級チャンピオン・須田匡昇が参戦。負傷を押して出場した長南が迎え撃ち、判定負けも株を上げる。滑川康仁vs石川雄規の異色対決（滑川の勝ち）、日本vsムエタイ対抗戦3 vs 3も実現！ タッグマッチの試合形式も導入された。

2・12後楽園
5周年
イベント直前!!
DEEP
過去・現在・未来

『武士道』にレギュラー出場できる選手を15人ぐらいはつくりたい

佐伯　だって3ラウンドまでいったのに勝負が決まらないんだから、それは展開を変えないとダメでしょ。ほとんどのケースが判定になるんだからさ。まあ、寝技系の選手には辛いかもしれんね。ウチはマウントをキープしても、休んでいるふうだったらブレイクするから。

――そうやってプロとしての闘い方が磨かれていくんですね。

佐伯　たしかにね、地味に膠着して勝たなきゃいけない試合もあるよ。いくらおもしろい試合をやる選手でも、3連敗するとさすがにDEEP本戦では出しづらい。でも、そういう場合は『club DEEP』に出てもらうから。

――DEEP内でそういう調整が付く。競技組織的な循環があるわけですね。

佐伯　うん。おもしろい選手にチャンスをやれば、ちゃんと期待に応えてくれるしな。

――でも、佐伯さんってけっこうキラーなマッチメイクしますよね。たとえば、●●●●●●なんて顔見せマッチでもよかったのに。

佐伯　（声を潜めて）……なんだか知らんけど、あの選手はもう天狗になってムチャなことばっか言ってきて。じゃあ、どうぞ！って感じで。

――なるほど！　いっぺんで謎が解けました（笑）。

佐伯　でもね、いつかは厳しい試合をやんなきゃいかんから。選手同士で足を引っ張る必要はないけど、やるべきポイントではやろうと。ちょっと前にも、あるマッチメイクを渋った選手に俺は言ったの。「負けた人間はかならずフォローするから」って。

――そこでたとえ負けても再浮上の機会を絶対につくると。いまの組織体系をつくるまでにいろいろ模索されたと思うんですけど。大きなきっかけになったことを挙げるとすれば？

佐伯　それは伝説の有明コロシアムでしょ。それまでは『PRIDE』やK―1のようにイベントを大きくしようと思ってたけど……あれが方向転換のタイミングになったよね。

――DEEP史上最大のビッグマッチだったのに会場はガラガラで。

佐伯　ちょうど同じ時期に『LEGEND』や『Dynamite!!』があってさ。何すんの⁉って感じだったよ。ホンマ！

――DEEPも直球や変化球を織り交ぜての、いいラインナップだったんですけどね。

佐伯　第一試合が一宮章一vs大久保ちゃんでしょ。その次が臼田（勝美）を長南（亮）が秒殺して、中野の龍っつあんvsドスもあり。雷暗暴ランバーや上山くんも出て、ヤノタク、三島（☆ド根性ノ助）vs伊藤崇文、ノゲイラ弟、高阪さんが初出場。メインが田村潔司vs美濃輪育久！　田村vs美濃輪はいまだったらお客さんが入っただろうなあ……（しみじみと）。

――内容もハズレなかった有明コロシアムの失敗で、どんなことを学んだんですか？

佐伯　一番はプロモーションのやり方かな。で、この規模でやっていくのは無理だろうと思ったよね。逆にカード面では頑張ったつもりから、余計にそう思った。ちょっと勝負かなと思って大田区体育館でやったときはあったけど。

――マッハがその大会の長南戦で眼窩抵骨折して、二週間後の第一回・其の壱』出場をキャンセルしたという。『武士道』に暗雲をもたらした大会ですね（笑）。

佐伯　そんなの、ウチの出場が『武士道』より先に決まってたんだから！　俺はちゃんと関係者に言ってたんだよ。「試合があるのに『武士道』出場を発表したから、長南が本当に怒っている。ハッキリ言って危ないよ！」って。それでマッハが眼窩抵骨折しちゃってね……。

――それでもマッハは「『武士道』に出る」ってことで表紙にし『ゴン格』からすれば……。

佐伯　（さえぎって）そこまで面倒みれんわ!!

――ダハハハ！　じつはそのマッハが初めてDEEPに出場した後楽園大会でDEEP初の黒字になったんですよね。

佐伯　うん。8回目にしてやっと黒字！　上山vsマッハ戦を発表したら一週間でチケットが1000枚以上売れたからね。

――いまはさすがに赤字ではないんですか？

佐伯　まあなんとかプラマイゼロという感じかな。そんな状態でこの1～2年は続けてるけど、金銭面的なことはともかくイベント自体は発展してきたと思うよ。

――でも、いまのチケット販売状況は、ファン層というよりは、選手の知り合いや関係者がさばいている現状なんですよね。

佐伯　……詳しい話は難しいけど、まあ、全団体がそうじゃん。『PRIDE』以外は全部がそうだと思うよ。

――つまり、一般売りはどこも厳しい。

佐伯　厳しいだろうね。俺はどこの団体の実券がどれくらい売れてるのかわかるけど、ぶっちゃけ、U―STYLEのほうが一般層にはチケットを売るからね（キッパリ）。

――え？　そうなんですか！　先日のU―STYLE有コロは正直、散々な入りでしたけど……。

佐伯　いや、それでも格闘技よりはいいと思うよ。一般層という面ではU―STYLEのほうが強い。ぴあとかでもけっこう売れるからね。

――いまは格闘技ブームと言われてますけど……

佐伯　格闘技がブームなんじゃねえっつうの。定期的にお客さんが入っているのは、『PRIDE』ナンバーシリーズとK―1MAXだけでしょ。『武士道』も最近は入ってるけど、ブランドの真価を問うのは今年だろう



03年3月4日後楽園。三島、須田に続く修斗大物の参戦、真打ちは桜井マッハ速人！　昇り調子だった上山龍紀が判定勝ち。入江秀忠が登場、"入江劇場"が展開されていく。木村浩一郎がスペル・パピヨンに扮してタッグマッチ。"マッハ効果"もあり後楽園ホールは札止め！　DEEP初の黒字!!



03年5月5日後楽園ホールはルチャ色が強いイベントに。カト息子が大久保ちゃんに敗れ、親父の仇討ちに失敗！　DEEP史上に残る名勝負、ヤノタクが体重差70kg差をはねのけてブラゾ・デ・プラタに勝利！　ドスJr.は伊藤博之に反則負けを喫するも、地力の差を見せつけた。



03年6月25日後楽園ホール。マッハが連続参戦、元UFCミドル級王者デイブ・メネーに完勝!!　TAISHOが"大物"朝日昇をマットに沈める。クラフターM vs 一宮章一という摩訶不思議マッチ、入江秀忠が藤沼弘秀に判定勝ちするも、執拗な急所攻撃のアピールなどに観客から大ブーイング。



03年9月15日大田区体育館。メインはDEEPミドル級タイトルマッチ、王者・上山龍紀が須田を相手にドロー防衛。二週間後に『PRIDE武士道・其の壱』出陣が決定していたマッハだったが、長南亮の凶拳の前に轟沈！　マッハは負傷で『武士道』をキャンセルする緊急事態に！

た選手に俺は言ったの。「負けた人間

――内容もハズレなかった有明コロ

佐伯　うん。8回目にしてやっと黒

ランドの真価を問うのは今年だろう

ねぇ。

――特定イベントを除いて興行人気に火が付かない理由ってなんだと思います？

佐伯　お客さんが入らない理由は興行が多すぎるからなの。ただそれだけ。プロレスだって、格闘技に押されてるというよりも、プロレス自体の大会が増えちゃってるだけでしょ。新日本、全日本、国際プロレスの3つに戻してみ。絶対お客さんは入る！

――実際、プロレス側の人は、ファンの数は減ってないと言いますね。

佐伯　いまは毎日なにかしら後楽園でやってるわけだから、そんなの確実に前より客は増えてるよ。だけど一から十まできっちり詰めて作ってないからね。いろいろ団体はあるけど、違いはわからんでしょ？

――悪い意味でのボーダレス時代ですね。

佐伯　『ハッスル』は違いを明確してるからこそ、固定ファンができたり、一般とは違う層を取り込んでるから人気があるの。

――そういう意味ではDEEPも独自のカラーを打ち出してますよね。他でもできそうなんだけど、なかなか実行や継続が難しいというか。

佐伯　ただささ、毎回趣向を凝らしたいけど、後楽園でそんなカードは無理だろ！っていうことを求めるファンもいるじゃん。そこは苦労するよなあ。そんな簡単にホイホイ組めるなら、誰も苦労しねっつの!!って。

――しかもそのカードでチケットが売れてくれれば、いくらでもいいカードを組めるんでしょうけど。

佐伯　……というかね、金くれ！　金くれたなら、おもしろいカードを組んでやるよっ!!（笑）。

――ダハハハ！　何を言い出してるんですか（笑）。

佐伯　（声を潜めて）お金のことでいえば、ここだけの話さぁ……。

――おもいきり誌面に載りますけど（笑）。ま、続けてください。

佐伯　後楽園の興行では『ハッスル』の次にウチが金かかってるわけ。金額は書けないけど！（鼻息荒く）。

――『ハッスル』の次!!　相当かかってますね、それは。

佐伯　『ハッスル』に比べたら、ウチはチケットが高いからね。ま、ヨソはともかく、ウチはこれから勢いのある選手を生み出したり、後楽園でしか見れない試合とか、新旧交代の試合なんかをやっていきたいんだよね。もちろんチケットを売るってこともあるけど。そういうマッチメイクは後楽園で見れるから豪華なんですよ。あと『武士道』に送り出す選手をつくることがウチの義務だし、俺は『武士道』にレギュラー登場できる選手を15人くらいつくりたいんですよ。そしたら長南みたいな選手が、一大会に2～3人、DEEPに参戦できるから。

――いまのDEEPでいえば帯谷（信弘）選手なんかも、ゆくゆくは『武士道』に格上げしたいですよね。で、たまにDEEPに凱旋して。

佐伯　そうそう。そのパターンでいえば、次の大会なんて、長南を後楽園で見れるんだもん。あと勢いに乗ってる今成も！

――今成選手のフェザー級トーナメントの活躍を見たら、『武士道』でまた使いたくなるでしょうね。

佐伯　65キロだったら、俺は今成が世界最強だと思うよ。ただ、もうマッチメイクが難しいんだよね～。相手が寝技を怖がっちゃって試合にならない可能性が高いから。でも、今度の相手のジェフ・グローバーも動くし極めのある選手だからいい試合になると思うよ。

――同じく、今度のDEEPで組まれた小路晃vs三崎和雄は生々しいカードですよね。まさにサバイバル・マッチというか。

佐伯　長南vs桜井もそうだけど、負けたらしばらく『武士道』出場は厳しいかもね。それを後楽園でやるからおもしろいんだって！

――たとえば、『武士道』だったら埋もれかねないカードだけど。

佐伯　そういう意味では、ボク的にはもうちょっと『武士道』とリンクしてもいいのかなと思うんだけど、『武士道』を誰でも上げるリングというふうにしたくないんですよ。そこはウチが頑張ってやらないといけなくなると思うんだわ。

――DEEPのクオリティを高めることが『武士道』の発展にもつながる。DEEPは『武士道』の二軍という、ネガティブな目で見る人もいますけど、じつはいいシステム、関係を築いてるんですよね。

佐伯　今後DEEPの役割はさらに重要になってくるよ。まだまだ外国人だって使いたい選手がいっぱいいるから。いろんな選手をバンバン出していくよ！　しかも後楽園ホールで見れると！

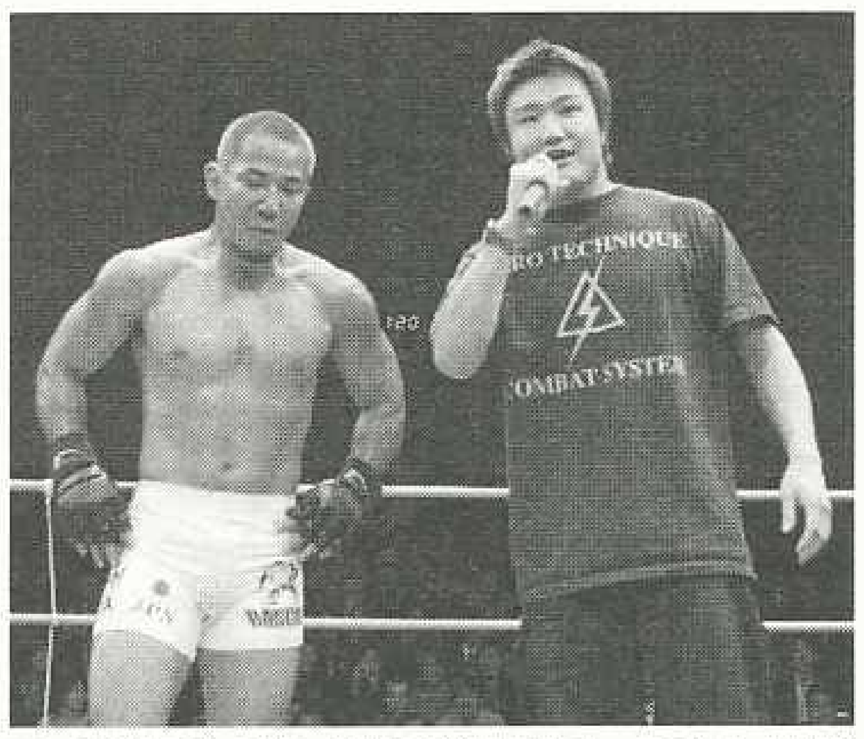
――金子賢も後楽園だったらもっとおもしろいでしょうね。

佐伯　（一瞬言葉に詰まって）……に、二戦目はウチにあがってそうだなあ。あ～、こりゃ大変だあ……。でも、いいか（あっさりと）。

――ワハハハ！　血糖値に気をつけて頑張ってください！

【05年12月28日／都内某所にて収録】





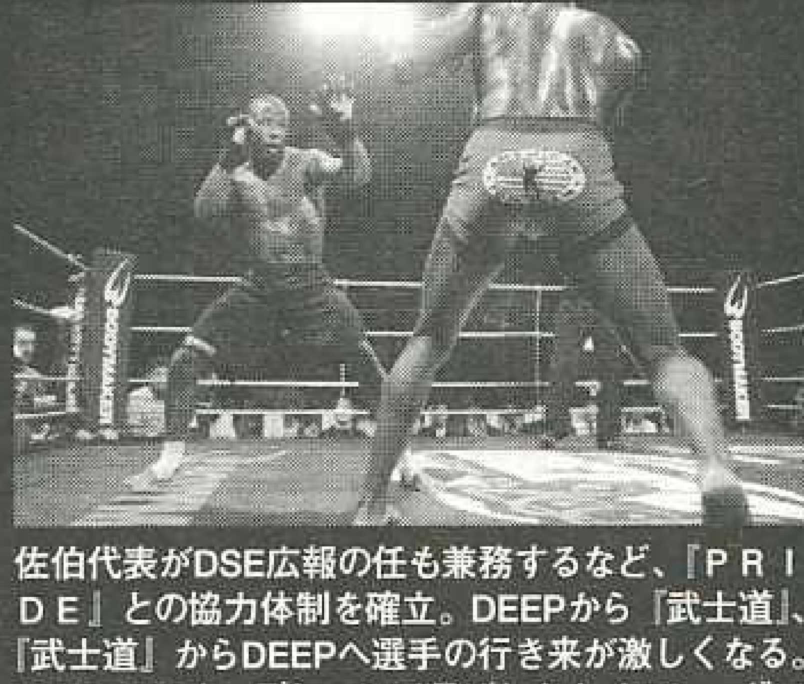
フェザー級トーナメントを制したことで、再び『武士道』出場の機運が高まってきた“足関十段”今成。フィーチャーキングトーナメントから着実に勝ち上がってきた木口道場の帯谷信弘も『武士道』出場候補。DEEPが活性化すれば、『武士道』も燃え上がるのだ。

DEEP23IMPACT
～5周年記念大会
東京・後楽園ホール
2月5日 OPEN 17:30 START 18:30

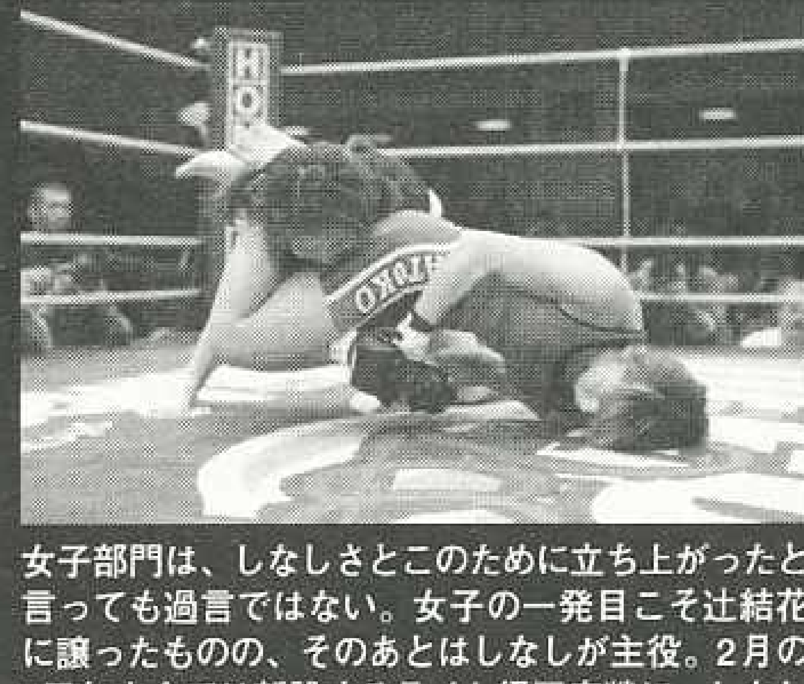
［主な対戦カード］
【DEEPミドル級タイトルマッチ】
［王者］**桜井隆多** VS **長南亮**［挑戦者］
【グラップリングマッチ】
今成正和 VS **ジェフ・グローバー**
小路晃 VS **三崎和雄**
中村大介 vs 藤沼弘秀
長谷川秀彦 vs 岩瀬茂俊
MIKU vs 古館由紀
［チケット料金］
VIP 20000円／SRS 12000円／指定A 8000円／指定B 6000円
［問い合わせ］
DEEP事務局　052-339-0303



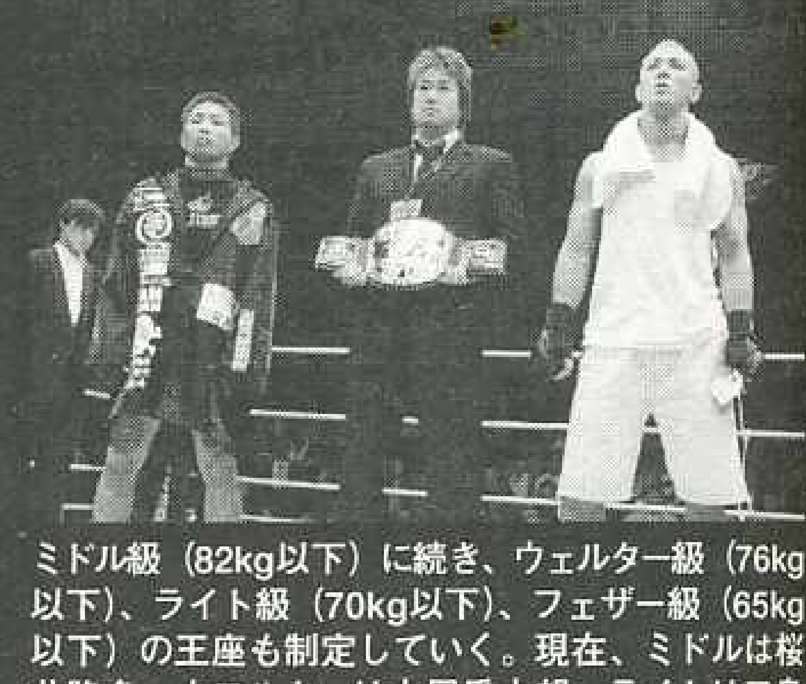
05年10・28&12・2後楽園ホールで二回にわたり開催された、8名参加のフェザー級王座決定トーナメント。優勝候補同士の決勝戦、今成正和vs前田吉朗戦は激戦の末、今成が足関で一本勝ち。ワンマッチで帯谷信弘がミルトン・ヴィエイラから勝利を収める。韓国人選手のレベル上昇。



佐伯代表がDSE広報の任も兼務するなど、『PRIDE』との協力体制を確立。DEEPから『武士道』、『武士道』からDEEPへ選手の行き来が激しくなる。PRIDE USオーデションで選ばれたタイロン・グローバーや、『武士道』デビュー戦で黒星スタートになった吉田道場の村田龍一も参戦している。

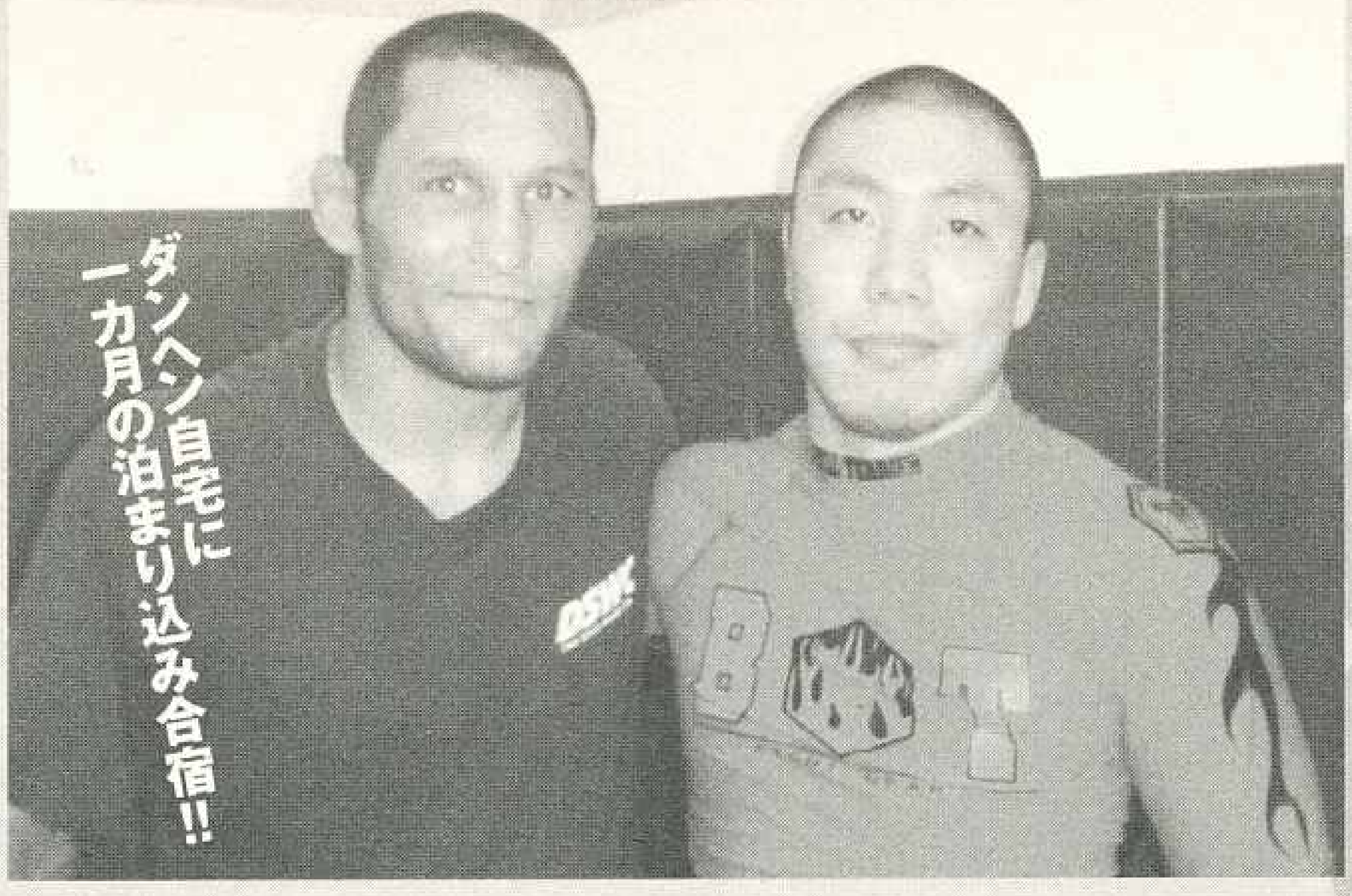


女子部門は、しなしさとこのために立ち上がったと言っても過言ではない。女子の一発目こそ辻結花に譲ったものの、そのあとはしなしが主役。2月の5周年大会では新設するライト級王座戦に、しなしが登場予定だったがケガのため延期に。代わって成長株MIKUと“女足関十段”古館が本戦初出場！



ミドル級（82kg以下）に続き、ウェルター級（76kg以下）、ライト級（70kg以下）、フェザー級（65kg以下）の王座も制定していく。現在、ミドルは桜井隆多、ウエルターは中尾受太朗、ライトは三島☆ド根性ノ助、フェザーは今成正和がチャンピオンとしてベルトを保持している。

03年
ル級
手に
の壱
の凶
をキ



ダンヘン自宅に一カ月の泊まり込み合宿!!

DEEPタイトルマッチ直前強化合宿
長南亮のピラニアUSA日記

2·5DEEP後楽園でDEEPミドル級のベルトに挑戦する長南亮がUSA武者修行の旅!! 行き先はダン・ヘンダーソンを擁するチーム・クエスト。約一カ月に及んだ合宿を振り返る、ピラニア日記でオー!!

■12月1日

当初の予定より日にちが延びたけど、初の単独海外修行へ行くことになった。行き先はダン・ヘンダーソンの住むカリフォルニア。『武士道GP』で彼に負けてからいろいろ悩んだが、周りの勧めもあったし、なにより自分が強くなりたい一心で決断した。

空港に向かう途中で電車を乗り間違えたり、出国手続きで戸惑い時間をロス。場内アナウンスで名前を呼び出されながらなんとか出国！ 片道約10時間の道のりをPSP『三国志』でしのぎながらオンタリオ空港に到着。現地時間は午後3時ぐらいだが、飛行機で寝れない体質のため一日寝てないことになる。

空港にはチーム・クエストのヒース・シムズが迎えに来てくれた。ヒースは俺の英語を理解してくれたので、一安心（これが大きな勘違いで、他の選手にはまったく通じなかった……）。

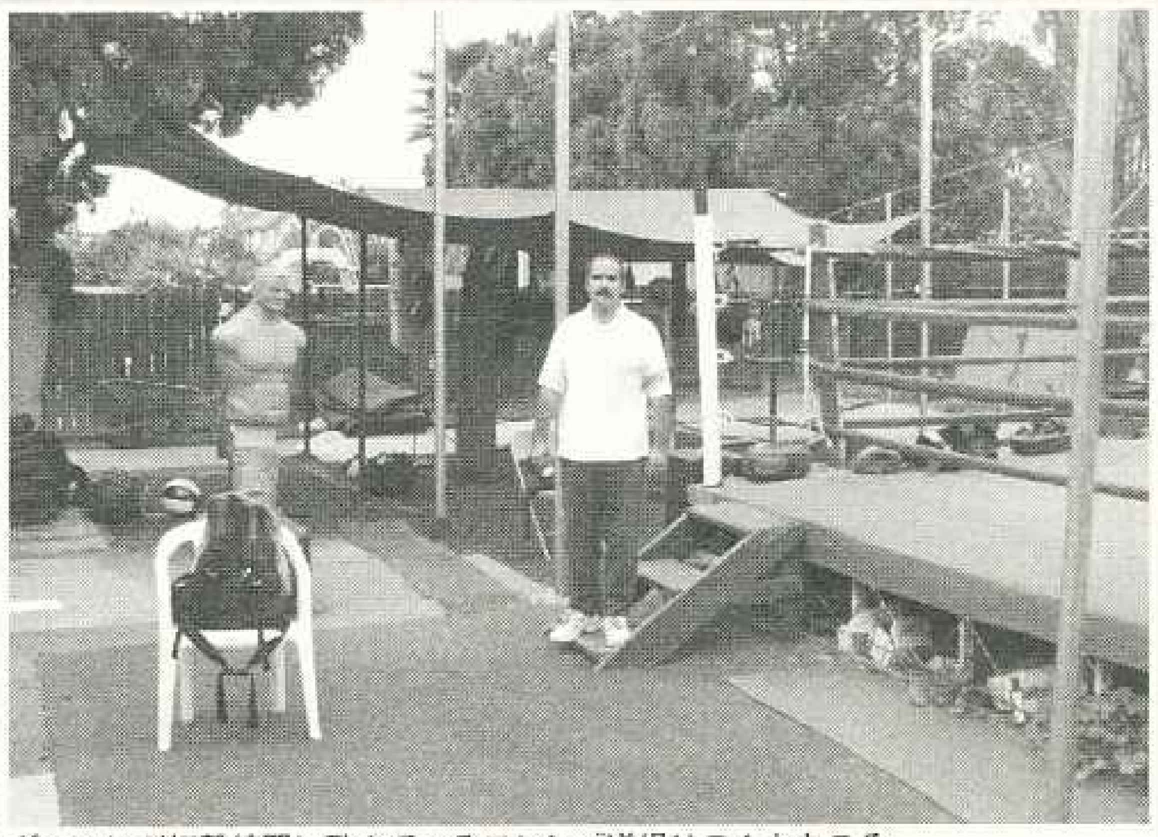
その足でダンの待つ建設中のチーム・クエストのジムに向かう。ダンとは『武士道GP』の試合以来の対面だが、俺を大歓迎してくれた。そして、ダンの家が宿泊先と初めて聞かされる！

テメキュラという町にあるダンの家はとても立派な二階建て。一階だけで部屋が6～7部屋ちかくある。驚いたことにダン自ら3年がかりで建築したそうだ。大工の俺もお墨付きの出来映えで、ほどよい田舎で立地もよし。馬を飼っていて、たまに乗馬をたしなんでいる。俺が泊まった部屋には、ダンがハンティングした熊の毛皮が展示されている。要はダンに狩られた動物同士（熊とピラニア）ってわけか。

家族構成は奥さん、長女、長男の4人家族。俺の名前は発音しづらく子どもたちは「チョーニャン！」とピラニアどころか猫扱い。

一旦ダンの家に荷物を置きさっそく練習場へ。高校のレスリング場を借りてるのだが、向こうの都合あり小さいスペースで寝技のみの練習。寝不足とエコノミー症候群の俺は5本目ぐらいで、足がつって治らなくなり、リタイア……まぁ焦らず翌日に備える。

■2日



ダンヘンが打撃練習に励んでいるロレンゾ道場はこんなところ。

この日は朝からキックボクシングの練習。ダンと一時間近くかけて、ロレンゾ先生のジムに移動。自宅の庭にリングとサンドバッグなどの設備を常設しており、一見ムエタイのジムのようである。

ダンの他に二人のジム生徒が混ざってスパーリング。プロ選手の自分たちをインターバルなく回すという感じで相手が入れ替わり続ける。

正直、慣れない練習ということもあって、3本目ぐらいからボロボロ。おまけに水や食事の違いで下痢になっていたので、最後はお腹との闘いに！（仕上げの腹筋にメディスンボールは危険と判断してトイレに直行しました）。

ロレンゾ先生は現役時代、WKAのタイトルを二つも獲り、ベニー・ユキーデの練習パートナーだった。たしかあのオスカー・デラホーヤともスパーで拳を交えた彼の熟練された技術はとても説得力があった。夜は高校でまた練習。場所がまた使えず、今度はプレハブ小屋に追いやられる。この日、松井（大二郎）選手や岡見（勇信）選手と闘ったブライアン・フォスターと初対面。タトゥー・アーティストの彼はこの遠征で、すごく世話になるナイスガイ。

練習が終わってからディーン・リスターがやって来た。「また来る」と言って消えていったが、俺がアメリカにいるあいだに姿を現すことはなかった。

夜は『キング・オブ・ケージ』観戦へ。海外修行中の謙吾と遭遇。ランペイジが前に所属していたチーム・オオヤマで練習しているらしい。

■3日



帽子の男がブライアンで、トバイアスは陽気な顔立ちな男

この日はLAに住むダンのメディカルトレーナー、ライアンがやって来た。

彼のカイロの腕は日本でも有名で、PRIDEスタッフの首を治療したりと「ポキポキ先生」の異名を持つ。

昼前の練習ではダンとガチンコスパーでヘロヘロになった。自分の試合日時を英語で伝えるのを失敗したため、1月に試合があると思われやたら追い込まれる！ 疲れたダンを調子にのって打撃で攻めまくったらカウンターで顎を打ち抜かれた！ 見事にヒザをついてダウン。落ち込んでたら皆やられてるから気にするなと言われた。やられながらも日本じゃこんな経験はないので、次こそはと気合いが入った。

夜はライアンの誕生パーティーでダンの家の近くにあるぶどう畑のレストランでディナー。ワインを飲み盛り上がった。

次の日にブライアンがロッククライミングに連れて行ってくれるというのでこの夜はブライアンの家に宿泊。

■4日



ピラニアだって崖は登れる。ロッククライミングに挑戦だ。

ブライアンは嫁のサマー、仕事の同僚でインディアンの血も入ったトバイアス、そしてたくさんの動物たちと暮らしている。サマーの祖母が日本人ということもあり、みんな日本に興味や好感を持ってくれた。

ロッククライミングは朝から準備して、ブライアンとトバイアスとサマーの弟・ボビーの3人で出発！ 慣れない生活や練習での疲れもあったので正直休みたい気持ちも大きかった。けど、やってみたらつらいながらもおもしろく、現場仕事で馴らした俺はちょっとぐらいの高さは怖くなかった。

何度か諦めそうになりながらも普通素人は挑戦しないコースをクリア。いいトレーニングにもなり気分は最高だった。帰りは砂漠地帯のカフェでビールを飲んだがこれまた最高だった！

■5日

この日は朝からロレンゾ道場、スパーなしの日だったが筋肉痛がひどくて大変だった。さらに風邪を引きはじめる。

■7日

夕方からロレンゾ道場。暗くなってきたがライトを付けて追い込みスパー。回されながらもようやく動けてき

た。無事にやり遂げるとロレンゾ先生が「お前は進化してる」とほめてくれた。正直うれしかった！

■9日


日本マット登場が待望される“俺様エディ”ことエディ・ブラボーと。

この日は朝からブライアンとLAに移動。ゴールドジムで久々にウェイトトレーニング。USAは凄い身体をしたマッチョが山ほどいて日本人との力の差を見せつけられた。そしてライアンと合流したあと、エディ・ブラボーの10thプラネットジムへ移動。エディとのスパーはわざと足関を封印して向こうのスタイルでやってみた。いい感じで攻めていたらカウンターでツイスター（グラウンド式コブラツイストみたいな技）を極められた。他のジム生にも極められたが仕組みが理解できないと食らいやすいらしい。

この日はツイスターを習わなかったがエディに寝技の重要なポイントを習った。

この夜は最大のミス、必殺・財布落としをやってしまった！　ダンの家が平和でボケたのか、はたまたダンのパンチで頭がボケたのか600ドルも失ってしまった……。

自分が悪いのだがアメリカで財布を落としたら見つかることはない！

■12日

この日から4日間、マット・リンドランドが合流。どこかコミカルなこの男。いつもでかい屁をこく！　負けてられないと対抗しようと思ったが、アメリカではなぜか屁が出ない。オナラ対決は勝てなかったがスパーはいい練習ができたと思う。

■13日

この日はダンの家の柵にフェンスを取り付けた。家では凄く世話になってるために少しでもお礼をしたいから気合いを入れて作業した。お気に入りのスウェットパンツに金網で穴が開いてしまったが、いい仕事ができたと思う。ダンは試合前でも家の仕事を普通にこなす良き父である。練習以外はいつもリラックスしていて本当に試合前なのかと思うほど……メリハリが大事なのだろう。

■14日


ランペイジがやってきた。三角パワーボムは凄いの一言！

夜練にランペイジがやって来た。たまに来るみたいでダンにいろいろ教わりながらビデオに動きを録画していた。俺もスパーをしたけどボディブローが巧かったのが印象に残った。

最後に三角パワーボムをみんなに説明したが、あれは誰もができる技ではないことをわかってほしい！

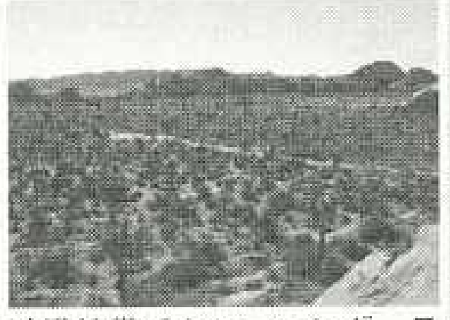
■15日

ダンとマットのミーティングに同行。ミーティング中に巨大なショッピングセンターで待たされた。おみやげを探していたが荷物も多いし、だいたい日本で売っているものばかりなので、そんなに買う物はなかった。ジャージを買ったがレジでおつりをチョロまかされそうになり、抗議して返してもらった。ひどい話！

■16日

マットをオンタリオ空港まで送って疲れたダンは、俺をロレンゾ道場に置いて帰った。マンツーマンだったので、ロレンゾ先生もさらに細かくハードに指導してくれた。夜はブライアンの家に泊まり、ブライアン夫婦たちとディナーに出かけた。

■17日


砂漠地帯でトレーニング。日本では味わえない空間……

朝からブライアンと同居人のトバイアスの3人で山へランニングにでかける。トバイアスは37歳だが、凄い運動神経の持ち主で毎朝トレーニングしている。走るのも早くて、2度目となるマウンテンランニングも彼のリードで進む。砂漠地帯の山は非常に滑るので、なかなか前に進まない。前回は他の二人に大差をつけられてしまったが、今回はトバイアスの走りを真似て、最後まで走りきった……と思って安心していたら、最後に100mダッシュを6本もやらされ、かなり追い込まれた。

この日からずっと足が痛かったが、それをブライアンに言ったら「metoo」と言っていた。

■18日

急遽ダン一家とメキシコへ潜入することになった。ダンがクリスマスで使う巨大なテーブルをオーダーしていて、トレーラーでそれを取りに行くためである。

テーブルを積み込む前に買い物へ出かけたが、小さい子どもたちがガムや小物を買ってと近寄ってきた。初めてこういう物売りの子たちを見て、日本は恵まれてるなと考えさせられた。

同日メキシコの少し大きめのクラブスペースでチーム・クエストのアートという選手がメインで試合。セコンドにダンが付くため、クラブまで移動したが、急遽俺もセコンドに付くことに。試合前にリングアナウンサーにダンと俺とヴァーノン・タイガー・ホワイトがアナウンスされ、声援を浴びたが、意外に自分のことを知っている一般のファンもいて、『PRIDE』人気の高さを実感した。ビールをおごってくれたファンもいた。

アートはおそらく地元の選手と闘ったのだが、やはりダンたちと練習している彼との力の差は大きかった。フェイスロックで勝ったのはいいが、試合後に血や汗だらけの顔でアートはキスしてきやがって、汚かった。

■19日

ダンは今日から練習をハードにすると言ってたが、そのやる気が空回り。なんと練習場所に来たのが初心者一人と、身体はでかいけどプロではない選手の二人だけで、これではハードに練習しようにもハードにならない。ブライアンは仕事が遅くなるらしく、ダンと俺しかいないようなもの。仕方なく二人で30分くらい寝技の練習をした。

■20日

この日はテメキュラ最後の日。最後なので、ダンの子どもたちのプレゼントを買いに行き、そのあとスパーリング。

今日は俺とブライアンとダンの3人だったが、昨日とは違いガンガンに打ち合った。公言通りダンはさらに集中力を上げ、驚異のスタミナを見せていた。

もう少しで新しいジムもできるので、ダンがこの高校のレスリング場で練習するのも最後だろう。

■21日

昼から渋滞の中、LAにあるトレーナーのライアンの家に向かった。当初はバス・ルッテンと一緒に練習する予定だったが、ルッテンが風邪でダウンしているらしく、またエディのジムへ行くことになった。

アメリカは乾燥しているせいか、風邪が非常に流行っており、俺も着いて一週間くらいで風邪を引き、いまだ治っていない。ダンの家族も同じように風邪を引いている。

この日はエディに前回やられたツイスターの仕組みを習った。試合で使えるかどうかはわからないが、ちゃんと極まれば相手の選手生命さえ奪う危険な技である。またアメリカに来たら、エディのジムでも練習したい。

■22日

試合前なのに、ダンは朝早くLA空港まで俺を送ってくれた。練習ばかりの毎日だったが、いろいろ思い出ができたし、言葉ではうまく言えないが自分自身闘いに対する考えも少し変わったように思える。

ダンは「また来い」と言ってくれているし、他のメンバーもとても歓迎してくれている。英語もうまく話せない俺だが強くなりたい気持ちは理解してくれたようだし、もっと強くなって皆を驚かせてやりたい。

ダンもロレンゾ先生もアメリカに来て強くなったと言ってくれた。

■31日

『PRIDE男祭り』。ダンがブスタマンチを破って見事チャンピオンに！　とはいっても、ダンの動きはやけに硬かった。やられた自分が言うのもなんだけど、いつものダンはあんなもんじゃない。でも、彼がチャンピオンになったのはとてもうれしい。俺も2月は絶対に勝たなければいけない。

負けられない理由が確実に増えた！

ちょっとだけ帰ってきた

“ささきぃの STAND BY ME”（仮）

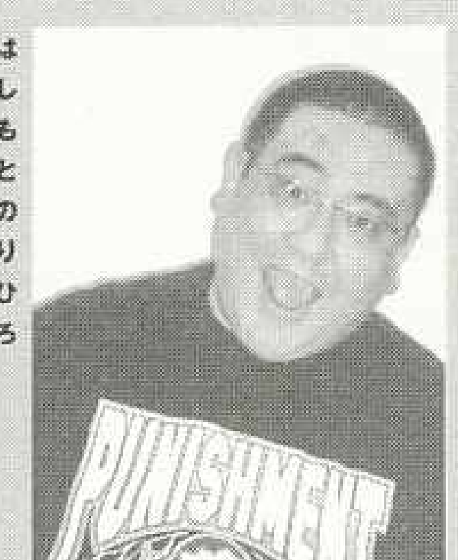
極私的立ち技格闘技連載

気まぐれ対決 『K—1 MAX』の見所って？

ちわっす！　ささきぃです！　極私的立ち技連載企画『STAND BY ME』が恥ずかしながらちょっとだけ帰って参りました！　今回のテーマはズバリ、2月4日『K—1 MAX』日本人トーナメントの見どころです。それでは橋本さん、よろしくお願いします！

今回の対談相手……

橋本宗洋（はしもとのりひろ）



橋本宗洋（はしもと・のりひろ）。1972年生まれ、茨城県出身。『格闘技通信』でアルバイトを経験後、99年からは『SRS-DX』で活躍。同誌休刊後はフリーとして本誌でも活躍中。昨年末は大月晴明ムエタイ挑戦取材で、1年で2回目のタイ行き。最近は引越を計画中。不動産屋の広告で見かけた物件を、問い合わせもしてないのに「俺の家」と言っている。

ささきぃ　今年もまた『K—1 MAX日本代表決定トーナメント』の選手が発表されました！　なんと初出場選手6名ですよ！

橋本　ええ。

ささきぃ　あれ？　なんかテンション低いですね（笑）。

橋本　いや、俺としてはいいけどね。去年に比べて、コヒ（小比類巻貴之）もいないし、武田幸三もいないし、K-Dもいないんだよね。その3人がいないとなると、やっぱり一般マスコミ的には「何これ？」というメンバーになっちゃうよねぇ。

ささきぃ　なりましたね。会見で新聞記者さんたちが戸惑っていました（笑）。

橋本　まぁ、でも逆に言うと、いろんな意味で入れ替わる時期というか。去年まではコヒや武田が興行的な柱になってたんだけど、それは若い選手にとってのフタでもあったんだよね。みんなコヒやK-D、武田ばっかり見ちゃってたから。

ささきぃ　そうですね。

橋本　でも、今回はそのフタがないから。新世代に注目がいって、彼らがもっている魅力がクローズアップされるのはいいことだよね。

ささきぃ　そうですね。去年の『STAND BY ME』を見たら、出てほしい選手としてあげた中から今回二人出てるんですよね。

橋本　（山本）優弥と（佐藤）嘉洋がね。

ささきぃ　去年、橋本さんが10回中8回は優勝するって言った、“日本人最後の大物”佐藤嘉洋選手がついにトーナメントへ参戦します。

橋本　今回のメンバーだったら、10回中9回は優勝するなぁ。嘉洋がK—1で闘ってきたウィリアム・ディンダーとか、ヴァージル・カラコダって、たぶんそうとう強いんだよ。ガオグライ（・ゲーンノラシン）はもちろん強いし。例えば今回の参戦メンバーがそのへんとやったら、ボコられるんじゃないかと思うんだよね。そのレベルと佐藤嘉洋は接戦だったわけだから、この中では図抜けてなければおかしい、と。

ささきぃ　佐藤嘉洋含めて6名がトーナメント初参戦っていう事実からも『MAX』が本気で新しいスターを見つけにかかってるんだな、っていうのは見えますね。

橋本　そうだね。フレッシュ感をやっぱ出したいんだな、っていうのは感じるね。総合枠で村浜武洋の代わりに上山龍紀。で、鈴木悟は“コヒ枠”というかね。

ささきぃ　“入場から見せてくれる人”枠ですね（笑）。

橋本　パンチャー枠は武田の代わりにTATSUJIとか。そういうことなんじゃないかな、と。

ささきぃ　上山選手はいま、レスリングの永田克彦選手と「TEAM Kings」というユニットを結成して、一緒に練習をしているんですよね。そこからチャンスをつかんだという形で。

橋本　もともとね、田村潔司を筆頭にU—FILE勢って打撃しっかりやってるし。U—インターにはタイ人のコーチもいたし。そういう意味で打撃もできるんじゃないかっていう期待感はあると思うよ。TATSUJIは去年の暮れにR.I.S.E.って大会の『DEAD or ALIVE』トーナメントで優勝してるけど、ダントツだったの？　俺は例によってタイに行ってて見逃しちゃったんだけどさ。

ささきぃ　ダントツですね。勝ち方もそうなんですけど「ボクシング出身でK—1に出てる、あんな奴らはパンチだけでも倒してやる」とか「（マイク・）ザンビディス、（アルバート・）クラウスには全然勝てる」って。そういうことを言えるっていうのは、私はプロの条件だと思いますね。

「この傘の下から誰が飛び出すか」ってことで（ささきぃ）

『K-1 WORLD MAX 日本代表決定トーナメント』
歴代出場選手
（※本戦出場選手のみ、☆印が優勝選手）

02年
☆魔裟斗、小比類巻貴之、須藤元気、新田明臣、大野崇、村浜武洋、安廣一哉、後藤龍治

03年
☆魔裟斗、武田幸三、須藤元気、村浜武洋、阿部裕幸、小次郎、安廣一哉、小比類巻貴之

04年
☆小比類巻貴之、HAYATO、武田幸三、緒形健一、村浜武洋、安廣一哉、セルカン・イルマッツ、山本“KID”徳郁

05年
☆小比類巻貴之、安廣一哉、TOMO、小次郎、武田幸三、宮田和幸、村浜武洋、HAYATO

リザーブファイト　我龍真吾（ファイティングマスター）vs 白須康仁（花澤ジム）

スーパーファイト
魔裟斗（シルバーウルフ）vs イアン・シャファー（リングス・オーストラリア）
レミギウス・モリカビュチス（リングス・リトアニア）vs 大東旭（チーム・クラウド）
ブアカーオ・ポー.プラムック（ポー.プラムックジム）vs マイク・ザンビディス（メガジム）

2006.2.4
『エステティックTBC K-1 WORLD MAX 2006 ～日本代表決定トーナメント～』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ　試合開始 16:30

安廣一哉（正道会館）
HAYATO（FUTURE_TRIBE）
TATSUJI（アイアンアックス）
山本優弥（BOOCH BEAT）
鈴木悟（正フリー）
上山龍紀（TEAM Kings）
佐藤嘉洋（フルキャスト）
新田明臣（バンゲリングベイ）

優勝者は 4・5 横浜アリーナ『K—1 WORLD MAX 開幕戦』出場権を獲得!!

【チケット料金（全席指定・消費税込み）】
SRS席 22000円 / S席 13000円 / 魔裟斗応援シート 13000円（S席・特典つき）/ A席 6000円

【チケット発売】
チケットぴあ、ローソンチケット、CNプレイガイド、キョードー東京、イープラスにて発売中。

【チケットに関する問い合わせ先】
（株）キョードー東京 03-3498-9999

【大会に関する問い合わせ先】
（株）FEG 03-3796-5060

橋本　それはいいことですよ。

ささきぃ　やっぱり、そこまで言われたら「じゃあやってみてよ」って言いたくなりますもんね。ただ単に「出たい」って言うよりも「ザンビディスとやったら勝ちます！」と言って「だったらやってみろよ」っていう気持ちを見る側に起こさせるっていうのは、凄く大事なことだと思います。

橋本　そうだね。ＴＡＴＳＵＪＩはそんなこと言って、ここで負けたら「君、何？」って話だから。

ささきぃ　「誰？」って話ですからね（笑）。相手の山本優弥はずっとプッシュしてきた選手の一人なんですけど、私の優勝予想はＴＡＴＳＵＪＩ選手にしてみます。会見でも思いましたけど、出てる選手、みんな「いい子」なんですよ（笑）。

橋本　基本はいい子だよね。「なんだ、このヤロー」みたいなのあんまりいないよね。

ささきぃ　そうなんですよ。だけど、そんな選手ばっかりじゃつまんないんで（笑）。魔裟斗もビッグマウスって言われましたけど、発言の裏には、それだけの練習量があると。

橋本　そうそうそう。

ささきぃ　そういう意味で、「ポスト魔裟斗」って言ったらＴＡＴＳＵＪＩは怒るかもしれませんけど、そういうことができる人はいいんじゃないかな、と思いましたね。

橋本　対世界っていう意味では、魔裟斗が一人で日本を背負っちゃってる状態で、コヒはもうあんな感じだし。

ささきぃ　コヒはもう、自分との闘いに入ってますからね。

橋本　武田もいい試合は見せるんだけれども、やっぱりいかんせんね。冷静に見れば結果は出せてないわけだから。世界に対抗できるのが魔裟斗しかいないっていう状況でもう一枚かんでこれる奴がいないのか？　ってなったときにやっぱり、嘉洋とかは期待できるし。あと、確実にカードが組めるというか、コイツは『ＭＡＸ』の選手だね、っていうのを思わせる意味では優弥とＴＡＴＳＵＪＩが評価を残してほしいし、安廣一哉とＨＡＹＡＴＯはとにかく頑張ってくれ、と。

ささきぃ　みんな、いい選手ですからね。

橋本　本当に。いや、ＨＡＹＡＴＯと安廣は本当に今回、真価を問われるよ。

ささきぃ　山本優弥と佐藤嘉洋が同じトーナメントに出るというのも、非常に感慨深いものがありますね。



8名中、継続参戦しているのは安廣一哉とHAYATOのみ（新田明臣は昨年のリザーバー）。6名が初参戦という今年の『MAX』。はたしてこの中から飛び出すのは誰になるのか。期待が集まる。

橋本　そうだねぇ。全日本キックのリングで去年の2月に対戦して、計6度のダウンを取って50－39で判定勝ちしたんだけれども、粘りに粘る山本優弥がおおいに株をあげた試合であり、その試合の直後に嘉洋は全日本キックを離脱。そしてＫ－１参戦という道を歩んでいるだけにね。

ささきぃ　会見で山本優弥が言った「お世話になった全日本キックのために勝ちたい」って言葉も、そういう背景を考えればドラマチックですねぇ。

橋本　Ｋ－１に出たかった嘉洋にとっては、べつに出たいってわけじゃなかった優弥が自分と同じ時に『ＭＡＸ』に出て、勝たれちゃったりした日には人格崩壊ですよ。

ささきぃ　自分が圧倒的な差をつけて勝った相手が出てるわけですから、本人はそんなことは言わないでしょうけど、心中穏やかじゃないですよね。

橋本　穏やかじゃないと思うよ、絶対。優弥としても今度は、絶対勝ってやるって誓ってると思うし。優弥は優弥で、あの時エライ恥をかかされたと思ってるからね。

ささきぃ　そうですよね。

橋本　だからね、そういう意味でも優弥にも心中期するものがあるだろうし。そこのドラマはきっちりテレビ局も視聴者も汲み取るためにも、ちょっとこのページは読んでおいて欲しいね。

ささきぃ　そうですね。みなさん、よろしくお願いします（笑）。

橋本　今回はとにかく、まだまだこの業界には人材があふれてるな、ってことを意地でも見せてほしいね。大会のポスターは魔裟斗のピン（単独）なんだけども、終わったときに「やっぱり面白かったのはトーナメントだったな」とか「一番インパクトがあったのは○○（トーナメント優勝者）だったね」ってなってほしい。選手たちにも、そういう意地はあるはずだと思うし。

ささきぃ　猪木さん風に言うなら「この傘の下から誰が飛び出すか」というところですね。

橋本　飛び出せ、という感じは非常にあるね。「この中で何本の柱が立つか」だね。

ささきぃ　そうそうそう。まぁ、長州力はドームの翌日「柱はないです」って言っちゃったんですけど（笑）。

橋本　ないのかよ（笑）。それで言うなら、今回の『ＭＡＸ』も翌日、谷川さんに「ん～、柱はなかったですぅ」って言わせないであげてほしいね（笑）。それだけは本当に頼むよって感じだよ。

【1月10日・会見場近くの「ルノアール」にて収録】

「MAXに何本の柱が立つのか」が見たいよ（橋本）

トーナメント1回戦の見所解説

鈴木悟（フリー）vs上山龍紀（TEAM Kings）



現在はレスリングの永田克彦と「TEAM Kings」を結成しているDEEP初代ウェルター級王者・上山龍紀が『K-1 MAX』初参戦。昨年K-1 MAXに登場した鈴木悟と激突する。村浜武洋、須藤元気らを生み出した「K-1 MAXの総合枠」だけに要チェック。U系ファイターとボクシング元王者の異種格闘技戦でもある。鈴木悟の入場から目を離してはならない。



安廣一哉（正道会館）vsHAYATO（FUTURE_TRIBE）



02年の『K-1 MAX』から連続して参戦している安廣と、04年から参戦しているHAYATO。HAYATO自身が会見で語った「K-1 MAX生き残り戦だと思っている」という言葉が、試合のテーマを表している。昨年10月、レミギウス・モリカビュチスに6度のダウンを奪われた安廣にとって、今回は再起のためにも落とせない試合だ。



佐藤嘉洋（フルキャスト）vs新田明臣（バンゲリングベイ）



「10回やれば8回は佐藤が優勝する」と、橋本さんを始めとするキック関係者が太鼓判を押す佐藤嘉洋が日本人トーナメント初登場。昨年、リザーバーの座から日本人トーナメント準優勝まで上り詰めた新田の底知れない運と底力が、佐藤を止められるか。佐藤にとっては結果だけでなく、内容も落とせない真の意味で価値を問われるトーナメントになる。



TATSUJI（アイアンアックス）vs山本優弥（青春塾）



『R.I.S.E.』70kgトーナメントを制したTATSUJIがK-1初登場。昨年オープニングファイトからK-1参戦、実力が認められた山本優弥と対戦する。パンチが強くアグレッシブで「クラウス、ザンビディスは倒せる」と吠える「K-1向き」な超新星TATSUJIと面白い試合をすることでは折り紙つきの全日本キック・山本優弥。大会のベストバウト候補となること間違いなしの「STAND BY ME オススメ試合」。



究極の格闘技大戦争勃発!

no.49 '02.04 880yen
和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田/アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?/破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐり!

50号記念企画てんこ盛り号

no.50 '02.05 880yen
「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!/ギョ!?]編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立

no.51 '02.06 880yen
両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談/新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!

no.52 '02.07 880yen
全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム/戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!

no.53 '02.08 880yen
ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ/爆裂! 川村社長ガチンコ語録!/偽道王の知られざる半生!

『Dynamite』を大総括!

no.54 '02.08 880yen
"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー/"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット/純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!

no.56 '02.10 880yen
田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 高田延彦/蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山/『紙プロ』に思い一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号

no.57 '02.11 840yen
サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ/北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!

no.58 '03.01 880yen
夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×高阪/Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健/カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸

no.59 '03.02 880yen
いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス/爆発!! WJマグマ語録/吉田道場の秘密兵器中村和裕/UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!

no.60 '03.03 880yen
ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気/あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし/全日本中継の真実!! 倉持隆夫

地殻変動の予兆アリ!!

no.62 '03.05 880yen
ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介/現役復帰間近!? 船木誠勝/藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル/バードを徹底検証!!

マット界、超絶リボーン!!

no.63 '03.06 880yen
「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!/憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー/芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!

no.64 '03.07 900yen
"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー/ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!

no.65 '03.08 880yen
"最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル/"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ/吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司/闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!

no.66 '03.09 880yen
緊急独占インタビュー! ミルコ/マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮/"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦/『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!

no.67 '03.10 880yen
ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー/アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!

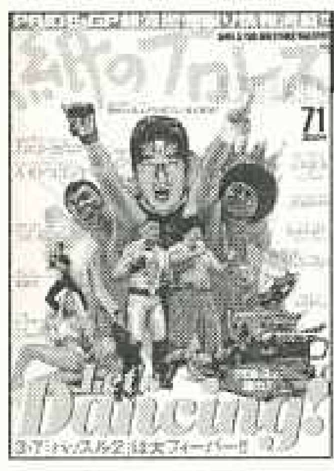
no.68 '03.11 880yen
大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦/曙とは何者か!?/一年ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志/"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

ハッスル1開催、ド直前!!

no.69 '03.12 900yen
出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也/『泣き虫』著者登場! 金子達仁/大晦日直前インタビュー! 田村潔司/アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

紙プロ大賞'03発表!!

no.70 '04.01 880yen
PRIDE征服宣言! ミルコ/シウバに宣戦布告! 近藤有己/ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶/発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!

no.71 '04.02 880yen
『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/待望の『紙プロ』初登場! 川田利明/理想のプロレスを追い求める! AKIRA/幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!

no.72 '04.03 840yen
GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/K-1に暴力を持ち込んだ男山本KID徳郁/全て見せます!!『突撃!佐々木健介邸』

最も過酷な道を行く男!!

no.73 '04.04 880yen
GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド/キックの名伯楽登場! 伊原信一/魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!

no.74 '04.05 880yen
PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー/襲圏会館皇帝佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!

no.75 '04.06 880yen
シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー!! 高田総統/インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン/年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!

no.76 '04.07 880yen
小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦略を語れ! 桜庭和志/新連載『月刊PG談(仮)』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!

no.77 '04.08 880yen
「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ/サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号

no.78 '04.09 840yen
衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 高田延彦/K-1のトップが小川を語る 谷川貞治/壮絶インディー人生! 田中将斗

高田総統がビターンと降臨!

no.79 '04.09 840yen
キャプテンに休息なし! 小川直也/特別付録・高田総統ポスター/谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』/ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!

no.80 '04.10 880yen
独占ロングインタビュー ミルコ/ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也/新連載! 佐山サトルの右流タン探訪紀/袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!

no.81 '04.10 880yen
ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/スーパーひとし君登場! 草野仁/佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!

no.82 '04.12 890yen
"道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪/伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

大晦日格闘技戦争、大爆発!

no.83 '05.01 880yen
『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括!/蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝/『シベ超5』公開記念SP対談! 水野晴郎×サスケ

RTTが皇帝に宣戦布告!!

no.84 '05.02 880yen
"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/"頑固者"が PRIDE GPを語る 田村潔司/"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!

no.85 '05.03 860yen
PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、高田延彦/パンクラス2大王者が揃い踏み! 高阪剛×近藤有己/HBKが大暴れ!?/ 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号

no.86 '05.04 860yen
大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!/PRIDE GP&K-1 MAX 出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!

no.87 '05.05 860yen
敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫/蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

ミルコ、運命のヒョードル戦へ!!

no.90 '05.08 880yen
ミルコの家族総出演! クロアチア現地取材/さらば破壊王! 橋本真也追悼特集/新日本前社長・草間政一が独白!/どっこい生きてる全女魂! 松永高司

ア館/ャンピオン/タコシェ/レッスル池袋/書泉ブックマート/書泉ブックタワー/書泉グランデ/グレートアントニオ/東京イサミ



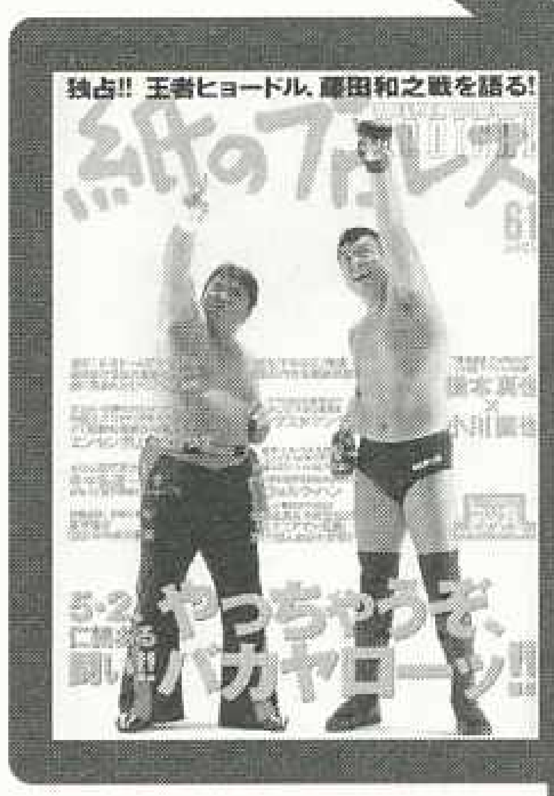
～『PRIDE男祭り』vs 吉田秀彦戦～
破壊王を背負って闘った小川直也

“OH砲の友情物語”は
紙のプロレスRADICAL バックナンバーで確認せよ!

注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797

平日
15:00～22:00
販売元
(株)ダブルクロス



03年、橋本真也×小川直也スペシャル巻頭対談掲載!「裏番組をブッ飛ばせ!」

no.61 '03.04

★03年5月2日、新日本のドームと同日開催となったZERO-ONE後楽園ホール大会直前、全方向に噛み付きまくる奇跡のインタビュー!（聞き手／山口日昇）
★猪木人形に吹き矢するOH砲、ドームの模型に噛み付くOH砲など奇跡のショットも満載!

840yen

本誌 Back Number

特集 神秘とは何か?


no.14

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 インディペンデントの逆襲


no.15

あんた誰? 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負!／K－1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

特集 実況パワフル北朝鮮


no.17

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&永島勝司・村松雄𥘟・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある!「藤原組の逆襲」

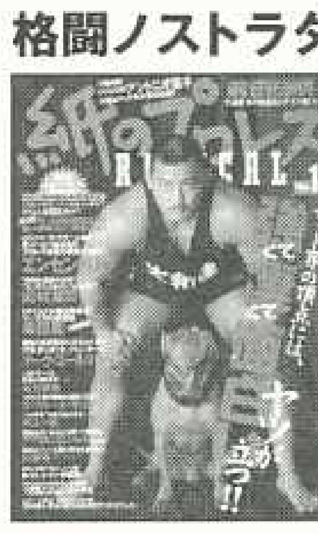
780yen⇒390yen 50%OFF

パンクラス公式読本


矛・盾

97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよォォ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF

格闘ノストラダムス!


no.16 '99.03 780yen

アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／相撲多重アリバイ 石川孝司／語ろうジャンボ鶴田

純プロ王国NOAHに迫る!!


no.29 '00.07 840yen

三沢、秋山『紙プロ』初登場!!／プロレススーパースター列伝 仲野信市／本誌独占ジャンボ鶴田夫人最愛の夫の真実を語る!!／TKおかん

“新”プロレスとは何か?


no.32 '00.10 840yen

田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村／“和製カレリン”本田多聞

純プロレスを徹底検証!


no.35 '01.02 840yen

ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／“ノアの怪物”杉浦貴／UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

燃えよ、闘魂の火種!!


no.36 '01.02 840yen

ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言／W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く／吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

純プロレス戦国絵巻!


no.37 '01.04 840yen

安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る!／アブダビコンバット01一大探検記!／シュート活字Xファンタジー活字／比類なきプロレスがWWFにはある!

小川直也は是か非か?


no.38 '01.05 840yen

忘れ物の正体は――。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル／プロレススーパースター列伝 阿修羅原／死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

前田日明は是か非か?


no.39 '01.06 840yen

前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも……藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男／プロレススーパースター列伝・田上明

地上最強のプロレスとは?


no.40 '01.07 880yen

蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎／プロレススーパースター列伝 グラン浜田

“最後の黒船”WWF来襲!!


no.41 '01.08 880yen

リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!／W☆INGの真実・茨城清志／毒舌知能犯秋山準語録

アントンパワー大爆発!!


no.42 '01.09 880yen

ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／“ヒャッホーの真実”辻よしなり／蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光

聖戦『PRIDE.17』迫る!!


no.43 '01.10 880yen

ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会／野武士が語るんだよな 中野巽耀

サク連敗とPRIDEの未来


no.44 '01.11 880yen

その修羅場の数々! シーザー武志／怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴／ハンス・ナイマン&ディック・フライ／闘龍門大特集

一寸先はハプニング!!


no.45 '01.12 880yen

悪魔の書、現る! ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談／プロレススパースター列伝 グレート小鹿／語録で振り返るマット界2001

WWE日本侵攻、5秒前!


no.47 '02.02 880yen

“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!／噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!／プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

桜庭、満開の日は近い!


no.48 '02.03 880yen

奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光／伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン

紙のプロレスRADICAL BackNumber常備店 アイドール新宿店／新宿ファイター／プロレスマニア館／

新 卓球少女(仮)松下ミワの ハガキ愛ランド



ダーン!! すっかり正月気分も抜けましたが、改めまして! 明けましておめでとうございます!! 新年早々、肌に切れ目ができるほど近距離でヒーターにあたっている、絶賛乾燥肌中の松下ミワです。しかし! そんなのは“痛いの、痛いの、飛んでいけ”でございます。ドンッ! というわけで、今年も愛ある投稿よろしくお願いします。では、いきましょう! 3、2、1、とんがり、とんがり、う～、ブタゴリラ!!

kamipro94号へのお便り紹介

小川直也独占インタビューが面白かった。小川と橋本の写真や、小川の橋本に対する思いを読んでいたら、もう大晦日は小川を応援せずにはいられなくなった。

【埼玉県・山口杏奈さん・鍼灸師・29歳】

↓負けたんだけど、ちっとも負けた気がしないオーちゃんはさすが! 年始の細木数子の番組ではハッスルに代わる新ポーズを伝授されてましたが、はにかみながらもしっかり決めポーズ! 3、2、1、パワーアップでオー!

古賀先生のインタビューが良かったです。両者ともにモチベーションの高さは最高潮で試合に臨めるワケですね。世界選手権の裏話なども含めて頭の中にイメージが完全に浮かびます。素晴らしい分析力! 古賀先生の再登場を望みます!

【kamipro Hand投稿】

↓当日はリングサイドで何度もカメラで抜かれていた古賀先生。試合自体は絶賛のご様子ですが、「試合よりマイクパフォーマンスが長いのはよくない!」とぴしゃり。ん～、厳しい。

五味隆典大大好きぃ～。ズバリ、私の好きなタイプです♥ 元カレと顔が似てましたぁ。部屋の中には五味くんの物だらけ。高校生になったらバイトしてお金貯めて見に行きます!! 将来は五味くんの奥さんに絶対なるぅ↗。自信100%あります。

【岡山県・岩谷茉末さん・学生・15歳】

↓ぜひ奥さんになってください。

金子賢特集に一番興味があった。俳優が『PRIDE』でどんな試合をするのかを見たいから。

【千葉県・糸久晃平さん・学生・15歳】

↓視聴率、なんと27・7パーセント! 小川vs吉田、ボビーvs曙を超える高視聴率おめでとうございます。でも、金子選手、これから先ってどうなるのかな? 修斗とかDEEPとかにいきなり出てきたらそれはそれで凄い!

かつて町田駅頭で毎週火曜に怪しい人から「UFO新聞」(後に太陽系新聞と改名)なるガリ版を貰うのを楽しみにしていた私にとって、韮澤さんとサスケ議員の対談はもう、血湧き肉躍る企画というかね……。対談の内容もさることながら、こういう企画を実現させた編集スタッフのAV業界人ばりのアイデアと実行力には恐れ入った!

【kamipro Hand投稿】

↓投稿していただいたあなた様の情熱にも恐れ入ります。今年もUFOをよろしくお願いいたします。



94号の面白かった記事は“元GK”金澤克彦インタビューです。ゴング編集長時代には言えなかったことをガンガンぶっちゃけてもらいたいです。

【兵庫県・春名義行さん・会社員・39歳】

↓新年からさっそくどんどん登場してもらってます! しかし元GK出現の裏で「よおおお!」っと大暴れしている重鎮の影が見え隠れ?

チャック・ウィルソンのインタビューがあって嬉しかった。俺の読みは外れてなかった。『kamipro』はさすがと言いたい。俺は昔、テレビでチャックがドルフ・ラングレンに本気でしかけたのを覚えている。バラエティなのに殺気ムンムンの目。チャック最強!

【大阪府・山内義久さん・病院脱走・37歳】

↓勝負ごとに遊びは存在しない! と言わんばかりの迫力インタビュー。この男と曙をぜひ闘わせたい! もしくはズール親父でもいい!

田村インタビューが面白かった。田村選手の涼しい表情と榊原代表&高田本部長の苦虫をかみつぶしたような顔が対照的でリアルだった。今年もちゃんとこの話題が誌面にのぼるのかが楽しみ。

【徳島県・田村マニアさん・駄菓子屋・55歳】

↓代わりに赤いパンツの頑固者が出てきた! と思ったら、当日は日の丸パンツで登場でしたね(美濃輪選手)。本人曰く、桜庭戦で100パーセント・スーパーヘブンとまではいかなかったようですが、今年はぜひ到達してください!

ジョシュの論文は凄い。この人はプロレス記者になったほうがいい。逆プロディみたいな。

【東京都・藤瀬真さん・自営業・34歳】

↓学者のようなジョシュの論文に感銘を受けた読者続出! ジョシュが願う田村vs桜庭はいつ実現するのでしょうか? あと、宮戸祭りも。

浅野忠信インタビューがよかったです。いっそのこと、表紙も浅野さんにすれば売り上げも伸びたと思いました。

【千葉県・内野さとしさん・会社員・38歳】

↓おじさん好きの私としては、ハゲを嫌がった翔さんのエピソードにキュインときました。映画も凄く面白いので見てください!

先日、ヒマでモテない私は、ハッスルMAGAZINE VOL.2の付録DVDの高田総統のビターン100(マイナス60)連発! を受けていたら、半年間も音信不通だった友だちから突然連絡がきました。

【MUSIAさん】

↓私も1年近く連絡をとっていなかった友だちから突然「羽毛布団とか、興味ある?」と電話が来た経験があります!

94号・面白かった記事ランキング

1位	古賀稔彦インタビュー
2位	小川直也インタビュー
3位	五味隆典インタビュー
4位	小川直也vs吉田秀彦を覚悟して見よ!(by浅草キッド)
5位	藤原敏男×KIDパパ対談

前号はやはり大晦日に読者の興味が集中! 見事、1位に輝いたのは小川vs吉田を読み解いた古賀稔彦インタビュー。そして3位には『kamipro』大賞、三冠を達成した五味選手。次号でも上位に食い込むこと必至!? さらに、5位には藤原先生とKIDパパの居酒屋対談がランクイン。KID選手も優勝したし、まさに、この親にしてこの子アリ!!



【埼玉県・稲葉聡さん】

➡なんだかわかんないけど激しい世界観がビンビン伝わってきます。ちなみに、HGのイラストは編集部の年賀状にそっくり。



【広島県・山田彰さん・36歳】

➡はっきし言って、波平&サザエでもいいんじゃないかという気がしてきました。「波平、サザエに英才教育」の巻。ん～わっくっく。



【岐阜県・西脇康朗さん・会社員・28歳】

➡最も気がかりなのは、ヨン様仕様にした理由ですが、そんなことはどうでもいいですね。ありがとうございます!



このビジュアルだけで初めて『kamipro』を買いました(スミマセン)。

【京都府・大森基司さん・虫ナビゲーター・43歳】

➡初『kamipro』おめでとうございます! はっきし言ってめちゃくちゃ似過ぎでビックリです。取材した真下さんが感激しておりました。

スクープ!

ザ・目撃!!



●前に**リゾートホテルの大浴場**で、やけに髪の長い、そのわりにパリッとした身のこなしのオジサンがいるなーって見てたら、なんと**堀部先生**でした。ちなみに、髭はそっていませんでした。

【kamipro Hand投稿】

●12・23日に**自由が丘南口**の山野楽器前に**ヤングライオンの山本選手**が携帯いじってました。僕はそのときコンタクトのチラシ配りをしていたのですが、チラシ渡す瞬間に小声で「頑張ってください!」と言いました。すると、山本選手は「あ!」と驚いてました。ちなみに山本選手の**バックドロップの師匠の後藤選手**は**正面口**でよく見ます!

【東京都・原姉貴はゴッチ式さん・30歳】

●ザ・目撃!　というか、男祭りのファンクラブイベントで**ケンゾー&ヒロコ**を見ました。握手会とサイン会が始まる直前だったのですが、『kamipro』**鬼畜編集長の山口さん**も見ました。とっても真剣な表情をしていたので、声をかけれませんでした。

【神奈川県・大内和彦さん・会社員・31歳】

●**田町のモンゴリアンチョップ**で**松井大二郎**オ（店員）さんが働いていました。とても真面目で**キビキビ**と働いていて「本当に真面目なんだなぁ〜」と思いました。お客さんが女性だとなんとなく**接客態度**が違ってました（笑）。

【神奈川県・マッスルハッスルさん・会社員・31歳】

あけましてて年賀状

今年も『kamipro』編集部にたくさんの
年賀状をいただきました。
送ってくださったみなさま、ありがとうございます!
2006年もはりきってよろしくお願いします。



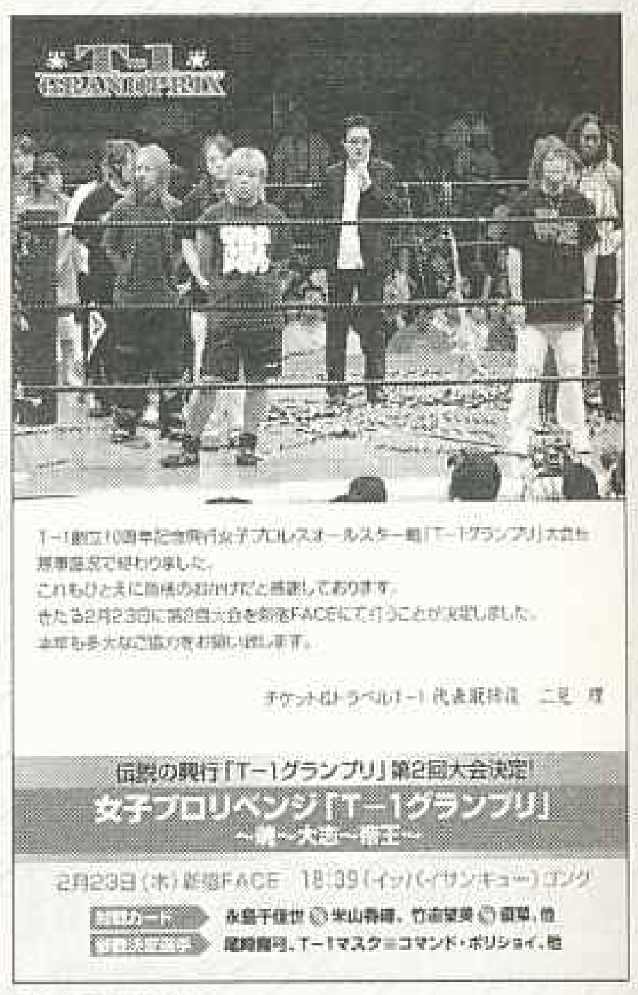
椎名基樹さん
➲サムライ三昧のコラムでおなじみ、椎名さんの年賀状です。類いまれなる衝撃的なコラボレーション、ステキです!



青木裕子さん
➲昨年はハッスルの浩子・新GMに絡まれっぱなしの青木裕子さんの年賀状です。今年のハッスルではどんな活躍を見せてくれるのか要注目!?



中川"画伯"雅博さん
➲"ライオンズマンション"というキャッチフレーズがピッタリはまりそうなゴージャスっぷり。犬のモデルは画伯の愛犬?



T−1二見さん
➲「伝説のカギを握るのはチョロさん?」という暗号のようなメッセージ付きで送っていただきました。そんなチョロさんは数ヵ月前にやっとアパートのカギを握ることができました。



橋本さん
➲ライター・橋本さんからは"チーム・メガトン"年賀状を頂戴。橋本さんがちっちゃく見えるのが凄い。



小林聡さん
➲自らを「ヒマでモテないキックボクサー」と書いた小林さんの一枚。では、今年はインリン様に洗脳されちゃってください!



我闘姑娘
➲萌え萌え女々苑で取材した春日萌花さんから真下さんへの年賀状。チョロさんにも同じものが送られてきましたが、ハートマークはありませんでした。



木口道場
➲五味選手が所属する木口道場の会長から年賀状をいただきました。凄くご利益がありそうなお年賀、どうもありがとうございました!

ましプレ

弟にあげるはずだったK−1ライター



『Dynamite!!』取材後、真下さんはふたつ年下の弟さんにK-1ライターをお土産に買ったのですが、新年早々、見事、渡しそびれるという大失態。というわけで、編集部に置きっぱなしなのももったいないので、読者のみなさんに勝手にプレゼントしちゃいます。応募方法は読プレページを見てね。

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構!　お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは「radical@kamipro.com」
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「有馬記念当てました」係まで。
携帯サイト「kamipro Hand」からの投稿もできます。

紙のプロレス道場

新年なので、カミングアウトします!　うすうす感づいているかたもいるとは思いますが、……じつは、松下ミワはプロレスをまったく知りません!　ショック!!　というわけで、この専門誌にあるまじき事態を解消すべく、編集部の強制のもと、今年からプロレス道場に通うことになりました。第一発目は、編集部いち厳しいジャン斉藤先生のテストです。先生、お手柔らかにお願いします!

クイズ

Q.93年、全日本プロレスで、仲野信市、高野俊二、高木功、田上明、二代目タイガーマスクが結成した「若手決起軍」を、ジャイアント馬場が解散させた理由を挙げなさい。
自分のほうが目立ちたいから

Q.兄弟タッグチーム「ザ・ファンクス」をテリー・ファンクと結成していたレスラーの名前は?
~~ザ・スフィンクス~~ ドリー・ファンク

Q.ジャンボ鶴田、ターザン山本!、三沢光晴の本名をそれぞれ答えなさい
鶴田大　山本隆男　三沢光男

Q.ダブルクロス設立前に山口日昇が「紙のプロレス」を発行していた出版会社を以下から選びなさい
1.NWF出版 2.ワニマガジン (3.) 世謝出版 4.アントンリブ

5点

回答時間5分という逆境の中、考えた答えがコレ。残念としか言いようがありません!（涙）。でも、「"ザ・スフィンクス"はハッスルキャラにいそうだね」と褒められました。合掌。

正解　①決起軍のくせに、ちっとも決起してなかったから　②ドリー・ファンクJr.
③鶴田友美、山本隆、三澤光晴　④世謝出版

今月の出題者
ジャン斉藤先生

マット界の掲示板

kamipro

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

ハミ出し 情報局

今月のハミ出し情報! 発売日翌日の1月22日にNOAHが武道館大会を開催。GHC戦・田上vs秋山、三沢と健介が6人タッグで激突、さらにはKENTA vs 丸藤というノアヲタ垂涎のカードも組まれてます。昼のZERO1・MAX後楽園大会では大谷がコリノの持つAWA世界ヘビー級王座に挑戦。立会人としてニック・ボックウィンクルも来場。どっちもオススメです!

ヘビー級王者決定トーナメントで 桜木裕司vs佐藤光留が実現!!

PANCRASE『2006 BLOW TOUR~開幕戦~』

★日時 1月26日(木) 試合開始18:30 ★会場 東京・後楽園ホール

★主要対戦カード
【メインイベント.ウェルター級タイトルマッチ】
[暫定王者]井上克也(和術慧舟會RJW) vs 北岡悟(1位/パンクラスism)
【第2代ヘビー級王者決定トーナメントAブロック】
桜木裕司(製圏会館) vs 佐藤光留(パンクラスism)
[1位]ポアイ菅沼(TWIST) vs [3位]李世学(和術慧舟會RJW)
【ウェルター級戦】大石幸史(パンクラスism) vs 石毛大蔵(SKアブソリュート)
【ミドル級戦】瓜田幸造(製圏会館) vs 福田力(KILLER BEE)
【フェザー級戦】村田卓実(和術慧舟會A-3) vs 井上学(UWFスネークピットジャパン)
【ライトヘビー級戦】川村亮(パンクラスism) vs 渡辺悠太(A-スクエア)

★問 パンクラス 03-5792-0815 ★HP http://www.pancrase.co.jp/

前田日明命名 SAMURAI SWORDが遂に始動!!

『Wカプセル』

★日時 1月28日(土) 試合開始17:30 ★会場 東京・新宿FACE

★主要対戦カード
三浦広光(SAMURAI SWORD) vs 大久保一樹(U-FILE CAMP)
中西裕一(フリー) vs 佐藤隆平(R-GYM)

★出場予定選手 高森啓吾(SAMURAI SWORD)、チャンピット・ギャットボンウボン(元ラジャダムナン・ウェルター級王者)、城戸康裕(谷山ジム)

★問 Ichinoオフィス(SAMURAI SWORD) 03-5784-9803

※当日は12:30から同会場で『オヤジバトル8』も開催!!

GCMがビッグイベント『MARS』を旗揚げ!!



12・22、都内ホテルで行われた『MARS』立ち上げ会見には出場選手の他に、GCMの久保豊喜社長、FEG谷川貞治社長、MARSチーフプロデューサーの天野勇気氏が出席。追加カードはどうなる?

『MARS』(マーズ)

★日時 2月4日(土) 試合開始18:00 ★会場 東京・有明コロシアム

★主要対戦カード
光岡映二(和術慧舟會RJW) vs ヴィトー"シャオリン"ヒベイロ(ノヴァ・ウニオン)
門馬秀貴(和術慧舟會A-3) vs ホドリゴ・グレイシー(チーム・ホイス・グレイシー)
浜中和宏(チーム・イノキ) vs 尾崎広紀(和術慧舟會東京本部)

★出場予定選手
矢野卓見(烏合会)、弘中邦佳(アカデミアAz)、渋谷修身(フリー)ほか

★問 GCMコミュニケーション 03-3538-5801 ★HP http://www.g-c-m.net/

川尻vsハンセンにルミナも出場! 修斗が久々にビッグマッチを開催!!

プロフェショッナル修斗公式戦
『"SHOOTO The victory of The truth"』

★日時 2月17日(金) 試合開始16:00

★会場 東京・国立代々木体育館第2競技場

★ 主要対戦カード
【修斗世界ウェルター級チャンピオンシップ】
[王者]川尻達也(T-BLOOD) vs ヨアキム・ハンセン(チーム・スカンジナビア)[挑戦者]
【フェザー級3回戦】大沢ケンジ(和術慧舟會A-3) vs 植松直哉(クロスポイント吉祥寺)
【ライト級3回戦】石川真(PUREBRED大宮) vs リオン武(シューティングジム横浜)
【ライト級3回戦】阿部裕幸(AACC) vs 不死身夜天慶(シューティングジム横浜)

★出場決定選手 佐藤ルミナ(roots)、廣田瑞人(GUTSMAN)

★問 サステイン 03-5725-7338 ★HP http://www.x-shooto.jp/

Fight & Tichet

健介20周年記念興行で、小橋とタッグ、中嶋と初激突!!

★日時 2月11日(土・祝) 試合開始12:00

★場所 東京・後楽園ホール

★主要対戦カード
佐々木健介 & 小橋建太 vs 天龍源一郎 & 中嶋勝彦
【5分1本勝負トークショー3番勝負】
佐々木健介 vs 武藤敬司、小島聡、X
※危ない話になった場合はゴングが鳴らされ強制退場となる
ケンスキー佐々木 & マイケル岩佐 & ダニエル三島 vs 菊タロー & ローンウルフ & マスクド・ボルケーノ
※レフェリーはベーカリー八木
【参加費1万円総取りバトルロイヤル(13人参加)】
出場選手:渕正信、嵐、カズ・ハヤシ、荒谷望誉、本間朋晃、平井伸和、土方隆司、雷陣明、諏訪間幸平、AKIRA、TAKAみちのく、鈴木みのる、北斗晶



株式会社・健介オフィス設立会見で、代表取締役・佐々木久子、選手アドバイザー・マサ斎藤、統括本部長・多田有利子(元全女)、プランナー・松永夢暁(故国松氏の息子)、アシスタントマネージャー・中村理恵が発表された

★リング上から健介&北斗のミニフィギア付き携帯ストラップ1000個&子どもたちへのお菓子1000個がプレゼントとして投げられる予定

★問 全日本プロレス 03-3288-0610 ★HP http://oudou.b2p.jp/

DDT次期社長争奪ロイヤルランブル開催!!

DDT『初夢2006』

★日時 1月29日(日) 試合開始12:00 ★会場 東京・後楽園ホール

★主要対戦カード
日高郁人(ZERO1・MAX)& 藤田ミノル(ZERO1・MAX)&MIKAMI vs 柿本大地 & 飯伏幸太 & 諸橋晴也
【DDT次期社長争奪ロイヤルランブル】
一宮章一が引退とともにDDT社長も退任。後任人事について、「すべてはお客様が見守る中、リング上で語る」というDDTの社風に基づき、次期社長をレスラー・マスコミ・ファン・起業家などから一般公募し、ロイヤルランブル形式で決定することに! 高木三四郎やゴージャス松野、大鷲透がすでにエントリー! いったいどんな展開になるというのか? ドラマチックな新社長就任の瞬間を見逃すな!!
※一宮の引退・社長退任に伴い、1月4日付けで現場監督を解任された泉州力もエントリーだタココラッ!!

★問 DDT 03-5360-6653 ★HP http://www.ddtpro.com/

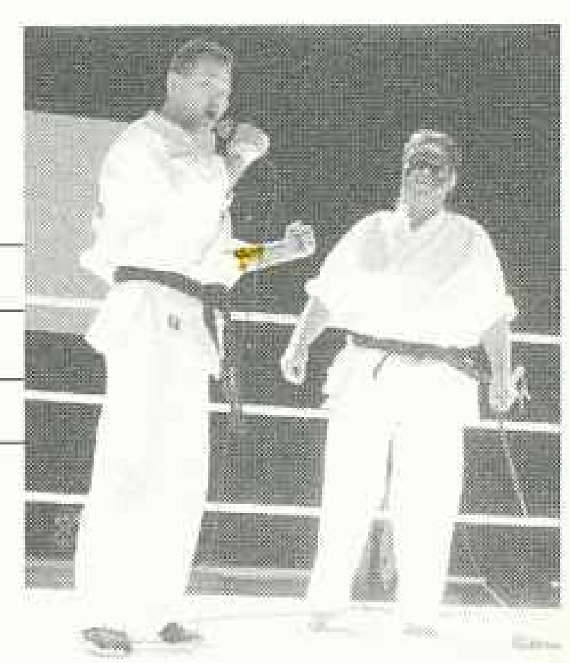
空手軍にポーゴが電撃加入! ポイズンと棺桶爆破デスマッチ!!

ユニオンプロレス『猛毒ダイナマイトシリーズ』!!

★日時 2月10日(金) 試合開始19:30

★会場 東京・新木場1st RING

★主要対戦カード
【激突! ユニオンプロレス vs 空手軍頂上タッグ棺桶爆破デスマッチ】
ポイズン澤田&石川修司 vs 小笠原和彦&ミスター・ポーゴ(空手軍)
【ブログプロレス vs 空手新世代時代闘争】
726 vs 板倉孝(空手軍)
【勃発! 異次元メカ戦争】
メカマミー vs メカスタンリー
出場予定選手:チェリー、isami、松崎和彦 ほか



1・4新木場大会で小笠原が空手軍団の新弟子として呼び込んだのがミスター・ポーゴ。空手衣姿で鎖ガマを持ったポーゴはポイズンに棺桶爆破マッチを要求! 非常に危険な試合ですよ

★問 ユニオンプロレス 042-724-9242 ★HP http://blog.livedoor.jp/unionpro/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5385-8285
〒164-0001 東京都中野区中野3-17-1 コーポフロンティア301
http://www.cbox100.com/

■猪木事務所
03-5789-5656
〒108-0071 東京都港区白銀台5-18-9ビサイド白金5F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘 03-3524-1071
〒104-0061
東京都中央区銀座4-14-17 渡辺ビル4F JNT事務局内
http://www.gtkn.com/

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区東六本木7-5-11-605

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■掣圏会館 075-352-3109
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町600-38-101
http://www.seiken-do.com/

■仙台ガールズ・プロレスリング
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F http://oudou.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場 03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■ドリームステージエンターテインメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthishikawa.com/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.net

■DDT 03-5360-6653
〒106-0022 東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■dragondoor
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GIRLS DOOR
03 - 5338 - 4044
東京都新宿区西新宿7-2-6 西新宿K－1ビル6F
株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP 03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW 03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号

■NEO 044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com/

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com/

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO 0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193ー11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン 03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS 0270-24-8991
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

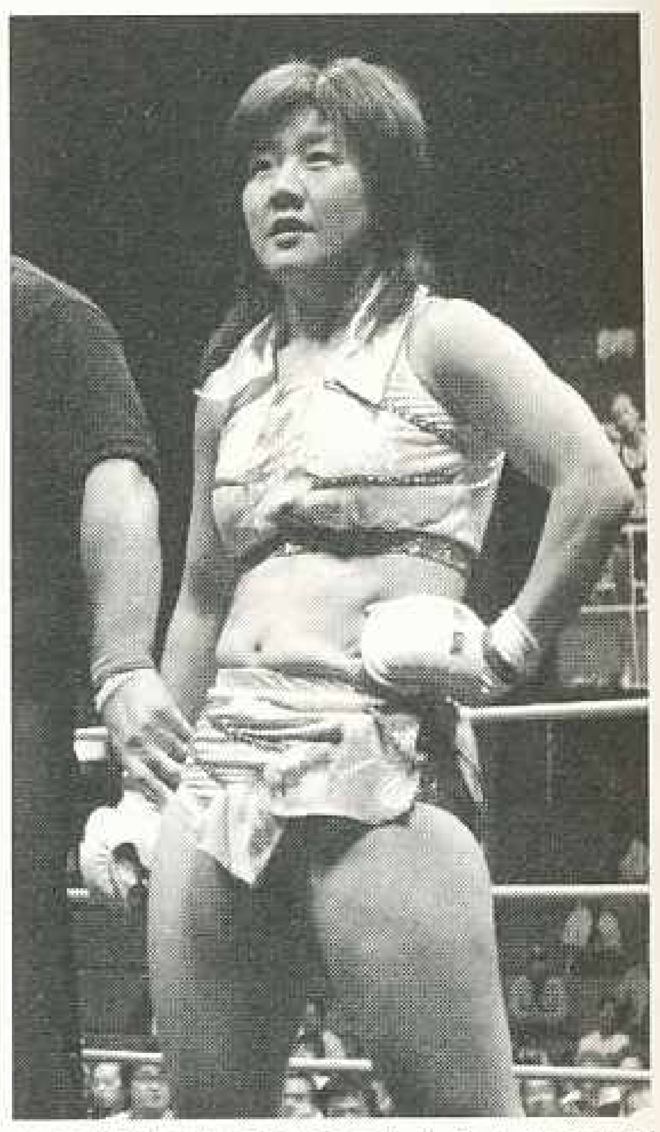
■ZST 03-5388-0707
〒106-0023 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp/

藪下がメインで連続参戦！スマック新作DVDも発売!!

『FF2 Gi-Feminino2006 X SMACKGIRL-2006』
★日時 2月3日（金） 試合開始18:30 ★会場 東京・北沢タウンホール
★主要対戦カード
【Gi-Feminino vs SMACKGIRL対抗戦・柔術ルール】
服部恵子（ALIVE）vs 藪下めぐみ（SOD女子格闘技道場）、
関口菜緒子（トライフォース）vs 高橋洋子（SOD女子格闘技道場）
★問 IF-PROJEGT 実行委員会 03-5945-7166／スマックガール実行委員会 03-3331-7426

『SMACKGIRL2006～女神降臨～』
★日時 2月15日（水） 試合開始18:30 ★会場 東京・後楽園ホール
★主要対戦カード
【スマックガール無差別級女王タイトルマッチ】藪下めぐみ（SOD女子格闘技道場）vs
アマンダ・ブキャナー（Academy of MMA／BJJ Boulder）
★問 スマックガール実行委員会 03-3331-7426 ★HP http://www.smackgirl.com/

※7枚目となるオフィシャルDVD、「SMACK SEVEN」が1月20日発売！
真夏のオールスター戦「Dynamic!!」から冬の大一番「最軽量記念日」まで全37試合3時間44分とてんこ盛り！さらに映像特典として2005ネクストシンデレラトーナメントまで収録したお得な逸品です!!
★価格5,880円（税込み） ★問 （株）クエスト 03-3360-3810


約２週間の試合間隔で２大会のメインに登場する藪下。３日は初の柔術ルール、15日はタイトルマッチ。どちらも見逃せませんよ！

長州小力vs柴田勝頼決定!? 下北にビッグネームが大集結ダーッ!!

特別ゲストの柴田勝頼は小力の前で得意の長州モノマネを披露するのか？ それとも春一番、アントニオ小猪木、アントキの猪木のアントントリオと３人掛け？ 注目だコラコラコラッ!!

コロッセオプレゼンツお笑いライブ『私が司会のユンボ安藤です。』
★日時 2月5日（日）開演17:00 ★会場 東京・北沢タウンホール
★出演 三又忠久（ジョーダンズ）、ケンドーコバヤシ、ユリオカ超特Q ★ゲスト 長州小力、春一番、アントニオ小猪木、アントキの猪木
★特別ゲスト 柴田勝頼（ビッグマウスラウド） ★問 アッシュ・アンド・ディ・コーポーレーション 03-5456-8130

本誌スモーノブ銀幕デビュー！杉作J太郎監督作品、1/21より公開!!

"杉Ｊ"こと杉作Ｊ太郎監督率いる男の墓場プロダクション作品『任侠秘録人間狩り』『怪奇!! 幽霊スナック殴り込み！』の２作品が1月21日より都内・シネマアートン下北沢にて公開される。この２作品には『kamipro』読者にもお馴染みの吉田豪や掟ポルシェをはじめ、怒髪天の増子直純、リリー・フランキー、みうらじゅん、大槻ケンヂ、蛭子能収、根本敬、岡本あつこらビッグネームが大挙出演。そんな中に、なんと本誌スモーノブまで登場するというから『kamipro』読者も要チェックだ。連日豪華ステージショー付きです!!



『任侠秘録人間狩り』はライムスター。『怪奇!!幽霊スナック殴り込み!』はクレイジーケンバンドと主題歌も聞き逃せませんよ！

★2006年1月21日（土）～2月3日（金）連日20:00より
★特別鑑賞券1.300円（当日一般1.500円 学生1400円）
★シネマアートン下北沢 03-5452-1400
★HP http://www.cinekita.co.jp

"伝説の雀鬼"桜井章一の豪華ムック本発売！

ヒクソン、ヒョードル、シウバから船木、上井さんまで登場!! "伝説の雀鬼"こと桜井章一の豪華ムック本が出た!! 「ジャンルを越え、心の音を味わう」というサブタイトルどおり、あらゆる分野の著名人がジャンルを超えて集った。雀鬼の強さは麻雀だけではなく、弟子である本誌ジャン斉藤いわく「60歳を超える高齢ながら現役格闘家のタックルをがぶってひっくり返すヤバイ親父」らしい格闘色が強い誌面構成で、ヒクソン、ヒョードル、シウバ、船木誠勝たちとの豪華対談企画や、中邑真輔、松井大二郎、小路晃、岡本徹、玉袋筋太郎、上井文彦、さらにはケイ・ササハラのインタビューまで掲載。麻雀を知らなくても読み込める一冊なんだ!!



ド迫力の雀鬼のアップが目印のこのムック本。衝撃＆秘蔵写真も満載です！★発行 竹書房 ★定価1.800円＋税で絶賛発売中だ!!

Hand

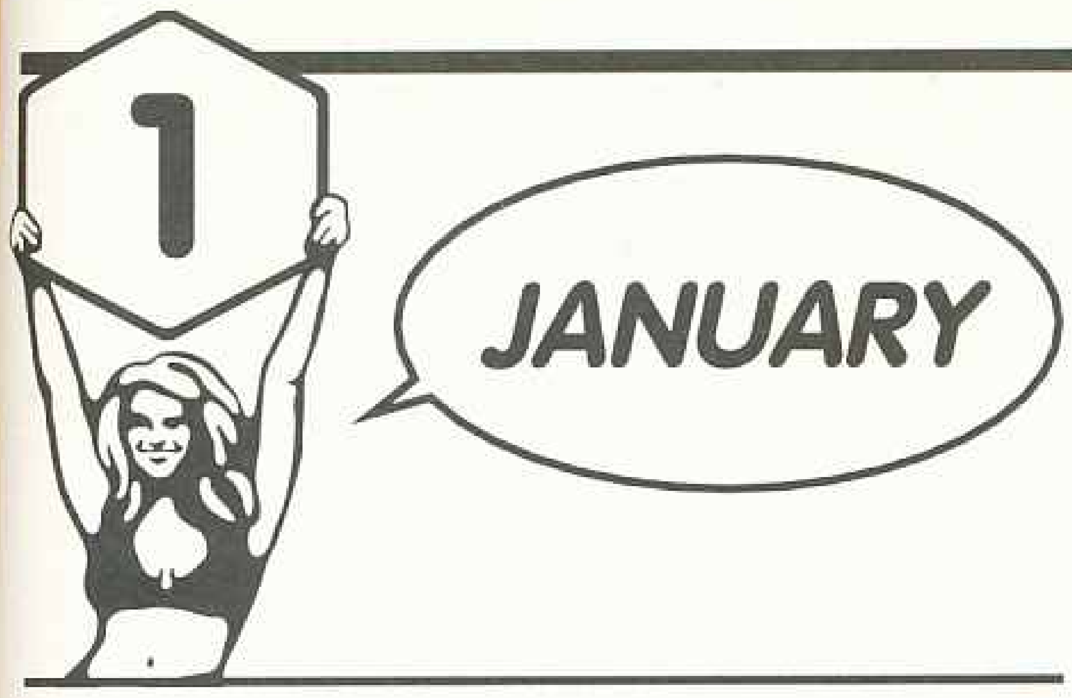
雑誌『kamipro』のリニューアルにともない、携帯サイト『紙プロHand』も12月１日より『kamipro Hand』としてリニューアル！ 携帯サイトNo,1の情報量はそのままに、内容はさらに見やすくパワーアップ！ コラムコーナーには、先月に続いて誌面登場を果たしている元ＧＫが毎週金曜コラムを連載中！ 水曜コラム「PRIDEマニア」にはダンヘン、土曜コラム「VIVAハッスル！」にはHGの相方・ＲＧが登場し、「HGと自分の違い」を語ってます！ リニューアルキャンペーン第２弾、新春スペシャルは江頭２：50の動画＆着ボイス。いますぐ会員登録＆ダウンロード!!



Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

紙プロHand

kamipro calendar



21 SAT.

DRAGON GATE■愛知・津島市文化会館大ホール(18:00)
K-DOJO■愛知・名古屋市西区ワンダーシティ(18:30)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

22 SUN.

NOAH■東京・日本武道館(17:00)
ZERO1・MAX■東京・後楽園ホール(12:00)
DRAGON GATE■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館(17:30)
K-DOJO■大阪・デルフィンアリーナ(17:00)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
SGP■愛知・名古屋スポーツセンター(14:30)
NEO■東京・キネマ倶楽部(13:00)
JWP■東京・キネマ倶楽部(17:00)
Ozアカデミー■東京・新宿FACE(18:30)
MAキック■東京・後楽園ホール(18:30)

24 TUE.

ZERO1・MAX■埼玉・熊谷市民体育館(18:30)
リングソウル主催興行■東京・新宿FACE(18:30)

25 WED.

ZERO1・MAX■茨城・牛久運動公園体育館(18:30)

26 THU.

ZERO1・MAX■東京・新木場1stRING(19:30)
パンクラス■東京・後楽園ホール(18:30)

27 FRI.

DRAGON GATE■東京・後楽園ホール(18:30)
大日本■神奈川・川崎市体育館(19:00)

28 SAT.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
JD■東京・新木場1stRING(18:30)
オヤジバトル■東京・新宿FACE(12:30)
Wカプセル■東京・新宿FACE(17:30)

29 SUN.

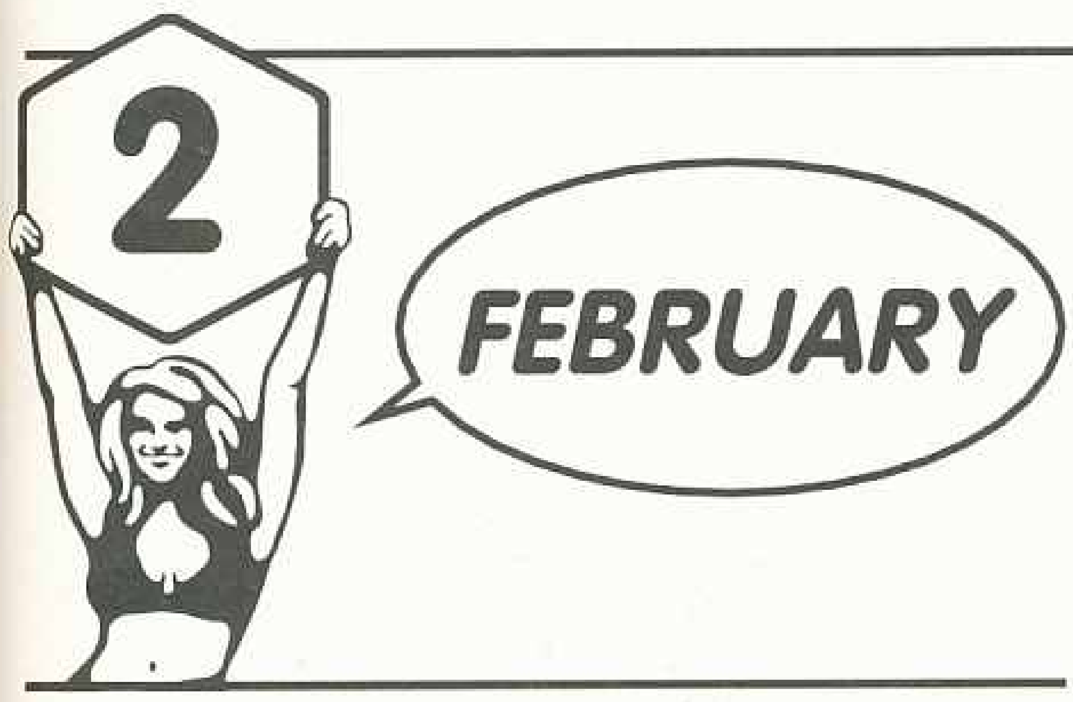
新日本■宮城・栗原市築館運動公園(16:00)
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)
DRAGON GATE■静岡・清水マリンビル(17:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
大日本■愛知・JR稲沢駅前広場特設リング(13:00)
求道軍■熊本・熊本市流通情報会館(15:00)
ガロガ■埼玉・バトルスフィア(14:00)
息吹■東京・新木場1stRING(12:30)
新日本キック■東京・後楽園ホール(17:00)

30 MON.

新日本■岩手・大船渡市体育館(18:30)

31 TUE.

ZERO1・MAX■神奈川・横浜市金沢産業振興会館(18:30)



1 WED.

新日本■青森・八戸市体育館(18:30)
DDT■東京・新木場1stRING(19:30)
JWP■東京・板橋グリーンホール(19:00)

2 THU.

新日本■青森・青森産業会館(18:30)

3 FRI.

全日本■東京・後楽園ホール(18:00)
Gi&スマックガール■東京・北沢タウンホール(18:30)

4 SAT.

K-1MAX■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:30)
WWE■神奈川・横浜アリーナ(18:30)
新日本■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
全日本■埼玉・深谷市民体育館(18:00)
ZERO1・MAX■宮城・石巻市総合体育館(18:30)
DRAGON GATE■福岡・うきは市吉井体育館(18:30)
大日本■埼玉・桂スタジオ(18:30)
みちのく■千葉・BlueField(18:30)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(18:30)
エキサイティングボックス■東京・新宿FACE(18:45)
MARS■東京・有明コロシアム(18:00)
UFC.57■米国・ラスベガス

5 SUN.

WWE■神奈川・横浜アリーナ(17:00)
新日本■北海道・月寒グリーンドーム(15:00)
全日本■静岡・焼津市民体育館(16:00)
DRAGON GATE■福岡・博多スターレン(16:00)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
みちのく■埼玉・桂スタジオ(14:00)
WMF■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
北都プロレス■宮城・仙台市勤労者体育館(16:00)
JD■東京・新木場1stRING(13:00)
DEEP■東京・後楽園ホール(18:30)

6 MON.

全日本■愛知・岡崎市体育館(18:00)
DRAGON GATE■大分・大分イベントホール(16:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
北都プロレス■岩手・なはんプラザ(18:30)

7 THU.

新日本■北海道・室蘭市体育館(18:30)
全日本■岡山・山陽ハイツ体育館(18:30)
dragon door■東京・後楽園ホール(19:00)
北都プロレス■岩手・大迫町コミュニティセンター(18:30)

8 WED.

新日本■北海道・函館市体育館(18:30)
全日本■兵庫・高砂市総合体育館(18:30)

9 TUE.

全日本■三重・松阪市総合体育館(18:30)
シュートボクシング■東京・後楽園ホール(18:00)

10 FRI.

ハッスル・ハウス■後楽園ホール(19:00)
ユニオン■東京・新木場1stRING(19:30)

11 SAT.

新日本■大阪・臨海スポーツセンター(15:00)
健介オフィス■東京・後楽園ホール(18:00)
DRAGON GATE■大阪・大阪府立第二競技場(18:30)
みちのく■埼玉・川越ペペホール(14:00)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
JD■東京・新木場1stRING(13:00)
TRIBELATE■東京・新宿FACE

12 SUN.

新日本■岐阜・岐阜産業会館(16:00)
全日本■兵庫・SITE KOBE(17:30)
ZERO1・MAX■愛知・名古屋市中スポーツセンター(18:30)
DRAGON GATE■東京・笹岡市民センター(17:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:30)
みちのく■栃木・芳賀町体育館(14:00)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
NEO■東京・板橋グリーンホール(17:00)

14 TUE.

新日本■ 岡山・オレンジホール(18:30)

15 WED.

DDT■東京・新木場1stRING(19:30)
スマックガール■東京・後楽園ホール(18:30)

17 FRI.

NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
新日本■神奈川・平塚総合体育館(18:30)
修斗■東京・代々木第二体育館(16:00)

18 SAT.

新日本■新潟・三条市総合福祉会館(18:00)
ZERO1・MAX■愛知・豊橋市総合体育館(18:30)
DRAGON GATE■千葉・千葉ポートアリーナ(18:00)
大阪プロレス■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(15:00)
ZST■東京・ディファ有明(17:30)
全日本キック■東京・新宿FACE(18:30)

19 SUN.

NOAH■京都・KBSホール(17:00)
新日本■東京・両国国技館(17:00)
DRAGON GATE■埼玉・桂スタジオ(17:00)
みちのく■東京・後楽園ホール(18:30)
東海プロレス■レインボーホール第3競技場(13:00)
NWD■愛知・名古屋市総合体育館(17:30)
JWP■東京・キネマ倶楽部(13:00)
NEO■東京・キネマ倶楽部(17:00)
GIRLS DOOR■東京・新宿FACE
パンクラス■東京・ゴールドジム大森(15:00)

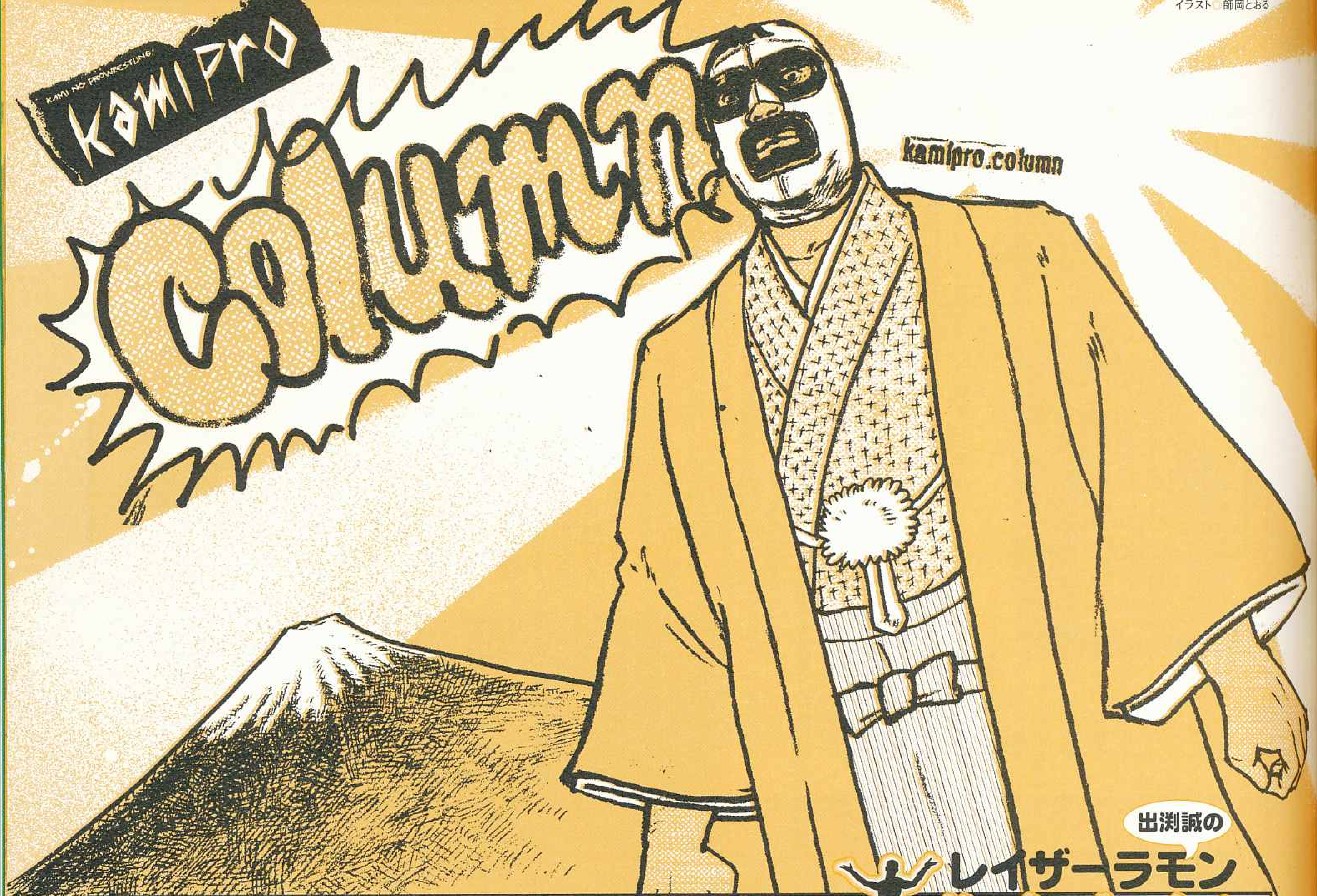
20 MON.

NOAH■大阪府立体育会館第2競技場(18:00)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合がございます。あらかじめご了承下さい。

新年第一弾!! kamiproコラム陣も「パワーアップでオー!」

イラスト◎師岡とおる



出渕誠の
レイザーラモン 英知自慰(えいちじい)

第4回 ついにハッスル初登場! のRGを襲った悲劇とは!?

イラスト◎出渕誠

ヨーヨーヨー！　どうも～レイザーラモンRGでーす。HGに便乗、便乗！と言ってたら、とうとう昨年12月25日の『ハッスル・ハウス～クリスマス・スペシャル～』のオープニングを飾ることになりました～。

聖地・後楽園ホール。学生時代、京都から密航し、カクタス・ジャックや中牧昭二選手目当てにIWA JAPAN観戦したなぁ……。それが当時、テレビ東京の『バトルウィークリー』にチラッと映ってビデオを永久保存版にしたなぁ……。と思い出にひたりつつ、控室でそわそわ待ってると、スタッフに「今日はたのむよ～！」と肩を叩かれる。不安である。HGは究極のベビーフェイス。かたや、まだまだ無名のRG。お客さんがどういう反応を示すか、見当もつかない。

そうこうしてると、続々とレスラーの方々が控室へ。「お前、誰？」的な視線を感じる中、挨拶してまわるが、ここでも「HGの相方」という印籠は強い！　皆さんとてもやさしい。とくに田中将斗選手は「学生時代はデスマッチやってたんですよね？」と声をかけてくれた。「うわ、どこでそんな情報を？　とんでもない、ただのマネごとです！」と恐縮。いやー当時、ECWにハマっていた憧れの選手としゃべったよ～！　自慢しよ！　こ、これではただのプロレスファンだ。健想&浩子さんと写真撮りたいけどガマンしよ。もっとプライドを持て！　僕も出演者なんだ。

やがてリングに誘導されライトがRGを照らす。「ヨーヨーヨー！　どうも～RGでーす！」。だが「………」と静まりかえる場内、そして「ブゥ～～!!」と大ブーイング！　やはりRGはお呼びでなかったか？　しかしハートが折れてはいけない。アウェーでのネタなんて何百回もあった、気持ちを落ち着かせ「次のギャグやらせてくださーい！」と叫ぶ。そのとき、大音量でリッキー・マーティンの曲がかかってHG登場！　観客のボルテージは一気に最高潮！　すげー本当に相方なのか、この人？　でも助かった。つづいて島田二等兵、アン・ジョー司令長官vsHG、RGでマイク合戦。

そのとき、悲劇は起こった。高田モンスター軍にやられたRGをHGが救出！　フラフラのRGが「今日はこのぐらいにしといたらぁ！」と『よしもと新喜劇』チックなムーブをしようとしたら、なんと僕が肝心の場面でマイクのスイッチを入れ忘れた状態のまま、しゃべってしまったのだ！　し、素人か！　しかも、そのハプニングが一番ウケてしまった。そんなんでどーするRG！　一応、プロだろ！　ガックリして控室に戻る。果たして、また使ってくれるだろうか？

一方、ハッスルあちち選手の応援にゲスト出演した江頭2：50さんは登場だけで客席をパニック状態にさせ、「スリー、ツー、ワン！　がっぺ、ムカつく！」という最強の掛け声で最高のハッスルデビューを飾った。この日の江頭さんの名言、「1クールのレギュラーよりひとつの伝説」が心に響く。またひとつ、伝説を残しましたよ、江頭さん……。あ、江頭さんと写真撮ってもらうの忘れてた！　素人か！



Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）

吉本興業のお笑いコンビ、『レイザーラモン』HGの相方。HGのギャグを“アレンジ”した「フォフォフォ、フォー!」「ヨーヨーヨー!」などをキメ言葉として活躍中。

第4回

ゆく年くる年

正月映画『東京ゾンビ』よろちく

花くまゆうさく **リングの汁**



大晦日は、『PRIDE』をPPVで見てから、『Dynamite!!』のテレビコース。

まずは『PRIDE男祭り』。チャレンジマッチで金子さん登場。以前は同じとこで柔術練習していたので心配で客観的に見れない。三角の仕掛けは、よかったけど残念。でもみんな思っただろうけど、やっぱ入場は『キッズリターン』の音楽にしてほしかったなあ。

芸能人のファイトといえば、こないだの『やりすぎコージー』のグラップリング大会は見ごたえあったね。ジャリズム山下の寝技は好感持てます。

中村vs近藤。近藤の追い上げは、あいかわらず凄いと思ってたら、「判定3―0で中村」ってなんじゃそりゃ〜とビックリ。一気に怒りが頂点にきて気分が悪くなる。

クォン・サンウ登場。ブルース・リーを崇拝し、ケンカではヌンチャク振り回すボンクラ高校生を演じた『マルチュク青春通り』の映像を使うべきだったんじゃないかな。

ヒョードルvsズール見て、まだサップが価値落ちる前のときにヒョードルとやってたら、こんな風にメッタ打ちにされて盛り上がってたのかなぁと妄想。ヒョードル、つぎはvsハントが見たい。

五味vsマッハ。マッハに勝ってもらいたいと祈りつつも、入場時から戦闘顔の五味見て、やっぱ今の五味は止められないかなと、ちょっぴりあきらめモードな私。結果的には、首投げいったのがミスだったかな。んー残念惜しい。それにしても五味強いなぁ。こうなったらvsKID見たいが、階級違うから微妙。

吉田が道衣着たら小川勝つかもと思ってたけど、さすがに今回は脱いだね。でもあんなに差があるのかとショック。僕ん中では、小川のスポセン伝説は大きかったんだけどなぁ。最後は足でタップしてたと思う。

『Dynamite!!』は、須藤の負けがショック。マッハの負けは悲しいけど多少覚悟してたからアレだけど、元気の負けは大ショックだなぁ。やっぱ、あのストップ早くない？と言いたくなるけど、しょうがないのかな。

永田弟には次は修斗の青木（真也）みたいな同体重でバリバリ極め系の選手とやってほしい。総合で最もつまらないスタイルvs極め系でスッキリ気持ちよくさせてほしいな。

中村vs近藤の判定、マッハの悲しい負け、そして元気の負けと、しょんぼりした年越しとなってしまいましたが、年明けてから中尾（芳広）のオモシロ映像見て、明るい新年になりました。



Hanakuma Yusaku
◎本の付録で「青春の蹉跌」のテーマCDが入っていた。いい時代だー。

イナズマKの ハードコアドージョー

第4回

大日本のピープルズチャンピオン！アブドーラ小林!!

Inazuma K
◎新年頭からバタバタ仕事してました。今年こそ飛躍の年にしたいもんです。何の計画も無いけど。

太めの体にスキンヘッド、日本で唯一の凶器シューズの履き手として、蛍光灯まみれのリングで戦いまくる〝信州信濃の流血マシーン〟アブドーラ小林。

その彼が、昨年の12月21日に難攻不落のデスマッチチャンピオン伊東竜二を、建築現場デスマッチ（リング上に巨大な足場を組んで試合を展開。もちろんロープには無数の蛍光灯が設置）で劇的な勝利を収め、見事に初のシングル王座を奪取した。関本大介とのチーム〝マッスル&ファット〟で、タッグチャンピオンに君臨しているだけに、これで2冠王。名実ともに大日本の頂点に立ったのだ。

キャリア11年のアブドーラ小林は、大日本プロレスの生え抜き第1号選手。本名での若手時代から、土方キャラの小林源之助、ポーゴ軍団のMr.歩誤助（ぽごのすけ）、アブドーラ・ザ・ブッチャーの弟子としてアブドーラJr.小林を名乗った。そしてブッチャーとの仲間割れでJr.が取れ、現在のアブドーラ小林へとたどり着いたのだ。

これまで選手の離脱もあったり、自分より後輩が上に格付けされてゆく中でも地道に戦いを続けてきた。ある意味、今の大日本を身をもって支えてきた立役者である。

試合では、人一倍全身を真っ赤な血に染めて戦う小林。その反面、普段の温厚そうな人柄がにじみ出てしまうためか、凄惨な試合でも、どこか笑えてしまうなんとも憎めないキャラである。

小林は、ことあるごとに試合前のデモンストレーションを行ってきた。『プロレススーパースター列伝』（原作：梶原一騎 画：原田久仁信）の「ブッチャー編」よろしく、火で熱した砂利への手刀の突きを見せたり、河原でふんどしに火を付けダッシュ（その後、川に転落）などの特訓は、どれも小林らしさ全開のものばかり。ファイヤーデスマッチ前の会見では、火のついた角材を葛西が振り回したところ、巻き付けていた炎上中の布がすっぽ抜けて顔面にヒットしてしまったこともある。普通なら「大丈夫か？」と心配されそうなものだが、彼の場合は、周りが笑ってすましてしまう。これも彼が無敵なキャラの持ち主である証明だ。

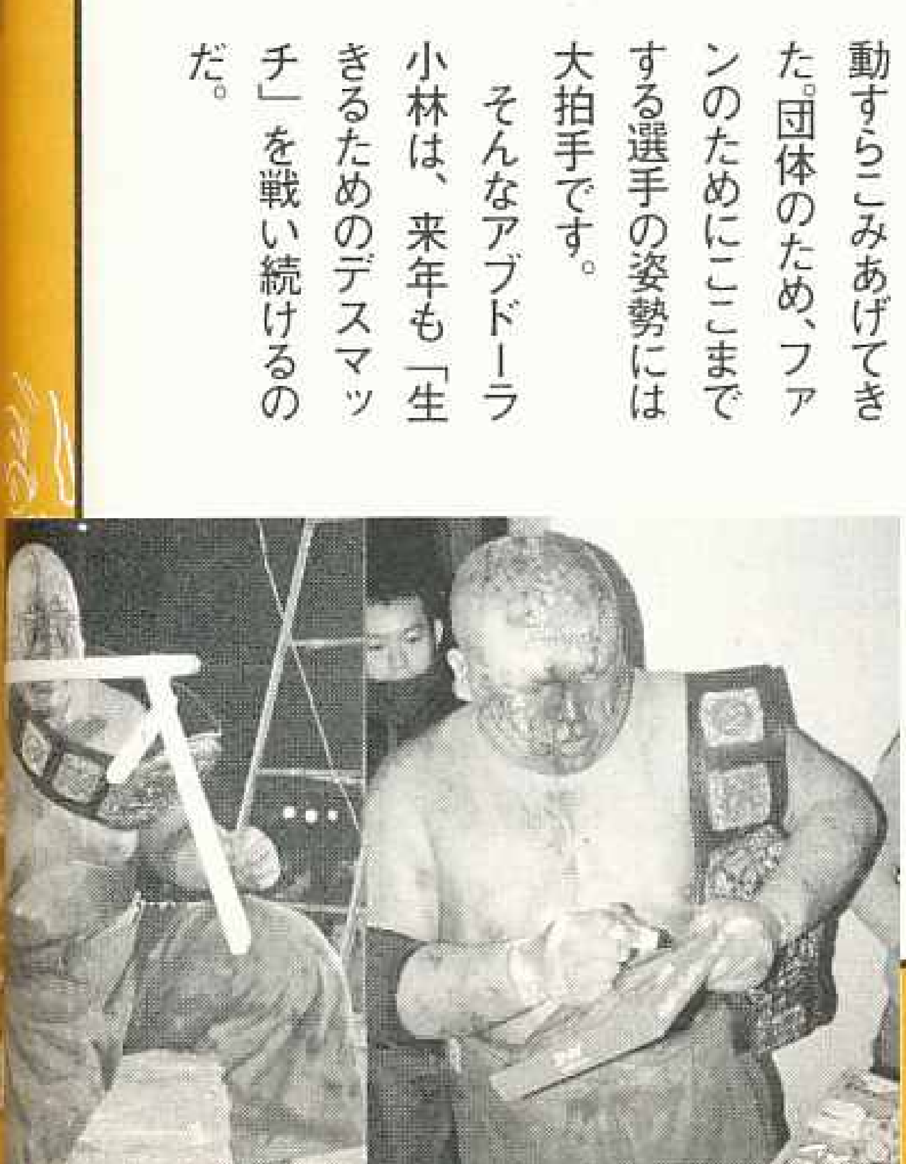
デスマッチファイターとして数々の試合をこなしてきた小林だが、伊東や葛西といった後塵を拝する形が多かった。そんな小林が昨年後半に勢いを加速したのだ。

大日本が引っ越し業をスタート、その社長となった彼が逆にレスラーとしての自意識を開花させたのだろうか。タッグのベルトも巻き、葛西の欠場で、急遽組まれた関本大介とのデスマッチチャンピオン挑戦者決定戦では、ふんどし一丁でハードな試合を制するなどファンのハートもわしづかみ。その結果が、今回のチャンピオン奪取である。

建築現場マッチでは、蛍光灯の束を乗せられての伊東のドラゴンスプラッシュを跳ね返し、高い足場からのバカチンガー・エルボー（金八っあんのごとく「このバカチンがー！」と叫びながら、コーナー最上段からエルボーを落としていく必殺技）でフィニッシュ。その姿が、やけに神々しく見えたのはオレだけじゃないでしょう。

さらに彼が凄いのは壮絶な試合後。血だらけのまんまで売店に直行し、自身がプロデュースした「デスマッチラーメン」を売り、笑顔でサインに応じている様子を見た時には、笑いとともに感動すらこみあげてきた。団体のため、ファンのためにここまでする選手の姿勢には大拍手です。

そんなアブドーラ小林は、来年も「生きるためのデスマッチ」を戦い続けるのだ。



サムライ三昧

シロー

第2回

2006年マット界大予想!!

康二郎の「いつまで3Bやってるんだよ!」という衝撃的な台詞。その興奮も冷めやらぬまま迎えた大晦日。

毎年恒例になりつつある大晦日の格闘技戦争。大阪では『K−1 Dynamite!!』、さいたまスーパーアリーナでは『PRIDE男祭り2005』が行われる。2005年の年末を飾るのにふさわしく、どちらも強力なカードを揃え、紅白という共通の敵を持ちながらもライバル心をむき出しにしていた。

地上波では時間的に『男祭り』のほうが早く放映された。よってライバルがいないと思われたが、菊田vs瀧本戦に意外な敵が現れた。テレ朝がドラえもんの『どくさいスイッチ』再放送をぶつけてきたのだ。

『どくさいスイッチ』とは未来の独裁者が作らせた道具である。このスイッチを使って、独裁者は自分に反対する者や邪魔になる者を次々と消していったという。

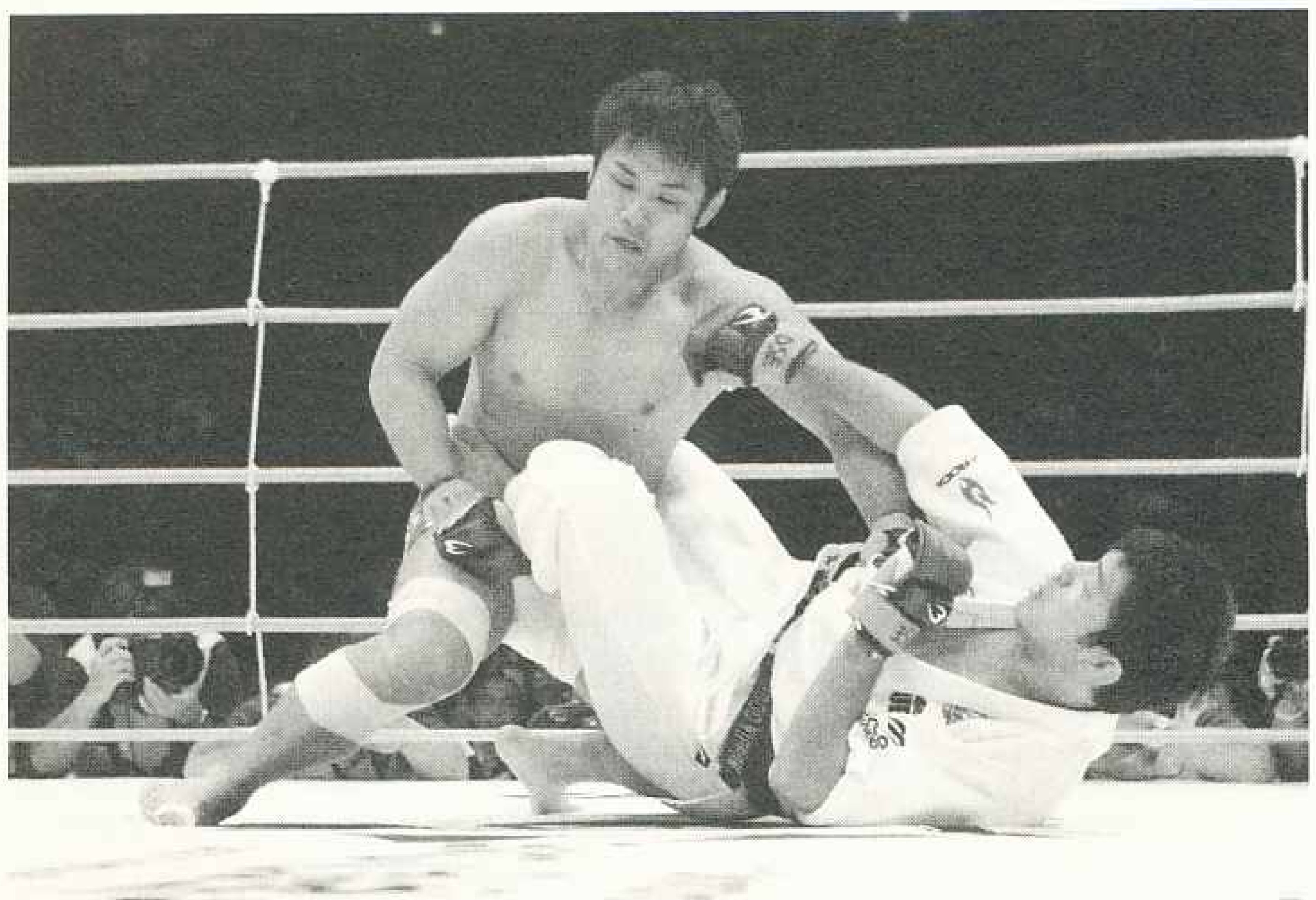
大きさといい形といい、これを押したらファミレスの店員が注文を取りに来そうなスイッチであるのだが、実際にはそんな生易しいものではない。消したい人の名前を口にしながらスイッチを押すだけで、その人間は消えてしまうのだ。ファミレスの店員だって消えてしまう。いつまでたっても注文できなくなってしまう。まったく恐ろしい道具だ。

私は菊田vs瀧本戦を観るか、『どくさいスイッチ』を観るか、それともこの合間を利用して煙草を買いに行くか迷った。

まず、以前マルボロメンソールのライトと間違って買ったマルボロライトがテーブルの上にあったので買い物に行くという選択肢は消えた。とりあえずはこれを吸えば良い。前の持ち主が誰なのか、その人は本当にこれが欲しくて買ったのか、そしてそれがなぜ家にあるのか、疑問だらけの海物語ライターで私は煙草に火をつける。残る選択肢は二つ。

だがあっけなく解決する。テレビのチャンネルをガチャガチャとかえれば同時に見れば済むからだ。テレビのリモコンかと思ったらエアコンのリモコンだったり、コンポのリモコンだったり、かまぼこの板だったりと少々遠回りはしたが、なんとかテレビのリモコンを手にし、私は寝ながらチャンネルをかえまくる。8、10、8、10、たまに間違って11を押したりもしながら、二つの番組をせわしなく見始めた。

菊田はすぐに瀧本をテイクダウン。勝負は菊田有利と思われるグラウンドへと移った。こうなると後は瀧本が何か見せてくれるのではないかという期待感だけしかなくなる。だが、菊田は瀧本を自由にさせない。完全にコントロールしていた。


“表の柔道世界一”vs“裏の寝技世界一”としてマニアの注目度が高かった瀧本vs菊田。試合は菊田が瀧本の道衣を利用し終始ペースを握っての判定勝利。しかし、大会後の榊原代表からは両者に辛らつな意見も。

その頃、ドラえもんではのび太がスイッチを押しジャイアンを消した。

なんとか打開策を見つけ出そうとする瀧本だが、菊田相手にどうすることもできない。ディフェンスで精一杯となる。

その頃、ドラえもんではのび太がスイッチを押しスネ夫を消した。

菊田が瀧本をコントロールし、足関節、腕、スリーパーと極めに行こうとするたびに、ドラえもんではスイッチが押され、誰かが消えていく。それはまるで菊田の寝技がどくさいスイッチであるかのような錯覚を私にさせる。確かに菊田のスイッチが押されるたびに何かが消えていった。それは瀧本の闘志、反撃の糸口、そして時間であった。

二つの異なる番組が完全にシンクロしていく。

「惨敗だ!」瀧本が怒る。野球で負けたのは菊田のせいであると言う。菊田のために20点損した、だから20発殴らせろと瀧本は言った。

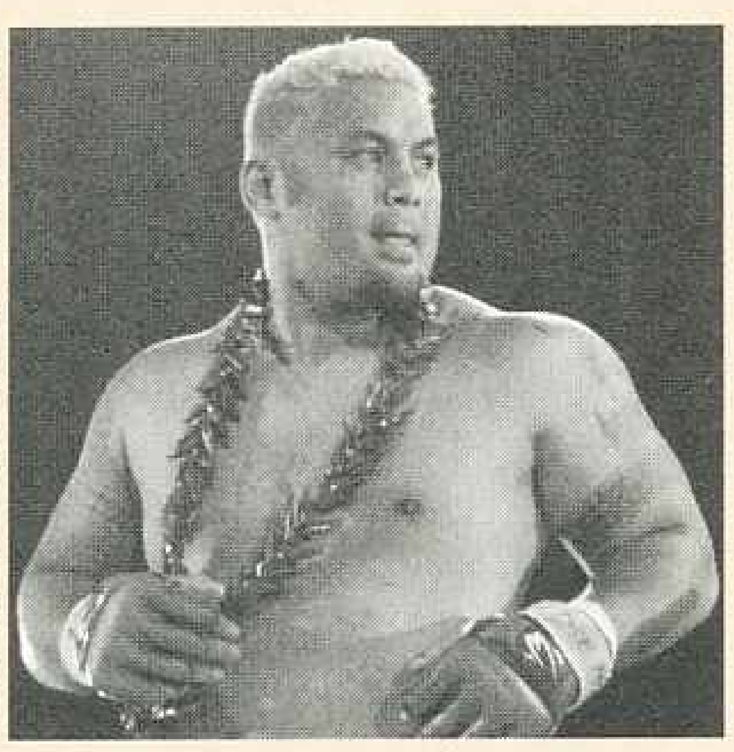
これにはさすがの菊田もたまらない。思わずスイッチを押して瀧本を消してしまう。やがて菊田が寝技の練習中に誤ってスイッチを押してしまい……!?

「野球で負けたのは菊田のせい」と格闘技とはかけ離れたことを考えている自分に気づいた頃、テレビでは菊田が判定勝ちをおさめていた。何も良いところを見せることができなかった瀧本は『PRIDE』のリングからその存在が消えていくようだった。

しかしながら『どくさいスイッチ』というものは本当に消してしまうものではなかった。気に入らないからといって次々に消していけば、いつか後悔することになる。そう独裁者に悟らせるための道具だったのだ。

菊田vs瀧本戦。寝技世界一の名は伊達ではないことを再認識させてくれた菊田。その強さは我々の脳に刻み込まれ、消えることはない。そして瀧本も消えることはないだろう。彼がこのまま消えるわけがない。ジャイアンやスネ夫が戻ってきたように、彼もまた再び我々の前に戻ってくるはずだ。

などと無理矢理まとめたところで、本題に移ろう。毎年恒例のマット界大予想だ。昨年の予想が当たったのかハズレたのか、大掃除でその時の『紙プロ』がなくなってしまったので確認できないが、今年はどうなることか。早速10個ほど予想してみたい。


『男祭り』ではミルコに判定勝ちを収めたハントさん。せき詩郎さんの大予想によるとリング外でも大暴れが期待できそうですね。大沢親分の動向も非常に気になるところです。

2006年マット界大予想

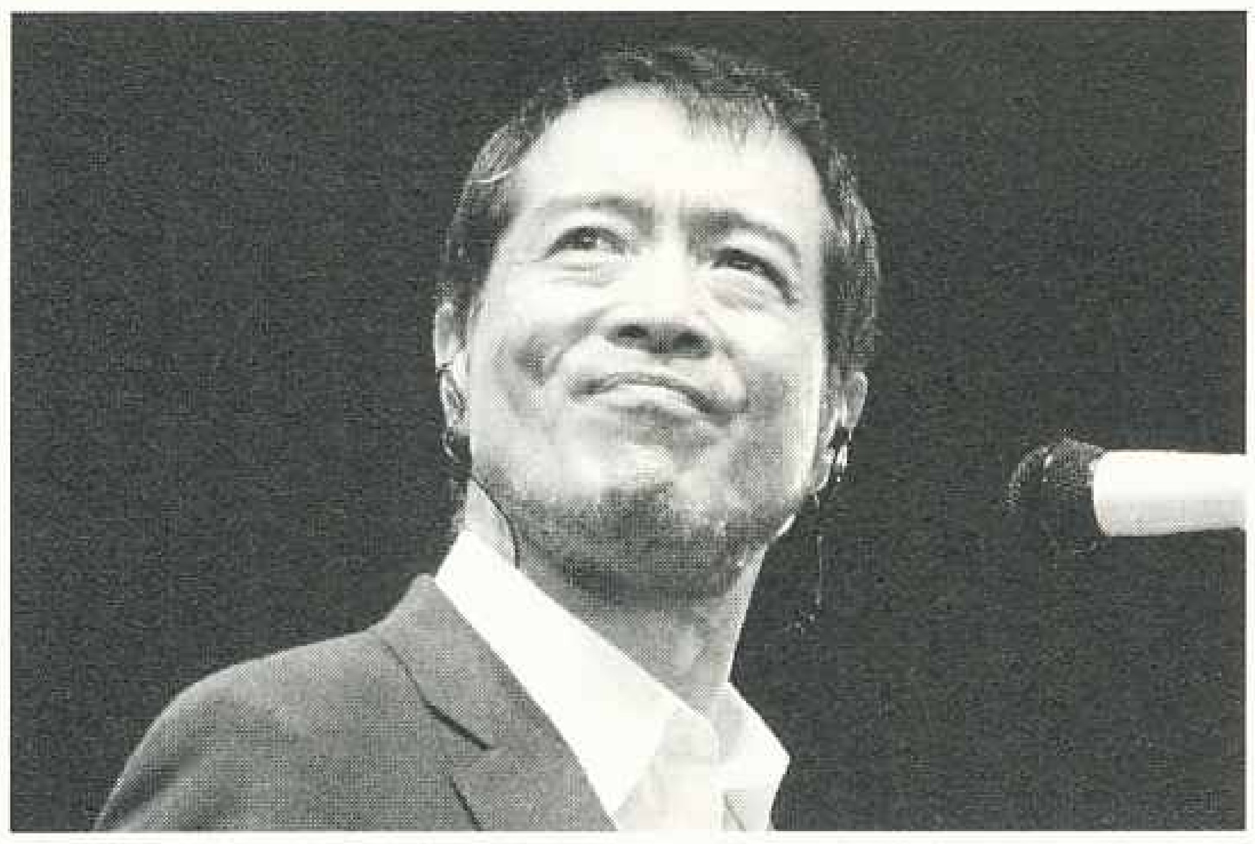
★ヒョードルがまさかの……!?
★アローナが予定よりも若干早く……!?
★シウバが予想以上に興味を示して……!?
★セーム・シュルトがらしくない柄のジャケットを着て……!?
★レミー・ボンヤスキーが戌年だけに……!?
★マーク・ハントが仲間のジョークで……!?
★マーク・ハントだってゲレンデが溶けるほどの……!?
★マーク・ハントが『ブックオフ』ヘビーユーザーに……!?
★マーク・ハントに大沢親分がまさかの「喝」を……!?
★サイモン猪木社長が先に好きな子の名前を言うって言ってたのに……!?

Seki Shiro
◎今年は戌年です。もうすぐ単行本が出るはずです。詳細は決まり次第報告しようと思ってますので、その際はよろしくお願いします。

金ちゃんのどこまでやるの？

第3回 永ちゃんにはズッコケたよ！

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/



みなさん、あけましておめでとうございます。今年こそいい年にしたいと思っているので、応援よろしくお願いします！

まずは大晦日のことでも書こうと思うけど、まぁ、俺は例によって今年も家にいましたよ。やることないからさ（苦笑）。

今回も『PRIDE男祭り』と『Dynamite!!』が同日でやったわけだけど、俺の注目は『Dynamite!!』だったな。いや、べつに試合云々じゃなしに、永ちゃん（矢沢永吉）が出るっていうからさ（笑）。俺は永ちゃんの大ファンだから、いったい何を歌うんだろう？　って、それが一番の興味だったよ。やっぱりああいう大会場だからさ、ノリがいい『止まらないHa～Ha』か、最近CDが出たばっかりの『オンリーワン』あたりを2～3曲歌うと思ってたのよ。そしたらバラード一曲でしょ？　もうテレビの前でズッコケたよ（笑）。俺は永ちゃんがいつ出るかわからないから『PRIDE』をビデオに録って『Dynamite!!』を生で見てたのに、やっと矢沢が出てきたと思ったらバラード一曲だもんな～。

まぁ、俺はそもそも永ちゃんがこういう所に出てくること自体、けっこうショックだったんだけどね。それでも「出る」となったらやっぱり見ちゃうんだけどさ（笑）。それとじつは前田（日明）さんのマネージャーさんに「永ちゃんにサインもらっといて」って頼んでおいたんだよ。でも永ちゃんは歌う直前に会場入りして、歌ったらすぐ帰っちゃったらしくて、もらえなかったみたいなんだよね。永ちゃんのサインほしかったな～。これで和田さん（和田良覚レフェリー）あたりが永ちゃんと記念撮影なんかしてたら悔しくてたまらなかったんだけど、和田さんも一緒に写真撮れなかったらしいから、そこはちょっと安心したよ（笑）。

でも、和田さんはレフェリーの仕事がたくさんあるからいいよな～。俺なんか試合がしたいのに、なかなか次の試合が決まらないからね。ま、今年はパンクラスで実績作ってチャンピオンベルトを巻きたいね。去年は運がなかったから、正月にちゃんとお参りしてきたしね。でも、こうやって昔のことを引きずってるのがいけないんだろうな。その点、須藤元気君は凄いよね。俺は山本KIDとの試合、止めるの早いなと思ったけど。須藤君はちゃんとその裁定受け入れて「物事に偶然はないので、これも必然なんです」って言ってるんでしょ？　偉いよな～。彼はもう〝格闘解脱者〟の域に達してるよね。俺なんかUインター時代のチャンプア・ゲッソンリット戦の判定とかでも、いまだに文句言ってるのにさ（笑）。だから先月も書いたけど、今年は少しでも須藤元気君の境地に近づけるよう、精神的にも成長できるようにがんばるよ。では、みなさん今年もよろしくおねがいします！


イラスト◎中川画伯

第4回 私だけが知っている小川×ゲーリーの裏側

ブッカーKのぶっかけ！格闘裏情報

大晦日『PRIDE男祭り』は吉田秀彦選手と小川直也選手の世紀の一戦で幕を閉じましたが、小川選手の『PRIDE』参戦は個人的に感慨深いものがあります。じつは小川選手が初めて『PRIDE』のリングに踏み入れることになったゲーリー・グッドリッジ戦には、私も少なからず関係していたからです。今回はあの一戦の裏側にあったエピソードをちょっとだけご紹介しましょう。

ゲーリー戦は99年7月6日『PRIDE・6』に行なわれましたが、そのほぼ一週間前の6月29日大阪府立体育館で、小川選手も出場したUFO自主興行が開催されました。当時DSEフリーブッカーだった私がブッキングをしたゲーリーはすでに来日。UFOの中心人物だったS氏と話をして、きたる試合の盛り上げ、対戦アピールも兼ねて、当日になって急遽、大阪入りすることに。覚えている読者の方もいらっしゃるかもしれませんが、ゲーリーがリング上の小川選手に挑発した一幕です。

私は小川選手の試合をリングサイドでゲーリーと観戦しましたが、その試合中、あるシーンを目撃して頭が真っ白になりました。それは対戦相手にブレーンバスターを仕掛けられた小川選手が肩から真っ逆さまに落ちてしまったんです！

私は瞬間的に「絶対に怪我をした！」と確信。試合後、S氏から話を聞くと案の定、肩を痛めたことが判明しました……。

私はDSEの責任者に「どういう状況ですか？」と聞く一方で、S氏に肩の負傷状況を確認する日々。そのたびに返ってくる回答は「『PRIDE』に出場するのは五分五分」。小川選手は治療のために試合直前まで腕が立つ先生を訪ねて熱海まで出向いていたそうです。

結局、当日まで出場の行方はわかりませんでしたが、真の勝負師であれば回避すべき。しかし、いかなる理由があろうと直前の欠場は選手株の暴落、同時に『PRIDE』自体の信頼崩壊につながります。出欠の行方に私は背筋が凍る思いでした。

結局、小川選手は肩の負傷、初のバーリ・トゥード戦、アウェイのリング――あらゆる障害を乗り越えて出場。当時のゲーリーは技術的には荒削りで未熟だったとはいえ、見事な実力で勝利したのです。私がもし肩の負傷のことをゲーリーに伝えていたら……と振り返るときがありますが、あの当時の私はどちらかといえば、中立の立場的でしたし、なによりフェアプレーの精神が……いまでは、選手側と立場が違いますから、アドバイスをすると思いますけどね。

しかし、私が一番、腹が立つのは、この一戦を根拠もないのにワークだと騒ぎ立てている評論家気取りの連中です。ファンならともかく、それが仮にもマスコミを名乗っているから呆れて声も出ない。彼らがこっけいなところは、自分たちが騒ぎ立てたデマがヤマビコになって跳ね返っているだけなのに、「北米でもこう言われている」「ネットでもそうだ」と自分のデマに踊らされていることです。

さらに当時UFOの社員で仕事ができなくてクビになった人間が腹いせで言い触らしていたこともありますね（噂の出許なんてそんなもんです）。当時のUFO内部は外部の私から見ても決して一枚岩とはいえず、小川選手に近いと思われた人間がゲーリーに「絶対に小川を倒してくれ！」というメッセージを伝えにきて大変驚きました。この場で誰かとは明かすことができないのですが……とにかく壮絶な裏側を経て、小川選手が『PRIDE』に初参戦したことを理解していただければと思います。

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。



イラスト◎ゴローちゃん

アイちゃんがすきだぁ～（電車の運転室で絶叫）！ というわけで、今月のゲストは、『Kamipro』のニューフェース〝アイちゃん〟こと松下ミワちゃん！ んっ？全然女子プロレスラーじゃないって？……可愛いけりゃあいーじゃん！ 萌え☆勝ちます！ 自分とこの編集者をインタビューという、『Kamipro』ならではの明らかな禁じ手破り＆気の狂った企画を堪能せよ！ ウィー・アー・ダブルクロス!!

掟 このアイちゃんってホーリーネームなんですけど、どのアイちゃんなんですか？山塚アイ？ アイ高野（カーナビーツ）とか？

アイちゃん（以下・ア） 卓球少女の愛ちゃんからみたいです。似てるってことで。

掟 ところでホーリーネームってなんですか？

ア ちっちゃい『紙プロ』の頃から、見習い編集者は「練習生」って呼ばれてて、それが編集スタッフとしてデビューする時、オウムの高弟みたいに名前がもらえる制度があったの。田中隆雄が国際プロレスでデビューするとき鶴見五郎になったみたいな、なんかそんな話ですよ。

ア ツルミゴロウ？？？

掟 えっ！『kamipro』の編集者なのに鶴見五郎も知らないの!? じゃあ剛竜馬は？

ア ゴウリュウマ？ ち、ちょっと、わかりません。

掟 かの有名な『極太親父』の主演俳優を知らない（※一応、本人は出演を否定）なんて、由緒あるボンクラプロレス誌『kamipro』編集者として失格ですよ！早速来月、鶴見の青果市場で国際プロモーションの取材に行ってプロレスの洗礼を受けてもらいます！ いや、それどころかマミーの中身に入ってもらいます！

ア え～、できるかなぁ。

掟 できるかどうかって問題じゃない気もしますが……まぁいいや。で、なんで鶴見五郎も知らない女の子が『kamipro』の編集部に入ったんですか？ やっぱり総合格闘技好き？

ア はい。『めちゃイケ』かなんかで流れた桜庭のテーマ曲がカッコいいなと思って。それから『PRIDE』を見始めたんです。

掟 エ～～ッ!? 曲から入ったの？ ありえないところに入口が！

ア 「ああ、この人が試合するんだ」って思って見始めたのが『PRIDE・12』。桜庭vsハイアンをテレビで見てからです。

掟 桜庭のグレイシー狩りに日本中が燃えた頃か……もうすでに懐かしいなぁ。

ア その次の『PRIDE・13』で……ダンヘンvsヘンゾがあったんですよ！

掟 なんでそんな地味なカードに「！」つけて話してんの？

ア （本気の顔で）私、ダンヘンが大っ好きなんです!!

掟 ……ダン・ヘンダーソンって、これまた地味な選手が好きなんですねぇ。

ア なんでですか!? ヘンゾに衝撃的な勝ち方したんですよ！

掟 エーッ！ ダンヘンが衝撃的な勝ち方したことなんてあったっけ？

ア ありますよぉ！ ヒザかなんかが入って、ヘンゾが倒れたところにパンチを入れて勝ったんですよ。その試合を見て「この人カッコイイ！ 誰だ!?」って思って。

掟 ダンヘン好きってかなり玄人っていうか……いや、玄人もそこは行かないよなぁ。好きな男のタイプもダン・ヘンダーソン？

ア はい！ いまたぶん、私が世界一のダンヘン好きです！（キッパリ）。

掟 ダンヘンっていうか、アイちゃんがヘンだよ！

ア 『男祭り』でブスタマンチに勝って初代ウェルター級王者になったばっかりだから、ライバル増えたと思いますけど。

掟 エッ、いまダンヘンが王者なの？

ア エ～～、知らないんですか!?（信じられないという口ぶりで）。

掟 おいちゃんが知ってるのはデモニオ・ウノの中身とかそういうのだけですよ。

ア でも、会場ではブスタマンチより声援多かったですよ！

掟 知らないなぁ～。どっちも地味すぎて甲乙つけがたいし……。『kamipro』で働きたいっていうのは、もしかしたら『PRIDE』の選手に近づけるかもしれない、みたいなのもあるんですか？

ア はい！ できることなら仲良くなりたいです。

掟 ダンヘンには会えました？

ア 2回会いました（照）。……（小声で）告白しました。

掟 ダンヘンに告白!? なんじゃそらぁあ!!（笑）。

ア 思い切って、バラの花束と一緒にラブレターを渡しました（照照）。

掟 気持ちいいほどの職権濫用ぶりですね……そこまでアイちゃんをメロメロにさせるダンヘンの魅力ってなんなんですか？

ア カッコイイの一言に尽きます。とくにあの、筋肉がいいんですよ。ムキムキすぎないしなやかな筋肉が。

掟 筋肉フェチですか！ アイちゃんが選手の筋肉を触って毎回ホメるだけの連載とかあってもいいんじゃない？

ア 私だけそんなオイシイ思いしていいんですか？ なんかドキドキしてきました（照）。

掟 ストロング小林と話してるみたいだなぁ……。男性の性格的な好みはとくにないんですか？

ア 性格ですか？ ……難しい質問ですねぇ。

掟 これまで付き合った人の傾向は？

ア え～～、意外と筋肉つながりですね（笑）。

掟 そこしか見てないのかよ！ 金髪で巨乳の外人女じゃなきゃイヤだって言うサスケ議員みたいなもんですかね。潔いです！

ア 私も基本的に外人の方が好きなんですよ。英語はできませんけど（笑）。

掟 外人のような流暢な英語を話し、なおかつしなやかな筋肉を持つ……あっ、アイちゃんの理想通りの男性がいますよ！マサ斉藤！ 硬いだけの筋肉じゃ監獄固めはできません！ どーですか！

ア ……マササイトーって誰ですか？

掟 やっぱり知らないのかよ！ ギャフン！



第4回
kamipro萌え系（?）編集者
“愛ちゃん”こと
松下ミワの巻

【松下ミワ プロフィール】1979年10月9日生、福岡県出身。出生後、25年間を九州で過ごし、05年春『kamipro』入社のため上京。170センチと女子平均身長を13センチも上回る体格ながら（※厚生労働省健康局総務課生活習慣病対策室「国民栄養の現状」平成13年調べ）、170センチをはるかに超える先輩ジャイ子には容赦なく「チビ」と呼ばれている。好きな食べ物はチョコボール（not向井）。



3度のメシよりダンヘン好きなアイちゃん。元旦にはウェルター級新王者のダンヘンを直撃。ちゃっかりベルトまで巻かせてもらってました。

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）男気啓蒙難くせバンド『ロマンポルシェ。』北海道ツアー！ 2／18（土）旭川・カジノドライブ（0166－26－6022・FAX共）、2／19（日）札幌・スピリチュアルラウンジ（011－221－9199）。その他各種イベント情報は掟ポルシェBLOGをご参照ください！ 【http://blog.excite.co.jp/porsche】

世界に羽ばたく夫婦コラム

チーム鈴木の明るい未来



ハッスル・ハウス クリスマススペシャルのリング上で夫婦喧嘩が勃発した鈴木家。連載コラムにも存続の危機が到来か!?　世界を股にかけるスーパースター夫婦は2006年、一体どんなスタートを切るか注目!

健想&浩子　明けましておめでとうございます!

浩子　去年は本当にいろいろあったよね。

健想　いいことも嫌なことも、本当にいろんなことがあって「めくるめく」だった。

浩子　WWEを辞めてまだ半年も経たないんだもんね……。

健想　だって去年の年末なんて、俺、激戦地のイラクだよ! (笑)。しかも一年で唯一の長休みのクリスマス休暇もそれでパー。正月はもうツアーがスタートしてた……。

浩子　アメリカではクリスマス週間がビッグホリデーだからね。かろうじて元旦は休むけど、25日が過ぎればもう平常日程だもんね。

健想　30日くらいでもう新年の雰囲気なのは、ちょっとへんな気持ちだったよな。「えぇっ!　もう年越しちゃった!?」って感じで。俺の場合、イラクから戻ったらもうクリスマス休暇も終わってて、まだ年を越してないのに2、3日したらあっさり「新年です!」って感じの挨拶されて……。

浩子　「いやいや年越しこれからでしょ!」ってね (笑)。確かにあれは調子が狂うわ。

健想　って言っても、大学のときはちょうどラグビーのシーズン中で正月はなかったし、ゆっくりできない正月は俺には普通っちゃ普通だけど。

Q そのラグビーですが、最近の母校・明治大学については?

浩子　そういえば母校の活躍、最近ではTVでも放送されなくなりましたね……。

健想　そこには正直、触れたくもない……。速攻で敗退するからTVでの放送すらない。それはマジでショック。笑えない。俺たちの頃は大学選手権の決勝戦までは当たり前だったんだから。冗談抜きで準決勝くらいでやっとレギュラーの"一本目"を出すってくらい強かったんだよ。だから"一本目"を大切な後半戦に温存できる。ところがどうよ?　考えられねえ!　じつはこの前、日本テレビのスポーツニュースでNFLの試合についてコメントをしたの。タンパの自宅の近所にはNFLの選手も大勢住んでて、ジムも一緒だしね。アメリカの自宅ではNFLと野球の中継は欠かさないから。で、試合のVTRを見たら、スゲー良いタックルは入ってるし、バンバン走るし、まさに"前へ"の世界。本気でそのVTRを明治の合宿所に送ってやろうかと思った。

浩子　(笑)。

健想　だって明治大学の重戦車フォワードはいったいどこへ?　そりゃ全然関係ないNFLを見て母校思い出せばこみますよ。

浩子　じゃあ母校のため、健想さんが一肌脱いでみたら?　(笑)。

健想　いまの俺に何が出来る?　自分のことでいっぱいいっぱいだよ!

Q タジリさんの退団について

健想　それは俺がいろいろ言うことじゃない。

浩子　そうだね。とにかくWWEの中が大変なのは確かなことね。WWEのタンパ軍団にしても、友人の誰もが言うことだから。内情がよかったら自分から辞める選手がこんなに続出はしない。だけど、やっぱりタジリさんは凄いと思うよ。国境問わず、レスラーが皆、自分の居場所を探してるこのご時世で、自信と実力がなければこういう選択はできないよ。自分の価値観を持ってるって言うかさ。

健想　俺はまだまだこれからだから、タジリさんの選択についていろいろは言えるような立場じゃない。それにいまは自分自身がチャレンジしてる途中だし、まだ結果も出してないから。大切なのは最終的に自分がどうしたいのかってことで、結果は後からついてくる。周りがどうこう言う話じゃない。

浩子　私も健ちゃんには自分を大切にしてほしいと思うな。レスラーだし、男だし、うちの家長だし、人様から視線をいただく職業だし……って"役柄"は沢山あるんだけど、それを演じる前に"人間"であってほしいなぁって思う。わがままだけど、まずはひとりの人間として、自分の人生の目的を考えてほしい。レスラーであることや、人様に見られる仕事だってことに操られすぎてほしくない。

健想　今年はそういうことを考える機会も多かったね。

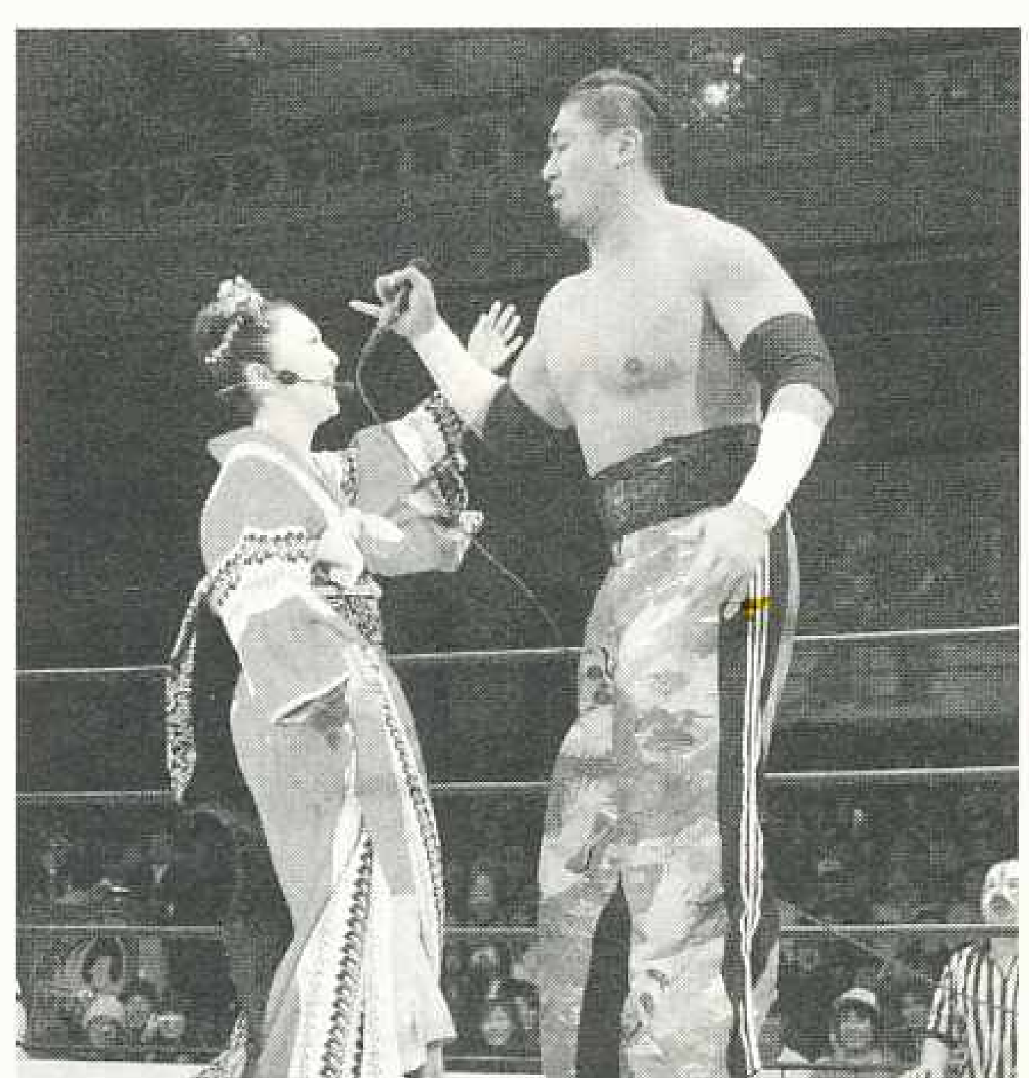
浩子　後悔したって時間だけは戻らないから。だからほしいものと必要なものをちゃんと区別して……。いらんものに目がくらんで見えなくなると大切なものまでどっかにいっちゃって、自分も見えなくなる。

健想　そういうことをこうして夫婦で一緒に感じられたってことは、俺たちもこの荒波の一年から少しは学んだってことかな。

浩子　だね (笑)。と、考えたら自分達を考えるいい機会、いい一年だったんだね。

Q 夫婦喧嘩について

健想　喧嘩はしょっちゅう、ある意味ライフワーク (笑)。



ハッスルのリングでは草間政一氏を追い出して2006年からGMの座に就いた浩子が、連敗続きの健想をスターに押し上げる!?

浩子　だって、とにかく常に一緒だもん。WWEでも他にもレスラー夫婦はいたけど、試合中まで一緒なのはうちくらいよ (笑)。うるさい小言を言う人間が四六時中一緒だから、健ちゃんもきついよね (笑)。

健想　僕はそんなことはないですよ (笑)。だけど、一度喧嘩が始まると、ヒロはとことんだから……うざい。

浩子　「うざい」じゃないよ。ああやってとことん話すのが大事!　お互い生まれも育ちも違うんだから、ほうっておいたら、お互いのズレがドンドン大きくなる。とことん話をつければ傷も大きくならずに済むってもんよ。ムカつくなら「それムカつきます!」、悪いと反省してるなら「ごめんね、間違ってた」、お互いのことを考えてるなら「君のことを想ってこうしたよ」とはっきり伝えなきゃ。お互いにお互いのことを考えてるのにそれを取り違えるのは一番バカバカしい。そういう小さなズレが大きなストレスになる……。

健想　だけど今年の鈴木家の目標は「穏やか」だから (笑)。去年は「荒波」過ぎたし (笑)。なので今年は少々のことでは腹は立てない!

浩子　立てた腹は"横"にして……だね (笑)。

日本在住のメキシコ人3人組がアメリカンプロレスのウワサを追いかける

アメプロ☆ウワサル〜ン

vol.4

SMACKDOWNジャパンツアー直前、なんと目玉のひとりであるバティスタが負傷欠場！ これに伴いRAWから、あの大物がやってきた！ 『ロイヤルランブル』『レッスルマニア』を見据えて両ブランドの動きが活性化してきたWWEのいまを鋭く切ります！



ホセ 口は悪いがプロレス魂を持つ熱い男。広い情報網を持ち、行動力もある。

ミゲル プロレス業界内部と太いパイプがあるクールな男。最新情報をいちはやく握る。

パンチョ 他の二人の情報に「へぇ〜」とか「はぁ〜」とか言ってることが多い。

イラスト◎エロコエロオ

パンチョ いよいよSMACKDOWNジャパンツアーのカード（下の囲み記事参照）が発表になったんですが、メインに出場するバティスタが負傷欠場で長期離脱するみたいですね。

ホセ チャンピオンベルトも返上だぜ！ どうなってんだって話だよ。

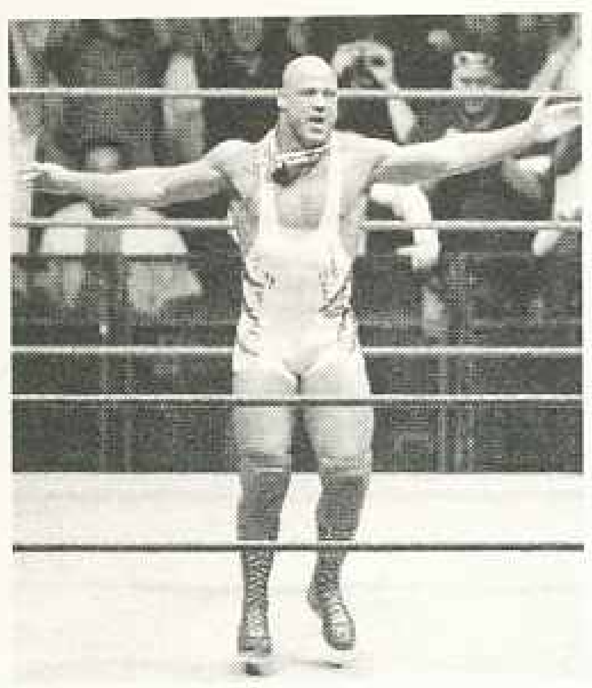
ミゲル まあ、その返上したベルトをめぐって20人参加のバトルロイヤルをやったんだけど、なんと優勝してベルトを巻いたのがRAWからいきなり参戦してきたカート・アングルだったんだ。

パンチョ じゃあ、バティスタの代わりに日本に来るのはカートってことでいいんですか？

ミゲル 1月12日現在、まだカード変更は発表されてないから未確定だけど、まあ、カートになる可能性が高いんじゃないかな。

パンチョ でも初日のカードは絶対的ベビーフェイスのアンダーテイカーと組むんですよね？ カートっていまヒールじゃないんですか。

ホセ おもしろいことにSMACKDOWNではベビーフェイス的な存在になってるんだよな。カードはこのままでもいいと思うぞ。エディ・ゲレロが亡くなって試合で魅せられる選手がSMACKDOWNにいなくなってしまったところだったからな。カードに厚みも出たし。



カート・アングルは長らくSMACKDOWNの顔として活躍してきただけに違和感なくSMACKに溶け込みそうだ。

ミゲル カートはいまディバリと組んでるんだけど、それでもベビーだから（笑）。

ホセ ディバリはボーイズ（レスラー）からも評判いいらしいぜ。

パンチョ ディバリとアラブ系タッグを組んでたモハメド・ハッサンは辞めちゃいましたけど、じつはイタリア系だったというのは昨年最大のサプライズでしたね（笑）。

ミゲル いちばん最初に発表されたカードには毎年恒例で日本に入国できないブッカーTも入ってたんだけど、いつの間にか削除されてるな。ギリギリまで名前を入れておいて、いざふたを開けたら全然違う選手だったということはよくあったけど今回はちょっと良心的だ（笑）。

パンチョ またサイモン・ディーンが来るんですね。去年、勃発した曙との因縁がまた再燃したりしないですかね。

ホセ サイモン・ディーンにまた客いじりをやってほしいなぁ。あと、残念なのはブギーマンの名前がないことだな。

ミゲル こないだジリアンの顔面にあるグロい出来物を食いちぎってたよ。

パンチョ ブギーマンはちょっと楽しみだったんですけどね。サプライズでもいいから出てきてほしいなぁ。日本でも生きたまま虫を食ってほしいです！（笑）。あれ、何なんですか？

ホセ 食用ミミズじゃないの？ いくら食用でも生きたまま食うなって話なんだけど（笑）。まあ、でも、正直なところSMACKDOWNは戦力的に厳しいよ。ケン・ケネディはバックステージで「RAWがメジャーでSMACKがマイナーだ」って言っちゃって、かなりヒートを買ったみたいだけど、RAWの連中は口に出さないまでもそう思ってるみたいだからね。SMACKはニューカマーとかクルーザー級が多くいるから、下に見られるのは仕方ないけど。

ミゲル 実際、今回はチケットの前売りが過去最低ペースだって噂だよ。

パンチョ 本当ですか？ ただ、アメリカでは視聴率は上向きなんでしょ？

ホセ RAWがエッジとリタのSEXを放送するってブチあげて久々に視聴率5％超えを達成したんだけど、最近はSMACKも好調みたいだな。もうすぐ『ロイヤルランブル』だし、『レッスルマニア』も近づいてきてるから、これからもテコ入れが増えてくるぞ。このツアーにもテコ入れしてもらって土壇場でRAWと共催のスーパーショーになったらいいんだけどな！

パンチョ この対戦カードを見てると、たぶん5日のメインにはボブ・オートンJr.が乱入して、それをリッキー・スティムボートが逆水平で蹴散らして、その隙にオートンが負けるっていう流れだと思うんですけど。

ミゲル WWEファンが10人がいたら、9人はそう考えてると思うよ（笑）。おそらく、そうなるだろうし（笑）。

ホセ 今年の『レッスルマニア』ではカート・アングルとHBKの再戦が組まれるという噂もあったんだけど、カートがベルトを取ったことで白紙に戻されるんだろうな。ビンスとHBKのシングル戦をブレット・ハートが裁くっていうカード案もあったらしいけど、ブレットが了承しなかったから実現しなかったらしいという噂だし。

ミゲル それは見たい！（笑）。

ホセ 今度はビンスがツバを吐き返す番だからおもしろそうなんだけどなぁ。

パンチョ まあ、去年の曙のようにジャパンツアーから『レッスルマニア』につながっていくドラマもあるので、ジャパンツアーは見逃すな、ということですね。

【06年1月某日、都内某所にて収録】

WWE『SMACKDOWN LIVE TOUR』

※会場＝神奈川・横浜アリーナ
（対戦カードは1月12日の時点で決定のもの）

2/4 SAT

【タッグチームスペシャル】
バティスタ&ジ・アンダーテイカーvsランディ・オートン&マーク・ヘンリー
クリス・ベノワvsJBLwithジリアン

【タッグタイトルマッチ】
シコシス&スペル・クレイジーvsMNM、
レイ・ミステリオvsオーランド・ジョーダン、ラシュリーvsサイモン・ディーン

【クルーザー級タイトルマッチ】
フナキvsキッド・キャッシュ
マット・ハーディーvsシルヴァン、
ポール・ロンドンvsジェイミー・ノーブル

2/5 SUN

【世界ヘビー級タイトルマッチ】
バティスタvsランディ・オートン
（スペシャルレフェリー：リッキー・"ザ・ドラゴン"・スティムボート）

【スペシャル・アトラクション】
レイ・ミステリオvs JBLwithジリアン

【デッドマンvsワールドストロンゲストマン】
ジ・アンダーテイカーvsマーク・ヘンリー、
クリス・ベノワvsオーランド・ジョーダン

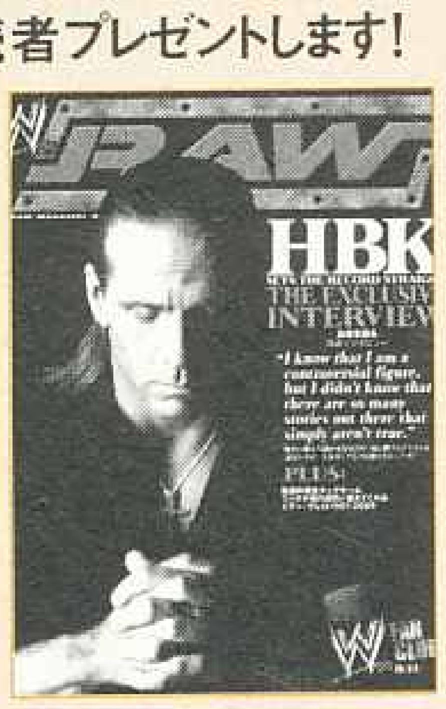
【タッグタイトルマッチ】
シコシス&スペル・クレイジーvsMNM

【スペシャルクルーザー級タッグマッチ】
フナキ&ポール・ロンドンvsジェイミー・ノーブル&キッド・キャッシュ
ラシュリーvsシルヴァン、マット・ハーディーvsサイモン・ディーン

【ディーバ・スマックダウン・ビキニ・コンテスト】
クリスタルvsメリーナvsジリアン

【チケットのお問い合わせ】
キョードー東京　TEL.03-3498-9999

非売品『RAW MAGAZINE』を5名様に読者プレゼントします！

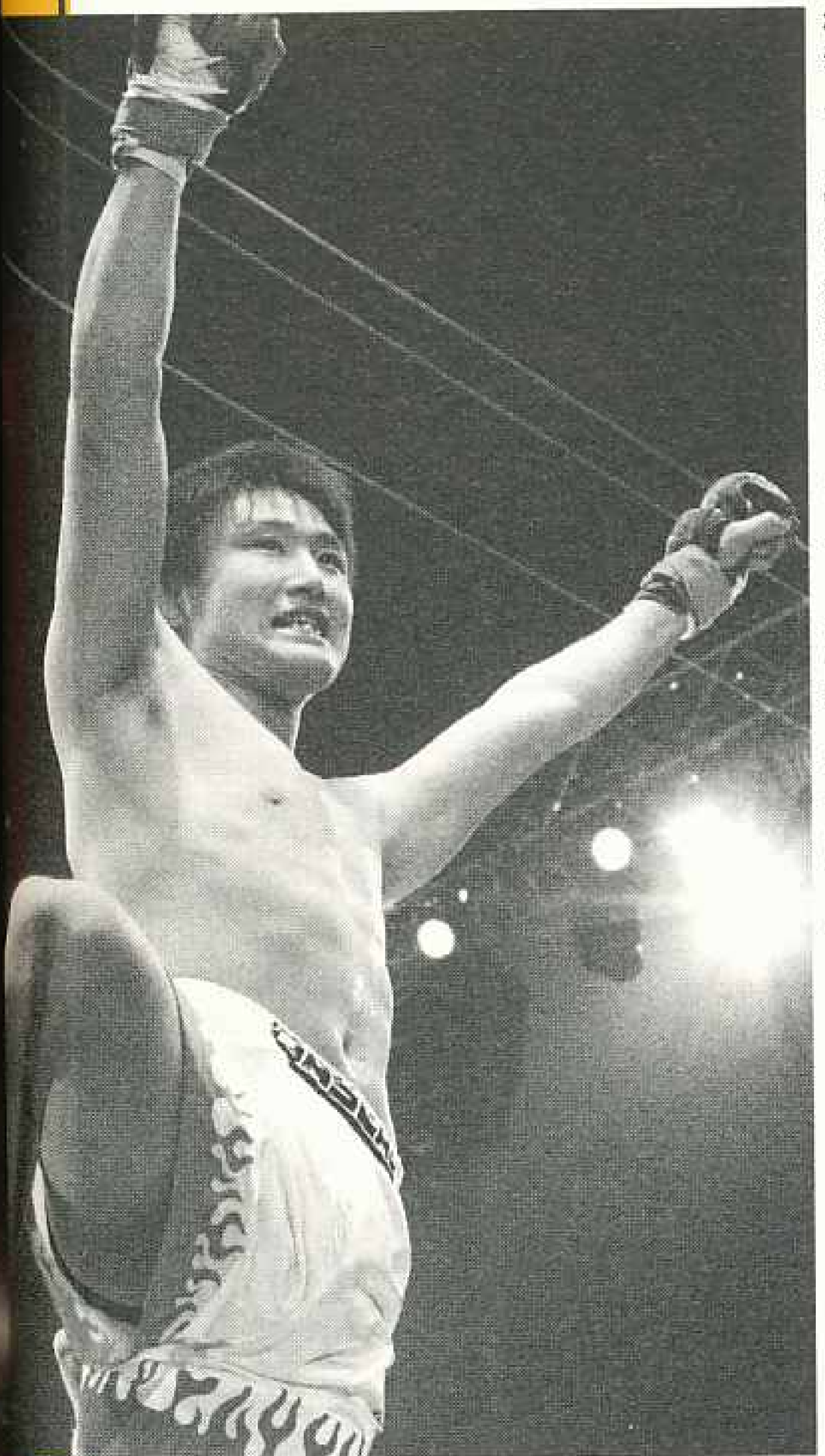


WWEオフィシャルファンクラブの会報誌（非売品）の『RAW MAGAZINE』を5名様に読者プレゼント！ WWEオフィシャルファンクラブの詳細はhttp://www.wwefanclub.ne.jp/

※応募方法はP156参照

"チャンピオン"五味隆典が誕生！ 『ディメンション・ゼロ五味隆典応援団』も会場で大興奮！ 特製の大横断幕で五味を激励

ついに五味隆典がライト級チャンピオンに登りつめた！ この世紀の一戦にそなえて、五味隆典がイメージキャラをつとめるカードゲーム『ディメンション・ゼロ』の発売元、株式会社ブロッコリーは40人からなる『ディメンション・ゼロ五味隆典応援団』を結成、会場で大声援を送った。



桜井"マッハ"速人選手を下し、コーナー上で勝利を喜ぶ五味隆典！

05年の暮れも押し迫った大晦日の『PRIDE男祭り』で、五味隆典が桜井"マッハ"速人を相手に1R、3分56秒でKO勝利！ 初代ライト級チャンピオン、そして日本人初のPRIDE王者が劇的に誕生した。

これを会場で熱烈に祝福したのが「頑張れ、五味隆典!! 狙え！ 勝利のスマッシュ!!」と巨大な横断幕で観客席に陣取った「ディメンション・ゼロ五味隆典応援団」だった。

総勢40人のこの集団は、五味がイメージキャラクターをつとめるカードゲーム『ディメンション・ゼロ』の発売元、株式会社ブロッコリーの木谷高明会長を中心に結成された大応援団。同日、『ディメンション・ゼロ』の最初の公式大会として都内で開催された「東スポグランプリ」（詳細は下段参照）の優勝者、宇働慶彦さんらも一緒に観戦。横断幕を握りしめて一体となって応援、五味の勝利の瞬間は立ち上がって喜びを爆発させる人も。

とくに今回、五味をイメージキャラに起用した木谷会長は感極まりつつ「今日の試合で一番良かったし、スカッとしました！ 五味さんは、年末にうちのイベントに出てもらったのが、コンディションに影響しないか心配だったけど本当によかった！ 横断幕を作った甲斐がありました」と祝福。

また「格闘技観戦は初めて」と言う「東スポグランプリ」優勝者、宇働さんも「五味選手は凄かったですね！ しかも宣言どおり、ホントにKOしちゃいましたから。今日は五味選手も優勝、自分もトーナメントで優勝して最高の大晦日です」と笑顔を見せた。

こうして05年を五味隆典とともに駆け抜けた『ディメンション・ゼロ』は最高の有終の美を飾り、同時に飛躍の06年に向け最高のスタートダッシュを切った。



総勢40人の「ディメンション・ゼロ 五味隆典応援団」！ 横断幕はテレビ放送でもピックアップされた。



「ディメンション・ゼロ 東スポグランプリ」で優勝した宇働慶彦さんと木谷会長のツーショット。

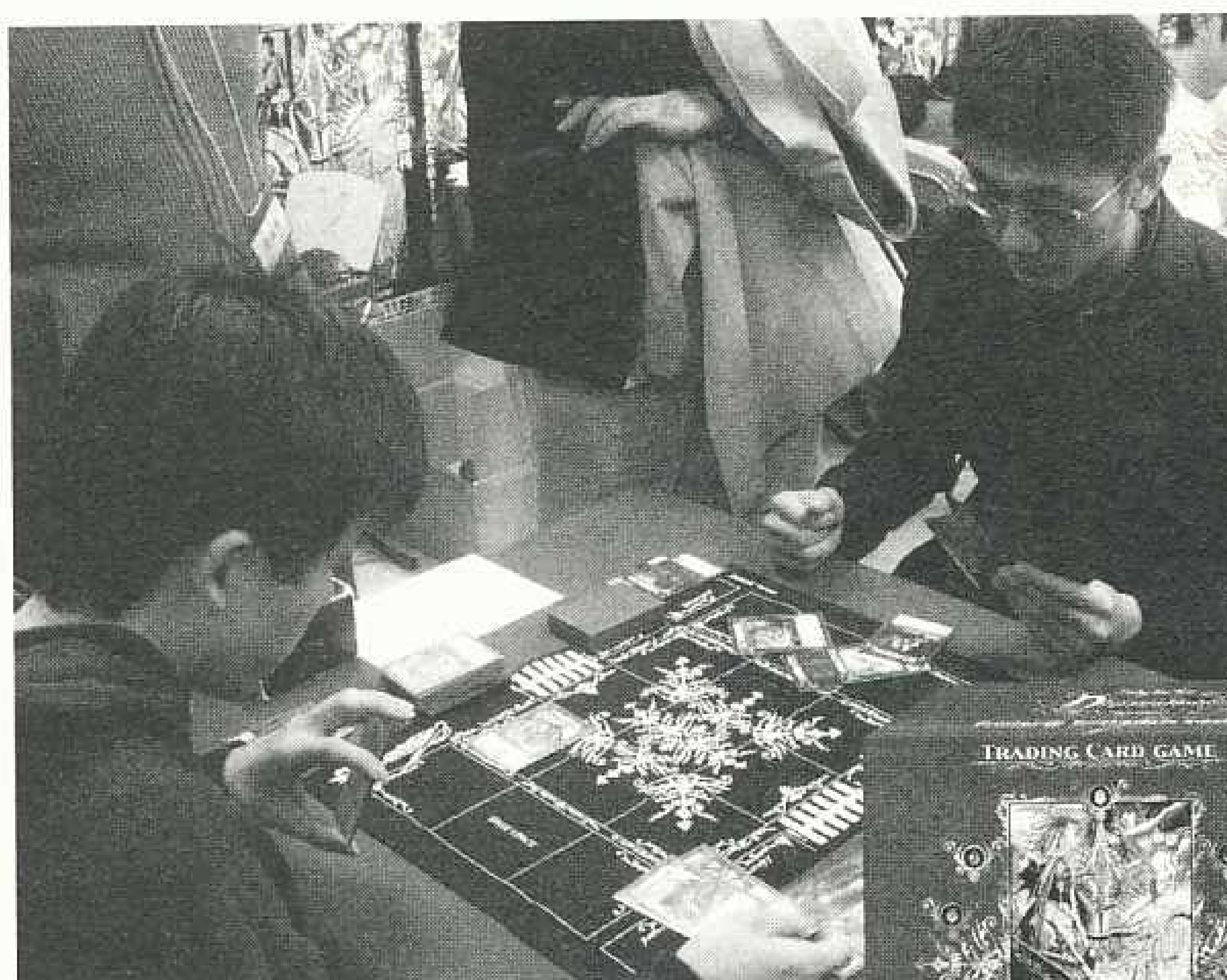
公式イベント「東スポグランプリ」開催！ 第1回「ディメンション・ゼログランプリ1」もスタート！

五味隆典の勝利で爆発した05年の大晦日、「もうひとつの闘い」が秋葉原のゲーマーズ本店で行なわれた。それが『ディメンション・ゼロ』、最初の公式大会となった「東スポグランプリ」。九州、大阪、名古屋、東京地区の代表、4人によるトーナメント形式の準決勝、決勝が開催。

こちらも『男祭り』に負けない、緊張感あふれる攻防が続き、ついに優勝者が決まった瞬間は「オォー！」という歓声も。優勝者の宇働慶彦さん（九州王者）も表彰式では賞状を手に笑顔で写真撮影に応じ、盛況のままその幕を閉じた。

そして今年はプロ賞金制度がいよいよ本格導入される「ディメンション・ゼロ グランプリ1」がスタート！ 北は北海道～南は沖縄まで、地方予選は全国カードゲームショップ等で絶賛開催中！（各店舗の詳細はhttp://dimension-zero.com/でご確認ください）。注目の決勝大会は、1月29日（日）東京・渋谷フォーラム8で開催。この決勝進出をかけた最後の予選大会は前日の1月28日（土）に同所で行なわれる。

注目の優勝賞金は常識破りの100万円！ 賞金総額は400万円以上！ カードゲームを革新する『ディメンション・ゼロ グランプリ1』の行方に注目しよう。



05年12月31日にゲーマーズ本店で行なわれた「東スポグランプリ」決勝戦の模様より。



Dimension0 ファースト・センチュリー ベーシックパック

【税込価格】1パック 330円/カード10枚入り 1BOX/10パック入り 【カード種類】全200種類



2005.12.24&25
『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』

『さよならの向こう側』にあったのは卵!?

後楽園ホールに涙雨が降った！　昨年12月24日、25日に開催された『KYORAKU presents ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』は、ハッスルにとって大きな区切りの大会となった。『ハッスル・マニア2005』で敗れたインリン様がリングを去ってしまうという悲しい出来事は、“涙のラストM字ビターン”というサブタイトルからある程度、予想はできたもののハッスルファンの涙を誘った。ストーリー上での転機となっただけでなく、「お笑い」という側面ばかりでとらえられてきたハッスルが「泣き」に焦点を当てた初めての大会である。2006年から新たなるステージに突入するハッスルの見どころとともに、この大会を多角的に分析してみたい。

試合撮影／平工幸雄　写真／山口比佐夫
写真提供／DSE　構成／真下義之、坂井ノブ
designed by hisa（TwoThree）

2006 ハッスル 新章突入



ラストM字ビターンを終えたインリン様は“ただの女”に戻り、イン卵が残された

「モンスターK、私に代わってモンスター軍をよろしく頼んだわ。島田、アン、いままでいろいろとありがとう」と感謝の言葉を述べると最後の力を振り絞って完璧なM字ビターンを決めたインリン様。





メイン後、リングに登場したインリン様は「この一年、私は全知全能であるあなた様の右腕として精一杯闘いました。でも、どうやら限界が来たようです。私がこの世界で使えるM字パワーは底をついてしまいました。そうなった以上、私はただの女。総統のおそばにはいられません。ですから、今日をもって私はモンスター軍を去ります」と総統に衝撃の告白！　総統は静かにうなずくと「それがお前の選択なら私は引き留めない。インリンよ、これまで本当によくやってくれたな。ありがとう」とねぎらいの言葉をかける。涙のラストM字ビターン後、インリン様はM字台の上のイン卵を総統に手渡す。「まだ温かいじゃないか。インリンよ、お前は我がモンスター軍に祝福をもたらしたぞ。何も案ずることなく旅立ちたまえ」と総統が送り出す。山口百恵の『さよならの向こう側』が流れる中、インリン様はトップロープに“身体の一部”であるムチをかけてリングを降りた。

ファイティング・オペラで初めて「死」と「再生」が表現された日――

文・坂井ノブ

後楽園ホールが泣いていた。

インリン様がラストM字ビターンを決め、ムチをロープにかけてリングを去るとき、インリン様はいままでの挑発的なオーラを脱ぎ捨て、慈愛に満ちた表情で手を振りながら去っていった。去り際には、髙田総統にM字の遺伝子であるイン卵（ラン）を手渡し、ハッスルの世界に自分の思想と哲学を残した。革命的な大活躍でハッスル大ブレイクの起爆剤となったインリン様は、2004年12月の『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル』で初めてリングに登場してからちょうど一年で自らの伝説に区切りをつけた。

イン卵はイエス・キリストの降誕と同じ12月25日に生み落とされた。十字架に磔になって死んだキリストは3日後によみがえったという伝説があり、現在でもキリスト復活を祝って毎年春には盛大な復活祭（イースター）が行なわれている。イースターでは卵からヒナが生まれることをキリストの再生と結びつけて卵をデコレーションする風習があるが、イン卵は産み落とされた瞬間から「M」の文字が刻印されているナチュラル・ボーン・イースターエッグだ。つまり、これは復活への暗示なのか!?

インリン様の二年間の奮闘を振り返ってみると重要な転機が二つある。昨年2月の『ハッスル7』で〝キャプテン・ハッスル〟小川直也からフォール勝ちを奪った瞬間、日本のプロレス界が大事に守ってきた何かが壊れた。11月に『ハッスル・マニア2005』でHGに敗れたことでさらに新しい何かが生まれた。「破壊なくして創造なし」とは故・橋本真也さんの言葉だが、インリン様の活躍は旧来の価値観の破壊と新たなる価値観の創造をやってのけたのだ。

日本におけるプロレスは勝負論に根ざした形で爆発的に広まり、緩やかに衰退してきたが、過去の偉大なプロレスラーたちは誰ひとりとして明確な形で次の世代にバトンタッチをしていない。力道山は暴漢に刺されてこの世を去り、アントニオ猪木は引退試合でドン・フライに〝勝って〟現役を引退し、ジャイアント馬場は生涯現役を貫いたままだった。

インリン様は小川直也からフォール勝ちすることでバトンを受け取り、HGに敗れてバトンを受け渡してリングを去っていった。ファイティング・オペラという空間の中においても勝負論に根ざした潔さを貫いたのだ。あらゆる面で現状のプロレス界にアンチテーゼを投げかけてきたハッスルにおいて、このダイナミックなバトンタッチこそが、他の日本のプロレス団体には絶対に真似できない部分だろう。

インリン様は自分が負けたり傷ついたりすることは厭わず、ファイティング・オペラの世界で最初に「死」を表現した。そして、誰もが予想しなかった方法で奇跡的に「再生」するつもりなのか？ハッスルのリングが「なんでもアリ」であることを真っ先に体現して、道なき道を突っ走っていくインリン様こそ、日本のプロレス界の〝救世主〟である。

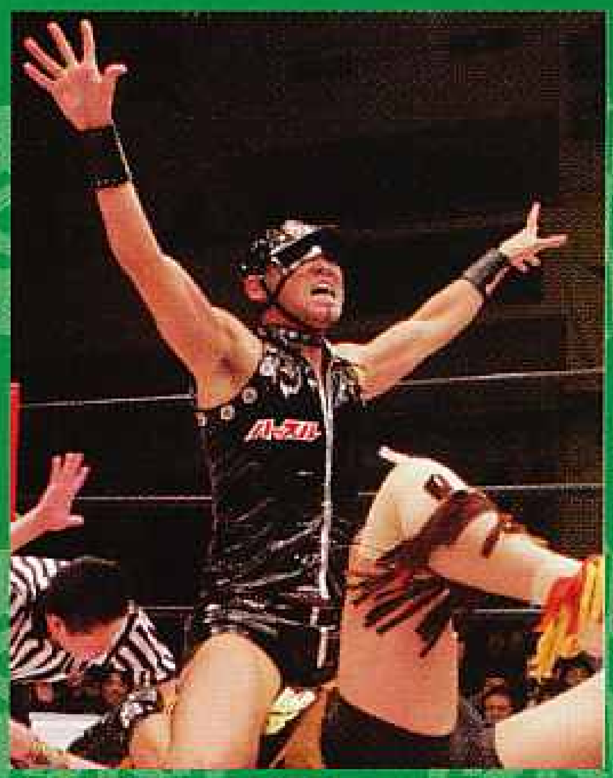
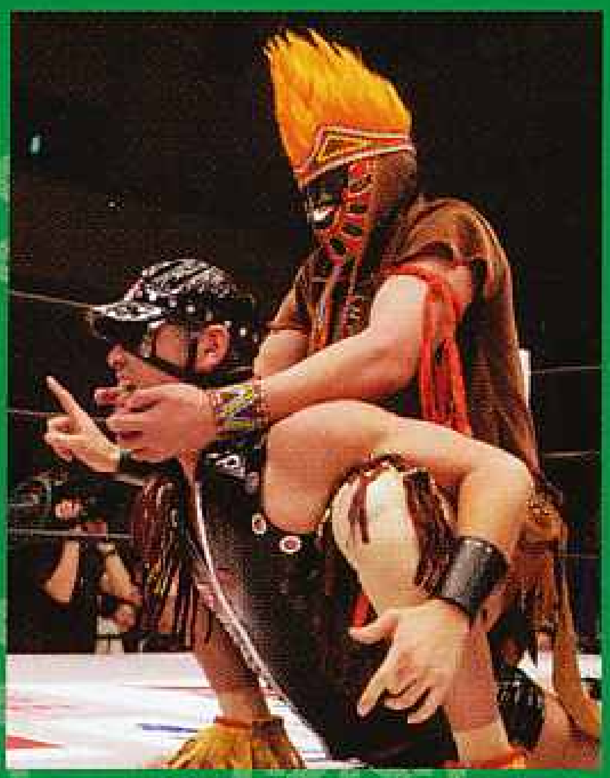


昨年12月20日、プロレス大賞の授賞式で『ハッスル・マニア2005』以後、初めて公の場に姿を現したインリン様。MVPの小島聡を「どっちが本当のMVPか勝負しましょう」と挑発。この因縁の続きは!?

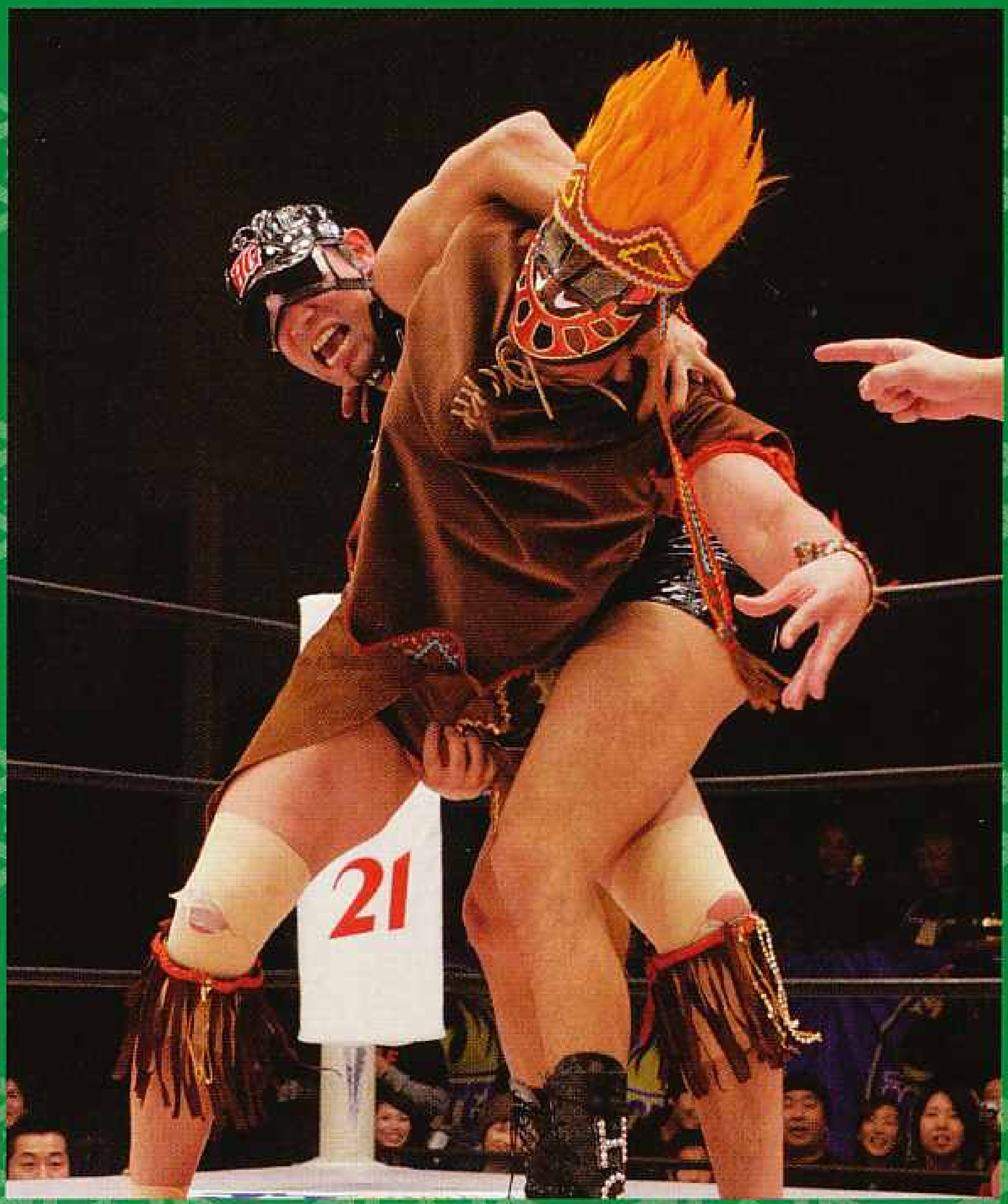


12.24
ハッスル・ハウス XマスSP［part.1］
「HARD GAY'S NIGHT フォー！」

HGがふたたびハッスルで大熱戦を展開！ 浩子が新GM就任！ 草間、ササハラを解雇！

HGの腰をつけねらうKOSHIKARIのねちっこい攻撃にギブアップ寸前のHG。最後は69ドライバーで逆襲！“セイ”座固めでプロ2勝目。



高田モンスター軍から「HGの腰を破壊するために」派遣された新たな刺客KOSHIKARIに対して、必殺のコマラツイストで反撃するHG。



05年大晦日の『PRIDE男祭り』vs吉田秀彦戦の8日前に小川直也が登場！大谷晋二郎、HGと出陣式を行なった。

新キャラさんいらっしゃい！



ドクロンZ■ジャガーYが「頭蓋骨をほしさに生け贄にされたメキシコ女の恨み」をアリシンZに注入し、ドクロンZ誕生！



サタン・ザ・サンタ2005、ア・トーナ・カイ、カ・トーナ・アイ■クリスマス限定モンスターが登場し、まさかの2連敗。



KOSHIKARI■「7色のバックブリーカーを操る」という噂の脅威のモンスター。豊富な腰攻撃でHGの腰をつけ狙う。



佐藤耕平■ZERO1・MAXで川田と好勝負したことでタッグを結成。川田から「モンスターK'(ケイダッシュ)」と命名された。





選手契約書をGM交替契約書にすり替えた鈴木浩子がまんまと新GMに就任！手のひらがえしで草間元GM、ケイ・ササハラを解雇し、強制退去させた。



ハッスル軍での不当な扱いにキレた崔がハッスル軍を離脱。はぐれ軍の坂田に共闘を要求！



「世界セレブ会議」に出席中のデビル夫人は残念ながら欠場。VTRでご挨拶した。



リングサイドに陣取ったのはちびっこサンタHG！ かわいい笑顔で「フォー！」が炸裂！

「飛躍の一年」という言葉がこれほど似合う団体もない。それくらい急成長を遂げたハッスルの05年を締めくくる最終公演として、後楽園ホールでクリスマス2連戦が催された。

12月24日が「HARD GAY'S NIGHT フォー！」、25日が「涙のラストM字ビターン」というサブタイトル通り、初日はHG、翌日はインリン様が主役を張る、日替わりメニューで構成されていたし、いみじくも『ハッスル・マニア2005』のメインで明暗を分けた両者のその後が描かれるというハッスルのA面とB面のような明確なカラーの違いが出た大会だった。

同時に、このシステムはいままでハッスル2連戦の課題だった1日目と2日目の差別化にも成功している。2日ぶんのストーリーを無理矢理につなげるのではなく、あらかじめ主役を別立てすることによってシンプルな「一話完結」のストーリーを展開することができたし、「ハッスルが何を見せたいのか」が非常にわかりやすくレイアウトされていた。

それもあって両日ともにチケットは完全にソールドアウト!! これはもちろん『ハッスル・マニア』効果であり、ハッスルの現状の「わかりやすさ」が支持された結果でもあるだろう。

こうしたわかりやすさや新しい変化は、ストーリー上でも続々と起こっている。その象徴的な事件が、新GMとなった鈴木浩子が、草間前GMやケイ・ササハラといった背広組をハッスルからリストラしたことだろう。

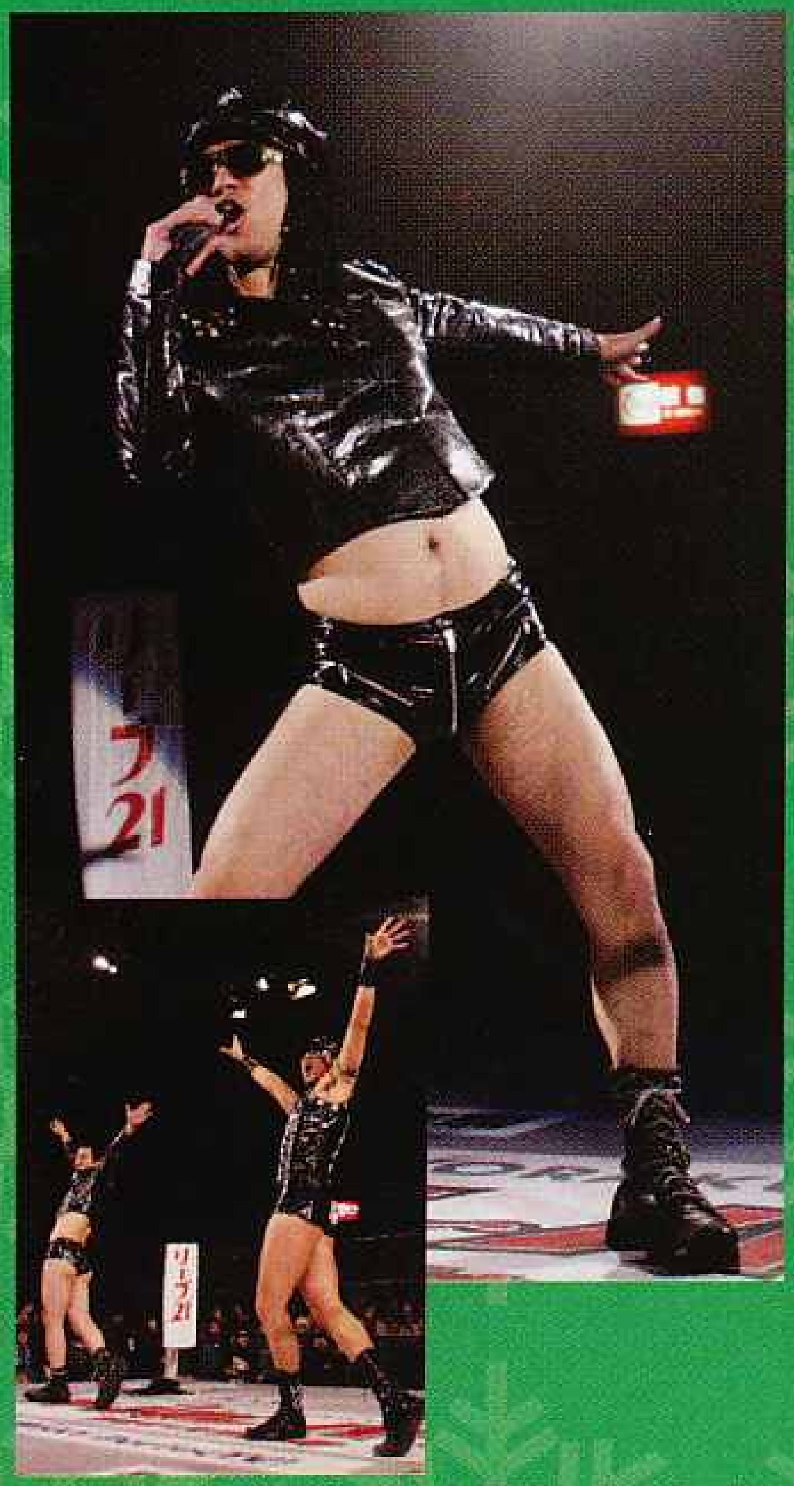
2006 ハッスル 新章突入





12.25
ハッスル・ハウス XマスSP [part.2]
「涙のラストM字ビターン」

仮病の石狩を、怒りの川田が完全KO!!（本人待望の）RG登場には大ブーイング！



オープニングを飾ったRGに会場は大ブーイング！最後はHGと揃っての「フォー！」をキメた。





マスク着用で登場した石狩は「風邪をひいてドクターストップ」と油断させて、川田をだまし討ち。だが川田は憤怒の形相で厳しい反撃！　最後はパワーボムでKO！



「ジャガーYは馬の言葉がわかる」という噂を聞いた安田は「有馬記念」狙いでタッグを結成！





健想の試合のみ、ゲスト解説についた鈴木浩子新GMは放送席の青木裕子も攻撃!!　青木を泣かせてしまう。



突如として、グッズ売り場に現われたのはライオセイザーとライザーグレンのヒーロータッグ。この日は健想から短時間で勝利！



坂田の代わりに会場ナンパにチャレンジした金村は直球すぎる誘い文句で、田中からダメ出しされる。





連日の敗北にいらだつ鈴木健想が「おまえがいるから負けるんだよ！」と浩子にハリ手！鈴木家まさかの仲間割れ。

これは昨年、11月の『ハッスル・マニア2005』の冒頭の挨拶。草間元GMのぐだぐだマイクを「味」と見るか、「大失敗」と見るかという課題にひとつの答えを出したと言える。もちろんハッスルが下したジャンジは後者だった。

それは目が覚めるような滑舌のいい口調で「あんたたちみたいなサラリーマンくずれがしゃしゃり出てくるから、日本のエンターテインメントは浸透しないんじゃないの!!」「ここは真のエンターテイナーだけが上がることが許される神聖なステージなの!!」という浩子新GMのマイクに代弁されていたし、これはストーリー的にも運営的にも新たなハッスルの所信表明と言ってもいい重要なマイクだったと思う。

一方、「芸能とプロレスの融合」という、路線を確定させてしまった張本人のHGは今回もプロ2試合目とは思えない、腰への一点集中攻撃というクラシカルでありながら斬新な内容を展開し、またもやプロレスラーとしての評価を上げている。

ある人はHGの熱狂的な入場シーンを見て「まるで最盛期の桜庭（和志）のようだ」と感想を漏らしていたが、観客のHGへの溢れるような期待感、圧倒的な感情移入度、その熱量はどう見ても本物だし、これは「旬のゲイ人」という以上に、HGがもともと持ちあわせていた資質と、その資質を見抜いたハッスルの勝利だろう。

いずれにせよ今年のハッスルは「ダメなものをダメとして楽しむ」というプロレス村の価値観からは遥かに遊離したところで完成度を求められるネクストステージの闘いが続いていく。

果てしなくエスカレートするファイティング・オペラに終わりはあるのか？だがこれこそが「明るい未来が見える」ための方法論のひとつであることは間違いない。

（真下義之）

江頭が『kamipro』にもの申～す!!

2006 ハッスル 新章突入



大谷さんは俺と似すぎですよ!!
ホンットにビックリしたよ〜!

祝!! ハッスル初上陸! 記念スペシャルインタビュー

江頭2:50

それはまさに不意打ちだった! 昨年の12月25日、『ハッスル・ハウス クリスマススペシャルpart.2』後楽園大会に突如として江頭2:50が登場! 「江頭! 江頭!」といじられ続けていた“ハッスルあちち”大谷晋二郎と奇跡のそっくりさん共演を果たした。スーパー暴走芸人、江頭2:50に直撃インタビューを敢行!

撮影／平工幸雄、山口比佐夫　写真提供／DSE
聞き手／真下義之、坂井ノブ
designed by hisa（TwoThree）



“ハッスルあちち”大谷晋二郎と奇跡の遭遇!

――江頭さん、今日はお会いできて光栄です！　さっそくですが『kamipro』のことはご存じでしょうか？
江頭　あまりにも身近ですよ！　創刊から知ってますし、『kamipro』と一緒に育ったようなモンですよ！
――それは嬉しいですねえ。
江頭（声をひそめて）もう発行部数は凄いんでしょ？
――いやいや。まぁ、格闘系雑誌では調子はいいほうだと思いますけども。
江頭　ちょっと待ってよ～！　最初なんてお笑い雑誌の『カジノフォーリー』といい勝負だったよ！　あと噂の真相社の『ザ・ゲイ』ね。その3誌でデッドヒートしてましたよ！
――『カジノフォーリー』も『ザ・ゲイ』ももうないですもんね（笑）。そんな江頭さんは、かなりのプロレス好きとうかがってますが。
江頭　もう大っ好き！　小学生から『月刊ゴング』と『別冊ゴング』と『月刊ファイト』を10キロ離れた駅に自転車で買いに行ったりしてたね！　それに当時のアントニオ猪木さんのマネージャー、新間寿さんに手紙書いて「将来はプロレスラーのマネージャーになりたい」って……。
――第一志望がマネージャーだったんですね！（笑）。
江頭　当時から「太らない体質」だったからね。でもマジで3回くらい新間さんに手紙を送りましたよ！
――しかも猪木さんじゃなく、新間さん宛に！　ところで江頭さんは最近、プロレスはご覧になってますか？
江頭　じつは一時期、プロレスの仕組みみたいのがわかって気持ちが冷めて……でも総合格闘技からまた見始めてて。いまはもう『PRIDE』が一番好きですね。
――では、大晦日の小川直也vs吉田秀彦戦もご覧になりました？
江頭　見ました！　小川は試合で負けてプロレスで勝ったよね。最後はマイクで持っていきましたし。
――小川の意地が見えましたね。
江頭　お笑いもまったく一緒ですから！　舞台やテレビでも活きのいい新人がバーン！　と出ると最初に受けるのは新人なんです。でも最終的にはどちらがお客さんの心に残るかの勝負ですから！（ニヤリ）。
――そういう意味で江頭さんがハッスルに登場したときは完全にお客の心をわしづかみにしましたね！
江頭（目を見開いて）客がいいですね～！　凄ぇあったかいよ！　やりやすかったぁ～（しみじみと）。
――ある意味、この日一番の盛り上がりというか……。
江頭　でしょ！（自信満々に）だから次の日、各スポーツ紙の一面だと思ってたの。そ～したらディープインパクトにとられちゃって！
――有馬記念とカブりましたか（笑）。
江頭　しかもディープインパクトは他の馬に負けたじゃないですか？　その“負けた馬”にも負けて。俺はもう相当な負け馬ですよ！　ワイドショーの全番組を録画予約してたのに……。
――楽しみに待ってたわけですね。
江頭　ぜ～んぶ放送はなかったね。Gacktがコンサートで乗馬したってニュースとか、スケートの浅田真央の話題にも負けました。も～自宅で「がっぺ、ムカツく！」ですよ！
――ワッハッハ！　去年の『ハッスル・マニア』がスポーツ紙の一面を独占したのを意識されていたと。
江頭　うん、それは見てました。だから「ハードルは高いだろうな」とは思ってたんですけども。でも当日は4時間前から会場入りして、ヒンズースクワットを200回に腹筋をやって。発声練習もやってね。
――ウォーミングアップをみっちりやったわけですね。
江頭　いつも汗びっしょりになるまでやりますからね！　で、何回も何回も客席にダイブしたでしょ？　じつは身体中が傷だらけで、いまもあちこちが痛いんですよ！
――かなりのハードダイブだったんですねえ。
江頭　でも興奮してイッちゃってるから当日は全然、気づかなくてね。
――で、なぜ江頭さんが今回呼ばれたかと言うと、ハッスルには大谷晋二郎という選手がいまして。
江頭　ぐふふふ（と喜びの表情）。
――1、2カ月前から大谷さんが「江頭に似てる」って前フリした上での登場だったわけですけど。大谷さんのことはご存知でしたか？
江頭　も～ちろん知ってました！　じつは一度『アッコにおまかせ！』のロケでもお会いしてるんですよ。
――あっ、そうなんですか？
江頭　まだ橋本さんがいらっしゃったころ、ZERO-ONE道場でコブラツイストかけられて「力を入れて技をかけているのはどれ？」ってクイズの企画でね。そこに大谷選手もいたんですが俺を見てイヤ～な顔してました。橋本さんにも「そら、大谷が来た！」って言われましたし。
――伝統的に「大谷＝江頭」という構図はあったと（笑）。で、リングで再会されてどんな感想でした？
江頭（カッと目を見開いて）似てましたねぇ～！　もうビックリしたよ～！「世界には7人、自分に似てる人がいる」と言うけど。ひとり目を見つけたような気持ちですよ！
――まだ5人もいるんですね！（笑）
江頭　そう！　候補としてマリナーズの長谷川滋利投手、それからSMAPの草彅くんも髪が薄くて「江頭」って言われてるみたいだしね。もう



江頭が大谷を“あちち2:50”命名！会場での爆笑やりとりを再現！

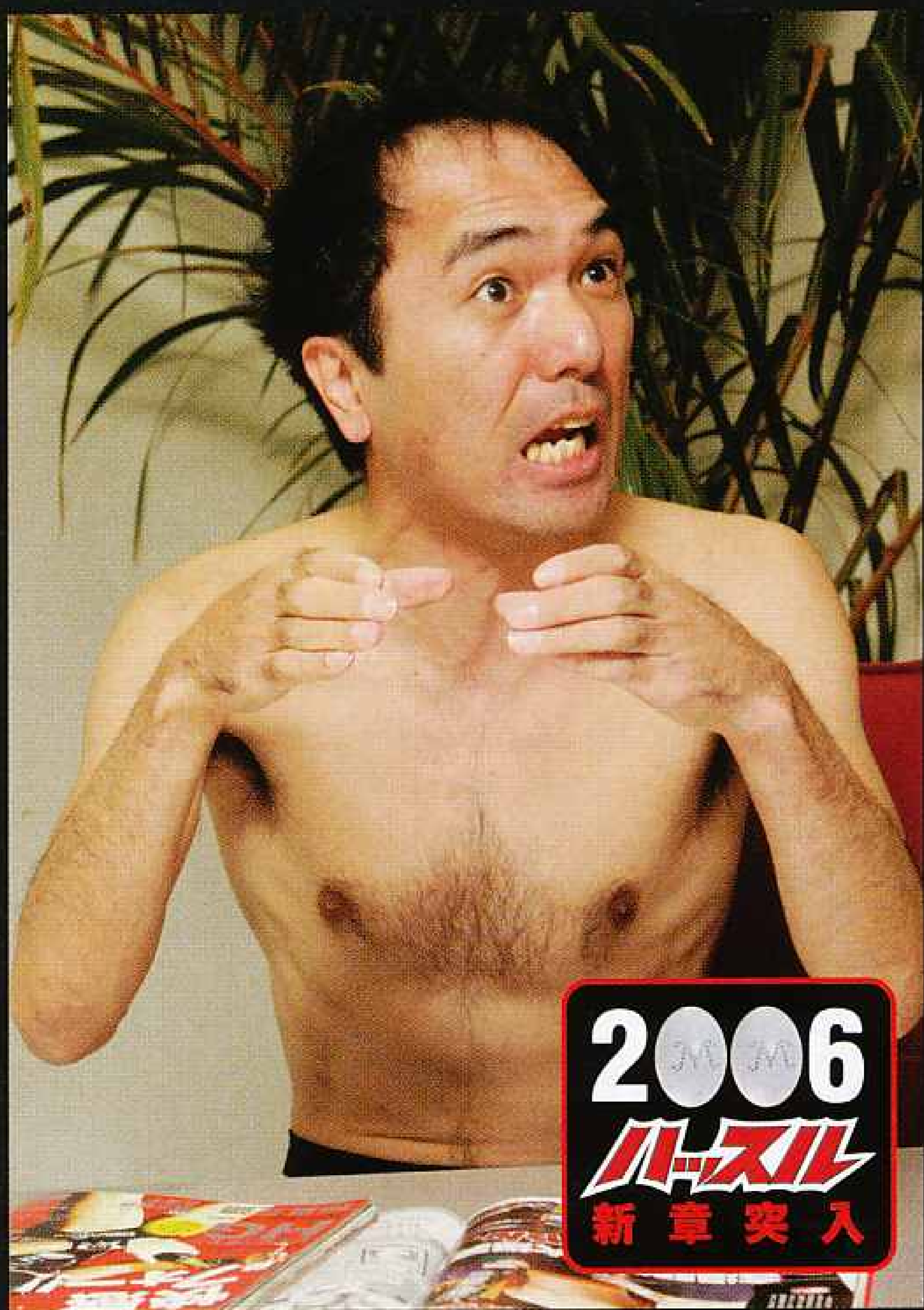
第3試合終了後、退場しようとする大谷へ、島田二等兵が「今日はお前が元気になるクリスマスプレゼントを用意した！」とマイクする。アンジョー司令長官も「ユーのために最高の“スリル”を味あわせてやりマース」と予告。ここで布袋寅泰の『スリル』が流れ、なんと江頭2:50が客席から登場！　館内は異常な盛り上がりをみせる。大谷は頭を抱えるが江頭は「ハッスルあちち。お前に一言、もの申す！　お前は江頭に似てるって言われて怒ってるらしいけど、俺は最高！」と絶叫。さらに「そっくりだぜ！　このハゲ具合。お前はいまからあちち2:50だ！」と勝手に命名し「俺はどうせ放送にはのらない。ワンクールのレギュラーより、一回の伝説だ！」と大炎上。大谷におそろいの黒スパッツを贈呈する。「ちょっと待て！　そんなに似てるか？」と不服そうな大谷も、観客の盛り上がりに次第に上機嫌に。江頭は「最後にあれをやらせてくれ！スリー、ツー、ワン！　がっぺ、ムカつく！」と持ちネタを披露。これを拒否する大谷だが「お前はもう、レスリングの線を越えろ！」と江頭が説得、大声援に押され、二人揃って「スリー、ツー、ワン！　がっぺ、ムカつく！」をキメた。
（05年12月25日『ハッスル・ハウス クリスマススペシャル part.2』より）

江頭2：50完全大図解！
これが「がっぺ、ムカつく！」ポーズだ！



①左手を腰に手を当て、人さし指を立てて「いくぞー！」と元気よく咆哮しよう。
②まずは「スリー！」と正面を見すえて、渾身の力でかみしめるように。
③さらにやや上向き加減で「ツー！」と憤怒の表情で声をしぼりだそう。
④もはや爆発寸前！「ワン！」と大きな口を開け、叫んでみよう。
⑤右足を前に。左手は後頭部、右手はわき毛をつかみ「がっ！」と叫ぼう。
⑥つかんだわき毛をそのまま引き抜き、視線はまっすぐに「ぺ！」と吐き出そう。
⑦右手をそのまま水平に差し出し、目を見開いたまま「ムカつく！」とキメよう。

HGが「腰の振りすぎで腰痛」？俺は18年間「全身振りまくり」だ！



えがしら・にじごじゅっぷん■1965年、佐賀県出身。大川興業所属。同集団の現総裁でもある。上半身は裸、下半身は黒タイツスタイル。暴走気味の芸風で知られる。96年にはトルコにて全裸パフォーマンスして現地逮捕、97年にバイアグラ5錠を服用して病院送りなどの数々の伝説を持つ。『めちゃ2イケてるッ！』（フジテレビ系）、『「ぷっ」すま』（テレビ朝日系）に不定期出演。

マナカナ（三倉茉奈、三倉佳奈）には負けねえぞ！って。

——双子どころか、江頭版「七つ子ちゃん」ですね！（笑）。あとは江頭さんの「ワンクールのレギュラーよりも1回の伝説！」というマイクも印象的でした。レイザーラモン出渕さんも「感動した」とおっしゃってたんですが、あの言葉の由来は？

江頭　これは自分が芸人になる前から胸に秘めていた言葉で……。

——芸人になる前から！（笑）。

江頭　そう。猪木さんも、ビートたけしさんも伝説を残したからこそ今があると思うんです。つまり芸人にとって大事なのは「パンドラの箱を何個開けられるか？」ですよ。俺ならトルコの事件やバイアグラの事件……『笑っていいとも！』では本番中、橋田壽賀子にキスして降板させられたり。

——ガッハッハ！　それは完全なアドリブだったんですか？

江頭　うん。俺が登場したら、橋田壽賀子に「この人知ってる。トルコで事件起こした人でしょ！」って嫌みっぽく言われて「カチン！」ときたんですよ。で、違う話に流れたんですけども。そこでも「やっぱりトルコで！」って言い始めたんです！　でも2回目もガマンした。そ〜したら、3回目も言い始めて！

——「仏の顔も3度まで」ですね（笑）。

江頭　橋田壽賀子の口を閉じるには「俺の口しかない！」と思って。生本番中に「ブチュ〜〜ゥ！」っと。いきなりディープキスですよ！

——橋田壽賀子にディープキス！

江頭　客席も「ギャ〜ッ」っと騒然となって。それ以来『笑っていいとも！』には出てないけど。伝説を残したからそれでいい！　と思ってるんです。猪木さんもそうしてきたじゃないですか。伊勢丹前でタイガー・ジェット・シンに襲撃されたり。アクラム・ペールワンの骨を折ったり。

——江頭さんも日常からハミ出す瞬間を求めていると。じつはハッスルに上がったときもパンツの中身をカメラに見せようとしてましたが。

江頭　（ハッと気づいて）アッレは危なかったね〜！　も〜俺はすぐ操縦不能になるから〜！

——かろうじて危険なモノは映ってませんでしたが、危うくハッスルも出入禁止でしたね（笑）。

江頭　『スカパー！』も一生出入り禁止だ！　じつはスタッフに強く言われてたんですよ。「『スカパー！』は生中継ですから絶対に出さないでくださいよ！」って。で、「俺は芸人18年もやってるんだよ。わかってますよ！」って言い張ってたんですけど。……勝手にやってるからね！

江頭2:50

——ウハハハハ！

江頭　客がいると自分でも何やるかわかんない！　心が〝日の丸特攻隊〟になっちゃうんですよ！

——そんな江頭さんにはハッスルという団体はどう映ってますか？

江頭　う〜ん。いままでWWEのモノマネする団体はあったけど。ハッスルは芸能人が出てもOKだし、振り切っちゃってますよね！　だから「おもしろい団体つくったなぁ」って。

——同じ芸人としては、ハッスルで試合してるHGさんはいかがです？

江頭　もちろんHGも凄いと思うけど……ただお笑い的に言えば、HGは「去年一年間で腰を痛めた」って言うじゃないですか？　でも俺なんか18年間も芸人やってますけど腰は痛めてないですから！



リング上で逆立ちパフォーマンスを爆発させる江頭に大谷も驚愕！

——ガハハハハ！

江頭　HGは「腰の振りすぎで、腰を痛めた」と言ってるけど、俺なんか「全身を振りまくって」ますからね！　脳みそまでシャッフルしてるのに痛めてないですから。だから「まだまだだなHG！」と。

——まだまだ甘い！と（笑）。

江頭　彼に「ひとこともの申〜す！」としたら「お前も18年間、振りつづけろ！」と。それから「止まったら死ぬぞ！」と。

——ガハハ！　でもテレビで共演されたときHGさんは江頭さんを「ペ●スの上の存在」とかなりリスペクトしていましたけども。

江頭　（急に静かになって）……いや、褒められると俺ってなんにも出てこないんだよねえ。

——ワハハハ！　ではハッスルに試合で参戦というのはどうですか？

江頭　まぁ本音を言えば、ときどきこういう場に出たほうがいいと思うけど……。でも俺は勘違いしちゃったら駄目だと思うんだよ。だからクイズ番組とか歌番組からのオファーは全部断ってるんです！「お笑いはそんなことやるべきじゃない」と思ってるし、もっと「熱湯コマーシャル」とかああいうものをやるべきだと思うんですよ！　死ぬまでね！

——死ぬまでやれ！　と。

江頭　芸人って非日常的なことをして、それをおもしろおかしくお客に聞かせるのが仕事じゃないですか。

——プロレスのように「日常をはみだす」ことが大事なんですね。

江頭　それで客に木戸銭を払ってもらうんですよ。だからさ、芸人が普通の話をしてどこがおもしろいの！　おもしろくねえよ、そんな芸人！（突如、大炎上！）……と俺は思うんですよね（礼儀正しく）。

——いやぁ、今日は本当にいい話を聞けましたね。

江頭　ちょっと待て〜！　最後に大谷さんにひとこともの申〜す！

——え？　何かあったんですか？

江頭　俺がプレゼントした黒いスパッツを置いていきやがったんだよ！　あれはオーダーメイドのチャコット製で7000円もするんだよ！

——とことん追いつめますか！（笑）。では、そんな怒りも込めて、最後に〝アレ〟で締めてもらえますか？

江頭　よーし、じゃあ全員起立っ！　いくぞ〜！「スリー、ツー、ワン！　がっぺ、ムカツク！」（一同合唱）

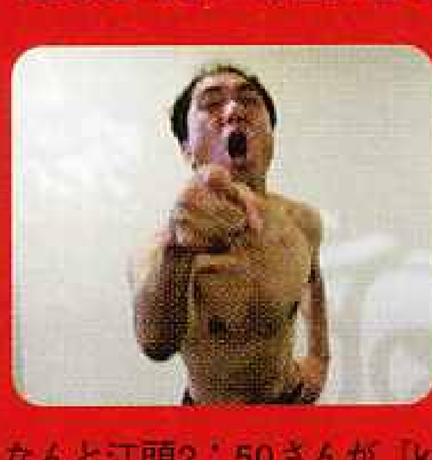
——ありがとうございました〜！

【06年1月7日　DSE事務所にて収録】

特報!!

君のケータイでも「がっぺ、ムカつく」を再現!

『kamipro Hand』にて江頭2:50の動画、着ボイスを緊急アップ!





なんと江頭2：50さんが『kamipro　Hand』にも登場！　話題騒然の「スリー、ツー、ワン！　がっぺ、ムカつく！」や「もの申〜す！」が動画や着ボイスでもダウンロード可能！　配信は本誌発売の1月21日より。詳しいアクセス方法は目次ページの隣にある『kamipro Hand』広告ページか、P119をチェックせよ！

2006 ハッスル 新章突入

3年目のハッスルは新展開

新エースに鈴木健想!?



鈴木浩子新GMが掲げるマニフェスト

1. 鈴木健想をエースに!!
2. ハッスル・マニア2006を年末に開催!!
3. ハッスル・マニアと同規模の大会を春から初夏にかけて開催!!
4. リング上の戦力補強!!
5. ニューヨークMSG公演の実現
6. 青木裕子 ハッスル解説クビ!!
7. 地上波テレビ放送を取る

新エースへの道！ 試練の二連戦

3.5 ハッスル14
鈴木健想 vs "モンスターK" 川田利明

3.12 ハッスル15
鈴木健想 vs HG

鈴木浩子新GMが始動！

1月10日、2006年最初のハッスル記者会見がDSE事務所で行なわれた。昨年のクリスマスに草間政一氏を策略にはめてGMの座から引きずり降ろした新GM、鈴木浩子がさっそく登場して所信表明演説を行なった。

世界最大のプロレス団体であるWWEで表も裏も見てきた浩子GMは、ハッスルを世界に通用するエンターテインメントに育て上げると宣言、7つのマニフェスト（公約）を掲げた（左上の囲みを参照）。

浩子GMの夫である健想をエースにするため、GMが強引に決定した対戦カードは健想vs川田と健想vsHGという注目の超ビッグ対決だ。

これは浩子GMの「ハッスル軍とモンスター軍のエースを倒せば、健想がハッスルのエースになる」という計算が背景にあるのは言うまでもない。会見に登場した健想はさっそく「おい、川田。お前みたいに日本のプロレスしか知らないローカルレスラーに世界がなんたるかを教えてやるよ。それと腰振り野郎。素人同然のお前にプロの厳しさを教えてやろう。俺にマグレは通用しねえぞ！」と両軍を挑発した。浩子GMはハッスル軍vsモンスター軍という対立構造そのものをブチ壊そうという意図があり、そこまで視野に入れた上での健想プッシュであることを明言している。

「私がGMになった以上、聖域はありません！」という浩子GMの言葉にウソはない。事実、PPV放送で解説を務めていた〝ハッスルマドンナ〟青木裕子が「解説能力もタレント性もない」という理由でリストラ第一号になってしまったのだから。

吉田戦での負傷により〝キャプテン・ハッスル〟小川直也は当面、試合に出場不可能。この隙に健想&浩子GMはトップに登り詰めることができるのか!? ハッスルに明るい未来がやってくるのか!?（坂井ノブ）

「ハッスル！ ハッスル！」に代わる新たなポーズが誕生！



そのポーズは、お正月の特番でいきなり誕生した。大晦日の『PRIDE男祭り2005』で足を負傷した小川直也が出演したその番組（録画放送）で、なんと六星占術・細木数子先生がいきなり伝授したのだ！「パワーアップでオー！」という「ハッスル！ ハッスル！」以上の破壊力を誇る強烈なかけ声のこのポーズ。まず、「パワー」でお腹に手のひらを当てて、「アップで」で両手を肩に当て、「オー！」で勢いよく頭上に突き上げる……いかがだろうか？ これで運気上昇間違いなし！ 健想の笑顔を見習ってパワーアップでオー！ するべし。

今後の大会スケジュール

KYORAKU presents
ハッスル・ハウスvol.11 東京・後楽園ホール
2月10日（金）開演19:00（開場18:00）
【チケット料金】※全席指定・消費税込
ハッスルVIP ￥12,000／スタンドS ￥7,000
スタンドA ￥5,000／スタンドB ￥3,000

KYORAKU presents
ハッスル14 神奈川・横浜文化体育館
3月5日（日）開演16:00（開場14:00予定）
【決定対戦カード】鈴木健想 vs "モンスターK" 川田利明

KYORAKU presents
ハッスル・ハウスvol.12 東京・後楽園ホール
3月9日（木）開演19:00（開場18:00）

KYORAKU presents
ハッスル15 愛知・愛知県体育館
3月12日（日）開演16:00（開場14:30予定）
【決定対戦カード】鈴木健想 vs HG

3月シリーズのチケットは1月29日（日）一斉発売!!
［お問い合わせ］
ドリームステージエンターテインメント TEL.03-5464-1691

ハッスルオーディション開催

2月10日の『ハッスル・ハウスvol.11』で開催される「パワーアップでオー！ディション」は以下の概要で実施される。締切は1月27日。我こそはと思う人はぜひ応募を！

［募集要項］
- 募集内容
  1. ハッスル・ファイター:レスラー（※プロ・アマ問わず）
  2. ハッスル・パフォーマー:リングアナ、リポーター、ディーバ、演者等（※プロ・アマ問わず）
- 応募資格／年齢制限なし
- 応募方法／ハッスルオーディション用の応募用紙に必要事項を記入の上、書類を送付。詳しくはハッスルオフィシャルサイトを参照。
- 選考方法／書類審査後、合否をDSEより連絡（※1月31日までに）。書類審査通過者のみ面接を行なう（※2月3～5日を予定）。合格者は2月10日の『ハッスル・ハウスvol.11』にてリング上から紹介します。
- 応募用紙送付先
  〒107-0061
  東京都港区北青山3-12-7カプリース青山3F
  （株）ドリームステージエンターテインメント ハッスル事業局
  『ハッスルオーディション』係まで
- 応募締め切り／2006年1月27日(金)消印有効
- 合格後の待遇／合格後は委細面談の上、ハッスルの舞台で活躍していただきます。
- お問い合わせ／ドリームステージエンターテインメント
  TEL.03-5464-1691 担当／岸本

新春二丁目対談



IWA JAPANオーナー
浅野起州

×

元WWEスーパースター
タジリ

昨年12月にWWEを退団し、日本に帰国したタジリ。我々はそんな元WWEスーパースターズのタジリにIWA JAPANの名物オーナー浅野起州氏との再会を提案し、両者の対談が実現! タジリはIジャが原点なのは周知の事実。練習生として入り、デビューまでは事務所でチケットへのスタンプ押し、ポスター貼り、電話応対などをこなし、その後深夜まで遠藤光男ジムでトレーニングする毎日を過ごした。一方、浅野オーナーは、いまでこそ団体の主役であるが、当時はまったく表に姿を出さない影のオーナーだったという。誰もが恐れる金六、もとい貫禄を見せ付けていた浅野オーナーはタジリにとって「近寄りがたい存在(タジリ談)」だったという"雲の上の存在"。この両者が長時間にわたりプロレスのことを熱く語るのは意外にも初めて。日本を代表する名物オーナーと、日本が誇るジャパニーズ・バズソーが、"新宿二丁目劇場"の聖地「花膳」と「タントラ」で再会。その一部始終をご覧ください!

聞き手/阿部タケシ　撮影/丸山剛史
designed by bun-chan(Two Three)

タジリ　浅野さん、ご無沙汰しております！

浅野社長（以下浅野）　もうすっかりビッグスターになっちゃって！　でも、この対談の話をもらったときは本当にうれしかったね。「タジリとの再会はどうですか？」って言われて。「（あのときは）悪いね。何もしてやれなかったのに」って気持ちですよ。

タジリ　日本で新しくスタートすることで、自分の原点の人に会いたかったんですよ。浅野さんは僕のプロレス人生において原点ですから。今日こうしてお会いすればまた何か見えてくると思って。

浅野　（照れながら）いやいや。

――世界中で闘ってきたタジリ選手の原点が浅野社長なんです！

浅野　まぁ、日本でゆっくりと話ができてうれしいですよ。

――お二人が会うのは久々ですか？

タジリ　ECWにいたとき以来だから、たぶん5、6年ぶりかな？　ジ・ウィンガー（岡野隆史）さんと、（グラン・）アパッチェの娘と僕の3人で浅野さんの店にうかがったんですよ。でもあのときは、浅野さんはかなり酔っ払ってて（笑）。

――浅野社長はタジリ選手のアメリカでの活躍はもちろんご存知ですよね？

浅野　そりゃ見てますよ～。活躍も聞こえてくるし。WWEの代々木大会（2003年1月24、25日）も観に行ったんだから（笑）。

――現在のタジリ選手の活躍はいかがです？

浅野　たくさん苦労したと思うし、いろんなことを勉強したと思いますよ。それに彼は昔からよく練習したから。私も「タジリは天才的なものを持ってる」って前から言ってたし。

タジリ　え？　そんなこと言ってくれてたんですか？（笑）

浅野　前から思ってたよぉ（笑）。それに先見の明があったからWWEに行けたんだし、いまのタジリがあるんだもん。僕はそう思いますよ。

浅野さんは僕のプロレス人生の原点ですから（タジリ）

――そもそもタジリさんが最初にIジャに入団した理由はなんだったんですか？

タジリ　メキシコ人がいっぱい来ていたんですよね。それで「ここに入ればメキシコへ行ける」と思って。

――浅野社長との初めてお会いしたのはいつ頃だったんですか？

タジリ　最初入ったときは、庄司さんっていう方が社長をやってたんですけど、その背後にはもっと偉い人がいるらしいっていう噂は聞いていたんですよ。

――陰の存在がいると（笑）。

タジリ　そう。でも（Iジャに）入っても噂のままでまったく出てこない（笑）。浅野さんと初めて会ったのは、初めての巡業。青森の岩木山の会場だったかな？　そこに浅野さんも来られて。そこでスタッフに「あの人は誰ですか？」って聞いたら「いちばん偉い人だよ」って教えていただいて。

――社長とは何か言葉を交わされたんですか？

タジリ　いやいや。雲の上の存在。そんなまともに口をきいたことは一度もなかったよ。こんなにしゃべっているのは本当に初めて。



TAJIRI

――WWEで言うところのビンス・マクマホンのような存在というか。

タジリ　そうそう、ホントそんな感じ。

浅野　そんなことない、普通のおじさんですよ（笑）。

タジリ　当時の練習生の間では、何かを浅野さんに確認しなきゃいけないことが発生すると誰が浅野さんに話をしに行くか、ジャンケンで決めていたぐらいでしたから。

浅野　（照れながら）そんなに気取っているわけじゃないんだけどねぇ～。

タジリ　生まれ持った貫禄がありましたよ。

――タジリ選手はIジャ入団をトレーニングしていた浜口ジムのアニマル浜口会長に報告したら「大きいところ（団体）に行け」と言われたそうですが。

タジリ　それは（浜口）会長自身が国際プロレス（注1）という小さな団体で苦労なさったからでしょう。あと当時はまだインディーが走りだったからだと思うよ。でもIジャからはちゃんと給料をもらえたよ。その頃の他のインディーは、お金もらえないのが当たり前だったから。身体はキツかったけど、不安とかはなかったね。

浅野　その頃はプロレスも団体がそんなに多くなかったし、興行をやって損もしなかったし。だから給料はちゃんと払うし、事務所に働きに来てるんだからさ。

――当時のタジリ選手はいかがでした？

浅野　ホント、真面目でしたよ。練習もよくしていたしね。他の人の3倍はしてましたね。ウチの事務所で仕事して、それが終わってから練習に行ってさぁ、そりゃ大変だと思うよ。

タジリ　僕がいた当時は外国人に本当に恵まれてましたよね。ヘッド・ハンターズとかミゲル・ペレスJr.とかアイスマンとか。いつも外国人がいるから、自分自身が成長できる環境だったよ。本当に選んでよかったなと。

――タジリ選手は外国人レスラーのアテンド役もやっていたんですよね？





2003年１月のWWEジャパンツアー2日目のメインイベントでタジリはトリプルHと世界ヘビー級タイトルマッチを行った。20分を越える大熱戦となり開場も熱狂、最後は敗れたものの素晴らしい試合内容だった。

タジリ　僕がいつも成田（空港）へ外国人を迎えに行ってました。当時はビクター（・キニョネス（注2））がさぁ、物凄い量のTシャツを持ち込むのよ、来日のたびに。50キロくらいあるカバンを10個くらい！

浅野　来日したら大量のカバンを電車で新宿まで持ってきてたよね。ビクターは人を人と思わないじゃない？　自分だけ良ければいいって感じの人だから（笑）。

——ちなみにビクターが売ったシャツのロイヤリティは社長のところに……。

浅野　全然入らない（笑）。ぜ～んぶビクターがチョンボですよ！　もうウソをつくのが商売だから（笑）。

——ウソをつくのが商売（笑）。

タジリ　一度、外国人を迎えに行ったとき、やっぱりデカいカバンを10個くらい持ってきたんだよね。それを池袋に持っていかなきゃいけなかったんだけど、僕が間違えて新宿行きのバスのチケットを買っちゃって。慌てて山手線に乗って、そのシャツを必死になって運びましたよ。何回もかけて階段を上がりましたからね（笑）。ビクターは商売で使うシャツだって言うと税金取られちゃうから「リング上からファンにばら撒くために持ってきた」って入国してましたよ。

——それをきっちり売店で売っていたと。でも社長には……。

浅野　一銭も全然入らない（笑）。在庫が余ってもビクターは福袋で売ったからね。

タジリ　でも浅野さんも、１００円ショップでいっぱいバンダナを買ってきて「テリー・ファンクが使ったバンダナだ」って売っていたじゃないですか（笑）。

一同　ハハハハハハ！

——ウソをつくのが商売ですからね！

浅野　それはビクターから覚えました（笑）。

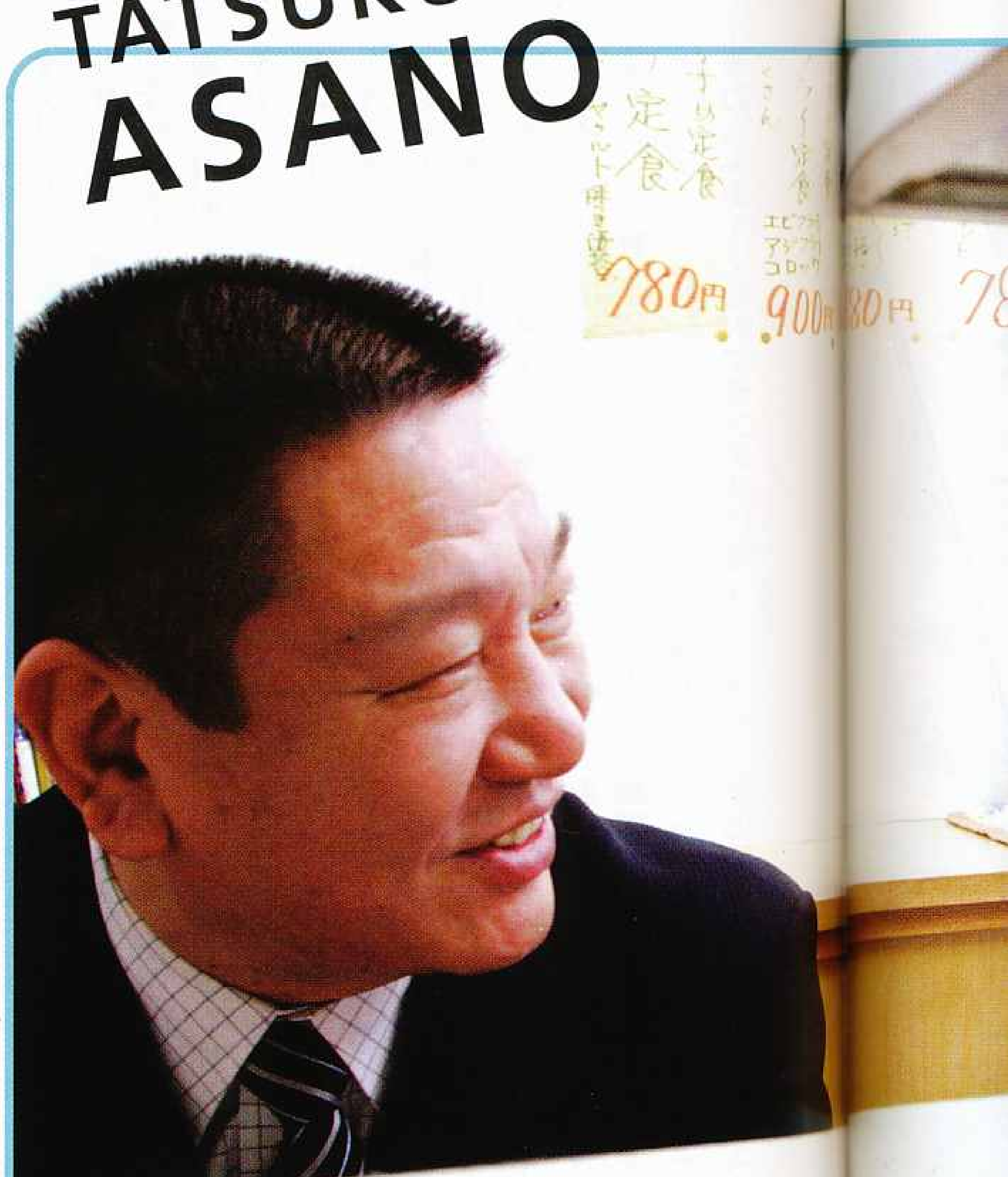
——ハハハハ！　そんなタジリさんはＩＷＡジャパンで念願のプロレスデビューを果たすワケですが、当時練習生が3人いた中で、タジリさんにはとくに光るモノが浅野社長から見てあったんですか？





2005年最後の新宿二丁目劇場。花膳前の路上で浅野社長は維新力とクラッシャー高橋の襲撃を受け、大事にしていたぬかみそを頭からぶちまけられてしまう。この他にも店舗破壊、食い逃げ、スクーターで轢かれる、SM処刑、さんまを頭からぶちまけられるなどありとあらゆる受難を受けている。

TATSUKUNI
ASANO



浅野　人間っていうのは天性のモノを持ってるんだよね。ノアで言えば丸藤（正道）とかＫＥＮＴＡ（注3）とか。そういう感じでしたよ。「凄い、こんなことできるんだ」とか、驚かされることが何回もありましたよ。

タジリ　でもこう言ってくれますけど、一回浅野さんを怒らせたことがあって。「浅野さん、何でウチには道場がないんですか？　作りましょうよ」って言って、僕が率先していろんな不動産屋を勝手に駆けずり回って物件を選んでたら「アンタは新人なんだから、あんまり勝手なことやっちゃダメ！」って怒られましたよ（笑）。

——でもその道場がないということが、結果的にＩジャを辞める理由につながるわけですね。

タジリ　練習がしたかったし、やっぱり道場がないとね。でも、自分のマズかったところをいろいろ指導してもらえたんで、いま思えば本当に社長に感謝しているんですよ。

浅野　でも当時の僕たちはチケットを売るのが仕事。でもタジリは選手として成長していきたい。僕らは選手のギャラも払わないといけないし、スタッフを食わせなきゃいかない。事務所の運営もして、いい外国人も呼ばなきゃいけない。でも道場があればいいものもできる。どこで折り合いをつけるかですね。

私は「タジリは天才的なものを持っている」と前から言っていた（浅野社長）

——タジリ選手からＩジャを退団したいと聞いたときはどう思いました？

浅野　話があるって呼ばれたときは「何、なんなの？」って思ったけどね。辞めるって聞いたときは「あ、そう」って感じだったよ。

タジリ　話し合いは5分ぐらいで終わりましたもんね。

——とくに引き止めることもなく？

浅野　大日本（プロレス）に行きたいって言うからさ。「あっ、そ」って（笑）。

一同　ハハハハハハ！

——社長、そのときはまだ、大日本参戦の話はなかったはずです！（笑）。実際、Ｉジャを退団したあとにメキシコ修行に行ってますから。

浅野　あぁ、メキシコね（笑）。ビクターがタジリを連れていくって言ってたから、まぁ本人のためにもそれがいいかと思って。ビクターがずっと「タジリをメキシコに連れていく」って言ってんだよね。

タジリ　ビクターには本当に感謝してますよ。メキシコにはその前にも行ってたんですよね。岡野さんと一緒に。（ターザン）後藤さんと一緒にアメリカにも行きましたね。ダン・スバーン（注4）と対戦したし。

浅野　アイツ（スバーン）はプロレス下手だったねぇ（笑）。

——Ｉジャの伝説的興行である川崎球場大会（１９９５年8月20日）にも参戦しましたね。

タジリ　あの川崎の前だね。でもその頃、凄くＩＷＡジャパンは盛り上がっていましたよね。そうそう、浅野さん。川崎球場に長州（力）さんが参戦するっていう話があったんですよね？

浅野　そうそうそう（笑）。

タジリ　前売り券先行発売のとき、発表したんですよ。

浅野　あれは永島のおっさん（勝司氏）にやられちゃったよ……。

——結局参戦しませんでしたが……。

浅野　テリー・ファンクを新日本の福岡ドームに貸すって約束で。そしてビクターがタイガー服部と話をして、永島のおっさんが川崎球場に長州力を貸してくれるって話になって。でもあとから「やっぱり長州は貸さない」って話になっちゃったの。貸してくれるってことだから発表したのにねぇ。

——当時のインディーアレルギーからのキャンセルですかね？　そんな長州選手もいまはインディーにも上がってますし、当時とは考えられないぐらいインディー寄りです。当時のIジャに上がっていたら、相当な話題でしたね。で、タジリ選手は、Iジャを巣立って行くワケですが。

浅野　まぁ僕はもともと、去る者は追わず、来る者は拒まずだから。「まぁしょうがないんじゃない」って感じだね。そんなのいちいち止めたって仕方ないもん。

タジリ　僕が大日本に上がり始めた頃かな。その頃、アクエリアス（注5）で（ドクトル・）ワグナーからCMLLのタイトルを獲った直後で、浅野さんのお店に行っているんですよ。そのとき、浅野さんが「アンタ、CNNのタイトルを獲ったみたいだね。僕だったらマスカラスとやらせてあげたわよ」って言ったんですよ（笑）。

——社長、CNNじゃなくてCMLLです（笑）。

タジリ　で、「だから戻ってらっしゃい」って（笑）。

一同　ハハハハハハ！

浅野　覚えてない（笑）。あの頃は常に酔ってたからねぇ。ビールは毎日1ケース飲んじゃってたからねぇ。

タジリはひとりでやった方が儲かるんじゃない？（浅野社長）

——プロレス界には"絶対はない"という定説がありますけど、仮にIジャにタジリ選手が上がる可能性はあるんでしょうか？

浅野　100パーセント、いや200パーセントないですよ！　絶対ない！

——200パーセント！　そこまではないと思うんですが（笑）。タジリ選手は現在のIジャはご覧になってるんですか？

タジリ　だいぶ前ですけど、代々木でやった川田（利明）さんと松田（慶三）がやったじゃないですか。あれは凄くいい試合でしたね。

浅野　（満面の笑みで）よかったでしょ？

タジリ　あと河童小僧（笑）。河童が三田英津子選手の下着を盗んで「このエロ河童！」って浅野さんが怒るという（笑）。僕は浅野さんのCDも持ってますよ。「妖怪人間ベム」とか（笑）。WWEで車移動しているとき、フナキさんに聞かせましたもん。プエルトリコに行ったときも、ビクターに聞かせましたよ。「いま浅野さんは歌手もやってるんだよ」って。「ウソつけ」って言われたから、聞かせたら「あ〜、これアサノの声。ミー、ショックねぇ……」って（笑）。



たじり■1970年9月29日、熊本県玉名市出身。94年9月19日、IWAジャパン愛知・蒲郡市民体育館大会でデビュー（対戦相手は岡野隆史）。その後、フリーとなりメキシコに遠征。帰国後は大日本プロレスで活躍するが、再びメキシコへ。ECWを経て崩壊後はWWEへ。WWEではクルーザー級、タッグのベルトを巻くなど大活躍。05年末にWWE退団を決意して帰国。日本の各団体の大会を視察して話題に。得意技はバズソーキック、タランチュラ。身長175cm、88kg。

浅野　いろいろ知ってるのね？　イヤんなっちゃうなぁ、ホント（照）。

タジリ　浅野さんが（ゴージャス）松野さんを上げたのも最初ですからね。芸能人をリングに上げるという手法をとったのは。

——いまの浅野起州をタジリさん的にプロデュースするとしたら、どういうことをやらせたいですか？

タジリ　Iジャを辞めていった人間が再びIジャに集結する。浅野さんは凄く喜ぶんだけど、一斉に浅野さんを追放する。浅野さんは一から練習生として入ることになって、リング作りから始めるんです（笑）。

——徹底的にみんなでシゴくわけですね（笑）。

タジリ　最後にはビクターもくる（笑）。

浅野　ゾッとするね（笑）。

——現在タジリ選手は上がるリングを探している、いわば"就職活動中"なんですけど。社長からアドバイスはありますか？

浅野　タジリは自分ひとりでやったほうが儲かるんじゃないの？　どこかの団体に入ってやるよりも自分でやるほうがいいでしょ。い

（注1）国際プロレス
67年1月に東京・台東体育館で旗揚げしたプロレス団体。新日本プロレス、全日本プロレスにつぐ第3のプロレス団体としてサンダー杉山、グレート草津、ストロング小林、ラッシャー木村、アニマル浜口、マイティ井上などの人材を輩出した。テレビ東京で地上波放送されていたが81年8月に活動を停止した。

（注2）ビクター・キニョネス



W★INGやIWAジャパンでプエルトリカンのブッキングを行なっていた悪役マネージャー。ヘッドハンターズ（写真の両端）など強烈な個性の選手を数多く日本に送り込んだ。W★INGの活動休止後、キニョネス会長率いる新団体としてIWAジャパンは旗揚げ。96年にはIWAジャパンを離れる。現在はIWAプエルトリコを取り仕切っている。

（注3）丸藤（正道）とかKENTA
プロレスリングNOAHの次世代を担うエース候補。華麗でスピーディーな動きと身体能力の高さを活かした独創的な技術で幅広いファンを魅了。甘いマスクで女性からは絶大な人気を誇っている。左がKENTA、右が丸藤。



（注4）ダン・スバーン



92年にUWFインターナショナルに初参戦を果たしたスバーンは、95年2月のUFC4トーナメントで準優勝、UFC5トーナメントで優勝している。プロレスラーとしての活動も並行して行っており、NWAヘビー級王者としてIWAジャパンにも参戦。伝説となった95年8月の川崎球場大会でターザン後藤を相手に防衛を果たした。

（注5）アクエリアス
IWAジャパンを退団してメキシコへ武者修行へ出たタジリはマスクマン「アクエリアス」になって帰国。96年7月の大日本プロレス後楽園大会で、ドクトル・ワグナーJr.のCMLL世界ライトヘビー級のベルトに挑戦して見事に勝利した。試合後、タジリはリング上でマスクを脱ぎ、ファンに正体を明かした。



（注6）二丁目劇場



IWAジャパンの本拠地である新宿二丁目を中心に繰り広げられるドタバタ記者会見。浅野社長が毎回、さまざまな被害に遭うことからこのような名で呼ばれるようになった。浅野社長が経営する定食屋「花膳」前が襲撃の舞台となることが多い。その惨劇の舞台そのバカバカしさはマット界随一。

撮影／平工幸雄

てたからねぇ。ビールは毎日1ケース飲んじ

まは女子だって、自主興行とか多いんだから。

――「タジリプロデュース興行」ですね。

浅野 どこかの団体に入って拘束されるより、自分でノビノビやるのがタジリらしくていいんじゃない？

タジリ 浅野さんみたいな優秀な経営者の下で、思う存分やらせてもらえるのが一番自分には合っているな。だからそういう、いい方に巡り合えれば一番いいんだけど。

浅野 そう言ってくれるのはうれしいね。でも大きなことをしないで、始めは小さなことからどんどん重ねていってね。欲を出さないほうがいいですよ。そういう時代じゃないから。

――まずはいろんな団体に上がって、日本のプロレスを盛り上げてほしいと？

浅野 （佐々木）健介を見ればわかるじゃない。ああいう形を採ったほうが一番いいと思うよ。絶対に自分が自由にノビノビできると思うし。タジリはいま、いくつ？

タジリ 34歳です。

浅野 あとやったって5年だもん。5年間で一生のものを築かないといけないし。どんどんいろんな団体に上がって、自分の納得できる試合に出て、納得のいかないところには出ないようにすれば、もっともっと大きくなれると思いますよ。

――レスラーの寿命は短いですからね。

タジリ そういえば中牧（昭二）さんは36歳でプロレスを始めたんですよね。それって凄いことですよね、いま思えば。

浅野 大変だったと思うよ。（歳を取れば）身体も動かなくなってくると思うしさ。

タジリ WWEにはエージェントって職務があるけど、引退するまでに選手をプロデュースする側へ段々スライドしていく。そういう受け皿を（プロレス）業界が作っていかなきゃいけないんじゃないかって思いますよ。まだそれが日本にはない。あとやっぱり、プロレスは漠然と試合を1試合目、2試合目、3試合目と積んでいくだけじゃなくて、プロモとかスキットが必要になってくる。いわゆるエンターテインメント寄りのプロレスの場合はね。そういうことを昔の人は知らないから、知っている人がやらなきゃいけない。もう自分が試合をしてトップに立ちたいって思いはあまりないんですよ。もうどうせできないし、若い子にかなわないと思ってますから。だから、プロレスを作る側からバックアップできるような隙間を見つけたいんですよ。

浅野 そういう会社がありますよ、一つ。

タジリ どこですか？

浅野 （満面の笑みで）ウチ。

一同 ハハハハハハ！

タジリ でも、お金で意見を売るっていう仕事がないのはプロレスぐらいじゃないですか？ 他の様々な業界はそういうのがあるのに。

――スーパーバイザー的な職務ですか？

タジリ そう、スーパーバイザー。それがないのはプロレスだけ。これは必要だと思うよ、これからのプロレス界は。古い人の頭じゃ回んなくなった結果、厳しい状況になってるんだから。だから、いろいろ見てきた人がそれをやるべきだと思う。僕は経営のことはわからない。でもショーの演出や、リングの上のことは見てきたから。それだけの会社があっても面白いと思うんだけどね。

浅野 アナタの性格も頑固って知ってるからね。本当にプロレスを考えているなら応援してあげるし。本当に成功してほしいよ。

タジリ お互いに利益になるところで浅野さんとはクロス出来たらいいですよね。そのときはたぶん、自然と巡り合えるんじゃないかな？ 今日こうやって浅野さんと会ったのも、何かそういうことの起こり始めだと思いますから。

――タジリさんがプロデュース興行をやっていくのであれば、社長はバックアップしていくという気持ちは？

浅野 動いてあげますよぉ、いくらでも（笑）。

――二丁目劇場（注6）の一部もぜひ提供してほしいですね。

タジリ それも面白いね（笑）。

浅野 ぜひとも！ 全面的に協力しますから（笑）。

【06年1月5日、東京・新宿二丁目「喫茶タントラ」にて収録】



あさの・たつくに■1952年10月1日、宮城県岩沼市出身。言わずとしれたIWAジャパンのオーナーであり、日本インディープロレス界の顔。以前からプロレス興行をプロモートしていたが、94年にIWAジャパンを旗揚げ。新宿二丁目で定食屋「花膳」を経営する。記者会見のたびに店舗前で浅野社長がプロレスラーに襲撃される"二丁目劇場"でおなじみ。06年1月3日新宿FACE大会からはIWAジャパンの若手を積極的に起用する方針を打ち出した。

お互いの利益になるところでクロスできたらいいですね（タジリ）

タジリ、WWE所属として最後の雄姿！

タジリ&フナキトークショー『CONFIDENTIAL』プチレポート

文・阿部タケシ

昨年12月12日の「ヒート」を最後に、WWEを退団したタジリとフナキによるトークライブが一昨年に引き続き、昨年12月23日、東京・ディファ有明で開催された。タジリはこのトークライブがWWEスーパースターとして最後の姿となった。

両者は2005年を振り返る重大ニューストップ3を公開。タジリの第3位は『師匠タオル』事件。ウィリアム・リーガルがホテルのタオルをいつも拝借していたという英国紳士らしからぬエピソードを披露。昨年、最も印象に残った事件は「○○○○」。中学、高校と憧れていた芸能人が昨年結婚。そのアイドルの"意外な性癖"の噂を耳にし、ショックを受けた事実を告白した。

また、この日はタジリがマスクマンとして活躍していた"アクエリアス"時代の映像や大日本時代の名勝負戦として稔、外道戦などの足跡を振り返り、さらにはサプライズとしてカズ・ハヤシ、小島聡、TAKAみちのく、稔、邪道、外道、田中将斗、大谷晋二郎からのビデオレターを上映。タジリとのエピソードや、所属団体への勧誘、飲みの誘い（大谷のみ）などが流され、場内は爆笑に包まれた。

集まったファンに抽選でクリスマスプレゼント渡した後、最後にフナキからタジリに花束を贈呈。タジリはこの日ファンと触れ合い、さらに各選手からのビデオレターを見て、「もう少し早く日本のリングに戻るかもしれません」と宣言。まずは2月にアレナメヒコに参戦した後、日本でその雄姿を披露するという。果たしてそのリングはどの団体なのか？ タジリの動向に注目！





争乱の大晦日、1月4日——。藤田和之はなぜ背を向けたのか？

前『週刊ゴング』編集長"GK"金澤克彦が独自のネットワークで得た情報をもとに、プロレス界の現状を語り尽くす！　今月のテーマは、新日本プロレスの1・4東京ドーム、そして年末年始、忽然とマット界から姿を消した藤田和之だ！

【かなざわ・かつひこ】前『週刊ゴング』編集長。ニックネームのGKは"ゴング・カナザワ"の意（現在はフリーだが）。携帯サイト『kamipro Hand』でコラムを連載中！

金澤克彦新連載(?) GK談

聞き手／ジャン斎藤　試合写真／平工幸雄　designed by Tani-yan（Two Three）

――金澤さん！　前号に引き続き、今月もよろしくお願いします！

GK　はい、よろしく！

――それで新春一発目のテーマは、例年であれば『週間ゴング』のコラムで有名な山本さん（ターザン山本！）にブッタ斬ってもらっている年末年始のプロレス界の動きについてです！

GK　ああ、山本さんといえば、1・4新日本の東京ドームで会っちゃいましたよ。

――会っちゃいましたか（笑）。

GK　会うなり「お〜い、ジ〜ケェ〜!!」って嬉しそうに声をかけてきたけど、「山本さんをかまってる暇はないので」って突き放しておいた。

――ワハハハ！　冷たいですねえ（笑）。

GK　いや、僕にはその日、解説の仕事もあったからね。しばらく山本さんに触れたくないのは事実だけど（笑）。

――なるほど（笑）。その新日本ドームですが、実況席からご覧になっていかがでしたか？

GK　東京ドームに限らず実況席って一番、見やすいんですよ。最前列で、リングの選手の息づかいからセコンドの声まで聞こえて、肝心の部分はモニターで見られる。そして偉そうに感想まで言えちゃうと（笑）。

――おまけにギャラまでもらえて（笑）。

GK　断っておくけど、決して楽な仕事ではないよ！（笑）。で、今回のドームは興奮が一番伝わるはずの実況席に座っていても、何も引っ掛かるものがなかった。いい試合は続いていたと思うんですけど、熱を感じることはなかったんですよね。リングサイドのお客さんたちも静かだし、とにかくアリーナ席から熱気が伝わってこないんです。

――ボクは浅草・花やしきで選手が配っていた無料招待券で1階スタンド席から観戦してたんですけど、大技で沸く瞬間はあるけど、たたみかけるような連続性のある声援がまったくなかったですね。あと試合ごとの煽り映像が一切ないから、事前情報を仕入れていないお客さんは意味がわからない展開だらけで。

GK　だから、余計にテレビ放映のしっかりさが目に付いたんだけどね。テレビはおもしろかったでしょ？

――はい。現場があまりにもヒドかったから深夜のテレビ放送が、本当におもしろく感じたんです。

GK　ボクも放送を見てビックリしたね。いつの間にこんな映像を一生懸命に作ったんだろう？って。年末のビッグマウス・ラウド興行で前田日明が新日本を挑発した場面や、小島（聡）vs 柴田（勝頼）戦まで流したりしてたでしょ。

――どうして会場で流さないのか疑問だったんですけど（笑）。

GK　その努力のかいあってテレビは視聴率も良かったみたいで、瞬間最高視聴率は曙の試合で6・6パーセントも取ったらしいし。

――あ、そんなに！



新日本1・4東京ドーム。中西の見事な受けの失敗がドームに笑いの渦を巻き起こすが、中西だから問題なし！　ビックマウス・ラウド勢の入場時に前田日明（来場せず）＆上井文彦のノボリが花道を派手に彩ったことも観客のド肝を抜いた!!

新日本の東京ドーム大会は何も引っ掛かるものがなかった

GK　深夜1時台で6・6パーセントなんて驚異的でしょう。番組の最初にいきなり曙の試合から流したことが成功したみたいですね。その次が中西（学）vs ジャイアント・バーナード、ブロック・レスナー vs 中邑（真輔）と続いた番組構成でしたけど。

――その3試合は見た目からしてわかりやすいですね。

GK　それに中西 vs バーナード戦は、いろんな意味で凄かったからねえ……とくに中西が。

――ウケを狙って技を失敗してるとしか思えないというか（笑）。

GK　ボクはセミのときに3塁側のダッグアウトにいたんですね。そこに試合を終わった永田が声をかけてきたんだけど、中西の試合を指して「いや〜、新春初笑いでしたね」って。で、夜に仕事をしながらテレビを見てたら、中西の試合のときに永田からメールで「テレビで見てもやっぱり凄いですね」と（笑）。

――しかし、中西さんのキャラクターがなかったら大問題の試合ですね。

GK　いや、中西のキャラがあっても大問題ですよ。あの試合のあとバーナードが落ち込んじゃったというんだから！

――ワハハハハ！　新日本初登場であんな目に遭って（笑）。

GK　バーナードは全日本では本当にいい動きをしていたし、彼はある種の天才レスラーだから。おそらくバーナードは中西にカルチャーショックを受けたと思いますよ。

――この俺でも試合が成立しないのかと（笑）。そんな感じで一つ一つの試合をすくい上げれば、見ごたえはあったんですね。

GK　一つ一つはおもしろかったですよ、すごく個人的な感想だけど。

――ただ、金澤さんが先ほど言われたように〝引っかかるものがない〟んですよね。金澤さんは前号で「昔の新日本は、半年先の展開を見据えて動いていた」と言ってたじゃないですか。

GK　1月のドームを迎えるころにはもう5月のドームの材料をかなり仕込んでありましたね。

――今回のドームでは、その先にうごめくものが見えづらかったし、何よりこれまでの伏線がうまく活かされていない。BMLとの対抗戦にしても、前田日明があそこまで煽っていたわりにはアッサリした内容で。二試合ともいつか見た風景だったんですよね。

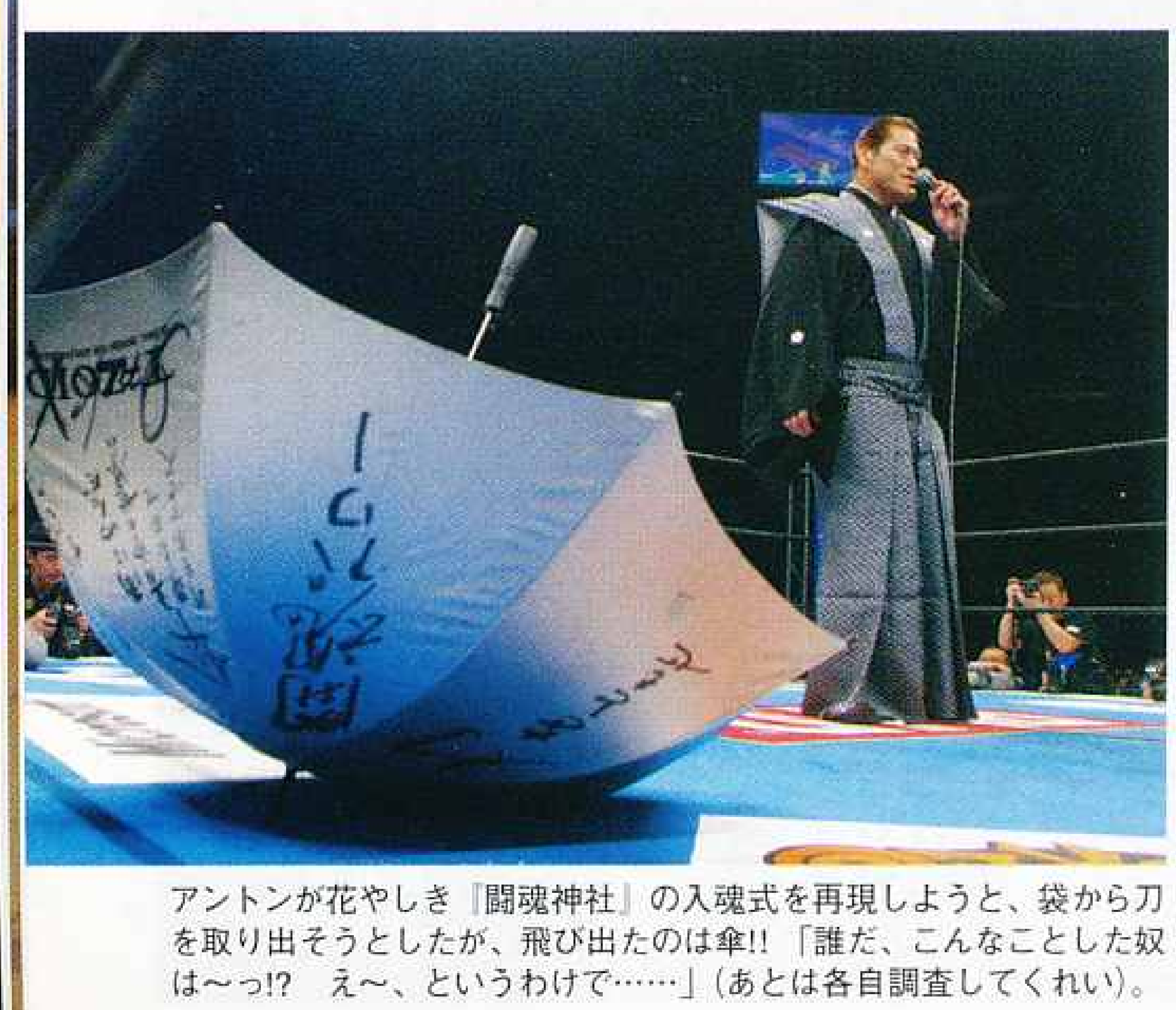
GK　いやいや、放送席の上井さんはそうとう濃かったんだけどね（笑）。

――ああ、確かに！　とても21世紀のプロレスとは思えない熱さで（笑）。

GK　以前も柴田と武蔵がやったときに、K-1サイドの人間として曙さんがゲスト解説にきたんですよ。そのとき上井さんも解説をやったんだけど、態度がひじょ〜〜うに好戦的で、曙さんが挨拶してるのに無視してソッポを向いてしまった。曙は「なんて人なんだ！」って怒ったらしいよ（笑）。

――上井さんは新日本サイドの人間としてプロに徹したわけですか？

GK　あれは上井さんの素の状態ですよ（キッパリ）。



アントンが花やしき『闘魂神社』の入魂式を再現しようと、袋から刀を取り出そうとしたが、飛び出たのは傘!!「誰だ、こんなことした奴は〜っ!?　え〜、というわけで……」（あとは各自調査してくれい）。

——素の状態！　いまのマット界からすれば、貴重な存在なんですねえ。
GK　まあ、ビックマウス・ラウドとの対抗戦に関しては、ちょっとタイミングを逸した感があったよね。本来ならば、5月のドームにやるのが一番熱かった。遅くとも10月のドームじゃないと。
——いまの新日本には鉄を熱いうちに打てないところはありますよね。結論としては団体として新たなスタートダッシュを切れたと思いますか？
GK　う～～ん……（深く考えながら）。一概に言えないから、新日本プロレスなんじゃないの？
——あ、なるほど（笑）。
GK　どうもすっきりしないのがいまの新日本プロレス。今回は「テレビ放送が素晴らしかった」というしかないですよね。
——それで今回のドームのポイントになったのが、ユークスへの株式売却問題を含む新日本と猪木事務所のゴタゴタな関係なんですけども。その渦中で、藤田さんと猪木事務所はメインカードだったレスナー戦をキャンセルしましたね。
GK　藤田は大晦日出場の噂もあったけど、最終的にまったく気配を消しましたね。
——藤田さんが年末年始に姿を消したことは、政治的な理由が大きいと思うんですが、意図的なところも多少はあったんじゃないかな、と。藤田さんの動きをイチから検証すれば、ドームのレスナー戦が発表された当初から、業界ではカード消滅の噂が絶えなかったわけじゃないですか。
GK　長州さんが言っていたとおり、なぜかマスコミがこのカードを大きく報道しないし、触れたがらないという状態があった。結論を先に言えば、新日本と猪木事務所のコミュニケーションが取れなかった波を、藤田がモロにかぶってしまったわけです。

——だからこそ金沢さんは携帯サイト『ｋａｍｉｐｒｏ　Ｈａｎｄ』のコラムで「藤田に非はない」と擁護したわけですね。
GK　そうです。確かに藤田はサイモン社長にお世話になっていたけど、最終的にそこにこだわることはできないでしょう？
——個人的な友好関係とビジネスはまったく別ですね。ちなみにこのカード決定に、藤田さんの意志は介入してなかったんですか？
GK　してないです（キッパリ）。
——あ、そうだったんですか！
GK　レスナー戦は藤田本人の何も知らないところで『ワールドプロレスリング』で発表されてしまった。もちろん番組スタッフは新日本に確認を取っているわけだけど……どこからか勝手なゴーサインが出ちゃったんでしょう。
——……まったくわけがわからない展開だったんですね。
GK　でも、そこで藤田が「聞いてません、知りません、冗談じゃない！」と怒るわけにはいかない。藤田は一応、サイモン社長に義理立てて記者会見には出たけど、「どっちが今回の絵を描いたのか？　新日本なのか？　猪木事務所なのか？　非常に気分が悪い」と言いたいことはハッキリ言いましたよね。
——「でも前回の借りがあるから、レスナーに挑戦したい気持ちはある」とも。



フジテレビ『ＰＲＩＤＥ男祭り』中継で突如オンエアされたヒョードルvs藤田戦（03年5・26『ＰＲＩＤＥ・26』）。藤田がヒョードルを史上最大のピンチに追い込んだ試合だったが……放送した意図とは？

GK　この「挑戦したい気持ちはある」という微妙なニュアンスで止めるところが、彼のスマートなところですよ。ただ、あの会見出席を指して、藤田が出場を了承したという解釈をするのはおかしいですよ。
——へんな話、藤田さんが最初から欠場することを見越してカード発表した節はあったんじゃないですか？　それによって政治的に有利になる人間がいてもおかしくない政局だったと思いますし。
GK　でも、サイモン社長自身は、前回のドーム終了時から「藤田に挑戦してほしい」とハッキリ言ってましたからね。藤田がレスナーと対戦する流れは全然おかしくない。ただ、きちんとした交渉が伴わないままズルズルと時間が経ってしまったんでしょうね。
——結局は新日本と猪木事務所の交渉が決裂したというだけなんですか？
GK　う～ん。交渉決裂というか、交渉以前の問題というか。簡単なコミュニケーションすら取れる状況じゃなくなったということでしょうね。今回の件も含めて新日本と猪木事務所の関係は、近日中に何かしら結論が出るんじゃないんですか。
——たとえば、猪木さんが猪木事務所から距離を取ることもありえると？
GK　いや、猪木さんの場合は、離れる・離れないという問題じゃなくて、新日本をサイモンに任せたいという強い気持ちしかないんじゃないかな。だから新日本はサイモンさんが社長、菅林（直樹）さんが副社長、という体制が維持されると思いますよ。長州さんの〝現場監督〟という任務がどうなるかぐらいで、新日本の体制は基本的には変わりはないでしょう。
——ただ、選手の契約更改を含めて今月末まで目が離せないところはあるわけですね。
GK　そうですね。現時点でいろんな噂が飛び交っているし……たとえば、●●さんが新日本に復帰するとか。
——……本当にありえそうだから怖いですよ！　話を戻すと、ドームキャンセル後の藤田さんは大晦日に照準を合わせてたんですよね。
GK　そうですね。藤田はどういうかたちになってもいいように、アメリカのマルコ・ファス道場でコンディションをつくってましたね。ドームでも大晦日でも闘えるように。周辺情報で聞いたところによると、やっぱり大晦日は両サイドからのオファーがギリギリまであったらしいですね。
——自分が聞いた話では、猪木事務所内で派遣先の調整が付かなかった、と。簡単にいうと、窓口が二つあったみたいで。
GK　そういう見方もあるかもしれないですけど、結局は藤田に連絡が取れなかったみたいですね。
——金澤さんも連絡は取れなかったんですか？
GK　取れる・取れないは別にして、彼はプロレスに関してはしゃべるけど、格闘技の話は口を固く閉じますね。
——固く口を閉ざす理由ってなんなんでしょう？
GK　やっぱりヘタに話を漏らしてしまうと、迷惑をかけるからでしょう。とくに大晦日は『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』と『男祭り』の選手争奪戦は凄いじゃないですか。だってボクが『ｋａｍｉｐｒｏ　Ｈａｎｄ』の連載コラムで、「い

まのところ藤田は『男祭り』が有力だ」って書いただけで、大変な騒ぎになったんですよ！

——ああ、『Dynamite!!』出場が濃厚だっただけに反響が大きかったですね（笑）。聞く限りでは、『Dynamite!!』側は藤田さんにピーター・アーツ戦をオファーしたけど、まとまらないとみるや、なんと永田さんに打診したというナガタ・マニアにはたまらない展開があったみたいで（笑）。

GK　真偽はわからないけど、そういういろんな噂が飛び交ってたよね。でも、藤田は大晦日にちゃんと出たから、それでいいんじゃないですか？

——は？　どういうことですか？

GK　ほら、『男祭り』のテレビ放送で藤田のヒョードル戦が流れていたでしょ（笑）。

——あ〜、なぜかノーカットで放送されてましたね（笑）。

GK　ちゃんとした説明なしに過去の映像が流れたから、ボクには普通に藤田が出場してるように見えましたから（笑）。最初は「なんで藤田が出てるの？」と目を疑いましたもん。

——あの試合をわざわざ放送したのは、なにかしらのメッセージなんですかねえ……。

GK　理由はよくわからないけど、普通に良い試合でしたよね。個人的には大晦日の試合で一番おもしろかった！　あのヒョードル戦を見たら、「もう一度、ヒョードル戦を見たい」「藤田ならやっちゃうんじゃないか」という期待感が膨らみましたよ。

——ちなみに藤田さんって大晦日はどう過ごされてたんでしょうね？

GK　電話で聞いたら、テレビで『男祭り』と『Dynamite!!』を見ていたそうですよ。一番、気にしていたのは……中尾の試合ですけど（笑）。

——そうなんですか？（笑）。

GK　あの試合、テレビで流れなかったですよね。ボクが試合の顛末を伝えたら全然信用しなくて。「そんなことがあるわけがない！（笑）」と。ネットだとあの動画は確認できるみたいですけど、藤田はパソコンをまったくいじれないですからね。

——しかし、テレビで『男祭り』と『Dynamite!!』を見ていたってことは、それなりに注目はしていたってことですね。

GK　もともと格闘技を見るのが好きってことはあるんですよ。まぁ、藤田の行き先は、年間契約を結んでいる猪木事務所の動きに左右されるでしょうけど、藤田の頭の中に新日本のリングはもうないでしょう。

——新日本登場はなし!!

GK　ないでしょうね。そうなったら戦場は総合格闘技のリングしかない。

——ズバリ、『PRIDE』とK−1、この二つに絞られるわけですよね。

GK　そう考えたら、藤田が大晦日を音なしの構えでやり過ごしたのは、最高の選択でしたよ。ボクは、昨年で大晦日の格闘技バブルは弾けたんじゃないか？　という気がするんですよ。〝格闘技バブル〟じゃなく〝大晦日の格闘技バブル〟がね。今回は、地道に頑張ってきた『PRIDE』が勝ったわけだけども、紅白に太刀打ちできなかった。出せるカードは全部出して、タレントまで総動員して。

——そこで藤田さんが姿を消したこと、図らずもヒョードル戦がテレビで流れたことが新鮮さや存在感をアピールするかたちになりましたね。もしアーツ戦を受けていたら、小川vs吉田戦という大嵐の中に消えていたかもしれない。

GK　それも彼の考えていたことの一つでしょう。「いまの状況で自分が出ることに得があるのか？」という。それから猪木事務所付きの藤田に交渉する、ということは藤田のギャラは高いわけです。となると「ギャラと視聴率が見合うのか？」という問題もあるが、両派が追い込みのときに「やっぱり藤田がほしい」となる。でも、そこで踏みとどまったのがいかにも藤田らしい。なんせ、去年は働きすぎましたから。

藤田の頭の中には新日本のリングはもうないでしょう

——え？　藤田さんってそんなに試合をしてましたっけ……？

GK　いや、もともと1年に3〜4回しか働かない男だからね。マーク・ハントの次に働かないでしょう（笑）。

——ああ、ハントレベルの労働基準なんですか（笑）。

GK　でも、今年はハントも働きそうだし、藤田もやってくれるでしょう！

——期待感はあると思います。たとえば、小川さんは今回の吉田秀彦戦で自分が持っていた幻想や物語性、つまり、橋本さんも含めて背負っていたものをビッグバンすることができた。藤田さんはここ1年くらい、自分の幻想や物語を爆発する機会に恵まれていない、という現状があると思うんです。

GK　うん。だから今年は藤田とって、溜めに溜めたことでもの凄いチャンスなんですよね。ただ、藤田自身は、自分をタレント的に売ろうという発想がない性格なんだよね。要するに彼は照れ屋でもともと人前に立つことには向いていないし、それに頭がいいから考えすぎるんです。「挑戦したい気持ちはある」という言葉を自分で考えたり、含みを持たせてプロレスラーらしい答えを出すわけですよね。

——そんな藤田さんが次にどんな言葉を発するのか、どんな選択をするのか？　というのは俄然、興味がありますね。

GK　もし仮に『PRIDE』を戦場に選んだ場合、ヒョードルとの再戦やノゲイラ戦、吉田秀彦戦だって避けて通れないでしょう。あと、小川直也戦はどうかな？　小川と藤田はプロレスでは同期で同門だから、難しいと思うけど……。

——一般世間へのアピール度は低いですけど、マット界的には小川vs吉田戦より〝禁断の対決〟ですよ！

GK　どっちも嫌がるだろうね……。でも、そんな妄想をしてしまう楽しさがいまの藤田にはある。こんなこと騒いでいて、結局、藤田は出なかったりして（笑）。

——やっぱり「マーク・ハント並みに働かなかった」というオチもあると（笑）。

GK　いや、それがありえるから藤田和之なんですよ！

【06年1月7日／代々木「ルノアール」にて収録】

あなたの心に明かりを灯す年末年始プロレス界ニュース

前田、1・4は不在も新日本を挑発！



12・29ビッグマウス・ラウド後楽園大会で前田が吠えた!!「1月4日で新日本の弱虫どもを懲らしめてあげようかなと。」新日本に警告の一言〝Watch out Here comes trouble!〟言ってる意味は各自調査、とにかく凄い自信だ！

花やしきに『闘魂神社』特設ダー!!



浅草・花やしきに『闘魂神社』が年始限定設置。そのお披露目式で噂のモーター『闘魂パワー』の公開始動式。パブロ猪木が「君が代」熱唱後、アントンがスイッチを押すと神社内の明かりがボンヤリ灯る。すごいのか、すごくないのか……。

彰俊、ようやくNOAH入団



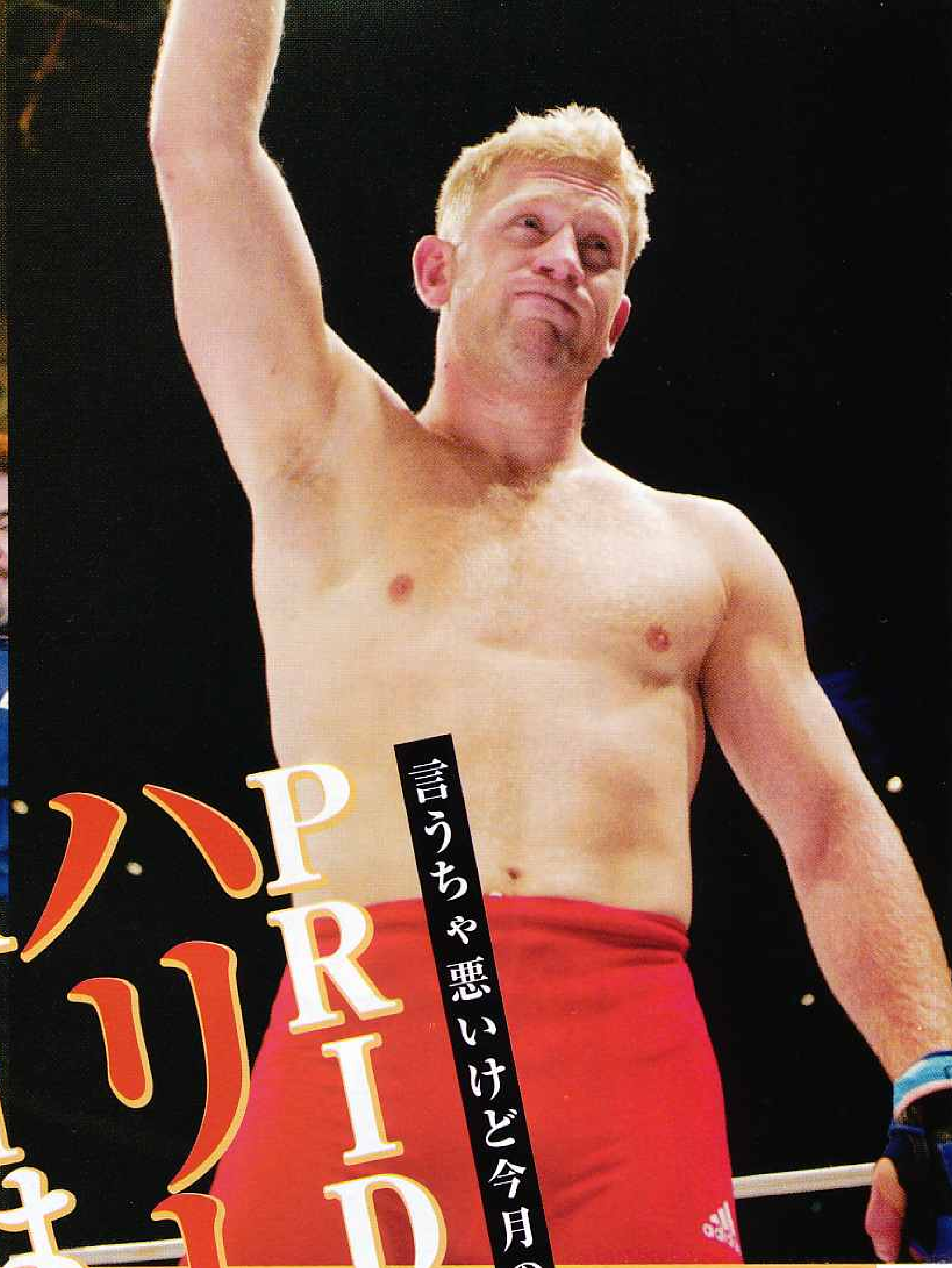
1月8日、ハリトーノフと並ぶ〝もうひとりの死神〟こと斎藤彰俊（ダークエージェントというワル軍団）のNOAH正式入団が電撃発表。NOAH初期から参戦していた彰俊がこの時期に入団した理由とは……？　死神からのお告げか!?

新成人と乱闘!?　よくやったサスケ!!



盛岡市「成人のつどい」で市長の挨拶中、新成人がクラッカーを鳴らすなど妨害。怒りのサスケがその男を会場外に連れ出そうとすると、卑怯にも男の仲間がサスケを取り囲む。大事には発展しなかったがサスケよくやった！な事件だ。





言うちゃ悪いけど今月の直言!!

PRIDEはハリトーノフを K-1はチェ・ホンマンを エースにせよ!

プロレス・マスコミの"生きる伝説"

I編集長の

喫茶店トーク・ラウンド

2006年も元気いっぱいにお送りする『I編集長の喫茶店トーク・ラウド』。新年一発目の今回は、毎年恒例、『PRIDE』、K-1、新日、ハッスルにI編集長が提言をかまします!

聞き手/堀江ガンツ　designed by bun-chan（Two Three）





I編集長とは?

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳になったいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。



PRIDEへの提言

ミルコとハントをWBCムエタイ部門でタイソンと闘わせよ！

――さて、井上さん。あけましておめでとうございます！　今年もよろしくお願いします。2006年も元気よくいってみましょう！

井上　あいあい。

――では、新年一発目ということで、今年も「I編集長からマット界への提言」といった形でお話をうかがいたいのですが。

井上　まぁ、提言というか、見通しというか、予言めいたことも含めて話ていこうと思うけどね。

――予言！　いいですねぇ（笑）。

井上　これはDSEとFEG、それからプロレスといったものををゴッチャにして話してもしょうがないから、個別に話しますけどね。

――まずは『PRIDE』からいきましょうか。

井上　まぁ、『PRIDE』で言うたら、俺がもう去年あたりからチラチラ臭わせているけど、ヒョードル、ノゲイラ、ミルコのビッグ3。それから桜庭、吉田、田村らの時代というのは、今年の前半に終わると！

――上半期でみんな終わっちゃいますか！

井上　全部いっぺんに終わるわけではないけれど、これまでの光り方からグッと鈍るというね。去年あたりからそういった兆候は見えとる。ヒョードルにしたって反射神経がやっぱり鈍ってきてると思ったし、ミルコにしたって発展性はないし。まぁ、ある程度リニューアルすることによって光ることはできると思うけどね、ミルコにしたっても う俺がなんべんも言うてるように、左ハイキックだけの一発勝負じゃダメだと！（ドンッ）。

――かなり読まれてきてますからね。

井上　あんなもん、昔はみんな食らっとったけどやね、もう来るのがわかってるんだから。君だってガードするだろう。ずーっと右側のガードを上げておけばいいんだから。

――僕が食らったら、ガードの上からでも即死でしょうけどね（笑）。

井上　まぁ、相手は俺や君じゃないんだからね。ヒョードルとかハントとかそういった連中なんだから、これはもう読まれますよ。だからもう左だけじゃなしに、右もどんどん使わんといかんし、パンチもワンツースリーで必ず3発打つと！　ヒョードル戦にしたって、もう少し思い切った打ち方をしてたらストレートで倒せとったんじゃないかというシーンがあったからね。だからウラジミール・クリチコゆずりのパンチをある程度身につけているんだし、左ハイは「ここぞ」というときだけ出すぐらいにせんとダメですよ。

――そうしたら、打倒ヒョードルも見えてきますか？

井上　いや、ヒョードルに勝つには寝技での凄い〝殺し〟、これを身につけんとやね。ミルコも寝技の特訓はしてるんだろうけれども、守るだけじゃダメ。もう組み付いた瞬間、「えー！」っと驚いたときにはもうタップしてると、そういった技を身につけんといかん。

――ミルコはそんな神業を身につけないといけませんか（笑）。

井上　ノゲイラあたりはできると思うけどね。前にチラッと見せたわな。首を掴んだ瞬間に身体ごとひねる技があっただろう。

――あ、スピニング・チョークですね。

井上　あの男はそういった技をいくつも隠しもってるからね～。ただし、このままいくとミルコとノゲイラ、この二人の時代は今年前半で終わってしまうと。もうシウバがそうだもんな。大晦日のシウバの試合を見てご覧よ。あんな試合だぜ。あれでよくシウバが判定勝ちしたと思って、俺は不思議でしょうがない。あれはアローナの勝ちですよ。キミもそう思うだろう？

――まぁ、かなり微妙でしたよね。

井上　あれは誰が見たって「シウバの判定勝ち」っていうのはおかしいですよ！　かつてのK－1がなんでもかんでもホーストの勝ちにしとったのと同じことを『PRIDE』がやっとったらイカン！　俺の周囲のプロ格者もみんな「なんですか、あれは！」と言うとる。素人判断と玄人判断は違うと言うかもしれんけど、あんなもん素人判断も玄人判断ない！　勝負というのは背中を見せたほうが負けなんだよ。背中を見せたのはシウバのほうじゃないか！　だから永禄4年の決戦にしてもそうですよ。

――永禄4年の話ですか（笑）。

井上　永禄4年の川中島の決戦を「あれは引き分けだ」というバカがおる。「死傷者の数から見たら互角だ」とね。なんでそんなバカなことを言う歴史家がおるのか。囲み作って逃げたのは上杉謙信じゃないか。それをみて「えい、えい、おー！」と三回勝ちどきを上げたのは武田信玄じゃないか。そんなもん、死傷者の数でジャッジされたらたまったもんじゃないですよ！　それはシウバvsアローナも同じなんだよな！

――シウバvsアローナが川中島の合戦と同じとは思いませんでした（笑）。

井上　そういった姿を晒したということは、やはりシウバの衰えですよ。だから、いま言ったように〝ビッグ3〟と桜庭、田村、吉田、シウバの時代というのは、おそらく8月ぐらいで消えるだろうと。そして彼らに代わって出てくるのは言うまでもなくハリトーノフであり、ショーグンであり、五味であり、中村カズであると。それから、まだ見ぬ強豪がロシアン・トップチームにもレッド・デビルにもおるからね。シュート・ボクセにだって凄いのがおるんだから。そういう僕らが名前を知らない連中がダーッと出てきますよ。ショーグンが初めて出てきたときから、俺は「ショーグンの時代が来る」と言っとったんだから！　だから〝大阪のバカ〟が言ったようなことでもね、「あんなド素人が」というようなことでは困る！

――凄いヤツは誰が見ても出てくるんだと。

井上　ハリトーノフ、ショーグンの上をいく選手がいるかもしれない。まぁ、少なくともハリトーノフが「ロシア人はロシア人が始末する」ということを言っとるけど、いまのハリトーノフではまだ無理。やっぱりもう少し鋭い「エーッ」というような強さ、新殺法を身につけたときにヒョードルは倒れ、そしてハリトーノフの天下になると。まだいまのままではね、素人に読まれる。あの戦法ではな。

――現時点ではやはり難しいですか。

井上　やっぱりハリトーノフにしても、いまより2倍も3倍も4倍も5倍も苦労してごらんよ。それとやっぱり〝殺し〟を使わんとね。ハリトーノフをなぜ俺がダメだと言っとるかといったら、「試合」をやっとるからダメなんだよな。

――試合をやったらダメなんですか？

井上　あいつは〝殺し〟を知ってるのに、『PRIDE』のリングに上がると、ちゃんと試合をやっとるんだよ。それじゃあ、ハリトーノフの本当





大晦日の『男祭り』でも圧倒的強さを見せたヒョードル。今年、その牙城が崩れることはあるのか？　またミルコは『PRIDE』本戦以外にも重要な役目をはたすか？



の魅力は出てきませんよ。発想をガラリと変えて、「これは試合じゃないんだ」と、「これは殺しなんだ」と。ハッキリ言うたら、あいつが戦場で敵に見つかったら、そいつと試合なんてやらんだろう。
——戦場で敵と鉢合わせして、PRIDEルールでは闘いませんよね（笑）。
井上　相手が機関銃を持っていたら、殺されないうちに、相手を殺すだろう。それを試合で見せんとな。
——リング上で相手を殺すところなんて見せられませんよ！（笑）。
井上　実際に殺しはしないにしても、「これは試合じゃない、戦場だ」と思ったら、あの男のことだから背筋が凍るような〝殺し〟を持ってますよ。それを見せたときがハリトーノフの天下ですよ。
——ヒョードルが死なないことを祈ります（笑）。
井上　あと、DSEのもうひとつの柱としたら、これは海外戦略ですよ。しかも、単なる海外進出ではなく、WBC（世界ボクシング評議会）が立ち上げたムエタイ部門にミルコとハントを送り込むと！
——ああ、あの去年新設されたという。
井上　だからミルコとハントを大晦日に闘わせたというのは、そういったこと匂わせた、榊原社長の伏線ですよ！
——あのミルコvsハントにはそんな意味がありましたか。
井上　今回、ミルコが負けたといっても、ま負けた部類には入らんからね。とにかくミルコ、ハントはWBCに行って、やがてタイソンと顔を合わせると。これはタイソン自身も動いてることだから、夢物語でもなんでもなく、〝大阪のバカ〟だけが言ってることじゃない。ハッキリ言うて、ミルコvsタイソンがWBCムエタイのタイトルマッチとして実現する可能性は十分ありますよ。
——それは夢が広がりますねぇ。
井上　もう榊原社長はそこまで考えてますよ。だから今年は国内のヘビー級GPと平行して、DSEは海外戦略に力を入れていくと、こういうことが予想されるわな。
——ではK—1はどうなりそうですか？
井上　これはやっぱりチェ・ホンマンがエースの座をしめるでしょう。そうじゃなかったら、K—1の今年はない！
——そこまでチェ・ホンマン一人にかかってますか（笑）。
井上　チェ・ホンマンがエースにならなかったらいったい誰がエースに立つんだよ。そんなの武蔵でもなければ、サップでもなければ、ましてや曙でもない。だから、そのためにも「チェ・ホンマン」なんていうダサいリングネームじゃなくてね、「なんとかウー」とか、世界に通じる名前にせんといきませんよ。
——今年のK—1は「なんとかウー」にかかってると（笑）。
井上　韓国語じゃなくて、世界に通じる一般用語じゃなくちゃダメ。チェ・ホンマンが改名したときに、K—1は道が開けるだろうな。
——では、今年はその「ウー選手」に期待しましょう（笑）。
井上　あとはやっぱり強豪発掘でしょう。新しいヒーローを生まんことにはしょうがないからね。いつまでも魔裟斗、KID、所と言っとったのではダメ。
——所英男すらもうダメですか？
井上　それほど時代は早いんだよな。みなさんが考えてるように「所はこれからの選手」とか言っとったんではいかん。所だけじゃなくて、魔裟斗でもKIDでも須藤でも、一つ二つ負けてご覧よ。もう忘れられていくんだから。プロレスとは違うんだから。K—1中量級の連中だって、あっと言う間に昔の名前になっていきますよ。だから新しい強豪を発掘せんといかん。まずは海外戦略ということだろうけど、K—1は韓国を拠点に上海、北京あたりに打って出るだろうな。
——K—1はアジア進出ですか。
井上　前田にしたってコリア軍団を作ったぐらいだからね。あとは猪木の発電機（闘魂パワー）のイベントとして、それに便乗する形での海外戦略というのも当然考えとるはずや。
——K—1と猪木の「闘魂パワー」の合同イベントですか！（笑）。
井上　そりゃやりますよ。今度、新日本がバングラディシュに行くのも、猪木がすべてお膳立てをしたところに、「さぁ、行きましょう」と便乗するわけだからね。こんなもん『kamipro』だってできますよ。
——「闘魂パワー」があれば、『kamipro』の海外進出も可能ですか（笑）。
井上　そう言った意味ではね、猪木の「闘魂パワー」というものを、K—1も利用するんじゃないかと思うけどね。広告試合だから、元はある程度取れるしね。だから全面協力じゃないにしても、そういったことを考えるのも経営者の力量ですよ。それがいったん軌道に乗ったら、今度は猪木なしでも開催できるようになるわけだから。谷川の旦那あたりは、そこまで考えてると思うけどね。
——谷川さんは「闘魂パワー」まで視野に入ってますか（笑）。
井上　まぁ、あとはDSEとK—1というのは何らかの形で交流し合ってほしいと。合同興行とはいかないにしても、チェ・ホンマンを貸して、ミルコを借りるとかね。思い切ったことをせんと。とにかくK—1は早急に勝負論を確立しないとダメですよ。もうとにかく曙だの、オロゴンだの、武蔵、サップとか言っていてはダメなんだよ。こういった観客論では視聴率が取れないというのは、大晦日にハッキリしたじゃないか。だから本当の意味での勝負論、そういう意味ではやっぱり強豪の発掘ですよね。
——では、次は新日本プロレスにいってみましょうか。
井上　今年の新日本はどうなるか。それは言うまでもなく〝上井カラー〟ですよ。
——え！　ビッグマウス・ラウドの上井さんの色に染められちゃうんですか？
井上　やっぱりいまの新日本は言うまでもなく、サイモン社長体勢ですよね。だから、やっぱり今年は上井さんとの交流というのがいっぱいでてくるはずですよ。そうなってくるとプロレスではなくプロ格の方向。ファースト・オン・ステージの


2005年に大ブレイクした“シンデレラ・ボーイ”所英男。人気が爆発するのはこれからだと思うが、I編集長はさらなるニュースターが必要だという。

FEGへの提言
チェホンマンなんていう名前はやめて、世界に通じる名前にせよ

中村社長にしても、上井さんに対抗するはずだから、これは新日本プロレスとの交流というのを考えたときに、必ずプロ格の方向に行くと。

——ZERO1・MAXまでプロ格ですか（笑）。

井上 そうじゃなかったらね、新日本もBMLもZERO1・MAXもいままで通りのプロレスやってたらね、それこそ今年は潰れますよ。BMLにしても暮れに後楽園ホールでやっていたけれども、あれはオールドタイマーを集めた懐メロであって、全然別ジャンルなんですよ。あれはオールドファンに向けて懐かしのメロディを聞かせただけで、ああいったこともたまには必要なんだよな。俺だってテレビ東京でやってる懐メロの番組を見るしね。

——『年忘れにっぽんの歌』を見ますか（笑）。

井上 でも、そればかりやってもラチはあかん。そうなると、上井、中村、そして新日本の副社長・菅林あたりが考えているのは、当然プロ格の方向であると。だから今年の新日本プロレスというのは、もうひとつK—1との対戦が非常に重要になってくる。たとえば中邑とか、真壁とか、後藤といった連中がワンマッチでいいからK—1とやると。ルールはK—1ルールでも闘魂ルールでもなんでもいいんだけど。

——闘魂ルール（笑）。

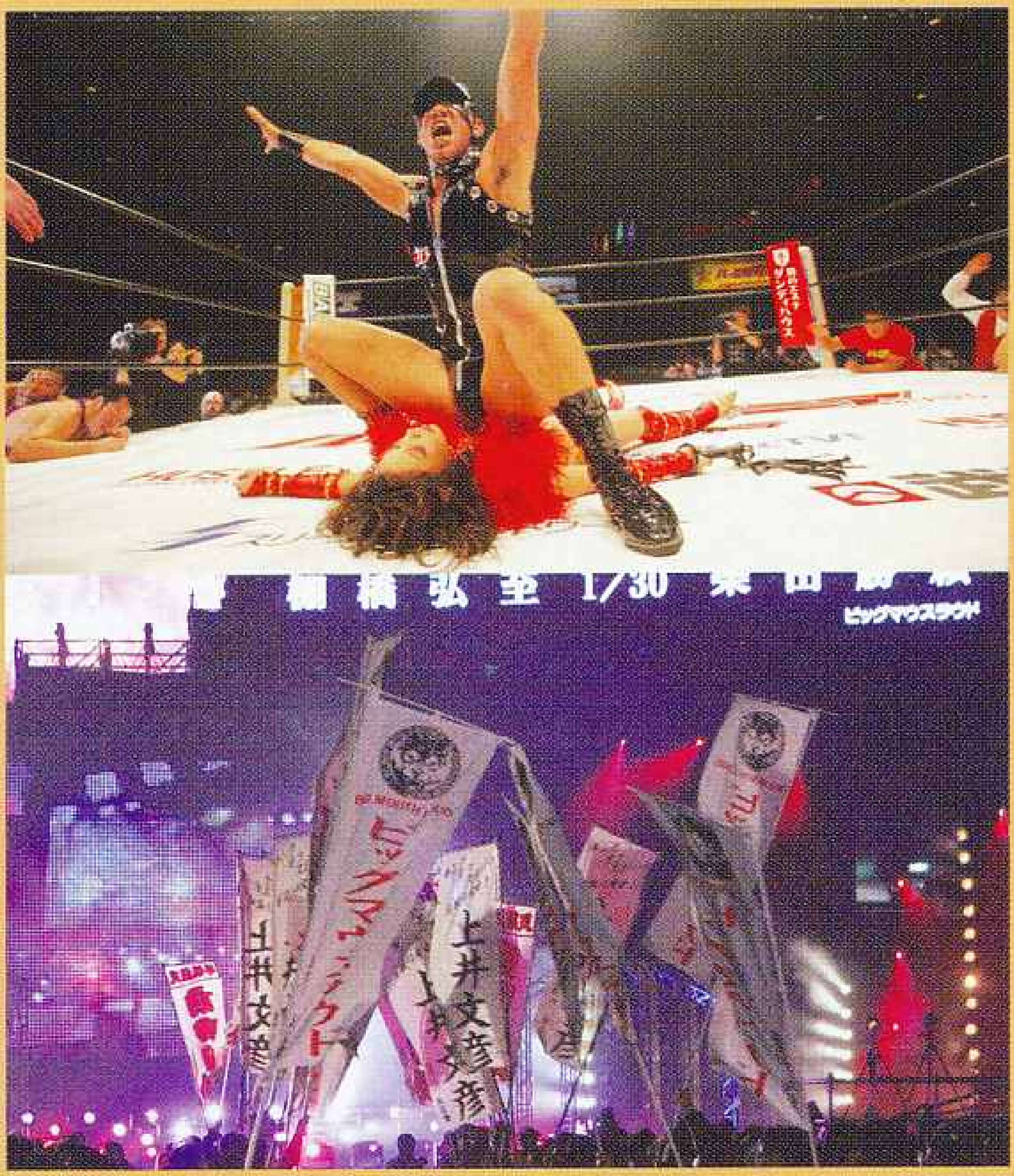
井上 そういったことが出てこないと、「新日本は真剣勝負でやるんだな」とね、そういう印象を持たれない。やっぱりね、かつての新日本プロレスがなぜあれだけのことを成し得たかというと、猪木の異種格闘技戦とかね、そういったもんが非常に大きな働きをしてるんだよ。あそこで本当の真剣勝負を何度かやったからこそ、猪木の試合というのは真剣勝負に近いものだという目でみんな見とったはずなんだよね。そういったことをやらんと。猪木vsローランド・ボックなんかは、純然たる真剣勝負だからね。あれは藤原が言っとったけど……（以下、ローランド・ボックとのシュツッドガルドでの試合や、猪木vsルスカ、猪木vsザ・モンスターマンといった〝真剣勝負〟の話が20分ほど続く）

——なるほど。

井上 だからこれからの新日本プロレスというのは、とくに中邑あたりもね、もう腕の一本も犠牲にする気持ちで真剣勝負を打って出ろと。そうじゃないとね、いかんですよ。中邑、真壁、後藤が中心になってね、若い連中をどんどんプロ格要因として育てていたら、いまごろはいっぱしのファイターになってますよ。そういったことをやらないと、新日本プロレスというのはドームでやろうが都庁でやろうが客が入るはずがない！

——都庁ではやらないと思います（笑）。

井上 そんなもんね、地方なんか行ったら「2000人（主催者発表）」で800人しか入ってな



インリン様の引退により、新章を迎えたハッスル。今年のエースはHGか？　またガタガタの新日本はビッグマウス・ラウドとの“プロ格”対抗戦を続けるのか？

ハッスルへの提言
子ども向けヒーロー番組の〝中身〟をハッスルの若手にやらせよ！

新日本への提言
中邑が腕一本犠牲にするつもりでK-1との真剣勝負に討って出ろ！

いなんていうのはザラなんだよ。そんなことを続けてどうするんだよ。そういったことがやっぱり東京ドームの退化につながっとるんだよ。1・4が成功しなかった要因というのは、10・8とは違うプロ格の方向を目指すという、〝大阪のバカ〟が言った方向を打ち出せなかったことが大きいと思うよ。

——プロ格どころか、よりによって新日本vsインディーの全面対抗戦ですからね（笑）。

井上 だから中邑にしたって、レスナーと真剣勝負をやらせればよかったのよ。

——レスナーvs中邑の真剣勝負ですか！

井上 筋書きを最小限に押さえてね、勝てば中邑がチャンピオンという、そういうルールを作っとればまだよかったんだけども、やる前からね中邑は噛ませ犬だと、わかってしまっておったんではね、プロ格者にしたって誰にしたって、見ようとはしませんよ。やっぱり新日本が真剣勝負をやるない限り、K—1に走り、PRIDEに走ってった連中は振り返らんよ。振り返らせるには真剣勝負しかないんだよ。これは総合ルールの中にプロ格のルールを入れろと言う大阪のバカの提案だけども。この前の曙とオロゴンにしたって、そのルールを加味して場外乱闘もあり、というね、そういったルールでやってたら、まだ見れた試合だったわな。そうでないからああいうつまらん試合が続く。それは真壁の試合にも、棚橋の試合にも、言えるんだよ。そういったもんで勝負をかけろと。そのためにサイモンが社長になり、上井さん、中村さんが手を組みましょうと。だから新日本プロレスの方向はそういうことだと思う。だからユークスあたりが強い態度を打ち出していいと。大いに口を出してそれをやらんことにはダメですよ。

——では、最後にハッスルについてうかがいます。

井上 これもね、やっぱりいつまでも小川に頼っていたんではダメだと。やっぱり小川もオールドネームだからね。それに代わる主役が必要なんだけれどもHGではちょっと弱い。やっぱりね、ハッスルの主役というのは、筋書きがあることをやっていても強い人間じゃないとダメですよ。だからタレント、アクターじゃなくて、本当の意味での格闘家があいうことをやらんことにはやっぱり演技だけやったってダメなんであって、思い切った若手というのを起用して、小川で勝負できるあいだに、育成していくしかないだろうな。

——小川直也の後継者が必要だと。

井上 やっぱりハッスルファンなんかが求めているのは新しい意味でのハッスルカラーですよ。だから、それを今年中に出せるかどうか。そのためには「えー！」っと驚くようなマスクマンを登場させるとかね。だからハッスルなんかはとくにテレビ局なんかと提携できると思うんだよ。そうしたらテレビに出ている子ども向け番組のヒーローの中身をハッスルの若手にして、半年なり3カ月なり番組を続けて、最終回にマスクを脱いだらハッスルの若手だったと。そのままヒーローとしてハッスルにデビューさせたら、これは人気が爆発しますよ。


——ヒーロー番組との連動が必要ですか。

井上 だからこれは、どこにもあてはまるけれど、思い切った若手を登用して、新しい時代を作らないかん。これが〝大阪のバカ〟からの提言ですよ。

——わかりました。では、今年もよろしくお願いします！

井上 はーい。

【06年1月8日／電話取材にて収録】



ボクがカツラを被った訳——。なぜか本誌で告白!!

小口雅之

［草加有沢］

クサー

君は笑って胸にしみる奇蹟を知っているか？

ヅラが外れたボ

聞き手／ジャン斉藤　撮影／丸山剛史
写真提供／郷龍一　designed by nogu (Two three)

05年12月13日後楽園ホール。ワイドショーなどで大々的に報道されてご存じの読者も多いと思われるが、それでも声を大にして紹介せずにはいられない。ボクシングのスーパーフェザー級8回戦で、前代未聞のアクシデントが起こった！

なんと試合中、ボクサー小口雅之の頭髪が対戦相手のパンチをもらうたびに、フワリ、フワリと浮き上がる……ズバリ、ハゲしい打ち合いでカツラが外れかけたのだ！

カツラのズレぶりは回が進むごとにハゲしくなり、勝敗以上にその行方が注目される。いったいどうなるんだ……？

そして4ラウンド終了後、意を決したセコンドがついに小口のカツラを取り外すと――「そっちのほうがカッコイイぞっ!!」

それまで、目が疑う光景に固唾を飲んで見守っていた観客たちは、小口の心意気とその頭に声援を送ったのである。小口も最高だけど観客も素敵だ！

精神的に吹っ切れた小口雅之は、鬼神のようなラッシュで7回TKO勝ちを飾る。こうして一躍ヒーローになったわけだが、いかにして図らずもミラクルを起こしたのか、なぜかボクシングとはまったく無縁の本誌で検証独占インタビューを試みた。

「カツラ」と「ボクシング」の絶妙なハーモニーを頭皮の穴まで感じてほしい！



――小口さん、今日はよろしくお願いします！

小口　（渡された『kami-pro』の表紙を眺めながら）……あ、前に、本屋で見たことあるかもしれないですねぇ。プロレスの雑誌なんですか？

――厳密に言えばそうなんですが、『kami-pro』は、ジャンルを問わず、凄くて、おもしろくて、己を剥き出しで生きている人物を取り上げていこうという雑誌なので。小口さんのこともぜひ取材しないといけないと思いまして。

小口　あ～、俺、全然凄くないんで……。

――いや、こないだの試合は映画やドラマを超えるもの凄さでした！

小口　でも、"お笑い"じゃないですか。

――たしかに入り口は"お笑い"なんですけど、最後はそこを突き抜けたインパクトがあったと思うんですよね。

小口　ホントですか？（屈託のない笑顔で）。

――だって、ありえない出来事ばかりじゃないですか。ボクシングの試合でなぜかカツラを被ること、それが途中で外れそうになること、意志を持って脱いだこと、そしてKOで勝つこと……最初から最後まで完璧です!!

小口　あ、ありがとうございます（苦笑）。

――おまけに、ジムの先輩・コウジ有沢さんの引退記念大会であんな事態ですから（笑）。

小口　ああ～、先輩の顔には泥を塗っちゃいましたね……。俺とカツラがへんに目立っちゃって。

――これぞ"筋書きがないドラマ"というか、もう一度やろうと思ってもできないですよね。

小口　「ウケ狙いじゃないの？」って、嫌なこと言う人もいますけど。

――もしかして、そういう目的もあったんですか？

小口　（慌てて）いや、あ、あるわけないじゃないですか。単なるイメージチェンジだったんですよ……ホントにっ!!

――そんな軽い動機だったんですか（笑）。

小口　そもそも、パンチが打たれる範囲に何かを着けるのはルール違反ですから。

日本ボクシングコミッションは、リング上ではシューズ、トランクス、ノー・ファウル・カップ以外の着用は認めていない。しかし、今回は「悪意のないもの」と判断。今回のみ"特例"として認められた。

小口　俺、ルールでカツラがダメっていうのを知らなかったから。

――あ、知らずに被ってたんですか！（笑）。

小口　知ってたら、付けないですよ！　ヘタしたらそれで反則負けになるんで、ウケ狙っていいことなんか一つもないんですよ。こんなに笑われて、恥かいて、怒られて。大馬鹿ですよ！　もう。

――自分を小口さんの立場に置き換えてみると、背筋がゾッとしますね。

小口　あ、そうかもしれないですね。俺、自殺したくなりましたから（キッパリ）。

――イメージチェンジの果てが自殺！

小口　これで負けたら、死ぬしかないなって。だって、あんなことになったんですよ。

――……たしかに外野は笑いごとですけど、本人からすればたまったもんじゃないですね。

小口　いや、本当です。はい。

――それで今日は、自殺を考えるほどの出来事に至るまでのいきさつをお伺いしたいと思ってるんです。まずはだいぶ遡って、小口さんがボクサーになろうと思ったきっかけからお聞きしたいんですけど。

小口　えっとですね、中学生のときに、辰吉（丈一郎）選手が初めて世界のベルトを獲った試合を見て、ボクサーになりたいと思いまして。それで15～16歳の頃に、地元（栃木・宇都宮）のジムに通いだしました。俺が通っ

ボクがカツラを被った訳——なぜか本音まで告白!

ていた高校は作新（学園）で、そこのボクシング部はけっこう強いんですけど。やっぱりプロになりたかったんで、ジムのほうに。

——そのままデビューされたんですか?

小口　じつは、あの、プロデビューしたのはだいぶあとなんです。23歳のときで。俺、高校生のときにプロテストに受かってるんですけど、そこを一区切りにしてボクシングはやめたんですよ。就職のためにこっち（東京）へ出てきたんで。運送会社に就職したんで、忙しくて時間がなかったし。

——再びボクシングをやろうと思われたのは、どういう理由があったんですか?

小口　あの、なんかスポーツをやりたくて。サーフィンとか、スノボとか、ダンスとか、いろいろやってみたんですけど、やっぱりボクシングが好きでした。それでボクシングをやるために運送会社を辞めて、有沢ジムに通うことになりました。

——ブランクは気になりませんでした?

小口　あ、それは全然なかったですね。そこからいまに至るという感じです。

——単純な疑問として「どうしてカツラをつけて闘ったんだろう?」と思ったんですよ。

小口　さっきも言いましたけど、イメージチェンジだったんですよね。自分は髪が薄くて、伸ばすとみっともないぐらい薄くなってきてるんですけど、ひさしぶりに髪を伸ばしてリングに上がってみたくなって。

——ちょっと外見を気にしたところもあったんですね。

小口　そうですね。コウジさんとか凄くかっこいいじゃないですか、女性ファンも多いし。俺のファンは男ばっかりなんで（笑）。やっぱ男っすからね。ちょっとモテたいっていうのはありますよ。

——いつぐらいからカツラ装着を考えていたんですか?

小口　前々からやろうと思ってたんですよ。えっと、そうですね、（カツラの）業者さんに相談したのが1年前です。

——そんなに前から!

小口　はい。値段は5〜6万でした。

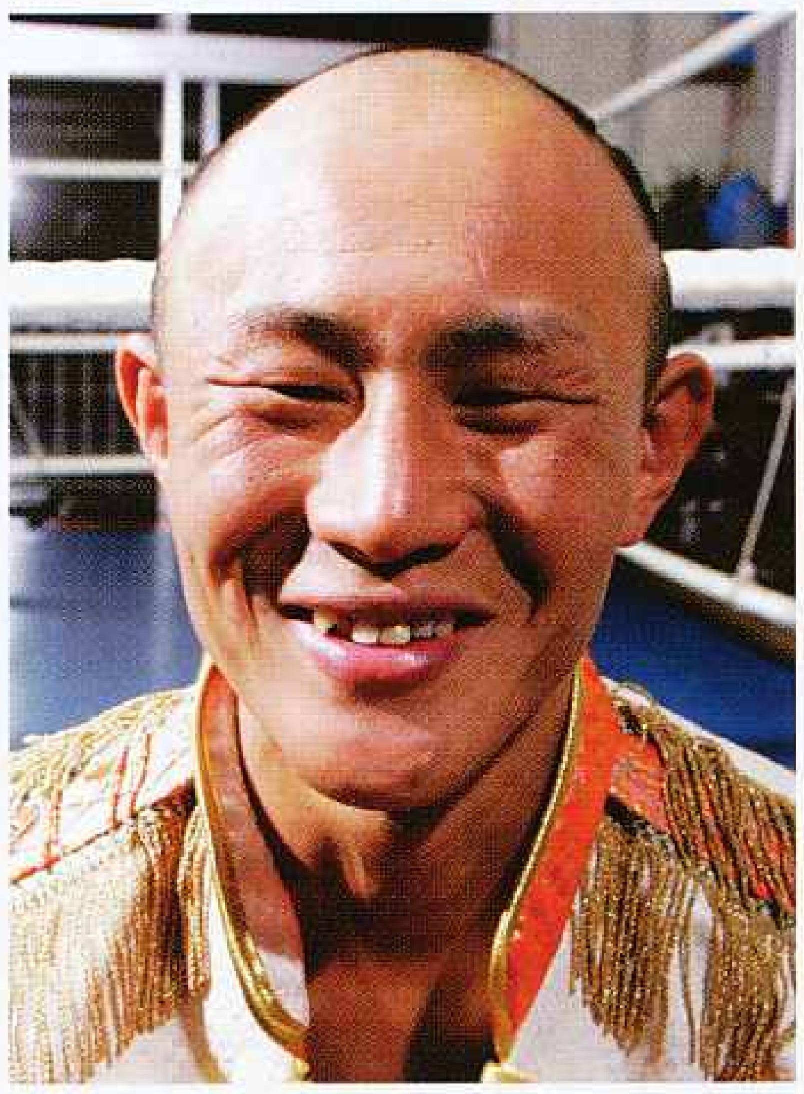
——その値段はカツラの相場からすると高いほうなんですか?

小口　どうなんだろう……?　でも、安くはないですよね、自分の暮らしを考えたら。5〜6万は全然安くはないですよね。はい。

——もちろん自腹になるんですよね。

小口　当然です。ローンっていうか、まだ完済はしてないですけど。

——ローンで購入されたんですか!（笑）。ちなみにどこのメーカーですか?



小口　それは言えないです。ああいうことになっちゃったんで。

——メーカーからするとイメージダウンになりますもんね（笑）。

小口　試合をやる前は、業者さんから「途中で外れることはない」と聞いてたんですよ。それでも、100パーセントはどうなの?っていうのは心にあったんですけど。で、こういう結果ですから（笑）。

——周りの人だって「大丈夫なのか?」って心配したと思うんですよ。

小口　いや、誰にも言ってなかったんで。

——え?　試合当日、突然被ったんですか!?

小口　あ、いや、当日じゃないです。2日前からです。でも、べつに誰も気にしてなかったですね。

試合の途中なので、頭を押さえるわけにはいかなくて

——ちょっと声を掛けづらいところはありますし（笑）。小口さん自身は違和感ってありませんでした?

小口　最初は「いける!」と思ったんですけど、途中から急にフワフワしてきて（笑）。

——相手のパンチでめくれ上がったというか。

小口　そうなんですよ!　相手のパンチが当たるたびになんか……ヤバイなと。その時点で相手に押されましたよね（笑）。全然、もう、試合に集中できなくて、ヘタしたらKO負けもありえました。

——しかし、敗因がカツラというのもイヤですよね（笑）。

小口　はい。だから、ホント、危なかったっすよね。いつもの自分の力が10だとすれば半分も出てないですよ。頭を押さえたいけど、でも、相手に殴られるから、うまくガードしなくちゃなんないし。

——プライオリティはハッキリしてるけど。

小口　はい。試合の途中なので、頭を押さえるわけにはいかなくて。

——レフェリーや対戦相手はどういう反応でしたか?

小口　またレフェリーが凄い形相で、まったく笑ってなかったんですよ（笑）。

——ガハハハ!　ちょっとぐらい笑ってもおかしくないのに（笑）。

小口　それは、相手も同じです。殴り合ってますから、笑ったりはしてなかったです。

——きっと一番ビックリしたのは対戦相手でしょうね。さっきまで髪の毛があったのに、ラウンドが始まったらなくなってるんですから!

小口　ハハハハ。でも、相手選手がどうこうより、もう自分がパニックだったんで。気にしてるどころじゃないですよ。

——観客の野次も気にならないぐらい?

小口　いや、聞こえないけど、微妙な空気は感じました。周りが変な雰囲気になっちゃって……。もう、本当に会場は凄いへんな雰囲気でしたからね。みんなが「……あれ?　あれ!」っていうような（笑）。

——それでインターバルのときにセコンドから「（カツラを）外すぞ」と言われて。

小口　はい。そこはもう腹をくくりましたね。開き直りました。勝つのは当然で、KOしなきゃという思いで。ここで勝たなきゃ、もう生きていけなかったすよ（しみじみと）。負けたら自殺を考えてましたから……。

——そこで負けたら絶望的なシチュエーションですもんね。

小口　ホントに。写真を見ればわかりますけど、試合終わったあとの俺の表情って、「これからどうしたらいいんだろう……?」って感じですよ。

——おそらく、いまの心境が表情にあぶり出されていたんでしょうね。試合後の周囲のリアクションはどういう感じだったんですか?

小口　もう、みんな引いてましたよ、顔がドン引きで。向こうも気を使って声を掛けられないし。

——たしかに声は掛けづらいでしょうね。

小口　それで控室でもの凄く落ちてました。

——気まずいことに、じつはご家族で観戦に来られていたそうで。

小口　はい。でも、全然怒ってもいないし。

——妹さんは途中から応援しづらかったそうですけど（笑）。

小口　妹も引きますよね（笑）。でも、温かかったんで。そこに救われました。周りの反応も「有名になっちゃったね」って感じで。あと「これを期に頑張るしかないよ」「これがチャンスだよ」とか言ってくれてますね。

——草加有沢HPの掲示板にも応援の書き込みが凄かったと聞いてますけど。

小口　あ、そうなんですか?　自分はHPとかあまり見てないんで。

—あとネットで「カツラ」「ボクサー」の組み合わせを検索すると、小口さんの名前が出てくるんですよ（笑）。

小口　あ、ホントですか（笑）。ネット関係のことは全然わからないんで。

—こういった話題で取り上げられることには率直にどう思われてるんですか？

小口　うん、ま、微妙っすよね。喜んでいいのかどうか。でも前向きに考えていかないと、生きていけないっすもんね。

—当然、話題性よりも実力で成り上がってやる、という気持ちもあるんでしょう？

小口　そうですね。これは本意じゃないんで。おもいっきり不本意なんで（笑）。こんなことで大恥かいてしまって。

—次の試合も俄然、注目されると思うんですけども。

小口　ああ、それはちょっとうれしいですよね、ボクサーとしては。やっぱ目立つことは好きですから。ボクシングは〝小口雅之〟を表現する場所っていう感覚で。

—もちろん勝敗も大事ですけど、それ以外の部分で自分自身を表現できなかったら、ちょっと悔いが残ったりするんですか？

小口　やっぱプロなんで。お客さんに満足して帰ってもらいたい気持ちはありますよ。でも、ボクシングは真剣勝負なんで、ふざけるのはあんまりよくないですよね。というか、ふざける気持ちは俺の中にはないんで。相手選手にも失礼だし、ボクシングは一勝一勝が大事なんですよ。勝っていかないと、次がないという世界ですから。

—自分自身を幻想的に表現する人がエンターテイナーだとすると、それよりも競技者としての部分が勝ちますよね。

小口　だから今回は不本意ながらこうなってしまいましたけど、本当は試合でお客さんを感動させたいですね。

—今回のことで、いろんなカツラメーカーからスポンサーのお話があるような気がしますけど。

小口　ホントですか？　ハハハ。

—そういう話はまだないんですか？

小口　来てないです。そんなの、こっちからお願いしたいぐらいですよ（笑）。

—もしスポンサーが付いたら、必然的にボクシングの試合でカツラを被ることになりますよね。

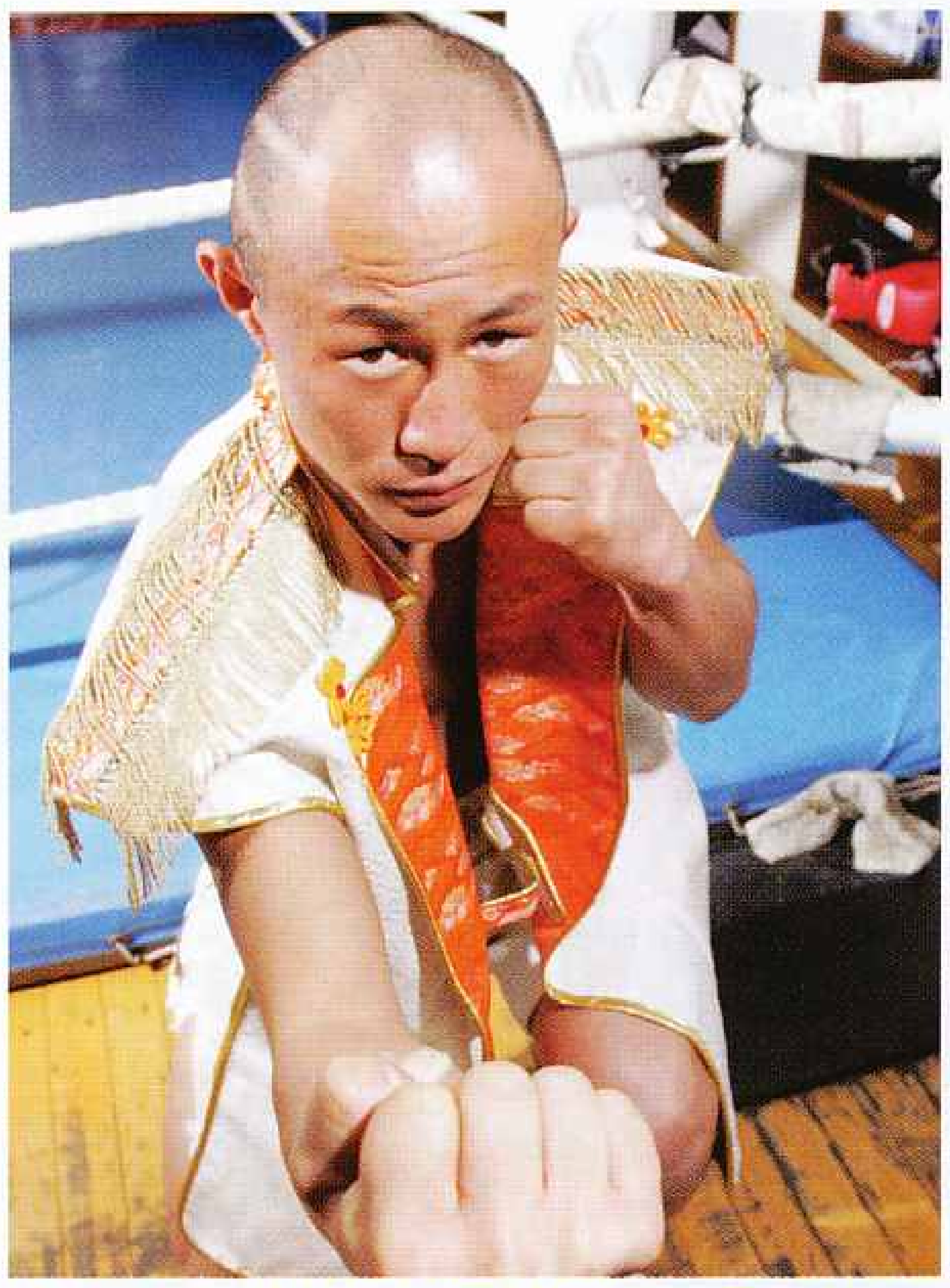
小口　ん〜、でも、試合では無理ですよ。今度こそ反則負けになる（笑）。やっぱ髪の毛があるところも殴りますからね、後頭部はダメですけど。

—ダメージを和らげる役割をはたしちゃいますもんね。カツラは論外として、植毛はどういう判断になるんですか？

小口　はあ、植毛……そこはどうなんですかね？

—どうなんですかね？……なんでこんな話になってるのかわからないけど（笑）。

小口　ハハハハ。



【こぐち・まさゆき】1977年8月27日栃木県出身。所属する草加有沢ジムには、コウジ有沢（引退）、元・極道ボクサーの川_。次の試合は、4月24日後楽園ホール大会。前回対戦した柴田との再戦が決定している。15戦9勝4敗分。172cm、スーパーフェザー級（58.9kg）

—〝植毛ボクサー〟って聞いたことないですか？　もしくは　隠れてカツラや植毛してたりする選手。

小口　どうなんだろう？　いやあ〜、聞いたことないですけど（笑）。

—最近話題の姉歯（元・一級建築士）なんかも……。

小口　（さえぎって）あ、あれはあきらかにおかしいですよね!!

—こっちの疑惑のほうが気になる（笑）。

小口　自分の場合は、何も付けないでいるほうが楽っていうか。バレバレなのにカツラを被ってたら、周りも気を使うし。

—今回の件がいい意味で力になってますか？

小口　そうですね。今回のことでボクシングのチャンピオンより、自分は世間に知られたんで。これを発奮材料にして、上に行くために頑張んないと。俺、まだまだですから。

—いまはお仕事をされながら、ジムに通われてるんですよね。

小口　はい。家から自転車で5分の工場で。朝8時30分から夕方の5時まで仕事して。日曜日が休みで。

—それでジムに通うとなるとハードですよね。残業なんかもあるんですか？

小口　当然ありますね。試合前は残業を休ませてもらってるんですけど、やらないと立場的に……。会社のほうもいま大変ですからね。不満を言ったり、仕事をしないと、極端な話、もういらないという世界じゃないですか。

—要は小口さんがボクシングをやることにそれほど理解はされてない。そうなると居心地が悪いときなんかもあるんじゃないですか？

小口　それはあります……よね。

—試合のために休みを取りづらかったことも？

小口　はい。試合のときは3日間、休ませてもらってますけど。計量があるんで試合前日、試合当日と、ダメージがあるんで次の日も。

—今回の件で理解の幅が拡がったりするんですかね？

小口　いやあ、どうなんですかね。あんまり変わらないような……。

—逆に風当たりが強くなったり。そうなっても会社を辞めるわけにはいかないし。

小口　（うなずきながら）ある程度、有名なボクサーはそれなりの生活を送ってるんでしょうけど、ほとんどが自分みたいな生活だと思うんですよ。ボクシングは世界チャンピオンにならないと、やっぱ。

—世界を獲らないと食えないってよく言われますよね。ボクらができるのは、〝カツラメーカーのみなさん、ぜひスポンサーに！〟という応援ぐらいですけど（笑）。

小口　ありがとうございます（ニッコリ）。これを機会に頑張りますんで、応援してください！

【12月19日／草加有沢ジムにて収録】

ボクシングは〝ハングリースポーツ〟と呼ばれている。ボクサー小口雅之の口から何か強烈なハングリーエピソードが飛び出したわけではないが、そう呼ばれるゆえんをしっかり感じ取ったインタビューだった。取材場所に向かう車中では、カメラマンと小口いわくの〝お笑い〟ぶりの検証に話の花が咲いたわけだけど、帰りの車の中は……。

週一休みの工場で働き、そして残業。周囲の冷たい視線に肩をせばめながら、わずかに許された時間をトレーニングに費やす。誤解を恐れずにいえば、ルーティンな日常。それを打破しようとしたのか、「イメージチェンジする（小口）」ため、何かを変えるために、一人のボクサー青年が手にしたものが、カツラ、だった……って、冗談にもほどがあるよ！

いや、単なる笑い話ではない。笑って胸にしみて、なんていじらしいと思える奇跡なのである！　カツラ、バンザ〜イ!!

読プレもパワーアップでオーッ!! kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって変えさせていただきます（賞品は2月20日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤面白かった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦こんな付録があったらな⑧あなたの今年の目標

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「今日はお休みなんです」係まで
※締切は2006年2月20日（月）当日消印有効

kamipro 095 応募券
キミに恋愛はできないよ

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

2006年の主役からビッグなプレゼント!!

PRIDE

4名様



PRIDE男祭りスタッフTシャツ
（※1枚だけ五味選手のサイン入り）

PRIDE男祭り限定のスタッフTシャツ（非売品!!）を4名様にプレゼント！ しかも1枚に限り、初代PRIDEライト級王者に輝いた五味選手のサイン入りです。【DSE提供】

各1名様





PRIDE男祭りパンフレット ポラロイド写真
（ヒョードル&シウバサイン入り）

PRIDEヘビー級&ミドル級、両王者の夢のコラボが実現!! ちなみに、ヴァンダレイのことを尊敬しているヒョードルは、自分用にもサイン入りポラをもって帰ったそうです。

1名様



PRIDE男祭り応援グッズ

『PRIDE男祭り』限定の応援グッズをプレゼント。"限定"なだけに、使い道もかなり限られますが、勇気のある方はぜひ会場にて膨らませてください!!【DSE提供】



各2名様

PRIDE GP 2005 ライト級&ウェルター級トーナメント（左）
〜PRIDE武士道其の九〜
約120分／¥5040（税込）

PRIDE.30（右）
（1月27日発売）約120分／¥5040（税込）

2005年のベストイベントにも選ばれた『武士道・其の九』&『PRIDE.30』のDVDを各2名様にプレゼント。衝撃の五味vs川尻など、内容満載!【メディアファクトリー提供】

■PRIDEオフィシャルサイト***http://www.prideofficial.com/ ■メディアファクトリーHP***http://www.mediafactory.co.jp/

Dynamite!!

■FEG HP***http://www.so-net.ne.jp/feg/k-1/top.htm
■リバーサルHP***http://www.rvddw.com/
■沈黙の追撃HP***http://www.chinmoku.jp/
■ポニーキャニオンHP***http://visual.ponycanyon.co.jp/

所英男の福袋

『Dynamite!!』でまたも大爆発した所選手が、自ら大奮発してくれました。パーカーやTシャツなど、リバーサルの豪華賞品が入った特大福袋を1名様にプレゼント。【所英男選手提供】

1名様





永田克彦 オリジナルTシャツ

永田選手が入場時に着ていたオリジナルTシャツを、制作に携わった映画配給会社アートポートから、3名様にプレゼント。映画『沈黙の追撃』（1月28日よりロードショー）も絶対見よ!!【アートポート提供】

3名様



K-1 WORLD GP 2005 IN TOKYO 決勝戦（左）
（2月1日発売）219分／¥5985（税込）／2枚組

K-1 WORLD MAX 2005〜世界王者対抗戦〜（右）
（1月27日発売）172分／¥5040（税込）

各2名様



©フジテレビ

2005年の頂点を決めるべく行なわれた『K—1 WORLD GP 2005決勝戦』、世界対抗戦となった『K—1 WORLD MAX』ともに見逃せません。【ポニーキャニオン提供】



©K-1

HUSTLE



江頭タイツ&サイン色紙

近所で買ったタイツを「履いてください!」とお願いしたところ、「これ、安物!」とピシャリ。というわけで、エガちゃんに噛み付かれたタイツとサイン色紙をプレゼント!!
【江頭2:50さん提供】

1名様



高田総統フィギュア

絶賛好評発売中の高田総統フィギュア(税込¥3990)をヒマでモテない1名様にプレゼント。(「ビターン!!」とは叫びません。予めご了承ください)　【DSE提供】

1名様

■ハッスルオフィシャルサイト***http://www.hustlehustle.com/
■ハッスルGOODS通販専用NAVIダイヤル***0570-007100

PRO-WRESTLING

■岩波書店HP***http://www.iwanami.co.jp/



国際プロレス ポスター

ポニーキャニオンのDVD『伝説の国際プロレス』を買うとついてくる「国際プロレス」のポスターを3名様に。“AWAの帝王”を飾ろう!!
【ポニーキャニオン提供】

3名様



2名様

森達也著『悪役レスラーは笑う』サイン本

¥819(税込)

「卑劣なジャップ」を演じて巨万の富を稼いだ伝説の悪役レスラー・グレート東郷を追った一冊。夢のインタビュー実現に乗っかり、サイン本をいただきました!　【岩波書店提供】

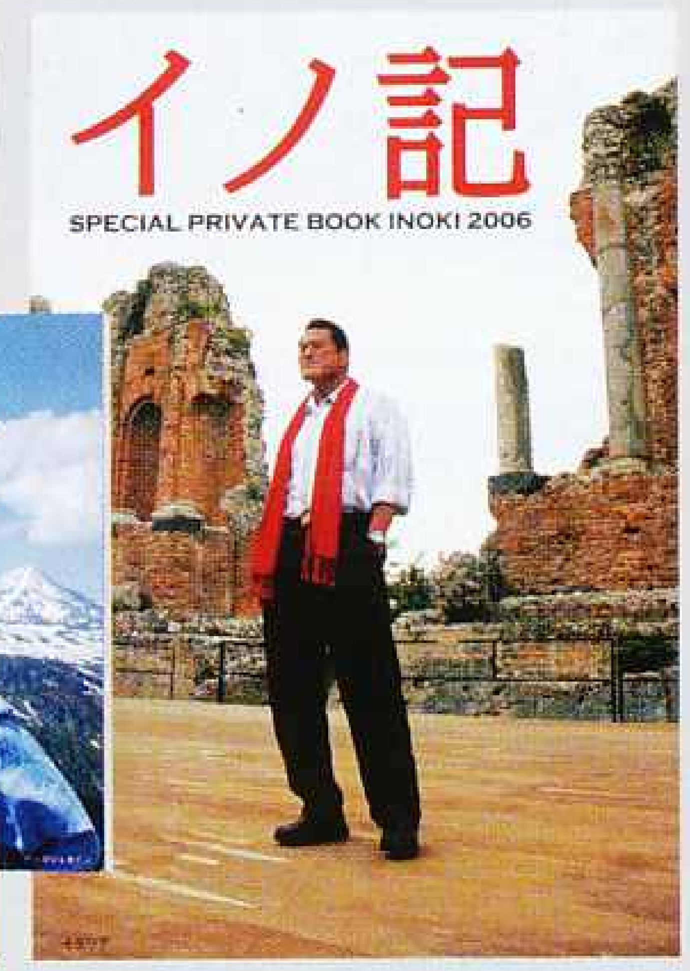
エディ・ゲレロ オリジナルバンド

昨年11月13日に他界したWWEのスーパースター、エディ・ゲレロのバンドを1名様にプレゼント。当たった人はエディの思い出とともに大事にしてください!



1名様





イノ記 2006 手帳

アントニオ猪木の知られざるプライベートショットが続出!!　所々に出現する謎のポエムに癒されてください。(※手帳内の写真:橋本田鶴子[ZUKKO:03-5474-4661

10名様

WEAR

■GROUND COBRA TEL***092-711-1021



1名様

萌えジャージ

『萌え萌え女々苑』で松下ミワが松澤チョロに無理やり着させられた萌えジャージを1名様に。松澤チョロが必死に探しまわった一着です(たぶん)。【松澤チョロ提供】





紙のプロレスRADICAL Tシャツ
(花くま先生のサイン入り)

『kamipro』制作福袋に投入されたリングおじさんTシャツに、花くまゆうさく先生のサインをいただきました。福袋に乗り遅れた諸君!　いますぐ応募しろ!!　【kamipro衣料部提供】

1名様



セットで1名様

ART JUNKIE Tシャツ

今月もアートジャンキーさんからナイスデザインなTシャツをいただきました!　ポストカードとセットで1名様にプレゼントします。
【ART JUNKIE提供】

MOVIE

5名様

■オフィシャルサイトHP***
http://www.birth-e.com/guts-movie/

©「ガッツ伝説」製作委員会

『ガッツ伝説 愛しのピットブル』鈴木みのるサインプレス



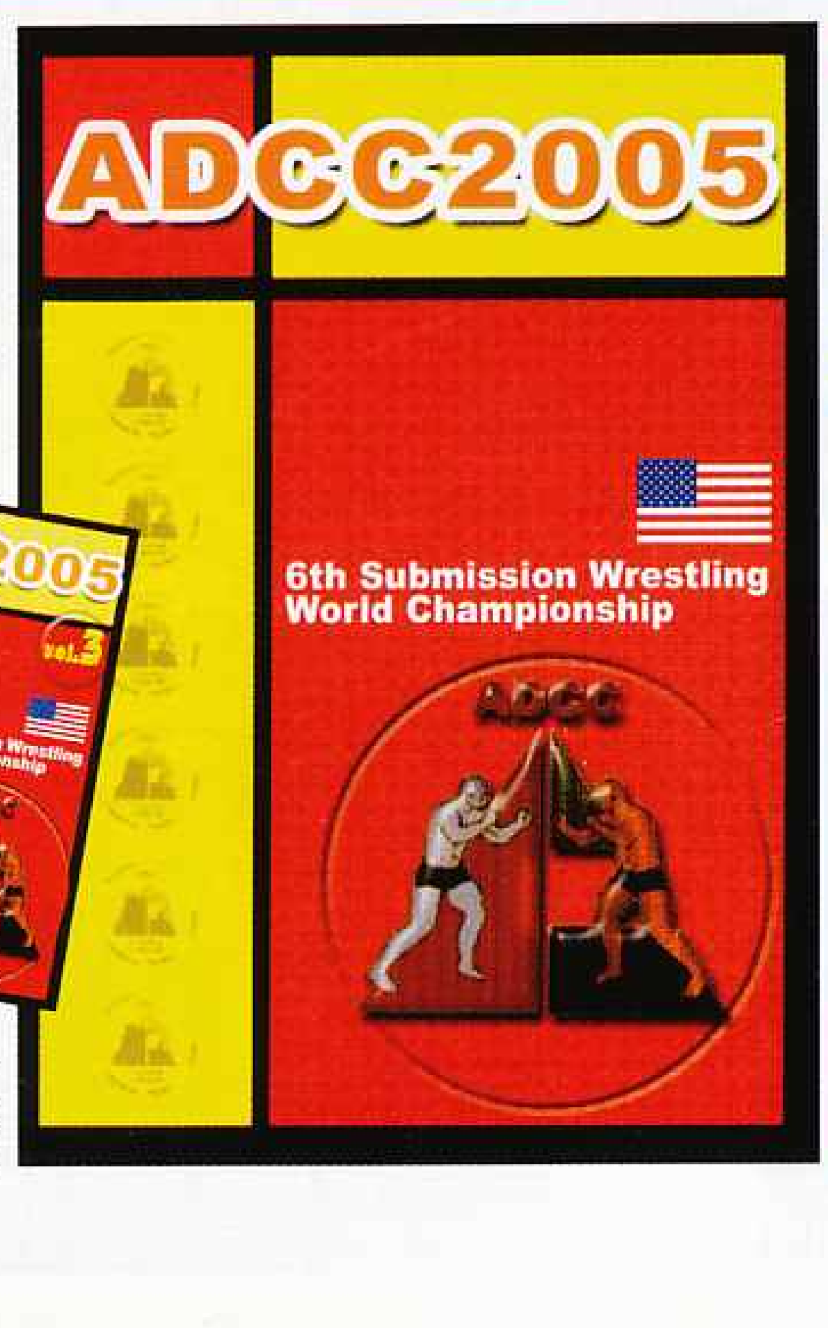
1月14日に公開された映画『ガッツ伝説　愛しのピットブル』で鈴木みのるがガッツ石松と共演!!　記念に鈴木みのるのサインプレスをプレゼント!　【リベロ提供】

DVD

■QUEST HP***http://www.queststation.com/

1名様

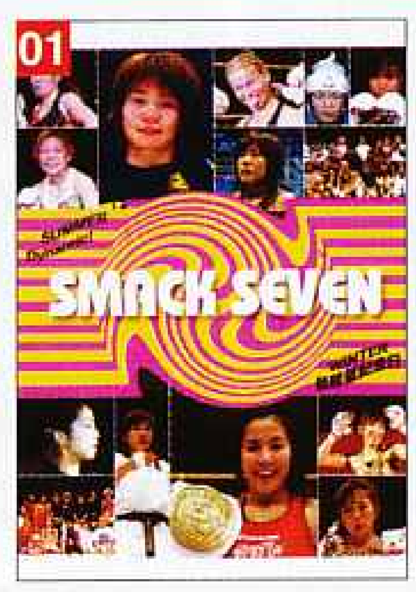




ADCC2005 DVD-BOX

677分/¥12600(税込)/3枚組BOX

マルセロ・ガッシア、ホジャー・グレイシー、キーラ・グレイシーら、格闘技界の大物たちがズラリ登場。第6回を迎えた2005年大会は史上最高の内容。要チェック!!　【QUEST提供】











01★SMACK SEVEN
223分/¥5880(税込)
02★全日本キック2005 BEST BOUTS
240分/¥5880(税込)
03★流智美の黄金期プロレス50選 vol.5
222分/¥5880(税込)
04★上州に伝わる幻の武術 気楽流
45分/¥5880(税込)
05★琉球古武道 武器編
35分/¥4935(税込)
06★島田道男 太氣拳の実践 立禅
111分/¥5880(税込)

各1名様



ファイティングスタンド・フルセット

50,000円→**10,800円**(消費税込)

サンドバックを使いパンチ、蹴りの練習。逆サイドでパンチングボールを使いコンビネーションの練習。これ1台であなたの部屋が本格練習場に!

さらに 先着500名様に限り SBスプリングをプレゼント!
トレーニング時の揺れやショックを軽減しすばらしい打撃感を実現!!



サンドバッグDX

クサリ付き



ファイティングバッグ

高級レザー 30,000円→**14,800円**(消費税込)

パンチにキック激しい衝撃をガッチリ受け止める。自宅でできる本格トレーニング!

打撃本体には、多重構造ウレタンを使用。



ファイティングセットⅢ

97,000円→**49,800円**(消費税込)



ファイティングセットⅡ

65,000円→**34,800円**(消費税込)



ベンチマット

8,000円→**4,800円**(消費税込)

サイズ:110cm×200cm×厚5mm



セーフティプレスベンチセット

47,500円→**29,800円**(消費税込)


サイズ:8oz・10oz・12oz・14oz カラー:黒・赤

プロフェッショナル ボクシンググローブ

最高級本革製 19,800円→**4,800円**(消費税込)


サイズ:フリー カラー:黒・赤

プロフェッショナル ヘッドガードインナーバー

最高級本革製 17,800円→**5,800円**(消費税込)


サイズ:フリー 両手

プロフェッショナル パンチングミット

最高級本革製 9,800円→**3,800円**(消費税込)


サイズ:フリー カラー:黒・赤

プロフェッショナル レッグガード

14,800円→**4,800円**(消費税込)

最高級本革製


サイズ:40×18×10 カラー:黒(打面)・赤(打面)

プロフェッショナル キックミット

9,800円→**3,800円**(消費税込)

最高級本革製

(株)ファイティングロード

〒547-0027 大阪市平野区喜連2-5-49
龍本平野ビル7F

お申し込み方法

ご注文はTEL・FAX・ハガキにて 通販OK

TEL/06-6706-4411
FAX/06-6706-4412

HPアドレス http://www.fightingroad.co.jp
Eメールでのお申込み shop@fightingroad.co.jp

受付時間 AM9:00～PM9:00(年中無休)
1月1日～3日のみ休業致します。(1月4日より通常営業)

便利なクレジットカードもご利用OK! VISA MasterCard

■ハガキでのお申し込み方法

切手 〒547-0027 大阪市平野区喜連2丁目5・49龍本平野ビル7F ファイティングロード 紙プロ係

商品名
電話番号
住所
氏名

- ●受注後スピード配送!(但し、地域により異なります)
- ●代金は商品到着時、配達員にお支払い下さい。
- ●表示価格には送料は含まれておりません。
- ●返品、交換は未開封に限り、到着後7日以内にて(送料はお客様負担になります。)
- ●改良の為、予告なく色・形状が変わる事があります。
- ●全商品に生産物賠償保険付
- ●お客様の個人情報は商品およびカタログの発送以外には使用いたしません。





Wプレゼント!

バーベル、ダンベルお買上げの方に、**ウェイトグローブをプレゼント!** 発汗によるスベリを無くし、安全にトレーニングできます。さらに、**トレーニング解説DVD「ファイティング」もプレゼント!**



正しく学ぼう!

P入り商品お買い上げの方には、**トレーニング解説DVD「ファイティング」をプレゼント!!**

第1部は魔裟斗選手の試合直前本格練習を収録しました!! ☆魔裟斗選手による正しい打撃、蹴りのアドバイスもあるぞ! **第2部は**あの東京大学ウエイトリフティングチームによるより良い筋肉の造り方を収録!!☆ベンチプレス、ダンベル、腹筋…等、正しいフォームを学ぼう!

ブラックタイプ

バーベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	12,000円→6,800円
50kgセット	17,000円→9,800円
70kgセット	22,000円→13,800円
100kgセット	29,500円→17,800円
140kgセット	39,000円→23,800円

シャフト付き

ダンベル ブラックタイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	7,000円→4,800円
30kgセット	9,500円→6,800円
40kgセット	12,000円→7,800円
50kgセット	14,000円→8,800円
60kgセット	16,500円→10,800円

シャフト付き

プレート ブラックタイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	300円
2.5kg	600円
5.0kg	1,200円
7.5kg	1,800円
10.0kg	2,400円
15.0kg	3,600円
20.0kg	4,800円

ラバータイプ

バーベルラバータイプ

重量	消費税込価格
30kgセット	16,000円→9,800円
50kgセット	24,000円→13,800円
70kgセット	32,000円→19,800円
100kgセット	44,000円→26,800円
140kgセット	60,000円→34,800円

シャフト付き

ダンベル ラバータイプ

重量	消費税込価格
20kgセット	9,500円→6,800円
30kgセット	13,500円→8,800円
40kgセット	17,500円→10,800円
50kgセット	21,500円→12,800円
60kgセット	25,000円→14,800円

シャフト付き

プレート ラバータイプ

重量	消費税込価格
1.25kg	400円
2.5kg	800円
5.0kg	1,600円
7.5kg	2,400円
10.0kg	3,200円
15.0kg	4,800円
20.0kg	6,400円

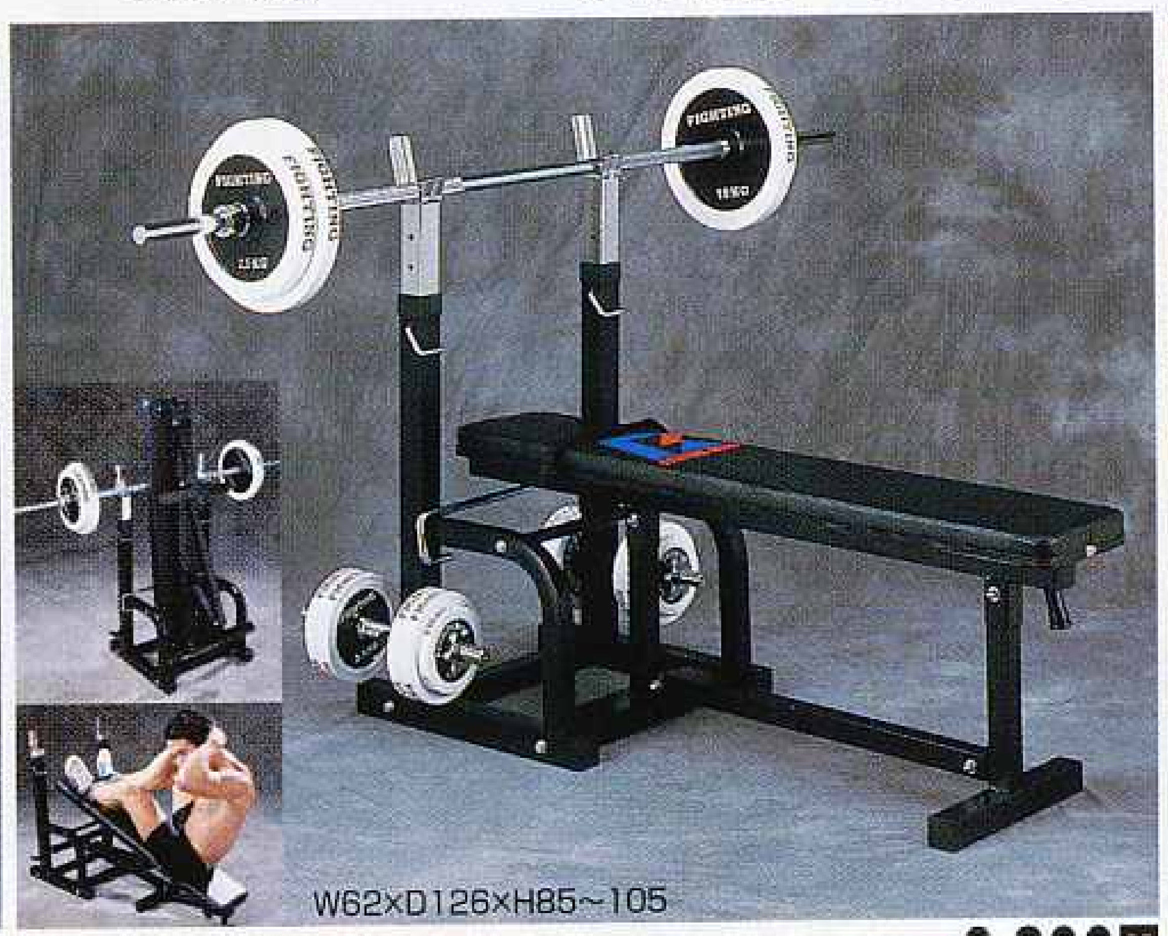


W130×D137×H100~130

キングofベンチ (プレートセット別売)

背もたれ角度4段階に調節可能!

35,000円→**12,800円**(消費税込)



W62×D126×H85~105

ハードベンチ (プレートセット別売)

ワンタッチでシットアップベンチ。折りたたみが可能!

20,000円→**9,800円**(消費税込)



W52×D126×H100

トレーニングベンチ (プレートセット別売)

安定感抜群のベンチプレス台

12,000円→**5,800円**(消費税込)



W130×D137×H205

キングスセット (プレートセット別売)

背もたれ角度4段階に調節可能!

40,000円→**18,800円**(消費税込)

ラット運動によるショルダー部の集中強化によりパンチ力強化、持久力が備わります!



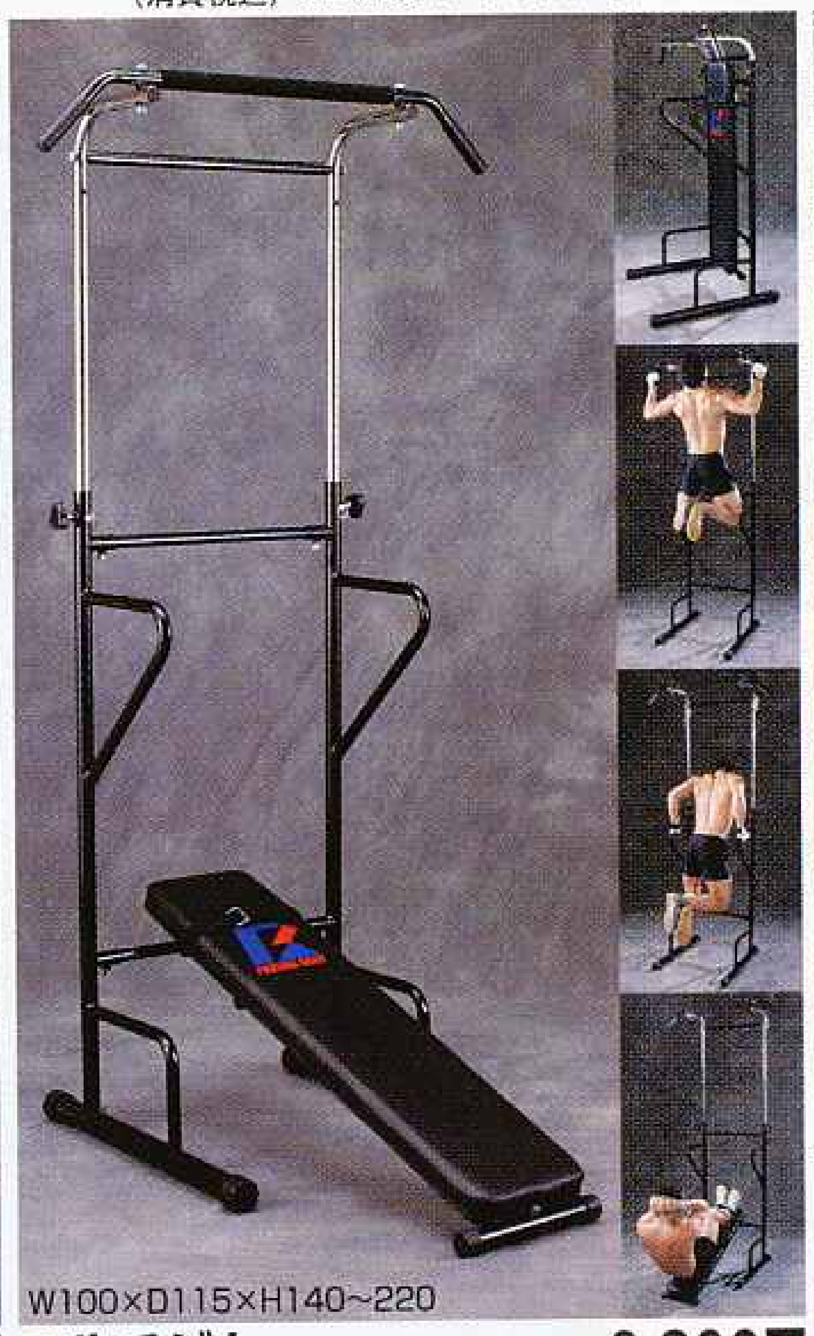
W130×D195×H205

キングスセットDX

プロスクワット台付 (プレートセット別売)

背もたれ角度4段階に調節可能!

58,000円→**27,800円**(消費税込)



W100×D115×H140~220

マルチジム

高さ調整可能

24,800円→**9,800円**(消費税込)



W51×D80×H111cm

フィットネスバイク fr

サドル高さ調整可能

39,800円→**7,800円**(消費税込)



W55×D130×H45

フラットベンチPRO

極太パイプを使用抜群の安定感!

10,000円→**4,800円**(消費税込)



W56×D127×H123

シットアップベンチ

手軽に腹筋・背筋のトレーニングが出来ます。

10,000円→**4,800円**(消費税込)

5段階の角度調節が可能!



W45×D51×H60~82

ベンチセーフティ

ベンチの両サイドにセットすれば安全にプレス運動ができます。

13,000円→**6,800円**(消費税込)



W100×D60×H120~160

プロスクワット台 (プレートセット別売)

18,000円→**9,800円**(消費税込)

kamipro 紙のプロレス
No.95
2006年2月4日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集若頭
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斉藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（豆まき準備ため非番）

電気部
ささきぃ
松澤チョロ

企画制作部
坂井ノブ
ボンジュース上杉

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子RG

編集次長リローデッドPart.4
松林 貴

デザインカントク
出田さん（TwoThree）

デザインキャプテン
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂“闇将軍”マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊地茂夫
丸山剛史
平工幸雄
戸成嘉則
山口比佐夫
松本 崇

お勘定&衣料部
林 一枝

体調
プリン体・入江（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“ヘルスエンジェルス”芳司

東名&名神を爆走する編集庶務
高木由美子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンタープレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンタープレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。




狙え勝利のスマッシュ!
Dimension Zero
GPX1
ディメンション・ゼロ グランプリ
1位賞金100万円!!
グランプリ-1- 1月29日(日)開催!!
■優勝賞金:100万円 ■賞金総額:400万円以上
前日予選開催日:1月28日(土)
国産初の本格的プロ賞金制TCG!
トレーディングカードゲーム
ディメンション・ゼロ
Dimension Zero
King of card game
www.dimension-zero.com
I-2
ファースト・センチュリー エクスパンション
〜勝利への計略〜
カード種類数:全100種 1パック カード10枚入り 税込価格330円
2006.2.25(土)発売!
ファースト・センチュリー スターティング・ストラクチャーデッキ
内容:カード40枚入り、ルールブック、クイックマニュアル、ゲームマット 税込価格各1,300円
Aデッキ:暗闇のマーケット
Bデッキ:美女と野獣
2006.1.27(金)発売!
ゲームデザイン/中村聡(遊宝洞) 協力/ニッポン放送、ドリームステージエンターテインメント、ゲームギャザ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント 発売元/株式会社ブロッコリー
ユーザーサポート係 TEL:03-5946-2812【月〜金(祝日を除く)10:00〜12:00/13:00〜17:00】 mail:support@dimension-zero.com ©BROCCOLI ©DSE

kamipro 2006 95
小川直也VS吉田秀彦
二人の生き様を徹底検証!!
2006年2月4日発行
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳晶行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

定価：本体838円＋税
雑誌61953-82 Ⓗ2006.5
Printed in Japan 図書印刷

9784757726154
ISBN4-7577-2615-5
C9476 ¥838E
1929476008381
enterbrain